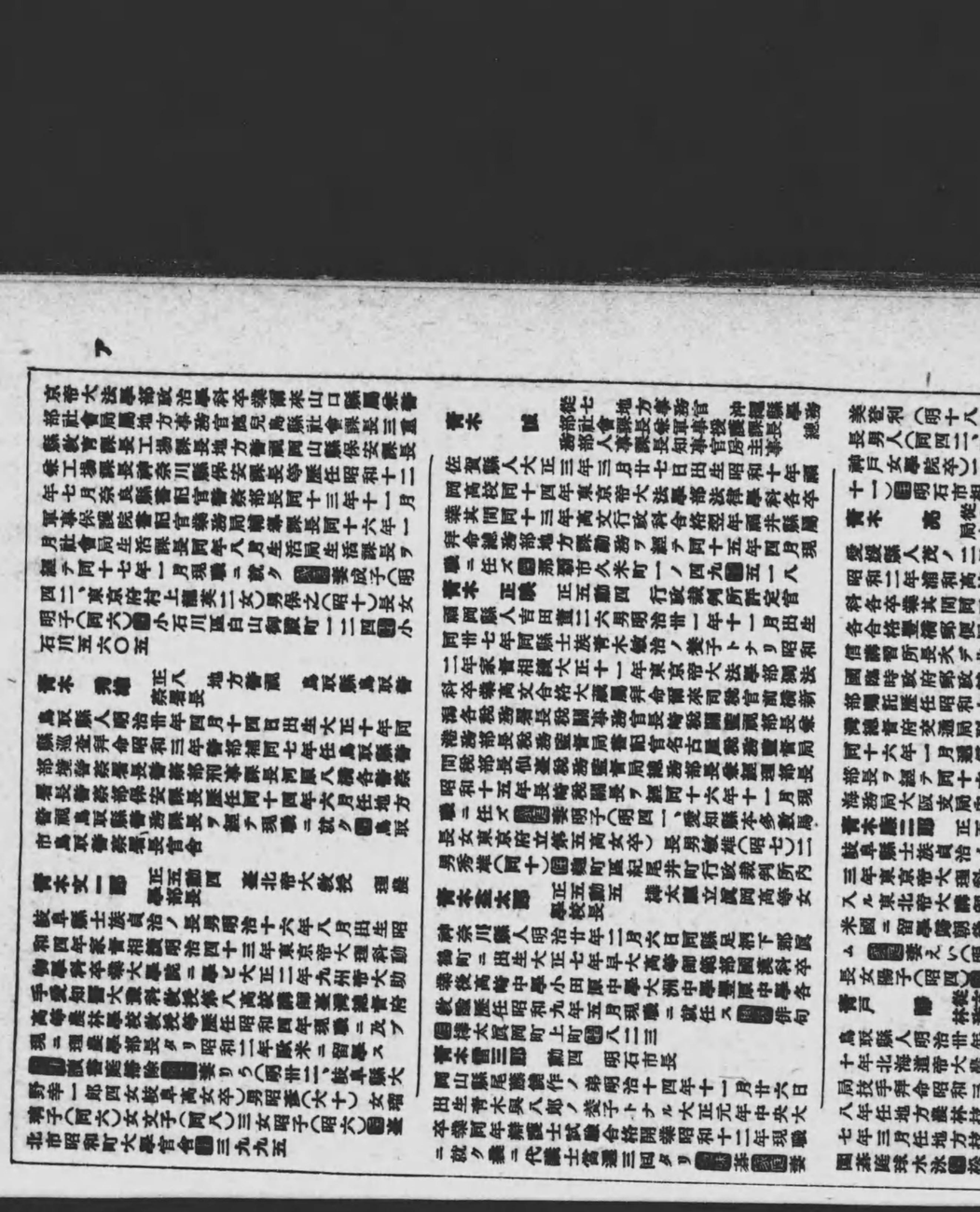

701
事務閲
90

0007381000

0007381-000

７０１－９０

日本官界名鑑

日本官界情報社・編

日本官界情報社

〔昭和１７年版〕（５版）

昭和１７

ABH

人エ 10-97

帝國圖書館藏

日本官界名鑑

S17年.9.8

701-99

凡例

一、本書は大日本帝國官公吏を登載し調査要項は位階、勳等、爵位、學位、官職名、出生地、閱歷、趣味、家庭、現住所、電話番號等の廣範圍に及ぶ資料蒐集に就いては其の資格標準に因り身元、閱歷に就きて本人へ直接照會又調査員を訪問せしめ一層の完璧を期したるも數度の照會にも回答を得ざるものあり、又編纂後回答を得たるものあり、何れも編者の遺憾とする處なるも次版を以て補足充實を期さんとす

一、從來此種出版物は書籍豫約若しくは揭載料徵收に因り編纂せるものあり、從つて當然揭載すべき人物にして除外せる例あるも當社に於ては絕對嚴正なる方針の下に編纂し凡そ當社の資格標準に因れるものは本人の諾否に拘らず之を揭載せり、以て純然たる文獻たらしめんとす

一、本書家庭欄中の生年（明）は明治、（大）は大正、（昭）は昭和の略稱、例へば（明五）は明治五年、（大五）は大正五年、（昭五）は昭和五年を示せり、略稱中正三勳三功三工博は正三位勳三等功三級工學博士の略稱高文合格は文官高等試驗合格の略稱なり、學校名は帝大は帝國大學、醫大は醫科大學、高商は高等商業、高工は高等工業、高校は高等學校、高師は高等師範、高女は高等女學校の略稱なり

一、本書は總て「五十音」順に配列せり、目次は通俗的發音に依るも本書使用者にして一稱呼に於て發見し得ざる場合は更に他の稱呼に依られたし、例へば小「オ」の部に發見し得ざる時は「コ」の部に求むるが如し

一、〆切に間に合はざりしものは「五十音順」に據らず一括して揭げたれば目次又は卷末を一覽せられたし

一、編纂に就きては努めて正確を期したるも印刷中敍位勳、死亡、轉居、轉任、退官に因る變動又止むを得ざる所とす

昭和十七年八月

編者識

本書は改版の上繼續して發行可仕版を重ねる毎に內容の充實改善を期し居候に就ては尙一層の完璧を期する爲不備誤謬の黙並に登載人員中變動の節は何卒左記へ御一報被下度奉願上候　敬具

株式會社　日本官界情報社編纂部
東京市日本橋區蠣殼町貳丁目貳拾貳番地
電話茅場町(66)　三四〇三番
　　　　　　　　三四二二番

索引

アの部

安藝皎一　一
安香愛二　一
安住義一　一
安住武八　一
安宅喜太郎　一
安宅守道　一
安立信逸　一
安達勝淸　一
安達左京　一
安達成之　一
安達島次　一
安達禎　二
安達貞太　二
安達量　二
安孫子藤吉　二
安積得也　二
安倍源基　二
安倍韓　二
安倍能成　二
安陪兼藏　三
安部勘助　補遺一
安部重滿　三
安部尊直　三
安部義正　三

安樂城敏男　三
安西淸　三
安西秀三郎　三
安西正道　三
安齋宏宗　三
安藏善之輔　三
安東禰男　三
安東義良　四
安藤秋男　四
安藤一雄　四
安藤寬　四
安藤狂四郎　四
安藤三郎　四
安藤三郎　四
安藤信太郎　四
安藤蘇峰　四
安藤秀夫　四
安藤弘之　五
安藤正次　五
安藤康生　五
安藤祐專　五
安堂誠一　五
安中忠雄　五
安養寺克美　補遺一
足立貞嘉　五
足立仁　五
足立達　五
足立富　六
足立泰雄　六
足立芳之助　六

足羽則之　六
吾孫子豐　六
我妻榮　六
阿賀正美　六
阿久津國造　六
阿久津謙二　六
阿久根睦　六
阿妻利八　七
阿刀田令造　七
阿原謙藏　七
阿武京二郎　七
阿部男　七
阿部一郎　七
阿部泉　七
阿部嘉七　七
阿部嘉輔　七
阿部吉郎　八
阿部久一　八
阿部久三郎　八
阿部淸　八
阿部淸紀　八
阿部邦一　八
阿部源藏　八
阿部源太郎　八
阿部光寬　八
阿部剛一　九
阿部次郎　九
阿部謙夫　九
阿部修四郎　九
阿部達一　九

阿部賚夫　九
阿部忠次郎　九
阿部春夫　九
阿部房市　九
阿部文二郎　九
阿部牧太郎　九
阿部八代太郎　一〇
阿部安二　一〇
阿部余四男　一〇
阿部隆介　一〇
阿部禮一　一〇
相川勝六　一〇
相川宗次郎　一〇
相川廣秋　一〇
相川龍藏　一〇
相澤庄次郎　一〇
相澤庸治　一一
相田泰三　一一
相葉繁　一一
相原一郎介　一一
相原賢藏　一一
相原方吉　一一
相原守正　一一
會田邦松　一一
愛知揆一　一一
青木市治　一一
青木久作　一二
青木淸松　一二
青木楠男　一二
青木熊夫　一二

青木敬輔　一二
青木貞雄　一二
青木重臣　一二
青木正兒　一二
青木養祐　一三
青木善之助　一三
青木大吾　一三
青木保　一三
青木忠次郎　一三
青木常雄　一三
青木信夫　一三
青木延春　一三
青木春好　一三
青木秀夫　一三
青木秀雄　一四
青木文一郎　一四
青木誠　一四
青木正映　一四
青木益太郎　一四
青木留三郎　一四
青木亮　一四
青木廉二郎　一四
青戸靜　一四
青戸精一　一五
青柳一郎　一五
青柳克己　一五
青柳秀夫　一五
青山公亮　一五
青山新一　一五
青山信介　一五

青山	信雄	一五
青山	秀雄	一五
青山	秀三郎	一五
青山	美乘	一六
青山	理三郎	一六
碧海	康温	一六
赤木	愛太郎	一六
赤木	鐵夫	一六
赤木	雅二	一六
赤司	彦一	一六
赤司	禮三	一六
赤池	健	一六
赤塚	濟	一六
赤羽	熈	一六
赤羽	穰	一七
赤間	文三	一七
赤松	秋太郎	一七
赤松	要	一七
赤松	貞雄	一七
赤松	茂	一七
赤松	清一郎	一七
赤石	長助	一七
明永	久次郎	一七
明岡	保治	一八
秋田	實	一八
秋谷	寛藏	一八
秋月	明	一八
秋月	種萬	一八
秋月	透	一八
秋永	月三	一八
秋野	龜太郎	一八
秋葉	朝一郎	一八
秋葉	保廣	一八
秋元	順朝	一九
秋元	清儉	一九
秋元	保一	一九
秋山	要	一九
秋山	久三	一九
秋山	次郎	一九
秋山	衞太郎	一九
秋山	清太郎	一九
秋山	武夫	一九
秋山	添祿	補遺一
秋山	光夫	二〇
秋山	博	二〇
秋山	文雄	二〇
秋山	四麿	二〇
秋山	理敏	二〇
秋山	龍	二〇
秋山	讓三	二〇
秋吉	三郎	二〇
芥川	信	二〇
淺井	濟	二一
淺井	玄哲	二一
淺井	治平	二一
淺井	綱雄	二一
淺井	東一	二一
淺井	亨	二一
淺井	實	二一
淺井	條郎	二一
淺尾	正一	二二
淺岡	卿	二二
淺川	賢一郎	二三
淺川	其二	二三
淺田	重恭	二三
淺田	俊介	二三
淺野	一太郎	二三
淺野	三郎	二三
淺野	淳	補遺一
淺野	孝之	二三
淺野	禎市	二三
淺野	長光	二三
淺野	英明	二三
淺野	三千三	二五
淺原	貞紀	二五
淺見	哲作	二五
淺見	洋	二五
淺見	與七	二五
淺見	義弘	二五
淺村	良太郎	補遺一
淺山	七五三	二五
淺山	忠愛	二五
淺利	春次	二五
麻生	磯次	二五
麻生	茂	二五
麻生	治一	二四
麻生	貞三	二四
朝海	浩一郎	二四
朝岡	次郎三	二四
朝倉	幸治	二四
朝倉	大吉	二四
朝倉	文夫	二四
朝倉	義綱	二四
朝比奈	太郎	二四
芦川	信行	二五
蘆澤	安平	二五
蘆田	利雄	二五
蘆田	正喜	二五
蘆立	憲五	二五
葦澤	大義	二五
味岡	莊	二五
飛鳥井	雅信	二五
鯵坂	二夫	二五
厚木	勝基	二五
厚地	法人	二五
渥美	正	二六
東	治	二六
東	富雄	二六
東	壽	二六
東	文一	二六
東	龍太郎	二六
穴澤	藤作	二六
穴吹	正二	二六
姉齒	松平	二六
油谷	精夫	二六
天岸	敏介	二七
天埜	良吉	二七
天野	一太郎	二七
天野	粂十郎	二七
天野	次郎	二七
天野	貞祐	二七
天羽	馨	二七
天谷	健二	二七
天谷	次一	二七
天利	新次郎	二七
綱島	毅	二八
雨宮	育作	二八
雨宮	要平	二八
雨宮	龍吉	二八
雨森	宜三	二八
綾部	小太郎	二八
荒井	惠	二八
荒井	退造	二八
荒井	侗	二八
荒井	浩	二八
荒勝	文策	二九
荒川	潔	二九
荒川	盛三郎	二九
荒川	文六	二九
荒川	又市	二九
荒木	靖	二九
荒木	安宅	二九
荒木	丑平	二九
荒木	和成	二九
荒木	光太郎	三〇
荒木	俊馬	三〇
荒木	文四郎	三〇
荒木	万壽夫	三〇
荒木	茂久二	三〇
荒木	義夫	三〇

荒木	林三	三〇
荒島	義賢	三〇
荒瀨	秀一	三〇
荒船	清一	三〇
荒牧	練太郎	三一
新	敏雄	三一
新井	茂	三一
新井	茂司	三一
新井	裕	三一
新井	陸治	三一
新居	善太郎	三一
有賀	武夫	三一
有賀	忠義	三一
有坂	極	三一
有澤	作治	三二
有末	三郎	三二
有田	喜一	三二
有高	巖	三二
有地	貫吉	三二
有近	彌榮	三二
有野	學	三二
有原	末吉	三二
有馬	英二	三二
有馬	義一	三三
有馬	秀一	三三
有馬	純次	三三
有馬	省吾	三三
有馬	富一	三三
有馬	良橘	三三
有松	昇	三三
有光	次郎	三三
有光	幸高	三三
有持	良雄	三三
有本	恒太郎	三四
有安	堅三	三四
有吉	實	三四
蟻川	久太郎	三四
淡路	圓治郎	三四
淡島	敬助	三四
粟井	丘	三四
粟津	包勝	三四
粟屋	良馬	三四

イ（井）の部

井内	清雄	一
井川	俊一	一
井口	遜六	一
井口	賢三	一
井口	幸一	一
井口	貞夫	一
井口	貞夫	一
井口	鹿象	一
井口	常雄	一
井口	秀夫	一
井口	正夫	二
井下田	孝一	二
井越	晉	二
井坂	圭一良	二
井下	清	二
井關	善一	二
井關	正雄	二
井田	完二	二
井手	成三	二
井手	義行	三
井出	潔	三
井出	藤太郎	三
井出	正孝	三
井東	豐彦	三
井藤	半彌	三
井野	碩哉	三
井上	一二	三
井上	英	三
井上	馨	四
井上	匡四郎	四
井上	硬	四
井上	一夫	四
井上	一之	四
井上	克己	四
井上	貫一	四
井上	稀有丸	四
井上	啓次郎	四
井上	惠行	五
井上	健太郎	五
井上	五郎	五
井上	孝治郎	五
井上	庚二郎	五
井上	俊太郎	五
井上	正一	五
井上	侗一	五
井上	章次郎	五
井上	晉	五
井上	新二	五
井上	淸一	六
井上	淸太郎	六
井上	善十郎	六
井上	宗助	六
井上	孚磨	六
井上	赳	六
井上	豪	六
井上	忠光	七
井上	忠義	七
井上	綱雄	七
井上	禎一	七
井上	傳次郎	七
井上	俊雄	七
井上	友士	七
井上	長政	七
井上	信虎	七
井上	登	七
井上	泰成	七
井上	泰美	七
井上	秀太郎	八
井上	治	八
井上	博	八
井上	廣治	八
井上	文介	八
井上	萬壽藏	八
井上	正義	八
井上	益太郎	八
井上	赤次	八
井上	光美	八
井上	廣夫	八
井上	良滿	九
井上	義海	九
井上	義夫	九
井上	理	九
井上	柳梧	九
井之上	良太吉	九
井原	正平	九
井深	捨吉	九
井本	政信	九
五百旗頭	眞次郎	九
五十嵐	欽也	一〇
五十嵐	作榮	一〇
五十嵐	俊藏	一〇
五十嵐	醇三	一〇
五十嵐	文雄	一〇
五十嵐	正彥	一〇
五十嵐	保次	一〇
五十川	捨造	一〇
伊江	朝睦	一〇
伊賀	敏郎	一〇
伊賀上	五一郎	一〇
伊木	壽一	一一
伊佐早	信	一一
伊坂	員維	一一
伊澤	孝平	一一
伊澤	多喜男	一一
伊澤	正官	一一
伊野川	實	一一

伊勢谷 次郎 一二
伊關 庄三郎 一二
伊田 通次郎 一三
伊丹 政吉 一三
伊地知 憲二 一三
伊地知 四郎 一三
伊地知 辰夫 一三
伊東 榮信 一三
伊東 五郎 一三
伊東 孝一 一三
伊東 武二 一三
伊東 延吉 一三
伊東 信良 一三
伊東 壽 一三
伊東 廣雄 一三
伊東 彌惠治 一三
伊東 隆治 一三
伊東 亮次 一三
伊藤 伊行 一三
伊藤 勇 一三
伊藤 英三 一三
伊藤 榮次 一三
伊藤 粂吉 一四
伊藤 龜雄 一四
伊藤 個 一四
伊藤 完二 一四
伊藤 勘助 一四
伊藤 吉之助 一四
伊藤 清 一四
伊藤 清 一四

伊藤 謐二 一四
伊藤 憲郎 一五
伊藤 賢三 一五
伊藤 猷典 一五
伊藤 源次郎 一五
伊藤 孝吉 一五
伊藤 貞市 一五
伊藤 滋 一五
伊藤 繁樹 一五
伊藤 修一 一五
伊藤 俊一 一五
伊藤 壽刀 一六
伊藤 順二郎 一六
伊藤 信 一六
伊藤 祐信 一六
伊藤 整一 一六
伊藤 盛次 一六
伊藤 誠伐 一六
伊藤 仙藏 一六
伊藤 爽哉 一六
伊藤 泰司 六五
伊藤 泰彬 一六
伊藤 孝 一七
伊藤 武夫 一七
伊藤 武男 一七
伊藤 武雄 一七
伊藤 武雄 一七
伊藤 武雄 一七
伊藤 武太郎 一七
伊藤 佐 一七

伊藤 辰雄 一七
伊藤 千代太郎 一七
伊藤 隣一 一八
伊藤 兆司 一八
伊藤 輝雄 一八
伊藤 亨 一八
伊藤 德之助 一八
伊藤 敬行 一八
伊藤 仁吉 一八
伊藤 信道 一八
伊藤 一 一八
伊藤 八郎 一八
伊藤 日出登 一九
伊藤 久榮 一九
伊藤 久松 一九
伊藤 秀譽 一九
伊藤 平藏 一九
伊藤 正斌 一九
伊藤 正良 一九
伊藤 正義 一九
伊藤 光治 一九
伊藤 實 二〇
伊藤 百世 二〇
伊藤 祐一 二〇
伊藤 美雄 二〇
伊藤 嘉彥 二〇
伊藤 亮 二〇
伊能 繁次郎 二〇
伊能 文三郎 二〇
伊能 芳雄 二〇

伊場 信一 二〇
伊原 隆 二一
伊吹 貞治 二一
伊吹山 太郎 六五
居谷 隆信 二一
猪熊 信二 二一
猪野 鹿次 二一
猪俣 敬次郎 二一
猪俣 二郎 二一
猪股 龍作 二一
飯河 品 二二
飯澤 高 二二
飯島 馨之助 二二
飯島 象太郎 二二
飯島 東太郎 二二
飯島 道脩 二二
飯田 一貫 二二
飯田 梅太郎 二二
飯田 靜 二二
飯田 靜次郎 二二
飯田 忠 二三
飯田 秀眞 二三
飯塚 英助 二三
飯塚 主計 二三
飯塚 敏夫 二三
飯塚 直彥 二三
飯沼 一省 二三
飯本 信之 二三
家永 文彥 二三
家永 政彥 二三

庵谷 治家 二四
生悦住 求馬 二四
生島 五三郎 二四
生島 廣治郎 二四
生田 鹿之丞 二四
生田 武夫 二四
池 清 二四
池內 覺太郎 二四
池內 豐太 二五
池內 善雄 二五
池上 馨一 二五
池上 五郎 二五
池上 弘 二五
池口 陵 二五
池島 敏英 二五
池園 哲太郎 二五
池田 確二 二五
池田 一男 二六
池田 克 二六
池田 清 二六
池田 清志 二六
池田 欽三郎 二六
池田 九郎 二六
池田 謙三 二六
池田 榮 二六
池田 收二 二六
池田 正二 二七
池田 昭陽 二七
池田 信吾 二七
池田 眞太郎 補遺一

池田 晋吾 二七
池田 居守 二七
池田 直 二七
池田 多助 二七
池田 大助 二七
池田 錫 二七
池田 長吉 二七
池田 常雄 二八
池田 經喜 二八
池田 鐵作 二八
池田 徹郎 二八
池田 德治 二八
池田 俊彥 二八
池田 豐穗 二八
池田 直治 二八
池田 勇人 二八
池田 秀夫 二八
池田 秀吉 二八
池田 保吉 二九
池田 芳郎 二九
池高 勛 二九
池谷 伊助 二九
池永 光彌 二九
池ノ內 一郎 二九
池見 利夫 二九
池村 平太郎 二九
砂治 國良 二九
諫早 信夫 二九
石井 午二 二九
石井 英一 三〇

石井 英之助 三〇
石井 榮三 三〇
石井 寛三 三〇
石井 菊次郎 三〇
石井 清倉 三〇
石井 清彥 三〇
石井 謹爾 三〇
石井 錦樹 三一
石井 國次 三一
石井 桂 三一
石井 桂一 三一
石井 幸一 三一
石井 權三 三一
石井 佐賀惠 三一
石井 定 三一
石井 鹿之助 三一
石井 茂樹 三一
石井 秀平 三一
石井 省一郎 三一
石井 進 三二
石井 忠純 三二
石井 龍猪 三二
石井 晶 三二
石井 時彥 三二
石井 平雄 三二
石井 政一 三二
石井 通則 三三
石井 茂助 三三
石井 康 三三
石射 猪太郎 三三

石尾 正文 三三
石岡 逸郎 三三
石岡 實 三三
石垣 純二 三三
石神 甲子郎 三三
石川 岩吉 三三
石川 榮耀 三四
石川 薰 三四
石川 橘彌 三四
石川 興二 三四
石川 定俊 三四
石川 準吉 三四
石川 準吉 三四
石川 正一 三四
石川 昌 三四
石川 仁一郎 三四
石川 淸一 三四
石川 忠 三五
石川 富四郎 三五
石川 憲夫 三五
石川 房吉 三五
石川 總雄 三五
石川 政吉 三五
石川 光春 三五
石川 實 三五
石川 顯彥 三五
石川 鍵一 三五
石川 錬次 三五
石川 和一 三六
石倉 俊寛 三六

石黑 武重 三六
石黑 立 三六
石黑 義監 三六
石坂 修一 三六
石坂 伸吉 三六
石坂 善五郎 三六
石坂 弘 三六
石坂 義男 三七
石崎 卯藏 三七
石崎 丈一 三七
石澤 延太郎 三七
石澤 政男 三七
石澤 守雄 三七
石澤 豐 三七
石澤 吉磨 三七
石田 伊太郎 三七
石田 伊奈二郎 三七
石田 英 三八
石田 英一 三八
石田 久太郎 三八
石田 啓次郎 三八
石田 憲次 三八
石田 省吾 三八
石田 話次郎 三八
石田 千太郎 三八
石田 常英 三八
石田 直雄 三九
石田 壽 三九
石田 文次郎 三九
石田 松太郎 三九

石田 彌 三九
石田 吉男 三九
石津 信義 三九
石塚 英藏 三九
石塚 喜作 三九
石塚 揆一 三九
石塚 菊二郎 四〇
石塚 秀二 四〇
石戸谷 千城 六五
石野 悌 四〇
石破 二朗 四〇
石橋 卯吉 四〇
石橋 省吾 四〇
石橋 靜一 四〇
石橋 德作 四〇
石橋 納次郎 四〇
石橋 智信 四〇
石橋 豐德 四一
石橋 雅義 四一
石橋 松藏 四一
石橋 美之介 四一
石畑 優一 四一
石原 供三 四一
石原 專一 四一
石原 惣六 四一
石原 武夫 四二
石原 武二 四二
石原 富松 四二
石原 寅次郎 四二
石原 虎好 四二

石原	房雄	四一
石引	一朗	四二
石淵	壽	四二
石丸	敬次	四二
石丸	三郎	四二
石丸	士郎	四三
石村	光三	四三
石村	幸四郎	四三
石本	征華	四三
石渡	信	四三
石渡	直吉	四三
磯	永吉	四三
磯	淳彌	四三
磯	悌三郎	四三
磯崎	廣行	四四
磯田	四郎	四四
磯長	昌利	四四
磯野	濟	四四
磯野	直孝	四四
磯野	正俊	四四
磯野	勇三	四四
磯部	嚴	四四
磯村	英一	四四
磯谷	道一	四四
磯部	靖	四四
板垣	四郎	四四
板垣	政參	四五
板倉	寛	四五
板倉	四郎	四五
板倉	聰一	四五
板澤	武雄	補遺一
板橋	三郎	四五
到津	保夫	四五
一木	壽雄	四五
一木	積太郎	四五
一戸	隆次郎	四五
一原	道常	四五
一番ヶ瀬	佳雄	四五
一柳	擧俊	四六
市岡	數郎	四六
市川	孝一	四六
市川	厚一	四六
市川	光信	四六
市川	要四郎	四六
市河	三喜	四六
市河	彦太郎	四六
市來	吉至	四六
市瀬	元吉	四六
市田	億造	四七
市田	友治	四七
市橋	晴次	四七
市原	豐太	四七
市原	分	四七
市村	定	四七
市村	清次郎	四七
市村	秀志	四七
出	隆	四七
出石	於兎彦	四七
出島	一宏	四七
出田	正義	四八
出村	要三郎	四八
泉	岩太	四八
泉	守紀	四八
泉	仙助	四八
泉	亙	四八
泉田	一	四八
和泉	茂秋	四八
和泉	豐治	四八
糸井	護治	四八
糸賀	一雄	補遺一
糸永	績	四九
糸雅	俊三	四九
稻生	有年	四九
稻內	清二	四九
稻垣	三郎	四九
稻川	晃	四九
稻木	進	四九
稻田	馨	四九
稻田	喜代治	四九
稻田	耕作	四九
稻田	周一	四九
稻田	進	五〇
稻田	成一	五〇
稻田	清助	五〇
稻田	隆	五〇
稻田	基隆	五〇
稻田	積	五〇
稻田	龍吉	五〇
稻塚	陽東	五〇
稻葉	源藏	五〇
稻葉	權兵衞	五〇
稻葉	通彦	五一
稻益	榮	五一
稻見	愼一	五一
稻本	昇	五一
稻森	誠次	五一
稻森	實	五一
犬飼	吉備雄	五一
犬飼	健之助	五一
犬飼	哲夫	五一
犬塚	岸三	五一
犬丸	嚴	五二
犬丸	秀雄	五二
犬丸	實	五二
戌亥	忠一	五二
乾	伊太郎	五二
乾	武	五二
乾	光秀	五二
茨木	清次郎	五二
今井	至	五二
今井	嘉一	五二
今井	嘉穰	五三
今井	一男	五三
今井	清武	五三
今井	修二	五三
今井	精一	五三
今井	善衞	五三
今井	哲	五三
今井	登志喜	五三
今井	時郎	五三
今井	久	五三
今井	久男	五四
今井	秀一	五四
今井	弘	五四
今井	麗次郎	五四
今井	政次	五四
今井田	研二郎	五四
今泉	佳三郎	五四
今泉	門助	五四
今枝	常男	五四
今尾	由太	五四
今關	傳	五四
今田	好太	五五
今竹	義一	五五
今治	一雄	五五
今西	濟治	五五
今福	公一	五五
今宮	千勝	五五
今村	荒男	五五
今村	完道	五五
今村	純一	五五
今村	捷二	五五
今村	信次郎	五六
今村	龍雄	五六
今村	直人	五六
今村	方策	五六
今村	了之介	五六
今吉	敏雄	五六
今吉	與一	五六
入江	相政	五六

入江	嚴	五六
入江	誠一郎	五六
入江	隆雄	五七
入江	俊郎	五七
入江	弘	五七
入鹿山	勝郎	五七
入澤	宗壽	五七
入船	直三郎	五七
岩井	亥太郎	五七
岩井	久藏	五七
岩井	誠四郎	五七
岩井	孝義	五七
岩男	省三	五八
岩岡	武博	五八
岩上	夫美雄	五八
岩城	準太郎	五八
岩城	悌	五八
岩城	彌太郎	五八
岩城	義三郎	五八
岩倉	規夫	五八
岩畔	輝一	五八
岩佐	弘	五九
岩佐	武兵衞	五九
岩崎	衆志	五九
岩崎	家	五九
岩崎	金作	五九
岩崎	茂	五九
岩崎	準次郎	五九
岩崎	民男	五九
岩崎	直人	五九
岩崎	秀之	五九
岩崎	孫八	六〇
岩崎	松義	六〇
岩崎	康男	六〇
岩崎	雄治	六〇
岩澤	忠恭	六〇
岩澤	博	六〇
岩重	隆治	六〇
岩下	富藏	六〇
岩下	雄三	六〇
岩瀬	喜作	六一
岩瀬	慶三	六一
岩瀬	繁一	六一
岩瀬	森次	六一
岩田	久吉	六一
岩田	常雄	六一
岩田	敏男	六一
岩田	豐	六一
岩田	積	六一
岩田	涉	六一
岩津	俊衞	六二
岩付	貫之助	六二
岩鶴	龍三	六二
岩島	擧	六二
岩永	賢一	六二
岩永	仁雄	六二
岩波	喜代登	六二
岩波	武信	六二
岩野	稔	六二
岩橋	小彌太	六二
岩橋	繁雄	六三
岩淵	彰郎	六三
岩部	成城	六三
岩松	玄十	六三
岩松	五良	六三
岩松	三郎	六三
岩松	親義	六三
岩村	新	六三
岩村	清一	六四
岩村	俊雄	六四
岩村	成允	六四
岩村	勝	六四
岩村	通世	六四
岩元	嚴	六四
岩本	熹	六四
岩本	寛	六四
岩本	啓治	六五
岩本	茂一	六五
岩本	晉一郎	六五
岩本	忠	六五
嵓淵	照也	六五
院能	亮一	六五

ウの部

宇井	伯壽	一
宇井	義夫	一
宇賀神	誠	一
宇賀田	順三	一
宇川	濟	一
宇川	春景	一
宇喜多	景家	一
宇佐川	秀	一
宇佐美	珍彦	一
宇佐美	健一	一
宇佐美	毅	二
宇佐美	定治	二
宇田	俊平	二
宇田	新太郎	二
宇田	道隆	二
宇田川	興三郎	二
宇都	榮二	補遺一
宇都宮	孝平	二
宇都宮	信綱	二
宇野	圓空	二
宇野	勝房	二
宇野	喜代之介	三
宇野	三野	三
宇野	末次郎	三
宇野	友八	三
宇留島	喜六	三
鵜飼	喜平	三
鵜飼	貞二	三
鵜川	益男	三
鵜崎	多一	三
菟田	茂丸	三
上井	粂吉	三
上木	隆基	四
上島	定雄	四
上島	清二	四
上田	明	四
上田	粂二郎	四
上田	幸治	四
上田	時甫	四
上田	剛	四
上田	俊次	四
上田	誠一	四
上田	忠雄	五
上田	辰之助	五
上田	忠造	五
上田	常吉	五
上田	篤次郎	五
上田	彦三	五
上田	秀雄	五
上田	昌之助	五
上田	操	五
上田	光曦	五
上田	基之資	六
上田	穰	六
上田	穰	六
上田	義之	補遺一
上田	柳一	六
上地	龜義	六
上塚	弘	六
上床	國夫	六
上浪	朗	六
上野	一晴	六
上野	幸七	六
上野	宰三	七
上野	業藏	七
上野	誠一	七

上野 武雄	七
上野 忠良	七
上野 民治	七
上野 友則	七
上野 正秀	七
上野 又男	七
上野 道輔	七
上野 芳男	七
上野山 重太郎	八
上羽 長衞	八
上原 秋三	八
上原 清夫	八
上原 種美	八
上原 轍三郎	八
上原 英美	八
上原 義雄	八
上原 六郎	八
上平 正治	九
上松 憲一	九
上山 顯	九
碓田 三郎	九
植木 庚子郎	九
植木 孝之助	九
植木 壽雄	九
植木 秀幹	九
植田 菊之助	九
植田 源一	九
植田 俊雄	一〇
植田 壽藏	一〇
植月 愛明	一〇
植場 鐵三	一〇
植松 宗平	補遺二
植松 正孝	一〇
植松 安	一〇
植村 琢	一〇
魚崎 利三郎	一〇
魚住 朝治	一〇
魚住 衞	一〇
浮田 秀彥	一一
牛島 麟	一一
牛原 虎生	一一
氏家 武	一一
潮 惠之輔	一一
潮海 辰亥	一一
臼井 健三	一一
臼井 俊郎	一一
臼井 長兵衞	一一
碓井 秋雄	一一
碓井 良雄	一一
碓井 忠平	一二
碓氷 厚次	一二
薄井 周介	一二
薄井 大介	一二
薄井 傳太郎	一二
薄木 鼎二郎	一二
太秦 康光	一二
歌田 千勝	一二
内田 寛一	一二
内田 五郎	一二
内田 泰郎	一三
内田 俊一	一三
内田 祥三	一三
内田 澄壽	一三
内田 清之助	一三
内田 壯	一三
内田 泰二	一三
内田 亨	一三
内田 英雄	一三
内田 三千太郎	一三
内田 護文	一四
内館 泰三	一四
内野 總一	一四
内野 台嶺	一四
内野 正	一四
内林 達一	一四
内堀 千秋	一四
内丸 廉	一四
内海 清	一四
内村 三郎	一五
内村 祐之	一五
内山 岩太郎	一五
内山 清	一五
内山 賢次	一五
内山 孝一	一五
内山 新之助	一五
内山 九万	一五
内山 貞三郎	一五
内山 濱喜地	一五
内山 秀吉	一六
内山 三四治	一六
内山 實	一六
内山 良男	一六
打越 顯太郎	一六
靱 勉	一六
移川 子之藏	一六
海鹽 義男	一六
梅北 末初	一六
梅崎 英雄	一六
梅澤 純一	一七
梅澤 昌晴	一七
梅田 邦彥	一七
梅田 義彥	一七
梅谷 修三	一七
梅谷 村吉	一七
梅津 喜代治	一七
梅津 龍夫	一七
梅津 美治郎	一七
梅原 達也	一七
梅原 信正	一八
梅原 則三	一八
梅村 馨	一八
梅本 好治	一八
梅森 浩	一八
梅山 實明	一八
卜部 岩太郎	一八
浦 長瀛	一八
浦壁 國雄	一八
浦上 時次郎	一八
浦川 親正	一九
浦川 敏介	一九
浦島 喜久衞	一九
滑田 鶴雄	一九
裏川 寅藏	一九
瓜生 和夫	一九
瓜生 順良	一九
瓜生 了觀	一九
瓜田 友衞	一九

エ(エ)の部

江上 英三	一
江上 秀雄	一
江川 英文	一
江口 景夫	一
江口 重國	一
江口 胤顯	一
江口 親憲	一
江口 俊男	一
江口 虎三郎	一
江口 操	一
江口 見登留	二
江熊 哲翁	二
江坂 廣雄	二
江崎 歡藏	二
江崎 千準	二
江崎 悌三	二
江崎 善愛	二
江崎 義人	二
江下 孝	二

江下 忠	二
江島 五郎	二
江副 孝夫	三
江頭 六郎	三
江藤 逸夫	三
江藤 吉之丞	三
江藤 彥武	三
江藤 昌之	三
江野本 甚四郎	三
江橋 修	三
江花 靜	三
江原 幹三	三
江原 桂三郎	四
江原 玄治郎	四
江原 廣伍	四
江邊 清夫	四
江見 浩一	四
江見 節男	四
江本 修	四
江森 武雄	四
江利川 晋次郎	四
江里口 正行	五
永木 千代治	五
衞藤 顯	五
衞藤 垚三郎	五
枝松 慶次	五
枝本 勇雄	五
榎田 武男	五
榎谷 孝典	五
榎本 隆吾	五
榎本 正次	六
榎本 中衞	六
榎本 米一	六
榎本 隆一郎	六
海老塚 健一	六
海老塚 政治	六
海老原 敬吉	六
蛯子 哲二	六
遠藤 英之助	六
遠藤 喜一	六
遠藤 邦夫	七
遠藤 源六	七
遠藤 俊一	七
遠藤 權三郎	七
遠藤 佐市郎	七
遠藤 三郎	七
遠藤 三郎	七
遠藤 壽三	七
遠藤 周藏	七
遠藤 精一	七
遠藤 武夫	八
遠藤 毅	八
遠藤 治一郎	八
遠藤 中節	八
遠藤 常壽	八
遠藤 直人	八
遠藤 彥造	八
遠藤 守一	八

オ(ヲ)の部

小笠 公韶	一
小笠原 長生	一
小笠原 道生	一
小笠原 光壽	一
小川 猪作	一
小川 景重	一
小川 喜一	一
小川 假	一
小川 近五郎	二
小川 壽吉	二
小川 潤次郎	二
小川 清一	二
小川 節郎	二
小川 太一郎	二
小川 亨	二
小川 延賢	二
小川 昇	二
小川 擧	三
小川 秀雄	三
小川 陸之輔	三
小川 要次	三
小川 芳樹	三
小川 義章	三
小河 正儀	三
小草 秀夫	補遺二
小串 孝治	三
小口 壽三郎	三
小國 秀雄	三
小熊 捍	四
小倉 邦夫	四
小倉 庫次	四
小倉 謙	四
小倉 謙	四
小倉 三郎	四
小倉 進平	四
小倉 末	四
小倉 清次	四
小倉 莊五郎	補遺二
小倉 武一	四
小倉 强	四
小倉 勉	五
小倉 政博	五
小栗 銀三	五
小此木 爲二	五
小佐田 忠男	五
小山内 淳進	五
小山内 昌一	五
小澤 久太郎	五
小澤 潔	五
小澤 輝	五
小澤 文雄	補遺二
小澤 凱夫	六
小澤 了	六
小瀨 伊俊	六
小鷗 紹夫	六
小田 金治	六
小田 賢郎	六
小田 定文	六
小田 清一	六
小田 俊郎	六
小田 成就	六
小田 春太郎	七
小田 二三男	七
小田 正義	七
小田 良英	七
小田 龍太	七
小田川 達朗	七
小田切 潔	七
小田切 正巳	七
小田島 助吉	七
小田原 男	七
小田部 胤明	八
小田部 秀雄	八
小田村 元彥	八
小津 茂郎	八
小貫 元	八
小沼 敬三郎	八
小野 勇	八
小野 磐彥	八
小野 鑑正	八
小野 吉郎	補遺二
小野 謙三	九
小野 幸太郎	九
小野 昂三	九
小野 與作	九
小野 磨	九
小野 清一郎	九
小野 壯作	九
小野 應一	九
小野 悌	一〇

小野 貞助	九
小野 哲	九
小野 德四郎	一〇
小野 文質	一〇
小野 雅	一〇
小野 政男	一〇
小野 又藏	一〇
小野 基樹	一〇
小野 八千雄	一〇
小野 裕	一〇
小野 陽吉	一〇
小野 龍一	一〇
小野木 敏雄	一〇
小野澤 百八	一一
小野塚 彬樹	一一
小野寺 清	一一
小野寺 五一	一八
小野寺 銀一	一一
小野寺 重吉	一一
小野寺 盛	一一
小野寺 透	一一
小野寺 直助	一一
小野寺 有一	一一
小畑 英五郎	一一
小畑 忠	一一
小幡 俊介	一二
小幡 重一	一二
小幡 西吉	一二
小幡 治和	一二
小幡 靖	一二
小原 龜太郎	一二
小原 正二	一二
小原 度正	一二
小原 仲	一二
小原 正樹	一二
小山田 光一	一三
尾形 昭二	一三
尾形 種	一三
尾形 友助	一三
尾形 半	一三
尾形 壽	一三
尾越 豐	一三
尾佐竹 猛	一三
尾崎 義一	一三
尾崎 補馬	一四
尾崎 卓郎	一四
尾崎 正道	一四
尾崎 與作	一四
尾關 一夫	一四
尾關 將玄	補遺二
尾添 磐男	一四
尾鍋 秀雄	一四
尾上 哲之助	一四
尾上 八郎	一四
尾之上 弘信	一四
尾畑 義純	一四
尾花 勇	一五
尾村 倬久	一五
尾本 義一	一五
越智 眞逸	一五
越智 鳥五郎	一五
越智 實	一五
緒方 章	一五
緒方 稜威雄	一五
緒方 清纖	一五
緒方 健三郎	一五
緒方 正太郎	一六
緒方 信一	一六
緒方 大象	一六
緒方 知三郎	一六
緒方 虎之助	一六
緒方 益雄	一六
織田 圓城	一六
織田 嘉七	一六
織田 經二	一六
織田 智	一七
織田 萠萠	一七
織田 竹雄	一七
織田 信知	一七
及川 逸平	一七
及川 奧郎	一七
及川 邦治	一七
及川 源七	一七
及川 古志郎	一七
及川 周	一七
及川 常平	一八
及川 德助	一八
及川 邊	一八
及川 獨平	一八
生沼 勝	一八
生沼 曹大	一八
大麻 寛一	一八
大饗 壤	一八
大池 眞	一八
大石 駿	一九
大石 龜次郎	一九
大石 三良	一九
大石 靜信	一九
大石 順市	一九
大石 浩	一九
大石 芳	一九
大石 和三郎	一九
大泉 勝吉	一九
大磯 敏雄	二〇
大內 覺之助	二〇
大內 武次	二〇
大內 爲次	二〇
大浦 精一	二〇
大浦 八郎	二〇
大江 保直	二〇
大岡 安太郎	二〇
大岡 保三	二〇
大岡 禮三	二〇
大賀 惠二	二〇
大柏 清三郎	二一
大金 益次郎	二一
大上 仁平	二一
大神 啓次郎	二一
大川 一郎	二一
大川 房吉	二一
大河原 重信	二一
大河原 雄吉	二一
大木 彝雄	二一
大木 外次郎	二二
大木 利彥	二二
大木 操	二二
大久保 鋼三	二二
大久保 靜平	二二
大久保 純	二二
大久保 準三	二二
大久保 武雄	二二
大久保 忠文	二二
大久保 利隆	二二
大久保 留次郎	二三
大久保 豐太郎	二三
大串 一幸	二三
大窪 熊治	二三
大熊 貞邦	二三
大倉 勝馬	二三
大倉 雋信	二三
大倉 玄一	二三
大倉 三郎	二三
大倉 省三	二四
大倉 泰三	二四
大倉 東一	二四
大越 諄	二四
大越 隆三	二四
大坂 壽郎	二四
大崎 勝澄	二四
大崎 仲治	二四
大作 德郎	二四

大迫 元繁	二四
大迫 雄一	二四
大里 俊吾	二五
大里 忠二	二五
大澤 章	二五
大澤 一衞	二五
大澤 孝三	二五
大澤 作次	二五
大澤 治作	二五
大澤 正之	二五
大澤 勝	二五
大澤 雄一	二五
大澤 融	二六
大鹽 紀	二六
大鹽 政治郎	二六
大鹽 義男	二六
大島 格	二六
大島 金光	二六
大島 恭三	二六
大島 健一	二六
大島 憲司	二六
大島 春三	二六
大島 末彥	二六
大島 染吉	二七
大島 太郎	二七
大島 輝之助	二七
大島 外三雄	二七
大嶋 德重	二七
大島 知行	二七
大島 寅治	二七
大島 弘夫	二七
大島 浩	二七
大島 廣	二七
大島 福造	二八
大島 文彥	二八
大島 文義	二八
大島 正滿	二八
大島 六七男	二八
大島 靖	二八
大城 菊司	二八
大杉 榮	二八
大住 吾八	二八
大瀨 進	二九
大関 淸二	二九
大薗 平吉	二九
大田 周夫	二九
大田 修吉	二九
大高 庄右衛門	二九
大寶 要藏	二九
大瀧 主一	二九
大瀧 照太郎	二九
大竹 憲成	二九
大竹 武七郎	三〇
大竹 民陟	三〇
大達 茂雄	三〇
大谷 一太郎	三〇
大谷 勝眞	三〇
大谷 喜一郎	三〇
大谷 喜八郎	三〇
大谷 湛	三〇
大谷 享次	補遺二
大谷 佐重郎	三〇
大谷 武一	三〇
大谷 武夫	三〇
大谷 正男	三一
大谷 元男	三一
大谷 泰德	三一
大谷 義忠	三一
大地 義治	三一
大津 淸	三一
大津 敏男	三一
大津 英男	三一
大圖 軍之丞	三二
大塚 惟精	三二
大塚 一矩	三二
大塚 今比古	三二
大塚 粂紀	三二
大塚 喜一	三二
大塚 七郎	三二
大塚 俊一	三二
大塚 誠之	三二
大塚 平	三三
大塚 武邦	三三
大塚 辰雄	三三
大塚 藤吉	三三
大塚 德雄	三三
大塚 初治	三三
大塚 秀雄	三三
大塚 政次郎	三三
大塚 衞	三三
大月 武一	三四
大槻 菊男	三四
大槻 衞	三四
大槻 正男	三四
大槻 義公	三四
大坪 五也	三四
大坪 喜久太郎	三四
大坪 倉一	三四
大坪 藤市	三四
大坪 保雄	三四
大戶 久雄	三五
大土井 源	三五
大利 額實	三五
大鳥居 倚典	三五
大西 克證	三五
大西 藤	三五
大西 淸治	三五
大西 友太	三五
大西 願作	三五
大西 太二	三六
大西 冬藏	三六
大西 正之助	三六
大西 道太郎	三六
大西 林次	三六
大貫 元	三六
大貫 英雄	三六
大貫 隣四	三六
大沼 建彬	三六
大沼 行一	三六
大沼 保吉	三六
大根田 貴雄	三七
大野 數雄	三七
大野 勝三	三七
大野 勝己	三七
大野 喜一郎	三七
大野 靜毅	三七
大野 謙一	三七
大野 享三	三七
大野 璋五	三七
大野 新一郎	三八
大野 晉	三八
大野 精七	三八
大野 忠男	三八
大野 元	三八
大野 初熊	三八
大野 博	三八
大野 美稻	三八
大野 芳麿	三八
大野 連治	三八
大野 綠一郎	三九
大野木 克彥	三九
大庭 一郎	三九
大庭 次郎	三九
大庭 實	三九
大場 茂行	三九
大場 十郎	三九
大場 保	三九
大場 成實	三九
大橋 幹一	三九
大橋 健太郎	四〇

大橋武夫　四〇
大橋保　四〇
大橋政雄　四〇
大橋好男　四〇
大橋良一　四〇
大畑文七　四〇
大島胖宣　四〇
大濱芳雄　四〇
大林男治　四〇
大原清之助　四一
大平顯母　四一
大平廣衞　四一
大穂益夫　四一
大堀弘　四一
大宮秀次　四一
大宮森次　四一
大村信一　四一
大村彌　四一
大村文七郎　四一
大村己代治　四二
大村吉衞　四二
大元玄一　四二
大本利一　四二
大森偉一郎　四二
大森乙五郎　四二
大森寛　四二
大森健治　四二
大森洪太　四三
大森鐵二郎　四三
大森達雄　四三
大森浩　四三
大森通孝　四三
大森元一郎　四三
大森義文　四三
大家久一　四三
大屋敷與一　四三
大柳昌次　四〇
大山侃爾　四四
大山和邦　四四
大山正　四四
大山常藏　四四
大山貞一　四四
大山彥二　四四
大山文雄　四四
大山雅二　四四
大山松次郎　四四
大類伸　四四
大和田貞榮　四五
大和田福德　四五
大和田彌一　四五
大和田亮吉　四五
大脇榮市　四五
大脇直德　四五
太田一郎　四五
太田和彥　四五
太田金次郎　四五
太田九州男　四五
太田幸作　四六
太田三郎　四六
太田順治　四六
太田章一　四六
太田盛　四六
太田誠二　四六
太田誠太郎　四六
太田耐造　四六
太田喬　四六
太田哲三　四六
太田德藏　四七
太田知度　四七
太田知庸　四七
太田寅四郎　四七
太田武七　四七
太田正雄　四七
太田政明　四七
太田泰治　四七
太田雄次　四七
太田勇治郎　四七
太田吉弘　四八
太田義彥　四八
太田義久　四八
太田代唯六　四八
太田原豐一　四八
鳳金勝　四八
近江忠次　四八
岡中　四八
岡軌丸　四八
岡敬純　四八
岡五朗　四八
岡俊平　四九
岡琢郎　四九
岡德治郎　四九
岡利和　四九
岡壽郎　四九
岡暢　四九
岡久雄　四九
岡正路　四九
岡義武　四九
岡井正男　四九
岡井彌三郎　五〇
岡猪眞二　五〇
岡田幸生　五〇
岡上梁　五〇
岡川正之　五〇
岡咲恕一　五〇
岡崎勝男　五〇
岡崎實雄　五〇
岡崎誠一　五〇
岡崎太郎　五一
岡崎英城　五一
岡崎文夫　五一
岡崎文規　五一
岡崎文士　五一
岡崎義惠　五一
岡田一雄　五一
岡田要　五一
岡田包義　五一
岡田久造　五一
岡田健藏　五二
岡田顯一　五二
岡田元　五二
岡田五郎　五二
岡田孝平　五二
岡田光藏　五二
岡田重喜　五二
岡田修一　五二
岡田準之助　六
岡田城輔　五三
岡田信次　五三
岡田靜樹　五三
岡田清三郎　五三
岡田善一　五三
岡田武彥　五三
岡田辰三　五三
岡田恒輔　五三
岡田秀男　五三
岡田秀勝　五三
岡田文秀　六
岡田正夫　五四
岡田實　五四
岡田明達　五四
岡田彌一郎　五四
岡田要之助　五四
岡田吉光　五四
岡田良知　五四
岡野民德　五四
岡野留次郎　五四
岡野柾壽　五四
岡野峰太郎　五五
岡林清英　五五
岡原昌男　五五

岡部一秀　五五
岡部金夫　五五
岡部金治郎　五五
岡部欽二　五五
岡部史郎　五五
岡部二郎　五五
岡部秀一　五五
岡部常　五五
岡部常次郎　五六
岡部貞三郎　五六
岡部正巳　五六
岡松進次郎　五六
岡松成太郎　五六
岡村馨　五六
岡村玄治　五六
岡村幸次郎　五六
岡村峻　五六
岡村信吉　五六
岡村精次　五六
岡村武　五七
岡村武雄　五七
岡村周美　五七
岡村貞二　五七
岡村信雄　五七
岡村浩　六
岡本愛祐　五七
岡本一策　五七
岡本一郎　五七
岡本寛一　五七
岡本規矩男　五七
岡本吾市　五八
岡本悟一郎　五八
岡本三良助　五八
岡本治郎平　五八
岡本茂　五八
岡本茂樹　六
岡本正一　五八
岡本季正　五八
岡本清逸　五八
岡本起　五九
岡本立彥　五九
岡本胤彌　補遺二
岡本敏男　五九
岡本直人　五九
岡本宣夫　五九
岡本男象　五九
岡本隆次　五九
岡谷辰治　五九
岡山覺太郎　五九
沖濤治　五九
沖豐政次　六〇
沖野悟　六〇
沖野丈夫　六〇
沖森源一　六〇
荻生規矩夫　六〇
荻島傳一郎　六〇
荻田保　六〇
荻野欽司　六〇
荻野意祐　六〇
荻野俊夫　六一
荻野益三郎　六一
荻野泰男　六一
荻野隆司　六一
荻原茂　六一
荻原太郎　六一
荻原徹　六一
荻原朋三　六一
荻原擴　六一
荻原博　六一
荻原博　六二
荻原祐助　六二
荻本亮逸　六二
荻山秀雄　六二
奥信一　六二
奥井謙三　六二
奥居菊藏　六二
奥崎益美　六二
奥島貫一郎　六二
奥田武　六二
奥田啓市　六三
奥田新三　六三
奥田誠一　六三
奥田達郎　六三
奥田信雄　六三
奥田讓　六三
奥田芳男　六三
奥田良三　六三
奥津彥重　六四
奥貫賢一　六四
奥野健一　六四
奥野誠亮　六四
奥野俊郎　六四
奥原日出男　六四
奥宮正典　六四
奥村勝藏　六四
奥村喜和男　六四
奥村重正　六四
奥村季吉　六五
奥村鶴松　六五
奥村虎雄　六五
奥村秀夫　六五
奥村英雄　六五
長田建治　六五
長田新　六五
長田太一郎　六五
長部謹吾　六五
長村貞一　六五
押川東太　六五
押谷鐵三郎　六六
鴛海隆　六六
落合英二　六六
落合麟一郎　六六
落合盛吉　六六
落合泰次郎　六六
落合保　六六
乙葉眞一　六六
乙部孝吉　六六
乙部泉三郎　六六
音羽榮助　六六
鬼木武　六七
鬼丸勝之　六七
鬼丸忠雄　六七
帶金悅之助　六七
面高英　六七
澤瀉久孝　六七
表聰悟　六七
折尾伊勢太　六七
折田有彥　六七
折竹錫　六七
折原泉　六八
恩田芳彥　六八

カの部

加賀美直明　一
加賀谷朝藏　一
加賀谷勇之助　一
加賀山之雄　一
加古勝次　一
加古松太郎　一
加島鐵之助　一
加勢藏太郎　一
加瀨俊一　一
加瀨俊一　一
加地宗三郎　二
加地卓一　二
加地成雄　二
加治木誠一　二
加藤勇　二
加藤殿雄　二

加藤因 二
加藤於菟丸 二
加藤政一 二
加藤覺亮 二
加藤鎌二 三
加藤寬二郎 三
加藤喜八郎 三
加藤橘夫 三
加藤清 三
加藤圭介 三
加藤朔太郎 三
加藤三郎 三
加藤三郎 三
加藤三郎 三
加藤茂雄 三
加藤重喜 四
加藤七三 四
加藤徇二郎 四
加藤信太郎 四
加藤諸三郎 四
加藤進 四
加藤澄藏 四
加藤清一 四
加藤清一 四
加藤誠一 五
加藤精三 五
加藤外松 五
加藤太郎 補遺二
加藤陸義 五
加藤瀧二 五

加藤武夫 五
加藤武雄 五
加藤龍雄 五
加藤恒三郎 五
加藤燕彥 六
加藤俊郎 六
加藤友治 六
加藤豊治郎 六
加藤信義 六
加藤八郎 六
加藤初夫 六
加藤春城 六
加藤伴平 七
加藤久衞 七
加藤等 七
加藤宏 七
加藤平吉 七
加藤正晴 七
加藤優 七
加藤元助 七
加藤守道 七
加藤雄一 七
加藤陽三 八
加藤由作 八
加藤良太 八
加藤林藏 八
加藤木凱雄 八
加島龜藏 八
加野一郎 八
加納寬美 八

加納四十二 八
加茂關治 八
加茂智榮 九
加茂秀雄 九
加用信憲 九
可知貫一 九
香川茂正 九
香川冬夫 九
狩野勝三 九
狩野德太郎 九
狩野廣之 九
狩谷精之 九
鹿島透 一〇
賀來才二郎 一〇
賀須井千 一〇
賀屋興宜 一〇
賀屋茂一 一〇
鍛冶齋 一〇
甲斐康性 一〇
甲斐三郎 一〇
甲斐茂吉 一〇
甲斐操 一〇
戒田集 一一
海保治嘉 一五
海保良夫 一一
飼手眞吾 一一
各務重義 一一
各務虎雄 一一
鏡一以 一一
垣內春雄 一一

垣內松三 一一
垣矢組實 一一
柿德市 一一
柿內三郎 一二
柿崎兵部 一二
柿崎守忠 一二
柿崎洋一 一二
柿手操六 一二
柿沼吳作 一二
柿元義秀 一二
角屋小三郎 一二
掛谷宗一 一二
景山準吉 一二
影浦尙親 一三
影木鹿吉 一三
影山常太郎 一三
陰下次郎 一三
蔭山鎌次郎 一三
筧秦彥 一三
笠井勝三郎 一三
笠島角次郎 一三
笠島信太 一三
笠原三郎 一三
笠原眞作 一三
笠原道夫 一四
笠村確 一四
笠森周護 一四
樫田忠美 一四
梶浦浩二郎 一四
梶川裕 一四

梶木治郎 一四
梶田茂 一四
梶田年 一四
梶谷昇次 一五
梶谷清一郎 一五
梶原茂 一五
梶原茂嘉 一五
梶原蕣一 一五
梶村敏樹 一五
柏木輝夫 一五
柏田新兵衞 一五
柏原榮一 一六
柏原兵太郎 一六
栢原依郎 一六
粕谷俊介 一六
春日信市 一六
春日直人 一六
春日井新一郎 一六
枷場重男 一六
片岡一龜 一六
片岡輝一 一六
片岡獻一 一六
片岡清一 一七
片岡秀吉 一七
片岡幹 一七
片岡譽一 一七
片岡義信 一七
片岡嘉雄 一七
片岸初見 一七
片桐英吉 一七

片桐藏 一七
片桐茂 一七
片桐英郎 一七
片瀬淡 一八
片柳眞吉 一八
片山茂樹 一八
片山省太郎 一八
片山昇 一八
片山久 一八
片寄明男 一八
片寄卯三郎 一八
片寄政之助 一八
勝義孝 一九
勝田銀次郎 一九
勝田直吉 一九
勝田雄次郎 一九
勝沼精藏 一九
勝野正恭 一九
勝部謙造 一九
勝赤大平 一九
勝俣稔 一九
勝本朝男 二〇
勝本正晃 二〇
勝盛豐一 二〇
勝屋英夫 二〇
勝山內匠 二〇
葛西奥羽之亮 二〇
葛西明 二〇
葛西彌六 補遺二
葛西嘉賓 二〇

數田猛雄 二〇
桂定治郎 二一
門澤利三 二一
門田輝次 二一
門脇季光 二一
叶礎 二一
蟹谷乘養 二一
金井温治 二一
金井邦夫 二一
金井佐久 二一
金井利秋 二二
金井元 二二
金井浩 二二
金井元彥 二二
金內五七 二二
金岡正孝 二二
金木正雄 二二
金倉圓照 二二
金子一平 二二
金子勝榮 二二
金子馨 二三
金子源三郎 二三
金子章一郎 二三
金子準二 二三
金子柾 二三
金子全治 二三
金子鷹之助 二三
金子武雄 二三
金子武馬 二三
金子辰太郎 二三

金子秀顯 二三
金子元臣 二四
金子彌市 二四
金子幸男 二四
金子美雄 二四
金澤潔 二四
金澤次郎 二四
金澤進三 二四
金澤正夫 二四
金澤美作 二四
金田才平 二四
金津尙一 二五
金戶紀 二五
金成喜八 二五
金丸饒 二五
金丸三郎 二五
金光浩助 二五
金光英夫 二五
金村泰男 二五
金森清茂 二五
金森虎男 二六
金谷重義 二六
金谷武彥 二六
金谷信孝 二六
金山國臣 二六
金山國治 二六
金岩傳一 二六
粂子秀夫 二六
粂重寬九郎 二六
粂重信雄 二七

粂弘正雄 二七
粂松謙太郎 二七
粂安麟太郎 二七
鍵江健藏 二七
樺島千春 二七
樺山俊夫 二七
鏑木外岐雄 二七
鏑木德二 二七
蒲池浪統 二八
鎌內義雄 二八
鎌田健治 二八
鎌田利雄 二八
鎌田春雄 二八
鎌田正忠 二八
鎌田彌壽治 二八
上出傳 二八
上岡直二 二八
上崎啓市 二八
上島政犀 二八
上條男 二八
上條馨 二九
上條桂十郎 二九
上關德也 二九
上瀧汎 二九
上瀧基 二九
上遠章 二九
上林一枝 二九
上村英一 二九
上村健太郎 二九
上村勝爾 三〇

上村伸一 三〇
上村親一郎 三〇
上村爲人 三〇
上村良弼 三〇
上山太佐久 三〇
上山經亮 三〇
上山鐵之助 三〇
上山道造 三〇
神出憲太郎 三一
神內德治 三一
神尾清澄 三一
神尾健夫 三一
神尾守次 三一
神岡三郎 三一
神垣秀六 三一
神川彥松 三一
神阪吉明 三一
神崎國弘 三二
神崎廣 三二
神崎陽吉 三二
神田坤六 三二
神田重雄 三二
神田茂 三二
神田襄太郎 三二
神田還 三二
神戶伊三郎 三二
神戶陽 三二
神谷小一 三三
神谷衛平 三三
神谷乘仁 三三

神谷秀夫　三三
神林美治　三三
神原甚造　三三
神山庄作　三三
紙谷文次　三三
龜井三郎　三三
龜井專次　三四
龜井高孝　三四
龜井光　三四
龜井善夫　三四
龜尾英四郎　三四
龜崎弘倘　三四
龜澤國吉　三四
龜島大成　三四
龜田精一　三四
龜山一二　三四
龜山孝一　三四
龜山愼一　三五
龜山直人　三五
鴨下寛　三五
鴨下武　三五
萱島德　三五
萱津近嘉　三五
萱場順治　三五
辛木宜夫　三五
辛島來　三五
唐澤威夫　三六
唐土齋治　三六
刈米達夫　三六
川合喜一　三六

川合眞一　三六
川合武　三六
川合壽人　三六
川井章知　三六
川井清久　三六
川井健太郎　三六
川井武夫　三七
川井實　三七
川出千速　三七
川出麻須美　三七
川上寛治　三七
川上喜市　三七
川上次郎　三七
川上多助　三七
川上親文　三七
川上政雄　三七
川上和吉　三七
川岸富士郎　三八
川北正太郎　三八
川口一二　三八
川口榮作　三八
川口元作　三八
川口正次郎　三八
川口哲男　三八
川口利雄　三八
川越茂　三八
川越半助　三八
川崎勇　三九
川崎一郎　三九
川崎賢太郎　三九

川崎俊一　三九
川崎恒二　三九
川崎敏正　三九
川崎正夫　三九
川崎義雄　三九
川崎立太　三九
川澤章明　三九
川路泰作　四〇
川島法夫　四〇
川島源司　四〇
川島三郎　四〇
川島順一郎　四〇
川島孝彥　四〇
川島輝猪　四〇
川島傳三　四〇
川島松太郎　四〇
川島好雄　四一
川島令次郎　四一
川尻二郎　四一
川尻稔　四一
川尻彌三松　四一
川澄己知雄　四一
川瀬健治　四一
川瀬光順　四一
川瀬善一　四一
川瀬利男　四一
川添修平　四二
川添清吉　四二
川添爲一　四二
川田錦一郎　四二

川田卓爾　四二
川田長兵衛　四二
川面隆三　四二
川名進一　四二
川野温興　四二
川野昌美　四二
川野邊薫　四三
川畑愛義　四三
川端高一　四三
川原五郎　四三
川原直一　四三
川原田生　四三
川邊貫一　四三
川邊完道　四三
川邊大吉　四三
川眞田高太郎　四三
川見禎一　四三
川村一水　四三
川村二郎　四四
川村實平　四四
川村多實二　四四
川村爲郎　四四
川村秀文　四四
川村平七　四四
川村萬藏　四四
川村芳次　四四
川本邦雄　四四
川本謙助　四四
川本爲次郎　四五
川本與森　四五

河合一太　四五
河合喜代治　四五
河合清　四五
河合賢次　四五
河合庄平　四五
河合愼二　四五
河合盾丸　四五
河合定二　四五
河合好人　四六
河相達夫　四六
河內正作　四六
河內平治　四六
河上和一　四六
河口商次　四六
河口協介　四六
河崎篤三郎　四六
河崎文珠次郎　四六
河島幸助　四七
河島武四郎　四七
河瀬意次　四七
河瀬四郎　四七
河田薫　四七
河田縣　四七
河田三治　四七
河田杰　四七
河東卓四郎　四七
河西定雄　四八
河野卯三郎　四八
河野一之　四八
河野寔敏　四八

河野榮　四八
河野鐵雄　四八
河野正吉　四八
河野達一　四八
河野爲正　四八
河野富一　四八
河野豐三　四九
河野正郎　四九
河野通一　四九
河野滿長　補遺三
河野義信　四九
河端政治　四九
河鰭實英　四九
河原晙一郎　四九
河原春作　四九
河原富造　四九
河原直孝　四九
河部榮一　四九
河邊滋然　五〇
河村一太郎　五〇
河村意太郎　五〇
河村靜觀　五〇
河村又介　五〇
河本偕三　五〇
河本文一　五〇
甘露寺受長　五〇
菅野義丸　補遺三

キの部

木內一男　一

木內四郎　一
木內政藏　一
木內守一　一
木內良胤　一
木內横　一
木枝增一　一
木坂恒一　一
木下英一　一
木下榮次郎　一
木下一雄　二
木下龜城　二
木下涼　二
木下忍　二
木下周太　二
木下武雄　二
木下恒彥　二
木下正男　補遺三
木下正雄　二
木下道雄　二
木下男男　二
木下由兵衛　三
木下良順　三
木下麟太郎　三
木島誠三　三
木島辰二　三
木島秀男　三
木島平治郎　三
木田徹郎　三
木田芳三郎　三
木谷外　三

木地音次郎　四
木津谷榮三郎　四
木戶喜佐登　四
木戶潔　四
木戶幸一　四
木戶實　四
木野藤雄　四
木原圓次　四
木原卓三郎　四
木原秀雄　五
木原均　五
木宮泰彥　五
木村荒雄　五
木村幾太　五
木村榮二郎　五
木村男也　五
木村喜之助　五
木村儀四郎　五
木村行藏　五
木村金太郎　六
木村謹治　六
木村健二郎　六
木村小金吾　六
木村廣治　六
木村次郎　六
木村修三　六
木村眞之助　六
木村太郎　六
木村敬義　六
木村隆　七

木村武　七
木村忠雄　七
木村正　七
木村正　七
木村彊季　七
木村忠二郎　七
木村庸治　七
木村强　七
木村利夫　八
木村富次郎　八
木村彥六　八
木村英夫　八
木村兵太郎　八
木村弘太郎　八
木村文靖　八
木村正路　八
木村賢　補遺三
木村又雄　八
木村美根三　八
木村叢衞　九
木村泰夫　九
木村與一　九
木村芳人　九
木村際　九
木本正文　九
氣賀澤猛保　九
城戶旭　九
城戶鎭吉　九
城戶茂太　九
城戶俊三　一〇

城戶諦讓　一〇
岐部光久　一〇
紀俊　一〇
紀平正美　一〇
記內角一　一〇
鬼頭豐隆　一〇
喜多憲輔　一〇
喜多源逸　一〇
喜多長雄　一一
喜多島健膺　一一
喜頭兵一　一一
菊井維大　一一
菊川清作　一一
菊澤正達　一一
菊池秋雄　一一
菊池明　一一
菊地白　一一
菊池圭作　一二
菊地壽助　一二
菊池愼三　一二
菊池淳一　一二
菊地璋三　一二
菊池清治　一三
菊池盛登　一三
菊池武夫　一三
菊地武直夫　一三
菊池鶴松　一四
菊池豐三郎　一四
菊地龍道　一四
菊谷秀雄　一五

岸 偉一	一三
岸 勝彌	一三
岸 正一	一三
岸 信介	一三
岸 壽喜惠	一四
岸 達也	一四
岸 武八	一四
岸 勇一	一四
岸 良一	一四
岸上 俊吉	一四
岸田 顯一	一四
岸田 十雄	一四
岸田 日出刀	一四
岸野 益太郎	一五
岸野 豐	一五
岸野 洋逸	一五
岸本 淸人	一五
岸本 熊太郎	一五
岸本 千秋	一五
岸本 太郎	一五
岸本 彌太郎	一五
北 榮造	一五
北井 幾夫	一五
北浦 延治郎	一六
北浦 靜彥	一六
北尾 富烈	一六
北岡 茂	一六
北川 角彌	一六
北川 久五郎	一六
北川 正一	一六
北川 魏	一六
北川 辰造	一六
北川 松之助	一六
北小路 三郎	一六
北里 彌	一七
北鄕 茂光	一七
北澤 淸	一七
北澤 忠男	一七
北澤 直吉	一七
北島 君三	一七
北島 貞男	一七
北島 武雄	一七
北島 美雄	一七
北田 喜七郎	一七
北田 武盛	一七
北田 好夫	一七
北野 治	一八
北原 規矩雄	一八
北原 寅吉	一八
北原 康哉	一八
北村 奥松	一八
北村 玖造	一八
北村 五良	一八
北村 純一	一八
北村 昌吉	一八
北村 西望	一八
北村 監	一九
北村 輝雄	一九
北村 德太郎	一九
北村 得三	一九
北村 英明	一九
北村 隆三九	一九
北山 加一郎	一九
北山 猛夫	一九
北山 勇吉	一九
北脇 市太郎	二〇
吉川 經俊	二〇
吉川 宥一	二〇
吉瀨 義信	二〇
吉良 嚴	二〇
吉良 喜重	二〇
橘高 義雄	二〇
絹川 二郎	二〇
君島 武男	二〇
淸井 正	二一
淸川 初一	二一
淸田 末雄	二一
淸田 貞治	二一
淸瀧 千代夫	二一
淸原 邦一	二一
淸原 貞雄	二一
淸原 德次郎	二一
桐越 信雄	二二
桐谷 岩太郎	二二
桐谷 勝三郎	二三
桐原 眞一	二三
桐淵 勘藏	二三
桐村 四郎	二三
桐村 早太郎	二三
桐山 喜一郎	二三
金 雨英	二三
金 大羽	二三
金田一 京助	二三
金原 淳	二三

ク・ケの部

九鬼 左馬之助	一
工藤 九郎	一
工藤 愼吉	一
工藤 祐直	一
工藤 壯平	一
工藤 太郎	一
工藤 忠夫	一
工藤 恒四郎	一
工藤 鐵太郎	一
工藤 得安	二
工藤 隆治	二
工藤 六三郎	二四
久下 勝次	二
久合田 勉	二
久慈 隆元	二
久慈 治信	二
久慈 學	二
久世 章業	二
久野 丘	二
久野 浩一	二
久野 朔郎	三
久野 重一郎	三
久野 新松	三
久原 拓次	三
久保 覺次郎	三
久保 喜代二	三
久保 喜六	三
久保 吉造	三
久保 敬二郎	三
久保 謙	四
久保 昱二郎	四
久保 道	四
久保 威夫	四
久保 忠雄	四
久保 勉	四
久保 朝二	四
久保 春海	四
久保 文藏	四
久保 護躬	四
久保 良英	四
久保井 善悟	五
久保川 平三郎	五
久保下 久二	五
久保田 勝彌	五
久保田 貫一郎	五
久保田 重孝	五
久保田 信三	五
久保田 宗太郎	五
久保田 晙	五
久保田 秀雄	五
久保田 藤麿	六
久保田 勉之助	六
久保田 美英	六
久米 武文	六

久谷 孝吉	二四
久禮田 益喜	六
公文 陽	六
杭迫 軍二	六
釘宮 磐	六
釘本 昌二	六
草鹿 淺之介	七
草鹿 任一	七
草薙 晉	七
草野 德義	七
草野 豹一郎	七
草葉 隆圓	七
草間 茂登	七
草間 弘司	七
日下 一郎	七
日下 巖	七
日下 繁	八
日下 恒	八
日下部 滋	八
日下部 祐太郎	八
日下部 義夫	八
櫛田 德一	八
櫛田 光男	八
楠瀨 熊彥	八
楠瀨 常猪	八
楠見 生一	九
楠本 長三郎	九
楠本 正繼	九
楠本 正康	九
楠山 佐市郎	九
忽那 寬	九
葛尾 武雄	九
葛原 格	九
朽名 幸雄	九
沓澤 膺太郎	九
國井 喜太郎	一〇
國井 眞	一〇
國璽 耕一郎	一〇
國島 貞一	一〇
國富 信一	一〇
國富 友次郎	一〇
國友 直	一〇
國部 薰義	一〇
國又 鎭靜	一〇
國松 豐	一一
國宗 榮	一一
國行 一郎	一一
國吉 文雄	一一
窪田 喜照	一一
窪田 國三郎	一一
窪田 國藏	一一
窪田 公平	一一
窪田 靜太郎	一一
窪田 淸市	一一
窪田 忠彥	一一
窪田 長松	一二
窪田 友藏	一二
窪田 秀夫	一二
窪田 晧	一二
窪田 幹太	一二
窪谷 次男	一三
窪谷 直光	二四
隈部 以忠	一三
隈部 種樹	一三
熊谷 彙雄	一三
熊谷 直樹	一三
熊谷 直行	一三
熊谷 誠	一三
熊谷 美登利	一三
熊木 拾治	一三
熊澤 楠吉	一三
熊田 周八	一三
熊田 隆治	一三
熊野 周二	一三
熊野 絢太	一四
熊野 省四郎	一四
熊野 誠治	一四
熊野 德次郎	一四
熊埜御堂 定	一四
熊埜御堂 進	一四
熊本 隆治	一四
粂川 勳	一四
倉井 節	一四
倉石 武四郎	一四
倉內 吟二郎	一五
倉賀野 明	一五
倉上 晃	一五
倉繁 義信	一五
倉科 幸內	一五
倉島 至	一五
倉田 吉雄	一五
倉知 榮雄	一五
倉西 正嗣	一五
倉橋 惣三	一五
倉八 正	一六
倉林 市郎	一六
倉林 源四郎	一六
鞍懸 琢磨	一六
栗岡 龜治	一六
栗田 吉五郎	一六
栗田 敏	一六
栗田 元次	一六
栗田 要吉	一六
栗橋 保正	一六
栗林 宇一	一七
栗林 信朗	一七
栗原 修	一七
栗原 一男	一七
栗原 正	一七
栗原 民之助	一七
栗原 時義	一七
栗原 信衛	一七
栗原 吉雄	一七
栗原 吉郎	一八
栗原 隆平	一八
栗村 虎雄	一八
栗本 稔	一八
栗本 義彥	一八
栗山 圓次	一八
栗山 重信	一八
栗山 拾三	一八
栗山 松一	一八
栗山 廉平	一八
黑石 勝	一九
黑江 重治	一九
黑金 厚美	一九
黑川 耐而	一九
黑川 眞武	一九
黑川 眞前	一九
黑川 利雄	一九
黑川 弘	一九
黑川 義信	一九
黑川 涉	一九
黑河內 寬治	二〇
黑河內 茂樹	二〇
黑河內 透	二〇
黑木 長太郎	二〇
黑木 利克	二〇
黑崎 金次郎	二〇
黑崎 晉介	二〇
黑崎 英雄	二〇
黑澤 喜代治	二〇
黑澤 良臣	二〇
黑澤 亮助	二一
黑住 豐太	二一
黑瀨 芳郎	二一
黑田 亮	二一
黑田 英一郎	二一
黑田 覺	二一
黑田 幹一	二一

黒田靜夫 二一
黒田チカ 二一
黒田長敬 二一
黒田傳次郎 二二
黒田敎懋 二二
黒田吉夫 二二
黒田義晴 二二
黒津兆太郎 二二
黒野勘六 二二
黒羽英男 二二
黒山宜雄 二二
黒江夢鳳 二二
桑折英三郎 二三
桑田正一 二三
桑田善太郎 二三
桑田俊夫 二三
桑田芳藏 二三
桑田義備 二三
桑名淺一 二三
桑野關四郎 二三
桑野實太 二三
桑原玄珠 二三
桑原省吾 二三
桑原竹二 二三
桑原辰生 二三
桑原龍興 二三
桑原常隆 二三
桑原鶴 二三
桑原信雄 二四
郡司喜一 二四
郡司常成 二四
桂珖淳 二四
慶松一郎 二四
慶谷隆夫 二五
見坊象光 二五
見坊田鶴雄 二五
劔木亨弘 二五
源生一太郎 二六

コの部

小池泉 一
小池啓吉 一
小池敬事 一
小池四郎 一
小池輝一 一
小池元官 一
小池行政 一
小池和七 一
小石安一 一
小磯國昭 一
小泉英一 二
小泉賢次郎 二
小泉源一 二
小泉栖郎 二
小泉幸一 二
小泉靜雄 二
小泉潤 二
小泉恭 二
小泉親彦 二
小泉弘 三
小泉元正 三
小泉彌六 三
小板橋壽男 三
小出榮一 三
小出英經 三
小出佐一 三
小出實平 三
小出廣善 三
小出弘隆 三
小出褒治郎 三
小出滿二 四
小岩四郎 四
小岩正一 四
小華和忠士 四
小柏丑二 四
小金井健男 四
小坂立夫 四
小坂忠一 四
小坂實義 四
小坂夏太 五
小崎政臣 五
小柴文三郎 五
小島榮吉 五
小島象文 五
小島幸太郎 五
小島三郎 五
小島昌太郎 五
小島猛 五
小島德雄 五
小島均 六
小島宗高 六
小島安太郎 六
小島利太郎 六
小杉平一 六
小菅芳次 六
小曾根常勳 六
小園貞助 六
小太刀虎二 六
小高恭平 六
小高高明 七
小瀧彬 七
小谷亘三郎 七
小谷正雄 七
小玉作治 七
小玉博司 七
小寺農夫 七
小寺彌彦 七
小中公毅 七
小西龜太郎 七
小西桂太郎 七
小西民之助 八
小西兵太郎 八
小貫律太郎 八
小橋枡佳 八
小橋川昭慶 八
小長谷綽 八
小畠富穗 八
小塙英太郎 八
小早川四郎 八
小早川貞三 八
小林明 九
小林伊三郎 九
小林勇 九
小林巖 九
小林巖 九
小林右太郎 九
小林榮一 九
小林儀作 九
小林國治 九
小林象治 九
小林謙二 九
小林憲美 一〇
小林好日 一〇
小林幸英 一〇
小林孝壽 一〇
小林定雄 一〇
小林四郎 一〇
小林榮朗 一〇
小林次郎 一〇
小林茂雄 一一
小林繁樹 一一
小林靜雄 一一
小林俊次郎 一一
小林淳男 一一
小林淳吉 一一
小林庄平 一一
小林末夫 一一
小林通 一一
小林誠一 一二
小林晴治郎 一二

小林千秋 一二
小林善藏 一二
小林宗之助 一二
小林總吾 一二
小林隆德 一二
小林武次 一二
小林武治 一三
小林辰男 一三
小林傳松 一三
小林豐治 一三
小林尋次 一三
小林正紹 一三
小林正基 一三
小林政一 一三
小林政一 一三
小林松助 一四
小林已智次 一四
小林己根夫 一四
小林明傳 一四
小林行雄 一四
小林豐 一四
小林與三次 一四
小林要藏 一四
小林芳夫 一四
小林良雄 一五
小林義男 一五
小林義貫 一五
小林利一 一五
小檜山久作 一五
小船濟 一五
小堀孝良 一五
小堀保 一五
小牧實繁 一五
小牧孝雄 一五
小牧健夫 一六
小又幸井 一六
小町愈一 一六
小町谷操三 一六
小松一清 一六
小松行一 一六
小松鎮太郎 一六
小松茂 一六
小松茂 一六
小松謙一 一六
小松武彦 一七
小松東三郎 一七
小松博美 一七
小松男藏 一七
小松原久治 一七
小松原謙一 一七
小松原隆二 一七
小美川眞止 一七
小南清 一七
小南又一郎 一八
小湊高帆 一八
小宮悅造 一八
小宮喬介 一八
小宮賢一 一八
小宮小十郎 一八
小宮豐隆 一八
小室薰 一八
小室由三 一八
小森弘榮 一八
小森修二 一八
小森谷光三 一九
小安正三 一九
小山一德 一九
小山慶作 一九
小山甲三 一九
小山七郎 一九
小山準二 一九
小山過次郎 一九
小山眞一 一九
小山高保 二〇
小山綱繪 二〇
小山直彦 二〇
小山雄二 二〇
小山隆 二〇
木暮謙三郎 二〇
木暮安水 二〇
木檜恕一 二〇
古岩井久平 二〇
古宇田實 二〇
古賀岩藏 二〇
古賀久六 二一
古賀清三郎 二一
古賀宗太郎 二一
古賀强 二一
古賀德次 二一
古賀俊夫 二一
古賀信義 二一
古賀光義 二一
古賀森太 二一
古賀行義 二一
古澤森之助 二二
古屋野橘衞 二二
古屋野宏平 二二
兒島喜久雄 二二
兒嶋高信 二二
兒玉晋吉 二二
兒玉桂三 二二
兒玉作左衛門 二二
兒玉昌 二二
兒玉庄藏 二二
兒玉完次郎 二三
兒玉忠雄 二三
兒玉正 二三
兒山忠一 二三
五井節藏 二三
五島藤光 二三
五味赫 二三
五味常眞 二三
吳完一 二三
後藤以紀 二四
後藤男 二四
後藤鑑尾 二四
後藤一雄 二四
後藤吉五郎 二四
後藤久吉 二四
後藤憲一 二四
後藤五郎 二四
後藤駒吉 二四
後藤慶三 二四
後藤省三 二五
後藤新一 二五
後藤眞造 二五
後藤季總 二五
後藤濟太郎 二五
後藤太作 二五
後藤猛 二五
後藤豪 二五
後藤登 二五
後藤博 二五
後藤眞三男 二五
後藤基幸 二五
後藤彌平 二六
後藤泰 二六
後藤與治 二六
後藤芳五郎 二六
後藤米太郎 二六
後藤隆吉 二六
鯉沼茆吾 二六
好士金之助 二六
光野成 二七
幸田重六 二七
幸田午三郎 二七
幸前壽三伸 二七
幸前治一 二七
香坂要三郎 二七

厚東常照　二七
厚東篤太郎　二七
高村坂彥　二八
高良末綱　二八
高力得雄　二八
纐纈準　二八
纐纈彌三　二八
纐纈理一郎　二八
合志源藏　二八
合田三郎　補遺三
郷野基秀　二八
郡祐一　二九
郡場寛　二九
郡山粂松　二九
國府種文　二九
國分俘　二九
國分友治　二九
國分丸治　二九
國保護　二九
黒正嚴　三〇
苔口良治　三〇
越順三　三〇
越姓玄憲　三〇
越川高倘　三〇
越川道三　三〇
越野蒲雄　三〇
越原保明　三〇
厚原仁　三〇
琴陵光凞　三〇
駒井卓　三一

駒形作次　三一
駒田重義　三一
駒林榮太郎　三一
是松準一　三一
今裕　三一
今野運治　三一
今野次郎二　三一
近璋太郎　三一
近藤勇　三二
近藤榮一　三二
近藤悅一　三二
近藤薫　三二
近藤一男　三二
近藤寛保　三二
近藤僕一　三二
近藤欣一　三二
近藤金助　三二
近藤源藏　三三
近藤宏二　三三
近藤止文　三三
近藤周一　三三
近藤駿介　三三
近藤順二　三三
近藤正一　三三
近藤正二　三三
近藤壤太郎　三三
近野新一　三三
近藤精一　三三
近藤助　三四
近藤唯一　三四

近藤驚　三四
近藤時司　三四
近藤時太郎　三四
近藤直人　三四
近藤直晴　三四
近藤晴夫　三四
近藤半吾　三四
近藤壽治　三四
近藤英明　三五
近藤凡夫　三五
近藤正彥　三五
近藤泰夫　三五
近藤康男　三五
近藤義弘　三五
近藤龍　三五
金貞次郎　三五
紺野勝三　三五
紺野德　三六
根田源治郎　三六

サの部

五月女廣　一
左右田德郎　一
左右田友三郎　一
左座養傳　一
佐伯顯二　一
佐伯玉雄　一
佐伯千尋　一
佐伯常麿　一
佐伯敏男　一

佐伯直臣　一
佐伯利吉　一
佐木義夫　二
佐久節　二
佐久洋　二
佐久田昌教　二
佐久間鼎　二
佐久間五郎　二
佐久間信　二
佐久間彊　二
佐久間亨　二
佐久間正美　二
佐久山德次郎　三
佐口榮　三
佐々茂雄　三
佐々貫之　三
佐々木厚義　三
佐々木榮一　三
佐々木榮太　三
佐々木英一　三
佐々木喜市　三
佐々木喜四郎　三
佐々木清　三
佐々木清綱　四
佐々木金太郎　四
佐々木敬一　四
佐々木健太郎　四
佐々木堅一　四
佐々木定水　四
佐々木二郎　四

佐々木重雄　四
佐々木重成　四
佐々木彰一　五
佐々木申二　五
佐々木晴吉　五
佐々木銑　五
佐々木宗一　五
佐々木高治　五
佐々木喬　五
佐々木卓　五
佐々木鐵三郎　五
佐々木俊雄　五
佐々木直一　五
佐々木等　五
佐々木梵成　六
佐々木正次　六
佐々木道雄　六
佐々木元勝　六
佐々木安隆　六
佐々木行忠　六
佐々木與四藏　六
佐々木芳遠　六
佐々木利吉　七
佐々木良一　七
佐々木亮助　七
佐々木林治郎　七
佐々木六郎　七
佐々木錄郎　七
佐々波外七　七
佐々波與佐次郎　七

佐田昌夫　七
佐多愼一　八
佐竹達二　八
佐竹秀一　八
佐武健造　八
佐武安太郎　八
佐谷有吉　八
佐治謙讓　八
佐治孝德　八
佐治知足　八
佐藤彰　八
佐藤朝生　九
佐藤伊惣治　九
佐藤一郎　九
佐藤一郎　九
佐藤榮吉　九
佐藤榮作　九
佐藤覺　九
佐藤一市　九
佐藤勝也　九
佐藤幹二　九
佐藤喜一　一〇
佐藤毅六　一〇
佐藤儀助　一〇
佐藤公明　一〇
佐藤清　一〇
佐藤金重　一〇
佐藤邦雄　一〇
佐藤國治　一〇
佐藤袈裟市　一〇

佐藤圭二　一一
佐藤敬二　一一
佐藤敬三　一一
佐藤慶吉　一一
佐藤堅之助　一一
佐藤五一　一一
佐藤幸一　一一
佐藤幸四郎　一一
佐藤孝次　一一
佐藤剛藏　一一
佐藤崎次　一二
佐藤業一　一二
佐藤業雄　一二
佐藤正一　一二
佐藤祥樹　一二
佐藤彰三　一二
佐藤尙武　一二
佐藤信太郎　一二
佐藤信哉　一三
佐藤進　一三
佐藤正氣　一三
佐藤誠一　一三
佐藤清吉　一三
佐藤精吾　一三
佐藤筌太郎　一三
佐藤退三　一三
佐藤澤　一三
佐藤武雄　一三
佐藤忠夫　一三
佐藤忠雄　一四

佐藤正　一四
佐藤達夫　一四
佐藤恒丸　一四
佐藤庸男　一四
佐藤豪　一四
佐藤貞治　一四
佐藤徹夫　一四
佐藤鐵藏　一四
佐藤輝雄　一四
佐藤傳吉　一五
佐藤東次郎　一五
佐藤藤佐　一五
佐藤篤輔　一五
佐藤利生　一五
佐藤富治　一五
佐藤友次郎　一五
佐藤知之　一五
佐藤寅之助　一五
佐藤直丸　一五
佐藤尙邦　一五
佐藤充　一五
佐藤速太　一六
佐藤春太郎　一六
佐藤久次　一六
佐藤久彌　一六
佐藤秀雄　一六
佐藤弘　一六
佐藤廣太　一六
佐藤敏　一六
佐藤文雄　一六

佐藤正俊　一六
佐藤正秀　一七
佐藤正義　一七
佐藤政右衛門　一七
佐藤松治郎　一七
佐藤宮雄　一七
佐藤基　一七
佐藤彌太郎　一七
佐藤泰　一七
佐藤與助　一七
佐藤義夫　一七
佐藤米吉　一八
佐藤利一　一八
佐藤力太　一八
佐藤律五郎　一八
佐藤龍馬　一八
佐藤良一郎　一八
佐藤良太郎　一八
佐藤林三　一八
佐藤例藏　一八
佐成謙太郎　一八
佐野勝也　一九
佐野憲次　一九
佐野小門太　一九
佐野五作　一九
佐野茂樹　一九
佐野新三郎　一九
佐野佐左　一九
佐野爲丸　一九
佐野秀之助　一九

佐野迪　二〇
佐野保太郎　二〇
佐橋滋　二〇
佐原貴臣　二〇
佐分利三雄　二〇
佐本榮次郎　二〇
佐山武夫　二〇
嵯峨根達雄　二〇
座田司氏　二〇
西園寺八郎　二〇
西郷親盛　二〇
西東慶治　二一
齋田十二　二一
齋田弘　二一
齋藤亮　二一
齋藤勇　二一
齋藤樹　二一
齋藤岩藏　二一
齋藤榮治　二二
齋藤晉次　二二
齋藤一夫　二二
齋藤喜一　二二
齋藤喜市　二二
齋藤義八　二二
齋藤儀重　二二
齋藤潔　二二
齋藤金五郎　二二
齋藤金彌　二二
齋藤邦吉　二二
齋藤國丸　二三

齊藤	國光	三三
齊藤	昴一	三三
齊藤	三郎	三三
齊藤	紫郎	三三
齊藤	二郎	三三
齊藤	茂	三三
齊藤	省一郎	三三
齊藤	淨元	三三
齊藤	信一郎	三三
齊藤	信治	三四
齊藤	助昇	三四
齊藤	靜脩	三四
齊藤	大助	三四
齊藤	武生	三四
齊藤	武博	三四
齊藤	忠衞	三四
齊藤	正	三四
齊藤	常勝	三四
齊藤	恒助	三五
齊藤	鐵造	三五
齊藤	輝宇良	三五
齊藤	壽夫	三五
齊藤	直一	三五
齊藤	直橘	三五
齊藤	昇	三五
齊藤	治己	三五
齊藤	英夫	三六
齊藤	齊	三六
齊藤	文	三六
齊藤	誠	三六
齊藤	鳳	三六
齊藤	正年	三六
齊藤	正之	三六
齊藤	眞徽	三六
齊藤	衞	三六
齊藤	己之吉	三六
齊藤	男之助	三七
齊藤	悠輔	三七
齊藤	與一郎	三七
財津	吉文	三七
坂	信彌	三七
坂	宗夫	三七
坂井	改造	三七
坂井	喚三	三七
坂井	甚吉	三七
坂井	卓三	三八
坂井	時忠	三八
坂口	岩七	三八
坂口	薩一郎	三八
坂口	康藏	三八
坂口	主税	三八
坂口	芳久	三八
坂崎	侃	三八
坂崎	成敏	三八
坂田	英一	三八
坂田	喜一郎	三九
坂田	啓造	三九
坂田	成也	三九
坂田	靜夫	三九
坂部	長	三九
坂部	保治	二九
坂間	棟治	二九
坂間	裕	二九
坂卷	海三郎	二九
坂村	徹	二九
坂村	吉正	三〇
坂元	彥太郎	三〇
坂本	晃	三〇
坂本	晃	三〇
坂本	伊久太	三〇
坂本	勇	三〇
坂本	官藏	三〇
坂本	金夫	三〇
坂本	鎭雄	三〇
坂本	智元	三〇
坂本	恒雄	三一
坂本	鶴治	三一
坂本	島嶺	三一
坂本	德太郎	三一
坂本	信雄	三一
坂本	八八	三一
坂本	秀一	三一
坂本	宗武	三一
坂本	彌三郎	三一
坂本	義照	三一
坂本	龍起	三二
阪上	章太郎	三二
阪口	義一	三二
阪倉	篤太郎	三二
阪田	純雄	三二
阪田	泰二	三二
阪谷	俊作	三二
阪元	不二男	三二
阪本	岩太郎	三二
阪本	寅男	三三
阪本	廣太郎	三三
阪本	瑞男	三三
酒井	勇	三三
酒井	榮吉	三三
酒井	榮太郎	三三
酒井	喜四	三三
酒井	賢	三三
酒井	耕作	三三
酒井	茂雄	三四
酒井	佐明	三四
酒井	赳夫	三四
酒井	俊彥	三四
酒井	弘	三四
酒井	正男	三四
酒井	壬子男	三四
酒井	利一	三四
酒卷	衞	三四
酒卷	貞一郎	三四
酒卷	良一	三五
酒見	緻夫	三五
堺田	眞夫	三五
境	茂通	三五
境	隆雄	三五
榮木	忠常	三五
相良	惟一	三五
相良	重彥	三五
相良	千明	三五
相良	守岑	三五
榊田	幸太郎	三五
榊原	鉞止	三五
盛	新之助	三六
崎田	義雄	三六
崎山	參一郎	三六
櫻井	香織	三六
櫻井	久一	三六
櫻井	健治郎	三六
櫻井	三郎	三六
櫻井	忠男	三六
櫻井	辰二郎	三六
櫻井	辰造	三七
櫻井	敏雄	三七
櫻井	秀	三七
櫻井	英臣	三七
櫻井	英記	三七
櫻井	役	三七
櫻井安右衞門		三七
櫻井	吉雄	三七
櫻井	吉利	三七
櫻井	奬	三七
櫻井	義暢	三七
櫻田	一郎	三八
櫻田	佐	三八
櫻庭	多作	三八
迫水	久常	三八

笹川	孝助	三八
笹村	越郎	三八
笹森	章一	三八
笹森	巽	三八
笹山	茂太郎	三八
篠山	千之	三八
貞淸	玄龜	三九
里	正義	三九
里見	富次	三九
眞田	憲	三九
眞田	俊雄	三九
眞田	弘	三九
眞田	幸憲	三九
讃井	健	三九
讃岐	喜八	四〇
實方	貞一郎	四〇
實吉	捷郎	四〇
鮫島	茂	四〇
鮫島	實三郎	四〇
鮫島	正藏	四〇
鮫島	眞男	四〇
猿谷	新太郎	四〇
猿橋	重雄	四〇
猿渡	信一	四〇
澤	重民	四〇
澤	匡明	四一
澤	泰二	四一
澤井	都太郎	四一
澤井	隆義	四一
澤井	浩	四一
澤井	八洲男	四一
澤田	勝治	四一
澤田	金一	四一
澤田	源一	四一
澤田	竹治郎	四一
澤野	信藏	四二
澤野	外茂夫	四二
澤登	定雄	四二
澤村	直	四二
澤村	寅二郎	四二
澤村	宏	四二
澤村	康	四三
澤本	顧雄	四三
澤山	義一	四三
三枝	彥雄	四四
三條	公輝	四四
山宮	允	四五
山東	功	四五

シの部

四手井	次太郎	一
四宮	粂之	一
四宮	茂	一
四野宮	豐治	一
志賀	總之助	一
志賀	勘一	一
志賀	平	一
志鎌	一之	一
志貴	三示	一
志野	隆則	一
志水	準一	二
志水	義暉	二
志村	二郎	二
志村	忠六	二
志村	勉	二
志村	俊則	二
志村	博	二
志和	宗一	二
始關	伊平	二
斯波	新	二
斯波	之茂	三
椎津	盛一	三
椎名	悅三郎	三
椎名	通藏	三
椎野	幸雄	三
汐見	一郎	三
汐見	三郎	三
汐谷	薰	三
鹽入	松三郎	三
鹽崎	春平	四
鹽澤	淸宜	四
鹽澤	幸一	四
鹽路	敏郎	四
鹽田	宗一郎	四
塩田	廣重	四
鹽田	正洪	四
鹽塚	重藏	四
鹽野	直道	五
鹽原	時三郎	五
鹽原	有	五
鹽見	俊二	五
鹽見	友之助	五
鹽谷	勇	五
鹽谷	末吉	五
鹽谷	誠一	五
鹽谷	隆雄	六
鹽谷	不二雄	六
鹿岡	晋平	六
鹿士	源太郎	六
式村	義雄	六
重枝	義三郎	六
重田	嚴	六
重田	定正	六
重田	忠保	六
重田	勇助	七
重富	義男	七
重成	格	七
重政	誠之	七
重政	庸德	七
重松	愿	七
重松	俊章	七
重光	葵	七
重村	誠夫	七
重森	幹之助	八
篠澤	淸	八
宍戶	芳男	八
七里	公章	八
七里	義雄	八
實寶	達治郎	八
品川	昌雄	八
篠岡	博	八
篠崎	英之助	八
篠崎	源三	九
篠崎	茂	九
篠崎	晢四郎	九
篠崎	認三	九
篠澤	久	九
篠田	節策	九
篠田	公郎	九
篠田	治策	九
篠田	孝雄	九
篠田	信男	一〇
篠田	實	一〇
篠原	一慶	一〇
篠原	高藏	一〇
篠原	忠則	一〇
篠原	登	一〇
芝	萬盛	一〇
芝	顯照	一〇
芝田	淸晋	一〇
芝田	徹心	一〇
芝原	隆太郎	一一
芝間	粂次郎	一一
柴	官六	一一
柴	碩文	一一
柴	傳吉	一一
柴內	猛	一一
柴內	保次	一一
柴倉	壽夫	一一
柴田	嘉作	一一

柴田 寛 一三
柴田 經一郎 一三
柴田 桂太 一三
柴田 四郎 一三
柴田 善一 一三
柴田 高義 一三
柴田 武 一三
柴田 達夫 一三
柴田 晴彦 一三
柴田 等 一三
柴田 護 一三
柴田 彌一郎 一三
柴田 雄次 一三
柴田 芳助 一三
柴田 美稻 一三
柴田 能之 一三
柴沼 直 一三
柴野 和喜夫 一三
柴山 博 一三
澁江 操一 一四
澁澤 信一 一四
澁澤 元治 一四
澁谷 紀三郎 一四
澁谷 武雄 一四
澁谷 保 一四
澁谷 德三郎 一四
澁谷 義夫 一四
島 太郎 一五
島 保 一五
島 秀雄 一五

島 善鄉 一五
島居 辰次郎 一五
島居 直三郎 一五
島川 五郎 一五
島崎 米次郎 一五
島添 達夫 一五
島田 叡 一五
島田 牛雄 一六
島田 毅一 一六
島田 熈三 一六
島田 退藏 一六
島田 昇 一六
島田 貢 一六
島田 實 一六
島田 喜仁 一六
島津 粂三郎 一六
島津 二郎 一六
島津 久範 一七
島津 久大 一七
島野 貞三 一七
島峯 忠作 一七
島峰 徹 一七
島宗 一永 一七
島村 軍次 一七
島村 盛助 一七
島村 他三郎 一七
島村 虎猪 一七
島村 義信 一八
島本 英夫 一八
島本 職 一八

嶋 永太郎 一八
嶋田 繁太郎 一八
嶋野 貞三 一八
清水 一郎 一八
清水 龜藏 一八
清水 幹造 一八
清水 清氏 一八
清水 曉昇 一九
清水 勳二 一九
清水 敬一 一九
清水 光治 一九
清水 二郎 一九
清水 治郎 一九
清水 重夫 一九
清水 七郎 一九
清水 丈之助 一九
清水 精吉 一九
清水 直 一九
清水 賴母 二〇
清水 篤次郎 二〇
清水 鼎良 二〇
清水 照男 二〇
清水 澄 二〇
清水 多榮 二〇
清水 虎雄 二〇
清水 長雄 二〇
清水 半吾 二一
清水 福市 二一
清水 辰 二一
清水 萬次 二一

清水 勇三郎 二一
清水 幸重 二一
清水 芳一 二一
清水 芳德 二一
清水 義雄 二一
清水 義春 二一
清水 良太郎 二一
清水谷 徹 二二
下 長暢 二二
下 秀雄 二二
下位 眞一郎 二二
下飯坂 元 二二
下飯坂 潤夫 二二
下垣内 繁美 二二
下川 久市 二二
下川 履信 二二
下川 正毅 二三
下河邊 良 二三
下條 久馬一 二三
下城 義三郎 二三
下田 光造 二三
下田 廣海 二三
下田 穰 二三
下田 行夫 二三
下田 禮佐 二三
下間 仲都 二四
下松 桂馬 二四
下村 市郎 二四
下村 三郎 二四
下村 壽一 二四

下村 鐵男 二四
下元 連 二四
下山 定則 二四
下山 晉太郎 二五
霜島 正三郎 二五
霜島 潛 二五
霜山 精一 二五
赤土 正弼 二五
守隨 憲治 二五
樹下 快淳 二五
宿利 精一 二五
生源寺 順 二五
正下 保 二六
正路 倫之助 二六
正田 陸 二六
庄司 俊夫 二六
庄司 直治 二六
庄司 義治 二六
庄司 嘉 二六
庄司 陸太郎 二六
庄田 眞次郎 二六
東海林 謙吾 二七
東海林 忠藏 二七
勝田 二郎 二七
上治 寅次郎 二七
白井 勇 二七
白井 繁太郎 二七
白井 成允 二七
白井 敬夫 二七
白井 忠吉 二七

白井 敏輔 二七
白井 演 二七
白井 八州雄 二八
白井 義三 二八
白石 亞細亞丸 二八
白石 要 二八
白石 喜太郎 二八
白石 錦太郎 二八
白石 光治郎 二八
白石 捷一 二八
白石 龜 二八
白石 又一 二九
白石 譽二郎 二九
白岩 晃 二九
白方 一 二九
白銀 朝則 二九
白神 壽吉 二九
白川 繼紹 二九
白川 寅吉 二九
白川 允和 二九
白川 吉應 二九
白木 正博 二九
白木 万里 三〇
白澤 喜三郎 三〇
白澤 清人 三〇
白田 辰吉 三〇
白鳥 清 三〇
白鳥 吾市 三〇
白鳥 正夫 三〇
白根 玉喜 三〇

白根 松介 三〇
白仁 寶一 三〇
白松 雪藏 三〇
白水 勝起 三〇
城 富次 三一
城野 龜吉 三一
城間 恒昌 三一
城本 三男 三一
信乃 德秀 三一
眞保 一輔 三一
進 達之輔 三一
進 豐紀 三一
進藤 平 三一
進藤 琢一 三一
進藤 篤一 三二
新海 悟郎 三二
新貝 肇 三二
新里 順正 三二
新谷 寅三郎 三二
秦 久勝 三三
神中 正一 三三
神保 格 三三
神保 金衞 三三

スの部

周東 英雄 一
周防 里海 一
周防 正季 一
栖原 豐太郎 一
菅藤 四季人 一

須賀井 敏行 一
須佐 寅三郎 一
須田 男 一
須田 晥次 一
須田 橫策 二
須田 銓造 二
須田 立 二
須田 武市 二
須田 一二三 二
須藤 粂吉 二
須磨 彌吉郎 二
諏訪 務 二
諏訪 哲郎 二
數賀山 粂寛 三
數藤 鐵臣 三
鷲見 正 三
吹田 順助 三
末岡 作太郎 三
末綱 恕一 三
末永 術 三
末延 三次 三
末原 貫一郎 四
末弘 嚴太郎 四
末松 榮 四
末松 多美彥 四
末松 寅男 四
末松 直次 四
末森 猛雄 四
菅 晴次 四
菅 貞二郎 四

菅澤 肇 四
菅波 稱事 五
菅波 松吉 五
菅沼 九一 五
菅沼 敏雄 五
菅野 一郎 五
菅野 隆雄 補遺三
菅野 和太郎 五
菅原 惠美雄 五
菅原 敬造 五
菅原 健 五
菅原 憲 五
菅原 四朗 六
菅原 信治 六
菅原 晉雄 六
菅原 恒助 六
菅原 通敬 六
菅原 良忠 六
菅原 賴悌 六
菅間 正英 六
菅村 嚴美 六
菅村 道太郎 六
鋤柄 小一 七
杉 榮三郎 七
杉 基一 七
杉 牧夫 七
杉井 善雄 七
杉浦 榮次郎 七
杉浦 二郎 七
杉浦 次郎 七

杉浦 重次 七
杉浦 忠雄 八
杉浦 保吉 八
杉浦 膺一 八
杉崎 靖 八
杉田 三朗 八
杉田 正三郎 八
杉田 祖馨 八
杉田 直樹 八
杉田 芳郎 八
杉戸 清 九
杉野 繁 九
杉野 健男 九
杉野 爲治 九
杉野 常夫 九
杉野 芳郎 九
杉野目 晴貞 九
杉原 荒太 九
杉原 德行 九
杉村 欣次郎 一〇
杉村 正一郎 一〇
杉村 章三郎 一〇
杉村 誠之介 一〇
杉村 正 一〇
杉村 政義 一〇
杉本 謙治 一〇
杉本 好一 一〇
杉本 重雄 一〇
杉本 俊三 一〇
杉本 晋 一一

杉本守義　二
杉森納　二
杉森文彦　二
杉山一之　二
杉山榮一　二
杉山一男　二
杉山業輝　二
杉山昌作　二
杉山宗次郎　二
杉山俊郎　三
杉山富士太郎　三
相社正太郎　三
助川寅七　三
株本泰亮　三
鈴岡正奐　三
鈴川壽男　三
鈴木章夫　三
鈴木榮　三
鈴木諒　三
鈴木一郎　三
鈴木英三郎　三
鈴木榮二　三
鈴木嘉壽一　三
鈴木一正　三
鈴木要　三
鈴木貫太郎　三
鈴木簡一郎　三
鈴木紀一郎　四
鈴木喜之助　四
鈴木喜代馬　四

鈴木菊男　四
鈴木菊義　四
鈴木京平　四
鈴木恭一　四
鈴木鄕司　四
鈴木邦彦　四
鈴木國久　四
鈴木敬二　五
鈴木慶三　五
鈴木慶太郎　五
鈴木健二　五
鈴木謙吉　五
鈴木憲三　五
鈴木限三　五
鈴木康四郎　五
鈴木三郎　五
鈴木三郎　六
鈴木集雄　六
鈴木茂哉　六
鈴木重郎　六
鈴木靜穗　六
鈴木鎭雄　六
鈴木七郎　六
鈴木脩藏　六
鈴木重一郎　七
鈴木俊一　七
鈴木俊吉　七
鈴木醇　七
鈴木正亨　七
鈴木庄太郎　七

鈴木進一郎　七
鈴木信太郎　七
鈴木仁八　七
鈴木清一　七
鈴木清一　七
鈴木清太郎　八
鈴木征六　八
鈴木傳吉　八
鈴木孝雄　八
鈴木孝之　八
鈴木隆夫　八
鈴木琢二　八
鈴木竹雄　八
鈴木武　八
鈴木武男　九
鈴木匡　九
鈴木九萬　九
鈴木達夫　九
鈴木辰藏　九
鈴木常吉　九
鈴木恒夫　九
鈴木鶴吉　九
鈴木貞　九
鈴木貞一　九
鈴木外代一　一〇
鈴木敏也　一〇
鈴木友吉　一〇
鈴木直人　一〇
鈴木直己　一〇
鈴木一　一〇

鈴木壽　一〇
鈴木秀夫　一〇
鈴木秀人　一一
鈴木秀幹　一一
鈴木廣澄　一一
鈴木博也　一一
鈴木文夫　一一
鈴木文助　一一
鈴木信　一一
鈴木正夫　一一
鈴木正雄　一一
鈴木正明　一一
鈴木雅次　一二
鈴木允　一二
鈴木松太郎　一二
鈴木幹雄　一二
鈴木稔　一二
鈴木稔　一二
鈴木宗忠　一二
鈴木宗正　一二
鈴木勇次郎　一二
鈴木雄市　一三
鈴木義雄　一三
鈴木義雄　一三
鈴木義勝　一三
鈴木義太　一三
鈴木義廣　一三
鈴木六郎　一三
鈴澤壽　一三
鈴田伊佐雄　一三

薄與莊　一三
薄田美朝　一四
鱸正太郎　一四
砂田久端　一四
砂本清　一四
砂山權九郎　一四
住登勝藏　一四
住谷一登　一四
角玄　一四
角倉邦彦　一四
角倉志朗　一四
角永清　一五
角南隆　一五
角南元一　一五
隅野久夫　一五

セ・ソの部

世古件逸郎　一
世良壽男　一
世羅三郎　一
妹尾武文　一
妹澤克惟　一
瀬尾貞信　一
瀬尾武次郎　一
瀬尾彌太郎　一
瀬川昌邦　一
瀬川義士　一
瀬古保次　一
瀬崎憲三郎　二

瀬谷美光　二
瀬戸道一　二
瀬藤象二　二
瀬渡光雄　二
清閑寺良貞　二
清家正　二
清野暢一郎　二
清野暢三　二
清山久吉　三
勢井兵吉　三
赤城五十羽　三
關宏二郎　三
關三郎　三
關重雄　三
關清一郎　三
關武二郎　三
關外余男　三
關文彦　三
關正次　四
關泰祐　四
關川寬平　四
關口勤　四
關口鐵太郎　四
關口一元　四
關口義平　四
關口鍾吉　四
關口權次郎　四
關口聰　五
關口照里　五
關口友重　五

關口八太郎　五
關口要藏　五
關口雷三　五
關田茂男　五
關塚茂七　五
關戸勤　五
關根小鄉　五
關根重治　六
關野九郎　六
關野榮　六
關本賢治　六
關盛吉雄　六
關谷榮藏　六
關谷源兵衛　六
關谷清助　六
說田義直　六
芹川定　六
芹澤丑丸　六
千家尊統　七
千田香苗　七
千田憲　七
千田專平　七
千田正重　七
千田牟婁太郎　七
仙石藤吉　七
善如寺秀太郎　七
善波功　七
曾我梶松　七
曾我力三　八
曾我部久　八

曾根忠一　八
曾禰益　八
曾山米作　八
早田成雄　八
早田福藏　八
早田保實　八
宗玉生　八
宗正雄　九
宗宮知行　九
宗宮尚行　九
相馬敏夫　九
相馬道男　九
副島大助　九
副島知一　九
副見喬雄　九
添野信　九
添野武　補遺三
園正造　一〇
園實　一〇
園田一勝　一〇
園田三次郎　一〇
園田博　一〇
薗田顯善　一〇
薗田一男　一〇
傍島周吉　一〇
染谷寬一　一〇

タの部

太宰施門　一
太宰哲一郎　一
太宰博邦　一
田内靜三　補遺三
田内森三郎　一
田岡嘉壽彦　一
田岡良一　一
田上辰雄　一
田川貴造　一
田北建一　一
田口英太郎　一
田口敎一　二
田口二郎　二
田口正治　二
田口惣一郎　二
田口環　二
田口敏夫　二
田口福司朗　二
田口稔　二
田口易之　二
田口雄　三
田倉八郎　三
田子一民　三
田坂茂忠　三
田坂周六　三
田坂泰廸　三
田阪美德　三
田崎俊雄　三
田澤次郎　四
田澤要雄　四

田澤餘二　四
田島順　四
田島義士　四
田尻愛義　四
田尻常雄　四
田代金宜　四
田代重德　四
田代洗太郎　五
田代保雄　五
田杉平司　五
田多羅招志　五
田寺元治　五
田頭宗一　五
田所哲太郎　五
田中彰　五
田中丑雄　五
田中梅吉　五
田中榮一　六
田中榮一　六
田中榮一郎　六
田中英吉　六
田中圓三郎　六
田中耕轄　六
田中修　六
田中一雄　六
田中寬一　六
田中喜一郎　七
田中吉郎　七
田中清　七
田中清彦　七

田中金司	七
田中國一	七
田中熊太	七
田中啓一	七
田中敬吉	七
田中啓爾	八
田中健次	八
田中健三	八
田中耕太郎	八
田中耕之助	八
田中　磐	八
田中作治郎	八
田中四郎	八
田中茂美	八
田中重夫	八
田中重之	八
田中重朗	九
田中七之助	九
田中正一	九
田中正五郎	九
田中省吾	九
田中晉輔	九
田中眞次	九
田中誠二	九
田中精一	九
田中宗市	九
田中大藏	九
田中第二	一〇
田中　孝	一〇
田中武雄	一〇
田中武十郎	一〇
田中唯重	一〇
田中　正	一〇
田中　保	一〇
田中周友	一〇
田中長三郎	一〇
田中　務	一〇
田中　勤	一一
田中經太郎	一一
田中貞吉	一一
田中貞次	一一
田中藤一	一一
田中德治	一一
田中德太郎	一一
田中直次	一一
田中楢一	一一
田中八郎	一一
田中治彥	一一
田中肥後太郎	一二
田中彥藏	一二
田中　龜	一二
田中秀雄	一二
田中秀央	一二
田中　宏	一二
田中不破三	一二
田中昌穗	一二
田中　守	一二
田中三樹三郎	一二
田中己代治	一二
田中　稔	一三
田中元次	一三
田中保太郎	一三
田中保太郎	一三
田中保房	一三
田中保平	一三
田中　豐	一三
田中　豐	一三
田中義男	一三
田中義庸	一四
田中隆一	一四
田中隆吉	一四
田中隆吉	一四
田中隆司	一四
田中良一	一四
田邊勝正	一四
田邊光次	一四
田邊左門	一四
田邊集雄	一四
田邊多聞	一五
田邊忠男	一五
田邊　正	一五
田邊龍雄	一五
田邊長助	一五
田邊　德	一五
田邊　元	一五
田邊平學	一五
田沼　實	一五
田畑清光	一五
田畑司門治	一五
田端耕造	一六
田原　剛	一六
田原正人	一六
田吹行雄	一六
田伏敬三	一六
田淵京次郎	一六
田淵史郎	一六
田部　浩	一六
田卷政憲	一六
田町以信男	一六
田宮　惇	一六
田宮隆光	一七
田宮猛雄	一七
田宮知恥夫	一七
田村圓平	一七
田村於莵	一七
田村建二郎	一七
田村憲造	一七
田村茂美	一七
田村清三郎	一七
田村　正	六五
田村　正	一七
田村　剛	一七
田村春吉	一八
田村春松	一八
田村晴胤	一八
田村秀行	一八
田村丕顯	一八
田村　豐	一八
田村義雄	一八
田山　貫	一八
田結　穰	一八
多賀祐重	一九
多賀芳郎	一九
多賀谷惠司	一九
多賀谷健吉	一九
多湖實夫	一九
多田喜一	一九
多田繼二	一九
多田四郎	一九
多田　駿	一九
多田直八	二〇
多田仁己	二〇
多田雄次郎	二〇
多和田　寬	二〇
醍醐忠重	二〇
醍醐忠直	二〇
鍋瀨國一	二〇
平　敏孝	二〇
高　安彥	二一
高井孝藏	二一
高石幸三郎	二一
高尾金作	二一
高尾甚造	二一
高尾善次	二一
高尾文八	二一
高尾亮一	二一
高岡專一	二一
高岡禎一郎	二一
高折　茂	二二
高折宮次	二二

高木一三	二二
高木市之助	二二
高木逸磨	二二
高木　桂	二二
高木憲次	二二
高木耕三	二二
高木　覺	二二
高木純五郎	二二
高木錠太郎	二三
高木季雄	二三
高木誠司	二三
高木敏雄	二三
高木正道	二三
高木道雄	二三
高木八尺	二三
高木保三	二三
高城　喬	二三
高城　元	二四
高岸宗次	二四
高久榮一	二四
高倉篤麿	二四
高桑　健	二四
高坂正雄	二四
高澤二郎	二四
高澤　壽	二四
高島規孝	二四
高島佐一郎	二五
高島信一	二五
高島節男	二五
高島彌三	二五
高島芳夫	二五
高須俊一	二五
高須鶴三郎	二五
高須兵司	二五
高瀨　清	二五
高瀨五郎	二六
高瀨眞一	二六
高瀨莊太郎	二六
高瀨武寧	二六
高瀨忠武	二六
高瀨　傳	二六
高田　昭	二六
高田　寬	二六
高田賢治郎	二七
高田賢造	二七
高田浩運	二七
高田貞男	二七
高田三郎	二七
高田眞治	二七
高田善藏	二七
高田　德	二七
高田敏一	二七
高田豐市	二七
高田　昇	二八
高田正己	二八
高田政三	二八
高田三千秋	二八
高田保太郎	二八
高田保馬	二八
高田　豐	二八
高田喜雄	二八
高田亮平	二八
高千穗俊麿	二九
高栖　俊	二九
高津富雄	二九
高津彥次	二九
高塚幸榮	二九
高築　勇	二九
高辻武邦	二九
高辻正己	二九
高島太藏	二九
高仲善雄	二九
高野寬治	三〇
高野健介	三〇
高野源進	三〇
高野信一郎	三〇
高野忠男	三〇
高野忠衞	三〇
高野綱雄	三〇
高野正保	三〇
高橋六郎	三〇
高橋　明	三一
高橋伊勢次郎	三一
高橋　功	三一
高橋一郎	三一
高橋逸夫	三一
高橋榮治	三一
高橋嘉一郎	三一
高橋　薰	三一
高橋勝一	三一
高橋　清	[illegible]
高橋敬一	[illegible]
高橋敬親	[illegible]
高橋敬次	[illegible]
高橋研助	[illegible]
高橋憲三	[illegible]
高橋幸司	[illegible]
高橋佐久松	[illegible]
高橋三美	[illegible]
高橋靜男	[illegible]
高橋純一	[illegible]
高橋正信	[illegible]
高橋進太郎	[illegible]
高橋靜治	[illegible]
高橋誠一	[illegible]
高橋善四郎	[illegible]
高橋隆道	[illegible]
高橋武雄	[illegible]
高橋忠彥	[illegible]
高橋忠治	補遺一
高橋忠助	[illegible]
高橋常道	[illegible]
高橋經德	[illegible]
高橋脂彌	[illegible]
高橋　哲	[illegible]
高橋登一	[illegible]
高橋敏雄	[illegible]
高橋朋厚	[illegible]
高橋豐太郎	[illegible]
高橋虎雄	[illegible]
高橋南秀	[illegible]
高橋則衞	[illegible]
高橋清吉	[illegible]
高橋春吉	[illegible]
高橋久等	[illegible]
高橋彌次郎	[illegible]
高橋通夫	[illegible]
高橋　貫	[illegible]
高橋　醉	[illegible]
高橋　讓	[illegible]
高橋彌太郎	[illegible]
高橋良麿	[illegible]
高橋理一郎	[illegible]
高橋隆二	[illegible]
高橋隆造	[illegible]
高橋林造	[illegible]
高橋亘理	[illegible]
高橋　涉	[illegible]
高畑淺次郎	[illegible]
高畠龜太郎	[illegible]
高畠龜吉	[illegible]
高畠資勝	[illegible]
高濱　淳	[illegible]
高原逸人	[illegible]
高幣萬藏	[illegible]

高藤	太一郎	三八
高部	錬兵	三八
高松	今男	三八
高松	四郎	三八
高松	順茂	三八
高松	亨	三九
高松	正信	三九
高松	良夫	三九
高見	三郎	三九
高嶺	昇	三九
高嶺	方美	三九
高嶺	明達	三九
高村	及済	三九
高村	成次	三九
高村	善博	四〇
高森	良人	四〇
高安	三次	四〇
高安	愼一	四〇
高柳	賢二	四〇
高柳	賢三	四〇
高柳	愼吾	四〇
高山	一三	四〇
高山	叢	四〇
高山	侃一	四一
高吉	友次	四一
鷹部屋	福平	四一
瀧	清彦	四一
瀧	愿	四一
瀧石	政治郎	四一
瀧尾	達也	四一
瀧上	岩夫	四一
瀧川	欽哉	四一
瀧川	郷三	四一
瀧川	秀雄	四二
瀧口	申二	六五
瀧澤	厚	四二
瀧澤	覺五	四二
瀧澤	一馬	四二
瀧清	麻吉	四三
瀧田	周三	四三
瀧田	芳藏	四三
瀧谷	養一	四三
瀧野	好曉	四三
瀧淵	實烈	四三
瀧本	權兵衛	四三
瀧山	靖次郎	四三
瀧山	敏夫	四三
詫摩	武人	四三
詫摩	滿	四三
竹井	幾右衛門	四三
竹井	廉	四三
竹内	喜三郎	四三
竹内	甲子二	四三
竹内	清	四三
竹内	熊太郎	四四
竹内	圭三	四四
竹内	源次	四四
竹内	篤一	四四
竹内	朔敎	四四
竹内	二郎	四四
竹内	重顯	四四
竹内	俊平	四四
竹内	新平	四四
竹内	武	四四
竹内	德治	四四
竹内	時男	四五
竹内	富太郎	四五
竹内	虎雄	四五
竹内	八郎	四五
竹内	誠	四五
竹内	松次郎	四五
竹内	守之輔	四五
竹内	男平	四五
竹岡	勝也	四五
竹岡	吉太郎	四五
竹倉	太郎	四五
竹越	與三郎	四六
竹崎	嘉德	四六
竹澤	睦	四六
竹重	貞藏	四六
竹下	嚴之助	四六
竹下	秀雄	四六
竹島	敬一	四六
竹田	晋治郎	四六
竹田	復	四七
竹田	準二郎	四七
竹田	達夫	四七
竹中	敬一	四七
竹中	二郎	四七
竹中	利一	四七
竹永	一時	四七
竹永	信男	四七
竹野	竹三郎	四七
竹原	八郎	四八
竹平	治作	四八
竹淵	留治	四八
竹村	一男	四八
竹本	鹿太郎	四八
竹谷	源太郎	四八
竹山	祐太郎	四八
武井	群嗣	四八
武井	大助	四八
武井	敎通	四九
武井	守成	四九
武居	魁助	四九
武居	軍次郎	四九
武居	高四郎	四九
武居	三吉	四九
武石	男	四九
武内	業	四九
武内	征平	四九
武内	時之助	五〇
武内	義雄	五〇
武内	龍次	五〇
武岡	憲一	五〇
武川	佳海	五〇
武下	一郎	五〇
武島	一義	五〇
武末	辰雄	五〇
武田	榮藏	五〇
武田	軍治	五一
武田	憲治	五一
武田	元	五一
武田	七郎	五一
武田	舜	五一
武田	二郎	五一
武田	信之助	五一
武田	誠三	五一
武田	晴爾	五一
武田	朝男	五一
武田	信雄	五一
武田	半	五二
武田	光男	五二
武田	光麿	五二
武田	行雄	五二
武田	義明	五二
武智	啓次郎	五二
武富	榮一	五二
武永	憲樹	五二
武野	肇	五二
武原	熊吉	五二
武部	英治	五二
武政	房吉	五三
武政	隆一	五三
武松	久吉	五三
武本	太郎	五三
武本	登廉	五三
武若	時一郎	五三
橘	英三郎	五三
橘	鹿一	五四

橘	節男	五四
橘	正次	五四
辰野	隆	五四
達林	正吉	五四
龍	薫	五四
龍野	喜一郎	五四
龍山	義亮	五四
巽	良知	五四
立石	種一	五五
立入	保太郎	五五
立岩	嚴	五五
立川	伊三郎	五五
立川	仲藏	五五
立川	義男	五五
立木	武	五五
立澤	高元	五五
立澤	剛	五五
立野	興四雄	五五
立花	章	五六
立花	次郎	五六
立花	業男	五六
立花	一	五六
立松	和男	五六
立山	陽造	五六
建川	美次	五六
建部	元春	五六
館野	覺治	五六
館野	重助	五七
館林	三喜男	五七
館山	久米藏	五七
館山	太吉	五七
伊達	德次郎	五七
伊達	博	五七
伊達	宗彰	五七
帯刀	吉五郎	五七
棚木	叡雄	五八
棚橋	啓三	五八
棚橋	初太郎	五八
谷	克己	五八
谷	重雄	五八
谷	忠篤	五八
谷	忠治	五八
谷	友次	五八
谷	正夫	五八
谷	正之	五八
谷	安正	五八
谷内	讓	五九
谷上	實	五九
谷川	昇	五九
谷川	紀夫	五九
谷口	熊之助	五九
谷口	幸三	五九
谷口	壽太郎	五九
谷口	祥明	六〇
谷口	恒二	六〇
谷口	順二	六〇
谷口	亨	六〇
谷口	知平	六〇
谷口	鼎之助	六〇
谷口	廣三	六〇
谷口	正弘	六〇
谷口	寬	六〇
谷口	吉彦	六〇
谷口	利三郎	六一
谷澤	禎助	六一
谷田	勝之助	六一
谷田	民夫	六一
谷野	富有夫	六一
谷原	義一	六一
谷村	秀綱	六一
谷村	照	六一
谷本	馬太郎	六一
谷本	武夫	六二
谷本	利夫	六二
種田	直太郎	六二
種村	一男	六二
種村	堅	六二
種村	純二	六二
玉井	幸助	六二
玉井	忠一郎	六二
玉岡	最	六二
玉置	敬三	六二
玉置	一	六三
玉置	實	六三
玉木	耕照	六三
玉木	正行	六三
玉越	勝治	六三
玉手	亮一	六三
玉名	友彦	六三
玉野	光男	六三
玉村	四一	六三
玉柳	實	六四
玉山	豐	六四
溜淵	忠利	六四
樽谷	義三	六四
垂水	克己	六四
丹	直能	六四
丹木	政一	六四
丹下	都太郎	六四
丹下	正治	六四
丹澤	美助	六四
丹野	正人	六五
丹波	重藏	六五
壇上	謙衛	六五
段塚	成美	六五

チ・ツ・テの部

千賀崎	義香	一
千種	孝吉	一
千葉	岩	一
千葉	業一	一
千葉	胤明	一
千葉	勉	一
千葉	傳藏	一
千葉	弘毅	一
千葉	元章	一
千葉	義長	二
千速	竹一	二
千原	要	二
千代間	光二	二
茅根	伊豫二郎	二
近森	幸衛	二
忠	佐市	二
中條	資俊	二
中條	都一郎	二
忠條	利工	二
中城	通	二
中鉢	四郎	二
丁子	衛	三
長	俊一	三
長	潤二	三
長	得一	三
長宗我部	東城	三
張	玄彦	三
調所	一郎	三
津崎	孝道	三
津下	四郎	三
津澤	佐正	三
津田	久治	四
津田	季九郎	四
津田	進	四
津田	誠次	四
津田	忠太	四
津田	常男	四
津田	鐵外喜	四
津田	信夫	四
津田	信良	四
津田	廣	五
津田	弘孝	五
津名	五良	五

津村	昌一	五
津屋	幸右衛門	五
津山	玄道	五
津山	三郎	五
津渡	肇	五
都崎	雅之助	五
都築	一馬	六
都築	正男	六
都留	陟	六
圖師	彖貳	六
對馬	高麗夫	六
對馬	助三	六
塚越	虎男	六
塚澤	貞夫	六
塚田	潔	六
塚田	重信	七
塚田	治作	七
塚田	幹夫	七
塚原	伊勢松	七
塚原	政次	七
塚原	政繁	七
塚本	政治郎	七
塚本	毅	七
塚本	敏夫	七
次田	潤	七
築館	雄藏	八
築地	宣雄	八
佃	十吉	八
柘植	一夫	八
柘植	文男	八

柘植	芳男	八
辻	吉太郎	八
辻	謹吾	八
辻	邦生	八
辻	桂五	九
辻	朔郎	九
辻	三省	九
辻	武一	九
辻	直四郎	九
辻	二一	九
辻	正次	九
辻	豐重	九
辻	行雄	九
辻	良藏	九
辻	亮吉	九
辻井	久吉	一〇
辻尾	規矩彥	一〇
辻川	秀夫	一〇
辻田	力	一〇
辻橋	文吉	一〇
辻村	太郎	一〇
辻村	泰男	一〇
辻村	義知	一〇
辻本	安石	一〇
辻山	治平	一〇
土田	豐	一〇
土橋	幸之助	一一
土光	加壽男	一一
土本	基	一一
土屋	香麿	一一

土屋	寬	一一
土屋	小七郎	一一
土屋	耕二	一一
土屋	佐平治	一一
土屋	三郎	一一
土屋	四郎	一一
土屋	太郎	一二
土屋	喬雄	一二
土屋	忠良	一二
土屋	隼	一二
土屋	正雄	一二
筒井	潔	一二
筒井	茂也	一二
筒井	捨次郎	一二
筒井	竹雄	一二
筒井	敏夫	一二
堤	金次郎	一三
堤	經長	一三
堤	謙平	一三
堤	捨市	一三
堤	時夫	一三
堤	正威	一三
堤	政助	一三
堤	壽一	一三
綱島	覺左衛門	一三
常岡	良三	一三
常陰	庫二	一四
常松	彌重	一四
常深	毬	一四
常吉	剛太	一四

角尾	晉	一四
角替	吉平	一四
角替	利策	一四
角田	英二	一四
角田	三治	一四
角田	孟紀	一五
角村	克己	一五
椿	孫次郎	一五
坪井	勤吉	一五
坪井	誠太郎	一五
坪井	寶壽	一五
坪井	道三	一五
坪井	誠	一五
坪內	直文	一五
壺井	玄剛	一六
壺田	修	一六
妻木	德一	一六
露木	良英	一六
鶴	爲彥	一六
鶴	初太郎	一六
鶴	比佐志	一六
鶴田	峽	一六
鶴田	定平	一六
鶴田	文蒸	一六
鶴田	誠	一七
鶴田	豐	一七
鶴田	義隆	一七
鶴田	正路	一七
鶴羽	松太郎	一七
鶴見	嘉一	一七

鶴見	一之	一七
鶴見	意	一七
鶴見	三三	一七
手島	榮	一八
手島	寳雄	一八
手塚	良道	一八
勅使河原	直三郎	一八
丁野	曉春	一八
寺內	祥一	一八
寺內	壽一	一八
寺內	響男	一八
寺尾	重信	一九
寺尾	新	一九
寺尾	博	一九
寺垣	俊雄	一九
寺門	威彥	一九
寺川	喜代治	一九
寺坂	源雄	一九
寺坂	毅	一九
寺崎	忠治	一九
寺崎	藤吉	一九
寺澤	嚴男	二〇
寺澤	寬一	二〇
寺澤	智了	二〇
寺島	健	二〇
寺園	勝志	二〇
寺園	經吉	二〇
寺田	嶽逸	二〇
寺田	健一	二〇
寺田	浩作	二一

寺田	省一	二一
寺田	專一	二一
寺田	忠藏	二一
寺田	甫	二一
寺田	秀男	二一
寺中	作雄	二一
寺本	敎	二一
寺本	太十郎	二一
寺本	廣作	二一
照木	敏雄	二二
照田	弘久	二二
天日	光一	二二
天坊	裕彥	二二

トの部

十川	寬之助	一
十川	正夫	一
刀禰	有秋	一
戶井田	二郎	一
戶苅	近太郎	一
戶國	新平	一
戶澤	重雄	一
戶澤	鐵彥	一
戶澤	富壽	一
戶澤	盛男	一
戶嶋	芳雄	二
戶田	克己	二
戶田	正三	二
戶田	忠憲	二
戶田	常次	二

戶田	貞三	二
戶谷	喜一	二
戶谷	信美	二
戶塚	九一郎	二
戶塚	濱造	三
戶引	達	三
戶室	康吉	三
土井	賢志	三
土井	源三良	三
土井	藤平	三
土居	定雄	三
土居	章平	三
土居	稔實	三
土居	美水	三
土居	通次	四
土居	光知	四
土岐	達三	四
土岐	政夫	四
土岐	政藏	四
土岐	安一	四
土肥	米之	四
外島	英二	四
外山	寅雄	五
外山	修之	五
東	胤叚	五
東光	武三	五
東鄉	一郎	五
東鄉	茂德	五
東鄉	彪	五
東鄉	要三	五

東島	卯八	五
東條	喜一	五
東條	英機	六
東條	操	六
東谷	傳次郎	六
東畑	四郎	六
東畑	精一	六
門叶	宗雄	六
問田	亮次	六
杜	聰明	六
遠山	榮吉	七
遠山	一雄	七
遠山	賢三	七
遠山	茂	七
遠山	祐三	七
遠山	績太郎	七
堂本	貞一	七
堂本	敏雄	七
道免	作郎	七
時田	民治	七
時田	吉雄	八
鴇田	駿	八
常田	泉七	八
得能	叢男	八
得能	通任	八
德江	治之助	八
德崎	香	八
德田	敬二郎	八
德田	茂	八
德大寺	實厚	八

德永	榮吉	八
德永	榮	九
德永	久次	九
德永	義太郎	九
德原	正種	九
德久	三種	九
德弘	澄重	九
德弘	春美	九
德增	榮太郎	九
德丸	芳男	九
德光	美禰	一〇
德山	慶三郎	一〇
床次	德二	一〇
利光	晟	一〇
利光	洋一	一〇
栃內	吉彥	一〇
栃谷	力雄	一〇
轟	謙次郎	一〇
飛島	貫治	一〇
苫米地	重男	一〇
苫米地	英俊	一一
泊	武治	一一
泊	朝經	一一
富井	周	一一
富岡	貫一	一一
富岡	輝吉	一一
富樫	總一	一一
富樫	常治	一一
富樫	久吉	一一
富田	開作	一一

富田	規矩一	一一
富田	正	一二
富田	忠二	一二
富田	傳	一二
富田	朋介	一二
富田	仲次郎	一二
富田	正通	一二
富田	雅次	一二
富田	嘉明	一二
富高	憲晃	一三
富谷	彰介	一三
富塚	濟	一三
富永	恭次	一三
富永	幸次郎	一三
富永	齊	一三
富永	惣一	一三
富永	廣	一三
富永	正義	一三
富桝	建造	一三
富安	壘助	一三
富山	修	一四
富山	淸憲	一四
富山	保	一四
友岡	武年	一四
友末	洋治	一四
友田	二郎	一四
友田	淸三	一四
友田	宣孝	一四
友永	謙二	一四
友成	佐市郎	一五

友納武人　一五
友納義德　一五
友安亮一　一五
伴野喜四郎　一五
伴野恒夫　一五
朝長啓一　一五
朝長武雄　一五
朝永研一郎　一五
豐岡茂雲　一五
豐口熊雄　一五
豐澤勇治　一六
豐島章太郎　一六
豐島長吉　一六
豐田著壽　一六
豐田薫　一六
豐田勝藏　一六
豐田清　一六
豐田實　一六
豐田豐吉　一六
豐田雅孝　一六
豐田實　一七
豐田茂久藏　一七
豐原道也　一七
豐水道雲　一七
鳥居惠二　一七
鳥養利三郎　一七
鳥越保太　一七
鳥巢玉樹　一七
鳥谷實雄　一八
鳥野幸次　一八
鳥羽正男　一八
鳥原重夫　一八
鳥山喜一　一八
鳥山四男　一八
鳥山進　一八

ナの部

名久井政樹　一
名倉重雄　一
名越鐵夫　一
名越徹　一
名越那珂次郎　一
名和義英　一
那須重德　一
那須正一　一
那須省三郎　一
那須常正　一
那須時夫　一
那須皓　二
那波利貞　二
奈倉實郎　二
奈良武次　二
奈良原翠　二
奈良部龜松　二
內藤濯　二
內藤卯三郎　二
內藤寬一　二
內藤紫樓　三
內藤新　補遺　三
內藤晴三郎　三
內藤丈夫　三
內藤匡　三
內藤達男　三
內藤智秀　三
內藤誠夫　三
內藤益治郎　三
內藤龍助　三
內藤亮一　四
中井光次　四
中井猛之進　四
中泉正德　四
中出芳雄　四
中江時助　四
中江利郎　四
中尾勇　四
中尾金藏　五
中尾國次郎　五
中尾桂一郎　五
中尾清藏　五
中尾莊兵衞　五
中尾徹　五
中尾文策　五
中尾正武　五
中川象雄　五
中川清　五
中川金正　六
中川薰治　六
中川熊作　六
中川研一　六
中川浩一　六
中川諭　六
中川成夫　六
中川茂　六
中川滋治　六
中川秋坪　七
中川省吾　七
中川淳　七
中川潤治　七
中川善之助　七
中川竹次郎　七
中川哲郎　七
中川有三　七
中川友長　七
中川融　七
中川幸雄　七
中川與之助　七
中川嘉和　八
中口卯吉　八
中崎重嗣　八
中里龍　八
中里純　八
中里建夫　八
中澤伊與吉　八
中澤午次郎　八
中澤勝次郎　八
中澤信治　八
中澤誠一郎　九
中澤武夫　九
中澤秀一　九
中澤房吉　九
中澤文道　九
中澤良夫　九
中澤好英　九
中島勇　九
中島卯三郎　九
中島近江　九
中島嘉之吉　九
中島和敏　一〇
中島欽三　一〇
中島九郎　一〇
中島桂藏　一〇
中島賢藏　一〇
中島愿三　一〇
中島光三　一〇
中島廣吉　一〇
中島應吉　一〇
中島重喜　一一
中島周一　一一
中島周藏　一一
中島信一　一一
中島愼一　一一
中島奬　一一
中島征帆　一一
中島濟二　一一
中島靜昇　一一
中島忠　一二
中島民治　一二

中島忠次　一二
中島登喜治　一二
中島豐之　一二
中島尙文　一二
中島弘道　一二
中島正勝　一二
中島正國　一二
中島美樹　一三
中島實　一三
中島保人　一三
中島良貞　一三
中島美充　一三
中嶋一郎　一三
中條庄次　一三
中曾根八郎　一三
中田重吉　一三
中田篤郎　一三
中田方亮　一四
中田政美　一四
中田滿藏　一四
中田瑞穗　一四
中台三樹三郎　一四
中台元治　一四
中楯壹兵　補遺　四
中谷武　一四
中津忠次　一四
中津海愼二　一四
中富鐵之助　一五
中西篤　一五
中西健一　一五
中西貞喜　一五
中西信　一五
中西濟郎　一五
中西登幾繼　一五
中西利理　一五
中西久夫　一五
中西弘成　一六
中西不二夫　一六
中西雄一郎　一六
中西要一　一六
中西條次　一六
中根信一　一六
中根秀雄　一六
中根義　一六
中野勝次　一六
中野幸之助　一六
中野四郎　一七
中野正一　一七
中野新六　一七
中野宗治　一七
中野代二　一七
中野高一　一七
中野哲夫　一七
中野敏夫　一七
中野並助　一七
中野治房　一八
中野半吾　一八
中野正幸　一八
中野保雄　一八
中野休文　一八
中野豐　一八
中野與吉郎　一八
中野善教　一八
中畑弘　補遺　四
中林朝吉　一八
中林辰十　一九
中原啓造　一九
中原重樹　一九
中原壽一郎　一九
中原順平　一九
中原武　一九
中原英典　一九
中原益治郎　一九
中原義正　一九
中平昌　二〇
中松喬三郎　二〇
中道登茂雄　二〇
中村明　二〇
中村勇　二〇
中村卯四郎　二〇
中村勝治　二〇
中村勝平　二〇
中村寬　二〇
中村喜代嗣　二〇
中村絹次郎　二一
中村清　二一
中村金藏　二一
中村敬之進　二一
中村賢太郎　二一
中村謙十郎　二一
中村光三　二一
中村光三　二一
中村幸八　二一
中村幸彥　二二
中村左衞門太郎　二二
中村三郎　二二
中村四郎　二二
中村重夫　二二
中村榮行　二二
中村靜　二二
中村靜雄　二二
中村純一　二二
中村新一　二二
中村精吾　二三
中村善次郎　二三
中村惣平　二三
中村泰三　二三
中村孝也　二三
中村隆則　二三
中村武　二三
中村武夫　二三
中村忠雄　二三
中村辰五郎　二四
中村建城　二四
中村保　二四
中村哲哉　二四
中村鐵夫　二四
中村留雄　二四
中村友平　二四
中村豐一　二四
中村豐四郎　二四
中村寅松　二四
中村直勝　二五
中村直大　二五
中村信夫　二五
中村八太郎　二五
中村博正　二五
中村文彥　二五
中村文平　二五
中村正照　二五
中村正己　二五
中村政男　二六
中村滿輔　二六
中村元治　二六
中村八十一　二六
中村彌太郎　二六
中村保彥　二六
中村勇吉　二六
中村豐　二六
中村應祐　二六
中村隆治　二六
中村良三　二七
中村涉　補遺　四
中邑元　二七
中本濟次　二七
中壘重治　二七
中家壽太郎　二七
中山伊知郎　二七
中山源吉　二七
中山次郎　二七

中山泰三　二八
中山琢三　二八
中山友次郎　二八
中山鵬富　二八
中山義人　二八
中山若枝　二八
仲泉庄太郎　二八
仲子隆　二八
仲佐貞次郎　二八
仲宗根玄廣　二八
仲田良夫　補遺四
仲谷泰吉　二八
仲探松太郎　二九
永井威三郎　二九
永井一夫　二九
永井研三　二九
永井重雄　二九
永井準一郎　二九
永井彰一郎　二九
永井太三郎　二九
永井種次郎　二九
永井照雄　三〇
永井德　三〇
永井浩　三〇
永井雄三郎　三〇
永岩彌生　三〇
永海佐一郎　三〇
永岡退藏　三〇
永岡高司　三〇
永岡文男　三〇
永澤毅一　三二
永田顯雄　三一
永田至　三一
永田喜一郎　三二
永田顯士　三一
永田遠彌　三一
永田直三　三一
永田直則　三一
永田峰吉　三一
永田庸彥　三一
永田雄一郎　三一
永津勝藏　三二
永積實彥　三二
永友雄　三二
永並豐吉　三二
永野正二　三一
永野毅　三一
永野俊雄　三一
永野芳辰　補遺四
永野量　三一
永野若松　三一
永安周亮　三二
永安百治　三二
永山時雄　三二
永山政能　三二
長井亞歷山　三三
長井維理　三三
長井實行　三三
長井宅三郎　三三
長尾秋雄　三三
長尾優　三三
長岡篤　三四
長岡寬統　三四
長岡彌一郎　三四
長鼓佐武郎　三四
長久保信夫　三四
長坂五郎　三四
長崎惣之助　三四
長崎太郎　三四
長澤英一郎　三四
長澤恭治　三五
長澤忠郎　三五
長澤義雄　三五
長島毅　三五
長島博　三五
長島增次郎　三五
長瀨英一　三五
長瀨光發　三五
長瀨逢吉　三五
長瀨恒藏　三六
長瀨元治郎　三六
長田富作　三六
長綱治郎　三六
長門賴三　三六
長沼賢海　三六
長沼弘毅　三六
長野潔　三六
長野眞水　三六
長野昌隆　三六
長野滿次郎　三七
長野實　三七
長橋正道　三七
長濱時雄　三七
長船克己　三七
長松英一　三七
長峰正次　三七
長嶺要　三七
長嶺修五郎　三七
長宗純　三七
長棟暉友　三八
長屋喜一　三八
長屋順耳　三八
半井清　三八
灘尾弘吉　三八
夏秋源次　三八
夏目壽一　三八
夏目義明　三八
七澤甚喜　三八
鍋島清　三九
鍋島藤吉　三九
鍋島陸郎　三九
鉛市太郎　三九
並川義隆　三九
並河功　三九
並木龍男　三九
並山興道　四〇
波若敏郎　四〇
浪岡眞一　四〇
滑川忠夫　四〇
檜崎淺太郎　四〇
檜崎研次　四〇
檜崎廣之助　四〇
檜原勉　四〇
檜原弘　四〇
檜原由之　四〇
成瀨清　四一
成瀨仁喜太　四一
成瀨政男　四一
成田一郎　四一
成田勝四郎　四一
成田清　四一
成田謙治　四一
成田順　四一
成田豐勝　四一
成田政次　四二
成松馨　四二
成良一郎　四二
鳴神長次　四二
繩田國太郎　四二
南種康博　四三
南須原彥一　四三
南日實　四三
南原業　四三
南部一男　四四
南部環　四四
南部昌亮　四四
南部哲也　四四
南部利英　四四
難波幸一　四四
難波磊二　四四

難波理平　四四
難波良藏　四四

ニの部

二階源市　一
二瓶貞一　一
二宮浩平　一
二宮情　一
二宮崋　一
二宮力　一
二ノ宮保孝　一
仁尾正義　一
仁田勇　一
仁藤武雄　一
仁瓶平二　一
仁村俊　二
丹尾伊佐美　二
丹羽慈月　二
丹羽喬四郎　二
丹羽滋海　二
丹羽鼎三　二
丹羽福市　二
新國廉彥　二
新倉晴光　二
新澤事　二
新關良三　二
新津宏　三
新納克己　三
新納時人　三
新見俊介　三
新見正喜　三
新見男吉　三
新美省三　三
新村唯治　三
新山可信　三
苫瓜惠三郎　三
西義一　四
西武夫　四
西健　四
西成甫　四
西春彥　四
西久光　四
西井一孝　四
西井潔　四
西居靈證　五
西浦泰治　五
西大條透　五
西尾愛治　五
西尾藏　五
西尾爽　五
西尾武夫　五
西尾辰吉　五
西尾常彥　五
西尾禎二　五
西尾壽男　五
西尾壽造　六
西尾森太郎　六
西尾安男　六
西岡源七　六
西岡廣吉　六
西岡宏治　六
西岡芳次郎　六
西上新十郎　七
西川九顯　七
西川佐太郎　七
西川武　七
西川友武　七
西川浩　七
西川正治　七
西川義英　七
西崎憲　七
西澤恭助　七
西澤權一郎　七
西澤治郎　八
西澤哲四郎　八
西澤富則　八
西澤久雄　八
西島龍　八
西田屹二　八
西田啓三郎　八
西田敬三　八
西田辰三郎　八
西田長治郎　八
西田傳三郎　九
西田利治　九
西田留吉　九
西田豐彥　九
西田直二郎　九
西田猶義　九
西田博太郎　九
西高辻信雅　九
西潤一郎　九
西野金助　一〇
西野重吉　一〇
西野正吉　一〇
西野忠次郎　一〇
西野みよし　一〇
西野義行　一〇
西原陸夫　一〇
西原英次　一〇
西原利夫　一〇
西廣直際　一〇
西牧忠雄　一〇
西卷巧　一〇
西宮芳二郎　一一
西宗弘　一一
西邑直　一一
西村清　一一
西村一三　一一
西村英一　一一
西村榮松　一一
西村貫一　一一
西村寬司　一二
西村熊雄　一二
西村偉次郎　一二
西村蕙治　一二
西村五郎　一二
西村獅　一二
西村彰一　一二
西村廣一郎　一二
西村精一　一二
西村太郎　一三
西村太郎　一三
西村高兄　一三
西村猛　一三
西村馬之助　一三
西村恆雄　一三
西村德一　一三
西村寅雄　一三
西村虎之助　一三
西村直己　一三
西村卯　一三
西村秀雄　一四
西村辨造　一四
西村正己　一四
西村勝　一四
西村義太郎　一四
西村六郎　一四
西村利雄　一四
西村俊雄　一四
西本男助　一四
西本馨　一四
西森重和　一五
西山種男　一五
西山馬喜　一五
西山勉　一五
西山豐治郎　一五
西山久好　一五
饒田重行　一五

ヌ・ネ・ノの部

額賀 大直	一
額田 登	一
抜井 光三	一
抜山 四郎	一
抜山 大三	一
抜山 平一	一
布川 豊	一
布谷 芳太郎	一
布村 業	一
沼 義雄	二
沼倉 三郎	二
沼越 正己	二
沼澤 喜一	二
沼田 龜之助	二
沼田 大擧	二
沼田 政矩	二
沼田 龍太郎	二
沼知 福三郎	二
沼野 敬之助	二
沼本 謙二	三
根井 洸	三
根岸 博	三
根岸 森太郎	三
根道 廣吉	三
根本 諦彦	三
根本 松男	三
練尾 勤	三
野口 明	三
野口 篤美	三
野口 義宗	四
野口 敬身	四
野口 源三郎	四
野口 三郎	四
野口 倚一	四
野口 長太郎	四
野口 常利	四
野口 秀敏	四
野坂 象之	四
野坂 相如	四
野崎 貫一	五
野崎 清	五
野崎 東夫	五
野崎 昌壽	五
野崎 民平	五
野崎 泰秀	五
野澤 房敏	五
野澤 文彦	五
野澤 遼一郎	五
野島 瑛	五
野尻 收	五
野尻 茂治	五
野尻 丈七	五
野瀬 正人	六
野田 章	六
野田 卯一	六
野田 清武	六
野田 幸猪	六
野田 貞雄	六
野田 哲五郎	六
野田 俊郎	六
野田 虎七	六
野田 信俊	七
野田 萬發	七
野津 龍三郎	七
野中 光二	七
野中 米太郎	七
野々瀬 才次郎	七
野々山 重治	七
野邊地 慶三	七
野間 業	八
野間 忠雄	八
野間 正秋	八
野溝 隆治	八
野見山 勉	八
野村 寛之進	八
野村 儀平	八
野村 吉三郎	八
野村 吉之助	八
野村 行一	九
野村 幸諦	九
野村 七綠	九
野村 精一郎	九
野村 精策	九
野村 馬	九
野村 調太郎	九
野村 傳四	九
野村 博	九
野村 文吉	一〇
野村 益太郎	一〇
野村 萬作	一〇
野本 豊	一〇
野山 忠幹	一〇
能木 善七	一〇
能美 正	一〇
信澤 貞治	一〇
乘杉 嘉壽	一〇
範岳 宏麿	一〇

ハの部

羽澄 政男	一
羽曾部 千代八	一
羽田 亨	一
羽田 秀雄	一
羽田野 尚	一
羽溪 了諦	一
羽中田 喜代作	一
羽根 盛一	一
羽根田 久一	一
羽野 治	一
羽原 又吉	二
羽生 謙一郎	二
羽生 隆	二
羽部 義孝	二
羽村 二喜男	二
羽吉 甲子郎	二
芳賀 健治	二
波江野 清藏	二
波多野 鼎	二
波多野 源治	二
波多野 俊	三
波止 薫	三
馬場 敬治	三
馬場 惟保	三
馬場 信三	三
馬場 敏英	三
馬場 誠	三
馬場 吉信	三
馬場 義續	三
萩 一郎	三
萩野 繽	四
萩野 久一郎	四
萩原 榮彌	四
萩原 徹	四
萩原 雄祐	四
萩谷 伸	四
萩原 平内	四
橋井 眞	四
橋口 隆	四
橋口 吉夫	四
橋田 邦彦	四
橋田 光明	五
橋爪 明男	五
橋爪 勇	五
橋爪 清人	五
橋爪 恭一	五
橋爪 陽	五
橋村 益水	五

橋本 愛治	五
橋本 一郎	五
橋本 宇一	五
橋本 改二	六
橋本 喜一	六
橋本 匡也	六
橋本 健壽	六
橋本 昂藏	六
橋本 佐次郎	六
橋本 重郎	六
橋本 進吉	六
橋本 清吉	六
橋本 孝之	六
橋本 敬之	七
橋本 武雄	補遺四
橋本 提明	七
橋本 綱太郎	七
橋本 傳左衛門	七
橋本 豊治	七
橋本 春生	七
橋本 政實	七
橋本 萠幸	七
橋本 律二	七
橋本 梁二郎	七
蓮池 公咲	八
蓮池 良太郎	八
蓮江 甚五郎	八
蓮沼 蕃	八
蓮見 道太郎	八
長谷川 外余男	八
長谷川 龜太郎	八
長谷川 寛三	補遺四
長谷川 清	八
長谷川 清	八
長谷川 剛	九
長谷川 公一	九
長谷川 孝三	九
長谷川 四郎	九
長谷川 茂雄	九
長谷川 清一	九
長谷川 勉	九
長谷川 常三郎	九
長谷川 哲夫	九
長谷川 輝彦	九
長谷川 宏	一〇
長谷川 松枝	一〇
長谷川 万吉	一〇
長谷川 安次郎	一〇
長谷川 幸	一〇
長谷川 善彦	一〇
長谷川 米藏	一〇
長谷田 泰三	一〇
長谷部 晋人	一〇
長谷部 半一	一〇
長谷部 豊	一一
畑 忠三	一一
畑 久治	一一
畑 文平	一一
畑 平次	一一
畑島 好松	一一
畑山 四男美	一一
畠田 昌福	一一
畠中 順一	一一
畠中 大輔	一二
畠村 嘉兵衛	一二
畠山 一忠	一二
秦 重德	一二
秦野 章	一二
秦野 親夫	一二
八田 健夫	一二
八田 三郎	一二
八田 四郎次	一二
八田 善之進	一三
八田 與一	一三
八田 嘉明	一三
八藤 東禧	一三
蜂須賀 芳太郎	補遺四
蜂谷 輝雄	一三
服部 伊勢松	一三
服部 英太郎	一三
服部 敬之助	一三
服部 健三	一三
服部 幸一	一四
服部 品吉	一四
服部 峻治郎	一四
服部 武夫	一四
服部 保	一四
服部 定一	一四
服部 朝雄	一四
服部 直彰	一四
服部 富士男	一四
服部 政一	一五
服部 稔	一五
服部 義雄	一五
鳩野 潔	一五
花井 又太郎	一五
花澤 武夫	一五
花島 孝一	一五
花島 善吾	一五
花田 乾助	一五
花田 七五三	一五
花田 大五郎	一六
花田 英夫	一六
花田 康三	一六
花戸 龍藏	一六
花見 朔巳	一六
花水 英二	一六
花村 美樹	一六
花輪 義敬	一六
華山 親義	一六
塙 優美	一六
濱口 一郎	一六
濱口 榮次郎	一七
濱島 敏雄	一七
濱住 松二郎	一七
濱田 粂市	一七
濱田 源六	一七
濱田 清治	一七
濱田 正	一七
濱田 德海	一七
濱田 成政	一七
濱田 政人	一八
濱田 正彦	一八
濱田 松吉郎	一八
濱田 稔	一八
濱田 幸雄	一八
濱地 辰助	一八
濱名 政雄	一八
濱中 英二	一八
濱中 雄太郎	一八
濱野 規矩雄	一九
濱野 信一郎	一九
濱野 元繼	一九
濱橋 正泰	一九
早尾 丑麿	一九
早川 秋一	一九
早川 二郎	一九
早川 清三	一九
早川 唯一郎	一九
早川 富正	一九
早川 元	二〇
早川 文夫	二〇
早川 松次郎	二〇
早坂 一郎	二〇
早坂 登	二〇
早坂 冬男	二〇
速水 和彦	二〇
林 亥之助	二〇
林 嘉吉	二〇
林 勝壽	二一

林 鎌次郎 二二
林 清 二二
林 恭平 二二
林 久治郎 二二
林 敬三 二二
林 健太郎 二二
林 重信 二二
林 繁二 二二
林 助一 二二
林 誠一 二三
林 敬雄 二三
林 忠 二三
林 傳次 二三
林 敏雄 二三
林 友誠 二三
林 直樹 二三
林 信夫 二三
林 春雄 二三
林 百松 二三
林 藤香 二三
林 文雄 二三
林 正久 二三
林 道倫 二三
林 光男 二三
林 茂助 二三
林 守一 二三
林 八重次 二三
林 安 二三
林 與之助 二四
林 義三 二四
林 鎮三郎 二四
林 禮二郎 二四
林田 龍喜 二四
林田 政德 二四
林原 美津夫 二四
原 卯一郎 二四
原 繁 二四
原 久一郎 二四
原 清 二四
原 金一 二五
原 繁雄 二五
原 正三郎 二五
原 晋次 二五
原 信次郎 二五
原 進一郎 二五
原 仙吉 二五
原 辰次郎 二六
原 治三郎 二六
原 昴 二六
原 徹一 二六
原 亨 二六
原 房孝 二六
原 文兵衞 二六
原 正鼎 二六
原 勝 二六
原 元助 二六
原 業行 二六
原 保雄 二七
原 勇三 二七
原 嘉道 二七
原 龍三郎 二七
原口 武夫 二七
原口 忠次郎 二七
原口 亨 二七
原口 亮平 二七
原田 章 二八
原田 勝一郎 二八
原田 敬治 二八
原田 健 二八
原田 左近 二八
原田 士麟雄 二八
原田 茂治 二八
原田 準平 二八
原田 清一 二八
原田 仙之助 二八
原田 隆顯 二八
原田 正 二九
原田 傳 二九
原田 淑人 二九
原田 彦輔 二九
原田 兵衞 二九
原田 利作 二九
原横 清次 二九
孕石 泰鎮 二九
針貝 宣一 二九
針山 直次郎 三〇
春 彦一 三〇
春木 秀次郎 三〇
春田 長作 三〇
晴山 酉松 三〇
半澤 耕貫 三〇
半澤 春見 三〇
半田 久美 三〇
半田 芳男 三〇
伴 四郎 三〇
伴 義定 三〇
坂 金一 三一
坂 駒雄 三一
坂 靜雄 三一
坂 千秋 三一
坂齋 武之助 三一
坂野 千里 三一
阪野 定一 三一
萬代 敏夫 三一

ヒの部

干潟 龍祥 一
日置 陸奥夫 一
日田 權一 一
日高 孝次 一
日高 鎮一 一
日高 覺 一
日高 準之介 一
日高 信六郎 一
日高 正己 一
日向 三藏 二
日向 秀雄 二
日夏 義雄 二
日野月 明喜 二
日野西 資博 二
日原 正雄 二
日比 義三 二
日比野 信一 二
日比野 襄 二
日比野 正治 三
比企 元 三
氷上 克之 三
肥後 俊彦 三
肥田木 司 三
肥爪 龜三 三
飛塚 高次 三
樋上 亮一 三
樋浦 大三 三
樋浦 信衞 四
樋貝 詮三 四
樋口 菊郎 四
樋口 佐平 四
樋口 佐平 四
樋口 修一郎 四
樋口 盛一 四
樋口 太郎 四
樋口 友一 四
樋口 長衞 四
樋田 豐太郎 四
樋詰 誠明 五
樋山 良廣 五
樋渡 熊雄 五
檜垣 一美 五
檜垣 盛次郎 五

檜垣 正男 五
檜垣 好文 五
檜山 長重 五
東 博仁 五
東 義胤 六
東屋 高吉 六
西田 敏夫 六
引田 重夫 六
引地 亮太郎 六
久井 忠雄 六
久尾 啓一 六
久松 潜一 六
久宗 高 七
久安 正朔 七
久安 博忠 七
久山 秀雄 七
菱川 精一 七
菱川 兵次郎 七
菱川 萬三郎 七
菱田 厚介 七
菱沼 男 八
菱谷 惣太郎 八
秀島 敏行 八
一杉 藤平 八
人見 孝 八
旭爪 謙作 八
百武 三郎 八
兵藤 直吉 八
兵頭 備 八
平井 章 八
平井 寛 九
平井 金三郎 九
平井 敬藏 九
平井 壽一 九
平井 富三郎 九
平井 泰太郎 九
平出 禾 九
平泉 澄 九
平岡 勇 九
平岡 彌 一〇
平岡 保 一〇
平岡 通俊 一〇
平岡 通也 一〇
平賀 讓 一〇
平川 次郎 一〇
平川 守 一〇
平木 弘 一〇
平城 友記 一〇
平光 吾一 一一
平坂 恭介 一一
平澤 東貫 一一
平城 國義 一一
平田 勳 一一
平田 沖正 一一
平田 敬一郎 一一
平田 巧 一一
平田 左武郎 一一
平田 四郎右衞門 一二
平田 俊太郎 一二
平田 丈松 一二
平田 眞 一三
平田 精藏 一三
平田 傳與門 一三
平田 德太郎 一三
平田 秀雄 一三
平田 操 一三
平田 稔 一三
平田 芳亮 一三
平田 義次 一三
平塚 英吉 一三
平塚 二郎 一三
平塚 卓之助 一三
平塚 隆治 一三
平塚 量三 一三
平野 勝二 一三
平野 龜吉 一三
平野 茂 一三
平野 重市 一四
平野 重雄 一四
平野 忠男 一四
平野 丹治 一四
平野 忠兵衞 一四
平野 利 一四
平野 良貞 一四
平野 烈介 一四
平林 富重 一四
平林 治德 一五
平松 吉二 一五
平松 秀三 一五
平松 昌根 一五
平本 義隆 一五
平山 滋春 一五
平山 孝 一五
平山 嵩 一五
平山 長藏 一五
平山 直美 一五
平山 秀夫 一六
平山 洋三郎 一六
枚田 四郎右衞門 一六
蛭川 勝智 一六
蛭田 仲三郎 一六
弘田 芦雄 一六
弘津 恭輔 一六
弘中 廣志 一六
弘山 尙直 一七
廣江 恭四郎 一七
廣岡 謙二 一七
廣川 慈二郎 一七
廣川 拾吉 一七
廣木 三郎 一七
廣木 仙太郎 一七
廣瀬 永造 一七
廣瀬 一雄 一七
廣瀬 經一 一八
廣瀬 孝六郎 一八
廣瀬 實造 一八
廣瀬 正一 一八
廣瀬 誠一 一八
廣瀬 節男 一八
廣瀬 秀吉 一八
廣田 孝一 一八
廣田 忠雄 一八
廣田 傳藏 一八
廣田 洋二 一九
廣谷 致員 一九
廣長 良一 一九
廣橋 眞光 一九
廣幡 忠隆 一九
廣濱 嘉雄 一九
廣部 猪八郎 一九
廣渡 純孝 一九

フの部

不二門 龍觀 一
不破 美太郎 一
不破 祐俊 一
布施 信良 一
府瀬川 熊司 一
富金原 義一 一
富家 政市 一
富士岡 重一 一
深井 英五 一
深井 源治 二
深井 正男 二
深尾 榮四郎 二
深尾 重省 二
深尾 代治 二
深川 太郎 二
深川 俊夫 二
深澤 家治 二

深澤　則勝　二
深澤　英男　三
深代　哲太　三
深瀬　晃　三
深田　銀作　三
深見　吉之助　三
深見　幸雄　三
深水　六郎　三
福井　榮治郎　三
福井　私城　三
福井　淳　四
福井　政男　四
福井　利吉郎　四
福家　豐　四
福浦　喜代治　四
福尾　彌太郎　四
福岡　五一　四
福岡　友仁　四
福川　篤四郎　四
福士　貞吉　四
福士　百衞　四
福島　貞雄　五
福島　四雄三　五
福島　末治　五
福島　武壽　五
福島　登喜男　五
福島　藤太郎　五
福島　政雄　五
福島　勝　五
福島　安雄　五
福島　燦三　五
福田　喜東　六
福田　謹四郎　六
福田　邦三　六
福田　啓二　六
福田　敬太郎　六
福田　源藏　六
福田　四郎　六
福田　甚二郎　六
福田　節雄　七
福田　善四郎　七
福田　敬之　七
福田　武雄　七
福田　赳夫　七
福田　烈　七
福田　得志　七
福田　秀夫　七
福田　兵五郎　七
福田　勝　補遺四
福田　良三　七
福地　釼吉　七
福富　一馬　八
福富　忠男　八
福富　恒樹　八
福留　並喜　八
福永　英玉　八
福永　範一　八
福永　與一郎　八
福原　政二郎　八
福原　麟太郎　九
福見　倚文　九
福光　正義　九
福本　德太郎　九
福本　福三　九
福本　柳一　九
福森　治　九
福屋　珠　九
福山　伍郎　九
福吉　勳二　九
伏見　民雄　一〇
伏見　正保　一〇
伏見　正慶　一〇
伏屋　義一郎　一〇
藤井　章　一〇
藤井　猪十郎　一〇
藤井　宇多治郎　一〇
藤井　永三郎　一〇
藤井　榮吉　一〇
藤井　數馬　一〇
藤井　碌四郎　一一
藤井　喜太郎　一一
藤井　慶三　一一
藤井　貞夫　一一
藤井　重雄　一一
藤井　蕃太郎　一一
藤井　崇治　一一
藤井　武夫　一一
藤井　種太郎　一二
藤井　保　一二
藤井　鶴松　一二
藤井　文男　一三
藤井　眞透　一三
藤井　正雄　一三
藤井　己之助　一三
藤井　毬　一三
藤井　幸永　一三
藤井　寛　一三
藤井　義明　一三
藤居　新治　一三
藤江　乙次郎　一三
藤江　忠二郎　一三
藤枝　泉介　一三
藤尾　誠　一三
藤岡　忠仁　一三
藤岡　長敏　一三
藤岡　英雄　一三
藤岡　兵一　一三
藤岡　光長　一四
藤垣　敬治　一四
藤川　福衞　一四
藤川　マキエ　一四
藤川　洋　一四
藤木　源吾　一四
藤澤　和夫　一四
藤澤　喜久郎　一四
藤澤　三郎　一五
藤澤　宗一　一五
藤島　亥治郎　一五
藤島　信太郎　一五
藤島　武二　一五
藤瀬　新一郎　一五
藤田　穆　一五
藤田　巖　一五
藤田　清　一五
藤田　金一郎　一六
藤田　實彥　一六
藤田　次郎　一六
藤田　茂倚　一六
藤田　重明　一六
藤田　淳教　一六
藤田　節也　一六
藤田　直市　一六
藤田　八郎　一六
藤田　弘直　一六
藤田　正信　一六
藤田　宗光　一七
藤田　元春　一七
藤田　要太郎　一七
藤田　義象　一七
藤田　亮策　一七
藤田　若水　一七
藤谷　宗順　一七
藤谷　芳太郎　一七
藤塚　猪一　一七
藤浪　補太郎　一七
藤野　惠　一八
藤野　三郎　一八
藤野　重次郎　一八
藤野　英陽　一八
藤原　侃治　一八

藤原　觀靜　一八
藤原　菊藏　一八
藤原　九十郎　一八
藤原　熊男　一八
藤原　賢吉　一九
藤原　謙造　一九
藤原　孝一　一九
藤原　咲平　一九
藤原　重正　一九
藤原　末作　一九
藤原　孝夫　一九
藤原　濃三郎　二〇
藤原　正　二〇
藤原　敏行　二〇
藤原　誠　二〇
藤原　正治　二〇
藤卷　吉生　二〇
藤見　陸治　二〇
藤村　寛太　二〇
藤村　彥四郎　二〇
藤本　吉之助　二〇
藤本　香藤　二一
藤本　定一　二一
藤本　藤治郎　二一
藤本　虎喜　二一
藤本　彥太郎　二一
藤本　武助　二一
藤本　萬治　二一
藤本　好雄　二二
藤森　勝郎　二二
藤森　三郎　二二
藤森　四平　二二
藤森　雄平　二二
藤山　富一　二三
藤吉　喜一　二三
二上　兵治　二三
二見　次夫　二三
淵田　秋廣　二三
太　憲義　補遺四
舟岡　省五　二三
舟山　正吉　二三
船石　吉平　二三
船久保　英一　二三
船津　重正　二三
船津　宏　二三
船引　眞達　二三
船本　貫時　二三
古井　喜實　二三
古池　信三　二三
古市　進　二三
古市　與一　二三
古海　洸　二三
古海　正雄　二三
古川　一郎　二四
古川　粂秀　二四
古川　敬次　二四
古川　源太郎　二四
古川　銑一郎　二四
古川　千里　二四
古川　武二郎　二四
古川　義天　二四
古木　陸藏　二四
古城　鴻一　二五
古郷　節夫　二五
古郷　仁作　二五
古澤　共治郎　二五
古澤　正義　二五
古瀬　良逸　二五
古田　秀穗　二五
古田　良一　二五
古野　丈夫　二五
古野　利秋　二五
古野　秀雄　二五
古橋　才次郎　二六
古畑　種基　二六
古見　嘉一　二六
古谷　榮藏　二六
古谷　謙　二六
古谷　善亮　二六
古谷　寅雄　二六
古屋　亨　二六
古屋　東　二六
古屋　久雄　二六
古屋　武助　二七
古屋　碧　二七
古屋　正幸　二七
古屋　芳雄　二七
古山　茂夫　二七
古山　春司郎　二七
古山　丈夫　二七
古山　良夫　二七

ヘ・ホの部

別所　孝太郎　一
別所　多喜雄　一
別府　節彌　一
別宮　秀夫　一
蛇口　哲三　一
逸見　武雄　一
逸見　文雄　一
保坂　三郎　一
保科　治朗　一
保科　善四郎　二
穗積　軍一　二
穗積　重遠　二
穗積　龍雄　二
北條　三郎　二
北條　時恒　二
北條　虎次郎　二
北條　春光　二
北條　光丸　二
法華津　孝太　二
蓬台　精一　三
坊城　俊良　三
朴澤　三二　三
朴澤　進　三
星　數宥　三
星　千里　三
星合　正治　三
星出　陸輔　三
星野　覺　三
星野　毅子郎　三
星野　三郎　四
星野　茂樹　四
星野　力　四
星野　貞次　四
星野　輝興　四
星野　敏雄　四
星野　直樹　四
細　祐次郎　四
細井　富太郎　四
細井　英夫　四
細江　逸記　五
細川　清　五
細川　興治　五
細川　兵一　五
細川　政之助　五
細川　雅德　五
細川　良平　五
細木　志雄　五
細田　茂三郎　五
細田　武　六
細田　德壽　六
細田　文明　六
細野　長良　六
細谷　喜一　六
細谷　健治　六
細谷　省吾　六
細谷　信三郎　六
細谷　雄二　七

堀	晃	七
堀	潮	七
堀	克夫	七
堀	勝治郎	七
堀	五之助	七
堀	公一	七
堀	幸也	七
堀	耕作	七
堀	四郎	八
堀	七藏	八
堀	大司	八
堀	健夫	八
堀	經夫	八
堀	毅雄	八
堀	雄一	八
堀	隆三	八
堀合	道三	八
堀井	啓治	八
堀井	恒次郎	八
堀池	英一	九
堀内	千城	九
堀内	國夫	九
堀内	茂體	九
堀内	信之助	九
堀内	武治	九
堀内	德太郎	九
堀内	陸郎	九
堀内	林平	九
堀江	季雄	九
堀江	清	一〇
堀尾	正朔	一〇
堀岡	正家	一〇
堀岡	吉次	一〇
堀川	源太郎	一〇
堀川	多弘	一〇
堀川	美哉	一〇
堀木	鎌三	一〇
堀切	善兵衛	一一
堀口	四良次	一一
堀口	由己	一一
堀越	一三	一一
堀田	一雄	一一
堀田	繁勝	一一
堀田	健男	一一
堀田	愼之	一一
堀田	正亮	一一
堀田	喜滿	一二
堀田	義次郎	一二
堀場	信吉	一二
堀場	秀雄	一二
堀部	淺	一二
堀部	市郎	一二
堀部	清	一二
堀部	千壽	一二
堀部	廣	一二
本郷	茂	一三
本郷	壽次	一三
本郷	雅廣	一三
本郷	萬七	一三
本庄	榮治郎	一三
本庄	快三	一三
本庄	繁	一三
本庄	精次	一四
本莊	秀一	一四
本庄	實	一四
本城	巖	一四
本田	次郎	一四
本田	正吾	一四
本田	武男	一四
本田	忠男	一四
本田	哲致	一四
本田	弘人	一四
本田	増藏	一五
本多	靜雄	一五
本多	清明	一五
本多	武夫	一五
本多	保太郎	一五
本多	猶一郎	一五
本間	要	一五
本間	庄吉	一五
本間	精	一五

マの部

馬島	進	一
馬島	壯	一
馬瀨	金太郎	一
馬淵	友次郎	一
馬渡	一得	一
眞方	勳	一
眞木	英男	一
眞坂	忠藏	一
眞崎	健夫	一
眞崎	長年	一
眞崎	一	一
眞下	俊一	二
眞島	正市	二
眞鍋	博德	二
眞鍋	力一	二
眞野	歡三郎	二
眞野	常雄	二
眞野	文二	二
眞室	亞夫	二
眞狩	信義	三
間瀨	一	三
間處	武夫	三
間野	貫之	三
間宮	仙之助	三
舞出	長五郎	三
前	五三郎	三
前川	鬼子男	三
前川	十郎	三
前川	德次郎	四
前川	道治郎	四
前田	一三	四
前田	嘉壽夫	四
前田	克己	四
前田	勝也	四
前田	鼎	四
前田	彙雄	四
前田	敬之亟	四
前田	賢次	四
前田	源吉	五
前田	幸太郎	五
前田	修治	五
前田	孝矩	五
前田	偉男	五
前田	恒治	五
前田	利男	五
前田	豐次郎	五
前田	稔靖	五
前田	治吉	五
前田	弘	六
前田	正明	六
前田	正夫	六
前田	松韻	六
前田	光嘉	六
前田	穰	六
前谷	重夫	六
前野	喜代治	六
前野	順一	六
前尾	繁三郎	七
牧	厚	七
牧	榮之進	七
牧	健二	七
牧	隆泰	七
牧	銳夫	七
牧	一	七
牧	福松	七
牧田	弘	七
牧野	吉太郎	七

牧野	清光	七
牧野	堅固	八
牧野	健太郎	八
牧野	貞亮	八
牧野	伸通	八
槇田	麟二	八
槇山	次郎	八
正木	晃	八
正木	崇	八
正木	亮	八
昌子	力	八
昌谷	忠	八
政岡	庄平	九
益子	恒義	九
益山	貞之	九
桝田	富三郎	九
桝谷	秀夫	九
桝本	輝義	九
増井	清	九
増井	光藏	九
増井	芳男	九
増尾	定司	九
増岡	侑士	九
増子	正宏	一〇
増澤	浩	一〇
増田	穆	一〇
増田	曄彦	一〇
増田	完爾	一〇
増田	喜一	一〇
増田	邦彥	一〇
増田	幸一	一〇
増田	精家	一〇
増田	武雄	一一
増田	胤次	一一
増田	八郎	一一
増田	道義	一一
増地	庸治郎	一一
増永	正一	一一
増野	一吉	一一
増野	實	一一
増原	薫三	一一
増原	惠吉	一一
増淵	次助	一二
増本	甲吉	一二
増本	量	一二
町尻	量弘	一二
町田	次郎	一二
町田	保	一二
町田	利臣	一二
町田	幹夫	一二
町田	稔	一二
町村	金五	一二
待山	義雄	一三
交川	有	一三
松井	秋男	一三
松井	一郎	一三
松井	佳一	一三
松井	計郎	一三
松井	慶四郎	一三
松井	謙吉	一三
松井	權平	一三
松井	茂	一三
松井	蔚	一四
松井	信助	一四
松井	清吉	一四
松井	清之助	一四
松井	銓壽	一四
松井	善一	一四
松井	建夫	一四
松井	秀男	一四
松井	實	一四
松井	元太郎	一五
松井	良平	一五
松浦	嘉一	一五
松浦	榮	一五
松浦	四郎	一五
松浦	俊吉	一五
松浦	淳六郎	一五
松浦	新之助	一五
松浦	是	一五
松浦	愼次郎	一五
松浦	實三郎	一六
松浦	一	一六
松浦	晴男	一六
松浦	不二夫	一六
松浦	欣	一六
松生	幸雄	一六
松尾	金藏	一六
松尾	國松	一六
松尾	敬時	一六
松尾	實友	一七
松尾	茂	一七
松尾	俊次	一七
松尾	精一	一七
松尾	太兵衛	一七
松尾	泰一郎	一七
松尾	武幸	一七
松尾	長造	一七
松尾	友雄	一七
松尾	春雄	一七
松尾	楸	一七
松尾	仁	一八
松尾	英敏	一八
松尾	勝	一八
松尾	守治	一八
松岡	一郎	一八
松岡	重雄	一八
松岡	修太郎	一八
松岡	千壽	一八
松岡	武四郎	一八
松岡	剛夫	一九
松岡	忠一	一九
松岡	敏介	一九
松岡	敎之	一九
松岡	亮	一九
松岡	又二	一九
松岡	萬次郎	一九
松川	淸	一九
松川	長藏	一九
松隈	健彥	一九
松隈	秀雄	二〇
松阪	富之助	二〇
松阪	廣政	二〇
松崎	覺淳	二〇
松崎	健吉	二〇
松崎	貞雄	二〇
松崎	實次	二〇
松崎	長三郎	二〇
松崎	藤吉	二〇
松崎	留吉	二〇
松崎	正夫	二〇
松崎	正躬	二一
松澤	武雄	二一
松澤	美雄	二一
松下	乘美	二一
松下	寛一	二一
松下	儀一	二一
松下	倉吉	二一
松下	丈夫	二一
松下	一	二一
松下	正信	二二
松下	幹雄	二二
松嶋	鹿夫	二二
松角	武忠	二二
松田	彰	二二
松田	修	二二
松田	一臨	二二
松田	金五郎	二二
松田	意二	二二
松田	光治	二三

松田 定信	二三
松田 二郎	二三
松田 榮太郎	二三
松田 信一	二三
松田 慣三	二三
松田 清次	二三
松田 精四郎	二三
松田 太郎	二三
松田 長三郎	二三
松田 德太郎	二三
松田 仁兵衛	二三
松田 秀雄	二四
松田 孫治郎	二四
松田 充一	二四
松田 合輔	二四
松平 恒雄	二四
松平 正壽	二四
松平 康東	二四
松平 康昌	二四
松平 慶民	二四
松平 頼壽	二五
松月 秀雄	二五
松戸 定吉	二五
松任谷 健太郎	二五
松友 孟	二五
松永 一郎	二五
松永 謙三	二五
松永 志逸	二五
松永 豚膺	二五
松永 忠男	二六
松永 仁三	二六
松波 盛治	二六
松波 秀利	二六
松濤 泰嚴	二六
松南 健彥	二六
松野 孝一	二六
松野 貞夫	二六
松野 新	二六
松野 友治	二六
松野 久	二七
松野 平一	二七
松葉 重雄	二七
松葉 濟左衛門	二七
松林 新治	二七
松原 蒲太	二七
松原 久人	二七
松原 正香	二七
松久 義平	二七
松久 平内	二七
松藤 正畫	二七
松前 謙助	二八
松前 重義	二八
松村 覺一	二八
松村 勝俊	二八
松村 行藏	二八
松村 敬一	二八
松村 定雄	二八
松村 秀逸	二八
松村 季美	二八
松村 霊	二八
松村 宗治	二九
松村 光膺	二九
松村 萬弘	二九
松本 伊之吉	二九
松本 官平	二九
松本 喜一	二九
松本 義一	二九
松本 啓三	二九
松本 憲次	三〇
松本 伍郎	三〇
松本 孝四郎	三〇
松本 榮	三〇
松本 重夫	三〇
松本 重彥	三〇
松本 茂	三〇
松本 茂	三〇
松本 脩二	三〇
松本 俊一	三〇
松本 純三	三一
松本 省吾	三二
松本 信一	三二
松本 清治	三二
松本 幾	三二
松本 唯一	三二
松本 彊	三二
松本 敏三	三二
松本 虎太	三二
松本 楢治	三三
松本 彥次郎	三三
松本 博	三三
松本 正巳	三三
松本 益雄	三三
松本 万太郎	三三
松本 幹之介	三三
松本 盛四郎	三三
松本 萠二	三三
松本 容吉	三三
松本 良彥	三三
松本 芳道	三三
松本 充正	三三
松森 英雄	三三
松山 精一	三三
松山 基範	三三
松山 芳彥	三三
奈倉 政治	三三
的場 鐵哉	三三
的場 朗哉	三三
的場 幸雄	三四
丸 才司	三四
丸井 清泰	三四
丸尾 鉆六	三四
丸尾 彰三郎	三四
丸岡 道夫	三四
丸龜 秀雄	三四
丸島 清	三四
丸谷 喜市	三四
丸藤 富藏	三四
丸茂 邦則	三四
丸山 稻	三五
丸山 悦三	三五
丸山 清	三五
丸山 榮一	三五
丸山 辰夫	三五
丸山 文喜	三五
丸山 芳登	三五
萬里小路 元秀	三五

ミの部

三井 武夫	一
三井 鼎三	一
三井 矢作	一
三井 安彌	一
三ツ井 卯三男	一
三ツ井 新次郎	一
三浦 篤	一
三浦 伊八郎	一
三浦 重義	一
三浦 七郎	二
三浦 正	二
三浦 鶴彥	二
三浦 直男	二
三浦 直彥	二
三浦 欽之	二
三浦 道雄	二
三浦 百重	二
三浦 義秋	二
三浦 義男	三
三浦 義男	三
三浦 義雄	三
三浦 義二郎	三

三浦 和一	三
三上 量	三
三川 克巳	三
三木 秋義	三
三木 景三	三
三木 行治	四
三木 順治	四
三木 正	四
三木 敏藏	四
三木 政次	四
三木 元三郎	四
三木 良英	四
三樹 樹三	四
三州 海用	四
三國谷 三四郎	四
三雲 英之助	五
三雲 敬一郎	五
三雲 住三郎	五
三雲 隆三郎	五
三澤 寬一	五
三澤 濟助	五
三澤 房太郎	五
三品 儀	五
三島 誠也	五
三島 德右衛門	六
三島 德七	六
三島 利美	六
三島 龍太郎	六
三隅 虎雄	六
三瀬 幸三郎	六
三田 主市	六
三田 廣一	六
三田 勝	六
三田村 一郎	六
三田村 嘉久治	七
三田村 健	七
三田村 源一	七
三田村 篤志郎	七
三谷 憲二	七
三谷 堅志	七
三谷 重忠	七
三谷 隆信	七
三土 忠造	七
三土 知芳	八
三戸 章方	八
三戸森 確郎	八
三富 秀夫	八
三邊 長治	八
三野 昌治	八
三橋 賢	八
三橋 孝一郎	八
三橋 貞一	九
三橋 則雄	九
三橋 寬之	九
三橋 進吉	九
三林 隆吉	九
三原 才一	九
三原 種雄	九
三平 文	九
三堀 參郎	九
三間 省逸	一〇
三村 令二郎	一〇
三室戸 敬光	一〇
三矢 英松	一〇
三宅 秋太	一〇
三宅 男	一〇
三宅 龜吉	一〇
三宅 義一	一〇
三宅 剛一	一〇
三宅 三郎	一〇
三宅 三郎	一一
三宅 正三	一一
三宅 正太郎	一一
三宅 捷	一一
三宅 忠平	一一
三宅 德榮	一一
三宅 發造	一一
三宅 秀太	一一
三宅 瑞穂	一一
三宅 康次	一一
三宅川 賢二	一二
三好 重夫	一二
三好 倭一	一二
三好 辰長	一二
三好 新八	一二
三好 善一	一二
三好 武夫	一二
三好 毅	一二
三好 忠一	一三
三好 喜敬	一三
三由 正敏	一三
三輪 菊三郎	一三
三輪 幸助	一三
三輪 笹市	一三
三輪 辰吉	一三
三輪 傳治郎	一三
三輪 則成	一三
三輪 誠	一四
見波 定治	一四
美作 小一郎	一四
美根 五郎	一四
美濃部 洋次	一四
美馬 郁夫	一四
美馬 耕市	一四
美間 正紀	一四
深山 義道	一五
御巫 清白	一五
御厨 敏彥	一五
御宿 好	一五
御園生 義一	一五
御園生 嘉二	一五
御船 泰二郎	一五
御代 安榮	一五
實藤 豐吉	一五
蓑袋 勘兵衛	一五
右田 鐵四郎	一六
右田 正男	一六
溝口 三郎	一六
溝口 禎次郎	一六
溝口 傳	一六
溝口 龍治郎	一六
溝口 亮一	一六
溝淵 增巳	一六
道 得雄	一六
道野 德三郎	一六
光井 武八郎	一七
光田 健輔	一七
光田 利勝	一七
光成 毅平	一七
光畑 靜太	一七
光藤 康明	一七
光安 國男	一七
密田 新太郎	一七
滿尾 君亮	一七
水井 壽一郎	一七
水池 亮	一八
水内 哲雄	一八
水上 鐃一	一八
水上 正廣	一八
水川 潔	一八
水川 清一	一八
水川 依夫	一八
水口 吉藏	一八
水口 春二	一九
水澤 猛	一九
水澤 保吉	一九
水島 三一郎	一九
水島 房吉	一九
水田 悦夫	一九
水田 直昌	一九

水谷 史郎	一九
水谷 衞	一九
水谷 秀一	一九
水谷 彌一	二〇
水谷 好矩	二〇
水谷 良一	二〇
水沼 喜三郎	二〇
水野 伊太郎	二〇
水野 男	二〇
水野 薫	二〇
水野 恭介	二一
水野 史朗	二一
水野 重功	二一
水野 駿	二一
水野 鍵一	二一
水野 甚次郎	二一
水野 進	二一
水野 敏雄	二一
水野 六郎	二一
水間 光次	二一
水町 新三	二一
水町 和三郎	二二
皆川 一	二二
皆川 泰	二二
皆川 良三	二二
皆見 省吾	二二
湊川 重威	二二
南 薫造	二二
南 次郎	二二
南 宋	二二
南 八男	二二
南 弘	二三
南 益次郎	二三
南 好雄	二三
南大路 謙一	二三
南崎 雄七	二三
南澤 清	二三
峰尾 都治	二三
箕田 貫	二三
蓑田 不二夫	二三
簑嶋 高	二四
宮井 親造	二四
宮内 男	二四
宮内 乾	二四
宮内 三朗	二四
宮内 聰太郎	二四
宮内 利夫	二四
宮内 義則	二四
宮内 義彥	二四
宮尾 五郎	二四
宮川 孝夫	三一
宮川 武	二四
宮川 久雄	二五
宮川 船夫	二五
宮川 雅	二五
宮川 米次	二五
宮木 廣大	二五
宮木 酉作	二五
宮城 香五郎	二五
宮城 貫	二五
宮崎 驥四郎	二五
宮崎 謙太	二六
宮崎 廣三	二六
宮崎 四郎	二六
宮崎 眞平	二六
宮崎 申郎	二六
宮崎 太一	二六
宮崎 諦寛	二六
宮崎 鐵太郎	二六
宮崎 信善	二六
宮崎 半一郎	二七
宮崎 正夫	二七
宮崎 正己	二七
宮崎 萬吉	二七
宮崎 達夫	二七
宮里 俊義	二七
宮澤 文作	二七
宮澤 正雄	二七
宮澤 重剛	二七
宮路 一郎	二七
宮下 精一郎	二八
宮下 義治	二八
宮島 敬一	二八
宮田 三郎	二八
宮田 笑内	二八
宮田 宗兵衞	二八
宮田 忠雄	二八
宮田 爲益	二八
宮田 道雄	二八
宮地 慧三	二九
宮地 襄二	二九
宮地 德次郎	二九
宮地 直一	二九
宮地 直邦	二九
宮地 數千木	二九
宮永 黏正	二九
宮野 省三	三一
宮原 節	二九
宮原 督次	二九
宮前 憲三	二九
宮道 悅男	二九
宮村 才一郎	三〇
宮元 庄藏	三〇
宮本 英脩	三〇
宮本 邦彥	三〇
宮本 保	三〇
宮本 督藏	三〇
宮本 元	三〇
宮本 吉夫	三〇
宮本 和吉	三〇
宮山 武兵衞	三一
宮脇 富	三一
宮脇 参三	三一
宮脇 倫	三一
都 勝次	三一

ム・メ・モの部

六浦 嘉一郎	一
六鹿 貫	一
牟田 信一	一
武川 久四郎	一
武藏 倉治	一
武者小路 公共	一
武藤 章	一
武藤 勝憲	一
武藤 清	一
武藤 章造	一
武藤 千年	二
武藤 文雄	二
武藤 昌知	二
武藤 義雄	二
務臺 理作	二
向井 新	二
向井 利一	二
向笠 金吾	二
向田 正勝	二
向山 豐之道	三
椋本 四郎	三
宗光 杢太郎	三
村井 愛太郎	三
村井 修一	三
村井 順	三
村井 信之	三
村井 八郎	三
村井 正雄	三
村岡 隆俊	三
村岡 典嗣	四
村岡 信勝	四
村岡 良二	四
村上 宇一	四

村上 金次郎	四
村上 景介	四
村上 惠二	四
村上 好	四
村上 榮雄	四
村上 俊一郎	五
村上 省悟	五
村上 壬平	五
村上 武次郎	五
村上 常太郎	五
村上 駿威	五
村上 朝一	五
村上 一	五
村上 保則	五
村上 雄治	五
村川 重太郎	六
村川 謙雄	六
村島 泰一	六
村瀨 勝幸	六
村瀨 文	六
村瀨 達	六
村瀨 三益	六
村瀨 操	六
村田 一男	六
村田 勝之助	六
村田 勝延	七
村田 五郎	七
村田 四郎	七
村田 榮	七
村田 豐三	七
村田 直明	七
村田 平三郎	七
村田 正雄	七
村田 眞夫	七
村田 八千穗	八
村田 義男	八
村地 信夫	八
村手 鼎	八
村手 晃次郎	八
村中 庄太	八
村中 又一	八
村松 五郎	八
村松 幸圖	八
村松 舜祐	八
村松 恒一郎	九
村本 福松	九
村山 喜一郎	九
村山 浩一	九
村山 午朔	九
村山 佐太郎	九
村山 三四知	九
村山 二郎	九
村山 達三	九
村山 敏三	一〇
村山 道雄	一〇
村山 豐	一〇
村山 義男	一〇
室田 寅雄	一〇
室田 秀則	一〇
室谷 慶一	一〇
室町 公藤	一〇
目黑 清雄	一〇
目黑 雄平	一〇
茂木 武雄	一〇
最上 享吉	一一
毛利 圭介	一一
毛利 富一	一一
毛利 基	一一
毛里 英於菟	一一
持田 勝雄	一一
持永 祐宜	一一
持永 義夫	一一
望月 止才郎	一二
望月 重雄	一二
望月 重雄	一二
望月 成人	一二
望月 盛直	一二
望月 隆二郎	一二
元橋 曉太郎	一二
元村 彰	一二
元村 初次	一二
本島 一郎	一二
本野 精吾	一三
本野 盛一	一三
本野 享三	一三
本橋 傳治	一三
本橋 平一郎	一三
本橋 六三	一三
本原 正利	一三
本村 傳吉	一三
本村 浩	一三
泉二 新熊	一四
物部 薫郎	一四
百田 正弘	一四
桃井 直美	一四
守內 喜一郎	一四
守島 伍郎	一四
守岡 明男	一四
守屋 節夫	一四
守屋 富次郎	一五
守屋 秀雄	一五
守屋 博	一五
守屋 福市	一五
守屋 磨瑳夫	一五
守屋 眞楯	一五
守屋 義雄	一五
守屋 陸藏	一五
盛永 俊太郎	一五
盛本 完	一六
盛山 兵衞	一六
森 峻	一六
森 男	一六
森 嚴夫	一六
森 於菟	一六
森 一雄	一六
森 數樹	一六
森 千城	一六
森 喜一	一七
森 鋼平	一七
森 定吉	一七
森 四郎	一七
森 肆郎	一七
森 茂雄	一七
森 茂樹	一七
森 榮樹	一七
森 榮太郎	一七
森 重剛	一七
森 周六	一七
森 修己	一八
森 省三	一八
森 新治郎	一八
森 晉夫	一八
森 莊三郎	一八
森 泰治	一八
森 衞	一八
森 忠房	一八
森 辰夫	一八
森 種吉	一九
森 爲三	一九
森 經義	一九
森 長文	一九
森 肇	一九
森 範一	一九
森 彥市	一九
森 秀	一九
森 秀	一九
森 浩	一九
森 文三郎	一九
森 兵吾	二〇
森 雅司	二〇

森 満 二〇
森 義信 二〇
森 要之助 二〇
森井 健介 二〇
森浦 藤郎 二〇
森尾 敏男 二〇
森岡 隆一郎 二一
森岡 君平 二一
森岡 秀雄 二一
森岡 文策 二一
森川 梅雄 二一
森川 立也 二一
森重 千夫 二一
森下 重格 二一
森下 善平 二一
森下 龍一 二二
森島 種雄 二二
森島 守人 二二
森田 勝一 二二
森田 喜久二 二二
森田 慶一 二二
森田 三郎 二二
森田 茂龜 二二
森田 俊介 二二
森田 淳一 二二
森田 宣 二三
森田 孝 二三
森田 豊次郎 二三
森田 虎次郎 二三
森田 秀一 二三
森田 秀治郎 二三
森田 富士助 二三
森田 安次郎 二三
森田 義衛 二三
森中 豊治 二四
森永 勲 二四
森永 貞一郎 二四
森長 謙之助 二四
森平 國武 二四
森部 隆 二四
森松 孝作 二四
森本 角藏 二四
森本 潔 二四
森本 雅雄 二四
森山 鋭一 二五
森山 治右衛門 二五
森山 武市郎 二五
森山 善雄 二五
森脇 英一 二五
森脇 襄治 二五
兩角 誠英 二五
師岡 健四郎 二六
諸岡 克 二六
諸富 鐵雄 二六
諸橋 襄 二六
諸橋 徹次 二六
門奈 庄作 二六
門前 弘多 二六

ヤの部

八重樫 運吉 一
八木 繁一 一
八木 助市 一
八木 精一 一
八木 瀧二郎 一
八木 信雄 一
八木 彦内 一
八木 秀次 一
八木 三男 一
八木 三男 二
八木 芳之助 二
八木 芳信 二
八木 林作 二
八木田 九一郎 二
八木田 政雄 二
八鍬 利助 二
八島 三郎 二
八代 準 二
八代 豊雄 三
八谷 正義 三
八東 勝一 三
八巻 耕三 三
矢木 博 三
矢ケ崎 德藏 三
矢ケ崎 速 三
矢崎 信之 三
矢崎 藤雄 三
矢崎 美磋 三
矢澤 鐵治 三
矢榮 信雄 四
矢島 敏彦 四
矢島 正昭 四
矢代 幸雄 四
矢田 浩藏 四
矢田 威 四
矢田部 達郎 四
矢野 彰 四
矢野 磯 五
矢野 禾積 五
矢野 健一 五
矢野 兼三 四五
矢野 征記 五
矢野 外生 五
矢野 齡 五
矢野 豊次郎 五
矢野 速吉 五
矢野 宏太郎 五
矢野 道也 五
矢野 桃郎 六
矢作 富藏 六
矢部 克巳 六
矢部 立志郎 六
矢部 嘉彌 六
矢本 正平 六
谷田澤 隆甫 六
谷田部 武 六
谷津 慶次 六
谷内 庄太郎 六
家治 清一 七
彌富 元三郎 七
安 美賀 七
安井 章一 七
安井 誠一郎 七
安井 大吉 七
安井 隆憲 七
安井 久 七
安池 興男 七
安江 弘一 七
安岡 源太郎 八
安岡 弘一 八
安岡 九十九 八
安川 數太郎 八
安澤 喜一郎 八
安田 嚴 八
安田 龜一 八
安田 清 八
安田 三次 八
安田 丈助 八
安田 善一郎 九
安田 善次郎 九
安田 宗次 九
安田 又次郎 九
安田 峰二 九
安田 元七 九
安田 守雄 九
安田 裕 九
安田 積 九
安武 章三 一〇
安富 彌太郎 一〇
安永 茂弘 一〇

安原 節太郎 一〇
安原 武夫 一〇
安平 政吉 一〇
安村 正人 一〇
安本 重治 一〇
保井 コノ 一〇
保岡 武久 一〇
保田 寛 一一
保持 道信 一一
簗 誠 一一
梁井 淳二 一一
柳 壯一 一一
柳井 賢三 一一
柳井 恒夫 一一
柳井 義男 一一
柳生 業雄 一二
柳川 明 一二
柳川 精四郎 一二
柳川 久雄 一四
柳川 昌勝 一二
柳澤 彰 一二
柳澤 廣市 一二
柳澤 武 一二
柳澤 雅休 一二
柳澤 利喜雄 一二
柳下 鋼造 一三
柳田 吉次 一三
柳田 太郎 一三
柳田 孝義 一三
柳田 躬則 一五
柳館 民雄 一五
柳原 鹿松 一三
柳原 峯義 一五
藪田 喜一 一三
藪田 貞治郎 一五
藪谷 虎芳 一四
山井 浩 一四
山家 信次 一四
山內 明雄 一四
山內 逸造 一四
山內 嘉兵衛 一四
山內 倭文夫 一四
山內 二郎 一四
山內 繼喜 一四
山內 得立 一九
山內 友五郎 一五
山內 豊中 一五
山內 光政 一五
山內 山彥 一五
山內 義文 一五
山內 隆一 一五
山內 龍二 一五
山海 實作 一五
山浦 達二 一六
山尾 三郎 一六
山岡 俊助 一六
山岡 茂 一六
山岡 望 一六
山賀 辰治 一六
山形 寛 一六
山形 清 一六
山縣 武夫 一六
山縣 盛三 一七
山縣 正郷 一七
山縣 昌夫 一七
山上 熊郎 一七
山上 謙一 一七
山上 信重 一七
山上 操 一七
山川 一郎 一七
山川 寛 一七
山川 弧四郎 一七
山川 源三 一八
山川 滋 一八
山川 洵 一八
山木 文華 一八
山岸 金三郎 一八
山岸 忠夫 一八
山岸 光國 一八
山極 二郎 一八
山際 正道 一八
山口 明 一九
山口 勳 一九
山口 泉 一九
山口 親 一九
山口 嚴太郎 一九
山口 榮吉 一九
山口 鋭之助 一九
山口 一夫 一九
山口 一夫 二〇
山口 象雄 二〇
山口 貫一 二〇
山口 乾治 二〇
山口 喜一 二〇
山口 菊衛 二〇
山口 吉郎 二〇
山口 清 二〇
山口 藏人 二〇
山口 啓市 二〇
山口 謙三 二〇
山口 四郎 二〇
山口 重知 二一
山口 修一 二一
山口 喬 二一
山口 立 二一
山口 傳 二一
山口 十一郎 二一
山口 德三郎 二一
山口 德兵衛 二一
山口 壽生 二二
山口 富次郎 二二
山口 昇 二二
山口 喜雄 二二
山口 弘道 二二
山口 寛雄 二二
山口 文之助 二二
山口 眞夫 二二
山口 眞澄 二二
山口 政男 二二
山口 正義 二二
山口 酉 二三
山口 彌輔 二三
山口 與平 二三
山口 嘉夫 二三
山口 龍作 二三
山口 六平 二三
山隈 康 二三
山越 道三 二三
山座 道雄 二三
山崎 一郎 二三
山崎 何惠 二四
山崎 巖 二四
山崎 英次郎 二四
山崎 勝郎 二四
山崎 寛二 二四
山崎 匡輔 二四
山崎 熊吉 二四
山崎 小五郎 二四
山崎 厚之 二四
山崎 茂高 二五
山崎 隆義 二五
山崎 丹照 二五
山崎 次隆 二五
山崎 敏夫 二五
山崎 直樹 二五
山崎 春雄 二五
山崎 平吉 二五
山崎 正夫 二五

山崎 正孝 二六
山崎 百治 二六
山崎 守正 二六
山崎 陰達 二六
山澤 佐一郎 二六
山澤 和三郎 二六
山路 章 二六
山路 梅太郎 二六
山路 定 二六
山路 博 二七
山下 嘉次郎 二七
山下 菊次郎 四二
山下 裟襲良 二七
山下 謙治 二七
山下 繁造 二七
山下 眞一 二七
山下 清吉 二七
山下 太郎 二七
山下 武 二七
山下 輝夫 二八
山下 直平 二八
山下 昇 二八
山下 昇 二八
山下 英男 二八
山下 秀樹 二八
山下 雅邦 二八
山下 仁 二八
山下 貫 二八
山下 滿 二八
山下 豊 二八

山下 御吉 二九
山住 克己 二九
山添 利作 二九
山田 英一 二九
山田 乙三 二九
山田 賀一 二九
山田 一衛 二九
山田 一夫 二九
山田 勝四郎 三〇
山田 喜三郎 三〇
山田 喜平 三〇
山田 桂輔 三〇
山田 健吉 三〇
山田 定男 三〇
山田 三郎 三〇
山田 滋朗 三〇
山田 繁吉 三〇
山田 俊介 三〇
山田 正三 三一
山田丈右衛門 三一
山田 新十郎 三一
山田 清一 三一
山田 孝雄 三一
山田 學道 三一
山田 武雄 三一
山田 佛 三一
山田 貞太郎 三一
山田 鐵之助 三一
山田 友吉郎 三二
山田 久就 三二

山田 秀三 三二
山田 辨信 三二
山田 誠 三二
山田 正雄 三二
山田 政一 三二
山田 萬平 三二
山田 三義 三二
山田 光雄 三二
山田 守 三二
山田 道彦 三三
山田 稔 三三
山田 八州男 三三
山田 穣 三三
山田 庸 三三
山田 芳太郎 三三
山田 吉泰 三三
山田 義忠 三三
山田 義見 三三
山田 良秀 三四
山田 良之助 三四
山谷 健一 三四
山地 八郎 三四
山地 靖之 三四
山戸 利生 三四
山島 吉五郎 三四
山島 勝治郎 三四
山名 時雄 三五
山名 酒喜男 三五
山中 朗 三五
山中 一榮 三五

山中 樵 三五
山中 德二 三五
山中 直次郎 三五
山中 道夫 三五
山梨 勝之進 三五
山根 吉三 三五
山根 邦夫 三六
山根 幸八 三六
山根 新次 三六
山根 茂信 三六
山根 讃三 三六
山根 登一郎 三六
山根 東明 三六
山根 浩 三六
山根 政治 三六
山根 巽 三六
山羽 俊兵 三七
山部 教吉 三七
山組 一郎 三七
山栟 忠好 三七
山村 章 三七
山村 仁策 三七
山村 正輔 三七
山元 誠安 三七
山元 兵七 三七
山元 宗熊 三七
山本 暐 三七
山本 男 三八
山本 男 三八
山本 市太郎 三八

山本 梅雄 三八
山本 榮喜 三八
山本 英喜 三八
山本 嘉一 三八
山本 勝市 三八
山本 勘助 三八
山本 護吾 三八
山本 熊一 三八
山本 圭二 三八
山本 悠一 三九
山本 四郎 三九
山本 茂 三九
山本 春水 三九
山本 章一 三九
山本 清太郎 三九
山本 高雄 三九
山本 高行 三九
山本 武藏 四〇
山本 律 四〇
山本 鶴治 四〇
山本 傳藏 四〇
山本 亨 四〇
山本 德治 四〇
山本 利勝 四〇
山本 智道 四〇
山本 奈良太郎 四〇
山本 直文 四〇
山本 信政 四一
山本 昇 四一
山本 八龍 四一

山本 晴 四一
山本 英也 四一
山本 廣一 四一
山本 弘毅 四一
山本 文憲 四一
山本 文隆郎 四一
山本 政人 四一
山本 又六 四二
山本 光政 四二
山本 彌之助 四二
山本 幸雄 四二
山本 幸雄 四二
山本 豐 四二
山本 與吉 四三
山本 洋一 四三
山本 義章 四三
山本 頴雄 四三
山本 利三郎 四四
山本 隆一 四四
山本 林 四四
山本 和介 四四
山森 正一 四四
山脇 秀輔 四四
大和 新一郎 四四

ユの部

由良 民之助 一
油井 岱治 一
油本 豐吉 一
湯淺 龜一 一

湯淺 啓温 一
湯淺 定晴 一
湯淺 茂 一
湯淺 正義 一
湯淺 益三郎 一
湯川 新太郎 一
湯川 又夫 一
湯河 元威 二
湯口 寛二 二
湯口 邦五郎 二
湯澤 喜作 二
湯澤 德治 二
湯澤 三千男 二
湯谷 卓衛 二
湯地 藤彌郎 三
湯村 房治 三
湯本 久右衛門 三
湯本 貫惠 三
湯本 武雄 三
湯山 熊雄 三
結城 權兵衛 三
結城 司郎次 三
幸村 淳一郎 三
雪澤 千代治 三
柚木 芳 四

ヨの部

四ッ倉 仙治郎 一
四方 謙治 一
四谷 豐治 一

依田 收一 一
與謝野 秀 一
養老 絢雄 一
横井 愼 一
横井 時次 一
横井 時常 一
横井 增治 一
横井 領郎 一
横尾 繁六 一
横大路 俊一 二
横川 定 二
横田 市作 二
横田 嚴 二
横田 喜三郎 二
横田 浩吉 二
横田 純太 二
横田 千 二
横田 武三 二
横田 信夫 二
横田 正俊 三
横田 正人 三
横田 昌男 三
横田 道三 三
横戸 穗重 三
横畠 敏介 三
横溝 光暉 三
横光 吉規 三
横山 英太郎 三
横山 格 四
横山 一夫 四

横山 賢市 四
横山 重一 四
横山 周次 四
横山 俊平 四
横山 喬 四
横山 竹男 四
横山 武人 四
横山 忠雄 四
横山 鐵之丞 四
横山 照夫 五
横山 登志丸 五
横山 兵司 五
横山 正幸 五
横山 盛彰 五
横山 幸生 五
由雄 又次郎 五
吉井 濟 五
吉井 豐一 五
吉井 則濟 六
吉井 政信 六
吉井 義次 六
吉池 四郎 六
吉江 勝保 六
吉江 知養 六
吉江 汪 六
吉岡 英一 六
吉岡 喜四郎 六
吉岡 惠一 六
吉岡 計之助 七
吉岡 三郎 七

吉岡 千代三 七
吉岡 俊男 七
吉岡 直富 七
吉岡 範武 七
吉岡 三浦 七
吉岡 良信 七
吉垣 壽一郎 七
吉川 竜 八
吉川 弘一 八
吉川 重國 八
吉川 澄一 八
吉川 泰三 八
吉川 仲 八
吉川 晴十 八
吉川 元民 八
吉川 安次郎 八
吉國 一郎 八
吉澤 俊一 八
吉澤 正平 九
吉澤 清次郎 九
吉澤 英雄 九
吉澤 万二 九
吉澤 彌吉 九
吉瀬 時次 九
吉田 伊一郎 九
吉田 夘一郎 九
吉田 卯三郎 九
吉田 英藏 九
吉田 一男 一〇
吉田 勝太郎 一〇

吉田　勘三	一〇
吉田　謹平	一〇
吉田　圭	一〇
吉田　孝一	一〇
吉田　光太郎	一〇
吉田　茂久郎	一〇
吉田　直	一一
吉田　新七郎	一一
吉田　詁治	一一
吉田　晴二	一一
吉田　節三	一一
吉田　威雄	一一
吉田　正	一一
吉田　正	一一
吉田　龍雄	一一
吉田　丹一郎	一一
吉田　忠一	一二
吉田　忠衞	一二
吉田　常次郎	一二
吉田　貞一	一二
吉田　悌二郎	一二
吉田　鐵郎	一二
吉田　土佐次郎	一二
吉田　洞介	一二
吉田　德次郎	一二
吉田　德太郎	一三
吉田　豐信	一三
吉田　直枝	一三
吉田　直己	一三
吉田　信郁	一三
吉田　馨	一三
吉田　久	一三
吉田　久義	一三
吉田　秀臣	一三
吉田　弘苗	一四
吉田　浩哉	一四
吉田　廣佐	一四
吉田　文一郎	一四
吉田　正男	一四
吉田　正通	一四
吉田　政一	一四
吉田　政一	一四
吉田　政雄	一四
吉田　安喜雄	一四
吉田　余三男	一四
吉田　律	一五
吉武　惠市	一五
吉武　和	一五
吉武　宗秀	一五
吉谷　德二	一五
吉次　利二	一五
吉富　滋	一五
吉永　時次	一五
吉成　義富	一六
吉野　數衞	一六
吉野　眞吉	一六
吉野　淑計	一六
吉野　直行	一六
吉野　房見	一六
吉野　操	一六
吉野　麟至	一六
吉原　忠雄	一六
吉原　登	一六
吉原　正明	一七
吉弘　基彥	一七
吉町　太郎一	一七
吉松　喬	一七
吉松　廉親	一七
吉見　義明	一七
吉美　信壽	一七
吉水　續	一七
吉水　正孝	一七
吉村　逸作	一七
吉村　克彥	一八
吉村　成一	一八
吉村　武夫	一八
吉村　武雄	一八
吉村　鎭	一八
吉村　直二	一八
吉村　稔	一八
吉本　克巳	一八
吉本　佐吉	一八
吉本　眞二	一八
吉本　仲藏	一九
好富　正臣	一九
好本　節	一九
芳澤　謙吉	一九
芳野　都三	一九
芳野　守三	一九
米岡　伊太郎	一九
米垣　興業	一九
米澤　愛太郎	一九
米澤　常道	一九
米澤　鐵五郎	二〇
米澤　道雄	二〇
米澤　泰治	二〇
米澤　美雄	二〇
米田　登	二〇
米田　富士雄	二〇
米田　麟吉	二〇
米山　恒治	二〇
米山　利助	二〇

リ・ロの部

李　恒九	一
力丸　慈園	一
龍崎　虎男	一
劉　明朝	一
六角　英通	一
六車　彥四郎	一

ワの部

和久田　鐵雄	一
和栗　明	一
和氣　龍次郎	一
和氣　喜平	一
和氣　松市郎	一
和田　尹	一
和田　一夫	一
和田　嘉六	一
和田　濟	一
和田　軍一	一
和田　小六	二
和田　佐一郎	二
和田　貞臣	二
和田　三造	二
和田　自成	二
和田　重辰	二
和田　滋穗	二
和田　正一郎	二
和田　精一	二
和田　太郎	二
和田　定治	三
和田　敏政	三
和田　秀夫	三
和田　廣	三
和田　寛	三
和田　正雄	三
和田　美稻	三
和辻　哲郎	三
和邇　秀恒	三
若尾　貫	四
若杉　硬	四
若杉　吉五郎	四
若林　淸作	四
若林　類太郎	四
脇阪　實	四
脇坂　雄治	四
脇田　嚴	四

脇田　順一	四
脇水　鐵臣	四
涌島　秀好	四
涌島　正明	五
鷲尾　久藏	五
鷲尾　猛	五
鷲尾　豐龍	五
鷲谷　瀧雄	五
鷲野　重光	五
鷲山　半之助	五
綿貫　薩一	五
綿谷　政次郎	五
亘理　英一	五
渡　正監	五
渡會　六治	六
渡瀨　正廣	六
渡部　寛語	六
渡部　伍良	六
渡部　肆郎	六
渡部　信	六
渡部　宏綱	六
渡部　浩	六
渡部　守治	七
渡邊　純	七
渡邊　一太郎	七
渡邊　一太郎	七
渡邊　逸男	七
渡邊　逸龜	七
渡邊　泉	七
渡邊　榮五郎	七
渡邊　男二郎	七
渡邊　嘉兵衞	七
渡邊　一俊	八
渡邊　數英	八
渡邊　鼎	八
渡邊　龜吉	八
渡邊　勘次	八
渡邊　寛	八
渡邊　寛治	八
渡邊　喜好	八
渡邊　喜作	八
渡邊　己丑太	九
渡邊　啓三郎	九
渡邊　惠弘	九
渡邊　健次郎	九
渡邊　浩一	九
渡邊　敏	九
渡邊　聰	九
渡邊　夫郎	九
渡邊　重雄	九
渡邊　篠	九
渡邊　章六	一〇
渡邊　季雄	一〇
渡邊　拾雄	一〇
渡邊　節治	一〇
渡邊　宗太郎	一〇
渡邊　陸	一〇
渡邊　武	一〇
渡邊　猛	一〇
渡邊　乾	一〇
渡邊　達也	一〇
渡邊　貞	一一
渡邊　利雄	一一
渡邊　俊雄	一一
渡邊　富治	一一
渡邊　寅三	一一
渡邊　直達	一一
渡邊　信男	一一
渡邊　信雄	一一
渡邊　襄	一一
渡邊　八郎	一二
渡邊　彥士	一二
渡邊　久	一二
渡邊　浩	一二
渡邊　浩	一二
渡邊　廣	一二
渡邊　孫一郎	一二
渡邊　誠	一二
渡邊　萬次郎	一三
渡邊　瑞美	一三
渡邊　實	一三
渡邊　寧	一三
渡邊　廉三	一三
渡邊　良雄	一三
渡邊　佳英	一三
渡邊　胖夫	一三
渡利　强	一三
鰐淵　源	一三

アの部

安藤 皎一 從五勳六 內務技師兼興亞院技師 國土局河川課勤務
德島縣士族明治卅五年四月九日出生大正十一年新潟高校同十五年東京帝大工學部土木工學科各卒業同年內務工手拜命昭和四年任內務技師現職ニ在リ住橫濱市保土谷區神戶上町六六二

安[illegible] [illegible]二 從四勳五 衞生試驗所技師兼厚生技師 衞生局藥品課長
靜岡縣士族[illegible]行二男明治廿三年五月出生昭和三年家督相續大正五年東京帝大醫科藥學科卒業同大學副手衞生試驗所技手同九年內務技師衞生試驗所技師ニ任ジ昭和十三年厚生技師兼東京衞生試驗所技師衞生局勤務ヲ經テ同十六年八月現職ニ就ク傍ラ[illegible]府ニ出張ス家庭繼母ツイ(明五、[illegible]增次郎姉)妻さき(同廿八、東京府和泉[illegible]六長女)[illegible]喜久男(大九)[illegible]女柳子(同七)[illegible]女[illegible]子(同十三)四女雅子(昭三)三男宏(同七)住澁谷區[illegible]樂町九

安住 義一 正五勳三 海軍大佐 臺灣總督府秘書官
佐賀縣人明治廿二年二月廿八日出生同四十四年海軍兵學校卒業大正元年海軍少尉ニ任ジ爾來累進昭和十年任同大佐同年大湊防備隊司令同十二年大阪地方海軍人事部長各歷職同十五年十一月橫須賀鎭守府附ヲ經テ同年十二月現官ニ任ズ住臺北市文武町官舍

安住 武八 從五勳五 醫博 神戶稅關醫官 港務部醫務課長
佐賀縣秀四郎二男明治廿四年八月廿八日出生同四十四年日本醫學校卒業同縣ニ開業大正八年警視廳ニ入リ昭和四年現職ニ轉ズ趣味庭球家庭妻チヨヅル(明卅四、佐賀縣林彥六長女唐津高女卒)長男隆之(大十三)長女都子(同十五)二女澄子(昭四)二男昭二(同六)三男秀彥(同八)住神戶市神戶稅關和田岬檢疫所構內稅關官舍電兵庫一八三

安宅 喜太郎 正六 北海道廳立帶廣中學校長
兵庫縣人明治卅年六月廿五日出生大正十四年廣島高師昭和四年同校專攻科各卒業鳥取師範富山商業札幌一中教諭留萌中學校長ヲ經テ現職ニ就ク家庭母キン(慶應二)妻岩子(明四十)兵庫縣木村三郎二女同志社高女卒)長男一郎(昭九)長女喬子(同五)二女峯子(同七)住北海道帶廣市同校內

安宅 守道 從五勳六 朝鮮總督府鐵道局參事 鐵道局調查課長
京都府人昭和二年東京帝大法學部政治學科卒業昭和十五年十一月現職ニ就ク曩ニ京城鐵道事務所長タリ住京城府朝鮮總督府鐵道局內

安立 信邊 正七 厚生理事官 大臣官房會計課勤務
岐阜縣人明治卅一年十月十一日出生夙ニ岐阜縣海津郡書記拜命普文及高文ニ合格岐阜縣屬地方課勤務社會局屬厚生理事官軍事扶助課勤務ヲ經テ昭和十三年五月軍事保護院理事官ニ任ジ總裁官房總務課勤務同十六年二月現職ニ就ク住大森區上池上町八九〇電荏原七一〇三

安達 勝清 正五勳五 司法書記官 行刑局第一課長
島根縣正井儀之丞二男明治廿七年十二月出生同縣安達駿三郎ノ養子トナル大正十年東京帝大英法科卒業神戶大阪各地方裁判所檢事大阪保護觀察所輔導官司法書記官行刑局第二課長ヲ經テ現職ニ就ク家庭妻テル(明卅二、養父駿三郎女)男光雄(大十)長女京子(同十二)二女華子(同十三)三女撰子(同十五)住世田谷區上北澤町三ノ一一七五電松澤三六七二

安達 左京 從五勳六 臺灣總督府事務官 總督官房會計課長
大分縣人峰三郎長男明治廿二年四月十七日出生大正十四年東京帝大法科卒業臺灣總督府ニ入リ稅關屬高雄州醫務課長同地方課長稅關事務官歷任昭和十年府中央研究所事務官同所總務課長同十四年府工業研究所庶務課長ヲ經テ現職ニ就ク趣味碁ゴルフ家庭妻キヨ(明四一、德島縣河瀨半四郎女臺北第二高女卒)住臺北市東門町九六電二一八九

安達 成之 從五勳六 群馬縣沼田中學校長
栃木縣人仁八郎三男明治廿一年九月十六日出生大正六年廣島高師卒業千葉縣佐倉中學群馬師範各教諭ヲ經テ昭和七年現職ニ就ク家庭妻貞子(明廿八、茨城縣宮文助二女)嗣子時啓(大十)長女靜子(同八)住群馬縣利根郡沼田町

安達 島次 正五勳五 醫博 臺北帝大附屬醫學專門部教授
新潟縣乙次ノ二男明治廿四年八月出生大正四年新潟醫專卒業同五年京都帝大醫學部助手同八年臺北醫專教授ヲ經テ現職ニ就ク同十三年歐米ニ留學同十四年學位ヲ受ク趣味園藝將棋

家族妻芳美(明廿八)長女美都子(昭二)二女幸子(同十)住臺北市千歳町二ノ二八電四八八一

安達　[illegible]　従四勳三　旅順工科大學長
宮城縣士族孫磨ノ三男明治十七年十二月十二日仙臺市ニ出生同四十二年東京帝大理學部卒業東京高工新潟高校濱松高工各教授昭和七年文部省督學官同十一年濱松高工校長等歴任同十四年八月文部省督學官教育調査部長ヲ經テ同十六年四月現職ニ就ク曩ニ歐米ニ出張ス趣味讀書運動家族妻イリナ(明廿三)長男幸一(大七)長女茂子(同三)二女貞子(同五)二男裕(同十一)三男浩(同十三)住旅順市赤羽町五官舍電二二〇

安達　貞太　従四勳四　大阪府浪速高等學校長
山形縣人久右衛門長男明治十五年二月廿一日出生同卅九年東京帝大文學部哲學科卒業仙臺第一長野各中學校教諭富岡宇佐會津明倫愛知縣立第一大阪府立北野各中學校長等歴任昭和十二年現職ニ任ズ趣味讀書旅行家族妻みよし(明廿一、宮城縣川村豐吉三女仙臺松操高女卒)長男明(大三)二男徹(同六)三男彰(同十一)住池田市石橋町官舍電石橋二二

安達　豐　正五勳五　專賣局技師　大阪地方專賣局鑑定部長
岡山縣人明治廿五年二月出生大正九年東京帝大農學部水產科卒業專賣局技手長官々房勤務專賣局技師德島地方專賣局鑑定課長專賣局專賣部收納部中央研究所各勤務廣島地方專賣局鑑定課長等歴任昭和十三年大阪地方專賣局鑑定課長同十四年五月興亞院技師華中連絡部在勤ヲ經テ同十六年四月現職ニ就ク住大阪市浪速區河原町大阪地方專賣局內

安孫子藤吉　従五　興亞院調査官　經濟部第四課長
山形縣先代善吉長男明治十七年十二月出生昭和四年東京帝大法學部法律科卒業農林省ニ入リ累進京城米穀事務所長昭和十四年五月農林事務官兼農林書記官米穀局內地課長ヲ經テ同十六年一月興亞院調査官經濟部第五課長同年九月現職ニ就ク家族妻うん(明廿七、山形縣高田築作孫)男健平(同卅七)同妻みさほ(同卅九)女いち子(同四四)女つぎゑ(大元)男健和(同七)女靜江(同十)男健助(同十五)女和子(昭四)孫昭一(同二)同英子(同三)住世田谷區東玉川一四二電田園調布三八六五

安積得也　正五勳五　東京府書記官　經濟部長
東京府士族得時二男明治卅三年二月十七日出生大正十三年東京帝大法學部英法科卒業直ニ內務省ニ入リ京都府屬拜命同十五年任地方事務官高知縣學務部社寺兵事課長兼社會課長社會局事務官社會部職業課勤務社會局事務官兼社會局書記官勞働部勞務課長社會局書記官專任厚生書記官勞働局勞務課長等歴任昭和十四年四月勞働局指導課長同年九月愛知縣書記官經濟部長ヲ經テ同十七年一月現職ニ就ク趣味讀書登山家族妻敬子(明四〇、倉田雲平長女久留米高女卒)嗣子仰也(昭五)長女敏子(同四)二男純也(同十二)住芝區芝公園一八ノ七官舍電芝四〇三〇

安倍源基　従四勳三　企畫院次長
山口縣人半次郎ノ長男明治廿七年二月十四日同縣ニ出生大正九年高文合格同年東京帝大法科法律科卒業沖繩高知各縣理事官地方事務官地方警視內務事務官兼關東廳事務官ニ歴任昭和六年歐米各國ニ出張歸朝後山形縣書記官學務部長警視廳部長特別高等警察部長靜岡縣書記官總務部長內務事務官警保局保安課長ヲ經テ同十二年六月內務省警保局長次デ警視總監ニ任ジ同十四年辭シ同十五年一月再任同年十二月退官同十六年十二月現官ニ任ズ趣味釣魚家族妻藤子(明卅五、秋山雅之助長女双葉高女卒)長男基雄(昭六)長女美知子(大十四)二女登志子(昭二)三女佐和子(同四)住杉並區和田本町一〇一九電中野七八九五

安倍　[illegible]　従四勳三　檢事　靜岡地方裁判所檢事正
宮城縣寛佐ノ長男明治廿年一月出生大正十一年家督相續同三年東京帝大法科獨法科卒業同年司法官試補同六年任判事安濃津地方兼同區裁判所判事同七年檢事ニ轉ジ東京地方兼同區裁判所檢事宮城控訴院檢事仙臺地方兼同區裁判所檢事東京控訴院檢事東京地方兼同區裁判所檢事東京刑事地方兼東京區裁判所檢事前橋地方裁判所檢事正等歴任同十三年宇都宮地方裁判所檢事正ヲ經同十四年九月現職ニ就ク家族妻はなよ(明廿四、宮城縣阪元道隆二女同縣立第一高女卒)住靜岡市追手町官舍電五六六

安倍能成　従四勳三　第一高等學校長
愛媛縣人義任ノ八男明治十六年十二月廿三日出生大正八年兄榮方ヨリ分家明治四十二年東京帝大文科哲學科卒業後大學院ニ學ビ日本濟美學校中學部教諭女子英學塾日蓮宗大學各講師慶大豫科教授法政大學文學部主任第一高校講師歴任大正十五年京城帝大教授ニ任ジ後同評議員トナル事二回ニ及ビ昭和三年法文學部長トナリ同十五年九月現職ニ任ズ曩ニ大正十三年哲學史研究ノ爲歐洲各國ニ留學ス趣味謠曲旅行家族妻恭子(明廿七、東京府藤村彬妹)男亮(大三)二男浩二(同六)長女道子(同九)住淀橋區下落合四ノ一六五五電落合長崎三二七三

安陪　[illegible]　従五勳五　鳥取縣立鳥取高等女學校長兼教諭
明治廿一年鳥取縣岩美郡ニ出生鳥取縣師範東京高等師範各卒業米子中學縣立一中同二中教頭鳥取縣立中學校長兼教諭米子高女校教長兼教諭ヲ經テ昭和十三年現職ニ就ク住鳥取市東町同校內電一四一

安部　豐滿　従五勳六　地方農林技師　青森縣經濟部畜產課長
山形縣人明治廿三年八月三日出生大正二年盛岡高等農林學校獸醫學科卒業同六年馬政局技手同十二年種馬所技手同十五年宮崎縣技手歴任昭和二年地方農林技師ニ任ジ宮崎岐阜群馬各縣農林技師ヲ經テ同十五年二月現職ニ就ク住青森縣東郡濱館村松森字佃電四〇六四

安部　[illegible]　従七勳八　地方事務官　大分縣總務部地方課長
大分縣人明治卅年十二月七日出生大正十二年大分縣屬拜命昭和十三年人事課長同十四年同兼知事官房主事ヲ經テ同十六年六月任地方事務官現職ニ就ク住大分市中島八條通電一八一一

安部　義正　正六　農林技師　田澤疏水開墾國營事務所長
東京府人明治卅四年三月十七日出生大正十一年東京帝大農學部農學實科卒業同十二年農商務技手同十四年農林技手昭和七年地方農林技師鳥取滋賀各縣農林技師ヲ經テ同十三年五月農林技師ニ任ジ農務局勤務田澤疏水開墾國營事務所勤務ヲ經テ同十四年七月同所長ニ就任ス住秋田縣仙北郡角館町上新町四四小林方

安樂城敏男　正五勳五　農林技師　農政局農產課勤務
東京府人大正十二年東京帝大農學部農藝化學科卒業農林省ニ入リ累進現時前記ノ任ニ在リ昭和十二年歐米各國ニ出張ヲ命ゼラル住淀橋區上落合一ノ四六六

安西　清　従五勳六　地方農林技師　青森縣經濟部水產課長
福岡縣人明治十九年四月九日出生同四十三年東北帝大農科水產科卒業同四十五年福岡縣水產試驗場技手拜命大正十二年同縣產業技手同十五年地方農林技師ニ任ジ福岡縣勤務昭和八年千葉縣水產試驗場內灣分場長同十二年高知縣水產課長ヲ經テ同十六年一月現職ニ就ク住青森市新町五九電二八九三

安西秀三郎　従六　北海道廳技師　札幌營林區署長
埼玉縣小室潜庵ノ三男明治廿七年四月十七日出生後東京府士族安西唯三郎ノ養子トナル大正十一年東京帝大農學部卒業同年青森大林區署ニ奉職同十三年病氣退職昭和二年北海道廳林務課勤務同七年函館營林區署長同十年道廳林務課勤務ヲ經テ同十三年現職ニ就任ス趣味旅行讀書家族妻穎子(明四三、山形縣三澤傳之助五女神奈川縣立高女卒)長男洋一(昭五)長女稜子(同九)住札幌市南一條西十四丁目電二六二一

安西　正道　従六　遞信局書記官　東京都市遞信局放送部長
千葉縣人昭和九年東京帝大法學部法律學科卒業關東局事務官兼遞信官署遞信事務官關東局遞信課勤務同十六年一月航空局事務官ヲ經テ同年十月任遞信局書記官現職ニ就ク住中野區新山通リ二ノ三六電中野六一四五

安齋　宏　正四勳三　浦和高等學校長
宮城縣士族周造ノ二男明治廿年八月出生同廿六年家督相續同四十三年東京帝大文科大學獨逸文學科卒業第四第二弘前各高校教授ニ歴任大正十四年歐米ニ留學翌年歸朝後弘前高校教授同校長昭和十三年山口高校長ヲ經テ同十五年五月現職ニ就ク家族妻まさ(明廿二、宮城縣士族横山謙介七女日本女大卒)男精一(大八)女道子(同二)女敦子(同十一)二男胖(同十三)三男廣(昭四)四男彬(同七)住浦和市常盤町八丁目官舍電二二六四

安藤善之輔　従四勳三　工博　九州帝大教授　工學部勤務
東京府元格四男明治廿七年十二月出生大正六年東京帝大工科土木科卒業現時前揭ノ職ニ在リ昭和七年工博ノ學位ヲ受ク家族妻孝(明卅六、佐賀縣岩永佐八長女奈良女高師卒)長男英之輔(昭二)二男復也(同六)長女喜久子(同七)住福岡市西新町二〇六五

安東　諒男　正五勳四　典獄　福岡刑務所長
山形縣士族直人四男明治十六年十一月十三日出生同卅六年山口縣監獄書記兼看守長拜命大正七年典獄補同十二年典獄爾來北海道十勝刑務所長大分鹿兒島三重千葉各刑務所長等歴任昭和十三年九月現職ニ轉ズ趣味大弓喜多流謠曲家族妻章子(明廿)住福岡市西新藤崎官舍電

西七七四

安東　義良　正五勳四　外務省歐亞局長

岐阜縣人明治廿八年出生大正十一年東京帝大法學部卒業外務事務官外務大臣秘書官外務書記官條約局第一課長調查部第三課長同第四課長等歷任昭和十三年十月歐亞局第一課長同十五年九月大使館參事官伊國在勤ヲ經テ同十七年五月現職ニ就ク〔住〕小石川區小日向水道町八〇〔電話〕大塚七五二二

安藤　秋男　從五勳六　地方農林技師　長崎縣蠶業試驗場長

岐阜縣士族銘次郎二男明治廿一年十月十六日出生同四十三年京都高蠶卒業千葉縣蠶業取締所千葉屬同各縣蠶業試驗場歷勤昭和九年現職ニ就ク〔家庭〕妻トミ（明廿七、千葉縣濟古菊太郎長女千葉高女卒）長男政一（大十四）長女タエ子（同六、筑紫高女卒）二女カツ子（昭三）〔住〕長崎縣南高來郡島原町古丁

安藤　一雄　從三勳二　工博　九州帝大教授　工學部勤務

香川縣人大西盛太ノ弟明治十六年五月出生後先代虎之輔ノ養子トナリ大正八年家督相續明治四十一年東京帝大工科應用化學科卒業歐米各國ニ留學歸朝後東京帝大九州帝大各助教授歷任大正六年學位ヲ受ク同九年戰後ノ工業視察ノ爲メ歐米ニ遊ビ昭和四年及同十年更ニ外遊曩ニ工學部長タリ〔趣味〕洋畫〔家庭〕養母タキ（明六）妻ミツヨ（同十八、養父虎之輔長女高松高女卒）女怜子（大七）女エミ子（同十一）〔住〕福岡市渡邊通五丁目北川端九五六〔電話〕西三一三六

安藤　寛　正六　地方事務官　兵庫縣學務部職業課長

廣島縣人明治四十四年早稻田大學專門部政經科卒業大正九年同縣社會事業主事同十年任同縣屬次デ秋田縣屬同縣社會事業主事同社會事業主事靜岡縣社會事業主事ヲ經テ昭和十四年五月現職ニ就ク〔住〕兵庫縣武庫郡住吉村戀野一三六三〔電話〕御影八二四三

安藤　狂四郎　從四勳三　京都府知事

大分縣勝市四男明治廿六年三月八日出生大正十一年兄心一郎方ヨリ分家ス同七年東京帝大法科獨法科卒業高文行政科ニ合格爾來新潟縣屬同縣警部兼屬內務屬鹿兒島縣出水郡長栃木縣理事官地方事務官岩手縣書記官警察部長內務事務官警務官內務書記官警保局高等課長兼內務大臣官房文書課長東京府書記官學務部長靜岡縣東京府各書記官內務部長茨城三重各縣知事內務省土木局長等歷任昭和十四年一月同警保局長警察講習所長ヲ經同年九月退官同十六年一月現職ニ就ク〔趣味〕讀書庭球〔家庭〕妻櫻子（明卅六、石川縣林彌三吉長女東京府立第三高女卒）男亟爾（大十二）長女洋子（同十五）三男昭三（昭三）〔住〕京都市上京區烏丸通中立賣上ル官舍〔電話〕西陣九五・九七（東京宅）淀橋區西大久保一ノ四三九〔電話〕四谷五八六〇

安藤　三郎　從四勳五　鐵道技師　電氣局勤務

東京府喜三郎ノ男明治廿九年十月廿二日出生東京府立第三中學第二高校大正十年東京帝大工學部電氣工學科卒業直ニ鐵道省工作局電氣課ニ勤務同十五年任同省技師臨時川崎電氣部兼務東京鐵道局川崎發電所主任歷任昭和六年現職ニ就ク〔家庭〕妻恒子（伴甲藏妹淑德高女卒）男謙二（昭三）〔住〕中野區上野原町八

安藤　三郎　正四勳二　陸軍中將　軍事參議官

栃木縣小次郎長男明治十六年十二月出生同卅九年任陸軍步兵少尉昭和十三年三月陸軍中將ニ累進其間航空本部第一課長同本部附航空技術學校長航空本部第一部長下志津飛行學校長等歷補後同十六年十二月現職ニ補セラル曩ニ兩度現地部隊長トシテ出征ス〔趣味〕歷史研究讀書〔家庭〕妻ハルヨ（明廿七、宮原德平四女女高師卒）男康一（大十二）同哲二（同十四）〔住〕世田谷區大原町一一三〇

安藤　信太郎　從七　地方警視　愛知縣警察部刑事課長

愛知縣人明治廿八年十一月廿六日出生大正十年同縣巡查拜命爾來累進昭和九年任警部同十一年西尾同十二年半田各署長同十三年保安課長等歷職同十四年任地方警視鶴舞署長ヲ經テ同十六年四月現職ニ就ク〔住〕名古屋市東區西二葉町官舍〔電話〕東三三七〇

安藤　蘇峰　從五勳六　保險院技師兼厚生技師　社會保險局兼勞働局勤務

栃木縣人明治卅年七月九日出生大正十五年京都帝大理學部卒業內務省社會局技手昭和五年社會局技師トナリ次デ保險院技師ニ任ジ同十六年五月厚生技師ヲ兼任ス現時前記ノ職ニアリ〔住〕中野區鷺宮四ノ四八三田中方

安藤　秀夫　從五勳六　帝室林野局技師　業務部工務課長

兵庫縣人大正十二年東京帝大工學部土木工學科卒業帝室林野局ニ入リ木曾支局勤務ヲ經テ昭和十四年五月現職ニ就ク〔住〕豐島區椎名町八ノ四〇〇一〔電話〕落合長崎三五一九

安藤　弘之　正五勳五　判事　中津區裁判所監督判事兼大分地方裁判所中津支部々長

福岡縣近次郎二男明治廿三年十二月出生大正十三年分家同八年京都帝大法學部獨法科卒業同法官試補ヲ經テ同十年判事ニ任ズ爾來名古屋富山各地方小倉唐津各區裁判所判事福岡地方裁判所久留米支部判事那覇地方裁判所部長盛岡區裁判所監督判事兼同地方裁判所判事姬路地方兼同區裁判所判事歷任後現職ニ補ス〔趣味〕園藝テニス〔家庭〕妻千代子（明卅四、佐賀縣池田政一長女）男威之（大十三）二男文夫（昭二）三男俊輔（同四）四男弘志（同七）〔住〕中津市同區裁判所內

安藤　正次　正四勳三　臺北帝大總長

東京府人明治十一年九月十三日出生同卅年神宮皇學館本科卒業同卅七年東京帝大文科選科修了神宮皇學館教授囑託大正六年日本女子大教授及早大講師同十三年日大講師翌年早大教授等歷職同十五年臺灣總督府高等學校教授ニ轉ジ昭和二年臺北帝大教授ニ任ジ文政學部勤務後同部長ヲ經テ同十五年退職爾後同大學講師ヲ囑託同十六年四月現職ニ就任ス〔住〕臺北市佐久間町三丁目〔電話〕三八三三

安藤　康生　從七　地方警視　滋賀縣警察部警務課長兼警防課長特高課長

岡山縣人明治卅七年四月七日出生昭和七年京都帝大法學部卒業同五年埼玉縣書記拜命會計課勤務同年任同縣屬學務部學務課勤務同十年學務部社會課勤務同年高文行政科合格同十二年總務部地方課勤務同十三年六月任地方事務官山口縣職業課長同十四年同縣社會教育課長ヲ經テ同十六年現職ニ就ク〔住〕大津市松本日ノ出官舍〔電話〕一二七五

安藤　[illegible]　正四勳三　第五高校教授

愛知縣稻葉俊成三男明治十九年九月十三日出生後安藤家ノ養子トナル明治四十四年東京帝大文科國文學科卒業東京府立第三中學教諭新潟高校教授ヲ經テ現職ニ就ク〔家庭〕妻琴（明廿六、富田養淳長女津川高女卒）二女澄子（大三、日本女大卒）三女三枝子（同九、新潟高女卒）四女淑子（同十二）〔住〕熊本市同校內

安堂　誠一　正七　地方警視　大阪府警察部交通課長

大阪府人故丸尾周太郎ノ二男明治卅三年十月三日出生大正七年府立四條畷中學卒業爾來稅務署屬大藏屬[illegible]昭和七年[illegible]ニ轉ジ警保局勤務同十四年任地方警視大阪港水上警察署長ヲ經テ同十五年九月現職ニ就ク〔家庭〕妻須美子（明卅八、廣島縣栗根寬二郎長女廣島女專卒）長男孝夫（昭九）長女和子（同七）〔住〕大阪市港區尾町一ノ一官舍〔電話〕西三三六〇

安中　忠雄　從五勳六　總力戰研究所員

新潟縣士族石次郎長男明治卅八年十二月廿七日出生昭和三年東京帝大法學部英法科卒業同年愛知縣警部[illegible]同五年地方警視滋賀縣保安課長[illegible]同縣社會課長同九年廣島縣社會課長[illegible]等歷任[illegible]年タイ國在勤[illegible]部長同十五年九月保險院事務官[illegible]信書記官社會保險局船員保險課長同十六年一月保險院書記官社會保險局監理課長ヲ經

テ同年十月現職ニ就ク〔家庭〕妻菊子（明四一、岐阜縣梅津高女卒）長男和彥（昭五）長女敬子（同八）二男靖彥（同十一）〔住〕世田谷區野澤町一ノ九二〔電話〕世田谷三八二一

足立　貞嘉　從四勳四　鐵道技師　岐阜工事事務所長

京都府宮嘉造長男明治十九年十一月廿六日出生大正九年京都帝大土木科卒業同十二年任鐵道技師建設局工事課[illegible]岐阜工事事務所[illegible]勤後山口建設事務所長[illegible]事ヲ視察ス〔趣味〕撞球俳句〔家庭〕妻ちゑ（明卅六、滋賀縣宮川卯平姉[illegible]高女卒）長男貞彥（大十三）二男貞恒（同十五）長女まき（昭三）〔住〕岐阜市高砂町四丁目同所內

足立　仁　正五勳四　臺北帝大教授　理農學部勤務

北海道人元太郎長男明治卅年十一月出生大正元年家督相續同十年北海道帝大農科農藝化學科卒業北海道帝大助手同助教授臺灣總督府高等農林教授[illegible]部教授等ヲ經テ昭和十年現職ニ就ク[illegible]米各國ニ留學ス〔家庭〕妻みつ子（明四〇、千葉縣鈴木貫太郎二女）長男元彥（昭二）長女洋子（昭四）二男道彥（同十二）〔住〕臺北市大安字龍安坡四六二〔電話〕四二二一

足立　[illegible]　從五　官幣中社嚴島神社宮司

島根縣士族鐵太郎長男明治廿四年四月出生同四十三年[illegible]第一和歌山各中學教諭國幣小社[illegible]官幣大社氷川神社國幣中社[illegible]神社宮司ヲ經テ昭和十一年現職ニ就ク〔趣味〕音樂〔家庭〕妻靜江

（明廿二、島根縣壹家森本粂之亟長女松江高女卒）長女みや子（同四四、浦和高女卒）住廣島縣佐伯郡嚴島町大西同神社內電三六

足立　富　正六勳六　旭川市長

鳥取縣儀三郎長男明治廿三年十一月出生大正十二年東京府屬兼內務屬拜命島根縣大原郡長地方事務官島根縣隱岐支廳長ヲ經テ昭和七年退官同年七月旭川市助役就任同十四年三月市長ニ擧ゲラル趣味スキー圍碁家庭妻くの（明廿三、鳥取縣西村伊勢太郎妹）長男浩（同四三）同妻かつゑ（旭川市立女學卒）同長女京子（昭十四）二男和（大十、法政大在）三男東（同十三、國立旭川中在）四男昭（昭二、同上）住旭川市川端町四丁目電二五六八

足立　泰雄　從四勳四　商工技師兼燃料局技師　鐵鋼局製鐵課長

東京府人確三ノ男明治廿九年十月廿九日出生大正八年東京帝大工學部採鑛冶金科卒業農商務技手同十年鑛務技師同十四年農商務技師同年商工技師同十五年燃料研究所技師兼任昭和十三年八月臨時物資調整局技師兼商工技師第一部第一課長同十四年六月商工技師兼燃料局技師鐵鋼局製鐵課長ヲ經テ現職ニ就ク曩ニ歐米各國ニ出張ス趣味釣魚家庭母たか（明四）妻富美（同卅四）男隆（大十五）女信子（同十三）住四谷區本村町三三電四谷一一〇六

足立芳之助　正五勳五　滋賀縣立彥根中學校長兼教諭

京都府理兵衞三男明治廿年四月十四日出生同四十三年東京高師卒業鳥取商業三次中學各教諭世羅虎姫各中學校長ヲ經昭和五年現職ニ就ク家庭妻ふみ子（明卅、京都府小牧弁助長女福知山高女卒）長男芳郎（大三）二男芳雄（同十五）二女順子（昭六）住彥根市下番衆町二二一

足羽　則之　從五　鐵道書記官兼外務書記官　運輸局勤務

鳥取縣人昭和四年東京帝大獨法科卒業鐵道省事務官鐵道局副參事東京鐵道局人事課長鐵道省事務官運輸局勤務ヲ經テ昭和十六年十二月鐵道書記官ニ任ズ曩ニ企畫院書記官總力戰研究所員ヲ兼ヌ家庭妻朔子（明四五）住大森區馬込町東四ノ二六八

吾妻　豐　正六　興亞院調查官

東京府人昭和七年東京帝大法學部法律科卒業興亞院事務官華中連絡部在勤經濟部勤務ヲ經テ昭和十六年十一月興亞院調查官ニ任ズ住本鄕區駒込上富士前町七三電大塚五七〇七

我妻　榮　從四勳三　東京帝大教授　法學部勤務

山形縣又次郎ノ長男明治卅年四月一日米澤市ニ出生大正九年東京帝大法科獨法科卒業同大學助手助教授ヲ經テ昭和二年現職ニ就ク大正十二年歐米各國ニ留學ス家庭妻緣（明卅八、鈴木米次郎三女佛英和高女卒）長男洋（昭三）二男堯（同五）住板橋區石神井南田中一〇七一電石神井一二二

阿賀　正美　從五勳六　厚生書記官　人口局管理課長

福岡縣人明治卅六年三月十六日同縣若松市ニ出生大正十五年東京帝大法學部政治科卒業東京府ニ入リ次デ內務省社會局勞働部勤務昭和四年任地方事務官宮崎縣勤務山梨縣農商課長千葉縣社會課長等歷任昭和十年社會局事務官保險部勤務同十三年四月保險院書記官社會保險局監理課長同十六年一月體力局企畫課長ヲ經テ同年八月現職ニ就ク家庭妻對子（明四一、東京府江口鱗六四女實踐高女卒）男義文（昭九）長女洋子（同十二）二女敬子（同十四）住世田谷區野澤町一ノ九二電世田谷三八二一

阿久津國造　從四勳三　北海道帝大教授　工學部勤務

栃木縣龜松ノ二男明治廿三年八月廿八日出生大正四年分家ス同二年東京帝大工科造兵科卒業同十二年歐米各國ニ留學歸朝後現職ニ就ク曩ニ學生主事ヲ兼ヌ家庭妻いと（明卅五、東京府中村三郎養妹九段精華高女卒）女きよ（大十一）住札幌市大通東七ノ一電四八四六

阿久津謙二　從四勳四　東京商大附屬商學專門部教授

栃木縣人耕作ノ二男明治十六年九月廿二日出生大正十年分家ス夙ニ米國ニ留學ミネソタ州立大學卒業バチユラー、オブ、ローノ稱ヲ受ケ歸朝後栃木中學同商業廣島商業各教諭山口東京各高商教授東京商大豫科教授兼附屬商學專門部教授同學生主事等歷任昭和七年東京商大豫科教授同十一年二月現職ニ任ズ趣味運動競技家庭妻ムメ（明廿四、栃木縣飯島養治長女）一女智惠子（大七）女惠美子（同十一）五女典子（昭三）住淀橋區西大久保三ノ一三八電四谷六七四〇

阿久根　睦　從四勳四　醫博　海軍軍醫大佐　名古屋帝大教授　醫學部勤務

鹿兒島縣人助市ノ二男明治廿七年四月出生昭和十年分家ス大正八年東京帝大醫學部卒業海軍々醫中尉ニ任ジ昭和十年海軍々醫大佐ニ累進其間佐多軍醫長佐世保海軍病院教官吳海軍病院教官獨逸國駐在伊勢軍醫長兼分隊長海軍々醫學校教官兼監事兼名古屋醫科大學教授ヲ歷任昭和七年學位ヲ受ク趣味旅行讀書家庭妻クニ（明卅一、鹿兒島縣中村吉太郎長女鹿兒島縣立第一高女卒）男淳（昭三）女和子（大十一）二女恭子（同十三）三女治子（昭八）四女周子（同十）住名古屋市千種區覺王山通一ノ四ノ二電千種一〇〇三

阿妻　利八　正五勳五　東京府立第四高等女學校長

福島縣鈴木粂吉ノ二男明治十六年一月六日出生後同縣阿妻實太郎ノ養子トナル同四十四年東京高師卒業同校教諭兼生徒監補助ヲ經テ愛媛縣女子師範教諭宮城縣立涌谷高女校長等歷任大正十一年現職ニ就ク趣味讀書旅行園藝家庭妻イチ（明廿一、養父實太郎長女會津女學卒）長男和幸（大六、東京高師卒）二女トシヱ（明四四、東京女師範二部卒）四女久枝（同十三、府立第四高女卒）二男忠夫（昭三）住八王子市明神町四八三電一一四〇

阿刀田令造　正四勳三　第二高校々長兼教授

宮城縣人義潮長男明治十一年八月七日出生大正十一年家督相續明治卅八年東京帝大文科史學科ヲ卒業私立京都高女校長ヲ經テ同四十三年第二高校教授ニ轉ジ昭和七年同校長ニ任ズ趣味旅行謠曲家庭妻たま（明十三、宮城縣椎川恒妹東京女高師家政科卒）長男駿郎（同卅九、東京帝大法學部卒）二男研三（同四五、東北帝大理學部副手）三男徹三（大四、東北帝大理學部卒）四女アヤ（同七）住仙臺市外記丁官舍電七三七

阿原　謙藏　從四勳三　文部省宗教局長

京都府人安太郎ノ二男明治卅年一月出生昭和八年分家大正十年京都帝大法科獨法科卒業同十一年高文合格埼玉縣兒玉北埼玉各郡長地方事務官埼玉群馬各縣勤務地方警視栃木宮城各縣勤務文部書記官學生部學生課長思想部思想課長大臣官房文書課長資源局事務官文部書記官兼內閣調查局調查官等歷任昭和十二年文部省思想局長教學局企畫部長同十四年高松高商校長ヲ經テ同十五年四月現職ニ就任ス同十一年歐米各國ヘ出張セリ家庭嗣子利夫（昭五）長女美也子（昭三）二女朗子（同八）住澁谷區金王町五電青山三四七〇

阿武實二郎　從四勳三　九州帝大教授　法文學部勤務

山口縣人明治廿三年四月出生大正七年東京帝大法科獨法科卒業同九年任判事爾來東京甲府各區同地方東京福岡各地方裁判所判事福岡地方裁判所部長歷補昭和三年長崎控訴院判事ヲ經テ同十年九州帝大教授ニ轉ジ同十一年四月法學部長ニ擧ゲラル家庭嗣子總信（昭三）女雍子（大十）住福岡市十軒屋町三八〇ノ二電西七〇八

阿部　鼎　正五勳五　宮城控訴院判事

福島縣傳兵衞四男明治廿七年一月出生大正七年京都帝大法科卒業三井物產會社勤務後任判事山形青森秋田各地方裁判所豫審判事及部長仙臺地方裁判所部長ヲ經テ現職ニ就ク趣味謠曲小鳥讀書家庭妻ツネ（明卅一、北星高女卒）男男夫（昭三）女チヅ子（大十四）住仙臺市土樋町一九八

阿部　一郎　從四勳五　內務技師　國土局河川課勤務

宮城縣幾之助長男明治廿六年二月出生大正七年京都帝大工科土木工學科卒業內務工手次デ內務技師ニ任ジ仙臺下關各土木出張所勤務土木局第二技術課勤務ヲ經テ現職ニ就ク家庭妻たか（明卅、宮城縣佐藤二郎長女仙臺東華高女卒）男桂一（大十二）女保子（同九、久留米高女卒）二男力（昭四）住本鄕區駒込林町一五七

阿部　泉　正六　朝鮮總督府道事務官　全羅南道警察部長

岩手縣人明治四十二年二月十二日出生昭和六年高文行政科合格翌年京城帝大法文學部法科卒業同十年朝鮮總督府道警視同十三年同府事務官同十五年十二月同府道事務官忠淸北道警察部長ヲ經テ同十六年十二月現職ニ就ク住朝鮮光州府光山町全羅南道警察部內

阿部　嘉七　從四勳三　門司市長

熊本縣人嘉平ノ三男明治十八年三月出生同四十三年神戶高商ヲ卒業次デ東京高商專攻部ヲ卒ヘ大正元年高文合格爾來石川縣屬臺灣總督府事務官山形縣理事官高知岡山兵庫各縣警察部長警視廳書記官大分茨城靜岡各縣知事歷任昭和十一年四月退官同十二年門司市長トナル趣味ゴルフ將棋家庭妻みさを（明廿六、長野縣増田通三女）男才三（同四五、東京帝大法科卒）同妻春子（大十）男仁助（大三、同大學卒）男弘吉（同五、京都帝大法學部卒）住門司市一坂町公宅電二二二

阿部　嘉輔　正五勳二　海軍少將　海軍大學校教頭　校長代理

山口縣人明治廿三年出生同四十四年海軍兵學

校卒業任海軍少尉昭和十三年十一月同少將ニ累進其間海軍大學校卒業海軍省副官海軍大臣秘書官佛國駐在國際聯盟帝國海軍代表者隨員海軍大學校教官那珂艦長內閣調査局調査官山城八雲各艦長企畫院第二部長等ヲ經テ同十五年十一月現職ニ就ク【家族】妻靜子、男秀夫（大十三）同文夫（同十五）同道夫（昭六）同芳夫（同十）女紀久子（同十五）住鎌倉市西佐助六八六 電一六五七

阿部 吉郎 正七 都市計畫地方委員會事務官兼地方事務官京都市計畫京都地方委員會勤務京都府土木部監理課長

秋田縣人明治卅六年十一月六日出生大正十三年新潟高校卒業昭和二年東京帝大法學部法律科卒業高文行政科合格同七年京都府屬拜命同十三年任社會事業主事同府社會課勤務ヲ經テ同十六年八月現職ニ任ズ 住京都市左京區北白川上終町官舍 電上七五三〇

阿部 久一 從七 商工事務官 機械局勤務

新潟縣人大正三年十一月五日出生昭和十三年高文行政科合格翌年東京帝大經濟學部經濟學科卒業同年商工屬拜命工務局勤務振興部勤務ヲ經テ同十五年一月現職ニ任ズ 住世田谷區代田一ノ三九五

阿部久三郎 從四勳四 大阪帝大教授 工學部勤務

福島縣阿部久治郎ノ二男明治廿九年九月三日出生大正九年九州帝大工學部機械科卒業東北帝大講師昭和四年大阪帝大助教授ヲ經テ同十七年一月同教授ニ任ズ同五年歐米ニ留學ス【趣味】スポーツ【家族】妻喜代（明卅六、宮城縣耕陸長女）長男久郎（大十五）住京都府乙訓郡大山崎村三三 電山崎二〇

阿部 清 正五 工博 京都帝大教授 工學部勤務

德島縣人豐太郎四男明治卅五年六月出生昭和十年分家ス大正七年京都帝大工科電氣工學科卒業財團法人靑柳研究所技師京都帝大工學部講師ヲ經テ昭和五年同大學助教授ニ任ズ同十年學位ヲ受ク【家族】妻美穗（明卅、京都府小貫フジ養子）住京都市左京區吉田中大路町三四

阿部 清紀 從四勳五 內務技師 橫濱土木出張所勤務

福島縣士族濟ノ二男明治廿四年十一月出生大正四年分家ス同七年京都帝大工科土木工學科卒業任內務技師東京土木出張所利根川改修事務所主任名古屋土木出張所勤務ヲ經テ昭和十四年六月現職ニ就ク【家族】妻イヨ（明卅、福島縣川島榮一郎孫）嗣子吉男（大十）住橫濱市內務省橫濱土木出張所內

阿部 邦一 正五勳五 愛媛縣書記官 總務部長

德島縣人明治卅二年十二月五日出生大正十一年高文ニ合格翌年東京帝大法學部英法科卒業石川縣河北郡長地方事務官大阪府警察部調停課長都市計畫地方委員會事務官兼地方事務官兵庫縣都市計畫課長兼學務課長土木部庶務課長鹿兒島縣書記官經濟部長內務部長書記官土木局道路課長等歷任昭和十三年秋田縣書記官總務部長同十五年四月三重縣書記官總務部長ヲ經テ同十六年一月現職ニ就ク嚢ニ同三年上海同十年歐米各國ニ出張ス【趣味】スポーツ謠曲【家族】妻（明卅六、生田和平二女神戸女學院卒）嗣子嘉文（大十五）住松山市御寶町官舍 電四三一

阿部 源藏 從五勳六、高知縣書記官 學務部長

福岡縣人故八重吉ノ長男明治卅三年十二月一日出生大正十四年東京帝大法學部英法科卒業同年高文行政科合格同十五年警視廳ニ入リ駒込警察署ニ勤務爾來警務部警務係昭和三年月島警察署長同四年任警視廳警視大森高輪堀留四谷本富士愛宕各警察署長同十二年警視廳消防司令消防部消防課長等歷任同十三年地方事務官山梨縣總務部地方課長兼知事官房主事同十四年兵庫縣經濟部農政課長ヲ經同十六年一月現職ニ就ク【家族】妻わか（明四十、栃木縣岩崎爲三郎三女）長男義武（昭五）二男眞也（同六）長女ひろ子（同十二）三男修平（同十四）住高知市永國寺町縣公舍 電一八一一

阿部源太郎 留萠國民職業指導所長

北海道源吉ノ長男明治卅五年十二月九日旭川市ニ出生大正十二年旭川中學卒業昭和二年北海道廳財務書記拜命同七年任同廳屬同十六年現職ニ就任ス【趣味】運動【家族】妻サヨ子（明卅七、北海道藤原剛三郎二女）長男潤一（昭五）長女智子（同元、札幌市立高女在）二女龍子（同三）二男英一（同十）三女道子（同十二）四女典子（同十五）住北海道留萠町南大通一七二 電三八八

阿部 光寬 正六 農林事務官 總務局勤務

山口縣士族明治四十四年七月一日出生昭和六年高文行政科合格翌年東京帝大法學部法律學科卒業同七年農林屬拜命蠶絲局勤務同十年農林事務官ニ任ジ蠶絲局勤務同十二年農務局勤務同十四年臨時農村對策部兼務ヲ經テ同十六

年一月總務局勤務ヲ命ゼラル 住豐島區池袋三ノ一五六三（應召中）

阿部 剛一 正五勳五 朝鮮總督府判事 高等法院判事

愛媛縣芳太郎長男明治十八年出生大正二年東京帝大法科政治科同九年法律科各卒業東京地方裁判所判事京城釜山馬山各地方法院判事大邱覆審法院判事同部長等歷職昭和十年現職ニ就ク【家族】妻まさ（明卅）長男年男（昭四）長女道子（大九）住京城府南米倉町一八九 電本局五四二五

阿部 次郎 正四勳三 東北帝大教授 法文學部勤務

山形縣人富太郎二男明治十六年八月出生大正三年分家明治四十年東京帝大文科哲學科卒業歐洲留學大正十二年歸朝東北帝大教授ニ任ズ嚢ニ法文學部長タリ【家族】妻つね（明十四、東京府宮崎覺長女女高師專修科卒）男敬吾（大十一）女和子（同三）女美和子（同六）三女千枝子（同九）住仙臺市土樋町二四五 電三五九三

阿部 謙夫 從四勳五 鐵道技師 信濃川電氣事務所長

北海道宇之八ノ三男明治廿七年四月出生大正六年東京帝大工科土木科卒業遞信省東京市各勤務ヲ經テ鐵道技師ニ任ジ昭和十四年七月現職ニ就ク【家族】妻ヒロ（明卅三、沖巖妹）長男孝太郎（昭二）長女なほ子（大十一）二女よし子（同十二）四女とも子（昭七）二男修二郎（同十二）住新潟縣中魚沼郡千手町同事務所內

阿部修四郎 正五勳四 帝室林野局技師 東京支局長

青森縣賢吉四男明治廿年三月出生大正九年分家同四年東京帝大農科林學科卒業任帝室林野管理局技手木曾支局三殿東京支局天城各出張所長帝室林野管理局技師次デ帝室林野局技師東京支局業務課勤務昭和十四年同業務課長ヲ經テ東京支局長ニ就ク【趣味】刀劍菊栽培【家族】妻くに（明卅一、青森縣田澤兵治長女）男修二（昭二）女靜子（大十）三男修三（昭五）住杉並區阿佐ケ谷六ノ二二四

阿部 遼一 正六 朝鮮總督府道事務官 慶尙北道警察部長

東京府人昭和六年東京帝大法學部法律科卒業朝鮮總督府ニ入リ府事務官ヲ經道事務官全羅北道警察部長トナリ昭和十六年二月現職ニ就ク 住大邱府上町慶尙北道警察部內

阿部 養夫 從四勳三 醫博 鐵道醫 東京鐵道病院長

大分縣如山長男明治十年四月十日出生大正五年家督相續明治卅七年東京帝大醫科卒業大學院ニ學ビ同大學副手佐藤外科ニ勤務同卅九年同助手同四十四年臺灣總督府醫院長兼同大學教授臺北醫院外科部長大正五年瑞西ニ出張歸朝後鐵道醫ニ任ジ東京鐵道病院副院長ヲ經テ現職ニ就ク【家族】妻イト（明廿一、大分縣渡元妹大分縣立高女卒）男子郎（同四五）女碩子（大六）四男十郎（同十）五男丑郎（同十四）住淀橋區十二社二六一 電淀橋九五〇

阿部忠次郎 從五 小樽市立高等女學校長

青森縣宇三郎二男明治卅年二月廿日出生大正十年東京高師卒業札幌師範教諭野付牛中學校教頭深川高女校長歷任昭和八年現職ニ就ク【趣味】スポーツ書畫【家族】妻愛子（明四十、千葉縣鈴木勝三養女）二男孝（昭四）長女淑子（同六）二女澄子（同八）三女美智子（同十）住小樽市仲ノ町一五 電一四三九

阿部 泰夫 地方事務官 富山縣經濟部農產課長

福岡縣人大正四年三月五日出生昭和十年同縣小倉師範卒業同十三年高文行政科合格熊本縣屬地方課勤務同十五年任地方事務官沖繩縣ニ轉ジ同十六年官房主事兼人事課長兼庶務課長及稅務課長等歷職同十七年一月現職ニ就ク 住富山市富山縣廳經濟部內

阿部 房市 從五勳六 地方技師 秋田縣經濟部林務課長

愛媛縣人明治廿三年五月八日出生大正四年東京帝大農科林學實科卒業岡山縣林業技手同縣技手同十一年同縣產業技師內務部山林課勤務同十四年同縣農林技師ヲ經テ昭和十二年地方技師ニ任ジ東京府勤務同十三年十一月現職ニ就ク 住秋田市楢山上本町五 電二九五一

阿部文二郎 從三勳二 行政裁判所評定官兼法制局參事官

岩手縣和三郎ノ二男明治十三年三月廿一日出生明治卅九年東京帝大法科獨法科卒業後伯林大學ニ學ビ歸朝後東京地方裁判所部長ヲ經テ現職ニ就ク【家族】妻和子（明廿二、新潟縣黑田英雄長女）男文雄（同四四）同妻千代子（大十）三男漸（同十）四女芩子（同十三）住麻布區廣尾町七九 電三田二五三一

阿部牧太郎 從五勳六 鐵道書記官兼遞信書記官 運輸局旅客課長

大分縣人明治卅一年三月九日出生大正十年山口高商ヲ經テ同十四年高文行政科合格同十五年東京商大卒業鐵道省ニ入リ累進昭和四年鐵

道局副參事札幌鐵道局釧路運輸事務所長同十二年廣島鐵道局貨物課長同十三年任同參事新潟鐵道局運輸部長各歷職同十四年鐵道調查部書記官同部第一課勤務ヲ經テ同十六年四月任鐵道書記官同年七月遞信書記官兼任現職ニ就ク曩ニ滿洲國及中華民國ヘ出張ス住牛込區新小川町一ノ一四電牛込一一二五

阿部八代太郎　正四勳三　東京高師教授
岡山縣柏太郎ノ長男明治十六年十二月三日出生大正四年家督相續明治四十二年京都帝大理工科數學科卒業第三高校講師ヲ經テ同四十四年現校教授ニ任ズ大正四年英佛獨ニ留學著書數種アリ■讀書園藝■妻俊子(明廿六、兵庫縣橫尾孝妹)長男正英(大元)二男宏夫(同三)女治子(同六)三男英三(同九)住豐島區西巢鴨二ノ二二〇〇電大塚二二〇

阿部　安二　從六　營林局技師　東京營林局經營部土木課長
新潟縣人明治卅四年十月三日出生昭和三年任陸軍工兵少尉翌年東京帝大農學部林學科卒業同七年營林局技手同十年東京營林局勤務同十一年營林署技手ヲ經テ翌年營林局技師ニ任ジ靑森東京各營林局勤務同十四年九月現職ニ就ク住杉並區馬橋町三ノ三六四

阿部余四男　從四勳三　廣島文理大教授
山形縣富太郎ノ四男明治廿四年一月出生大正五年東京帝大理科動物學科卒業第二高校廣島高師各教授ヲ經テ昭和四年廣島文理大教授ニ任ズ曩ニ同校附屬臨海實驗所長タリ昭和二年動物學研究ノ爲メ獨逸ニ留學ス■美術鑑賞旅行■妻やゑ(明廿四、山形縣齋藤憲太郎叔母)長男富士雄(大六)三女ゆり(同十一)四女萬里子(昭二)五女貴美(同五)六女千鶴子(同八)住廣島市西白鳥町廿一

阿部　隆介　正六勳六　文部理事官兼東京高師教授　大臣官房秘書課勤務
東京府士族明治卅一年八月十一日出生大正七年東京外語英語科卒業同九年文部屬拜命大臣官房文書課勤務昭和八年兼任東京高師教授同十五年一月文部理事官ニ任ゼラル住四谷區南寺町一六

阿部　鐵一　從五勳六　地方商工技師　新潟縣釀造試驗場長
新潟縣讓太長男明治廿六年八月十日出生大正六年大阪高工卒業東京稅務監督局技手拜命埼玉縣技師兼任昭和二年任新潟縣商工技師同五年現職ニ就ク■妻ミキオ(明卅一、新潟縣相馬倚平三女新發田高女卒)嗣子譽男(大十)二男慶二(同十三)三男稔(昭二)長女都子(同四)四男進(同七)五男壯(同十一)住新潟市關屋松波町八ノ一電二二〇四

相川　勝六　從四勳三　愛知縣知事
佐賀縣人定藏二男明治卅四年十二月六日出生大正八年東京帝大法學部獨法科卒業任千葉縣屬同年高文行政科合格爾來德島縣理事官警視廳警視宮內大臣秘書官兼宮內書記官內務事務官警視廳書記官刑事部長京都府書記官學務部長神奈川縣書記官警察部長內務事務官警保局保安課長朝鮮總督府事務官同官房外事課長宮崎縣知事等歷任昭和十四年九月廣島縣知事ヲ經テ同十六年三月現職ニ就ク■妻靜(明卅五、佐賀縣立高女卒)男統藏(大十二)長女道子(同十四)二男洋二郎(同十五)二女禮子(昭三)住名古屋市中區南武平町官舍電中二三四五

相川要次郎　浦和市長
埼玉縣先代宗次郎長男明治廿一年一月出生前名幾太郎ヲ改メ襲名ス後米穀商ヲ營ミ昭和十三年浦和市長ニ就任ス■妻みや(明廿六、埼玉縣吉澤文作二女)嗣子晋司(大五)四男博司(同十四)三女靜子(昭二)五男憲司(同四)四女節子(同七)住浦和市岸町七ノ五電二〇二〇

相川　廣秋　正六　農博　農林技師兼水產試驗場技師
東京府保三ノ長男明治卅六年一月一日東京市ニ出生大正十四年東京帝大農學部水產科卒業昭和四年水產講習所囑託拜命同九年水產試驗場技師同十六年十月現職ニ任ズ同十三年農博ノ學位ヲ受ク■妻俊子(明四五、福島縣黑川元三女跡見高女卒)長女洋子(昭八)二女溪子(同十)住大森區入新井四ノ七四四

相川　龍藏　正八　地方警視　富山縣警察部經濟保安課長
富山縣人明治卅五年十二月廿五日出生大正十二年同縣巡查拜命爾來累進昭和十一年任警部同十三年同縣屬兼警部勞務課長工場監督官同十五年專任警部刑事課長等歷職同十六年三月保安課長ヲ經テ同年九月任地方警視現職ニ就ク住富山市總曲輪官舍電三三五〇

相澤庄次郎　正八　地方事務官　栃木縣知事官房文書課長
群馬縣晋造ノ二男明治卅三年十二月五日出生大正十五年明大專門部法科卒業福島縣屬拜命栃木縣屬秘書課長ヲ經テ昭和十七年一月任地方事務官現職ニ就ク■讀書運動■妻浪江(明卅七、富山縣安川亮敏長女矢板實踐女學

卒)長女富久子(昭二)長男敏郎(同四)二女洋子(同十一)住宇都宮市塙田町公舍

相澤　廣治　正五勳四　地方技師　宮城縣經濟部勤務　宮城縣農學校長
宮城縣角治ノ長男明治廿年十一年廿日出生同四十二年盛岡高等農林卒業同校研究科ニ入リ大正元年任宮城縣技手爾來宮城縣穀物檢查所長同縣技師公立實業學校長兼教諭栗原農學校長等ニ歷任昭和七年現職ニ就ク■園藝■妻ゑい(明卅、宮城縣佐々木粂吉長女東華高女卒)嗣子廣一(大七)四男廣(同十二)長女りゑ子(同十三)二女けい子(昭元)五男匡(同二)三女ゑみ子(同五)六男齊(同八)住仙臺市東新町一〇

相葉　警　從六　地方視學官　靜岡縣學務部勤務
三重縣人明治卅四年七月七日出生昭和二年京都帝大法學部卒業三重縣桑名中學教諭弘前高校教授各歷任同四年大學院ニ學ビ濱松市立高女同志社中學同八年靜岡縣立富士中學各教諭同十三年大宮工業並同商業教員等經テ同十七年四月現職ニ就ク住靜岡市靜岡縣學務部內

相田　泰三　從五勳六　秋田縣立角館中學校長
福島縣赤作五男明治廿五年六月七日若松市ニ出生大正五年廣島高師卒業大泊會津各中學大泊高女教諭本莊高女校長等ヲ經テ現職ニ就ク■謠曲■妻セイ(明廿八、小林靜藏長女會津高女卒)長男浩(大十一)二男恒夫(同十三)長女和子(同十五)三男三郎(昭四)四男豐(同六)五男泰男(同十)■秋田縣仙北郡角館町同校內電一一三

相原一郎介　從六　文部省宗務官
宮城縣士族三郎治ノ長男明治十六年四月十四日仙臺市ニ出生同廿九年家督相續ス同卅七年第二高校ヲ經テ同四十年東京帝大文科卒業爾來內務省宗敎局囑託文部省宗敎局囑託水產講習所囑託兼外國語學校敎授等ヲ經テ昭和十四年八月現官ニ任ズ曩ニ大正十四年歐米ニ留學昭和十四年八月中支方面調查ニ出張大正十一年以來駒澤大學講師ヲ兼任ス■弓道■長男良一(大元、東大法科卒高輪中學敎諭)長女マリ(同五、捜眞女學卒日本畫家)二男和光(同六、京大法科卒)住鎌倉市雪ノ下四〇六

相原　貫藏　正五勳五　宮城縣古川中學校長
明治廿四年一月廿日神奈川縣厚木町ニ出生同四十五年東京高師地歷部卒業福井福島青森宮城各師範敎諭白石中學校長歷任昭和十年現職ニ就ク■妻エイ(明廿八)二男俊二(大十四)二女和子(同十)三女久子(同十二)三男啓次(昭二)四女規子(同四)五女良子(同六)住宮城縣志田郡古川町

相原　方宮　從五勳六　朝鮮總督府鐵道局技師　鐵道局京城工場長
愛媛縣人大正十五年東京帝大工學部機械科卒業現時前記ノ任ニアリ■京城府同工場內

相原　守正　從四勳四　檢事　吳區裁判所檢事兼廣島地方裁判所吳支部檢事
愛媛縣勝藏ノ二男明治廿年三月出生大正三年東京帝大法科獨法科卒業同五年任檢事宇都宮區兼同地方小濱區金澤區兼同地方笠岡區岡山地方兼同區下關區兼山口地方下關支部山口地方兼同區各裁判所檢事昭和四年鳥取地方同區裁判所檢事同八年三次區兼廣島地方三次支部檢事濱田區兼松江地方濱田支部津山區兼廣島地方津山支部各檢事ヲ經テ現職ニ就ク■妻喜代江(明廿九、兵庫縣岡本槌之助長女)男義憲(大十四)女久子(同十)五女千枝(昭四)住吳市稻荷町同所內

會田　邦松　從七勳七　地方事務官　福島縣南會津支廳長
福島縣人明治卅一年二月三日出生大正六年縣立安積中學卒業同十五年同縣屬拜命爾來文書課地方課總動員課各歷勤昭和十六年庶務課兼地方課勤務ヲ經テ同年十一月任地方事務官現職ニ就ク住福島縣南會津郡田島町支廳長官舍

愛知　揆一　正六　大藏書記官　理財局外事課長　對滿事務局事務官
東京府士族敬一長男明治四十年十月出生昭和六年東京帝大法學部政治科卒業大藏省ニ入リ倫敦駐在兩國橋稅務署長大藏事務官同財務官北京在勤興亞院書記官華北連絡部在勤同十六年四月大藏事務官兼大藏書記官外務書記官次デ現職ニ就ク■運動■母祥(明廿)妻富子(大四、東京府宇田倚二女府立第二高女卒)■澁谷區千駄ケ谷一ノ五六二電青山四八五

靑木　市治　從六勳六　電氣廳事務官
東京府市右衞門長男明治卅年一月五日出生大正元年遞信省ニ入リ大臣官房文書課勤務同六年遞信屬拜命同十五年文書係長昭和九年通信事務官兼遞信局事務官水戶郵便局長同十年簡易保險事務官第五徵收課長次デ簡易保險事務官簡易保險局第二徵收課長ヲ經テ同十四年

四月現職ニ就ク趣味讀書旅行家庭妻茂代（明卅一、長野縣大澤林次郎長女）長男市雄（大九）長女富美子（同十三）住世田谷區弦巻町一ノ三電世田谷二一五五

青木 久作　從七　地方警視　靜岡縣警察部刑事課長
靜岡縣人明治卅五年十一月一日出生大正六年同縣巡査拜命昭和二年警部補同七年任警部警察練習所長熱海吉原藤枝各警察署長歷職同十四年六月現職ニ任ズ住靜岡市春日町一四電二二六六

青木 清松　從七　南洋廳事務官　內務部財務課長
岩手縣人清藏ノ四男明治卅四年五月四日出生大正八年臨時南洋群島防備隊民政部附トシテ海軍省人事局ヨリ赴任昭和三年任南洋廳屬同十五年十二月任同事務官現職ニ就ク趣味スポーツ文樂人形讀書家庭妻トミ（明四三）住南洋パラオ諸島コロール島官舎

青木 楠男　從四勳五　內務技師　內務省土木試驗所兼東京土木出張所勤務
秋田縣士族定謙七男明治廿六年七月廿三日出生大正七年東京帝大工科土木工學科卒業內務省土木局調査課ニ勤務翌年任內務技師東京第一土木出張所及土木局兼務同十三年歐米各國ニ出張歸朝後前記ノ職ヲ拜命電弧熔接構造物ニ關スル著書二三アリ趣味卓球庭球洋樂家庭妻スミ（明卅五、東京府馬島渡二女府立第二高女卒）女豐子（大十）二女朵子（昭三）住板橋區板橋町六ノ三四五八電板橋八八七

青木 熊夫　正六　拓務書記官　拓北局青年課長
新潟縣人大正十五年東京帝大農學部農政學科昭和四年同大學法學部英法科各卒業拓務省ニ入リ拓務事務官拓務局勤務管理局兼務同十五年五月拓務書記官拓務局南米課長同年十一月同第三課長ヲ經テ同十六年十月現職ニ就ク屢ニ海外ニ出張ス住世田谷區經堂町三六六

青木 徹輔　從四勳四　判事　若松區裁判所監督兼福島地方若松支部々長
福岡縣輪之輔ノ長男明治廿一年十一月出生大正五年京都帝大法科英法科卒業同七年任判事德島地方兼同區和歌山地方兼同區大阪區兼同地方高知地方兼同區神戸地方大阪地方各裁判所判事大阪控訴院判事奈良神戸各地方裁判所部長歷任昭和十五年二月現職ニ就ク趣味旅行讀書家庭妻富子（明廿八、大阪府須藤信顯四女）男孝穎（大十三）女廣子（同七）女智子（同十）女妙子（同十二）女賢子（昭二）二男久穎（同三）住若松市榮町同區裁判所內

青木 貞雄　從五勳六　埼玉縣書記官　警察部長
宮城縣人明治卅一年四月十五日同縣遠田郡ニ出生大正十年宮城縣師範本科第一部卒業爾來同縣原町尋常高等東京市千束尋常同一橋高等各小學校等ニ歷職其間昭和三年日大法文學部法律科卒業在學中高文行政科司法科各合格爾來青森縣屬兼同縣警部地方警視大分縣保安課長兼刑事課長愛媛廣島福岡各縣特高課長警視廳警視特別高等警察部特高第二課長等歷任昭和十五年四月德島縣書記官警察部長ヲ經テ同十六年一月現職ニ就ク住浦和市高砂町官舎電浦和二〇一二

青木 重臣　從五勳五　千葉縣書記官　警察部長
長野縣人善藏三男明治卅三年八月六日出生大正十三年第二高校昭和二年京都帝大法學部各卒業其間大正十五年高文行政科合格石川縣警部同縣巡査教習所長警視廳技手兼警部同屬兼警部專任警部警視廳警視麻布六本木深川西平野各警察署長地方警視大阪府勤務同府監察官地方事務官滋賀縣勤務關東廳事務官警務局警務課長同特高課長警務課長兼特高課長兼警察官練習所長等歷任昭和十一年依願免本官同十三年福井縣書記官警察部長同十四年內閣總理大臣秘書官兼內務書記官兼興亞院總裁秘書官警保局勤務同年九月厚生書記官職業部監理課長同十五年情報局情報局第一部第二課長內務大臣秘書官兼內務書記官警保局勤務同十六年七月國務大臣秘書官平沼國務大臣附同年十月內務事務官兼內務省監査官ヲ經テ同十七年一月現職ニ就ク家庭妻政子（明四一、埼玉縣田中作兵衞四女京華高女卒）住千葉市長洲町一ノ一一四官舎電一一一〇

青木 正兒　從四勳三　文博　京都帝大教授　文學部勤務
福岡縣坦平二男明治廿年二月出生同四十四年京都帝大文科支那文學科卒業爾來大日本武德會武術專門及同志社大學各教授東北帝大助教授ヲ經テ昭和十三年現職ニ就任ス曩ニ同十年文博ノ學位ヲ受ク著述アリ趣味繪畫家庭妻艷子（明廿七、山口縣紀藤織文長女山口高女卒）嗣子亮（大三、北海道帝大卒）女淑子（同十、宮城第二高女卒）女妙子（同十四）三男敎（昭二）四男潔（同四）住京都市左京區下鴨下川原四六

青木 善祐　從五勳六　宮崎市長
宮崎縣青木要平ノ二男明治廿五年十一月出生大正六年中央大法科卒業高文合格茨城縣警視岡山縣理事官熊本縣事務官地方事務官大阪府社會商務地方各課長山形縣學務警察各部長熊本縣警察部長等歷任昭和十三年長崎市助役同十三年同市長ニ就任同十五年三月退任同十六年一月宮崎市長ニ擧ゲラル趣味スポーツ演藝[illegible]妻靜子（明卅六、茨城縣黑澤敬長女水戸高女卒）男秀（大十一）女敏子（同十四）二女英子（同十五）住宮崎市役所內

青木 善之助　正五勳六　岐阜縣第二工業學校長兼敎諭
滋賀縣岩次郎長男明治廿二年七月廿七日出生大正六年東京高工卒業小倉工業佐賀縣立工業各敎諭ヲ經テ昭和二年現職ニ就ク家庭妻キヌ（明廿八）住大垣市南若森町

青木 大吾　正六　軍事保護院書記官　業務局業務課長　傷兵院事務官　傷兵院長
新潟縣人大吉ノ長男明治卅五年一月一日出生昭和四年東京帝大經濟學部卒業警視廳巡査拜命爾來埼玉縣警部兼屬地方警視長崎縣警務課長大阪府監察課長等歷職任厚生事務官臨時軍事援護部勤務昭和十四年七月軍事保護院事務官援護局勤務ヲ經テ同十六年十月現職ニ就ク家庭妻綾子（新潟縣鈴木時三郎長女長岡高女卒）長男大祐（昭五）長女裕子（同十）二女道子（同十三）住豐島區池袋三ノ一五四六電大塚二一一五

青木 保　從三勳二　工博　東京帝大工學部教授兼特許局技師　審査第二部勤務
大分縣士族工藤直作ノ四男明治十五年六月出生先代カツノ養子トナリ同卅七年家督相續同四十一年東京帝大工科造兵學科卒業同大學講師助教授歷任大正六年歐米ニ留學同九年歸朝後教授ニ進ミ同十一年學位ヲ受ク趣味謠曲家庭妻サタ（明廿一、高瀬武次郎義妹）男保雄（同四三）男貞夫（同四五）男正三（大四）長女シヅ（同十一）二女トシ（同十四）四男司郎（昭三）住世田谷區祖師ケ谷一ノ一二九六ノ二電砧四五七

青木 忠次郎　大阪市理事　電氣局電氣部長
大阪府忠兵衞ノ弟明治廿四年八月出生先代姉タメノ養子トナリ大正二年家督相續同五年京都帝大工科電氣工學科卒業現時前記ノ任タリ家庭養母タメ（明廿一、父忠兵衞長女）妻八重（明卅一、大阪府殿井伊三郎長女）男忠一（大十）女俊子（同九）二男豐二郎（同十二）二女弘子（昭三）住大阪市東區北久寶寺町一ノ四〇電船場三一三三

青木 常雄　從四勳五　東京高師教授
茨城縣士族賢ノ長男明治十九年十一月出生同四十三年東京高師同四十四年同校研究科各卒業任同校助教諭兼訓導大正三年同校專攻科英語部卒業後現職ニ就ク家庭妻登茂（明廿九、東京府鹿兒島文茂二女）男文雄（大四）三男敬銀（同十）二女道子（同十三）三女美代子（同十五）四女澄子（昭三）住小石川區雜司ケ谷町一ノ一一四電牛込二〇一九

青木 信夫　從五勳六　地方技師　大阪府土木部道路課長
明治卅二年二月廿七日出生大正十三年九州帝大工學部卒業同十五年任道路技師靜岡縣勤務昭和十年任土木技師兼道路技師同十二年任地方技師岩手縣土木課長ヲ經テ現職ニ就ク住大阪市住吉區阿部野筋二丁目官舎電天王寺一四八〇

青木 延春　正六　醫博　厚生技師兼人口問題研究所研究官　豫防局兼人口局勤務
山口縣人明治卅五年二月十八日出生大正十二年第一高校理科昭和二年東京帝大醫學部醫學科各卒業同大學副手助手國立感化院武藏野學院々醫[illegible]院醫員衞生局[illegible]同十一年[illegible]生技師同[illegible]デ同十四年[illegible]住中野區鷺宮二ノ八八一

青木 泰好　正七　東京市江戸川區長
長野縣人明治廿年十一月十九日出生同四十二年裁判所書記試驗合格東京府南葛飾郡書記任南葛飾郡長北豐島郡南千住町助役ヲ經テ昭和七年東京市荒川區主事稅務課長同八年庶務課長歷職同十三年現職ニ就ク趣味謠曲家庭妻みよ子（明廿三、三重縣橋本牧太郎長女實踐高女卒）男賢治（明卅九）同妻公子（大四）同長女みさ子（同十）長男隆宜（同十三）住杉並區天沼二ノ三九四電荻窪三〇一三

青木 秀夫　從五勳六　厚生書記官　人口局母子課長
栃木縣人定平二男明治卅六年八月十五日同縣ニ出生大正十三年高文行政科合格同十五年東

京帝大法學部政治學科卒業爾來山口縣屬兼警部社會局地方事務官鹿兒島縣社會課長三重縣教育課長工場課長地方警視岡山縣保安課長兼工場課長神奈川縣保安課長等歴任昭和十二年七月奈良縣書記官警察部長同十三年十一月軍事保護院書記官業務局輔導課長同十六年一月社會局生活局生活課長同年八月生活局生活課長ヲ經テ同十七年一月現職ニ就ク家庭妻成子（明四二、東京府村上龍英二女）男保之（昭十）長女明子（同六）住小石川區白山御殿町一二四電小石川五六〇五

青木秀穗　正八　地方警視　鳥取縣鳥取警察署長

鳥取縣人明治卅年四月十四日出生大正十年同縣巡査拜命昭和三年警部補同七年任鳥取縣警部境警察署警察部刑事課長河原八橋各警察署長警察部保安課長歴任同十四年六月任地方警視鳥取縣警務課長ヲ經テ現職ニ就ク住鳥取市鳥取警察署長官舍

青木文一郎　正五勳四　臺北帝大教授　理農學部長

岐阜縣士族貞治ノ長男明治十六年八月出生昭和四年家督相續明治四十三年東京帝大理科動物學科卒業大學院ニ學ビ大正二年九州帝大助手愛知醫大豫科教授第八高校講師臺灣總督府高等農林學校教授等歴任昭和四年現職ニ及ブ現ニ理農學部長タリ昭和二年歐米ニ留學ス趣味讀書庭掃除家庭妻りう（明卅二、岐阜縣大野幸一郎四女岐阜高女卒）男昭彥（大十）女瑠璃子（同六）女文子（同八）三女昭子（昭六）住臺北市昭和町大學官舍電三九九五

青木誠　從七　地方事務官　沖繩縣學務部社會課長兼軍事援護課長　總務部人事課長兼知事官房主事

佐賀縣人大正三年三月廿七日出生昭和十年福岡高校同十四年東京帝大法學部法律學科各卒業其間同十三年高文行政科合格翌年福井縣屬拜命總務部地方課勤務ヲ經テ同十五年四月現職ニ任ズ住那覇市久米町一ノ四九電五一八

青木正暎　正五勳四　行政裁判所評定官

福岡縣人吉田萱二六男明治卅一年十一月出生同卅七年同縣士族青木敏治ノ養子トナリ昭和二年家督相續大正十一年東京帝大法學部獨法科卒業高文合格大藏屬拜命爾來司税官前橋新潟各税務署長税關事務官長崎税關監視部長兼港務部長税務監督局書記官名古屋税務監督局間税部長仙臺税務監督局總務部長兼經理部長昭和十五年長崎税關長ヲ經同十六年十一月現職ニ任ズ家庭妻明子（明四一、愛知縣本多數馬長女東京府立第五高女卒）長男敏雄（昭七）二男秀雄（同十）住麹町區紀尾井町行政裁判所内

青木釜太郎　正五勳五　樺太廳立眞岡高等女學校長

神奈川縣人明治廿年二月六日同縣足柄下郡眞鶴町ニ出生大正七年早大高等師範部國漢科卒業後高崎中學小田原中學大洲中學豐原中學各教諭歴任昭和九年五月現職ニ就任ス趣味俳句住樺太眞岡町上町電八二三

青木雷三郎　勳四　明石市長

岡山縣尾藤饒作ノ弟明治十四年十一月廿六日出生青木與八郎ノ養子トナル大正元年中央大卒業同年辯護士試驗合格開業昭和十二年現職ニ就ク曩ニ代議士當選三回タリ趣味碁家庭妻美登利（明十八、養父與八郎長女新見高女卒）長男人（同四二、關西中卒）長女壽子（同四四、神戸女學院卒）二女律子（大三）二男美樹男（同十一）住明石市相生町二ノ一二〇三電六〇三

青木亮　從六　海務局書記官　神戸海務局大阪支局長

愛媛縣人茂ノ二男明治卅九年三月十五日出生昭和二年浦和高校同五年東京帝大法學部獨法科各卒業其間同四年高文司法科翌年同行政科各合格豐橋郵便局長廣島遞信局庶務課長兼遞信講習所長ヲ經テ北支那方面軍司令部附中華民國臨時政府郵政總局副郵務長北支那方面軍司令部囑託歴任昭和十四年八月保險院事務官兼臺灣總督府交通局副參事簡易保險局管理課勤務同十六年一月遞信局書記官名古屋遞信局經理部長ヲ經テ同十六年十二月現職ニ就ク住神戸海務局大阪支局内

青木廉二郎　正五勳四　東北帝大理學部教授

岐阜縣士族貞治ノ二男明治廿年一月出生大正三年東京帝大理科地質學科卒業更ニ大學院ニ入ル東北帝大講師同大學助教授ヲ經テ同十年米國ニ留學歸朝後昭和十一年同大學教授ニ進ム家庭妻えい（明廿八、宮城縣奥田末治三女）長女陽子（昭四）住仙臺市本櫓町一七

青戸勝　從六　地方技師　島根縣經濟部林務課長

鳥取縣人明治卅年五月十日松江市ニ出生大正十年北海道帝大農學部林學實科卒業大阪營林局技手拜命昭和三年島根縣農林技手ニ轉ジ同八年任地方林技師爾來地方林政ニ携リ同十七年三月任地方技師現職ニ就ク趣味野球魚釣圍碁庭球水泳住松江市母衣町一四六電九六二

青戸精一　正六　文部書記官　宗教局保存課長

島根縣長之助ノ甥明治卅五年十月廿九日出生昭和二年東京帝大法學部政治學科卒業同年高文行政科合格文部省ニ入リ同十年文部屬同十一年文部事務官普通學務局勤務大臣官房文書課兼務同十二年七月兼任文部書記官宗教局保存課長同年八月文部書記官專任トナル住杉並區西田町一ノ七七七電荻窪四九四六

青柳一郎　從五勳六　軍事保護院書記官兼軍事保護院總裁秘書官　總裁官房總務課長

千葉縣人青柳篤恒長男明治卅三年七月出生大正十五年東京帝大法學部政治科卒業内務省ニ入リ累進地方警視熊本縣同各縣警察部特高課長昭和十二年福島縣書記官警察部長同十四年四月傷兵保護院書記官業務局業務課長歴任同年七月軍事保護院書記官援護局援護課長同扶助課長ヲ經テ同十六年四月現職ニ就ク同十七年二月厚生書記官兼任ス趣味讀書旅行家庭父篤恒（明十）妻早苗（同卅七、故貴族院議員阿部浩五女白百合高女卒）住牛込區新小川町二ノ一〇江戸川アパート電牛込三〇七二

青柳寛己　正七　地方小作官　千葉縣經濟部勤務

秋田縣人明治卅六年二月廿日出生昭和三年東京帝大農學部農業經濟科同五年同經濟學部經濟科各卒業山形縣技手拜命同十一年地方農林技師山形縣勤務同十三年地方技師福島縣勤務ヲ經テ同十五年九月任地方小作官現勤務トナル住千葉市長洲町一ノ一一六

青柳秀夫　從五勳六　厚生書記官　豫防局豫防課長

群馬縣人富樫竹次ノ五男明治卅年七月前橋市ニ出生同卅九年青柳新米ノ養子トナル大正十一年東京帝大法學部政治學科卒業横濱正金安田各銀行歴勤同十五年高文合格爾來靜岡縣屬北海道廳事務官商工課長地方事務官大阪府經濟部商務課長同府總務部議事課長北海道廳部長拓殖經濟各部長等歴任昭和十五年十一月厚生書記官衞生局醫務課長ヲ經テ同十六年八月現職ニ就任ス家庭妻富貴子（明卅九、群馬縣中村濟次郎女同志社英文科卒）嗣子俊夫（昭三）長女文子（同五）住東京府北多摩郡三鷹町牟禮井之頭三八九電吉祥寺一〇七三

青山公亮　從四勳五　臺北帝大助教授　文政學部勤務

茨城縣淺治郎長男明治廿九年五月出生大正六年家督相續同九年東京帝大文科東洋史學科卒業松江高校講師同教授島根縣師範講師ヲ經テ昭和六年現職ニ任ズ家庭妻重（明卅四、東京市岡田榮次郎長女）養子正子（昭四）住臺北市大安字龍安坡五一一電四五〇六

青山新一　從四勳三　理博　金屬材料研究所員　東北帝大教授

岐阜縣人爲吉ノ長男明治十五年六月出生大正十五年家督相續明治四十三年東京高師數物化學科卒業東北帝大理科助手東京アルカリ工業會社鹿兒島電氣工業瓦斯會社第三工業部長東北帝大助教授ヲ經テ昭和十一年八月同教授ニ進ム大正十三年學位ヲ受ク一般化學研究ノタメ歐洲各國ニ留學ス家庭妻矩（明卅一、東京府黒岩武夫叔母）男照一（大六）女利子（同三）女秀子（同九）三女千枝子（昭五）住仙臺市花壇

青山信介　正六　朝鮮總督府事務官　司政局拓務課長

明治四十年八月十八日京畿道ニ出生夙ニ朝鮮總督府ニ入リ昭和十五年二月同府事務官ニ任ジ同十六年十二月現職ニ就ク住京城府光化門通朝鮮總督府内

青山信雄　正四勳五　佐賀高等學校教授

熊本縣士族信忠ノ長男明治廿六年七月出生大正十年分家ス同九年東京帝大理學部地質學科卒業教育界ニ入リ昭和十年英國ニ留學ス家庭妻ハツ（明卅五、奈良縣乾安五郎長女）男敏信（昭五）女美津子（大十一）二女百合子（同十三）四女富美子（昭二）二男賢信（同八）住佐賀市赤松町二二

青山秀雄　從四勳五　鐵道局技師　東京鐵道局工務部長

福島縣人明治廿六年出生大正八年京都帝大工學部土木科卒業大阪鐵道局ニ入リ工務課ニ勤務昭和十一年七月技師ニ任ジ大阪鐵道局工務部長ニ就任後現職ニ轉ズ住澁谷區千駄ヶ谷五ノ八五八官舍電四谷七一三〇

青山秀三郎　從四勳三　工博　東京帝大教授　工學部勤務

福井縣人正之ノ二男明治廿七年三月出生昭和七年分家大正七年東京帝大工科採鑛冶金科卒業翌年任同大學助教授昭和三年獨佛米各國ニ留學同五年歸朝後學位ヲ受ケ同年十一月同大學教授ニ任ズ趣味讀書園藝家庭妻定子（明卅三、男爵西村敬三妹女子學習院卒）長男博之（昭七）長女園子（大十四）住淀橋區戸塚町三ノ九二八電牛込二二二〇

青山 美乘 從六 北海道廳事務官 土木部土地改良課長

廣島縣房太郎二男明治卅六年三月廿九日出生昭和二年家督相續ス大正十三年松山高校ヲ經テ昭和二年東京帝大法學部獨法科卒業同四年高文合格北海道廳屬拜命爾來同廳農林主事產業水產課勤務同廳事務官後志支廳長ヲ經テ同十六年七月現職ニ就ク趣味運動園藝將棋家庭妻夏子(明四三、吳市平岡爲次郎六女縣立吳高女卒)長男徹(昭十)長女斐子(同十一)二男喬(同十三)三男亮(同十四)四男紀(同十五)住札幌市南四條西十八丁目官舍電二六一一六

青山 理三郎 從五勳六 鐵道醫 名古屋鐵道病院勤務

愛知縣青山理兵衞二男明治十八年六月廿日出生同卅九年愛知醫專卒業任同校助敎授大正十二年現職ニ就ク趣味洋樂旅行寫眞家庭妻しま(明廿七、愛知縣福田貝助三女愛知縣立高女卒)長男理(大十一)長女都子(同五)住名古屋市西區江川町三ノ六電西二六八

碧海 康溫 從四勳六 文部省圖書監修官

愛知縣人明治四十一年東京帝大文科哲學科同四十四年同大學理科地質學科各卒業文部省ニ入リ現ニ前記ノ任ニ在リ住小石川區小日向臺町二ノ三五

赤木 愛太郎 正五勳四 神奈川縣立湘南中學校長兼敎諭

岡山縣人庄平三男明治六年九月十四日出生同卅三年東京高師文科卒業鳥取二中沖繩師範山形師範各敎諭新潟縣長岡女子師範校長ヲ經テ大正十年三月現職ニ就ク神奈川縣敎育會理事兼幹事タリ趣味讀書家庭妻かん(明十七、宮崎久平長女)長男勝彥(同四二)同妻タマ(津田英學塾卒)三男正彥(大六)長女秀子(同十)住神奈川縣高座郡藤澤町南仲通二電藤澤三五一

赤木 鐵夫 從五勳六 遞信書記官 遞信官吏練習所長

岡山縣伊勢次郎ノ三男明治卅二年九月十四日出生大正十三年東京帝大法科獨法科卒業遞信省奉職經理局主計課勤務北海道釧路郵便局長中央電話局加入課長札幌遞信局規畫課長大阪遞信局用品課長廣島東京地方各遞信局監督課長等歷任昭和十四年四月中央航空研究所書記官總務課長同十六年一月貯金局書記官總務課長ヲ經テ同年十二月現職ニ就ク曩ニ外遊ス趣味運動家庭妻阿具利(明四〇、兵庫縣改田武馬五女夕陽丘高女卒)長女泰子(昭五)二女洋子(同七)住大森區馬込町西四ノ三一一四電大森九〇〇〇

赤木 雅二 從五勳六 大阪市立市岡商業學校長兼敎諭

岡山縣牛治郎二男明治廿一年十月十六日出生同卅七年縣立商業學校卒業簿記科商業科檢定試驗合格岡山市立商業敎諭同笠岡縣立商業各學校長歷任昭和十三年現職ニ就ク趣味漢詩謠曲家庭妻朝野(明廿七、岡山縣鈴木久太郎二女西大寺高女卒)嗣子卓之(大九)住芦屋市平田三六八

赤司 彥一 從五勳六 朝鮮總督府鐵道局技師 京城地方鐵道局工務部長

福岡縣人大正十五年京都帝大工學部土木科卒業朝鮮總督府鐵道局京城建設事務所長ヲ經テ昭和十六年一月現職ニ就ク住京城府京城地方鐵道局內

赤司 鏘三 從六 農林技師 山林局勤務

福岡縣人明治卅三年九月十四日出生大正十五年東京帝大農學部林學科卒業同年營林局技手拜命昭和四年任陸軍砲兵少尉同年營林署技手同十年同技師魚梁瀨營林署長翌年任營林局技師高知營林局勤務同十三年熊本營林局勤務翌年同局事業部販賣課長同十五年五月同作業課長ヲ經テ同十六年八月現職ニ就ク住(應召中)

赤池 健 正七 警察講習所敎授兼內務事務官 警保局勤務

東京府人濃長男明治四十二年六月八日出生昭和五年靜岡高校同九年東京帝大法學部獨法科各卒業其間同八年高文行政科合格翌年栃木縣屬同十一年兼任警部翌年免兼官學務部社會課長同年七月任地方警視千葉縣警察部警務課長ヲ經テ同十四年九月現職ニ就ク住澁谷區原宿二ノ二一〇電青山五八

赤塚 濟 從六 香川縣立多度津工業學校長兼敎諭

福岡縣人明治十八年十二月九日出生同卅九年東京高工電氣科電氣機械分科卒業古河鑛業所足尾銅山勤務大正元年筑後水力電氣會社主任技師同十二年退社後福岡縣立八女工業學校ニ奉職昭和十三年四月現職ニ就ク家庭妻さき(明廿四、青森縣渡邊四兵衞四女)長男恒義(大四、高專卒)二女俊子(大八)住香川縣仲多度郡多度津町大字新町一七二電一三四

赤羽 熙 正四勳三 判事 札幌控訴院長

栃木縣半次郎ノ長男明治十三年十一月出生同四十一年分家同四十二年東京帝大法科法律科卒業同四十五年任判事大阪地方同區各裁判所判事大阪地方裁判所部長次デ東京地方裁判所檢事ニ轉ジ大正十三年司法省參事官司法書記官判事東京控訴院部長大審院判事神戶橫濱各地方裁判所長ヲ歷任昭和十四年六月大阪地方裁判所長ヲ經テ同十六年二月現職ニ任ゼラル曩ニ大正十五年歐米各國ニ出張ス家庭妻サタ(明廿、栃木縣竹內熊吉長女)長男辰雄(同四四)二男陽(大二)三男三喜男(同十一)住札幌市南二條西十四丁目官舍電二二八〇

赤羽 穰 從五勳六 警視廳官房主事

長野縣兼太郎長男明治卅二年三月六日出生昭和二年東京高師卒業高文合格警視廳檢閱課長內務事務官警保局圖書課檢閱係勤務青森縣書記官警察部長等歷任昭和十四年四月警視廳部長衞生部長同年九月內務書記官警保局圖書課長同十五年四月內務書記官警保局經濟保安課長ヲ經テ同十六年十月現職ニ就任ス家庭妻珠子(明卅九、東京府玉江文雄妹日本女大附屬高女卒)長男弘(昭四)二男厚(同六)三男稔(同八)住麴町區隼町一三官舍電九段三四四

赤間 文三 從五勳六 商工書記官 大臣官房會計課長

福岡縣岩吉ノ三男明治卅三年五月廿一日同縣宗像郡津屋崎町ニ出生大正十四年東京帝大法學部獨法科卒業高文合格昭和四年任地方事務官爾來沖繩縣社寺兵事課長兼社會課長兼商工水產課長兼縣立工業指導所長山梨縣社寺兵事課長知事官房主事愛知縣社寺兵事課長農務課長產業組合課長兼務都市計畫地方委員會事務官兼地方事務官大阪府土木部都市計畫課長兼學務課長等歷任同十四年四月德島縣書記官經濟部長同年六月商工書記官化學局有機課長同十五年九月機械局總務課長ヲ經テ同十六年十一月現職ニ就任ス家庭妻惠美子(明四一、廣島縣故文治四女廣島縣立第一高女卒)長男達文(昭七)長女禮子(同十)住牛込區若松町七七電牛込七三九〇

赤松 秋太郎 正五勳四 醫博 地方技師 兵庫縣警察部衞生課長

福岡縣人紺迫松藏ノ三男明治十八年九月十八日出生赤松淳ノ養子トナリ昭和五年分家ス明治四十二年東京帝大醫科選科全科修了洲崎病院醫員拜命爾來福井青森靜岡各縣警察醫高知福島各縣技師地方技師新潟縣勤務廣島縣警察部衞生課長等ヲ經テ現時前記ノ任ニ在リ昭和八年學位ヲ受ク家庭妻ひさ(明廿一、養父淳長女)女茂子(大三)女壽子(同六)女英子(同九)女豐子(同十一)住神戶市中山手通四丁目公舍電葺合二四三〇

赤松 要 正五勳四 東京商大教授兼同附屬商學專門部教授 名古屋高商教授

福岡縣人明治廿九年出生大正十年東京高商專攻部卒業名古屋高商教授ヲ經テ昭和十四年三月現職ニ就任ス家庭妻貴子(明四十、福岡女專卒)嗣子宏一(昭五)長女晶子(同八)住東京市外國立町東區二二八

赤松 貞雄 從五勳五 陸軍步兵大佐 企畫院調查官兼內閣總理大臣秘書官

東京府人明治卅三年五月廿二日出生大正十一年陸士卒業任步兵少尉爾來累進昭和十六年任同大佐其間同九年陸軍大學卒業同十五年任陸軍大臣秘書官兼陸軍省副官兼對滿事務局總裁秘書官同十六年十月任企畫院調查官及陸軍省軍務局御用掛ヲ經テ同年十一月現官ニ任ズ曩ニ內務大臣秘書官兼任ス住麴町區永田町二ノ一官舍電銀座二二二

赤松 茂 從四勳三 醫博 千葉醫大教授

廣島縣又四郎二男明治廿八年三月十五日廣島市ニ出生大正八年東京帝大醫科卒業同大學醫化學教室ニ研鑽同十一年獨逸ニ留學同十三年千葉醫大教授ニ任ズ曩ニ同大學附屬圖書館長ヲ兼ヌ同十四年學位ヲ受ク趣味讀書家庭妻喜久子(明卅七、細川昰爾妹廣島縣立吳高女卒)長男昂(大十四)二男暢(昭二)住千葉市末廣町一ノ一三四電千葉一〇一二

赤松 清一郎 正六 厚生事務官 豫防局勤務

愛媛縣人昭和四年高文合格內務省ニ入リ地方事務官廣島縣學務部職業課長傷兵保護院事務官業務局勤務軍事保護院事務官業務局勤務ヲ經テ同十六年五月現職ニ就ク住中野區櫻山町一七電中野七五七六

明石 長助 從六 農林事務官 山林局勤務

山形縣人大正二年三月廿一日出生昭和九年高文行政科合格翌年東京帝大法學部法律學科卒業同十一年農林屬拜命翌年任農林事務官經濟更生部勤務同十四年八月營林局事務官大阪營林局庶務部長ヲ經テ同十六年五月現職ニ就ク住豐島區駒込一ノ五八

明永 久次郎 從四勳四 林業試驗場技師

福岡縣士族卯三ノ四男明治廿二年十二月出生大正五年東京帝大農科林學科卒業山林技手同技師ヲ經テ大正十一年林業試驗場技師ニ任ジ現在ニ及ブ昭和三年歐洲各國ニ留學ス趣味盆栽家庭妻三枝(明卅二、石川縣林駒之助三女)

長男敬太（大十五）長女邦子（同九）二女民子（同十三）二男康夫（昭四）三女孝子（同十）住荏原區戸越町五六

秋岡　保治　正五　官幣大社日枝神社宮司
岡山縣美三郎二男明治十九年倉敷市ニ出生同四十三年國學院大學國史科卒業金鑽神社禰宜砥鹿神社沼名前神社鎌倉宮鶴岡八幡宮各宮司明治神宮權宮司春日神社宮司等ヲ經テ昭和十四年六月現職ニ就ク趣味盆栽書道家庭妻公子（明廿六、岡山縣香西正一郎長女玉島高女卒）養子愼夫（同四五、福岡縣小野新一弟横濱高商卒）長女佐加衣（大九、養子愼夫妻）住麻布區笄町一七五電赤坂五二〇五

秋田　實　從四勳四　第五高校教授
鳥取縣士族章臨三男明治廿年七月出生同四十五年東京帝大文科獨文科卒業函館商業教諭關西學院高等科主任教授ヲ經テ大正八年現職ニ就ク昭和二年文部省在外研究員トシテ獨伊米各國留學同四年歸朝ス家庭妻かをる（明廿二、島根縣足立藏重從妹）長男成就（大十一）長女顯美子（同五）三女美耶子（同十）四女赫耶子（同十五）三男成功（昭二）住熊本市大江本町

秋谷　實藏　從五勳六　農林技師　蠶絲局勤務
群馬縣人明治卅年十月十一日出生大正十四年東京帝大農學部農學科ヲ卒業昭和三年蠶絲試驗場技手ヲ經テ同四年農林技師ニ任ジ蠶絲局勤務今日ニ及ブ同十五年中華民國ヘ出張ス住鎌倉市大町二三三電鎌倉九四七

秋月　明　正七　地方事務官　埼玉縣學務部職業課長
和歌山縣人明治廿五年二月十八日出生大正五年明治大學法科本科卒業同九年奈良縣巡査拜命爾來同部長同縣警部補同警部宮崎香川德島各縣屬各警察部健康保險課長兼任德島縣警部警視廳保安部健康保險課監理係長同企畫係長等ヲ經テ昭和十六年六月現職ニ就ク住浦和市岸町八ノ三四電二二七四

秋月　種苞　從六　宮崎縣高鍋中學校長兼教諭
宮崎縣人種業長男明治廿三年十月十七日出生大正五年鹿兒島高農卒業農商務省農事試驗場勤務宮崎農學校教諭ヲ經テ昭和九年現職ニ就ク家庭妻ノブ（明廿二、福岡縣粟飯原金次郎二女東京高女卒）嗣子種久（大十二）長女樹子（同十一）二女秩子（同十三）三女香久子（昭九）住宮崎縣兒湯郡高鍋町

秋月　遵　從五勳六　陶磁器試驗場技師　陶磁器試驗所長
長崎縣人明治廿四年出生大正五年東京高工窯業科卒業地方商工技師ニ任ジ滋賀縣窯業試驗場長ヲ經テ現職ニ就ク家庭妻八重子（明卅六實踐高女卒）長男泰（大十一）長女露子（同十五）二男寬（昭三）二女尙子（同五）三男熙（同九）三女幸子（同十一）四女京子（同十五）住京都市伏見區深草正覺寺電祇園一五六〇

秋永　月三　正五勳三　陸軍少將　企畫院部長　企畫院第一部長　總裁官房總務室附
大分縣澄藏三男明治廿六年十二月出生大正四年士官學校卒業任陸步少尉同航空兵科ニ轉科同大佐ニ累進野砲兵第廿三聯隊附ヲ經テ少將ニ昇進昭和十三年五月臨時物資調整局事務官總務部計畫課長企畫院調査官第一部勤務兼任總力戰研究所員等歷任現時前記ノ職ニ在リ家庭妻サチ子（明卅五、渡邊總次郎二女）一男二女アリ住中野區住吉町三五電中野二〇九六

秋野　龜太郎　從五　新潟縣立佐渡中學校長
新潟縣渡邊佐之吉ノ男明治廿八年七月廿一日同縣佐渡郡二見村ニ出生秋野三藏ノ養子トナル大正九年東京高師理科卒業山形新潟各師範教諭歷職昭和八年新潟縣立巻中學校長ヲ經テ同十六年四月現職ニ就ク趣味劍道庭球短艇スキー碁家庭養父三藏（明八、現戸主）養母タツ（同十二）妻明代（同卅三、養父三藏女河原田高女卒）長男一（大五、新潟高校理科卒）二男進（同七）三男幸（同十一）四男庸（同十五）長女フシエ（昭四）五男劦（同五）六男睦（同七）住新潟縣佐渡郡二宮村同校內

秋葉　朝一郎　從五勳六　醫博　厚生技師兼衞生試驗所技師
栃木縣先代豐吉長男明治卅六年三月卅日出生大正十五年東京帝大醫學部卒業同大學細菌學教室ニ研究昭和四年任東京衞生試驗所技師同十六年九月現職就任同六年學位ヲ受ク家庭妻律子（明四〇、實踐女卒）嗣子豐彥（昭八）住浦和市鹿島臺

秋葉　保廣　從五　厚生書記官　勞働局勞政課長　勞務監督官
埼玉縣士族保雄二男明治卅五年一月廿一日同縣南埼玉郡岩槻町ニ出生大正十四年高文合格翌十五年東京帝大法學部政治科卒業社會局屬地方警視山口縣警務課長特高課長愛知縣特高課長外務事務官兼領事兼內務事務官東亞局第二課勤務上海在勤群馬縣書記官學務部長歷任昭和十四年九月任厚生書記官勞働局指導能率

各課長ヲ經テ同十六年九月現職ニ就ク趣味庭球運動家庭妻三代子（明四二、埼玉縣高橋鹿三郎女浦和高女卒）長男保憲（昭五）二男保隆（同七）住板橋區常盤臺一ノ二五電板橋六二

秋元　順朝　正五　大藏書記官　主稅局關稅課長
子爵秋元春朝ノ長男明治卅八年三月出生昭和三年東京帝大經濟學部商業學科卒業大藏省ニ入リ大藏事務官主稅局勤務次デ企畫院書記官財務部勤務同調査官第五部勤務總裁秘書官兼任內閣總理大臣秘書官等歷任同十四年九月企畫院書記官第一部勤務ヲ經テ同十五年二月現職ニ就ク家庭父春朝（明十四、貴族院議員現戸主）妻欽子（大二、男爵伊達宗克妹）嗣子和朝（昭十一）長女泰子（同十三）住麻布區笄町一五九電赤坂一八〇七

秋元　清策　青森縣警察部警防課長
青森縣慶助長男明治卅四年六月八日出生大正十一年同縣巡査拜命爾來累進昭和七年任警部巡査教習所長青森水上五所川原各警察署長歷任同十一年特高課勤務同十四年三本木署長ヲ經テ同十六年十一月現職ニ就ク趣味劍道家庭妻きよ子（明卅七、青森縣野呂又市四女）長男裕（大十三）二男剛（昭元）三男隆（同五）長女和子（同八）二女光子（同十）四男孝一（同十四）五男誠治（同十七）住青森市浦町野脇二四三

秋元　保一　從六勳六　大阪市理事　財務部長
東京府人明治廿二年出生法政大卒業大阪市ニ入リ電氣局主計課長理事電氣局主計部長ヲ經テ現職ニ就ク住大阪府北河內郡友呂岐村一五八七電香里八

秋山　要　從四勳三　東京控訴院檢事長　橫須賀捕獲審檢所檢察官
山梨縣人信太郎ノ長男明治十七年十二月出生同卅三年家督相續同四十四年東京帝大法科獨法科卒業大學院ニ學ブ東京區兼同地方横濱地方兼同區各裁判所檢事浦和市ケ谷各刑務所長東京區兼同地方各裁判所檢事司法書記官兼檢事東京控訴院檢事大審院檢事大阪控訴院檢事大審院檢事司法省行刑局長歷任昭和十五年五月同刑事局長ヲ經同十六年七月廣島控訴院檢事長次デ同月現職ニ就ク曩ニ同九年歐米各國ニ出張ス趣味圍碁家庭繼母ハマ（明五、東京府岡本次郎妹）妻綾（同廿七、同府吉井眞吉五女東京高女卒）嗣子玄太（大十）女美枝子（同五、日出女學文化裁縫女學各卒）女節子（同七、實踐高女卒）住世田谷區野澤町一ノ一〇〇電世田谷三四七二

秋山　久三　從五勳四　陸軍大佐　馬政局事務官　資源部長
明治廿四年一月廿五日出生大正二年任騎兵少尉昭和十四年大佐ニ陞ル其間騎兵學校教官兼同校研究部々員騎兵第七及十五各聯隊長歷任昭和十六年三月兼任馬政局事務官現職ニ就ク住杉並區大宮前町四ノ四九二電荻窪五三三五

秋山　次郎　從六勳六　內務事務官　防空局業務課勤務
長野縣人明治四十三年五月廿九日同縣ニ出生昭和六年第一高校ヲ經テ同九年東京帝大法學部法律科卒業先是同八年高文ニ合格同九年任東京府屬同十年任內務屬地方局勤務同十二年任地方事務官靜岡縣學務部社會課長同十三年總務部地方課長同十四年同庶務課長兼人事課長同十五年都市計畫地方委員會事務官兼地方事務官同縣總務部庶務課長兼都市計畫課長次デ地方警視福岡縣警務課長ヲ經テ同十六年十月現職ニ就ク趣味讀書運動家庭妻壽枝子（大六、東京府木村雄次五女佛英和高女卒）住世田谷區下代田二六五電世田谷三八二五

秋山　鎗太郎　從五　農林技師　三本木原開墾國營事務所長
靜岡縣人明治卅四年六月廿六日出生昭和二年東京帝大農學部農學科卒業同四年地方農林技師神奈川秋田各縣農林技師同十年地方技師滋賀縣勤務青森縣耕地課長ヲ經テ同十三年農林技師ニ任ジ農務局勤務同十四年五月現職ニ就ク住青森縣上北郡三本木町字瀨戸山二七

秋山　濟太郎　從七勳八　地方事務官　山梨縣經濟部社寺兵事課長
山梨縣人明治卅二年十二月十三日出生大正八年同縣ニ勤務同十五年縣屬ニ任ジ社寺兵事課勤務昭和十四年官房秘書係長兼人事課及兼任警部警務課各歷勤翌年官房會計課長ヲ經テ同十七年一月任地方事務官現職ニ就ク家庭妻一子（明卅四、山梨縣山野武八郎長女）長男東洋（昭二）長女濟子（大十二、湯田高女卒）二女君子（同十四、甲府高女在）二男右州（昭六）三女絹子（同九）住甲府市日向町官舍電三八〇九

秋山　武夫　正七　地方事務官　東京府經濟部資材課長
東京府人明治四十二年十月十九日出生昭和十年高文行政科合格翌年東京帝大法學部政治學科卒業同年保險事務官補兼商工屬拜命次デ特許局屬兼任商工屬同十二年燃料局事務官同十

五年商工事務官總務局兼監理局勤務ヲ經テ同十六年九月任地方事務官東京府商務課長兼工務課長トナリ次デ現職ニ就ク住世田谷區北澤二ノ一六五電世田谷四三一九

秋山 光夫 従五勲五 東京帝室博物館鑑査官

静岡縣士族光條長男明治廿一年四月三日出生大正二年京都帝大文科卒業後同大學ニ美學美術史專攻昭和四年歐米ニ歷遊現時前記職ニアリ趣味和歌家庭妻花枝（明廿七、新潟縣堀口九萬一長女三輪田高女卒）長男光和、二女百合惠二男光貞住淀橋區下落合一ノ四三六

秋山 博 従六 地方警視 大阪府警察部特高課長

福井縣人松本唯次ノ長男明治四十一年三月八日福井市ニ生レ後同縣秋山正男ノ養子トナル昭和六年東京帝大法學部卒業大阪府警部補同警部保安外事各課勤務同十一年任警視廳警視深川扇橋本郷本富士各署長同十二年警視廳第三方面監察官等歷任地方警視岡山縣特高課長同十五年愛知縣特高課長ヲ經テ同十七年一月現職ニ就ク家庭妻靜子（大二、鹿兒島縣古城胤秀長女東京府立第五高女卒）長男裕和（昭十二）住大阪市西區江之子島東之町官舍電土佐堀三六八〇

秋山 文雄 従六勤務 厚生技師 人口局管理課

愛媛縣人明治卅七年三月廿五日出生昭和四年愛知醫大卒業愛知縣防疫醫拜命衛生課勤務同七年同縣警察練習所同八年保安課同十一年警務課同十二年工場課各歷勤同年地方技師衛生課勤務ヲ經テ同十六年三月任厚生技師體力局企畫課勤務次デ現勤務トナル住浦和市仲町五ノ六

秋山 四[illegible] 正五勲五 東京府立第三中學校長兼同江戸川中學校長

東京府恒太郎四男明治十八年十二月出生同四十一年東京高師卒業金澤中學山口中學青森師範各教諭和歌山高女愛媛中學各校長東京府視學歷任現職ニ就ク趣味スポーツ家庭妻ぎん子（明廿七、東京府菅沼只三郎長女三輪田高女卒）長男宏一（大八）二女輝子（同十一、千代田高女卒）三女映子（同十三、府立第八高女卒）二男恭二（同十五）三男愼三（昭五）五女雅子（同八）住豐島區池袋三ノ一三五〇電大塚五〇九二

秋山 理[illegible] 正五勲四 特命全權公使 パナマ駐劄兼コスタ、リカ國ニカラグア國駐劄

長野縣人明治卅年四月出生大正九年東京高商卒業高文外交科合格外務屬拜命同十一年東京商大附屬專攻部領事科卒業任領事官補爾來外務事務官通商局第一課勤務大使館三等書記官伊國在勤同二等書記官外務事務官通商局第三課勤務兼任外務大臣秘書官外務書記官大臣官房電信課長企畫廳調査官總裁秘書官企畫院書記官等歷任大使館一等書記官中華民國在勤總領事シドニー在勤公使館一等書記官兼任オーストラリア聯邦兼勤ヲ經テ昭和十六年現職ニ任ゼラル趣味ゴルフ家庭妻綾子（日本女大卒）長女教子（昭三）二女壽美子（同六）三女美都子（同七）住赤坂區氷川町二七（留守宅）電赤坂四一一二六

秋山 龍 従五勲六 興亞院調査官 華中連絡部在勤

岡山縣人昭和三年東京帝大法學部卒業遞信事務官經理局勤務遞信局書記官東京地方遞信局規畫課長企畫院書記官交通部勤務保險院書記官簡易保險局積立金監査課長同運用課長歷任同十六年六月遞信書記官大臣官房文書課長ヲ經テ同年十二月現職ニ就ク住上海市北四川路九一華中連絡部內

秋山 [illegible]三 正五勲五 特許局技師 抗告審判官 審判部勤務

山梨縣義純長男明治廿八年十二月廿一日出生大正十年東北帝大理學部化學科卒業後特許局ニ入リ同技師化學課審査官ヲ經テ昭和八年現職ニ就ク趣味園碁謠曲家庭妻浪子（明卅六、愛知縣杉山完次郎三女名古屋第一高女卒）長男明夫（昭六）長女妙子（同二）二女二葉（同三）住杉並區阿佐ケ谷四ノ三五八電荻窪五〇九〇

秋吉 三郎 従五勲六 工博 大阪工業試驗所技師 工業試驗所第四部長

福岡縣人大正十二年九州帝大工學部應用化學科卒業工業試驗所技手次デ技師ニ任ジ大阪工業試驗所勤務爾來今日ニ及ブ曩ニ學位ヲ受ク住豐中市新免町三五五

芥川 信 従四勲五 醫博 司法省衛生官 行刑局第四課長 行刑衛生會長

熊本縣忠藏ノ長男明治廿四年三月廿五日出生大正八年家督相續同二年金澤醫專卒業同校副手拜命醫化學病理學及法醫學ヲ專攻高知東京各監獄醫ヲ囑託更ニ東京帝大醫學部衛生學教室ニ衛生學專攻後巣鴨監獄醫囑託監獄醫監獄衛生官ヲ經同十一年司法省衛生官ニ轉ジ行刑局勤務昭和十二年九月第四課長ニ就任ス曩ニ大正十五年學位ヲ受ケ瑞西伯林ニ於ケル萬國監獄常設委員會ニ帝國委員トシテ派遣セラレ次デ歐米各國ニ出張ス趣味讀書散歩家庭母さつ（明八、熊本縣平野保次郎長女）妻イチ（同廿二、判事菅藤伊織二女東京女高師附屬高女專攻科卒）長男英郎（大十三）二男岳郎（同十五）長女萍（昭二）三男三千忠（同四）住世田谷區上馬一ノ五八六電世田谷三四二七

淺井 ●清 従五勲六 地方技師 大阪府經濟部權度課長

兵庫縣人明治廿五年六月廿五日出生大正六年大阪高工機械科卒業同八年大阪府屬兼同技手拜命同十三年任大阪府技師同年地方技師同府內務部工務課勤務昭和四年地方商工技師大阪府商工獎勵館勤務同十五年一月任地方技師經濟部勤務トナリ次デ現職ニ任ズ住大阪市住吉區阿倍野筋二丁目官舍電天王寺二五一

淺井 玄哲 従七 都市計畫地方委員會事務官

東京府人明治卅年十一月十九日出生大正八年東洋大學大學部卒業同十二年東京帝大文學部ニ學ビ都市計畫愛知地方委員會事務囑託同十三年同上書記都市計畫課勤務同十五年復興局屬東京第四出張所昭和五年都市計畫東京地方委員會書記ヲ經テ同十五年十一月現官ニ任ズ曩ニ群馬縣經濟部都市計畫課長タリ

淺井 治平 正六 東京府立第十中學校長兼同玉泉中學校長

靜岡縣七衛長男明治廿四年出生大正七年東京高師卒業福岡師範府立五中各教諭歷職同十三年東京帝大理學部卒業立正大學教授市立一中教諭等經テ昭和十七年四月現職ニ就ク著書アリ趣味旅行家庭妻八重子（明廿四、森慶太郎姉靜岡女師卒）嗣子辰郎（大三、京大文學部卒）長女治代（同十二、府立六高女卒）二女輝江（同十三同上卒）住荏原區戸越町四一〇電荏原三九五九

淺井 綱[illegible] 正五勲五 愛媛縣立西條中學校長

愛媛縣士族明治廿年十月八日出生大正五年東京帝大文科卒業岐阜香川愛媛高知岩手各縣及札幌各中學校長東京高知各高校教授松山中學校長ヲ經テ昭和十三年現職ニ就任ス趣味釣家庭妻香代（明卅二、丸龜高女卒）長男春太郎（昭五）長女常子（大七、松山高女卒）二女辻子（同十一）三女艷子（同十四）住西條市同校內電三〇

淺井 東一 従四勲五 理博 第五高校教授

東京府士族東三長男明治廿三年十月出生大正九年家督相續同四年東京帝大理科植物學科卒業同大學副手トナリ同八年現職ニ就ク家庭妻百合（明卅四、愛知縣武田富吉妹）長男玄吾（昭二）二女尚子（大十四）三男周三（昭七）住熊本市新屋敷町八五

淺井 亨 正五勲五 檢事 岡崎區裁判所檢事兼名古屋地方裁判所岡崎支部檢事

大阪府人大正八年東京帝大英法科卒業洲本區裁判所監督判事兼神戸地方裁判所洲本支部々長宮津區裁判所判事兼京都地方宮津支部判事ヲ經テ現職ニ就ク住岡崎市同所內

淺井 實 従四勲四 地方技師兼地方農林技師 東京府立農事試驗場 同農事講習所勤務

愛知縣岩田吉兵衛ノ二男明治廿年九月出生同廿一年淺井碩ノ養子トナリ後家督相續同四十五年東京帝大農科農學科卒業東京府農事試驗場技師同府技師同府立農事講習所技師ニ歷任同十三年地方技師ニ任ジ東京府經濟部勤務現時前掲ノ諸職ニアリ趣味旅行家庭妻周子（明廿七、岐阜縣高木章妹岐阜高女卒）長男英之（大十一）長女トヨ子（大九、三輪田高女東京家政學院本科各卒）二男保幸（大十四）二女きよ子（昭二）住杉並區高圓寺六ノ六四五

淺井 錄郎 従五 地方農林技師 神奈川縣經濟部農產課長

愛媛縣人平三郎二男明治卅二年一月十三日同縣溫泉郡北吉井村西岡ニ出生大正十年第五高校同十三年東京帝大農學部各卒業同十四年地方農林技師ニ任ジ栃木縣勤務昭和二年山口縣勤務同八年京都府勤務同十年長野縣勤務農務課長ヲ經テ同十四年現職ニ就ク趣味登山スキー謠曲家庭妻利子（明卅九、濟美高女卒）住横濱市中區紅葉丘官舍二〇番電長者一三五三

淺尾 正一 正六勲六 地方技師 愛知縣經濟部林務課長

三重縣人明治廿四年三月九日出生同四十五年東京帝大農科林學科卒業同大學助手拜命爾來大正五年愛知縣林業技手同八年三重縣林業技手同十一年同縣產業技師同十四年地方技師同縣勤務昭和七年地方技師佐賀縣勤務同十三年高知縣勤務ヲ經テ現職ニ就ク住名古屋市東區前之町一五電東一〇一一

淺岡 卿 従五勲六 工業試驗所技師 東京工業試驗所勤務

東京府人大正十年東京帝大工學部應用化學科卒業工業試驗所技師ニ任ジ東京工業試驗所勤務トナル住澁谷區代々木富ケ谷町一三八八

淺川賢一郎　正六　醫博　專賣醫　名古屋地方專賣局勤務
愛知縣力松ノ長男明治卅年十月十日出生大正十五年名古屋醫大卒業同大學勝沼內科勤務昭和三年學位ヲ受ケ同五年現職ニ就ク趣味スポーツ寫眞繪畫家庭妻季子（明卅八、愛知縣原田重助四女淑德高女卒）住名古屋市東區前之町一一電東三二二〇

淺川巽二　正五勳六　拓務技師　拓北局勤務
福岡縣人大正六年東京帝大農科農學科卒業拓務省ニ入リ累進現ニ拓北局勤務タリ住橫濱市神奈川區栗田谷町三四

淺田重恭　從六　農林事務官　農政局勤務
茨城縣人明治四十四年十月三日出生昭和九年高文行政科合格翌年東京帝大法學部法律學科卒業同十一年農林屬拜命蠶絲局勤務翌年營林局山林事務官東京營林局勤務同年營林局事務官同上勤務同十三年任陸軍主計少尉同年五月任農林事務官經濟更生部勤務ヲ經テ同十六年一月現職ニ就ク住瀧野川區上中里町一四一

淺田俊介　從五勳五　總領事　バタヴィア在勤
福岡縣士族知定三男明治廿七年九月十六日出生大正十五年家督相續同九年東京帝大法學部佛法科卒業外務事務官通商局第三課勤務公使館二等書記官イラン國在勤昭和十二年九月ルーマニア國兼ユーゴースラヴィア國在勤國際會議帝國事務局事務官同十四年公使館一等書記官兼總領事泰國在勤次デ大使館一等書記官ヲ經テ同十六年十月專任總領事現職ニ就ク趣味運動家庭妻澄（明卅、大分縣朝倉菊三郎二女）長男敏（大八）長女桃子（同十一）二男宏（同十三）住在バタビヤ日本總領事館內

淺野一太郎　正七　地方事務官　岡山縣警察部健康保險課長
東京府人久三ノ長男明治卅年三月八日東京市ニ出生後家督相續同四十五年內務省ニ奉職爾來警視廳屬兼警部北海道廳警部健康保險署書記山形健康保險課長同縣健康保險課長滋賀縣健康保險課長等歷任昭和十三年六月地方事務官岐阜縣健康保險課長ヲ經テ同十五年二月現職ニ就任ス家庭妻きく（明卅）長男兎三士（昭二）長女衣子（大六、山形高女卒）二男晴二士（昭六）住岡山市門田一二三六電六四九四、

淺野三郎　正六勳六　宮崎縣書記官　經濟部長
廣島縣定次郎三男明治卅八年八月九日出生大正十五年第三高校ヲ經テ昭和四年東京帝大法學部政治科卒業其間同三年高文合格同四年山口縣屬拜命後同縣警部兼任同七年任地方事務官島根縣社會課長社寺兵事課長人事課長地方課長長崎縣地方課長社會課長社寺兵事課長水產課長庶務課長會計課長等歷任同十六年五月現職ニ任ズ曩ニ同十三年應召出征同十六年四月歸還ス家庭妻武子（大二、廣島縣高崎榮太郎二女尾道高女卒）男守（昭八）男進（同十）住宮崎市壽町官舍電五〇五

淺野孝之　正五　姬路高校長
愛媛縣聖諦ノ長男明治廿一年二月出生大正三年東京帝大宗教哲學科卒業爾來文部省囑託布哇中學同高女及成蹊高校各校長東京府教育調查會委員本願寺執行所出仕成蹊學園理事等經テ現時前揭ノ職ニアリ昭和四年歐米各國同十四年支那同十五年布哇ヲ各視察ス趣味運動讀書家庭妻幸（明卅四、愛知縣丹羽綱吉長女靜岡高女卒）長男恂之（大六）二男徹之（同九）二女佑子（同十一）三男朴人（同十三）四男汎水（同十四）三女八洲子（昭九）四女紘子（同十三）住姬路市坊主町電一一四四

淺野誠市　從六　姬路高校教授
島根縣人明治卅年四月十五日出生大正十一年東京高師理科第二部昭和七年東京文理大物理學科各卒業東京文理大助手東京高師講師大阪市立市岡中學教諭島根縣立濱田中學教諭同縣立大田農學校長兼教諭同大田高等家政女學校長兼教諭歷職昭和十五年三月地方視學官島根縣勤務ヲ經テ同十七年三月現職ニ就ク住姬路市同校內

淺野長光　正六　宮內事務官兼同書記官　警衞局防空課長兼庶務課長
東京府士族長次郎長男明治卅七年五月八日出生昭和三年東京帝大法學部政治學科卒業農林省農務局勤務爾來大阪營林局事務官農林省畜產局勤務帝室會計審查官帝室博物館事務官兼宮內參事官同事務官京帝室博物館經理課長兼學藝課長等歷任次デ宮內事務官ニ任ジ宮內書記官式部官兼任內藏寮用度課長ヲ經テ昭和十六年四月現職ニ就ク趣味讀書散步家庭妻梅（明四一、東京府岸本順吉五女東京府立第五高女卒）長女貴代（昭十）住中野區高根町五電中野六六七八

淺野英明　正五勳五　判事　水戶地方裁判所部長
千葉地方裁判所判事東京控訴院判事歷補昭和十四年九月現職ニ就ク住水戶市同地方裁判所

淺野三千三　正五勳四　藥博　傳染病研究所員
千葉縣日色彌兵衞ノ次男明治廿七年九月十八日出生後淺野家ノ養子トナル大正八年東京帝大醫科藥學科卒業同大學副手助手同十四年金澤醫大附屬藥專教授昭和六年同主事兼務ヲ經テ現職ニ任ズ昭和二年米獨兩國ニ留學ス家庭妻スミ（明卅五、新潟縣星野昌平長女新潟高女卒）長男三千秋（昭六）住大森區上池上町九〇一電荏原七一八一

淺原貞紀　正六　朝鮮總督府道事務官　全羅北道內務部長
岡山縣政一長男明治卅八年十月一日出生昭和四年東京商大卒業遞信局庶務課勤務遞信局庶務課長歷任昭和十五年朝鮮總督府遞信事務官遞信局電氣第一課長兼電氣課長電氣工士養成所長同府道事務官忠淸南道警察部長ヲ經テ同十六年十二月現職ニ就ク趣味將棋庭球家庭父政一（明十二）妻文子（同四三、佐賀縣黑岩覺一四女京城第二高女卒）長男寬治（昭六）二男晃治（同九）三男隆治（同十一）住朝鮮全羅北道全州府八達町全羅北道內務部內

淺見哲作　從七勳六　警視廳警視　麴町警察署長
栃木縣謙一郎弟明治廿四年三月九日出生大正二年警視廳巡查拜命昭和五年任警部小松川本富士富坂各署搜查第一課京橋愛宕各署勤務池袋署長次デ任警視小松川署長同十六年一月久松署長ヲ經同十七年六月現職ニ就任ス家庭妻キン（明廿九）長男隆（大十三）長女初枝（同九）二女富子（昭四）二男成男（同六）三男芳男（同九）住麴町區元園町二ノ一一官舍電九段三二二一

淺見洋　從四勳五　地方技師　新潟縣土木部長
兵庫縣人明治廿四年七月十二日出生大正六年京都帝大工科土木科ヲ卒業渡米コーネル大學及イリノイ大學ニ研究同八年任內務技師土木局勤務同十三年任地方技師長野縣勤務昭和二年鹿兒島同四年福島同七年福井同十年長崎各縣土木課長歷任同十四年八月現職ニ就ク住新潟市學校町通二官舍電一〇六六

淺見與七　從四勳三　農博　東京帝大教授兼園藝試驗場技師　園藝試驗場長
岐阜縣與一右衞門ノ三男明治廿七年三月出生大正七年東京帝大農學科卒業現時前記ノ任ニ在リ曩ニ文部省督學官ヲ兼ネ農博ノ學位ヲ受ク趣味讀書家庭妻ゆり子（明卅六）住板橋區石神井立野町九〇六電吉祥寺六三二

淺見義弘　從四勳四　工博　北海道帝大教授　工學部勤務
埼玉縣人竹三郎ノ三男明治卅一年六月出生昭和六年分家ス大正十一年東京帝大工學部卒業同十一年遞信省電氣試驗所研究員同十四年現教授ニ任ジ同十二年歐米各國在留昭和十一年學位ヲ受ク趣味謠曲スキー家庭妻千賀（明卅九、兵庫縣兼吉藤兵衞二女）長女恭子（昭六）二女公子（同八）住札幌市南十九條西五丁目

淺山七五三　正七　職業主事　姬路國民職業指導所長
福岡縣士族明治廿一年七月十日出生夙ニ東京帝大法科ニ學ビ社會局健康保險署書記福岡佐賀奈良各縣屬昭和十三年現職ニ就ク曩ニ佐賀奈良兩縣ニ於テ警察部健康保險課長タリ住姬路市五軒町一五四電二七一二

淺山忠愛　從四勳三　醫博　京都府立醫大教授同附屬醫院第一內科部長
京都府上野佐壽二男明治十二年十二月出生先代郁次郎ノ養子トナリ大正四年家督相續明治卅九年京都帝大醫科卒業同大學助教授ニ任ジ歐洲各國ニ留學大正四年學位ヲ受領同十年教授トナリ同十二年京都府立醫大ニ轉ズ曩ニ同學長同附屬病院長タリ家庭妻順（明廿、京都府立第一高女卒）嗣子明（同四一）二男哲二（同四五）二女なほ（大五）三女せつ（同十二）住京都市上京區室町通出水上ル電西陣二二七八

淺利春次　正七　內務理事官　警保局保安課勤務
秋田縣人明治卅四年五月五日出生文官普通試驗合格任農林屬山林局勤務復興局屬庶務課勤務ヲ經テ昭和三年七月任內務屬警保局勤務同十三年六月任地方警視滋賀縣特高課長ヲ經テ同十七年一月現職ニ就ク住杉並區東田町二ノ一五〇

麻生磯次　正五勳四　京城帝大教授　法文學部勤務
千葉縣人源太郎ノ三男明治廿九年七月出生昭和十一年分家大正九年東京帝大文科國文科卒業朝鮮總督府屬兼同府編修書記總督官房庶務部勤務同編修官學務部勤務愛知縣第一高女教諭第六高校教授ニ歷任昭和三年任京城帝大助教授次デ同教授ニ任ズ住京城府三坂通一二三電龍山七七一六

麻生茂　從七　地方警視　福島縣警察部警務課長兼警察練習所長
茨城縣人大正三年十月八日出生昭和十年第一

高校同十四年東京帝大法學部各卒業其間同十三年高文行政科合格翌年愛媛縣屬拜命經濟部商工課勤務ヲ經テ同十五年四月現職ニ任ズ住鹿島市新田電一九九

麻生 治一 從五勳六 地方商工技師 濱松工業試驗場勤務
富山縣先代治作ノ長男明治十九年十一月十二日出生大正二年東京高工卒業遠野中學岐阜縣陶器學校歷勤宮城縣工業會技師山形縣米澤工業試驗所勤務現試驗場勤務ヲ經テ現官ニ就ク趣味登山圖案家庭妻ひで（明廿五、竹本秀見長女富山師範卒）長男治夫（大五）長女萩子（同九）二女治子（同十二）二男治郎（同十四）住濱松市鴨江町一四九八

麻生 貞三 從五勳五 地方技師 鹿兒島縣經濟部蠶絲課長
山形縣故宗貞ノ三男明治廿一年二月十八日出生同四十五年東京蠶業講習所養蠶科卒業大正二年三重縣技手拜命爾來山梨兵庫各縣技手兵庫縣產業技手宮城縣蠶業技師同縣蠶業取締所長同蠶業試驗場長奈良縣產業技師歷任大正十四年任地方農林技師昭和六年德島縣農林技師同十二年任地方技師福島縣蠶絲課長ヲ經テ同十四年九月現職ニ就ク家庭妻きぬ（明卅五、愛媛縣立松山高女卒）男貞幸（大十、東京音樂學校在）女きよ子（同十三、縣立一高女家庭寮）女貞子（昭四、縣立第二高女在）女喜久子（同六）女篤子（同八）女光子（同十）男貞敏（同十四）住鹿兒島市上荒田町六二電一五一三

朝海 浩一郎 正六 外務書記官兼情報局情報官 外務省調查部第五課長
栃木縣人明治卅九年三月十五日出生昭和三年高文合格同四年商大卒業外務書記生拜命米國在勤次デ在外研究員被命英國在留同七年外交官補翌年領事官補南京在勤同十年大使館三等書記官兼副領事中華民國在勤同十一年外務事務官東亞局第一課勤務同十五年十二月情報局情報官兼外務書記官ヲ經テ同十六年十一月現職ニ就ク住大森區新井宿六ノ六八四電大森三一一六

朝岡 次郎三 從五勳六 營林局技師兼農林技師 東京營林局兼山林局勤務
山形縣士族明治廿八年十月廿九日出生大正七年東北帝大工學專門部土木科卒業山林技手拜命青森縣勤務同十三年山林局ニ轉ジ昭和七年營林局技師ニ任ジ大阪同九年秋田各營林局勤務ヲ經テ同十二年兼任農林技師現職ニ就ク住杉並區天沼三ノ八二八

朝倉 幸治 從七 警視廳事務官 蒲田健康保險出張所長
神奈川縣人明治卅一年五月廿三日出生大正十三年立命館大學專門部法律科卒業同十五年九州帝大法文學部ニ學ビ昭和五年大阪府屬拜命健康保險課勤務同十年社會局屬監查課及規查課勤務同十三年保險院屬庶務課企畫課國民健康保險課等各歷勤同十六年七月任警視廳事務官現職ニ就ク住橫濱市中區本牧一二ノ五

朝倉 大吉 從六 地方技師 香川縣警察部衛生課長
香川縣故勘吉ノ二男明治卅三年十二月十五日出生昭和二年家督相續京都府立醫專卒業日赤兵庫支部姬路病院日赤香川支部病院歷勤昭和四年高松市ニ開業同八年香川縣衛生技師拜命同十五年同防疫醫ニ任ジ同十七年三月任地方技師現職ニ就ク家庭妻ヨシエ（明四一、德島縣長谷川晁平二女同縣立撫養高女卒）男雅夫（昭二）男靖夫（同九）男和夫（同十二）男敏夫（同十四）住高松市六番丁一九

朝倉 文夫 從四勳五 帝國藝術院會員 東京美術學校教授
大分縣士族渡邊要藏ノ三男明治十六年三月出生同廿六年家督相續同四十年東京美術學校彫刻科卒業後研究科ニ入ル同四十一年第二回文部省展覽會ニ彫刻「闇」ヲ出品二等賞ヲ受ケ御買上ノ榮ニ浴ス爾後入選屢次大正十年東京美術學校教授ニ任ジ同四年文部省美術展覽會審查員被仰付次デ帝國美術院會員ニ舉ゲラル昭和三年十月同會員及審查員ヲ辭シ同十年六月帝國藝術院會員ニ推サル家庭妻やま（明廿五、東京府山田元吉二女）女攝子（大十一）住下谷區谷中天王寺町二〇電下谷六五四九

朝倉 義綱 地方事務官 大阪府城東健康保險出張所長
高知縣人明治卅三年十二月四日出生大正十二年明大法科專門部卒業神奈川縣巡查拜命同十五年健康保險署書記補同縣及鳥取縣各勤務昭和五年神奈川縣屬ニ任ジ健康保險課歷勤同十四年兵庫縣ニ轉ジ姬路健康保險出張所長翌年大阪府屬健康保險課庶務兼監查各係長ヲ經テ同十七年一月任地方事務官現職ニ就ク住大阪市同所內

朝比奈 太郎 正七 職業主事 足利國民職業指導所長
滋賀縣人明治廿六年四月十六日出生大正三年栃木縣巡查拜命爾來累進シテ昭和十二年任地

方警視其間喜連川大田原日光各署長ニ歷任同十三年現職ニ就ク住足利市巴町二

芦川 信行 從七勳七 地方警視 神奈川縣警察部保安課長
神奈川縣人明治卅一年四月五日出生大正七年神奈川縣巡查拜命昭和四年任同縣警部戶塚秦野大岡各警察署長同十三年警察部情報課長歷任同十四年任地方警視小田原加賀町各警察署長ヲ經テ同十六年二月現職ニ就ク住橫濱市中區伊勢町縣廳官舍電長者五三七三

蘆澤 安平 從五 南洋廳熱帶研究所技師 同所長
東京府人明治四十四年東京帝大農科農學科卒業南洋廳ニ入リ累進現時熱帶研究所長タリ住南洋群島パラオ諸島コロール島同所內

蘆田 利維 從五勳六 地方農林技師 福井縣經濟部農產課長
京都府人明治廿六年五月十一日出生大正四年東京帝大農科農學實科卒業農商務省ニ入リ農務局勤務同六年農事試驗場畿內支場同十一年福井縣立農事試驗場及同種畜場各歷勤同十四年地方農林技師ニ任ジ福井縣勤務トナリ後現職就任昭和十六年滿洲國ヘ出張ス住福井縣吉田郡圓山西村松本地方三四ノ一七電二一六七

蘆田 正喜 從五 地方視學官 奈良縣學務部學務課長
京都府人友義長男明治卅年七月廿日出生大正十年東京文理大教育科卒業立教大學教授ヲ經テ東京高師研究室ニ研究奈良縣師範教諭同縣立五條高女校長等歷任昭和十四年四月任地方視學官現職ニ就ク家庭妻さかえ（明卅七、京都府片岡監姉同府立高女卒）嗣子豐（昭二）二男稔 長女規水子（昭七）住奈良市北袋町一一電二八〇六

蘆立 憲五 從四勳四 檢事 宮崎地方裁判所檢事正
長野地方裁判所東京控訴院各檢事土浦區裁判所檢事釧路地方裁判所檢事正歷補昭和十七年三月現職ニ補ス住宮崎市宮田町官舍電二一四

蘆澤 大猪 從六 商工事務官兼商工省工務官 鐵鋼局勤務
長野縣人昭和九年東京帝大法學部政治科卒業商工省鑛山局勤務商工大臣秘書官兼商工事務官大臣官房秘書課勤務商工事務官統制局勤務興亞院事務官華北連絡部在勤ヲ經テ同十五年十一月現職ニ就ク住東京府北多摩郡武藏野町吉祥寺九五二

味岡 莊 從五勳五 地方技師 福島縣警察部衛生課長
島根縣正義二男明治廿三年十一月廿八日松江市出生大正六年愛知縣立醫專卒業同七年岐阜縣工場監督官補爾來同縣技手島根縣衛生技手同縣衛生技師京都府衛生技師青森縣衛生技師衛生課長等歷任昭和十四年七月任地方技師現職ニ就任ス家庭妻（明廿八）男義一（東京陸軍幼年學校）女千勢子（青森縣立高女卒）住福島市宮田七電七七九九

飛鳥井 雅信 從三勳五 伯爵 宮內事務官 圖書寮庶務課長兼圖書課長
先代恒麿二男明治廿六年七月出生大正十三年襲爵同七年早大政經科卒業同十一年高文合格帝室林野局事務官東京支局監理課長ヲ經テ昭和十二年現職ニ就ク家庭繼母クネ（明四）妻敏子（明卅五、子爵八條隆正長女女子學習院高等科卒）男雅道（昭九）長女典子（同二）二女祥子（同三）二男雅慶（同十二）住澁谷區原宿二ノ一七〇、九號電青山三五三〇

鰺坂 二夫（ツギヲ） 從七 陸軍中尉 東京農業教育專門學校生徒主事兼教授
鹿兒島縣士族舊姓小原明治四十二年二月八日出生昭和七年京都帝大文學部哲學科卒業後同大學院ニ學ビ濱松師範教諭兼舍監同十二年靜岡師範教諭同年充員召集同十四年解除靜岡縣社會教育課勤務同十五年十二月任地方視學官靜岡縣勤務ヲ經テ同十七年四月現職ニ任ズ住目黑區駒場町同校內

厚木 勝基 正四勳二 工博 東京帝大教授 工學部勤務
東京府士族納平次長男明治廿年三月出生同四十四年東京帝大工科應用化學科卒業大正五年米澤高工教授次デ同六年東京帝大工學部助教授同八年米國留學同十年現職ニ就ク同十二年學位ヲ受ク著書數種アリ家庭妻ミチ（明廿五、兵庫縣天方碁廣三女大阪府立淸水谷高女卒）女智枝（大四、佛英和高女卒）女榮子（同六、同校卒）住小石川區丸山町二一電大塚一四五二

厚地 達人 從五勳六 朝鮮總督府事務官 農林局農產課長
鹿兒島縣金次郎長男明治卅八年二月二日出生昭和二年東京帝大法學部英法科卒業朝鮮總督府勤務同七年拓務事務官次デ樺太廳農林部長同殖產部長歷任同十三年七月朝鮮總督府專賣局事務官鹽蔘課長同十五年二月府事務官農林局農務課長ヲ經テ同年十月現職ニ就ク家庭妻芳江（大四、鹿兒島縣厚地宗七郎二女縣立第一高女卒）住京城府光化門通一官舍

渥美 正　從四勳五　東京高師教授

愛知縣加藤正高五男明治廿五年十一月十五日出生同縣士族渥美與一ノ養子トナル大正九年東京帝大理學部物理學科卒業後現職ニ就ク趣味園藝家庭妻松子（明卅九、東京府足立豐藏二女山脇高女卒）嗣子勝忠（昭四）長女和子（大十五）住豐島區長崎四ノ二七電落合長崎二四九一

東 治　勳八　地方警視　愛知縣鶴舞健康保險出張所長

廣島縣人明治卅三年二月廿四日廣島市ニ出生昭和三年中央大專門部正科卒業中之條稅務署庶務課長健康保險署書記警視廳屬健康保險課勤務江東王子龜戸各健康保險出張所勤務保安部健康保險課勤務麴町健康保險出張所勤務八王子健康保險出張所長等歷任島根縣健康保險課長愛知縣健康保險課等ヲ經テ同十七年一月現職ニ就ク住名古屋市鶴舞健康保險出張所内

東 富雄　從六勳六　學校營繕技師　岐阜縣總務部營繕課長

石川縣人舊姓杉田ト稱ス明治卅年十二月十日出生大正十五年日本大學高工專攻部建築學科卒業富山縣建築技手同縣營繕技手同技師ニ歷任昭和十年學校營繕技師富山縣學校營繕技師ヲ經テ同十五年二月現職ニ就ク住岐阜市浪花町二三電二二二一

東 [illegible]　正七　内務技師兼企畫院技師　國土局勤務兼企畫院第六部第二課勤務

北海道人明治四十四年八月十四日出生昭和五年北海道帝大豫科ヲ經テ同八年同大工學部卒業大分縣勤務同十三年任土木技師佐賀縣勤務同十四年内務技師ニ任ジ下關土木出張所勤務ヲ經テ同十七年四月現職ニ就ク住麴町區霞ケ關内務省國土局内

東 文一　正七　地方事務官　愛媛縣經濟部商工課長

愛媛縣人明治卅年一月卅日同縣西宇和郡二木生村ニ出生大正八年愛媛縣ニ奉職同十年産業主事補翌年同縣屬拜命昭和十三年任地方事務官同十六年二月地方課長ヲ經テ同年十二月現職ニ就ク住愛媛縣溫泉郡道後湯之町南町二丁目電一三九一

東 龍太郎　從四勳四　醫博　海軍司政長官兼東京帝大教授　同大學評議員

大阪府人藤九郎ノ長男明治廿六年一月出生大正六年東京帝大醫科卒業同大學院ニ學ビ同大學醫科副手トナル後ロンドン大學ユニバーシティ、カレッヂニ於テ物理化學及生理學ヲ專攻東京帝大助教授文部省學校衛生官等歷任昭和六年英米ニ留學同七年任東京帝大教授次デ文部省體育官兼東京高等體育學校長兼任ヲ經テ同十七年五月現官ニ任ズ大正十五年學位ヲ受ク趣味スポーツ漕艇家庭妻照子（明卅一、東京府山川健次郎三女東京女高師附屬高女卒）男克彥（大九）女教子（同十一）二男鐵彥（同十五）二女和子（昭三）三男博彥（同五）住板橋區下石神井二ノ一二一七電石神井五三

穴澤 藤作　東京市技師　土木局道路管理課長

山口縣虎藏ノ長男明治廿三年五月五日出生大正五年京都帝大工科土木科卒業東京市ニ入リ累進技師ニ任ジ道路局工務掛長經理課契約掛長庶務課工務掛長下水課技術掛長同第二工營所長下水課工事掛長臨時市廳舍建築部庶務課長等歷任昭和十年本所區長ヲ經テ現職ニ就ク曩ニ歐米各國ヲ視察ス趣味乘馬家庭妻トミ子（明卅四、山口縣河田嗣郎妹同縣立高女卒）長男藤宏（大十三、成城學園卒）住世田谷區成城八八九電砧三〇九

穴吹 正二　從七　地方事務官　青森縣學務部社會課長

香川縣人金平四男大正二年八月十七日出生昭和八年同縣師範學校本科同十一年同校專攻科各卒業同十四年高文行政科合格同十五年東北帝大法文學部法科卒業靜岡縣屬拜命總務部地方課勤務同十六年四月任地方事務官青森縣稅務課長ヲ經テ現職ニ就ク住青森市浦町橋本三一八電三九二七

姉齒 松平　從四勳三　臺灣總督府判官　高等法院判官

宮城縣人五郎左衛門五男明治十八年五月出生昭和四年分家ス夙ニ中央大學專門部卒業同四十四年判檢事登用試驗合格司法官試補拜命同四十五年辯護士開業尋デ特許辯理士ヲ兼ヌ大正七年臺灣總督府法院判官ニ任ジ臺中地方法院高等法院覆審法院兼臺北地方法院各判官ヲ經テ昭和二年現官ニ就ク趣味登山旅行家庭妻靜子（明卅五）住臺北市營院町二ノ三法院官舍電二二二七五

油谷 精夫　從六　貿易局事務官　第一部市場第二課勤務

山口縣人明治四十年十一月廿七日出生昭和六年九州帝大法文學部法科同八年東京帝大經濟學部各卒業翌年高文行政科合格同十年商工屬拜命翌年任商工事務官貿易局勤務同十二年貿易局事務官ニ任ジ第二部輸入課第一部第二課勤務ヲ經テ同十四年六月現職ニ就ク住世田谷區下馬町二ノ八三三

天岸 敏介　從四勳四　醫博　朝鮮總督府道技師兼同府技師　京畿道警察部衛生課長兼警務局勤務兼藥用植物研究所長

山口縣士族中村長輔ノ二男明治十九年十一月出生大正三年天岸一順ノ養子トナル同五年大阪府立醫大卒業東京濟生會病院北里研究所東京帝大等ニ研究ヲ重ネ爾來内務省防疫事務囑託兵庫縣技師同十年任朝鮮總督府技師警務局勤務ヲ經テ現時前記ノ任ニ在リ同九年學位ヲ受ケ昭和四年新嘉坡ニ出張ス家庭養父一順（明三、愛媛縣士族淺井一德四男現戸主）養母ヨシ（同十二、天岸維翰二女）男太郎（大九）住京城府元町二ノ七電龍山八四三

天埜 良吉　正六　内務技師　國土局港灣課勤務

愛知縣人明治卅七年七月八日出生大正十五年第八高校昭和四年東京帝大工學部土木科各卒業同七年内務工手拜命同九年任内務技師橫濱同十年仙臺各土木出張所勤務ヲ經テ同十六年十月現職ニ就ク住豐島區雜司ケ谷七ノ一一一一大寶方

天野 一太郎　從七　地方事務官　靜岡縣警察部勞政課長　勞務監督官

靜岡縣人熊吉ノ長男明治卅二年四月六日出生大正十五年靜岡縣屬會計課勤務昭和八年屬兼警部知事官房勤務同十三年六月知事官房主事秘書課長兼文書課長等ヲ經テ同年八月地方事務官ニ任ズ趣味讀書家庭妻つや子（明卅六）長男幸雄（昭七）長女美奈子（同三）二女順子（同五）二男武（同十）住靜岡市安東三丁目一〇號官舍電二〇〇八

天野 榮十郎　正五勳四　通信事務官　神戸中央電話局長

愛知縣人榮三良ノ長男明治廿五年三月出生同四十二年名古屋郵便局通信吏員養成所卒業大正九年高文ニ合格通信事務官兼遞信局事務官那覇郵便局長兼同無線電信局長心得兼務伏見郵便局長兼深草郵便局長心得遞信局事務官通信事務官名古屋無線電信局長ニ歷任昭和十年名古屋中央電話局長同十六年七月現局長ニ任ズ趣味觀世流謠曲家庭妻てい（明卅一、愛知縣安井柳助長女）長男榮夫（大十二）長女哲子（同十四）三男昭二（昭二）二女惠子（同五）四男和彥（同七）五男明（同十）住神戸市湊東區東川崎町一丁目同局内

天野 次郎　正五勳五　遞信技師兼遞信局技師　大阪電信電話建設事務所

愛知縣人明治卅一年出生大正十二年京都帝大工學部電氣科卒業遞信省ニ入リ任遞信局技師大阪遞信局工務課長同工務部長等ヲ經テ昭和十七年四月現職ニ就ク住大阪市東區内本町二丁目同所内

天野 貞祐　正四勳三　文博　京都帝大教授　文學部勤務

神奈川縣人藤三ノ四男明治十七年九月卅日出生大正九年分家ス明治四十五年京都帝大文科哲學科卒業第七高校學習院各教授ヲ經テ大正十五年京都帝大助教授ニ任ジ昭和六年同教授ニ進ム大正十二年歐米各國ニ留學ス趣味讀書散步家庭妻タマ（明廿七、東京府青木傳七三女）住京都市左京區下鴨下川原町四六ノ二電上二〇〇三

天羽 馨　正六　學校營繕技師　東京府總務部營繕課長

千葉縣人明治廿三年八月廿五日出生大正三年東京高工建築科卒業同七年明治神宮造營局技手同十一年同技師同十四年東京市技師昭和六年東京工大囑託ヲ經テ同十一年東京府營繕技師總務部營繕課長トナリ同年學校營繕技師ニ任ズ住中野區本町通六ノ一八電中野二〇八二

天谷 健二　從五勳六　朝鮮總督秘書官

福井縣士族荒木金四郎三男明治廿四年十一月五日出生天谷寬ノ養子トナル福井縣屬勤務福井電力取締兼支配人職業紹介事務局事務官東京地方職業紹介事務局長浴風會庶務課長ヲ經テ昭和十一年現職ニ就ク趣味スキー家庭妻ゆき子（明卅）長男正（大十三）長女房子（同九、東京府立八高女卒）二女純子（昭五）三女紀子（同八）三男敦（同十）四男恂（同十二）住京城府大和町二官舍電本局四〇八

天谷 次一　正五勳五　特許局技師　審査第三部有機課長

福井縣人大正十年東京帝大工學部應用化學科卒業特許局ニ入リ累進任技師抗告審判官審判部勤務昭和十五年十二月化學部有機課長ヲ經テ同十六年四月現職ニ就ク住杉並區上荻窪一ノ一一〇

天利 新次郎　東京市主事　土木局庶務課長

德島縣人富永竹五郎二男明治廿八年一月廿九日同縣那賀郡立江町出生先代要之助ノ養子ト

ナル日大法科ニ學ビ辯護士試驗合格後東京市ニ入リ監査局統計課長監査部監察課長總務局都市計畫課長ヲ經テ現職ニ就ク 趣味 碁 家庭 妻幸子(明卅五、養父要之助二女) 住 牛込區新小川町二ノ一 電 牛込七〇一〇

綱島 毅 從五 遞信技師兼氣象技師兼農林技師 遞信省工務局無線課長 北海道人豐ノ弟明治卅八年六月二日出生昭和四年北海道帝大工學部電氣科卒業同七年任遞信局技師大阪遞信局勤務翌年遞信技師工務局勤務同十年遞信官吏練習所教官同十二年兼任特許局技師同十五年兼任氣象技師同十六年十二月工務局無線課長トナリ同十七年一月農林技師ヲ兼任ス曩ニ同十三年佛獨英出張同十五年チモール島ニ出張ス 住 杉並區高圓寺一ノ三 電 中野二二九五

雨宮 育作 從四勳三 農博 東京帝大教授 農學部附屬水產實驗所長 山梨縣人景通ノ四男明治廿二年十一月出生大正九年分家ス同三年東京帝大農科水產學科卒業同九年同大學助教授ニ任ジ同十四年英米獨ヘ留學昭和二年歸朝翌年學位ヲ受ク同四年同大學教授ニ進ミ現時農學部勤務附屬水產實驗所長タリ 家庭 妻文子(明卅二、東京府柴垣鎭郎二女)男龍吉(昭三)二女恭子(大十一) 五女慶子(同十) 住 目黑區駒場町九〇七 電 澁谷三一九

雨宮 要平 從七 東京市主事 經濟局金融課長 山梨縣人菊藏ノ長男明治廿八年三月十七日出生大正十年日本大學法律科卒業後東京市ニ入リ電氣局秘書課同庶務課同勞働課ニ各勤務勞働問題研究ノタメ歐米ニ出張歸朝後東京市杉並區書記同主事戶籍兵事課長同豐島區主事戶籍兵事課長城東區主事庶務課長ヲ經テ現職ニ就ク陸軍中尉タリ 趣味 園藝乘馬 家庭 妻芳子(明卅一、東京府士族深澤鐵五郎四女忍岡高女卒)男良晴(昭四)女濟香(大十一)女澄子(同十三)男良英(昭六) 住 杉並區阿佐ケ谷一ノ七一二 電 荻窪四六二一

雨宮 龍吉 從五 銀行檢査官 銀行局勤務 山梨縣人大正十二年東京帝大經濟學部卒業三井銀行本店外國營業部勤務ヲ經テ大藏省ニ入リ現ニ銀行檢査官タリ 住 杉並區西田町二ノ三九五 電 荻窪三六九六

雨森 寛三 從五 和歌山縣立和歌山商業學校長 京都府人正雄長男明治卅二年二月二日出生大正十三年京都帝大經濟部卒業現校ニ奉職新宮商業學校長ヲ經テ昭和十二年現職ニ就ク 家庭 妻操(明卅四、京都府大久保直三郎三女府立第一高女卒)長男(昭三) 二男研一(同七)三男修三(同十一) 住 和歌山市宇須町三九 電 四六四一

綾部小太郎 從五勳六 興亞院調査官 華北連絡部在勤 東京府人明治卅六年十二月十六日出生昭和二年東京帝大農學部農藝化學科卒業同年商工技手同五年任同技師貿易局勤務同十二年七月貿易局技師ニ任ジ第一部情報課兼第二部輸出課勤務翌年五月臨時物資調整局技師同年九月免兼官同十四年六月貿易局技師第二部化學農水產課勤務同十五年五月兼任商工技師化學局勤務ヲ經テ同十六年五月興亞院技師トナリ同年十一月現職ニ就ク 住 北京市興亞院華北連絡部內

荒井 惠 正四勳三 醫博 侍醫 東京府士族信榮四男明治十七年九月出生同四十一年東京帝大醫科醫學科卒業同大學副手臺灣總督府醫院醫長ヲ經大正十一年獨佛兩國ニ留學同十二年歸朝同十三年侍醫拜命同年學位ヲ受ク 家庭 妻あき(明廿五、東京府長田幹彥妹府立第二高女卒) 住 中野區朝日丘三 電 中野七

荒井 遐造 正六 地方警視 福岡縣警察部特高課長 栃木縣人故國太郎二男明治卅三年九月廿二日出生大正十二年高千穗高商卒業昭和二年明大法科專門部卒業同年高文行政科合格爾來警視廳屬兼警部補同技手兼警部警察技手警視廳屬兼警部同警部專任同七年警視廳警視麻布六本木警察署長同八年神田萬世橋警察署長等歷任同十三年地方事務官福島縣社寺兵事課長同十四年同縣農務課長同十五年四月山口縣學務課長同十六年一月任地方警視長野縣特高課長ヲ經テ同十七年一月現職ニ就ク 家庭 妻きよ子(明四三、東京府古谷太藏二女)長男紀雄(昭七)長女京子(同十) 住 福岡市藥院堀端七ノ七 電 西九八五

荒井 尚 正六勳六 沖繩縣書記官 警察部長 福島縣人明治卅二年九月廿二日同縣河沼郡日橋村ニ出生大正十四年東京高師文科卒業高文合格爾來石川縣屬兼視學地方警視石川縣警務課長地方事務官山形縣農務課長地方警視同縣特高課長長野縣特高課長歷任昭和十五年警察講習所教授兼內務事務官警保局勤務ヲ經テ同十六年九月現職ニ就ク 趣味 讀書 家庭 妻八重(明卅八、旅順高女卒) 長男春太郎(大十五)二男尚男(昭四) 住 那覇市美榮橋町官舍 電 一三二

荒井 浩 正五勳五 商工技師 總務局兼振興部勤務 兵庫縣人明治卅一年三月廿八日出生大正十年東京帝大工學部卒業同年工業試驗所技手同十二年技師ニ任ジ大阪工業試驗所勤務昭和十三年同所第一部長次デ臨時物資調整局技師ヲ經テ同十四年六月現職ニ就ク 住 目黑區三谷町一三五

荒勝 文策 正五勳四 理博 京都帝大教授 理學部勤務 兵庫縣人長田しげノ男明治廿三年三月出生同廿五年得夫ノ養子トナリ大正十三年家督相續ス同三年東京高師數物化學部同七年京都帝大理科各卒業同大學講師同助教授甲南高校教授臺灣總督府高等農林學校教授ヲ經テ大正十五年歐米各國ニ留學臺北帝大教授理農學部勤務ヲ經テ昭和十一年八月現職ニ就ク同三年學位ヲ受ク 家庭 妻エキ(明廿九、佐賀縣荒木稔姉)長男駿(大九)二男曄(同十) 長女百合子(同十四)三男豐(昭二) 住 京都市上京區小山北大野町二三 電 西七三三五

荒川 潔 從六 營林局技師 高知營林局事業部販賣課長 宮崎縣士族明治卅四年五月十日出生昭和二年東京帝大農學部林學科卒業同四年營林署技手兼營林局技手翌年專任營林局技手熊本營林局勤務同九年營林署技手多良木營林署長同十一年同技師長崎須崎各營林署長ヲ經テ同十四年十二月現職ニ就ク 住 高知市丸ノ內同局內

荒川 燊三郎 從七勳七 警視廳警視 大塚警察署長 茨城縣人明治廿七年三月廿日出生大正五年警視廳巡査拜命爾來累進昭和五年任技手兼警部獸醫課勤務同九年專任警部同十三年玉川署長等歷職同十四年警部兼同廳會計課用度係長ヲ經テ同十六年六月任警視廳警視現職ニ就ク 住 小石川區關口臺町二六 電 牛込三〇四〇

荒川 文六 正三勳一 工博 九州帝大總長 東京府士族省吾長男明治十一年十一月出生同廿二年家督相續同卅三年東京帝大工科電氣工學科卒業同大學助教授ニ任ジ同四十年獨英米ニ留學同四十三年歸朝ス翌年九州帝大教授ニ進ミ同年學位ヲ受ク昭和十一年同大學總長ニ任ズ 趣味 洋樂 家庭 妻チヨ(明十六、東京府士族井深梶之助長女普連土女學校卒)男康夫(同卅九、電氣廳技師工學士) 同妻正代(大元、東京府三木國太郎長女聖心女學院卒)男信生(明四五、東京高等工藝卒) 女綾子(大九、福岡高女卒) 女登志子(同十一、東京女大在)女春枝(同十三) 三男弘文(同十五) 住 福岡市地行西町七三 電 西一三六二

荒川 又市 從五勳六 福井縣書記官 經濟部長 福岡縣人明治卅六年九月一日出生大正十五年高文行政科合格任北海道廳屬尋デ地方事務官青森縣勤務地方警視青森縣特高課長兵庫縣特高課長地方事務官栃木縣耕地課長同農務課長愛知縣工場課長大阪府地方課長歷任昭和十三年內閣統計局書記官勞働課長兼庶務課長厚生書記官兼任同十四年十月山形縣書記官學務部長ヲ經テ同十六年三月現職ニ就ク 住 福井市寶永下町三官舍 電 一七五二

荒川 靖 從五勳六 福島縣立岩瀨農學校長兼教諭 福島縣人明治廿三年出生盛岡高農卒業累進信夫農學校長ヲ經テ昭和十二年三月現職ニ就ク 住 福島縣岩瀨郡須賀川町同校內

荒木 安宅 從四勳四 臺灣總督府技師 內務局勤務 福岡縣士族盛三ノ三男明治廿年十二月出生昭和二年分家ス大正四年東京帝大農學科卒業東京農大講師臺灣總督府屬同技手同技師民政部殖產局農務課同糖務課各勤務等ヲ經テ現時內務局土木課勤務タリ昭和八年歐米各國埃及ニ出張ス 家庭 妻忍子(明廿九、東京府士族松田順平長女東京女子學院卒) 長男健太郎(大十二)長女濟子(同十五) 住 臺北市東門町二四四 電 三二〇三

荒木 丑平 正五勳六 靜岡縣立燒津水產學校長兼教諭 靜岡縣高木惣吉三男明治十八年四月廿二日出生東京府士族荒木忠吉ノ養子トナル大正二年東京帝大農學部水產科卒業北海道水產試驗場技師ヲ經テ同十四年現職ニ就ク 趣味 園藝 家庭 妻あや(明廿四、東京府立第一高女卒) 長男忠茂(大十)二女奎(同七、靜岡高女卒) 住 靜岡市北安東町一二一 電 三五五五

荒木 和成 正六 拓務事務官兼拓務書記官 管理局警務課長

廣島縣人明治卅八年八月八日出生大正十五年浦和高校ヲ經テ昭和四年東京帝大法學部佛法科卒業同年高文行政司法各科合格同七年關東廳屬財務課勤務同十年關東局理事官關東州廳官房會計課長翌年同事務官ニ任ジ同十四年大連稅務署長歷職同十五年任拓務事務官管理局司計課後財政課翌十六年官房會計課兼管理局各勤務ヲ經同十七年一月兼任同書記官現職ニ就ク【住】本鄕區駒込林町一四五【電】駒込一九七七

荒木光太郎　從四勳三　東京帝大教授　經濟學部勤務

東京府士族十畝ノ長男明治廿六年五月出生大正八年東京帝大法學部經濟學科卒業同大學助教授トナリ昭和二年同教授ニ任ズ大正十二年英米獨佛各國ヘ留學ス【家庭】父十畝（明五）妻光子（同卅五、東京府莊清次郎五女）女明子（大十一）【住】本鄕區向ケ丘彌生町三【電】小石川七九九二

荒木俊馬　正五勳四　理博　京都帝大教授　理學部勤務

熊本縣士族竹次郎長男明治卅年六月出生同四十年家督相續大正八年廣島高師理科卒業同年滋賀縣立彥根中學敎諭ニ任ジ同九年京都帝大理學部ニ入リ同十二年同大學學士試驗合格同年同大學理學部講師同十三年同大學助教授ニ任ジ昭和十六年三月教授トナル曩ニ昭和三年獨逸同五年露西亞及米國同九年南洋群島同十一年滿洲國及中華民國ニ各在留出張ス【趣味】繪畫【家庭】母キジヱ（明七）妻京（同卅七、東京府渡邊鐵次郎從姉京都府立第一高女卒）男雄豪（大十四）長女みそら（昭八）二男俊豪（同十）【住】京都市左京區吉田中大路一【電】上四一一三

荒木文四郎　正四勳四　工博　神戸市土木部長

岡山縣人福次郎ノ二男明治十五年六月出生同四十年東京帝大工科土木工學科卒業北海道廳事業手トナリ同技手同技師ニ進ミ大正七年內務技師ニ轉ジ神戸土木出張所勤務昭和九年五月之ヲ辭シ現時神戸市土木部長タリ大正十五年工學博士ノ學位ヲ受ク【家庭】妻はる（明廿四、北海道士族山口岡妹）男英次郎（大二）女千代（同二）女嶽（同五）女綠（同九）【住】神戸市葺合區熊內通五ノ五九【電】葺合二三〇〇

荒木万壽夫　從五　遞信書記官　大臣官房企畫課長

長崎縣人大正十四年京都帝大經濟學部經濟科卒業滿洲國國務院總務廳勤務昭和十一年遞信書記官航空局總務課長同十三年同監理部企畫課長同十四年電氣廳書記官兼內閣東北局書記官電氣廳長官官房總務課長同十六年十月遞信書記官大臣官房秘書課長ヲ經テ同年十二月現職ニ就ク【家庭】妻敏子（明四五、福岡縣石野斐夫長女）【住】中野區道玄町八一【電】中野二一五九〇

荒木茂久二　正六　法制局參事官

廣島縣人昭和七年東京帝大法學部英法科卒業後現職ニ就ク【住】世田谷區東玉川一九一【電】田園調布三八六七

荒木義夫　正五勳四　臺灣總督府警務局長　臨時情報部副部長　非常警防部長

兵庫縣人矩ノ長男明治廿七年六月十七日出生昭和九年家督相續大正八年京都帝大法科佛法科卒業高文行政科合格內務屬福井縣警視保安高等各課長地方事務官福井縣地方課長鹿兒島縣庶務課長三重縣工場課長同社會課長兼商工水產課長山梨長野神奈川各縣書記官警察部長等歷任昭和十二年六月大阪府書記官警察部長同十四年一月警視廳警務部長同年九月德島縣知事ヲ經テ同十五年十二月現職ニ就任ス【住】臺北市南門町二丁目【電】二〇八〇

荒木林三　正七　軍事保護院技師　業務局勤務

兵庫縣人昭和十二年東京帝大醫學部卒業ス【住】世田谷區下代田二五八

荒島義賢　正六　鑛山監督局技師　仙臺鑛山監督局監理部長

佐賀縣士族明治廿八年三月六日出生昭和三年京都帝大工學部採鑛冶金學科採鑛科卒業同年鑛山監督局技手同八年同技師ニ任ジ福岡札幌各鑛山監督局勤務同十四年七月福岡鑛山監督局監理部鑛業警察課長ヲ經テ同十五年九月現職ニ就ク【住】仙臺市北二番丁【電】一四一七

荒瀨秀一　正六勳五　司法理事官　大臣官房會計課勤務

山口縣吉賀周太郎二男明治廿五年一月十日山口市ニ出生荒瀨惣太郎ノ養子トナル大審院書記長司法大臣秘書官司法事務官ヲ經テ現職ニ就ク【家庭】養母クラ（明九）妻登貴子（同卅、養父惣太郎長女山口高女卒）長女絢子（大十四）【住】品川區下大崎二ノ一【電】大崎二三〇八

荒船清一　正六勳六　遞信局書記官　東京都市遞信局業務部長

東京府人淸藏ノ長男明治卅九年出生昭和四年東京帝大法學部政治學科卒業同六年關東廳ニ入リ同八年奉天郵便局長同九年大連中央郵便局長同十年任貯金局事務官仙臺貯金支局長貯金局第一貯金課長同局庶務課長等歷任昭和十三年遞信局書記官大阪遞信局購買課長兼經理課長同十五年十一月仙臺遞信局業務部長次デ興亞院書記官華北連絡部在勤ヲ經テ同十七年一月現職ニ就ク【家庭】妻トシ（大二、東京府堀吉彥二女三輪田高女卒）【住】赤坂區葵町東京都市遞信局內

荒牧綠太郎　東京市瀧野川區長

東京市小石川區主事庶務課長東京市主事厚生局軍事援護課長ヲ經テ現職ニ就ク【住】小石川區西原町二ノ十五【電】大塚六二八一

新　敏雄　從五勳六　興亞院書記官　華中連絡部勤務

石川縣人大正十三年東京帝大經濟學部卒業大藏省ニ入リ稅務監督局事務官仙臺稅務監督局直稅部長門司稅關監視各部長大藏省爲替局輸入第二課長兼臨時物資調整局第六部第十三課長昭和十四年六月大藏書記官兼貿易局書記官爲替局輸入第二課長兼貿易局第三部資金第二課長等歷任同十六年八月現職ニ就ク【住】上海市北四川路興亞院華中連絡部內

新井　茂　從五勳六　物價局事務官　第二部長

兵庫縣人愛太郎長男明治卅四年四月出生大正十五年東京帝大法學部政治學科卒業商工省ニ入リ累進商工事務官商工書記官貿易局書記官兼臨時物資調整局事務官貿易局統制課長同第二部輸入課長臨時物資調整局第六部第十三課長兼第二部第四課長兼第五課長第二部機械金屬課長等歷任昭和十四年八月貿易局總務課長同十六年四月商工書記官兼商工大臣秘書官大臣官房秘書課長ヲ經テ同十七年四月現職ニ就ク【趣味】スポーツ【住】世田谷區上馬町一ノ七〇【電】世田谷四三四六

新井茂司　從六　厚生事務官　職業局勤務　職業官

埼玉縣人昭和六年九州帝大法學部卒業地方事務官長野縣總務部地方課長厚生事務官體力局勤務同十四年五月興亞院事務官華中連絡部勤務次デ厚生事務官勞働局勤務ヲ經テ現職ニ就ク【住】杉並區西田町一ノ四四四

新井　裕　正七　企畫院事務官　企畫院第四部第一課勤務

栃木縣士族大正三年五月十三日出生昭和九年第一高校同十二年東京帝大法學部法律學科各卒業其間同十一年高文行政科合格翌年內務屬拜命警保局勤務ヲ經テ同十三年五月地方事務官ニ任ジ長野縣警察部工場課長兼總務部地方課長工場監督官ヲ經テ同十六年一月現官ニ就ク【住】世田谷區下馬町一ノ三九〇

新井陸治　從五勳六　食糧管理局技師　第一部資料課長

埼玉縣人明治卅二年出生大正十三年東京帝大農學部農經科卒業農林省ニ入リ累進技師ニ任ジ昭和八年米穀局名古屋米穀事務所長同十一年米穀局調查課勤務同十三年四月東京米穀事務所長次デ米穀局資料課長ヲ經同十六年一月現職ニ就ク【趣味】スポーツ【家庭】妻かつ子（明卅一、中津高女卒）長男瑞敏（大十二）二男瑞彥（昭元）【住】目黑區駒場町七六四【電】澁谷一一五八

新居善太郎　從四勳三　內務省國土局長

東京府人倉造ノ四男明治廿九年一月出生大正十年東京帝大法科英法科卒業高文合格翌十二年廣島縣佐伯郡長復興局事務官內務事務官兼內閣總理大臣秘書官兼文部大臣秘書官內務書記官土木局道路課長同河川課長內務書記官兼大臣秘書官大臣官房人事課長等歷任昭和十三年厚生省社會局長同十五年鹿兒島縣知事ヲ經テ同十六年十月現職ニ就ク【家庭】妻菊枝（明四十、東京府麻生二郎五女女子學習院卒）男光（昭五）長女正子（同四）二男誠（同十）【住】澁谷區宇田川町一四【電】澁谷三六七六

有賀武夫　從五勳三　海軍大佐　海軍水路部總務部長

長野縣人明治廿七年出生大正六年兵學校卒業昭和七年中佐同十二年大佐ニ進級其間航海學校卒業潛水學校敎官名取艦長早鞆特務艦長ヲ經テ昭和十六年九月現職ニ補セラル【住】京橋區築地五丁目海軍水路部內

有賀忠義　從五　官幣大社氷川神社宮司

山梨縣安處長男明治十六年一月二日出生神宮皇學館卒業甲州加茂神社主典淺間神社禰宜唐澤山神社鹿兒島神宮各宮司ヲ經テ昭和五年現職ニ就ク【家庭】妻りん（明十九、山梨縣吉岡廣義二女）嗣子庸信（大三）四男陽一郎（同六）二女カホル（同十三）五男壯六（同十五）六男亘（昭四）【住】埼玉縣北足立郡大宮町

有坂　稷　正七勳六　職業主事　小樽國民職業指導所長

群馬縣故熊吉ノ三男明治廿七年一月三日同縣ニ出生同四十四年甲種蠶業學校卒業大正四年北海道巡查拜命爾來累進同九年北海道廳警部補同十二年同警部昭和十年同警視ニ任ジ函館

岩見澤各署長歷任同十四年任職業主事釧路國民職業指導所長ヲ經テ同十六年現職ニ就任ス【趣味】讀書【家庭】長男力（大十四、北海中學在）長女美津子（同十、高女卒）二女千賀子（昭三、高女在）三女昌子（同七）四女慶子（同九）【住】小樽市富岡町二ノ一六【電】一二六〇

有澤　作治　從四勳四　朝鮮總督府判事　京城地方法院仁川支廳判事

富山縣士族喜四郎四男明治廿年四月出生大正二年京都帝大法科獨法科卒業大正四年朝鮮總督府判事ニ任ジ爾來大邱地方法院京城地方法院水原支廳公州地方法院同井邑支廳釜山地方法院晉州支廳各判事淸津地方法院部長大邱地方法院判事全州地方法院群山支廳判事等歷補昭和十二年三月現職ニ就ク【家庭】妻ミチ（明廿四、京都府士族花田銀太郎長女）長男讓（大四）【住】釜山府通町二官舍【電】二四八

有家　三郎　北海道余市町長

北海道有末孫太郎ノ三男明治卅二年四月十九日北海道空知郡美唄町ニ出生陸軍幼年學校ヲ卒業陸軍ニ志願セルモ病氣ノ爲中斷農業ニ從事昭和十二年本道虻田郡東倶知安村長ヲ經テ同十五年二月現職ニ就任ス【家庭】妻彌惠子（明卅三、山梨縣內藤宇平四女）長男秀夫（昭八）【住】北海道余市町澤町【電】五

有田　喜一　從五勳六　大阪遞信局長兼大阪地方海員審判所長

兵庫縣人明治卅四年四月卅日出生大正十四年東京帝大經濟學部經濟科卒業同年高文行政科合格爾來簡易保險局書記通信事務官兼遞信局事務官鳥取郵便局長遞信局事務官札幌遞信局經理課長遞信省事務官電氣局勤務兼關東廳遞信事務官遞信書記官電氣局業務課長等歷任昭和十二年電氣局監理課長同十三年電力管理準備局總務課長兼任同十四年四月電氣廳書記官長官々房總務課長同年八月遞信書記官兼海運監理官大臣官房秘書課長ヲ經テ同十六年十月現職ニ就ク【住】大阪市天王寺區上本町五ノ二六【電】南五〇〇〇

有高　巖　正四勳三　東京文理大教授兼東京高師教授

福岡縣泰三郎二男明治十七年一月十五日出生昭和七年分家明治四十一年東京高師本科同四十四年京都帝大文科史學科各卒業佐賀高校東京高師各教授ヲ經テ現職ニ就ク大正十五年佛米支各國ニ留學ス【趣味】讀書【家庭】妻コマヨ（明廿二、福岡縣藤井喜三郎五女縣立福岡高女卒）男扶桑（昭四）女鈴枝（大五、府立第二高女卒）【住】小石川區竹早町一二【電】小石川三九一

有地　實吉　從七　職業主事　福山國民職業指導所長

廣島縣人明治卅年二月十四日出生大正六年福岡縣立東筑中學校卒業廣島縣蘆品郡書記廣島縣屬歷任昭和十三年七月現職ニ就ク【住】福山市新馬場町同所內【電】一三〇三

有近　彌榮　從四勳三　旅順工大教授

山口縣人門助ノ長男明治廿七年十一月出生同卅四年家督相續大正八年東京帝大工科採鑛科卒業旅順工科學堂教授旅順工大專門部教授同大學豫科教授同助教授ヲ經テ昭和九年三月同教授ニ進ム大正十一年歐米各國ニ留學ス【家庭】妻萩枝（明卅、山口縣星野該顯長女）【住】旅順市高崎町三二ノ四【電】五七六

有野　學　從五勳四　總領事　濟南在勤

福岡縣人明治十九年十二月出生同四十一年東亞同文書院卒業關東都督府陸軍省山東鐵道管理部附公使館二等通譯官上海領事館二等書記官等歷職昭和十一年八月現職ニ就ク【趣味】ゴルフ【住】濟南府商埠三經路緯七路角官舍【電】一九一三

有原　末吉　從五勳六　東京府立櫻町高等女學校長

熊本縣島七長男明治廿一年四月廿七日出生大正七年東京高師國文科同十二年同校專攻科各卒業同校助教授神奈川高女京都女師各教諭東京府立第一高女教授同第十一高女校長歷任現職ニ就ク曩ニ歐米視察ス【家庭】妻よしゑ（明廿八、神奈川縣大塚延太郎長女渡邊裁縫女學校卒）長男陸郎（大十）長女具子（同十二）【住】大森區田園調布一ノ一一二三【電】田園調布二六八九

有馬　英二　從三勳二　醫博　北海道帝大教授　醫學部勤務

福井縣人栗山英哉ノ二男後一ノ弟明治十六年五月出生先代カヤノ養子トナリ同卅年家督相續同四十一年東京帝大醫科卒業朝鮮總督府醫院醫官ニ任ジ大正五年歐洲出張歸朝後朝鮮總督府醫專教授トナリ同九年更ニ歐洲ニ留學後北海道帝大醫學部附屬醫院長ヲ經テ現職ニ就ク【家庭】妻つる（明廿六、東京府岡田喜之祐長女）嗣子洋（大五）男純（同七）女惠美子（同十）四男昌（同十四）【住】札幌市南三條西十六丁目【電】二四〇六

有馬　善一　正六　山口縣立柳井中學校長

福岡縣人丸岡寅市三男明治卅年二月五日出生有馬家ヲ相續ス大正十年廣島高師卒業沖繩縣視學廣島平生高女校長廣島縣縣視學等歷任昭和六年山口縣立下關高女校長ヲ經テ同十五年四月現職ニ就ク【家庭】妻二枝（明廿九、大分縣常賀房藏二女中津高女卒）長男昌義（昭五）長女暢子（大十五）二女悠紀子（昭二）二男俊彥（同七）【住】山口縣玖珂郡柳井町【電】一七〇

有馬　秀一　正八　地方事務官　鹿兒島縣總務部地方課長

鹿兒島縣人明治廿五年十二月廿三日出生大正十一年鹿兒島縣ニ奉職同十五年同縣屬拜命地方課勤務昭和十一年學務課勤務同十四年會計課長ヲ經テ同十六年九月任地方事務官現職ニ就ク【住】鹿兒島市西田町南區一二八【電】二一八二

有馬　純次　正六　地方視學官　愛媛縣學務部學務課長

鹿兒島縣士族猛ノ長男明治卅三年三月廿九日出生大正十三年廣島高師卒業同年廣島縣三原女子師範教諭兼訓導同縣立三原高女教諭昭和三年愛媛縣師範教諭同十二年同縣立大洲中學校長兼教諭ヲ經テ同十四年三月地方視學官ニ任ジ愛媛縣勤務同十五年一月學務課長ニ就任ス【趣味】庭球西洋音樂【家庭】妻ミツ子（明卅五、廣島縣佐々木長太郎三女三原女子師範卒）長女和子（昭三）【住】松山市通町一三【電】一一六〇

有馬　省吾　正六　營林局技師　熊本營林局經營部土木課長

鹿兒島縣人明治卅三年四月十日出生大正十四年東京帝大農學部林學科卒業翌年營林局技手昭和五年營林署技手同十年同技師松本營林署長ヲ經テ同十二年營林局技師ニ任ジ大阪營林局在勤同十四年九月現職ニ就ク【住】熊本市東坪井町二八

有馬　富一　正八　地方警視　新潟縣警察部警防課長

新潟縣人明治廿七年三月一日出生大正九年同縣巡查拜命爾來累進昭和八年任警部栃尾見附小千谷新津各警察署長歷職同十六年保安課長ヲ經テ同年六月任地方警視現職ニ就ク【住】新潟市西大畑町官舍【電】一八〇六

有馬　良橘　從二勳一功三　海軍大將　樞密顧問官　官幣大社明治神宮々司

和歌山縣士族元丞長男文久元年十一月出生明治廿四年家督相續同廿一年任海軍少尉大正九年海軍大將ニ陞ル其間海軍砲術學校長海軍兵學校長第三艦隊司令長官海軍教育本部長等ニ歷補昭和六年明治神宮々司ニ任ズ次デ樞密顧問官ニ推サル日露ノ役ニ殊勳アリ【家庭】養子寬（明十八、和歌山縣神野介壽二男）同妻靜子（同廿五、東京府士族中山勝之助長女成女高女卒）同三女文子（同十一、女子學習院卒）【住】澁谷區大山町一八【電】澁谷一六七〇

有松　昇　正五勳五　宮城縣書記官　經濟部長

東京府士族故樞密顧問官英義ノ長男明治卅三年八月十七日出生大正十年第一高校ヲ經同十二年高文合格同十三年東京帝大法學部獨法科卒業內務省ニ入リ爾來神奈川千葉各縣保安課長警視廳警視調停課長監察官兼議院書記官兼社會局事務官地方事務官兵庫縣商工課長山梨縣書記官警察部長警察講習所教授北海道廳部長經濟部長歷任昭和十二年拓務書記官東亞局第一課長同十三年拓務局東亞第一課長次デ岐阜縣書記官學務部長ヲ經テ同十六年一月現職ニ就ク曩ニ歐米各國南洋群島樺太臺灣滿洲等歷遊ス【趣味】乘馬登山音樂【家庭】妻澄子（明卅五、小出收三女東京女高師附屬高女卒）長男晃（昭二）長女濟子（同三）【住】仙臺市外記丁一八官舍【電】一七三

有光　次郎　從五勳六　文部書記官兼文部大臣秘書官　大臣官房秘書課長兼史料編修課長

高知縣政吉ノ三男明治卅六年十二月十日出生昭和二年東京帝大法科獨法科卒業後文部省ニ入リ宗教局保存課長專門學務局學務課長歷任同十六年一月大臣官房文書課長ヲ經テ同十七年一月現職ニ就ク【趣味】運動【家庭】妻綾子（大元、高知縣濟岡榮之助二女高等學園卒）男正文（昭十三）長女惠子（同十）【住】牛込區中里町二四【電】牛込四二〇八

有光　幸高　正七　地方事務官　福岡縣經濟部價格課長　物價調整官

福岡縣人故幸三郎ノ長男明治卅年五月五日出生昭和十三年家督相續ス大正五年同縣農學校卒業東京農大ニ學ブ同九年糸島農學校助教諭拜命爾來產業組合中央會福岡縣支部主事全國購買組合聯合會主事大阪支所肥料課長東京本所肥料配給課長ヲ經テ再ビ產業組合縣支部會主事ニ任ジ昭和十三年九月任地方事務官福岡縣勤務被命現時價格課長タリ【趣味】讀書【家庭】妻昌子（明卅六、福岡縣萩原健太郎二女糸島高女卒）長男幸元（昭十一）長女幸子（昭元、糸島高女在）二女洋子（同七）三女久美子（同九）【住】福岡市本庄町天神通三八【電】福岡西一七一九

有持　良雄　地方事務官　大阪府玉出健康保險出張所長

德島縣人慶次郎ノ長男明治廿五年二月十一日大阪市ニ出生同四十三年奈良縣立工業學校卒業昭和二年社會局健康保險書記徵收係長同四年德島縣屬同十二年沖繩縣屬健康保險課長同十三年大分縣屬健康保險課長等歷任同十五年八月德島縣屬兼警部警察部健康保險課長ヲ經テ同十七年一月現職ニ就ク趣味俳句家庭妻アサ（明卅一、德島市赤澤清吉長女）長男稔（大十五）長女倭文子（大十、小松島高女卒）二男久（昭六）三男文博（同九）四男健二（同十六）住大阪市玉出健康保險出張所氣付

有本恒太郎 正六 土木技師兼道路技師 靜岡縣土木部砂防課長
和歌山縣士族明治廿七年五月廿五日出生大正五年名古屋高工土木科卒業同八年內務技手拜命昭和七年土木技師兼道路技師ニ任ジ靜岡縣土木技師兼道路技師同十四年六月現職ニ就ク住靜岡市西千代田町三八縣營住宅四四號電三五七四

有安堅三 從四勳四 檢事 前橋地方裁判所檢事正
岡山縣久藏ノ三男明治廿一年三月出生大正八年分家同六年東京帝大法科卒業司法官試補後檢事ニ任ジ大阪神戶各地方裁判所檢事東京刑事地方裁判所東京控訴院各檢事大阪地方裁判所次席檢事等歷任昭和十五年四月函館地方裁判所檢事正ヲ經同十六年八月現職ニ就ク家庭妻君子（明卅一、岡山縣船橋太郎妹）長男倫一（昭四）女民子（大九）二女佳子（同十三）三女久子（昭七）住前橋市北曲輪町官舍電二二四三

有吉實 從四勳四 尼崎市長
京都府士族三七ノ三男明治十九年五月出生同四十五年東京帝大法科獨法科卒業同年司法官試補拜命大正二年高文ニ合格德島縣警視德島長野山形各縣理事官鳥取三重福岡各縣警察部長宮崎縣內務部長愛知縣警察部長宮崎縣知事等ニ歷任昭和七年退官尼崎市長ニ擧ゲラレ同十五年五月再選セラル家庭妻彰子（明廿四、京都府士族根本吉太郎三女）住尼崎市神田中通八ノ二五七電三二二三

鮎川久太郎 正六 關東專賣局長
山形縣人明治卅四年八月出生昭和二年東京帝大法學部法科卒業翌年高文合格關東廳事務官大連民政署財務課長關東局理事官兼同事務官々房會計課長兼地方課長兼旅順圖書館長兼關東體育研究所長旅順民政署長旅順市長等歷任昭和十五年五月關東州廳內務部長ヲ經テ同十六年一月現職ニ就ク住大連市同局內

淡路圓治郎 從五勳六 文博 航空研究所員兼東京帝大助教授
東京府人大正八年東京帝大文學部心理學科卒業昭和四年學位ヲ受ク現時前記ノ職ニ在リ住小石川區西丸山町一五電大塚七二三〇

淡島徵助 從五勳五 興亞院調查官 華中連絡部在勤
東京府人大正十一年北海道帝大農科農藝化學科卒業專賣局ニ入リ任技師東京地方專賣局芝工場勤務足立工場長ヲ經テ昭和十七年三月現職ニ轉ズ住上海市北四川路華中連絡部內

粟井丘 正七 地方事務官 新潟縣警察部健康保險課長
岡山縣人明治卅五年七月七日出生大正九年同縣立兒島商船學校同十五年日大專門部商科正科各卒業兵庫健康保險署ニ勤務昭和十年高知縣屬健康保險課長同十二年宮城縣屬健康保險課長同十四年大阪府屬健康保險課庶務係長兼監查係長同十五年六月地方事務官福井縣健康保險課長等ヲ經テ同十六年十一月現職ニ任ズ住新潟市關屋松波町四六電一六九八

粟津包勝 正六 地方農林技師 兵庫縣經濟部畜產課長
東京府士族義夫長男明治廿三年九月十日出生大正四年東京帝大農科獸醫學實科卒業同十五年農林技手拜命畜產局勤務昭和四年地方農林技師千葉縣畜產課長ヲ經テ同十六年一月現職ニ就ク同七年英領加奈陀及米國ヘ出張ス家庭妻久子（明卅、茨城縣辰之介二女）長男勝太郎（大九、陸士卒陸軍中尉）二男慶二郎（大十四、千葉縣立佐倉中在）二女登志子（昭元、神戶市山手高女在）三男勝三郎（昭四）三女登喜子（同六）住神戶市林田區房王寺町三ノ一電湊川四一五

粟屋良馬 從四勳五 農林技師 食品局兼水產局勤務 東京帝大講師
山口縣重見良材二男明治廿六年二月十五日出生同縣士族粟屋新三郎ノ養子トナリ後家督相續ス大正七年東京帝大工科船舶機關科卒業橫濱船渠會社技師ヲ經テ同十二年農林技師拜命水產局勤務昭和十六年一月現職トナル曩ニ巴里ニ開催セル國際冷凍協會總會ニ帝國代表トシテ出席ス趣味寫眞ゴルフ家庭妻ノブ（明卅四、東京府粟屋甌祐長女松江高女卒）長女孝子（大八、實踐高女卒）二女和子（同十一、中野高女實踐家政研究科各卒）住中野區上野原町七電中野五二一八

イの部

井內清雄 正五勳五 鐵道省陸運監理官 監督局勤務
山形縣士族金太郎長男明治廿九年三月十一日出生夙ニ東京帝大法學部獨法科卒業仙臺鐵道局書記同局運輸課山形秋田各運輸事務所東京鐵道局運輸課庶務課千葉上野各運輸事務所鐵道省監督局業務課歷勤仙臺運輸事務所長昭和十二年鐵道省陸運監理官監督局監理課勤務次デ鐵道局參事新潟鐵道局運輸部長同十六年一月兼任國際觀光局書記官東京鐵道局勤務ヲ經テ同十七年一月現職ニ就ク趣味スキーゴルフ音樂家庭妻周子（明卅八、士族矢野仁長女御茶水高女卒）嗣子宏（大十五）二男（昭三）長女澄子（同五）住牛込區矢來町二八

井川俊一 正六 醫博 厚生技師兼企畫院技師 衛生局兼企畫院第三部第一課勤務
茨城縣人明治卅九年九月十四日出生昭和二年水戶高校同五年東京帝大醫學部藥學科各卒業同大學副手同十年內務技師拜命衛生局勤務同十三年厚生技師トナル同十一年學位ヲ受ク住澁谷區氷川町五七電青山五三六一

井口還六 勳八 長野縣警察部保安課長
長野縣故勝吉二男明治卅二年一月五日出生後故源七ノ養子トナル大正九年長野縣巡查拜命爾來累進昭和七年任警部飯山福島臼田各警察署長ヲ經テ同十六年二月現職ニ就ク家庭妻しげる（明卅七、西ケ原高等蠶絲卒）長男長保（昭三）二男隆明（同七）長女みどり（同十一）二女加代子（同十五）三女淸子（同上）住長野市新諏訪町一八〇

井口賢三 正四勳二 農博 北海道帝大教授 農學部勤務
京都府人乙藏三男明治十六年六月出生同四十三年東北帝大農科農學科卒業同大學助教授大正九年農博ノ學位ヲ受ク同十一年獨英米瑞各國留學同十三年歸朝現教授ニ任ズ曩ニ附屬農場長タリ昭和六年歐洲各國ニ出張ス家庭妻ハル（明廿五、北海道服部小錦治二女、東京音樂學校卒）嗣子潔（大四）女博子（同七）女妙子（同十）住札幌市南七條西十四丁目一三五一電二九一

井口幸一 從五勳五 厚生技師 勞働局勤務 勞務監督官
和歌山縣精太郎長男明治卅年四月十二日兵庫縣ニ出生大正十一年京都帝大工學部工業化學科卒業農商務省工務局內務省社會局勞働課勤務ヲ經テ同十五年社會局技師ニ任ジ昭和十三年現職ニ就ク趣味野球庭球ゴルフ圍碁將棋家庭妻房子（明四二、兵庫縣飯田忠右衛門長女第一高女卒）長男弘康（昭七）長女昌子（同六）住荏原區中延町一〇七三電荏原四五三三

井口貞夫 正七 陸軍步兵中尉 地方技師 岐阜縣經濟部產業組合課長 產業組合監督官
德島縣人明治卅八年十二月二日出生大正十五年鳥取高等農林學校農藝化學科昭和五年九州帝大農學部農學科各卒業同大學農學部助手拜命同八年農林局經濟更生部勤務同十二年地方農林主事長崎縣農政課同十四年同縣企畫課各勤務ヲ經テ同十五年十二月任地方技師現職ニ就ク住岐阜市池田町二三電二八九一

井口貞夫 正五勳四 大使館參事官 米國在勤
東京府人昭和十一年外務書記官調查部第五課長同十二年東亞局勤務同十三年情報部第一課長遞信書記官兼任同十五年五月大使館一等書記官兼領事米國在勤ヲ經テ同十六年二月現職ニ就ク住麻布區霞町一（留守宅）電赤坂五一〇

井口鹿象 從四勳三 工博 北海道帝大教授 工學部長
靜岡縣源藏二男明治廿一年七月出生大正四年東京帝大工科土木工學科卒業三重縣技手新潟縣技師岐阜縣土木課長昭和二年任內務技師東京橫濱各土木出張所及狩野川改修事務所ニ勤務昭和六年任北海道帝大教授同十七年三月工學部長ニ補ス同七年學位ヲ受ケ同年文部省在外研究員トシテ歐米各國ニ出張ス家庭妻かよの（明卅三、三重縣田中秋二女）養子善吉（昭三）住札幌市南十九條西六丁目電札幌五一六九

井口常雄 正四勳二 工博 東京帝大教授 工學部勤務 航空研究所々員
故工博在歷二男春久ノ弟明治廿一年九月出生大正十五年分家同二年東京帝大工科造船學科卒業遞信局技師ヲ經テ同六年東京帝大工科助教授ニ任ジ同十一年同大學教授ニ進ム趣味ボート家庭妻道（明廿六、東京府工博山口準之助長女御茶ノ水高女卒）住小石川區鷄籠町一三二電大塚一一四一

井口秀夫 從七勳七 地方事務官 宮崎縣學務部職業課長
宮崎縣有馬良一長男明治廿九年十二月十一日出生井口スカノ養子トナリ昭和五年家督相續

大正四年宮崎中學卒業同十五年同縣屬拜命昭和十二年十月任社會事業主事宮崎縣勤務同縣社會課長トナリ同十六年二月地方事務官ニ任ジ職業課長兼社會課長同年六月職業課長專任トナル〔趣味〕園藝乘馬〔家庭〕妻直（明卅八、宮崎縣永田正英三女宮崎高女卒）長男馨（大十三、五高在）二男潤治郎（昭三縣立宮崎中在）長女民子（同七）三男公人（同十二）〔住〕宮崎市中津瀬町四ノ一〔電〕一二四八

井口 正夫 正六 地方事務官 茨城縣學務部學務課長

和歌山縣人明治卅七年二月九日出生昭和四年東京帝大法學部卒業福井縣屬拜命爾來地方警視長野縣勤務地方事務官山口栃木各縣勤務ヲ經テ現職ニ就ク〔家庭〕妻淑子、長女和子（昭九）長男昌彥（同八）〔住〕水戶市鷹匠町官舍〔電〕九二二

井下田孝一 從七 都市計畫地方委員會事務官兼北海道廳事務官 都市計畫北海道地方委員會勤務 北海道廳土木部監理課長

千葉縣江森彥次郎ノ二男明治四十四年六月十五日出生後井下田家ニ入ル昭和八年廣島高校卒業同十二年高文合格翌十三年東京帝大法學部政治科卒業任愛知縣屬庶務課勤務同十四年任地方事務官地方課勤務同年六月大分縣地方課長次デ同縣總務部振興課長ヲ經テ同十六年現職ニ就任ス〔趣味〕野球庭球〔家庭〕妻（大九、福島縣萩生天泉長女、東京府立第一高女卒）長女晴子（昭十六）〔住〕札幌市北一條東二ノ四官舍〔電〕二二二六

井關 晋 從五勳六 道路技師兼土木技師 新潟縣土木部道路課長

新潟縣人明治卅八年四月十九日出生大正六年東北帝大工學專門部土木工學科卒業同八年新潟縣技手拜命土木課勤務並飯田川改修事務所主任及長岡土木工區勤務等ヲ經テ昭和二年任道路技師兼土木技師同縣勤務同十五年十月現職ニ就ク〔住〕新潟市水道町一〔電〕三二六九

井坂壹一夏 從五勳六 朝鮮總督府事務官 殖産局商工課長兼企畫部物資調整第二課長

北海道圭松ノ男明治卅三年五月廿一日出生大正十二年九州帝大工科同十五年東京帝大經濟學部各卒業同十三年高文合格朝鮮總督府殖産局屬慶尚南道平安南道各警察部長歷職同十二年朝鮮總督府事務官總督官房文書課長兼國勢調査課長ヲ經テ同十四年四月現職ニ就ク〔家庭〕妻順子（明四二）嗣子宮久（昭十）長女隆子（同八）〔住〕京城府光化門通三四官舍〔電〕光化門一七七一

井下 清 東京市公園部長

東京府士族氣一ノ長男明治十七年八月一日京都市ニ生ル同卅八年東京農大卒業市土木局公園課ニ入リ累進現職ニ任ズ〔趣味〕旅行讀書〔家庭〕妻孝子（明廿七、東京府士族秋山謙藏長女日本女大卒）長男淳（大四、慶大卒）二男健（同六）三男透（同十三）〔住〕目黑區中目黑一ノ六六七〔電〕大崎二四七〇

井關 書一 正六勳六 農林省產業組合事務官 經濟更生部勤務

福島縣人彌三郎ノ長男明治廿五年二月出生大正五年東京帝大農學部卒業福岡縣產業主事農林省產業組合事務官全國米穀販賣購買組合總務部長等ヲ經テ現職ニ就任ス〔趣味〕園碁旅行〔家庭〕妻ツネヨ（明卅三、平田德太郎長女唐津高女卒）長男昌彌（昭六）長女和子（同四）二男朗善（同七）〔住〕杉並區阿佐ケ谷二ノ六四三〔電〕荻窪二七〇二

井關 正雄 從五 內務技師 國土局道路課

山形縣士族恭四郎長男明治卅二年十月十七日出生大正十二年東京帝大工學部土木科卒業同年東京電燈會社技手同十四年橫濱市技師次デ昭和四年靜岡縣道路技師同八年同縣道路課長同十年香川縣土木課長同十二年栃木縣經濟部土木課長同十四年內務技師土木局第二技術課勤務ヲ經テ同十六年現職ニ就ク〔趣味〕麻雀スキーテニス〔家庭〕妻菊子（明四〇、山形縣田口盛治長女名古屋高女卒）長男正昭（昭二）長女和子（同五）二女道子（同十）〔住〕杉並區成宗一ノ三六

井田 兒二 正五勳五 山口縣書記官 總務部長

福井縣人謙治ノ二男明治卅年三月廿三日出生昭和五年兄耕治方ヨリ分家ス大正十一年高文合格翌十二年京都帝大法學部獨法科卒業任石川縣屬爾來同縣警視地方警視地方事務官奈良埼玉愛媛廣島各縣勤務內務事務官同書記官地方局地方債財務各課長三重宮城各縣書記官警察部長等歷任昭和十四年四月廣島縣書記官警察部長ヲ經テ同十六年一月現職ニ就ク〔家庭〕妻璋子（明卅七、岡山縣內田恒太郎三女東京府立第一高女卒）長男武（昭三）二男朗（同五）〔住〕山口市多賀通官舍〔電〕五九

井手 成三 從六勳五 法制局參事官

京都府正三ノ四男明治卅九年四月六日出生昭和三年高文行政科合格同四年東京帝大法學部法律科卒業同年兵庫縣屬拜命爾來內務屬土木局兼大臣官房文書課勤務地方事務官茨城縣勤務地方警視千葉縣警務課長地方事務官新潟縣學務課長社會局事務官臨時軍事援護部勤務傷兵保護院事務官計畫局勤務等歷任同十三年企畫院調查官兼法制局參事官總裁官房審議室勤務ヲ經テ同十四年現職ニ就ク〔趣味〕劍道乘馬〔家庭〕妻悅子（明四四、岡山縣故石井敏雄二女佛英和女學校卒）長女韻子（昭八）長男正敬（同十）二女禮子（同十二）〔住〕世田ケ谷區下馬二ノ一〇八六〔電〕澁谷一八〇六

井手 義行 從四勳四 東京外國語學校教授

熊本縣士族義久長男明治廿二年二月出出大正二年東京帝大文科英文科卒業同六年東京外國語學校教授ニ任ジ同十年米英各國ニ留學同十三年歸朝ス〔家庭〕女マドカ（大六）〔住〕大森區雪ケ谷一三三九

井出 潔 正五勳四 醫博 地方技師 靜岡縣警察部衞生課長

長野縣增平三男明治十六年四月十日出生同四十二年日本醫學校卒業東京府立治療所醫員群馬縣警察醫同縣技師山形縣技師鳥取縣技師同縣衞生課長歷任昭和六年地方技師茨城縣衞生課長ヲ經テ同十一年現職ニ就ク曩ニ學位ヲ受ク〔趣味〕寫眞撞球園藝〔家庭〕妻信（明卅、東京京華高女卒）長男功（大四、東京帝大法科在）二男次夫（同六）三男敏夫（同十四）四男裕雄（同十五）〔住〕靜岡市北安東町二號官舍〔電〕一五八七

井出藤太郎 山梨縣總務部稅務課長

山梨縣故藤二良長男明治廿一年三月二日出生大正十年同縣北巨摩郡書記拜命同十五年同縣屬ヲ經テ昭和十三年地方振興主事トナリ同十六年一月財務主事山梨縣屬拜命現職ニ就ク〔家庭〕妻かつよ（明十九、山梨縣井出佐茂四郎六女）〔住〕甲府市細工町十九番地ノ二

井出 正孝 正五勳四 農林省山林局長

長野縣豐作長男明治卅年十二月出生大正十年高文行政科合格翌年東京帝大法學部卒業農商務屬拜命爾來水產講習所教授同教授兼農商務事務官農林書記官水產局水產課長同書記官兼外務書記官水產局監督課長等歷任昭和十二年九月農林書記官大臣官房企畫課長同十四年一月同文書課長兼調查課長同年五月農林省經濟更生部長次デ營林局事務官東京營林局長ヲ經テ同十五年六月現職ニ就ク曩ニ大正十四年ソ聯邦ニ昭和八年英米各國ニ出張ス〔趣味〕讀書〔家庭〕妻キク（明四〇、福島縣八田宗吉長女）長男正敏（昭三）二男健彥（同四）長女篤子（同六）二女節子（同八）三男正光（同九）〔住〕澁谷區永住町三四〔電〕青山八二二〇

井東 豐彥 正五勳五 山形縣師範學校長

茨城縣人明治廿年四月出生大正二年東京高等師範地歷科卒業福島高女宮崎女子師範各校長歷任香川縣女子師範兼坂出高女各校長ヲ經テ現職ニ就ク〔趣味〕讀書庭球スキー〔家庭〕妻ゆき（明廿八）男俊雄〔住〕山形市同校內

井關 牟彌 正五勳四 東京商大教授兼同附屬商學專門部教授

京都府義藏長男明治廿七年九月十四日出生大正九年東京高商專攻部卒業同校助手拜命同十五年任東京商大商學專門部教授兼同大學助教授昭和二年現職ニ就ク大正十一年獨逸ニ留學ス〔趣味〕映畫〔家庭〕母いゑ（明九）〔住〕東京府北多摩郡武藏野町吉祥寺五二〇〔電〕吉祥寺一二三一

井野 碩哉 從三勳二 農林大臣兼拓務大臣

三重縣人余吉ノ二男明治廿四年十二月十二日出生同卅二年分家ス大正五年高文ニ合格同六年東京帝大法科獨法科卒業水產講習所教授兼水產局事務官農商務事務官兼同省參事官農商務書記官水產局水產課長農務局米穀課長大臣官房會計課長同文書課長農林省蠶絲局長等歷任昭和十二年五月內閣企畫廳次長同年八月農林次官同十三年九月退官日本水產專務トナリ同十五年八月再ビ農林次官ニ任ジ同十六年六月農林大臣ニ親任同年十二月拓務大臣兼任曩ニ同四年歐米ニ出張ス〔趣味〕ゴルフ庭球園碁將棋〔家庭〕妻トキ（明卅二、鹿兒島縣山崎吉次郎長女）長男隆一（大九）長女美代子（同十一）二女民子（同十四）二男昌次（昭二）三女雅子（同五）〔住〕澁谷區青葉町三〔電〕青山二一三六（官舍）麴町區永田町二ノ一二〔電〕銀座九七・四一八

井上 一二 勳八 鹿兒島縣警察部保安課長

鹿兒島縣士族道二ノ長男明治廿九年二月二日出生大正四年同縣立加治木工業學校卒業同九年同縣巡查拜命昭和元年同縣警部補任官同七年任同縣警部同十五年九月現職ニ就ク〔家庭〕妻サツ子（大元、鹿兒島縣中條厚四女國分高女卒）長男達雄（同十三、加中卒）長女千鶴子（同十、國分高女卒）二女田鶴子（昭元、同校在）三女禮子（同三、鹿兒島高女在）二男二郎（同十一）〔住〕鹿兒島市鼓川町五一〔電〕公一七九一

井上 英 正五勳四 新潟市長

埼玉縣士族村田讓吉ノ二男明治十九年十二月出出同四十年從兄井上稻作ノ後ヲ承ケ家督相續大正元年高文合格翌年東京帝大法科政治學科卒業爾來福井縣屬同警視同理事官長野大阪

各府縣理事官茨城熊本新潟京都各府縣警察部長佐賀縣知事歷任昭和六年臺灣總督府警務局長トナリ後之ヲ辭シ東京市電氣局理事旭川市長ヲ經テ昭和十三年十一月新潟市長ニ就ク【家庭】妻まつ（明廿一、群馬縣中島喜三郎長女）長男協（大九）長女順子（大十三）二女悦子（昭五）【住】新潟市西大畑町五九二ノ一【電】三一四

井上 馨 從五勳五 檢事 東京刑事地方裁判所檢事兼東京區裁判所檢事
福岡縣喜三郎ノ三男明治卅年十月三日出生大正十一年東京帝大法學部卒業東京區兼東京刑事地方裁判所檢事東京區裁判所檢事ヲ經テ昭和十五年一月現職ニ就ク【家庭】妻直（明四〇、小西春雄長女福岡高女卒）長女洋子（大十三）二女康子（昭二）【住】中野區氷川町二八

井上匡四郎 正三勳二 子爵 工博 貴族院議員 技術院總裁
熊本縣岡松甕谷ノ四男明治九年四月出生後先代毅ノ養子トナリ同廿八年襲爵仰付ラル同卅二年東京帝大採鑛冶金科卒業同卅四年歐米ニ留學東京帝大工科助教授同教授大阪高工京都帝大各教授滿鐵撫順炭鑛長鞍山製鐵所長事務囑託同四十三年貴族院議員ニ當選大正十四年海軍政務次官ニ任ジ翌年鐵道大臣ニ親任帝國鐵道協會長ニシテ曩ニ萬國議員同盟會議國際聯盟第十一回總會萬國議員商事會議等ニ帝國代表トシテ出席ス【趣味】野球ゴルフ【家庭】妻ふじ（明十九、養父毅女東京女高師附屬高女卒）男匡一（昭四）【住】芝區高輪南町二八【電】高輪三四八

井上 硬 正五勳四 醫博 京都帝大教授 醫學部勤務
岡山縣人哲二ノ四男明治廿七年七月出生大正八年京都帝大醫科卒業同大學助手同講師ヲ經同十四年同助教授ニ任ズ同十三年學位ヲ受ク昭和五年以降二ケ年半歐米各國ニ留學ス【趣味】馬術及弓道【家庭】妻美江（明卅六、京都府木村幸次郎二女）長男哲夫（大十四）長女幸枝（同十五）二女知子（昭五）三女節子（同八）二男俊治（同十）【住】京都市左京區岡崎西天王町六一

井上 一夫 正五勳四 會計檢查院檢查官 第四部第三課長
岡山縣人小坂廣右衛門長男明治廿八年五月出生同縣人先代多吉郎ノ養子トナリ家督相續大正八年中央大學專門部法律科卒業翌九年會計檢查院書記第二部第二課勤務同十年高文合格翌年任副檢查官爾來第三部第三課第二部第一業第三部勤務昭和十二年任檢查官第二部第二課長ヲ經テ同十五年一月現職ニ就任ス【趣味】釣魚【家庭】妻美知（明卅五、靜岡縣內海信昭二女東京女子大卒）長男知一（昭四）長女美園（大十二）二男昭平（昭六）三男幸雄（同十）【住】大森區山王一ノ二八七七【電】大森八五一〇

井上 一之 正五勳五 營繕管財局技師
石川縣士族茂長男大正十年東京帝大工學部建築科卒業大藏省ニ入リ累進職ニ在リ【家庭】妻あや（明卅五、東京府上野金太郎二女府立第三高女卒）【住】目黑區三田九九【電】大崎三七一三

井上 寛己 正四勳三 工博 九州帝大教授 工學部勤務
東京府士族昌雄三男同重善ノ弟明治廿三年十一月出生大正四年東京帝大工科冶金學科卒業同大學工科助教授拜命同十一年獨英佛各國ニ留學同十四年九州帝大教授ニ任ズ昭和二年學位ヲ受ク【家庭】妻榮（明廿七、東京府大島道太郎二女東京女高師附屬高女卒）男道雄（大六）長女美枝（同九）二女宏子（同十二）【住】福岡市鳥飼三ノ二八二【電】西四四五八九

井上 貫一 從四勳四 檢事 靜岡地方裁判所濱松支部檢事兼濱松區裁判所檢事
奈良縣伊夾ノ弟明治廿四年十月出生大正五年京都帝大法科法律科卒業司法官試補拜命同六年任判事後檢事ニ轉ジ爾來橫濱熊本濱松東京各裁判所勤務同十一年米英獨佛各國ヲ巡遊巴里大學ニ刑事法ヲ專攻翌年歸朝東京橫濱東京各地方裁判所檢事東京控訴院檢事千葉地方裁判所檢事昭和十一東京控訴院檢事ヲ經テ同十六年二月現職ニ就任ス【家庭】妻英子（明廿八、東京府森田得二郎妹京都府立第一高女卒）長女千滿子（大三）二女三代子（昭二）三女成子（同五）四女冬子（同八）【住】濱松市鴨江町同所內

井上稀有丸 正七 農林事務官 山林局勤務
高知縣人明治四十四年五月卅日出生昭和九年東京帝大法學部政治學科卒業同十一年高文行政科合格翌年農林屬拜命農務局勤務同年營林局事務官熊本營林局勤務同十四年三月農林事務官ニ任ジ水產局兼經濟更生部勤務食品局勤務等ヲ經現勤務トナル【住】牛込區新小川町二ノ一〇同潤會江戶川アパート六二〇號

井上啓次郎 從五勳六 岐阜縣大垣高等女學校長兼教諭
宮城縣人大正七年廣島高師國語科卒業岐阜縣立第二中學教頭昭和十三年九月同縣高山高女校長ヲ經テ同十七年三月現職ニ就ク【住】大垣市藤江町官舍【電】六九

井上 惠行 正七 文部省宗務官
兵庫縣人和田岩太郎ノ八男明治卅年十一月五日出生後井上家ニ入ル大正十年第六高校ヲ經テ同十三年東京帝大法學部獨法科卒業文部省宗教局ニ入リ昭和十四年九月現官ニ任ズ【趣味】演劇【家庭】妻延子（明卅八、養父福岡縣井上義理長女）長男元（昭二）二男慶二（同六）【住】小石川區小日向臺町一ノ二八

井上健太郎 從六 厚生事務官 職業局勤務
福岡縣人明治卅九年九月廿九日出生昭和三年第三高校同六年京都帝大法學部各卒業京都府屬庶務課學務課歷勤昭和七年高文行政科合格同十二年七月地方事務官山形縣商工水產課長規畫課長ヲ經テ同十四年五月現職ニ就ク【住】浦和市岸町四ノ四五

井上 五郎 從四勳四 醫博 京都帝大教授 醫學部勤務
京都府人河村清兵衛ノ三男明治十五年七月出生同十九年先代せいノ養子トナリ同卅五年家督相續同四十三年京都帝大醫學部卒業同大學助手助教授ヲ經教授ニ任ズ大正十一年學位ヲ受ケ昭和二年歐米各國ニ出張ス【趣味】謠曲【住】京都市左京區岡崎東天王町九八【電】上六四五七

井上孝治郎 從五勳六 大使館一等書記官 ブラジル國在勤
大使館二等書記官英國在勤昭和十五年十二月同一等書記官英國在勤同十六年二月ブラジル國在勤被命【住】在ブラジル國帝國大使館內

井上庚二郎 從四勳三 海軍司政長官
神奈川縣喜代松二男明治廿三年八月出生大正六年東京帝大法科政治科卒業外交官及領事官試驗合格爾來大使館三等書記官外務事務官領事兼臺灣總督府事務官總領事外務書記官通商局第一課長商工書記官兼任大使館參事官獨國在勤歷職昭和十二年待命同年十月外務省歐亞局長同十四年六月特命全權公使ハンガリー國兼ユーゴースラヴィア國駐劄ヲ經テ待命被仰付同十七年五月現職ニ任ゼラル【趣味】ゴルフ庭球【家庭】妻秀子（明卅一、愛媛縣士族矢野祐義二女神奈川高女津田英學塾各卒）嗣子信也（大十）長女澄子（同十一）二女ミドリ（同十二）三女明子（同十四）四女二葉（昭四）【住】大森區馬込町東二ノ八九五

井上俊太郎 從四勳四 農林省蠶絲局長
三重縣人金助ノ三男明治廿九年二月出生同卅年兄金次郎ノ養子トナル大正十年東京帝大法科卒業同年高文合格山林事務官營林局事務官大阪營林局林務課長農林事務官兼農林書記官農務局肥料課長山林局林政課長滿洲國臨時產業調查局理事官資料科長畜產局副局長林野局長等歷任昭和十四年馬政局事務官總務部長同十六年一月大阪營林局長兼大阪食糧事務所長ヲ經テ同十七年三月現職ニ就ク曩ニ同六年歐米各國ニ出張ス【家庭】養父金次郎（明八、現戶主）養母小きん（同五）妻糸（同卅五、兵庫縣富永安英長女）長女敏子（昭二）【住】大森區山王町三ノ一九三四

井上 正一 北海道江差警察署長
愛媛縣故養六ノ長男明治卅年十二月廿六日宇和島市ニ出生大正十二年北海道廳巡查拜命昭和十年任警部旭川警察署勤務廣尾靜內八雲各署長歷任同十六年四月現職ニ就任ス【趣味】讀書【家庭】妻サツ（明卅九）二女晴江（大十一、札幌北海高女卒）【住】北海道江差町本町七〇【電】一二八

井上 尙一 從六 商工事務官兼大藏事務官 總務局勤務爲替局勤務
福井縣人明治四十三年八月出生昭和八年東京帝大法學部法律科卒業商工省ニ入リ保險事務官保險局勤務同十三年地方事務官愛知縣總務部會計課長兼經濟部第一商工第二商工各課長商工第一課長ヲ經テ昭和十六年三月現職ニ就ク【趣味】旅行音樂【家庭】妻登美子（明四四）長女薰子（昭十五）【住】世田谷區成城町五九八

井上章次郎 從七勳七 千葉縣地方事務官 警察部勞政課長 勞務監督官
京都府人貞吉ノ三男明治卅四年十月廿八日出生大正十三年立命館大學專門部法律科卒業先是同十年京都府屬拜命官房文書係勤務昭和八年兼任警部警察部建築工場課勤務工場監督官補總務部總動員課兼務歷任同十五年三月任地方事務官千葉縣工場課長ヲ經テ現職ニ就ク【家庭】妻たね子（明卅八、大津市立高女卒）男三郎（昭四）【住】千葉市長洲町二ノ五一官舍

井上 晉 正七 地方事務官 新潟縣總務部地方課長
新潟縣人明治廿五年十月廿七日出生新潟縣書記補同縣土木書記ヲ經大正十四年普通試驗合格任同縣屬內務部土木課勤務同農務課勤務經濟部農政課勤務同農務課勤務總務部庶務課兼經濟部農務課勤務等歷職昭和十三年八月地方事務官ニ任ジ同縣會計課長ヲ經テ現職ニ就任ス【住】新潟市本町通十四番町三二二一【電】二三五

井上 新二 從五勳五 地方技師 大阪府警察部建築課長 建築監督官
兵庫縣新太郎長男明治廿七年一月廿九日神戶

市ニ出生大正七年第三高校同十年東京帝大工學部建築學科各卒業任陸軍技師爾來大阪府建築技師地方技師大阪府勤務都市計畫地方委員會技師兵庫縣勤務兼地方技師等歷任昭和七年地方技師專任愛知縣建築監督官都市計畫愛知地方委員會幹事同縣警察部建築課長ヲ經同十四年現職ニ就ク 趣味 演劇玉突 家庭 妻貞子（明卅三、金田正長女岡山縣立高女卒）長男滉（大十三、大阪府立豐中在）長女榮美子（同十、兵庫縣立神戸高女卒）二女麟美子（同十一、私立親和高女卒）三女久美子（昭三）二男徹（同六） 住 大阪市西區江之子島東ノ町官舍 電 土佐堀二三八

井上 清一 正六勲六 陸軍主計中尉 地方警視 神奈川縣警察部經濟保安課長

富山縣人清孝ノ長男明治卅八年七月卅一日出生昭和二年第四高校卒同四年高文合格翌年東京帝大法學部政治科卒業同六年社會局屬東京府屬同十年任地方警視香川和歌山各縣警務課長歷任同十二年任地方事務官靜岡縣農務課長經濟統制課長經濟課長兼農務課長ヲ經テ同十五年四月現職ニ就ク 趣味 運動 家庭 妻あい子（明四二）長男清和（昭十二）長女博子（同九） 住 横濱市中區紅葉ケ丘官舍十番 電 長者町四四〇八

井上清太郎 從五勲五 內務技師 大阪土木出張所勤務

長野縣清兵衛長男明治卅年六月十四日出生大正十三年京都帝大工科土木科卒業內務省大阪土木出張所ニ入リ吉野川淀川蘆田川紀ノ川和歌山港同國道各改修工事ニ從事ス 趣味 庭球 家庭 父清兵衛（明四）母まつ（同七）妻登茂（同卅七、富山縣竹內秀次郎二女氷見高女卒）長男恭一（昭八）長女幸子（同五）二女紀子（同十一） 住 和歌山市關戸高松坪一三八 電 三四三二

井上善十郎 正五勲四 醫博 北海道帝大教授 醫學部勤務

埼玉縣人明治廿六年八月出生大正九年東京帝大醫學部卒業現時前掲ノ職ニ在リ嚢ニ同十五年醫博ノ學位ヲ受ク 家庭 妻里宇子（明廿六、東京府清水勝太郎長女東京女高師卒）長男泰男（大十四）長女愛子（同十二）二男實（昭二） 住 札幌市南七條西十六丁目

井上 宗助 正五勲六 東京府立第五中學校長

東京府人森田秋之助ノ二男明治十九年五月五日出生井上令照ノ養子トナル同四十五年東京高師卒業東京府豐島師範教諭兼主事府立第八高女校長歷任後現職ニ就ク 趣味 旅行運動讀書 家庭 妻ふちの（明廿三、養父令照四女宮城縣立高女東京女高師各卒）男夏雄（大九）四男令夫（同十三）女照子（昭二）五男昭五（同五） 住 澁谷區原宿三ノ三一一 電 青山三五〇六

井上 孚麿（タカ） 正五勲四 國民精神文化研究所員

長崎縣士族貫之介長男明治廿四年二月出生同四十五年家督相續大正六年東京帝大法科政治科各卒業同大學院ニ入リ同大學助手法政大學教授遞信官吏練習所東京帝大工學部各講師臺北帝大教授歷任昭和十一年一月現職ニ就ク大正十五年歐米各國留學ス 家庭 妻ヤス（明廿八、佐賀縣士族大島源六二女）長男榮（大十、日本中學卒）長女タヘ（同八、東京府立三高女卒）三男實（大十三） 住 澁谷區代々木本町七八八 電 四谷五〇三〇

井上 赳 從四勲四 文部省圖書監修官 圖書局第一編修課長

島根縣士族足立鍬太郎ノ二男明治廿二年七月出生同廿六年井上永之助ノ養子トナリ大正十年家督相續同四年東京帝大文科國文科卒業七高造士館教授ヲ經テ現官ニ任ズ同十四年歐米各國ニ留學ス 趣味 音樂 家庭 妻信（明卅一、長野縣瀧澤又市長女）男眞由美（大七、北海道帝大在）女幸子（同九、女子學院卒）女みはる（同十二、東京女子大在） 住 王子區上十條町二ノ二二ノ一 電 王子四二六〇

井上 康 從五勲五 總領事 ウエリントン在勤

岡山縣人大正九年東京高商卒業外務省ニ入リ累進公使館二等書記官瑞西國在勤昭和十三年外務書記官通商局第二課長同第四課長ヲ經同十六年七月現職ニ就任ス 家庭 妻久（明卅八、野口彌三長女）長男高家（昭九）二男瑞緒（昭十二） 住 東京府北多摩郡武藏野町吉祥寺二一五 電 吉祥寺一二一五

井上 忠光 從七 地方事務官 長崎縣警察部健康保險課長

鹿兒島縣士族故宗之助長男明治卅三年十月三日出生大正十三年中央大學法學部卒業同十五年神奈川縣健康保險署庶務課長昭和四年同縣屬同五年鳥取縣屬同十年警視廳屬同十一年鹿兒島縣屬健康保險課長同十五年大阪府屬大手前健康保險出張所長ヲ經テ同年八月任地方事務官同十六年十二月現職ニ就ク 家庭 妻テルヱ（明四十、川內高女卒）長男達男（昭元）二男幸男（同三）長女光子（同七）三男利男（同九）二女秀子（同十四） 住 長崎市東上町五八 電 二〇二五

井上 忠義 正六 香川縣女子師範學校長

島根縣士族明治廿九年四月六日出生大正十年早稻田大學高師部英語科同十五年東京帝大文學部西洋史學科各卒業埼玉縣師範教諭兼訓導廣島縣三原女子師範教諭兼同縣立三原高女教諭昭和十年任地方視學官岩手縣勤務同十一年縣立盛岡高女校長兼教諭同十三年地方視學官廣島縣學務部勤務ヲ經テ同十六年六月現職ニ就ク 住 高松市同校內

井上 綱雄 從五勲六 馬政局技師 馬產部馬產課長

大阪府人舊姓三井ト稱ス明治卅一年六月一日出生大正十五年東京帝大農學部獸醫學科卒業昭和二年農林技手同四年同技師畜產局勤務同十一年馬政局技師同十三年兼任農林技師經濟更生部勤務同十五年三月種馬牧場技師日高種馬牧場長ヲ經テ同十六年一月任馬政局技師同十七年一月現職ニ就ク嚢ニ歐米各國及滿洲國中華民國ニ出張ス 住 世田谷區太子堂町八一

井上傳次郎 正七 地方統計主事 宮崎縣總務部統計課長

宮崎縣人勝次郎長男明治廿三年四月七日出生大正三年宮崎縣ニ入リ昭和七年知事官房統計課長同十二年現職ニ就任ス 家庭 妻アサヨ（明廿六、宮崎縣貫島爲吉二女）男正典（大十二、宮崎商業卒）女和子（同九、紅陽高女卒）男久典（同十五）女喜代（昭四） 住 宮崎市末廣町二丁目 電 一二二九

井上 俊雄 從五勲五 名古屋控訴院判事

京都府靜雄ノ二男明治廿九年一月出生大正五年家督相續同九年京都帝大法科獨法科卒業後判事ニ任ジ奈良盛岡各地方裁判所判事名古屋區裁判所判事ヲ經テ現職ニアリ 家庭 妻富美（明卅六、四日市々立高女卒） 住 名古屋市西區上園町一ノ二二 電 本二八三三

井上 友士 從七 厚生技師 職業局技能課勤務

岡山縣人明治卅二年二月廿日出生大正九年大阪高工應用化學科卒業岡山商業勝間田農林學校勤務同十四年兵庫縣警察部工場課勤務昭和十二年地方警察技師滋賀縣勤務同十四年地方商工技師兵庫縣勤務ヲ經テ同十六年八月現職ニ就ク 住 中野區新井町一〇三

井上 長政 從四勲三 檢事 沼津區裁判所檢事兼靜岡地方沼津支部檢事

群馬縣士族孝政ノ二男明治十二年六月出生同廿四年家督相續同四十一年東京帝大法科獨法科卒業任檢事爾來横手區本莊區秋田區盛岡區同地方大阪區同地方京都區同地方堺區青森地方同區各裁判所檢事宮城控訴院檢事浦和地方兼同區千葉地方兼同區各裁判所檢事歷補後現職ニ任ズ 家庭 妻ヨシ（明廿二、栃木縣石井豐次郎妹宇都宮高女卒）二女敏子（大四、浦和高女卒）三女京子（同五、千葉高女卒） 住 沼津市平町 電 一三三四

井上 信虎 正六 厚生事務官 人口局練武課兼管理課勤務

鹿兒島縣平太郎ノ長男明治四十年出生東京帝大法科卒業地方警視埼玉縣警務課長愛知縣經濟保安課長昭和十五年十一月地方事務官京都府土木部管理課長同年十二月都市計畫地方委員會事務官兼地方事務官京都地方委員會勤務ヲ經テ同十六年八月任厚生事務官現職ニ就ク 住 小石川區竹早町一九 電 小石川五一一五

井上 登 從四勲三 判事 大審院判事

千葉縣士族義行ノ長男明治十八年四月出生大正二年東京帝大法科獨法科卒業同六年任判事爾來東京地方兼同區各裁判所判事東京地方裁判所部長東京控訴院判事東京控訴院部長大審院判事司法省調查部長等ヲ歷任昭和十四年現職ニ任ズ 家庭 嗣子義彥（大八）女小枝子（同六） 住 中野區新井町五〇二 電 中野四八六九

井上 春成 從四勲五 理博 工業試驗所技師 東京工業試驗所第五部長

熊本縣清熊二男明治廿六年五月出生大正八年京都帝大理科化學科卒業工業試驗所技手ニ任ジ翌年同技師ニ進ミ昭和五年米獨佛ニ出張現時前記ノ職ニ在リ同二年學位ヲ受ク 趣味 謠曲 家庭 妻和子（明廿七、廣島縣穎俊直七女廣島高女卒）長男成美（昭十二）二男成立（同十五） 住 澁谷區代々木西原町九五七 電 四谷八三〇〇

井上 春美 從七 地方事務官 宮崎縣總務部會計課長

宮崎縣人明治卅四年一月十六日出生大正十三年任宮崎縣屬昭和七年兼任警部同十年人事課長ヲ經テ同十四年任地方事務官現職ニ就ク 住 宮崎市南廣島通二ノ二二 電 五二八

井上秀太郎 正六勲五 久留米市助役

福岡縣俊藏二男明治十七年二月出生大正九年福岡縣屬拜命同警部同朝倉郡長地方事務官知事官房主事兼統計課長社寺兵事課長歷任昭和七年大牟田市助役ヲ經テ同十三年現職ニ就ク 趣味 乘馬碁 家庭 妻トシ（明廿二、福岡縣士族深見辰次郎養子）男良成（同四二、九州醫專卒）男行禮（大四）女妙子（同九）女万壽子（同十五）男

茂(昭二)住久留米市兩替町同市役所内

井上　清　職業主事　呉國民職業指導所長

廣島縣人明治廿九年一月十日出生同四十三年高輪中學卒業中央大學ニ學ブ大正七年任呉市書記同十三年出羽川電氣株式會社支配人ニ轉ゼシモ同十五年再度呉市ニ入リ同市職業紹介所長ヲ經昭和十二年任呉市主事同十三年七月現職ニ就ク住呉市二河通同所内電二九三九

井上　博　正六　縣立鳥取第二中學校長

廣島縣人啟一長男明治廿九年一月卅一日出生大正九年廣島高師卒業秋田女師教諭京都福山鳥取各師範附屬小學主事米子高女教頭倉吉高女校長等歷職昭和十三年鳥取縣立米子高女校長ヲ經テ同十五年四月現職ニ就ク家庭妻千里(明卅六、廣島縣友田幹次長女新庄高女卒)嗣子厚(昭八)長女千代(大十)二女文子(同十四)住鳥取市立川町同校内電八六四

井上　廣治　正五勳五　靜岡地方裁判所檢事

山形縣人明治廿一年十二月出生大正五年東京帝大法科卒業同九年任檢事宇都宮地方兼同區東京區兼同地方新潟地方兼同區靜岡區兼同地方各裁判所檢事青森地方裁判所檢事兼區裁判所檢事青森保護觀察所長水戸地方兼同區裁判所檢事東京控訴院檢事ヲ經テ現職ニ就任ス家庭妻スヾ(明廿七、縣立高田高女卒)男正雄(大八)女阿彌子(同五)二男治貞(同十三)住靜岡市追手町同所内

井上　文介　從五勳五　奈良縣書記官　總務部長

兵庫縣士族明治卅三年二月十日同縣城崎郡三方村ニ出生大正十二年高文行政科合格翌年東京帝大法科政治科卒業廣島縣屬拜命爾來同縣御調郡長地方事務官廣島縣勤務地方警視同縣保安課長北海道廳警視警務課長地方事務官岩手縣商工水產課長同農務課長兼知事官房主事京都府工場課長同地方課長等歷任昭和十一年十月茨城縣書記官經濟部長同十四年一月山形縣書記官警察部長同十五年七月宮城縣書記官警察部長ヲ經テ同十六年六月現職ニ就ク住奈良市登大路町官舍電二〇一二

井上　萬壽藏　從五勳五　鐵道書記官　大臣官房養成課長

山形縣士族明治卅三年一月二日出生大正十一年高文行政科合格同十二年東京帝大法學部法律科卒業鐵道局書記拜命爾來鐵道省事務官鐵道副參事名古屋鐵道局運輸課旅客掛長鐵道省事務官兼國際觀光局事務官運輸局總務課勤務國際觀光局書記官庶務課長ヲ經テ昭和十四年現職ニ就ク其間同二年滿洲ニ出張同六年在外研究員被命海外ニ留學ス住東京府北多摩郡小金井町一四八二電一二七

井上　正義　從四勳四　愛知縣立安城農林學校長

東京府士族明治十五年十二月出生從家督相續ス家庭妻ゆき(明廿三)男幸雄(大二)男正比古(同四)住愛知縣碧海郡安城町安城

井上　益太郎　從五勳五　公使館一等書記官　ポルトガル國在勤

東京府金治郎長男明治卅二年十月八日出生大正十二年東京帝大法科政治科卒業外務省ニ入リ佛國大使館ニ勤務白耳義大使館三等書記官外務事務官滿洲國大使館三等書記官領事紐育在勤大使館二等書記官ポーランド國在勤等歷任昭和十三年公使館二等書記官ラトヴィア國在勤次デ大使館二等書記官ブルガリア國在勤同十四年十月公使館一等書記官ハンガリー國在勤ヲ經テ同十六年十二月現職ニ就ク趣味漢籍登山家庭父金治郎(明三、現戶主)母ウメ(同十三)住在ポルトガル國日本公使館内

井上　亦次　從七　警視廳警視　赤羽警察署長

大分縣人明治卅六年一月廿一日出生昭和五年早稻田實業第二本科同六年日大專門部法律科各卒業先是大正十四年警視廳巡查拜命爾來累進昭和九年任同廳技手兼警部庶務課勤務同十一年警察主事補同十二年同廳屬兼警部工場課兼庶務課檢閱課衞生課保健及藥事各係長歷職同十六年赤羽警察署長トナリ同年十月警視廳警視ニ任ズ住王子區岩淵町二ノ三九一同署内

井上　光藏　鳥取市長

鳥取縣傳藏長男明治十七年三月一日現地ニ生ル同卅五年倉吉農學校卒業同卅八年東京農大修業村議縣議ニ當選議會議長四回ニ及ブ嘗ニ日の丸自動車社長鳥取新報社取締タリ趣味政治銃獵家庭妻富子(明廿三、鳥取縣露上長藏長女)長男高禮(大五、鳥取一中卒)二女淸香(大十　同縣立高女卒)二男健次郎(昭二)三男敏夫(昭四)住鳥取縣岩美郡津ノ井村生山電四

井上　康夫　從七　地方事務官　高知縣學務部社會課長

福岡縣人明治四十二年七月五日出生昭和五年福岡高校同十年東京帝大法學部各卒業其間同九年高文行政科合格翌年埼玉縣屬拜命學務課勤務同十一年兼任同縣警部翌年專任警部保安課長次デ警務課勤務同年同縣屬兼警部警務課勤務ヲ經テ同十四年六月休職被命同十五年五月現職ニ就ク住高知市新屋敷電二五九四

井上　長滿　勳八　地方事務官　宮崎縣經濟部物資課長

宮崎縣人明治廿八年九月十日出生大正五年同縣ニ奉職同十二年縣屬ニ任ジ官房文書係同十五年文書課各歷勤昭和七年文書係長同十五年文書課長等經テ同十七年二月任地方事務官現職ニ就ク住宮崎市宮崎縣廳經濟部内

井上　磊　正六　大藏事務官兼對滿事務局事務官　爲替局勤務

廣島縣人昭和八年東京帝大法學部獨法科卒業住目黑區下目黑三ノ六五九

井上　義夫　從五　神戶市立第一神港商業學校長

京都府仙太郎長男明治廿五年三月廿二日出生大正四年廣島高師同十二年京都帝大經濟學部各卒業岡山宮崎高津神戶第三各中學神港商業各教諭德島縣立商業校長ヲ經テ昭和十三年現職ニ就ク家庭妻つぎ(明廿九、京都府大道嘉右衞門妹若松高女卒)長男健(大七)二男晉(同十、神戶一中卒)三男良(昭三)住神戶市灘區森後町三ノ九

井上　理　正七勳六　地方事務官　福島縣學務部社會課長

福島縣人明治卅一年二月十二日出生大正六年福島縣師範第二部卒業大正九年任福島縣屬教育課勤務昭和六年社會課ニ轉ジ同十二年八月任社會事業主事同十三年六月福島縣社會課長トナリ同十六年四月地方事務官ニ任ゼラル住福島市霞内三電八四七

井上　柳梧　從三勳三　農博　上田蠶絲專門學校長兼教授

東京府士族範弟明治十三年九月出生同四十一年東京帝大農科農藝化學科卒業大正二年現校教授ニ任ジ後現職ニ就ク同六年學位ヲ受ク嘗ニ獨佛兩國ニ留學ス家庭妻みよ(明廿七、東京府中川澄夫姉)養子歌子(大三、天沼俊一姪成蹊高女卒)住上田市新參町五四二六電四三三

井上民太郎　從七　地方警視　大阪府警察部消防課長

岡山縣國太郎ノ長男明治卅三年八月廿四日出生大阪府巡查拜命昭和七年任警部吹田十三橋各署長警察練習所長歷任同十五年二月任地方警視中本警察署長ヲ經テ同年九月現職ニ就ク趣味劍道圍碁家庭妻ともゑ(明卅六、岡山縣福田和四郎二女)長男賢(昭二)長女辰代(大十三、天王寺高女卒)二男哲雄(昭四)三男良雄(同六)四男四郎(同九)五男俊(同十一)六男和夫(同十三)住大阪市西區江之子島東之町官舍電土佐堀九八〇

井之上理吉　從六勳六　關東局事務官　關東州廳經濟部生活必需品課長

鹿兒島縣人明治卅六年三月三日鹿兒島市ニ出生大正十二年高等試驗令第七條試驗及昭和五年高文司法科合格任關東廳警部補同七年高文行政科試驗合格同九年任警部遼陽貔子窩各署長同十一年任警視四平街署長警察部警務課長兼高等警察課長歷任關東局事務官關東州廳經濟部農林水產課長等ヲ經テ同十六年七月現職ニ就ク住大連市長者町同所内

井原　正平　從五勳六　神奈川縣藤澤市立藤澤高等女學校長兼教諭

茨城縣人大正七年廣島高師卒業縣立上溝高等女學校ヲ經テ昭和十二年現職ニ就ク住神奈川縣上高座郡藤澤町花澤

井深　捨吉　正五勳四　地方技師兼地方商工技師　岐阜縣陶磁器試驗場長

岐阜縣石原門三郎四男明治八年八月一日大垣市出生井深松吉ノ養子トナル同卅四年東京高工卒業鐵道院官房研究所勤務ヲ經テ現職ニ就ク嘗ニ同縣立多治見工業學校長タリ趣味陶器研究家庭妻ゆた(明廿一)嗣子芳夫(同卅九、早大卒)同妻ハナ子(大四)男和雄(大六)女敏子(同十一)住多治見市平野二一四〇

井本　政信　正六勳六　都市計畫地方委員會技師兼地方技師　兵庫縣勤務

明治廿四年九月一日富山縣ニ出生大正八年東京帝大農學部卒業明治神宮造營局復興局橫濱市各技師都市計畫愛知地方委員會技師歷任昭和十一年現職ニ就ク趣味碁撞球家庭母タツ(明七)妻あや(明卅二、富山實科高女卒)長男信夫(大九、青山學院卒)長女桂子(同十一、神戶一高女卒)二女行子(同十五)二男次夫(昭四)三男三夫(昭五)住芦屋市伊勢講田五四〇

五百旗頭眞次郎　正五勳四　神戶商大教授

兵庫縣人明治廿七年十二月出生大正六年神戶高商同八年東京高商專攻部各卒業同九年ヨリ約十年滯歐學界文化方面ニ貢獻ス現時前揭教授タリ家庭妻英子、長男禮一(昭七)長女正子(同六)二男博次(同九)三男邦夫(同十一)四男伊都雄(同十五)住西宮市南鄕町一五

五十嵐欽也　正七　厚生技師　衞生局藥品課勤務

秋田縣人明治卅五年十二月十二日出生昭和五

年北海道帝大農學部農藝化學科卒業北海道廳囑託同廳技手網走支廳勤務產業部農產課經濟部農產課勤務ヲ經テ同十四年十二月現職ニ就ク住市川市眞間三〇四

五十嵐作榮　正六　土木技師兼道路技師　富山縣土木部砂防課長
富山縣人明治卅八年四月廿七日出生大正八年名古屋高工土木科卒業同年兵庫縣土木技手翌年石川縣土木技手同十二年兵庫縣道路技手兼土木技手昭和三年京都府道路技手兼土木技手同年同府道路技師兼土木技師同十三年和歌山縣土木技師兼道路技師ヲ經テ同十四年八月現職ニ就ク住富山縣上新川郡堀川町小泉三ノ二電二六一〇

五十嵐俊藏　從六　地方農林技師　福井縣經濟部水產課長
山形縣人明治卅一年二月廿日出生大正十年水產講習所養殖科卒業東京府ニ奉職產業部農林課昭和三年水產試驗場各歷勤同八年地方農林技師ニ任ジ大分縣勤務ヲ經テ同十五年十二月福井縣ニ轉ジ同十六年一月現職ニ就ク住福井市花月新町二四八電二五一二

五十嵐醇三　從六　內務技師　國土局計畫課勤務
和歌山縣人明治四十二年四月一日出生昭和四年大阪高校同七年東京帝大工學部土木學科各卒業東京府土木工手翌八年同道路技手兼同土木技手拜命同十二年任內務技師東京土木出張所勤務同十四年中華民國建設總署都市局技正及北支派遣軍司令部囑託同十五年同都市局技術科並計畫科各科長ヲ經テ同十六年十月再ビ任內務技師現職ニ就ク住豐島區西巢鴨三ノ七六〇池上作三方電大塚一二三四

五十嵐文雄　從七　地方事務官　靜岡縣學務部軍事援護課長兼社會課長
靜岡縣人直喜ノ長男明治卅六年同縣庵原郡蒲原町ニ出生大正十三年庵原郡書記拜命同十五年任靜岡縣屬昭和十三年六月地方事務官ニ任ジ現職ニ就任ス趣味讀書園碁家庭妻君子(明卅九)長男美文(大十三)長女愛子(昭二)二女三枝子(同四)三女友江(同七)二男公一(同十)三男彬(同十二)住靜岡市安東三丁目三號官舍電二九三六

五十嵐正彥　正五勳六　福島縣立福島高等女學校長兼教諭
福島縣彥一ノ長男明治十八年一月出生同四十五年廣島高師卒業德島中學金澤女師各教諭會津安積各高女校長等歷任昭和十六年四月現職ニ就ク趣味碁家庭妻幸子(明廿四、東京府石田英雄姉)長男壽彥(大二、金澤醫大卒)二男重彥(同四、岐阜藥專卒)長女敬(同六、會津高女卒)三男忠彥(同十二)住福島市松木町六五

五十嵐保次　從七勳七　警視廳警視　南千住警察署長
東京府人明治廿四年三月十七日出生大正十一年日大專門部法律科卒業先是同五年警視廳巡查拜命爾來累進昭和七年任同廳技手兼警部小松川萬世橋駒込太平瀧野川寺島各警察署歷勤同十五年荻窪警察署長ヲ經テ同十六年六月任警視廳警視現職ニ就ク住荒川區南千住八ノ一〇電淺草七八

五十川捨造　正六勳六　北海道廳部長　拓殖部長
福島縣人明治卅三年八月六日出生大正十四年早稻田大學政經學部政治科卒業翌年高文行政科合格昭和二年警視廳巡查拜命次デ同警部補同四年同警部保安部規畫課勤務第二第一各方面擔當監察官附同六年任警視廳警視南千住青山西神田坂本四谷本富士愛宕各警察署長歷補同十三年任地方事務官德島縣地方課長庶務課長兼人事課長知事官房主事靜岡縣教育課長庶務課長兼稅務課長兼人事課長知事官房主事歷任同十七年三月現職ニ就ク住在南方現地

伊江朝睦　正五勳五　典獄　名古屋拘置所長
男爵朝江ノ弟明治廿三年十一月出生大正六年東京帝大法科卒業那覇裁判所檢事奈良京都長崎小菅各刑務所長ヲ經テ昭和十六年八月現職ニ就ク家庭妻敏(明廿六、男爵今歸仁朝英妹)長男朝忠(大六)二男朝雄(同十)住名古屋市東區上堅杉町二丁目同所長官舍

伊賀德郎　從六　地方農林技師　滋賀縣經濟部水產課長
兵庫縣人明治廿八年九月廿八日出生大正七年農商務省水產講習所本科漁撈科卒業滋賀縣水產試驗場技手德島縣產業技手滋賀縣農林技手同縣屬歷任昭和八年地方農林技師ニ任ジ滋賀縣農林技師ニ補セラレ今日ニ及ブ住大津市松本日ノ出官舍電五二二五

伊賀上五郎　正七　神祇院技師　總務局勤務
愛媛縣人明治卅六年三月十五日出生昭和三年松山高校ヲ經テ同六年東京帝大工學部建築學科卒業爾來帝室博物館造營工事及神社局各事務囑託拜命同十三年任內務技師神社局勤務ヲ經テ同十五年十一月任神祇院技師現職ニ就ク住世田谷區經堂町八二七

伊木壽一　正五勳五　史料編纂官　東京帝大史料編纂所勤務
山口縣士族尙藏ノ長男明治十六年三月出生大正十三年家督相續明治卅九年東京帝大文科史學科卒業更ニ同大學院ニ入リ大正十四年任史料編纂官東京帝大史料編纂所ニ勤務傍ラ帝大法學部講師慶大講師明大敎授學士院囑託タリ趣味旅行家庭妻ノフコ(明廿五、栃木縣東宮鐵眞呂長女)男尙茂(大六)養子豐洪(明四三、長女胤子夫栃木縣東宮鐵眞呂五男)女胤子(同四五、養子豐洪妻京華高女卒)女慶子(大十一)二男尙和(同八)三女千枝子(同十四)三男尙昭(昭二)四男尙幸(同四)住瀧野川區中里町二七電駒込一八三一

伊佐早信　從四勳三　判事　宇都宮地方裁判所長
山形縣士族謙ノ長男明治十七年六月出生大正八年家督相續同四十二年東京帝大英法科卒業任判事水戸大津大阪奈良各地方兼各區裁判所判事仙臺地方裁判所判事等歷補宮城控訴院判事仙臺地方裁判所部長下關區監督判事福井函館各地方裁判所長ヲ經テ昭和十五年九月現職ニ就ク家庭繼母やす(明十二、山形縣玉川慶太郎妹)妻勁子(同廿五、東京府士族芝葛鎭三女)男篤(大二)女宮子(同五)男正(同八)女日出子(同十三)女幸子(昭五)住宇都宮市小幡町電二二三六

伊坂眞[illegible]　正六　札幌市立高等女學校長兼同高等家政女學校長
福井縣人山下庄之助ノ二男明治廿六年十二月十六日同縣足羽郡ニ出生後北海道伊坂重馬ノ養子トナル福井縣師範ヲ經テ大正九年東京高師理科卒業福岡師範札幌師範各教諭昭和五年札幌市視學ニ歷任同十二年三月現職ニ就任ス趣味園藝菊栽培家庭妻操(明卅七、養父重馬二女札幌高女卒)長男重孝(大十二)二男重昭(昭元)住札幌市南七條西一丁目六電一一〇八

伊澤孝平　正五勳四　東北帝大敎授　法文學部勤務
岡山縣元助ノ男明治卅四年四月九日出生大正十四年高文司法科合格同十五年東京帝大英法科卒業同大學助手東北帝大助敎授ヲ經テ昭和九年現職ニ就ク趣味繪畫庭球家庭妻敏子(明四三、岡山縣小林雄一郎長女神戶第一高女卒)嗣子孝哉(昭九)住仙臺市米ケ袋廣ノ丁淸水九

伊澤多喜男　從三勳一　樞密顧問官
長野縣士族文谷四男明治二年十一月出生同廿八年東京帝大政治科卒業山梨岐阜福井滋賀各縣參事官警察部長書記官警視廳警視和歌山愛媛新潟各縣知事警視總監等歷任大正十三年臺灣總督同十五年東京市長ヲ經テ昭和十五年十二月樞密顧問官ニ任ゼラル先是大正五年貴族院議員ニ勅選セラレ同十年貴院代表トシテ葡國リスボン市ニ於ケル萬國議院會議ニ赴ク趣味ゴルフ園碁撞球家庭妻とく(明十二、茨城縣色川俊二郎姉)男龍作(同卅五、早大卒)同妻淸子(同四三、東京府鹿子木亮妹聖心女子學院卒)男紀(同四二、文化學院卒)住豐島區西巢鴨二ノ二二五一七電大塚六六

伊澤正宣　正五勳四　東北帝大助敎授　工學部勤務
岡山縣元藏長男明治卅三年一月出生大正十二年東京帝大冶金科卒業東北帝大講師囑託同十四年現職ニ就ク趣味撞球碁家庭父元藏(明十二)母梅(同十一)妻崎(同四二、廣島縣原全路長女双葉高女卒)長女昌子(昭四)二女朋子(同六)住仙臺市北一番町二八電四〇二五

伊勢川實　正七勳六　外務理事官　調查部兼大臣官房會計課勤務
大分縣新六ノ二男明治廿年八月三日出生同縣師範卒業趣味ゴルフ家庭妻ルイ(明卅一、中野倉治妹)嗣子治(昭五)長女京子(大十四)住麴町區永田町二ノ二七

伊勢谷次郎　從四勳三　貯金局長
長野縣佐藤茂二男明治廿三年七月十二日同縣安曇郡ニ出生大正九年先代吉藏ノ養子トナリ昭和八年家督相續大正七年東京帝大法科獨法科卒業遞信省ニ入リ爾來通信事務官補同事務官宮崎浦和各郵便局長遞信事務官東京遞信局保險課長遞信書記官航空局監理課長管船局管理課長兼任外務書記官亞米利加局勤務兼通商局勤務等歷任昭和十年熊本遞信局長同十一年遞信省郵務局長同十二年簡易保險局長同十三年一月管船局長兼高等海員審判所長ヲ經テ同十六年一月現職ニ就ク大正十五年獨米露各國ニ留學ス趣味謠曲家庭養母スミ(明七)妻きよみ(同廿二、養父吉藏長女東京府立第一高女卒)長男吉郎(大九)二男壽德(同十二)三男三樹郎(同十四)四男浩(同十五)五男順藏(昭四)住小石川區西丸町二六電大塚三二二〇

伊關庄三郎　從六　軍事保護院事務官　業務局兼總裁官房總務課兼援護局勤務
福島縣人多右衞門三男明治卅七年三月廿二日同縣耶麻郡喜多方町ニ出生昭和六年高文合格同七年東京帝大法學部政治學科卒業富山縣屬

拜命等デ愛媛縣警察部地方事務官同縣社會課長知事官房主事兼人事課長地方課長昭和十三年埼玉縣學務課長同十四年同縣庶務課長歷任同年現官ニ就ク 趣味 園藝釣魚スキー 家庭 妻高子（明四五、富山縣士族野口詮太郎六女西宮高女卒）嗣子剛一（昭十三）長女淑子（同十一）住 目黑區中目黑一ノ七三四 電 大崎一一三六

伊田通次郎 従五 農林技師 農政局勤務

和歌山縣人明治卅四年十二月四日出生昭和二年北海道帝大農業經濟學科卒業農林省ニ入リ同七年任農林技師農務局勤務ヲ經テ同十六年現勤務トナル 住 目黑區本郷町四七

伊丹政吉 従四勲二功五 陸軍少將 陸軍司政長官

德島縣濟八二男明治十六年二月二日出生廣島幼年學校卒業同卅七年任少尉累進少將ニ陞ル其間近衞步兵第四聯隊長東京陸軍幼年學校長步兵第三十八旅團長ヲ經テ昭和十年待命被仰付同十七年三月現職ニ就ク曩ニ日露戰役ニ出征ス 趣味 碁運動 家庭 妻ツギ（明卅、奏地谷藏三女）住 淀橋區百人町三ノ三三九

伊地知憲二 従四勲五 海務局技師 神戸海務局在勤

鹿兒島縣士族池田純行ノ二男明治廿四年九月二日出生伊地知宗助ノ養子トナル大正八年東京帝大工學部機械工學科卒業同九年任遞信局技手同年八月任遞信局技師爾來熊本大阪廣島各遞信局地方海員審判所審判官兼任東京地方遞信局海事部浦賀出張所長大阪遞信局勤務ヲ經テ現職ニ就ク 趣味 スポーツ旅行ゴルフ 家庭 妻スガ子（明卅六、本田三之助二女鹿兒島高女卒）住 兵庫縣明石郡垂水町字西垂水高丸

伊地知四郎 従五勲六 地方技師 群馬縣經濟部耕地課長

鹿兒島縣人舊姓宇都宮ト稱ス明治廿七年七月十一日出生大正十二年東京帝大農學部卒業翌年大分縣產業技師昭和三年島根縣農林技師同八年地方技師佐賀縣耕地課長同十二年地方農林技師福井縣耕地課長農業水利改良事務所長兼務ヲ經テ同十四年一月現職ニ就ク 住 前橋市石川町一〇ノ二 電 三六三八

伊地知辰夫 従五勲六 大藏書記官 營繕管財局書記官兼營繕管財局總務部總務課長兼主税局家屋賃貸價格調查課長兼地方税課長

鹿兒島縣上山乙次郎二男明治卅七年十月四日出生伊地知周八ノ養子トナル昭和三年東京帝大英法科卒業兩國税務署長廣島大阪各税務監督局間税部長醸造試驗所事務官兼主税局事務官醸造試驗所庶務課長税務監督局書記官東京税務監督局直税部長等歷任昭和十五年七月大藏事務官兼大藏書記官主税局家屋賃貸價格調查課長同十六年一月地方税課長兼任同年十二月現職ニ就ク 趣味 ゴルフ旅行 家庭 妻弘子（明四二、上山甲輔女跡見高女卒）住 本郷區駒込林町二一六 電 駒込一〇五八

伊東榮信 従四勲四 檢事 札幌地方裁判所檢事兼札幌區裁判所檢事

京都府人明治廿二年四月出生大正六年京都帝大法律科卒業任檢事京都岡山各地方裁判所檢事臺灣總督府法院判官田川小倉川內八代各區裁判所檢事熊本地方八代支部柳河區各檢事歷補福島地方裁判所檢事兼同區裁判所檢事昭和十六年一月宮城控訴院檢事ヲ經テ同年十一月現職ニ就ク 家庭 妻照子（明卅二、京都淑德高女卒）長女美榮子（大九、堀川高女卒）長男邦彥（同十一）住 札幌市大通西十二丁目同所內

伊東五郎 従五勲六 內務技師 國土局計畫課勤務

東京府人大正十四年東京帝大工學部建築學科卒業警視廳技師建築監督官ヲ經任內務技師昭和十五年內務技師兼厚生技師計畫局都市計畫課勤務後現職ニ就ク 住 杉並區上荻窪一ノ三六

伊東孝一 正五勲四 東京帝大教授 農學部勤務

東京府治三郎長男明治廿一年九月廿八日出生大正二年東京帝大農科水產科卒業同大學助手助教授ヲ經昭和十年現職ニ就ク 趣味 音樂 家庭 妻菊枝（明卅二、東京府町野恆長女京華高女卒）嗣子一彥（大七）二女ヨシエ（同十四）住 牛込區市谷加賀町二ノ八 電 牛込三一三〇

伊東武二 従五勲六 鐵道局參事 名古屋鐵道局總務部長

靜岡縣士族信廣ノ六男明治卅二年出生靜岡運輸事務所長名古屋鐵道局運輸部庶務課長昭和十四年鐵道局陸運監督官名鐵監督部長ヲ經テ同十七年一月現職ニ就ク 趣味 スポーツ讀書 家庭 妻妙子（明四三、愛知縣井口巳之助三女）住 名古屋市西區西柳町鐵道官舍 電 七七

伊東延吉 正四勲三 國民精神文化研究所員

愛知縣祐吉長男明治廿四年五月出生大正四年高文合格同五年東京帝大法科法律學科卒業爾來岩手縣警視同理事官文部事務官文部省參事官文部大臣秘書官文部書記官學生部長思想局長等各歷任昭和十二年文部次官ヲ經テ翌十三年退官後現職ニ就ク 趣味 弓道繪畫 家庭 妻周子（明卅二、岐阜縣馬淵銃太郎二女三重縣立第一高女卒）嗣子一（大十四）女彩（大九、櫻蔭高女卒）女梯（同十一、同上卒）住 目黑區下目黑四ノ八八一 電 大崎五三三四

伊東信夫 従六 地方小作官 大阪府勤務

富山縣人明治卅三年四月十五日出生大正十一年東京帝大農學部農學實科卒業石川長崎各縣勤務昭和八年任地方農林技師岡山縣勤務同十二年大阪府農務課勤務同十三年任地方技師同十六年十月現官ニ就ク 住 大阪市住吉區田邊本町七ノ八

伊東[illegible] 従七勲七 警視廳警視 砂町警察署長

大分縣人明治卅年三月十四日出生大正七年警視廳巡查拜命爾來累進昭和四年任同技手兼警部衞生課勤務同十二年丸ノ內同十三年富坂同十四年麴町各警察署歷勤同十五年任同廳工場課設備係長ヲ經テ同十六年六月任警視廳警視現職ニ就ク 住 城東區北砂町一ノ七四八 電 本所九〇五五

伊東廣[illegible] 従四勲三 農博 東京高等蠶絲學校長

長野縣久太郎長男明治廿一年十一月廿四日出生大正二年東京帝大農科卒業現校教授ヲ經テ昭和十一年五月校長ニ就任ス大正九年學位ヲ受タ曩ニ歐米各國ニ出張ス 家庭 妻富士子（明廿九）女陽子（大十四）住 淀橋區下落合一ノ五二一 電 大塚一二三〇

伊東彌惠治 従四勲三 醫博 千葉醫大教授 附屬醫院長

静岡縣安太郎ノ長男明治廿四年十月二日出生大正六年東京帝大醫學部眼科卒業同八年任千葉醫專教授同十二年現職ニ就ク同十四年學位受領曩ニ歐米ニ留學屢次タリ 趣味 美術 家庭 妻綾（明卅九、千葉縣高石四郎平二女跡見女學卒）住 千葉市亥鼻町八〇 電 一七三一

伊東隆治 正五勲四 興亞院調查官 華中連絡部在勤

鹿兒島縣士族隆明長男明治卅一年七月八日出生大正十年高文行政科及外交官試驗合格同十一年東京帝大法學部政治科卒業公使館三等書記官外務事務官通商局第一課勤務等歷任其間瑞西瑞典各公使館ニ歷勤傍ラ瑞典大學ニ佛語ヲ研究次デ領事ハヴサナ在勤公使館二等書記官チエツコスロヴアキア國在勤公使館一等書記官兼總領事タイ國在勤外務書記官兼農林書記官通商局第五課長昭和十五年四月總領事漢口在勤ヲ經同年十二月現職ニ就ク曩ニ國際聯盟會議事務ニ從事ス 趣味 運動漕艇 家庭 父隆明（明八、現戶主）住（留守宅）澁谷區羽澤町四三

伊東亮次 従四勲四 東京高等工藝學校教授

東京府養右衞門四男明治廿年十二月出生明治四十三年東京高工卒業同校助教授東京美術學校助教授兼任大正八年米國留學同九年文部省在外研究員被命獨英佛各國ニ留夾校（明卅三、學歸朝後同十一年現職ニ就ク 趣味 寫眞 家庭 妻東京府大江太長女）長男通雄（昭五）長女愛子（大十五）三男律夫（昭八）二女節子（同九）三女陽子（同十一）住 荏原區中延町一一八一

伊藤伊行 正七 職業主事 名古屋國民職業指導所長

愛知縣人明治廿八年二月六月出生大正十一年日大宗教科專門部卒業名古屋市書記愛知縣社會事業主事補同縣社會教育主事補ニ歷任昭和十三年任職業主事豐橋國民職業指導所長ヲ經テ同十七年二月現職ニ就ク 住 名古屋市同所內

伊藤勇 従七 地方事務官 岐阜縣警察部健康保險課長

千葉縣平次郎ノ二男明治卅六年二月十四日出生大正十二年同縣立木更津中學同十四年遞信官吏練習所各卒業同年簡易保險局書記補次デ同書記昭和十三年任保險院屬總務局企畫課勤務社會保險局職員船員保險準備課勤務歷職同十五年七月任地方事務官和歌山縣健康保險課長ヲ經テ同十七年四月現職ニ就ク 住 岐阜市岐阜縣警察部內

伊藤英三 従五勲六 秋田縣書記官 學務部長

廣島縣人昭和二年東京帝大法學部獨法科卒業臺灣總督府ニ入リ高雄州廳ニ勤務次デ地方理事官嘉義市尹同十三年州事務官臺中州警務部長歷任同十五年六月任地方事務官京都府地方課長兼振興課長ヲ經テ同十七年一月現職ニ就ク 住 秋田市中龜三之町上丁 電 二六三四

伊藤榮次 従七 地方事務官 宮城縣經濟部商工課勤務

福島縣人福次郎二男明治卅年二月十八日出生大正十一年同縣巡查拜命同十四年巡查部長昭和三年警部補同七年任警部警察部保安課勤務兼任同縣屬同年內務屬警保局勤務同十四年任地方警視宮城縣經濟保安警防各課長ヲ經テ同十七年三月現職ニ就ク 趣味 登山 家庭 妻よし（明四十）男克榮（昭八）女禮子（同三）女不二榮（同五）住 仙臺市北二番丁二 電 三一八三

伊藤 榮吉　正四勳三　臺灣總督府檢察官　臺北地方法院檢察官長

靜岡縣丈吉ノ四男明治十九年八月出生先代安五郎ノ養子トナリ同廿五年家督相續同四十三年東京帝大法科獨法科卒業爾來東京區裁同地方裁判所檢事臺灣總督府事務官臺中州警務部長臺南州內務部長臺灣總督府稅關長同府事務官臺灣總督府法院檢察官高等法院檢察官歷任昭和十一年臺南地方法院檢察官長ヲ經テ同十二年現職ニ就ク曩ニ同四年歐米各國ニ出張ス【家庭】妻光子（明廿六、神奈川縣士族鼓包美妹）男正彥（大四）女露子（同二）女節子（同八）二男道彥（同十）三男和彥（同十一）三女英子（同十四）四男信彥（昭二）四女秀子（同四）【住】臺北市文武町六丁目官舍【電】二二四〇

伊藤 [illegible]　正七勳七　內務理事官兼情報局情報官　警保局檢閱課勤務

山形縣人明治卅年五月廿四日出生大正九年早稻田大學法學部英法科卒業翌年警察技手拜命警視廳技手兼警部保安部保安課勤務同十四年任內務屬警保局勤務ヲ經テ昭和十三年十二月內務理事官ニ任ズ同十四年關東州及滿洲國ヘ出張ス【住】目黑區三谷町六〇

伊藤 僴　正七　農林技師　水產局勤務

愛知縣人明治卅五年二月廿七日出生大正十五年東京帝大農學部水產學科卒業昭和四年農林技手拜命水產局勤務同十二年七月地方農林技師ニ任ジ熊本縣農林技師同縣水產課長トナリ同十五年九月現職ニ就ク曩ニ同十年歐米各國ニ出張ス【住】牛込區矢來町九二

伊藤 晃二　從五勳六　臺灣總督府州事務官　臺南州總務部長

大分縣士族和一郎二男明治卅年四月出生大正十四年京都帝大法科卒業臺灣總督府稅務秘書各課勤務高雄州警務課長臺灣警察官司獄官練習所主席教官臺北州內務部地方課兼官房文書各課長新竹郡守屛東市尹總督府交通局參事遞信部庶務課長等ヲ經昭和十五年十一月現職ニ就ク曩ニ同十四年五月ブエノスアイレスニ於ケル萬國郵便會議ニ際シ同委員ヲ被命歐米各國出張ス【家庭】妻澄（明卅八、大分縣荒木明長女）長男三造（大十五）【住】臺南市幸町臺南州廳內

伊藤 勳助　正四勳三　宇部市長

山口縣補助二男從五位惣兵衞ノ孫明治十六年四月廿三日出生同四十二年東京帝大法科卒業高文合格鐵道局副參事同參事鐵道書記官仙臺鐵道局長等歷任後退官精養軒宮古合同運送各社長宮城電鐵櫻田機械製作所各顧問ニ歷職昭和十三年現職ニ就任ス【趣味】將棋謠曲【家庭】妻シヅ（明廿四、男爵永山武敏妹）養子鐵夫（大二、養子和子夫京都帝大醫科卒）養子和子（大八、熊本縣魚住春俊三女府立高女卒）【住】宇部市東區本町【電】一四一九

伊藤 吉之助　從四勳三　東京帝大教授　文學部勤務

山形縣人須田惣太郎ノ長男明治十八年一月出生同廿五年先代圓藏ノ養子トナル同四十二年東京帝大文科哲學科卒業更ニ大學院ニ學ビ大正九年獨逸ニ留學伯林大學フライブルグ大學ニ學ビ慶應大學教授東京帝大文學部講師同大學助教授ヲ經テ昭和五年教授ニ任ズ【家庭】妻てる（明卅、宮城縣士族高橋又治三女）女しづ（大五）【住】澁谷區代々木西原町九五九

伊藤 清　從五勳六　和歌山縣書記官　總務部長

東京府人德次郎三男明治卅六年一月廿八日出生大正十四年東京帝大法學部政治學科卒業爾來兵庫縣屬內務省土木局勤務地方警視和歌山縣保安課長大阪府監察官京都府保安課長地方事務官東京府學務課長等歷任昭和十年社會局事務官保險部勤務內務事務官兼任同十三年一月厚生書記官社會局兒童課長同年十月遺族援護課長ヲ兼ネ後免兼務同十六年八月人口局母子課長ヲ經テ同十七年一月現職ニ就ク【家庭】妻ハツヱ（明卅六、富山縣本田吉治郎長女）長男齊（大十四）二男照（昭三）三男健（同六）【住】和歌山市男之芝丁【電】四

伊藤 清　正八　地方警視　三重縣警察部經濟保安課長

三重縣人金吾ノ二男明治卅四年五月廿九日出生昭和二年家督相續ス大正十一年三重縣巡査拜命爾來累進昭和八年任三重縣警部同十三年同縣龜山警察署長同十四年縣保安課長歷補同年十二月經濟保安課長トナリ同十六年三月地方警視ニ任ズ【趣味】讀書角力釣【家庭】妻好子（明四三、津市相川榮助二女津高女卒）男一（昭九）女愛子（昭一二）【住】津市古河縣營住宅【電】一八四三

伊藤 [illegible]二　正五勳五　關東局司政部長

廣島縣士族辰吉二男明治卅四年四月一日廣島市出生大正十一年高文合格同十三年東京帝大法學部獨法科卒業任岡山縣屬爾來地方事務官同縣商工課長學務課長知事官房主事秋田縣庶務課長北海道廳事務官地方課長庶務課長岩手兵庫各縣警察部長等歷任昭和十四年內務書記官神社局指導課長同十五年十一月神祇院書記官教務局指導課長ヲ經同十七年三月現職ニ就ク【家庭】妻ミサホ（明卅八、岡山縣佐藤茂長女岡山高女卒）長男達雄（昭四）長女道子（同六）二女忠子（同十）三女昌子（同十三）【住】新京特別市興安大路官舍【電】二―一九九一

伊藤 憲郎　從四勳四　朝鮮總督府檢事　平壤地方法院檢事正

青森縣人昇太郎長男明治廿五年十二月出生後家督相續ス大正七年東京帝大法科獨法科卒業朝鮮總督府判事光州地方法院井邑支廳京城海州各地方法院京城覆審法院各判事ニ歷任昭和二年檢事ニ轉ジ平壤覆審法院兼高等法院檢事同府事務官京城覆審法院檢事光州地方法院檢事大邱覆審法院檢事等歷任昭和十三年全州地方法院檢事正同十六年一月釜山地方法院檢事正ヲ經テ同年十二月現職ニ就ク【家庭】妻直子（明卅二、新潟縣今井時太郎二女函館高女卒）長男洋（大十五）長女京子（同九）二女文子（同十一）二男治（昭四）【住】平壤府東町【電】二三六〇

伊藤 賢三　正五勳二功四　海軍少將　情報局情報官　情報局第一部長

和歌山縣人明治廿七年出生大正三年海軍兵學校卒業昭和十五年十一月海軍少將ニ累進其間海軍大學卒業軍令部參謀堅田艦長第一遣外艦隊司令部附兼參謀アルゼンチンブラジルチリー各駐在大使館付武官洲崎特務艦長軍令部課長妙高艦長南京在勤海軍武官軍令部出仕兼海軍省出仕等歷補昭和十五年十二月現職ニ任ズ【家庭】妻信（明卅二）女喜久子（大十三）【住】杉並區和田本町八一七【電】中野二二九三

伊藤 猷典　正五勳四　文博　臺北帝大教授　文政學部勤務

京都府祖猷長男明治廿九年九月出生大正六年京都帝大哲學科卒業大學院ニ入リ京都市立繪畫專門京都高等蠶絲彥根高商各講師龍谷臨濟各大學臺灣總督府高校各教授ヲ經テ昭和四年現職ニ就ク大正十五年歐米各國ニ留學昭和十四年學位ヲ受ク【趣味】書道【家庭】妻ひで（明廿一、岐阜縣林友九郎長女東京女高師卒）長男英彥（大十三）二女鑛子（同十一）二男猷顯（昭五）【住】臺北市昭和町四六二【電】六〇一八

伊藤 源次郎　正八　地方事務官　新潟縣總務部會計課長兼庶務課勤務

新潟縣人明治卅四年九月廿九日出生大正七年新潟縣ニ奉職同十五年同縣屬拜命爾來庶務課道路課地方課各勤務ヲ經テ昭和十五年十二月任地方事務官同十六年一月現職ニ就ク【住】新潟市附船町一

伊藤 孝吉　從五　機械試驗所技師兼商工技師　機械試驗所機械局勤務

岩手縣人大正六年東京帝大機械科卒業地方商工技師埼玉縣川口鑄物工業試驗場長ヲ經テ昭和十二年現職ニ就ク【住】大森區馬込町東四ノ二六八【電】大森六〇七八

伊藤 貞市　正五勳五　理博　東京帝大助教授　理學部勤務

大阪府人才次郎長男明治卅一年九月出生大正十二年東京帝大理科地質科卒業同十四年同校助教授ニ任ズ曩ニ大正十五年歐米各國ニ留學昭和十四年學位ヲ受ク【家庭】妻富美（明卅七、東京府大木貞次郎長女）男順（大十五）【住】世田谷區經堂町三六〇

伊藤 [illegible]　正五勳五　鐵道技師　建設局勤務

兵庫縣士族貫志ノ長男明治卅一年十月十日出生大正十二年東京帝大工學部建築科卒業鐵道省ニ入リ鐵道技師工務局勤務ヲ經テ現時前記ノ任ニ在リ【趣味】旅行運動【家庭】妻悠（明卅七、福井縣福島縫次郎二女双葉高女卒）【住】麻布區本村町三五【電】三田四三五三

伊藤 [illegible]樹　正七　貿易局事務官兼商工事務官　貿易局兼大臣官房文書課勤務

千葉縣人明治四十五年七月七日出生昭和十一年高文行政科合格翌年東京帝大法學部法律學科英法科卒業同年商工屬拜命次デ鑛山監督局書記官東京鑛山監督局勤務兼任商工事務官鑛山局勤務同十五年一月商工事務官鑛產局勤務ヲ經テ同十六年一月現職ニ就ク【住】杉並區高圓寺六ノ六九五永尾方

伊藤 修一　正七勳六　軍事保護院理事官　傷痍軍人岐阜療養所勤務

岐阜縣人明治廿五年十二月廿一日出生大正四年同縣師範卒業小學校訓導奉職同十年惠那郡書記同十五年任岐阜縣屬昭和十三年學務部社會課長同十四年九月地方事務官岐阜縣飛彈支廳長トナリ同十五年五月同縣社會課長ヲ經同十七年五月現職ニ就ク【住】岐阜市北八ッ寺町七【電】一七九四

伊藤 俊一　東京市主事　總務局情報課長

千葉縣人義男ノ三男明治卅五年五月出生大正十四年明大法科卒業昭和二年高文合格同三年東京市教育局勤務爾來向島區會計課長同收入役城東區庶務課長保健局厚生課保護指導係長等歷任同十四年十二月現職ニ就ク【趣味】スポーツ劍道三段【家庭】妻榮子（明四四、嘉悅敏二女日本女子商業卒）長女優子（昭七）【住】澁谷區千駄谷五ノ八八一【電】四谷七〇七一

伊藤 壽刀　從四勳三　九州帝大教授　農學部勤務
福岡縣士族定次郎ノ四男明治廿八年二月出生同卅七年家督相續大正九年東京帝大農學部農科卒業九州帝大助教授ニ任ジ同十一年歐米各國ニ留學昭和三年同大學教授ニ進ム【家庭】妹幸(明卅五)【住】福岡市浪人谷

伊藤 順二郎　從五勳六　門司海務局長兼門司地方海員審判所長
愛媛縣建夫ノ男明治卅四年八月出生大正十四年東京帝大經濟學部ヲ卒業福井郵便局長貯金局振替貯金課長同貯金課長廣島遞信局庶務課長遞信省事務官遞信官吏練習所勤務遞信局書記官札幌遞信局監督課長東京都市遞信局規畫課長名古屋遞信局監督課長等歷任昭和十五年七月貯金局書記官貯金局總務課長同十六年一月同經理課長ヲ經同年十二月現職ニ就ク【趣味】登山圍碁【家庭】妻高子(明四十、東京府所喜之助二女東京女學館卒)長男順夫(昭六)長女裕子(同七)二女溫子(同十)【住】門司市門司海務局內

伊藤 信　正六　內務技師　東京土木出張所勤務
山形縣人明治卅五年二月十八日出生大正十三年第八高校昭和二年東京帝大工學部土木工學科各卒業內務工手拜命同七年內務技師ニ任ジ東京土木出張所勤務同十二年土木局勤務同十六年國土局勤務ヲ經テ同十七年三月現職ニ任ズ【住】市川市中山鬼重四七〇

伊藤 祐信　從五　地方農林技師　千葉縣農事試驗場長兼農會技術員養成所長
東京府人明治卅二年十一月廿八日出生大正十三年東京帝大農學科卒業內務省東京衛生試驗所勤務後現所技師ニ任ジ場長事務取扱ヲ經テ昭和十二年同場長ニ就任ス【趣味】弓【家庭】妻壽々(明卅八、中村幡雄長女東京府立第三高女卒)嗣子信(昭七)長女美和子(大十五)三女美惠子(昭五)【住】千葉市新田町七七

伊藤 整一　從四勳二功四　海軍中將　海軍軍令部次長
福岡縣人明治廿三年出生明治四十四年海軍兵學校卒業任少尉昭和十二年少將ニ陞ル其間海軍大學卒業海軍兵學校監事兼教官鶴見特務艦長木曾艦長駐滿海軍部附人事局第一課長最上愛宕榛名各艦長第二艦隊參謀長人事局長海上要職軍令部出仕等歷補昭和十六年現職ニ親補セラル【家庭】妻チトセ及長男叡【住】杉並區大宮前一七〇四【電】中野七五六七

伊藤 慶次　從四勳五　京都高等蠶絲學校教授
東京府人芳郎二男明治廿一年一月出生同卅九年家督相續同四十五年東京帝大農科農學科卒業東京農業大學講師鹿兒島高等農林學校講師ヲ經テ大正八年現職ニ就ク同十二年英獨米等各國ニ留學ス【趣味】庭球旅行【家庭】妻久江(明廿八、東京府伊藤滋姉跡見女學卒)長男芳一(大七)二男實(同九)長女明子(同十三)二女禮子(昭三)三男俊郎(同六)四男治夫(同九)【住】京都市上京區北野白梅町三一【電】西陣七四四〇

伊藤 誠哉　從三勳二　農博　北海道帝大教授　農學部長
新潟縣士族均二長男明治十六年八月七日出生同四十一年東北帝大農科植物病理學科卒業恩賜賞ヲ受ク同大學助教授ニ任ジ大正三年北海道廳技師ヲ兼任同七年任教授同八年學位ヲ受ケ昭和十六年四月農學部長ニ補セラル同年七月免兼官曩ニ大正十年英米獨ニ留學昭和二年同學植物園長ニ補セラレ同十五年學術研究會議員仰付ラレ尙同十年特ニ御進講ヲ許サル曩ニ歐洲ニ留學ス【趣味】文學【家庭】妻年(明廿三、新潟縣鈴木森三郎二女日本女大卒)男信夫(大三、北海道帝大農學部卒同大學助手)女壽(同六、札幌高女卒)女正(同十四、同校卒)女淳(同十五)【住】札幌市北十二條東二丁目【電】一五五五

伊藤 仙藏　正五勳五　臺北第一高女校長
千葉縣伊之佑二男明治十九年一月三日出生東京高師卒業成田千葉朝倉大分各中學大分師範各教諭佐伯國東各中學高岡高女神通中學長生中學各校長ヲ經テ昭和十七年三月現職ニ就ク【趣味】尺八碁【家庭】妻松子(明廿七、東京府小倉庄太郎妹共立女子職業卒)長男斌郎(大五)二男剛郎(同七、早大工科在)三男良士郎(同十一)四男公士郎(同十四)【住】臺北市同校內

伊藤 廣哉　從五勳六　橫濱市教育部長
熊本縣人明治廿二年出生大正六年東京帝大政治科卒業大阪府警部岐阜縣事務官山梨縣學務部長栃木宮崎各縣警察部長廣島縣學務部長橫濱市監督課長收入役會計課長等歷職現職ニ就ク【住】橫濱市中區本牧三之谷町一八一【電】本局四一一七

伊藤 泰彬　正五勳四　朝鮮總督府忠清北道知事
京城府需昌洞出身明治十九年九月十五日出生舊姓尹ト稱ス同卅六年官立日語學校卒業外國語學校副教官官立高等小學校日語教授關稅局囑託總督府雇員同府道書記同府道理事官京畿道內務部勸業課長同產業課長同府道事務官咸鏡南道財務部長忠清南道內務部長京畿道參與官兼產業部長等歷任昭和十四年五月江原道知事ヲ經テ同十五年九月現職ニ就ク【住】朝鮮清州郡清州邑大成町官舍【電】二一〇

伊藤 孝　地方事務官　富山縣學務部社會課長
福岡縣人大正三年十二月卅日出生昭和十二年浦和高校ヲ經テ同十五年高文行政科合格同十六年東京帝大法學部政治學科卒業富山縣屬庶務課勤務同年十月兼任同警部警務課兼富山警察署勤務ヲ經テ同十七年一月任地方事務官現職ニ就ク【住】富山市富山縣學務部內

伊藤 武夫　從四勳四　林博　東京帝大教授兼林業試驗場技師
新潟縣士族龜之助ノ二男明治廿年三月出生大正二年東京帝大農科林學科卒業同大學講師同十年米佛瑞各國ニ留學同十一年三重高等農林學校教授ヲ經テ昭和十四年四月現職ニ任ズ同九年學位ヲ受ク【家庭】妻公子(明卅、東京府三宅長儀三女)男正春(大八)女三重子(同十)女まり子(同十三)三女かよ子(同十五)四女禮子(昭三)五女濱子(同五)【住】本郷區駒込千駄木町三八

伊藤 武男　從四勳五　京都高等蠶絲教授
山口縣伊太郎二男明治廿六年十二月出生大正七年東京帝大農科農藝化學科卒業盛岡高等農林教授ヲ經テ昭和七年現職ニ就ク曩ニ獨米墺各國ニ留學ス【家庭】妻スワ(明卅四、山口縣村川豐之助五女同縣岩國高女卒)嗣子義郎(大十)長女多惠子(同十二)二女倫子(同十五)【住】京都市上京區大將軍坂田町三〇

伊藤 武雄　從五勳五　帝室會計審査官
東京府松雄二男明治廿九年九月一日出生大正十一年東京帝大法學部政治科卒業同十四年任帝室林野局事務官名古屋支局東京支局各監理課長兼整理課長宮內事務官諸陵寮庶務課長兼考證課長ヲ歷任昭和十二年五月現職ニ就ク【趣味】古典歷史研究【家庭】妻周子(明卅八、東京府大久保初男長女實踐高女卒)長女あい子(昭四)二女いさ子(同八)【住】澁谷區豐分町二

伊藤 武雄　從四勳五　第四高校教授
東京府士族武一郎長男明治廿八年四月出生後家督相續大正七年東京帝大文學部獨文科卒業翌年第四高校教授ニ任ズ昭和三年獨瑞伊各國ニ留學同四年歸朝ス【趣味】映畫【家庭】母せん(明六)妻雪[illegible](同卅六、石川縣吉田貞次郎長女)長男洋一(大十二)長女百合(同十一)二男岬二(昭二)二女なぎ(同五)【住】金澤市下胡桃町四

伊藤 武雄　正八　地方警視　茨城縣警察部經濟保安課長
茨城縣人新次郎ノ長男明治卅四年五月十三日出生大正九年靜岡縣立掛川中學卒業同十一年茨城縣巡査拜命爾來累進昭和七年任同縣警部特高課勤務大子取手各警察署長巡査教習所長同十三年麻生署長等歷職同十五年經濟保安課長トナリ同十六年三月地方警視ニ任ゼラル【趣味】旅行讀書【家庭】妻靜枝(明卅七、靜岡縣松浦弘二女靜岡高女卒)長男哲也(昭四)長女美智子(大十三)二男公二(昭五)三男淨三郎(同七)二女小夜子(同十五)【住】水戸市北三ノ丸官舍【電】八九六

伊藤 武太郎　正七　警視廳警視　平野警察署長
山形縣人明治卅年四月三日出生大正八年警視廳巡査拜命同十三年警部補昭和五年任警部總監官房特高課特高部勞働課勤務同七年內務屬警保局勤務警務官補同十四年五月任警視代々木警察署長ヲ經テ同十六年六月現職ニ就ク【住】深川區[illegible]住町二ノ七官舍【電】深川七四四

伊藤 佐　從五勳六　農林書記官　資材部肥料統制課長兼飼料課長
愛知縣人明治卅六年出生大正十四年高文合格翌年京都帝大法科英法科卒業農林省ニ入リ[illegible]林局事務官產業組合事務官米穀局勤務倫敦駐在農林書記官米穀局外地課長臨時農村對策部計畫課長等歷任昭和十四年四月滋賀縣書記官經濟部長同年十月農林書記官兼農林大臣秘書官大臣官房秘書課長ヲ經テ同十六年一月現職ニ就ク同十年歐米各國ニ出張同十三年北米ニ出張ス【趣味】讀書スポーツ【家庭】妻美和子(明四五、山形縣本間光正妹酒田高女卒)長健一(昭十三)長女教子(同十)【住】澁谷區代々木本町七六五【電】四谷一一五〇

伊藤 辰雄　正五勳五　神戶高等商船學校教授
東京府士族明治廿五年七月出生大正五年商船學校航海科卒業同九年現教授ニ任ズ【家庭】母千代(明四)妻豐(同卅三、茨城縣士族橋本正壽三女東京府立第二高女卒)男功一(昭三)【住】兵庫縣武庫郡本庄村字西青木一三五【電】御影二一六五

伊藤 千代太郎　從五勳五　地方技師　岐阜縣土木部道路課長
岐阜縣人明治廿二年十月二日出生同四十五年名古屋高工卒業名古屋市技手岐阜縣技手同縣土木技手大正十年同縣土木技師兼道路技師昭

和四年同縣道路技師兼土木技師內務部土木課勤務同年地方技師ニ任ジ岐阜縣勤務同十二年五月道路課長ニ就任ス〔住〕岐阜縣羽島郡柳津村〔電〕笠松三七五

伊藤 隆一 正五勳五 地方技師 愛媛縣經濟部林務課長
愛媛縣人明治廿年一月十七日出生大正四年東京帝大農科農學科卒業同縣技手拜命同八年愛媛縣地方農林技師ヲ經テ任地方技師昭和六年現職ニ就ク〔住〕松山市南柳井町官舍〔電〕一〇七九

伊藤 兆司 正五勳四 九州帝大教授 農學部勤務
福岡縣人萬太郎長男明治廿八年五月出生大正八年東京帝大農學部卒業同大學助手ヲ經テ同大學院ニ入リ同十一年九州帝大助教授拜命研究員トシテ歐米各國ニ在留後比律賓蘭領東印度滿洲國等ヘ出張昭和九年タイ國立大學教授ニ聘セラレ同十五年三月教授ニ任ズ〔趣味〕園藝〔家庭〕妻ツネ（明卅四、福岡縣杉濟見長女日本女大卒）長男昌司（同十四）長女市惠（大十二）三女美惠子（昭七）四女南海惠（同十）〔住〕福岡縣糟屋郡箱崎町二〇三四

伊藤 禪雄 正七 地方事務官 栃木縣總務部振興課長
三重縣人文四郎二男明治卅四年三月十日出生大正十一年第四高校同十四年京都帝大經濟學部各卒業昭和四年高文行政科合格任栃木縣屬同九年兼同縣警部翌年免兼官學務部社會課長同十一年同縣農林主事農務課勤務等ヲ經テ同十二年六月任地方事務官栃木縣農務課長地方課長ヲ經テ同十六年三月現職ニ就ク〔趣味〕讀書〔家庭〕妻春子（明四〇、三重縣虎之進長女津高女卒）長女茂子（昭四）二女洋子（同九）三女浩子（同十二）四女厚子（同十五）〔住〕宇都宮市塙田町縣公舍〔電〕四四一九

伊藤 亨 從七 樺太公立大泊商業學校長
山梨縣伊藤信義ノ長男明治卅五年十月四日同縣西八代郡落居村ニ出生昭和二年小樽高商卒業同年川崎汽船會社入社同四年大泊商業補習學校教員ヲ經同十四年四月現職ニ就ク〔家庭〕妻貞（明卅七、東京府八並美太郎長女東京佐藤高女卒）〔住〕樺太大泊町初音町一ノ一〔電〕二〇五

伊藤 德之助 從四勳三 理博 九州帝大教授 理學部勤務
千葉縣人東京帝大卒業昭和九年學位ヲ受ク〔住〕福岡市東唐人町堀端九

伊藤 敏行 從五勳六 仙臺遞信局長
東京府人明治卅五年九月廿七日出生大正十四年東京帝大法學部政治學科卒業同年高文行政科合格遞信局書記昭和三年任通信事務官兼遞信局事務官高知郵便局長爾來遞信事務官廣島遞信局經理課長仙臺遞信局規畫課長同監督課長兼海事部長遞信局書記官大阪遞信局購買課長關東局遞信局長貯金局書記官貯金局經理課長同業務課長等歷任昭和十七年四月現職ニ就ク〔住〕仙臺市片平丁官舍〔電〕二〇〇〇

伊藤 仁吉 正四勳二 第八高等學校長
福島縣人佐藤嘉藏二男明治十八年三月出生同四十三年伊藤武壽ノ養子トナル同四十年第一高校卒業同四十三年高文合格翌年東京帝大法科獨法科卒業農商務屬爾來富山埼玉山梨各縣理事官文部省督學官兼文部書記官同兼文部參事官對支文化事務局事務官外務書記官東京帝大書記官兼文部書記官等歷任昭和二年福島高商校長ヲ經テ同十五年一月現職ニ就ク曩ニ大正八年支那ニ同十年歐米各國ニ昭和十一年四月滿洲國及中華民國ニ出張ス〔趣味〕園藝〔家庭〕妻トメ（明卅五、神奈川縣平沼亮三妹）男宗文（大七）〔住〕名古屋市昭和區廣路町石佛五九〔電〕瑞穗八八

伊藤 信道 從四勳四 檢事 名古屋控訴院檢事
三重縣人明治廿二年九月出生大正六年京都帝大法科卒業同年八月司法官試補同八年三月任檢事名古屋福島青森各地方半田福井各區安濃津地方各裁判所名古屋控訴院同地方裁判所各檢事ヲ經テ現職ニ就ク〔家庭〕妻ろく（明廿九、三重縣大村正三郎六女）男道雄（大九）女悠紀子（同四）女敏江（同八）女福子（同十三）〔住〕名古屋市東區主税町四ノ二〇〔電〕東六三〇四

伊藤 一 從六 內務事務官 大臣官房勤務
愛知縣人明治四十三年四月十一日同縣愛知郡鳴海町ニ出生昭和二年第八高校ヲ卒ヘ同七年高文合格翌八年東京帝大法學部法律學科卒業同年兵庫縣屬拜命同十一年內務屬同十二年任地方事務官長崎縣勤務社寺兵事課長兼體育課長同十三年二月同縣農政課長同十四年五月任厚生事務官體力局勤務人口局勤務ヲ經同十七年六月現官ニ轉ズ〔住〕本鄉區駒込千駄木町五九

伊藤 八郎 正五勳四 大藏技師 主税局勤務
山形縣人大正七年東京帝大農科農藝化學科卒業大藏省ニ入リ税關鑑査官橫濱税關勤務ヲ經テ任大藏技師主税局勤務タリ〔住〕東京府北多摩郡武藏野町西窪字三谷二五八〔電〕吉祥寺六六七

伊藤 日出登 正六 文部書記官兼外務書記官 專門學務局學務課長
廣島縣人奥本鐵漢ノ三男明治卅六年一月九日廣島市ニ出生後同縣伊藤只一ノ養子トナル大正十五年京都帝大經濟學部昭和四年東京帝大法學部各卒業文部省囑託東北帝大助教授兼同大學事務官ニ歷任文部書記官普通學務局庶務課長同十五年四月同學務課長ヲ經同年十月現職ニ就ク〔家庭〕妻時子（明四一、養父只一二女縣立廣島高女卒）長女恭子（昭六）二女穎子（同十一）〔住〕目黑區下目黑四ノ八四八〔電〕大崎七二二二

伊藤 久榮 從五 醫博 造幣醫 造幣局保健課長 造幣局病院長
長野縣助藏四男明治廿八年二月廿五日出生大正九年大阪醫大卒業同大學內科教室及同附屬病院ニ勤務造幣局ニ入リ現時前記ノ任ニ在リ曩ニ同十五年學位ヲ受ク〔家庭〕妻ふく（明卅六、大阪府由井卯三郎二女大手前高女卒）長男榮一（昭五）二男芳久（同十一）〔住〕大阪市北區新川崎町一官舍〔電〕堀川三八五

伊藤 久松 正五勳五 大分縣知事
山口縣人政吉ノ長男明治廿九年九月廿八日同縣吉敷郡鑄錢司村ニ出生大正十一年高文合格翌年東京帝大法學部獨法科卒業熊本縣屬同縣飽託郡長ヲ經テ任地方事務官熊本縣商工水產地方庶務各課長岡山縣工場學務農務各課長三重縣知事官房主事經濟更生課長兼水產課長地方課長等歷任昭和十年秋田縣書記官學務部長同十三年埼玉縣書記官學務部長同十四年五月奈良縣書記官總務部長ヲ經テ同十六年六月大阪府書記官學務部長ヲ經テ同十七年六月現職ニ就ク〔趣味〕讀書園藝尺八庭球〔家庭〕妻敏子（明卅九、愛媛縣八木春樹二女同縣立今治高女卒）長男健（昭十一）長女寬子（同四）二女由香子（同八）〔住〕大分市荷揚町二一官舍〔電〕一

伊藤 秀譽 從五勳六 長崎縣書記官 學務部長
秋田縣人重五郎ノ四男明治廿七年三月廿二日出生大正十一年明治大學英法科卒業翌年高文行政科試驗ニ合格警視廳警部拜命爾來谷中警察署長警視赤坂青山麻布鳥居坂各警察署長地方事務官香川縣社寺兵事課長神奈川縣社會課長兼社會教育課長建築工場監督課長調停官岐阜縣工場課長同縣地方課長兼統計課長廣島縣庶務課長官房主事會計課長兼商工水產課長歷任昭和十三年鹿兒島縣書記官學務部長ヲ經テ同十五年八月現職ニ就ク〔趣味〕乘馬將棋〔家庭〕妻美代（明四〇、日本女子大卒）長男秀久（昭五）長女雅子（同十）二女祐子（同十六）〔住〕長崎市東中町一官舍〔電〕三三〇

伊藤 平藏 正七 馬政局理事官
東京府人明治廿七年九月廿五日出生夙ニ陸軍省ニ奉職大正十三年法政大專門部法科卒業農林屬拜命昭和十一年馬政局屬ヲ經テ同十四年七月任同理事官同十五年競走監督官ニ補セラル〔住〕澁谷區竹下町二八

伊藤 正斌 從五勳六 地方技師 山梨縣經濟部山林課長
東京府人明治卅一年二月九日出生大正十一年東京帝大農學部林學科卒業農商務省ニ入リ若松矢板各營林署長歷職昭和五年營林局技師高知營林局在勤同八年農林技師兼營林局技師山林局勤務同十三年秋田營林局ニ轉ジ翌年同上事業部作業課長同十五年專任農林技師山林局林務課勤務ヲ經テ同十七年二月任地方技師現職ニ就ク〔家庭〕妻喜代子（明卅八、東京府渡邊雪峰四女三輪田高女卒）長男正春（昭四）二男誠二（同五）長女壽美子（同十）〔住〕甲府市日向町七〔電〕二七三五

伊藤 正巳 從五勳六 群馬縣書記官 經濟部長
石川縣人勇太ノ二男明治廿七年十一月四日出生大正八年東京高師卒業同十三年高文行政科合格同十四年京都帝大法學部卒業爾來岩手縣屬兼警部地方警視山口三重各縣勤務地方事務官岡山縣勤務等歷任昭和十二年樺太廳交通部長同十四年山梨縣書記官經濟部長ヲ經テ同十五年八月現職ニ就ク〔家庭〕妻淑子（明四十、石川縣儀太郎二女京都府立第一高女卒）長女惠子（昭元、前橋高女在）二女禮子（同三、同上在）三女三重子（同七）〔住〕前橋市石川町一〇官舍〔電〕三八七二

伊藤 正義 從四勳三 醫博 京城帝大教授 醫學部勤務
宮城縣人松村文治二男明治廿三年二月出生同卅八年伊藤悌太郎ノ養子トナリ同四十四年家督相續大正五年東京帝大醫科卒業同校副手朝鮮總督府醫院醫官兼同府京城醫專教授兼京城帝大教授ヲ歷任昭和三年京城帝大教授專任今日ニ至ル大正十一年及昭和二年歐米各國ニ留學ス〔家庭〕妻きん（明廿四、養父悌太郎二女）〔住〕京城府東四軒町五〇〔電〕本局五五三五

伊藤 光治 正五勳五 農博 北海道帝大助教授 農學部勤務
北海道士族三代吉ノ二男明治廿八年十月出生

後分家大正十年北海道帝大農學部農藝化學科卒業同大學助手拜命同十二年同大學助教授ニ任ズ昭和七年學位ヲ受ク趣味映畫家庭妻エイ（明卅五、北海道伊藤信藏姉廳立札幌高女卒）長男廣吉（大十二）二男英治（同十四）長女芳枝（昭三）二女光枝（同六）三女芙美（同九）住札幌市北七條西十一丁目

伊藤　實　正五勳四　醫博　東北帝大教授　醫學部勤務

東京府貫之助長男明治廿七年二月九日出生大正九年東京帝大醫學部卒業更ニ同校皮膚科ニ研鑽同十三年金澤醫大助教授昭和三年同教授ヲ經テ同十二年七月現職ニ轉ズ曩ニ同二年佛國ニ留學學位ヲ受ク趣味俳句觀劇家庭妻道子（明卅四、東京府宮坂德三郎長女中村高女卒）長男安宏（昭二）長女そめ（大十一）住仙臺市角五郎町一〇七電一一六八一

伊藤　百世　從四勳三　京都市土木局長

島根縣士族治ノ二男明治廿一年四月出生大正十一年家督相續同二年東京帝大工科土木工學科卒業同六年任內務技師仙臺土木出張所勤務新潟下關各土木出張所長ヲ經同十六年七月退官現職ニ就ク大正十三年歐米各國ニ出張ス家庭妻ゼン（明廿六、富谷萬之助三女）男國男（大十五）二女賀子（同十三）三女秀子（昭五）住京都市京都市役所內

伊藤　勅一　正五勳五　判事　飯田區裁判所監督判事兼長野地方裁判所飯田支部長

千葉地方宇都宮區監督各判事ヲ經テ現職ニ就ク住飯田市同所內

伊藤　美雄　從七勳七　地方事務官　福井縣知事官房文書課長

福井縣人明治卅二年四月廿日出生大正七年同縣ニ勤務同十年縣屬ニ任ジ教育課社寺兵事課學務課各歷勤昭和十六年一月官房文書課長トナリ同十七年一月地方事務官ニ任ゼラル住福井市城町福井縣廳內

伊藤　嘉彥　從六　農林事務官　水產局勤務

福岡縣人明治四十五年七月一日出生昭和九年高文行政科司法科合格同十年東京帝大法學部佛法科卒業翌年農林局拜命水產局勤務同十二年四月農林事務官ニ任ゼラル住世田谷區三軒茶屋町七三

伊藤　亮　正六勳六　工業試驗所技師　東京工業試驗所第三部長

大阪府六郎四男明治卅三年二月廿三日出生大正九年東京高工窯業科卒業東京工業試驗所ニ入リ現時同所第三部長タリ家庭妻行子（明四二）長女玲子（昭七）住小石川區久堅町一一

伊能　繁次郎　從五勳六　鐵道書記官　需品局總務課長兼同第三課長

東京府五三郎二男明治卅四年三月十日出生大正十五年東京帝大獨法科卒業鐵道省ニ入リ兩國驛長新橋運輸事務所庶務主任東京鐵道局人事掛長歷職鐵道事務官官房文書課勤務鐵道監察官兼企畫院書記官昭和十五年三月鐵道書記官經理局倉庫課長ヲ經テ同十六年一月現職ニ就ク趣味庭球家庭妻君子（明四一、鈴木濟秀妹）長男忠敏（昭五）二男裕（同七）三男忠正（同九）住豐島區西巢鴨町二ノ二五七〇電大塚三〇九二

伊能　文三郎　正八勳七　地方事務官　茨城縣經濟部農政課長兼總務部人事課長知事官房主事

茨城縣故勘次郎四男明治卅三年四月十八日出生大正十五年同縣屬拜命農林課人事課官房秘書係同縣警部警務課等各歷勤昭和十五年會計課長同十六年任地方事務官會計課長兼官房主事兼人事課長ヲ經テ同十七年一月現職ニ就ク趣味將棋家庭妻鳳佐代（明卅二、茨城縣今廣二女）長男雄一良（昭五）長女香代子（大十三、水戶高女卒）住水戶市裡三丁目電一八〇

伊能　芳雄　從五勳六　厚生省勞務官兼厚生書記官　名古屋勞務官事務所長　勞働局勤務

群馬縣人八平ノ男明治卅一年二月出生大正十二年東北帝大理學部地質科同十四年東京帝大法學部政治科各卒業官途ニ就キ累進警視廳警視警衞課長第二方面監察官調停課長警視廳部長消防部長兼監察課長兼消防練習所長ニ歷任昭和十四年千葉縣書記官警察部長同十六年一月靜岡縣書記官學務部長ヲ經テ同十七年三月現職ニ就ク趣味乘馬庭球家庭妻智惠（明四〇）靜岡縣野田脩治五女九段精華女學卒）長男信一（昭四）長女美知子（同五）二女玲子（同九）住名古屋市西區南外堀町六ノ一同事務所內

伊場　信一　正六　地方警視　大阪府警察部外事課長

大阪府人善次郎ノ三男明治卅八年七月廿九日出生昭和五年高文合格同六年同志社大學法律科卒業同年警視廳巡查部長拜命高文司法科試驗合格同年同警部補同七年同警部同十年任地方警視岩手岐阜各縣警務課長同十三年厚生事務官軍事援護部勤務傷兵保護院事務官計畫局勤務同十四年軍事保護院援護局勤務同十五年九月任地方事務官大阪府地方課長兼總動員課長同十六年振興課長兼庶務課長ヲ經テ同十七年一月現職ニ就ク趣味スポーツ家庭妻千代子（大四、靜岡高女家政學院各卒）長女伸代（昭十一）長男弘侃（同十四）住大阪市西區江之子島東之町官舍電土佐堀五四五〇

伊原　隆　正六　大藏書記官　會社部經理統制課長

東京府人昭和六年東京帝大法學部獨法科卒業大藏事務官大藏大臣秘書官大藏事務官兼內閣總理大臣秘書官兼興亞院總裁秘書官理財局勤務大藏事務官兼大藏書記官理財局配當給與課長ヲ經テ同十六年七月現職ニ就ク住澁谷區原宿二ノ二一〇電青山二六八

伊吹　眞治　從六　地方事務官　栃木縣經濟部商工課長兼總務部人事課長知事官房主事

和歌山縣歌吉三男明治卅三年五月一日出生大正十一年遞信官吏練習所行政科卒業爾來遞信局書記大阪遞信局在勤通信書記通信局兼遞信官吏練習所勤務遞信屬遞信官吏練習所勤務簡易保險局書記昭和五年高文行政科合格同十年尾道郵便局長同年通信事務官兼任遞信局事務官同局長同十一年滿洲國ニ轉出交通部事務官郵務司辨司郵政總局理事官簡易保險課長郵政總局監察官歷任同十三年遞信局事務官東京地方遞信局勤務同年保險院事務官總務局企畫課勤務同十四年社會保險局勤務ヲ經テ同十五年六月任地方事務官現時前記職ニアリ家庭妻波津子（明卅六、明石高女卒）長男英朗（大十四）長女忠子（昭二）二男公宏（同九）住宇都宮市塙田町公舍電三六八七

居谷　隆信　正七　厚生事務官　勞働局勤務

大阪府人明治四十三年十一月一日出生舊姓ヲ經テ昭和九年京都帝大小池ト稱ス浪速高校ヲ法學部卒業同八年高文行政科合格任福井縣屬同十二年任地方警視沖繩縣警務課長福島縣特高課長兼經濟保安課長ヲ經テ同十六年八月現職ニ就ク住應召中（留守宅）堺市櫛屋町東四丁目

猪熊　信二　從五勳六　特許局事務官　特許局審査第一部長兼同部商標課長事務取扱

神奈川縣人元之助ノ二男明治卅四年十一月一日出生大正十四年東京帝大法學部翌年同大學經濟學部各卒業同年鑛山監督局拜命爾來鑛山監督局書記官商工事務官臨時產業合理局事務官商工書記官統制局合理課長兼金融課長統制課長兼合理課長物價局事務官第一部總務課長等歷任昭和十四年十二月商工書記官兼內閣東北局書記官總務局總務課長同十五年八月特許局事務官兼商工書記官特許局意匠商標部長ヲ經テ同十六年四月現職ニ任ズ趣味書畫寫眞旅行家庭妻夏子（明四五、長野縣有賀光豐二女双葉高女府立第三高女高等科各卒）長男信彥（昭十一）長女玲子（同十五）住世田谷區松原町二ノ五六八電松澤三八三七

猪野　廣次　正五勳四　飯塚市長

福岡縣士族昌ノ長男明治十二年九月七日出生同卅五年福岡縣屬拜命爾來縣下築上三井筑紫各郡長飯塚町長歷職昭和七年現職ニ就ク曩ニ日露役ニ從軍ス城南ト號ス家庭妻利（明廿一、宮川武行二女）長男忠雄（同四二、九州帝大卒）男泰雄（同四四）男耕吉（大二）男韜造（同六）男隆平（同十）同又太郎（昭三）女道子（大八、福岡縣立福岡高女卒）女秀子（同十二）女壽子（同十三）住飯塚市上町一三二電二五二

猪俣　敬次郎　從五勳六　鹿兒島縣書記官　警察部長

新潟縣人明治卅六年五月廿一日出生大正十五年高文行政科合格同年日大法文學部法律科卒業昭和二年兵庫縣屬爾來地方事務官福井縣商工水產課長群馬縣工場課長同縣工場監督官地方警視埼玉縣特高課長等歷任同十年一月任內務事務官警保局勤務同十三年七月兼任外務事務官伊太利國羅馬駐在ヲ經テ同十六年一月現職ニ就ク家庭妻美代子（明四四　男欣也（昭九）女美惠子（同七）男義昭（同十一）女敬子（同十四）住鹿兒島市上龍尾町五二官舍電三六

猪俣　二郎　從五勳六　岡山縣書記官　警察部長

福岡縣爲治二男明治卅五年四月一日出生大正十四年東京帝大法學部政治學科卒業同年高文行政科合格爾來宮城縣屬地方警視福井縣保安課長兼警察練習所長廣島縣保安課長同警務課長兼警察官教習所長地方事務官岐阜縣工場監督官工場課長兼農務課長庶務課長兼人事課長京都府庶務課長等歷任昭和十四年四月鳥取縣書記官警察部長同十六年一月千葉縣書記官警察部長ヲ經テ同十七年一月現職ニ就ク趣味釣魚乘馬柔道弓道盆栽園藝家庭妻とよ（明卅八）住岡山市弓之町一四八官舍電岡山二二〇一

猪股　龍作　從五勳四　司稅官　板橋稅務署長

北海道才吉ノ二男明治十六年十一月出生和佛法律學校ニ學ビ高文合格東京稅務監督局屬從橋橫濱各署間稅課長中之條藤岡小田原宇治山田八幡松本一宮各稅務署長等ヲ經テ昭和十五年八月現職ニ就ク趣味讀書旅行家庭妻けい子

(明廿二、東京府近藤五郎治孫)男勳(同四一、濱松高工卒)同妻きみ子(大五、函館高女卒)女和子(同八)男暢同(十五)住豐島區西巢鴨二ノ一八九七電大塚六〇〇一

飯河　晶　正六勳四　海軍造船中佐　海務院海務官　船舶部企畫課長

東京府人明治卅年四月二日出生大正十三年東京帝大工學部船舶工學科卒業任造船中尉昭和十三年十一月同中佐ニ昇進海軍艦政本部造船監督官ヲ經テ同十六年十二月現職ニ就ク住牛込區二十騎町八電牛込八五一

飯澤　高　從四勳四　檢事　盛岡地方裁判所檢事正

宮城縣士族亭二男明治廿三年一月出生大正三年分家同年東京帝大法科獨法科卒業任檢事大阪地方兼同區福島地方兼同區米澤區秋田地方兼同區宇都宮地方兼同區横濱地方各裁判所檢事東京宮城各控訴院檢事名古屋控訴院檢事歷補昭和十三年旭川地方裁判所檢事正ヲ經テ同十五年十月現職ニ就ク趣味讀書宗教妻みさ(明廿三、宮城縣鈴木富太郎三女白石高女卒)長男邁(大十二)長女なみ子(同十五)二女おき(昭六)二男醇(同九)住盛岡市內丸電二三

飯島勝之助　正五勳五　地方技師　宮城縣土木部長

埼玉縣人龜之助ノ四男明治廿三年七月廿七日出生後飯島俊久ノ養子トナル大正五年京都帝大理工科土木工學科ヲ卒業大阪神戸各市技手神戸市技師產業技師兼土木技師埼玉縣勤務同縣產業技師地方技師鳥取山梨各縣勤務昭和十年岡山縣土木課長兼營繕課長ヲ經テ同十四年現職ニ就任ス家庭妻喜代(明卅一、栃木縣荒籾彌太郎二女共立女子專門學校卒)長男孝(大十二、國學院大學豫科在)二男修(同十四、縣立仙臺二中在)三男明(昭四同校在)四男邁(同六)二女秀子(同八)住仙臺市北一番丁四三官舍電二八三

飯島象太郎　從四勳五　第五高校教授

茨城縣人重威長男明治廿四年十二月出生大正六年京都帝大文科哲學科卒業八尾中學教諭ヲ經現職ニ任ズ家庭父重威(明二)母ふみ(同元)妻リュ(同廿四、熊本縣士族本田赤彥妹)長男健一(大七)長女ゆき(大十)二男健次郎大(十二)三男陽三(昭二)住熊本市黒髮町下立田山口

飯島東太郎　從四勳四　東京高師教授

栃木縣人濟五郎ノ長男明治十八年二月出生同廿八年家督相續同卅九年廣島高師卒業同校助教諭同教授ヲ經テ大正三年東京高師專攻科卒業現時同校教授タリ家庭妻ハツ(明廿二、栃木縣寺內忠之進姪)男輝夫(大六)女節子(同十一)男登(同八)男重雄(同十一)女澄子(昭二)住小石川區原町一四三電大塚六一一九

飯島　道脩　從四勳五　第七高校造士館教授

東京府士族貞菴長男明治十六年六月出生同卅年家督相續同卅七年東京外國語學校獨語本科卒業陸軍教授富山藥專教授ヲ經テ現職ニ就ク昭和三年獨國ニ留學ス趣味哲學宗教讀書刀劍鑑賞家庭妻マサ(明廿六、靜岡縣三浦渡世平四女)男明郎(大十二)女和(同七)女光(同九)二男哲郎(昭六)住鹿兒島市長田町一五五

飯田　一貫　正六　道路技師兼土木技師　熊本縣土木部道路課長

大分縣人明治卅五年二月三日出生昭和二年九州帝大工學部土木工學科卒業同年愛知縣道路技手拜命次デ同縣土木技手兼任同縣土木技手兼道路技手同道路技手兼土木技手昭和五年任道路技師兼土木技師同縣道路技師兼土木技師土木部道路課勤務ヲ經テ同十四年六月熊本縣ニ轉ズ住熊本市一番被分町公舍電九七五

飯田梅太郎　正六勳六　香川縣立三豐高等女學校長兼教諭

東京府人定介長男明治廿六年四月出生大正九年東京帝大文科卒業後福島埼玉各縣立中學校教頭香川師範教諭小豆島中學校長ヲ經テ現職ニ就ク家庭妻せつ(高岡高女卒)長男一郎(大十)長女よし子(同十四)二男貞夫(昭九)住香川縣三豐郡觀音寺町電四七

飯田　靜　正五勳六　埼玉縣立浦和第一高等女學校長兼教諭

茨城縣人宗次郎長男明治廿三年十一月廿五日出生大正四年廣島高師卒業忠海高女桐生中學各教諭宇陀中學校長歷任忍浦和各高女校長ヲ經テ現職ニ就ク家庭妻スエ(明卅三、靜岡縣岡田平次二女廣島女學院高女部卒)長男忠雄(昭二)長女信子(大十、忍高女卒)二女敏子(同十二)三女裕子(同十四)二男恒雄(昭五)四女綾子(同七)三男英雄(同十)住浦和市同校內

飯田靜次郎　從四勳五　長崎高商教授　校長事務取扱

福岡縣星野彥三郎二男明治十五年二月出生叔父篤之進ノ養子トナリ同卅八年家督相續同四十四年東京高商專攻部銀行科卒業大正八年長崎高商教授ニ任ゼラル大正十三年米英獨各國ニ留學ス家庭養母クラ(明七、佐賀縣杉谷幸俊二女)妻千代子(同廿九、京都府星野元彥三女)住長崎市伊良林町一ノ八三電三五九四

飯田（ハンダ）　忠　正七　文部省社會教育官　社會教育局勤務

大分縣人閑一ノ長男明治四十年一月十二日出生昭和三年第七高校造士館同七年東京帝大文學部心理學科各卒業東京府青年指導員囑託長野縣社會教育事務囑託同縣社會教育主事歷職同十四年十二月任地方事務官長野縣社會教育課長ヲ經テ同十七年五月現職ニ就ク家庭妻ハナヱ(大二、熊本縣有伍右太郎二女尙絅高女卒)長男晋一郎(昭十二)長女信子(同十一)二女洵子(同十五)住王子區王子町三ノ七

飯田（ホツタ）　秀眞　從六　祭務官　神祇院教務局勤務

千葉縣士族明治卅二年三月廿三日出生大正九年國學院大學國文科卒業後同研究科ニ入ル同十年官幣大社明治神宮主典昭和四年同禰宜同七年官幣中社大原野神社宮司同九年官幣大社熱田神宮權宮司歷任同十一年九月祭務官ニ任ズ住杉並區淸水町二二八

飯塚　英助　正七　地方警視　愛知縣警察部警防課長

秋田縣人明治卅六年七月廿一日出生昭和七年京都帝大法學部卒業同年高文合格同八年香川縣屬昭和十二年任地方警視德島縣警務課長長野縣警務課長兼警防課長ヲ經テ現職ニ就ク住名古屋市東區西二葉町三七電東八六五〇

飯塚　主計　正八　都市計畫地方委員會事務官兼內務理事官　國土局計畫課勤務

靜岡縣人明治卅七年十二月十日出生大正十一年縣立中泉農學校卒業昭和二年都市計畫靜岡地方委員會書記拜命後同縣屬ニ任ジ庶務課都市計畫課各歷勤同十二年任內務屬計畫局勤務同十五年防空研究所兼勤同十六年防空局勤務ヲ經テ同年十一月現職ニ就任ス曾ニ同十三年中華民國ヘ出張ス住杉並區中通リ一七八

飯塚　敏夫　從五勳六　判事　東京刑事地方裁判所部長

新潟縣昌和長男明治卅年十二月十三日出生大正十年東京帝大英法科卒業東京地方裁判所判事東京控訴院判事司法書記官滿洲國司法部刑事司長司法事務官司法書記官刑事局第一課長等歷任同十三年東京控訴院判事ヲ經テ同十五年二月現職ニ就ク趣味文藝美術家庭父昌和(明五)母美惠子(同十四)妻スズ子(同卅七、北海道佐々木平次郎三女)長男高宏(大十五)二男高昭(昭二)三男晴夫(同四)住澁谷區代々木富ケ谷一四三五電澁谷二五二五

飯塚　直彥　從四勳四　醫博　京都府立醫大教授同附屬醫院第二內科部長

秋田縣人彥四郎七男明治廿年五月出生同四十五年東北帝大農科大正五年京都帝大醫科各卒業東北帝大助手京都帝大醫科副手同大學講師同助教授ヲ經テ同十三年歐洲各國ニ留學歸朝後同十五年現職ニ任ゼラル同十二年醫學博士ノ學位ヲ受ク趣味文學美術家庭妻喜代(明廿六、岐阜縣間杢右衛門長女縣立中津高女卒)長男義彥(大五)長女晃(同八)四女昭(昭二)二男道彥(同五)住京都市上京區上御靈前通烏丸東入電西陣四四五六

飯沼　一省　從四勳三　神祇院副總裁兼造神宮副使

福島縣人關彌長男明治廿五年二月出生大正五年高文合格同六年東京帝大法科獨法科卒業內務屬拜命爾來靜岡縣志太郡長同縣理事官內務事務官同書記官神社局總務課長造神宮主事內務書記官兼復興事務局書記官大臣官房都市計畫課長埼玉縣知事內閣調查局調查官內閣紀元二千六百年祝典事務局長等歷任昭和十二年六月靜岡縣知事同十三年十一月廣島縣知事同十四年八月神奈川縣知事同十五年四月內務省神社局長ヲ經テ同年十一月現職ニ就ク曾ニ大正十二年歐米ニ出張ス家庭妻標子(明卅二、東京府南弘長女女子學習院卒)長男一慶(大九)長女富士子(同十一、女子學習院卒)二男一之(同十三)住淀橋區下落合二ノ八一一電落合長崎二五五三

飯本　信之　正五勳五　東京女高師教授

石川縣七三郎長男明治廿八年三月十四日出生大正十一年東京帝大地理科卒業東京女高師東京高師日大各講師歷職同十三年現職ニ就ク家庭母カノ(明二)妻敏子(同卅五、石川縣高橋善三郎五女金澤一高女卒)長男稔(大十四)長女輝子(同十二)二男彰(昭四)住中野區高根町五電中野五一六七

飯森　文彥　正五勳五　商工技師　機械局勤務

長崎縣人芳彥三男明治廿六年十二月六日出生大正十年東京帝大工科船舶工學科卒業同年特許局技手拜命同十二年同技師ニ任ジ機械部勤務昭和十一年同第二課長同十六年四月審查第二部機械第二課長ヲ經テ同年九月現職ニ就ク趣味ゴルフ家庭妻かず(明卅八、東京府竹島茂郎二女東京女高師附屬高女卒)住荏原區中延町一〇九

飯森　政彥　從五　陸軍々醫中尉　地方技師　山梨縣警察部衞生課長

長崎縣人明治卅二年一月廿七日出生大正九年長崎醫專卒業同縣防疫醫同衞生技師細菌檢查所主任歷任昭和十三年臨時召集小倉陸軍病院勤務同十五年三月召集解除同年八月任地方技師現職ニ就ク【住】甲府市日向町官舍【電】三〇四〇

庵谷　治家　從七勳六　警視廳警視　鳥居坂警察署長

京都府島太郎長男明治廿九年二月廿一日出生大正四年同府立第一中學卒業同六年京都府巡查拜命同九年警部補同十三年警視廳警部補昭和三年任同警部總監官房特高課勤務特高部特高課勤務同外事課歐米係長同十三年八月任警視中野警察署長ヲ經テ同十六年六月現職ニ就ク【趣味】寫眞釣乘馬【家族】妻カメ子（明卅二）嗣子實（大十二）二女和子（昭六）三女滿子（同十）【住】麻布區永坂町三四官舍【電】赤坂一六八二

生悅住　求馬　正五勳四　文部省社會教育局長

三重縣爲次郎長男明治卅三年四月廿六日出生大正十三年東京帝大法學部英法科卒業內務省ニ入リ栃木縣會計課長社會課長岡山縣社會課長知事官房主事內務事務官警保局圖書課勤務茨城靜岡各縣書記官警察部長歷任昭和十三年七月內務書記官土木局港灣課長同十四年一月警保局圖書課長同年九月地方局監查課長同十五年四月厚生書記官大臣官房會計課長同十六年三月佐賀縣知事ヲ經テ同十七年五月現職ニ就ク【趣味】讀書【家族】妻浪子（明卅八、兵庫縣森十司二女縣立姬路高女卒）長男滿（昭六）長女玲子（同四）二男望（同九）三男弘（同十一）【住】淀橋區十二社三〇〇【電】淀橋一九三七

生島五三郎　正五勳五　檢事　京都地方裁判所檢事

先代五三郎ノ長男明治廿九年十一月出生昭和八年家督相續前名敏治ヲ改メ襲名ス大正九年東京帝大法科佛法科卒業大阪裁判所檢事昭和十年檢事兼保護觀察所補導官神戸地方裁判所檢事兼同區裁判所檢事神戸保護觀察所長ヲ經テ同十五年十一月現職ニ就任ス【家族】母きと（明八、兵庫縣安國幸左衞門姉）妻博子（明卅六、愛知縣伊藤利彥妹）男五三治（大十四）【住】京都市左京區吉田近衞町

生島廣治郎　正五勳四　神戸商大教授　陸軍囑託

兵庫縣藤吉二男明治卅年七月出生大正十一年東京商大專攻科卒業現時前掲ノ職ニアリ著述アリ【趣味】日本藝術【家族】妻文子（明四十）長女惠子（昭九）【住】神戸市神戸區山本通四ノ一四〇ノ六【電】葺合一三七六

生田鹿之丞　正五勳五　大阪府立清水谷高等女學校長兼教諭

明治十五年一月十日松江市ニ出生同四十一年東京帝大文科卒業臼杵濱松宇和島長野武儀生野各中學秋田師範大阪外語各教諭大手前高女校長ヲ經テ現職ニ就任ス【家族】妻ツル（明廿、庄司萬太郎妹松江高女卒）長男秀（大二、京都帝大工學部卒）【住】大阪市住吉區阿倍野筋二ノ二【電】天王寺二六〇八

生田　武夫　從四勳四　廣島遞信局長

東京府士族武四郎長男明治卅三年三月出生昭和十年家督相續大正五年遞信官吏練習所行政科卒業同七年高文合格爾來爲替貯金局書記簡易保險局事務官同局契約計理支拂庶務各課長簡易保險局書記官兼遞信書記官規畫課長監督課長監理課長等歷任昭和十二年簡易保險局理事ニ任ジ同十三年一月同業務課長ヲ經テ同十六年一月現職ニ就ク曩ニ英米ニ出張ス【趣味】讀書旅行園藝【家族】妻ツル（明卅二、東京府宮地茂妹府立第三高女卒）長男武正（大十三）二男建治郎（昭二）三男勝也（昭七）【住】廣島市小町官舍【電】中三〇〇〇

池　清　從五勳四　朝鮮總督府事務官　農林局林政課長兼土地改良課長

山口縣彌三郎二男明治廿八年六月十日出生大正六年遞信官吏練習所卒業朝鮮總督府遞信局ニ奉職高文合格任貯金局管理所主計課長遞信局事務官遞信局庶務課長海員審判所理事官等歷任昭和十一年朝鮮總督府新義洲稅關長ヲ經テ同十六年三月現職ニ就ク【趣味】謠曲庭球【家族】妻ふみ子（明卅三、安田益次郎長女京城一高女卒）長男聰（大十三）二男禎三（昭三）長女良子（同十四）【住】京城府光化門通朝鮮總督府內

池內豐太郎　正五勳四　判事　五條區裁判所監督判事兼奈良地方裁判所五條支部々長

明治廿二年六月出生同四十五年關西大學法律科卒業大正六年判檢事試驗及辯護士試驗合格同八年任檢事大阪浦和各地方裁判所松本區京都奈良高松各地方裁判所檢事歷任同十五年判事ニ轉ジ大津奈良地方兼同區裁判所判事脇町區兼德島地方脇町支部判事洲本區監督兼神戸地方洲本支部々長ヲ經テ昭和十六年十二月現職ニ補セラル【趣味】運動競技見物【家族】妻イツ（明廿三、大阪府谷藤久左衞門三女）男次郎（大十二）長女ミツ子（昭三）【住】奈良縣宇智郡五條町同所內

池內　豐太　正七勳六　農林理事官　大臣官房秘書課勤務

福岡縣人舊姓石野ト稱ス明治廿四年七月十七日出生同四十四年小學校本科正教員免狀受領大正三年普通試驗合格其間小學校訓導奉職同八年福岡縣農業技手次デ同縣屬拜命知事官房勤務同十一年農商務省統計官補翌年農商務屬同十四年農林屬大臣官房秘書課勤務山林局兼務ヲ經テ昭和十三年八月營林局山林事務官ニ任ジ同十六年五月現職ニ就ク【住】麴町區三番町四官舍

池內　善雄　從四勳三　臺灣總督府法院判官　高等法院長

兵庫縣人宗太郎ノ四男明治十六年九月出生同四十三年分家ス翌年京都帝大法科卒業大正二年判事ニ任ジ爾來京都地方同區大阪地方同區各裁判所判事高松神戸各地方裁判所部長神戸高商囑託神戸區同地方各裁判所判事大阪控訴院判事大阪地方裁判所部長大審院判事臺灣總督府法院判官高等法院上告部判官臺北地方法院長等歷補昭和十七年一月現職ニ就ク【家族】妻ひさの（明廿三、兵庫縣荒木慶次郎妹）二男正次（同十二）三女洋子（同十五）三男秀雄（昭五）四女武子（同八）【住】臺北市書院町二丁目官舍【電】二〇一一

池上　謙一　從四勳三　岡山醫大助教授

岡山縣人嘉三長男明治十年十二月出生同十六年家督相續同卅三年第三高校醫學部卒業岡山長崎各醫專助教授同教授支那北京醫大教授ニ歷任現職ニ及ビ勅任官待遇タリ昭和三年獨米墺各國ニ留學ス【家族】妻房子（明廿四、岡山縣士族澤原源治二女）男晴（昭二）長女志津子（同五）【住】岡山市六番町一六【電】七九一五

池上　五郎　正四勳三　醫博　熊本醫大教授

三重縣柳莊五男明治十六年十月出生後延次郎ノ養子トナル同四十年京都帝大福岡醫大卒業現時熊本醫大教授ニシテ元附屬醫院長タリ大正十三年歐米ニ留學更ニ昭和七年歐米各國ニ出張ス【趣味】寫眞ゴルフ【家族】妻京（明廿三、東京府士族笹岡一實長女東京府立第一高女卒）男柳一（大三）女みね（明四五）女喜久（大六）【住】熊本市東子飼町【電】一七八七

池上　弘　正五勳四　鹿兒島縣師範學校長

福井縣人明治十九年八月出生同四十三年廣島高師卒業廣島師範同女子師範鹿兒島縣教育主事沖繩女子師範大分縣師範各校長ヲ經テ昭和十三年現職ニ就ク【趣味】園藝【家族】妻トヨ（明廿五、福井縣酒井甚太郎長女福井高女卒）嗣子薩馬（大六）二女幸子（同五、大分高女卒）三女洋子（同十二）四女慶子（同十四）【住】鹿兒島市武町同校內

池口　凌　正六　地方技師　福岡縣警察部建築課長　建築監督官

兵庫縣人明治卅八年十二月十日出生大正十五年第三高校卒業昭和四年京都帝大工學部建築學科卒業警視廳技手同建築技師警視廳技師建築監督官等歷任昭和十六年八月建築技師福岡縣建築課長トナリ同十七年三月地方技師ニ任ズ【住】福岡市百道官舍【電】西三二四六

池島　德英　勳八　地方事務官　福岡縣總務部振興課勤務

福岡縣人明治卅年十一月十七日出生大正三年同縣ニ勤務同九年縣屬ニ任ジ官房秘書係昭和四年兼任警部警察部高等課歷勤同七年兼任都市計畫福岡地方委員會書記兼官房審査係同十二年官房文書課長トナリ同十七年一月任地方事務官現職ニ就ク【住】福岡市春吉四十川三一二【電】福岡西三一四四

池園哲太郎　東京市下谷區長

福岡縣士族誠ノ長男明治廿一年九月出生同廿五年家督相續同四十四年立教大學文科卒業大正五年北米ニ留學同七年コロンビヤ大學文科翌年ゼネラル神學院及紐育大學文科各卒業歸朝後慶大教授次デ東京市社會教育課長淺草淀橋各區長歷任昭和十年東京市理事港灣部勤務後辭シ大日本聯合青年團及東京市聯合青年團囑託ヲ經テ豐島區長トナリ次デ現職ニ就ク著書數種アリ【趣味】旅行讀書謠曲書道【家族】妻弘代（明卅、京都府田村辨妹津田英學塾卒）男悅太郎（昭三）長女和子（大十一）二女惠子（同十三）三女光子（同十四）【住】杉並區荻窪二ノ一〇四【電】荻窪二三五六

池田　確二　從四勳四　判事　福岡地方裁判所長

佐賀縣虎一郎ノ長男明治廿年七月出生同卅五年家督相續大正三年東京帝大法科法律科卒業司法官試補拜命同五年任判事爾來東京地方兼同區浦和地方兼同區東京地方兼同區各裁判所判事東京控訴院判事千葉地方裁判所部長東京控訴院判事昭和五年東京地方裁判所部長同七年同地方裁判所豫審判事等歷補同九年遣外法官トシテ海外出張同年東京刑事地方裁判所部長同十二年大審院判事ヲ經テ同十六年五月現官ニ任ズ【家族】母ヤス（明元、佐賀縣秋山清市妹）妻儞子（同卅五、東京府矢部隆二女）嗣子睦

（昭五）住福岡市船町官舍電西七五五五

池田一男　正六　北海道廳技師　室蘭土木現業所長

靜岡縣故浦一ノ長男明治卅三年九月廿六日出生昭和二年京都帝大工學部土木工學科卒業北海道廳技手拜命同四年任同技師釧路土木事務所長ヲ經テ同十四年八月現職ニ就任ス家庭妻英子（大三、靜岡縣伊村長吉二女）長女道子（昭九）住室蘭市幸町一〇電六七一

池田寬　從四勳三　司法省刑事局長

靜岡縣士族忠一ノ三男同宏ノ弟明治廿六年五月出生大正六年東京帝大法科法律科卒業任檢事爾來東京地方兼同區各裁判所檢事司法書記官兼任行刑局勤務司法書記官專任同局勤務尋デ司法書記官兼檢事大臣官房調查課長等歷補昭和十年專任檢事大審院檢事同十五年一月東京地方裁判所檢事正ヲ經テ同十六年七月現職ニ就ク家庭妻須賀（明卅四、法博末弘嚴太郎妹府立第一高女卒）嗣子靖（昭四）二女弘子（大十三）住牛込區市谷富久町六〇電四谷四二〇三

池田清　從三勳二　海軍司政長官

鹿兒島縣士族直助長男明治十八年二月出生大正二年東京帝大獨法科卒業高文合格京都大阪各府警察部長兵庫縣內務部長內務省神社局長朝鮮總督府警務局長北海道長官大阪府知事警視總監等歷任昭和十五年一月退官同年七月錦雞間祗候被仰付同十七年一月廿日現職ニ就ク趣味讀書スポーツ家庭妻與志（明廿四、鹿兒島縣士族岡本眞一長女）住荏原區中延町一〇五一電荏原五二三九

池田清志　從六　地方警視　大阪府警察部經濟保安課長

鹿兒島縣人明治卅三年九月十五日出生昭和二年第七高校造士館同六年東京帝大法學部法律學科各卒業其間同五年高文行政司法各科合格同七年內務屬拜命衞生局勤務同十年地方警視奈良縣保安課長建築監督官翌年宮內事務官內匠寮兼官房總務課勤務臨時帝室博物館造營課兼務同十二年兼任宮內書記官官房總務課勤務同年八月應召出征同十四年一月解除同二月宮內省參事官兼同書記官地方警視兵庫縣經濟保安課長ヲ經テ同十六年八月同十五年二月現職ニ就ク住大阪市西區江ノ子島東ノ町官舍電土佐堀四四八〇

池田欽三郎　從五勳六　茨城縣書記官　經濟部長

三重縣木戶吉太郎三男明治卅七年一月廿四日出生後池田家ニ入リ昭和三年家督相續ス大正十二年第八高校卒業同十四年高文合格翌十五年東京帝大法科政治科卒業內務屬大臣官房勤務昭和三年任地方事務官青森縣商工課長同庶務課長埼玉縣社會課長神奈川縣警察部建築工場監督課長福岡縣學務課長社會教育課長大阪府勞務課長工場課長職業課長社會局事務官勞働部勞務課勤務等歷任昭和十三年四月厚生書記官衞生局指導課長同資材課長ヲ經同十四年四月休職同十五年十二月現職ニ就ク曩ニ同十一年瑞西ニ於ケル國際勞働總會ニ參列歐米各國ヲ巡視セリ家庭妻登母子（明四一、愛媛縣養父龍一長女聖心女子學院卒）長男彰宏（昭六）長女有子（同七）二女充子（同九）三女聿子（同十）四女正子（同十三）二男勝彥（同十五）住水戶市上金町官舍電七六九

池田九郎　從四勳五　檢事　岡崎區裁判所檢事兼名古屋地方裁判所岡崎支部檢事

廣島縣人明治卅五年三月出生大正五年京都帝大法科卒業辯護士トナリ同九年檢事ニ任ズ爾來札幌地方小樽岩見澤熊本直方各區裁判所竹田區裁判所檢事兼支部檢事川內區兼鹿兒島地方川內支部檢事大分地方兼同區裁判所檢事ニ歷補現職ニ就ク家庭妻アヤ（明廿九、熊本縣士族片山算長女熊本大江高女卒）長女エミ（大八）二女二三子（同十一）三女妙子住岡崎市大供甲越六ノ六官舍電一一五六

池田謙三　從四勳三　工博　東京帝大教授　第一工學部勤務

秋田縣孫一ノ長男明治四十一年東京帝大採鑛冶金科卒業小坂鑛山冶金科長東北帝大教授等經テ昭和十一年現職ニ就ク大正十一年學位ヲ受ケ曩ニ獨國留學又濠洲米國ヲ視察ス住世田谷區成城八六三電砧二一七

池田榮　正五勳四　京都帝大教授　法學部勤務

大阪府榮三郎三男明治卅四年九月廿日出生大正十四年京都帝大卒業同大學助手助教授ヲ歷任昭和十一年現職ニ就ク曩ニ歐米ニ留學ス趣味謠曲家庭妻ウノ（明卅六、大阪府古崎喜八郎妹堺高女卒）長男榮治（昭二）二男榮太郎（同六）住京都市上京區紫野上御所田町六〇電西四五四〇

池田收二　正四勳三　判事　岡山區裁判所監督判事兼岡山地方裁判所判事

新潟縣吉一郎ノ二男明治十四年九月出生同四十年京都帝大法科卒業同年司法官試補同四十二年任判事爾來石卷區仙臺區同地方大河原區

神戶地方同區大阪區同地方堺區大阪區同地方丸龜區各裁判所判事大津地方裁判所部長等歷任廣島區裁判所監督判事ヲ經テ昭和十六年二月現職ニ就ク趣味謠曲家庭妻シカ（明廿二、廣島縣河田新六六女）嗣子博（同四三）女和歌子（大九）四男信孚（同十三）住岡山市弓之町同所內電六八九七

池田正二　正五勳五　工博　鐵道技術研究所技師　第一部長兼第一部試驗課長

滋賀縣正平ノ二男明治卅一年六月十八日出生大正十二年東北帝大工學部機械科卒業鐵道省ニ入リ同十五年任鐵道技師大臣官房研究所勤務昭和十七年三月現官ニ就ク昭和八年學位ヲ受ク趣味野球家庭父正平（明九）母まさ（同十）妻靜子（同卅九、三重縣木村雄次二女佛英和高女卒）長女タヱ子（昭二）二女弘子（同七）住杉並區馬橋三ノ三六六電中野七七二八

池田昭陽　從五　專賣局參事　長官官房管理課長

東京地方專賣局事業課長ヲ經テ昭和十五年八月宇都宮地方專賣局長トナリ同十六年七月現職ニ就ク住澁谷區代官山一〇代官山アパート

池田信吾　正五勳四　地方技師　新潟縣警察部衞生課長

新潟縣人奥松五男明治十七年六月十五日出生同四十年千葉醫學專門學校卒業同四十二年新潟縣衞生課勤務大正五年新潟縣技師同十三年地方技師ニ任ジ昭和五年現職ニ就ク趣味讀書家庭長男信夫（明四三）二男正昭（大三）三男正敏（同五）長女シヅ子（明四四、女子大家政科卒住新潟市學校町二ノ五二二四七電三〇一三

池田晉吾　從五勳六　大分縣師範學校長

山口縣竹之亟ノ長男明治卅年十一月十日同縣厚狹郡吉部村ニ出生大正十一年東京高師本科卒業昭和三年東北帝大法文學部哲學科ヲ卒業宮崎縣立女子師範教諭兼附屬小學主事石川縣師範教諭地方視學官石川縣勤務北海道旭川師範校長ヲ經昭和十七年三月現職ニ就ク趣味讀書スポーツ釣家庭妻芳野（明卅八、山口縣井上源之進長女東京共立女子職業卒）長男省吾（昭二、廳立旭川中在）長女澄子（同三）二男英正（同六）二男賢治（同十一）住大分市駄原同校內

池田居守　從五勳六　山口縣立熊毛高等女學校長

岡山縣幸七ノ長男明治十六年八月廿日出生同卅六年岡山師範卒業岡山東京各府縣小學訓導神奈川育英學校教諭一高理學部助教授海軍大學物理學助手開成東京中學東京市立工業大分縣立日田福岡縣八幡山口縣豐浦各中學教諭同縣安下庄中學校長歷任昭和十三年現職ニ就ク趣味園藝謠曲家庭妻ぎん（明廿五、滋賀縣堀田安吉三女同縣女師卒）長女敏子（大六、長府高女卒）住山口縣熊毛郡田布施町同校內

池田直（スナホ）　正六　會計檢查院檢查官　第二部第五課長

佐賀縣人昭和四年東京帝大法學部英法科卒業會計檢查院ニ入リ累進同書記官院長官房總務科長ヲ經テ同十六年十二月現職ニ就ク住大森區馬込町東一ノ一四四三電大森七二七〇

池田多助　正五勳六　兵庫縣立第一神戶中學校長

三重縣庄助長男明治十六年十一月出生大正元年京都帝大英文學科卒業山口縣德山中學校教頭關西學院專門部文學部教授大阪府立生野中學校長ヲ歷任同十二年現職ニ就任ス趣味繪畫家庭妻はる子（明卅三、兵庫縣森本宇三吉長女親和高女卒）長男信彥（大九）二男武彥（昭二）住神戶市灘區野々道四二〇電葺合一四三五

池田大助　正六　地方技師　岡山縣經濟部山林課長

廣島縣人明治卅六年二月十一日出生大正十五年東京帝大農學部林學科卒業營林署技手營林局技手兼任農林技手營林署技手兼任農林技手營林局技手歷任昭和十年任營林署技師山崎營林署長翌年營林局技師青森營林局勤務同十二年兼任種馬牧場技師同十四年青森營林局計畫部施業計畫課長同十五年五月大阪營林局計畫部施業計畫課長ヲ經テ同十六年十一月現職ニ就ク住岡山市門田操山電三〇〇三

池田錫（タマツ）　從四勳五　厚生技師　衞生局勤務　厚生科學研究所技師　衞生獸醫學部長

靜岡縣士族忠一ノ二男明治卅三年八月十八日出生大正五年東京帝大農科獸醫學科卒業傳染病研究所ニ入リ同八年大阪府技師翌九年任內務技師衞生局勤務昭和十三年任厚生技師現時前揭ノ任ニアリ曩ニ歐米各國ニ出張ロックフエーラー財團研究員ニ選拔サル又巴里開催ノ國際冷凍協會第八回總會代表タリ趣味音樂繪畫家庭妻貞子（明廿八、宮城縣大條賴義二女宮城縣立高女卒）長男允（大八）二男道（同十一）長女汎子（昭二）住澁谷區衆樂町九電澁谷一九八

池田長吉　從五勳六　皇宮警察部長

熊本縣人平吉二男明治卅年十月十五日出生大正八年家督相續同十二年高文合格翌年東京帝

大法學部英法科卒業任長野縣屬爾來地方警視同縣保安工場各課長地方事務官同縣庶務地方各課長地方警視長崎神奈川各縣特高課長地方事務官東京府學務課長青森縣書記官警察部長等歷任昭和十三年德島縣書記官警察部長ヲ經同十五年四月現職ニ就ク【趣味】將棋【家庭】妻貞（明卅八、熊本縣水上篤太郎姉同縣立第一高女卒）【住】麹町區平河門內官舍【電】宮內省私設二七〇

池田 常雄 從七 地方事務官 福島縣總務部振興課長
佐賀縣人明治卅五年五月十八日出生昭和二年東京府屬拜命同十二年社會局屬同十六年一月任地方事務官福島縣水產課長兼畜產課長社寺兵事課長兼水產課長ヲ經テ現職ニ就ク【住】福島市雨霧一ノ一【電】三四三

池田 經喜 正五勳六 鐵道局技師 大阪鐵道局電力事務所長
名古屋鐵道局技師電氣部電力課長東京鐵道局電氣部電力課長ヲ經テ昭和十三年現職ニ就ク【住】兵庫縣武庫郡瓦木瓦林【電】西宮一一二四

池田 鐵作 ● 正五勳四 理博 臺灣總督府工業研究所技師兼同專賣局技師兼同府技師 工業研究所長
新潟縣作次郎二男明治廿八年九月出生大正九年東京帝大理科化學科卒業臺灣總督府中央研究所技師ニ任ジ昭和六年同專賣局技師南門工場長ヲ經テ同十四年八月現官職ニ就ク曩ニ同二年理博ノ學位ヲ受ケ同十一年歐米各國ニ出張ス【趣味】讀書スポーツ【家庭】妻てる（明卅八、東京府松下新作長女日本女子大卒）長女圭子（昭二）二女典世（同五）三女昌世（同十）【住】臺北市幸町一四五【電】八四二五

池田 徹郎 正五勳五 緯度觀測所技師
島根縣吉三郎二男明治廿七年五月廿日出生大正十一年帝大物理科卒業【趣味】繪畫園藝【家庭】妻夏枝（明四一、北海道高谷虎藏長女北都高女卒）長男俊夫（昭六）二男正夫（同八）三男隆夫（同十一）【住】岩手縣膽澤郡水澤町官舍

池田 德治 正五勳五 內務技師 仙臺土木出張所勤務
秋田縣人大正十年東京帝大工學部土木科卒業內務省ニ入リ內務技師仙臺土木出張所勤務宮城縣北上川改修事務所青森港修築事務所等ニ歷任昭和十三年暹羅國政府應聘現時前記ノ職ニアリ【住】仙臺市北三番丁同所內

池田 俊彥 正五勳五 鹿兒島縣立第二鹿兒島中學校長
鹿兒島縣士族彥太郎長男明治十三年四月七日出生同四十年東京帝大文科史學科卒業後大學院ニ學ビ大正六年學習院講師次デ任教授寮務課長ヲ經テ現職ニ就ク曩ニ歐米ニ留學ス【趣味】銃獵釣魚【家庭】妻タキ（明廿九、鹿兒島縣越牟田喜一郎四女大分縣立高女卒）二男文夫（大八）【住】鹿兒島市上荒田町二〇七〇【電】三三八〇

池田 豐穗 從五勳六 愛知縣擧母中學校長
神奈川縣德松二男明治廿二年十一月廿八日横濱市ニ出生大正二年東京帝大卒業長野中學愛知縣第一高女各教諭歷職昭和十二年四月同縣津島高女校長ヲ經テ同十五年二月現職ニ就ク【趣味】文學【家庭】妻マサ（明廿二、神奈川縣塚田福三長女横濱高女卒）長男晃（大五、廣島高工卒）二男克（同七、名古屋市立工藝卒）長女純（同八、金城高女卒）二女通子（同十）三女倭久子（同十三）【住】愛知縣西加茂郡擧母町同校內

池田 直治 從六 地方小作官 靜岡縣
山形縣人明治卅四年六月十八日出生昭和二年北海道帝大農學部農業經濟科卒業鳥取縣小作官補農林省小作官補歷任同八年任地方農林主事京都府勤務同九年任地方小作官新潟縣勤務ヲ經テ同十三年靜岡縣ニ轉ズ【住】靜岡市大岩宮下町九八【電】二〇〇九

池田 勇人（ハヤト） 從五 大藏書記官 主稅局國稅課長
廣島縣人大正十四年京都帝大法學部法科卒業大藏省ニ入リ昭和十年大藏事務官主稅局勤務次デ稅務監督局書記官東京稅務監督局直稅課長同十四年大藏事務官兼同書記官主稅局經理課長ヲ經テ同十六年十二月現職ニ就ク【住】世田谷區松原二ノ七五七【電】松澤三六四一

池田 秀夫 從七勳八 地方事務官 山口縣土木部監理課長
山口縣人明治卅年三月十七日出生大正七年同縣巡查拜命同十四年任同縣屬爾來社寺兵事課視學課學務課營繕課兼庶務課等各歷勤昭和十四年營繕課長ヲ經テ同十六年十二月任地方事務官現職ニ就ク【住】山口市西白石【電】五三九

池田 秀吉 正五勳四 宮內事務官兼式部官 宗秩寮宗親課長
愛媛縣玉井庄藏四男明治廿六年九月九日出生池田光藏ノ養子トナル大正九年京都帝大法科政治科卒業農林省ニ入リ東京熊本各大林區署勤務同十三年帝室林野局事務官整理課長同十四年宮內省參事官兼任內匠寮監理課長ヲ經テ昭和十六年四月現職ニ就ク【趣味】園藝登山演劇スポーツ【家庭】養父光藏（明元、現戶主）養母マ

サヨ（同十、先代喜平長女）妻ヤヨ子（同廿二、山口縣末田實藏二女）二男俊二郎（同九）【住】中野區鷺宮一ノ六四【電】中野五一〇六

池田 保吉 從六 地方警視 福岡縣警察部警防課長 ●
山形縣石之助ノ男明治卅三年一月十八日出生昭和三年明大法科卒業警視廳巡查拜命同五年任警部補淺草菊屋橋署勤務同八年任警部同十一年警視廳警視京橋警察署本廳外事課保安課歷勤洲崎淀橋各警察署長同十四年五月警視廳消防司令消防部消防課長ヲ經テ同十六年六月現職ニ就ク【趣味】乘馬【家庭】妻シヅ（明卅六、栃木縣若林貞次郎二女宇都宮高女卒）長女敬子（昭四）【住】福岡市警固本道一ノ三【電】西八一一〇

池田 芳郎 從四勳三 理博 北海道帝大教授 理學部兼工學部勤務
北海道人醇四男明治廿八年九月出生昭和七年分家ス大正九年東京帝大理學部卒業九州帝大講師囑託同大學助教授北海道帝大助教授等ヲ經テ大正十四年現職ニ任ズ同十一年歐米各國ニ昭和十年滿洲及中華民國ヘ出張同二年學位ヲ受ク【趣味】繪畫香道【家庭】妻アイ（明卅一、東京府一戶金次郎長女日本女大高師部家政科卒）男恒雄（大十）女百合子（同十二）二女瑛女（同十四）二男都男（同十五）三女芳枝（昭三）【住】札幌市北十一條西三丁目【電】二八三二

池高 勳（ツトム） 正七 商工事務官 化學局勤務
廣島縣人明治四十年三月十五日出生昭和八年東京帝大法學部卒業同年北海道廳屬拜命同九年高文行政科合格同十二年貴族院屬同十三年七月特許局事務官ヲ經テ同十五年一月現職ニ就ク【住】杉並區大宮前六ノ三七九

池谷 伊助 正七 地方警視 京都府警察部警防課長
靜岡縣人明治廿九年三月廿一日出生大正十一年京都府巡查拜命爾來累進昭和五年任同府警部警務課警察部長書記室各勤務同十二年情報課長同十三年任地方警視五條署長ヲ經テ同十五年八月現職ニ就ク同十六年一月中華民國ヘ出張ス【住】京都市左京區北白川上終町官舍【電】上七六九〇

池永 光彌 從六 商工事務官 振興部勤務
和歌山縣人明治四十四年七月十九日出生昭和九年高文行政科合格翌年東京帝大法學部法律學科卒業同年特許局屬拜命同十一年同局事務官同十三年商工事務官ニ任ジ統制局勤務同十四年六月現職ニ就ク【住】荏原區小山町二八九

池ノ內 一郎 從四勳四 判事 小樽區裁判所監督兼札幌地方小樽支部々長
埼玉縣鎌輔ノ長男明治十七年二月出生昭和五年分家明治四十三年東京帝大法科英法科卒業任判事爾來宇都宮區栃木區長岡區各裁判所判事千葉地方八日市場支部判事兼同區木更津支部川越區豐原區各裁判所判事ニ歷補樺太地方裁判所部長函館區裁判所監督判事ヲ經テ昭和十四年四月現職ニ補ス【家庭】妻松枝（明廿四、埼玉縣士族青羽延妹）男隆二（大七）三男榮（同十）【住】小樽市綠町一官舍【電】小樽三九二二

池見 利夫 正六 千葉縣千葉商業學校長兼教諭
福岡縣磯野伴助男明治廿四年九月十五日出生同縣辰次郎ノ養子トナル大正六年東京高師米國マンモス大學各卒業加治木中學教諭加治木伊作各高女伊萬里商業各校長ヲ經テ昭和十二年現職ニ就ク【家庭】妻タマ（明廿六、養父辰次郎長女筑紫高女卒）長男哲太郎（大二、京大法科卒）二男西治郎（同四）【住】千葉市登戶町二ノ二ノ一八

池村 平太郎 從五勳五 和歌山縣立伊都中學校長
三重縣淺次郎長男明治廿年十二月十六日出生同四十年三重縣師範卒業同四十二年文檢博物科合格大正二年福岡柳河高女若松中學若松高女福井師範海南中學各教諭日高新宮各高女校長粉河中學校長歷任昭和八年現職ニ就ク【住】和歌山縣伊都郡高野口町大字大野四一

砂治（イサジ） **國良** 從四勳五 內務技師 東京土木出張所勤務
兵庫縣士族明治廿四年十一月廿六日出生大正八年九州帝大工學部土木工學科卒業內務省新潟土木出張所勤務同十年任內務技師爾來同所勤務東京土木出張所兼土木局勤務土木局第一技術課勤務同第二技術課勤務國土局河川課勤務ヲ經テ現職ニ就ク【住】杉並區中通三八

諫早 信夫 正七 厚生技師 生活局勤務
東京府人明治四十年十一月三日出生昭和三年第一高校同六年東京帝大工學部建築學科各卒業同大學營繕課事務取扱囑託同十二年內務技師同十三年一月厚生技師ニ任ジ大臣官房會計課勤務同十五年二月社會局勤務同十六年八月現勤務トナル【住】牛込町南榎町二八

石井 午二 從五勳六 靜岡縣立濱松第一中學校長兼教諭
靜岡縣人明治十五年五月十四日出生同四十四

年東京高師卒業群馬濱松靜岡各師範教諭靜岡縣視學富士高女志太中學各校長歷任昭和十一年七月現職ニ就ク 趣味 書畫 家庭 妻つる（明廿五、靜岡精華高女卒）長男春一（大十一）二女濱子（同五、藤枝高女卒）四女靜枝（同十四）二男富士彥（昭三）住 濱松市廣澤町五〇

石井 英一 從六 鐵道局副參事 東京鐵道局運輸部貨物課長

香川縣人昭和七年東京帝大法律科卒業札幌鐵道局副參事總務部保健課長東京鐵道局總務部文書課長同保健課長鐵道省事務官大臣官房保健課勤務運輸局勤務ヲ經テ昭和十六年十二月現職ニ就ク 住 目黑區中目黑三ノ一一七 電 大崎一二一六

石井英之助 正五勳四 農林省農政局長

東京府萬次郎ノ長男明治卅三年一月十六日出生昭和八年家督相續大正十二年東京帝大經濟學部卒業高文合格農商務屬拜命爾來營林局山林事務官農林事務官兼同書記官畜產局畜政課長馬事課長馬政局事務官競馬監督課長農林書記官農務局肥料課長歷任昭和十四年大臣官房文書課長夫デ農林事務官米穀局勤務同十六年一月食糧管理局事務官第一部長同年五月農林省蠶絲局長ヲ經テ同十七年三月現職ニ就任ス同四年歐米ニ出張ス 家庭 母とく（明四、東京府佐藤藤平長女）妻春子（同四十、東京府中井勵作長女聖心女學院卒）長男浩一郎（昭四）二男淳二郎（同七）三男隆三郎（同十一）住 芝區白金三光町四五一 電 高輪三九三二

石井 榮三 從六 內務事務官兼情報局情報官 警保局檢閱課勤務 情報局第四部第一課勤務

岡山縣人明治四十年二月十四日出生第一高校ヲ經テ昭和七年東京帝大法學部獨法科卒業在學中高等試驗行政科合格任神奈川縣屬學務部社會課內務部庶務課各勤務昭和九年任同縣警部特高課警務課各勤務同十年任內務屬警保局勤務同十一年任地方警視高知縣警察部警務課長同十二年福井縣特高課長同十四年靜岡縣特高課長同十五年四月神奈川縣警務課長ヲ經テ同十六年三月現職ニ就ク 住 橫濱市中區本牧四ノ一〇五五

石井 寬三 從四勳四 判事 神戶地方裁判所部長

東京府人明治廿年二月出生大正二年東京帝大法科政治學科同四年京都帝大法科英法科各卒業同八年任檢事同年判事ニ轉ジ神戶地方裁判所判事大阪控訴院判事大阪地方裁判所部長歷補昭和十五年二月大阪控訴院判事ヲ經テ同十六年五月現職ニ就ク 家庭 妻まき子（明廿九、三重縣水谷源七三女）男彰（大五）女百合子（同六）男爾朗（同八）住 西宮市今津水波町一六二一

石井菊次郎 正二勳一 子爵 樞密顧問官

千葉縣大和久龜太郎弟慶應二年三月十日出生先代邦猷ノ養子トナリ明治廿六年家督相續同廿三年東京帝大法科英法科卒業同年外交官試驗合格公使館三等書記官公使館二等書記官同一等書記官外務書記官領事公使館書記官通商局長外務次官駐佛駐米各特命全權大使外務大臣等歷任其間貴族院議員ニ勅選セラレ昭和四年樞密顧問官被仰付曩ニ國際聯盟總會帝國代表世界經濟會議帝國全權委員トシテ出席ス 家庭 妻タマ（明十四、東京府士族樫村正五女）嗣子太郎（同卅九）二男建次（同四二）住 澁谷區靑葉町一五 電 靑山四五〇

石井 淸重 正七 警視廳警視 荏原警察署長

山梨縣人明治卅一年一月廿二日出生大正十年警視廳巡查拜命同十三年普文試驗合格內務屬警視廳警視昭和十二年任警視代々木署長同十四年堀留署長ヲ經同十六年六月現職ニ就ク 家庭 妻さとゑ（明卅五）長男淸久（大十四）二男淸信（昭三）住 荏原區中延町一〇六官舍 電 荏原三九三三

石井 淸彥 正五勳四 地質調查所技師兼興亞院技師 地質調查所第二部長兼興亞院技術部勤務

愛知縣人明治廿六年九月廿六日出生大正七年東京帝大理學部卒業同八年農商務技手同十年同技師同十四年商工技師ニ歷任地質調查所勤務ヲ經テ昭和十五年十月現職ニ就ク 住 豐島區高田本町二ノ一五一八

石井 謹爾 從四勳四 檢事 松山地方裁判所檢事正

千葉縣人喜一ノ二男明治廿四年一月出生大正五年東京帝大法科卒業司法官試補拜命任檢事德島地方裁判所檢事臺灣總督府法院檢察官臺北地方法院檢察官檢事兼保護觀察所輔導官水戶地方裁判所東京控訴院各檢事ニ歷任昭和十三年少年審判官東京少年審判所長夫デ檢事廣島控訴院檢事ヲ經テ同十六年五月現職ニ任ズ 家庭 母うめ（明四、千葉縣小川次郎右衞門二女）妻ヤヱ（同卅二、大阪府西田忠一妹）長男喜藏（大十三）長女恒子（同十四）二男哲（昭七）住 松山市新玉町官舍 電 二二三七

石井 鐵樹 正五勳四 北海道廳部長 土木部長

東京府敎吉二男錄彌ノ弟明治卅一年八月出生大正十三年分家同十年高文合格翌年東京帝大法學部英法科卒業遞信書記兼遞信屬爾來遞信局事務官地方海員審判所審判官社會局事務官內務事務官地方事務官社會局事務官國際勞働機關帝國事務所事務官岡山神奈川各縣書記官學務部長等歷任同十二年七月兵庫縣書記官經濟部長同十三年四月厚生書記官職業部監理課長同十四年九月保險院書記官總務局企畫課長同十五年七月廣島縣書記官總務部長ヲ經同十七年六月現職ニ就任ス曩ニ大正十四年歐米各國ニ出張ス 趣味 ゴルフ圍碁將棋 家庭 妻萬龜子（明卅七、東京府水野錄太郎二女女子學習院卒）長男鐵一（大十三）二男正樹（昭五）三男俊樹（同六）住 札幌市北大通西五丁目官舍 電 八三

石井 國次 從三勳二 宮中顧問官

茨城縣士族則休二男明治七年十一月出生同卅二年東京高師文科同卅四年同校研究科各卒業學習院敎授初等科長昭和十一年辭シ宮中顧問官ニ任ゼラル 今上陛下明治四十一年學習院初等科ニ御降學遊バサル、ヤ六ケ年間主管ヲ命ゼラレ夫デ東宮御學問所御用掛兼務被仰付大正九年及十年歐米各國ニ出張ス 住 澁谷區代々木西原町九九四 電 四谷三七八〇

石井 桂 從五勳五 內務技師 防空局勤務

埼玉縣人好太郎長男明治卅一年八月廿一日同縣北足立郡原市町出生大正十二年東京帝大工學部建築學科卒業同年警視廳保安部建築工場建築各課ニ歷勤建築課長ヲ經テ昭和十四年九月內務技師計畫局勤務ヲ經テ現職ニ就ク 趣味 寫眞 家庭 妻千代（明卅八、埼玉縣飯野喜四郎三女）外四男二女 住 浦和市岸町三ノ一一六 電 浦和二九四八

石井 桂一 從七 都市計畫地方委員會事務官兼地方事務官 廣島縣土木部經理課長兼都市計畫課勤務

廣島縣人明治卅四年六月一日出生同四十三年普文合格大正三年廣島市同五年宇佐郡各書記同十五年同縣屬拜命地方課庶務課各勤務昭和六年縣稅主事庶務課同十六年稅務課歷勤後縣財務主事同十六年八月任都市計畫地方委員會事務官兼地方事務官現職ニ就ク 住 廣島縣宇佐郡中原村七九

石井 幸一 從六 商工事務官兼物價局事務官 鑛產局大臣官房文書課兼務

東京府人明治四十年七月五日出生昭和八年東京帝大法學部英法科卒業同年高文司法科合格翌年司法官試補拜命同十年任判事名古屋地方同區裁判所勤務同十四年十二月物價局事務官同十六年十二月現職ニ就ク 住 江戶川區小岩町八ノ一三六九

石井 權三 正五勳五 臺灣總督府臺北第二師範學校長

佐賀縣坂本權六三男明治廿年二月一日出生石井恭ノ養子トナル大正四年廣島高師卒業中學臺灣總督府師範同附屬公學校主事臺南第二臺北第二各高女校長歷任同府視學官文敎局勤務ヲ經テ同十六年八月現職ニ任ズ 家庭 妻スミ子（佐賀縣宮崎源次長女奈良女高師卒）長男忠肇（大八、臺南一中卒）二女幸子 女淑子（大十五）五女泰（昭五）六女節子（同九）住 臺北市下內浦同校內

石井佐賀憲 從五勳五 樺太廳技師 內務部營繕課長

岡山縣人明治廿六年一月十七日岡山縣ニ出生大正九年東京高等工業學校卒業任遞信技手昭和四年樺太廳技師同十一年現職ニ就ク 家庭 妻みつ（明廿八、東京裁縫女學校卒）長男靖丸（大六、東大卒）住 豐原市東二條南七丁目 電 二〇八七

石井 定 正五勳五 航空研究所技師

兵庫縣平六ノ三男明治廿三年出生大正五年早稻田大學理工科卒業日立製作所試驗研究部員早稻田大學敎授等ヲ經テ同十年現職ニ就ク 趣味 運動旅行スポーツ 家庭 妻シヅ（明卅三、淀克巳二女明石女子師範卒）嗣子浩（昭九）二女澄子（大十四）三女保子（昭二）四女信子（同七）住 東京府北多摩郡武藏野町吉祥寺一九〇一

石井鹿之助 正五 官幣中社白峯宮々司

廣島縣千別二男明治十四年八月十二日出生東京帝大支那哲學科卒業神宮皇學館敎授ヲ經テ昭和六年現職ニ就ク 家庭 妻久（東京府佐藤顧一女神田高女卒）長女道子（大十一）住 京都市左京區鹿ケ谷御所之段町六

石井 茂樹 正五勳六 興亞院書記官兼大藏書記官 華中連絡部在勤 中華民國駐劄

東京府淳二郎長男明治卅四年三月廿三日出生大正十三年東京帝大法學部卒業大藏省ニ入リ米國紐育駐在財務書記拜命司稅官川崎浦和各稅務署長大藏事務官外國爲替管理部勤務爲替局第二管理課長等歷任昭和十三年大藏書記官

ニ任ジ爲替局送金課長ヲ經テ同十六年一月中華民國駐在被仰付趣味音樂運動家庭妻米子（明四十、小野英二郎二女）長男陽一（昭五）二男茂雄（同八）長女千惠子（同十二）二女淳子（同十四）住麴町區九段二ノ三電九段二三二八

石井　秀平　從七　貿易局事務官
大阪府人大正四年五月十二日出生昭和十四年東京帝大法學部法律學科卒業翌年高文行政科合格同年十一月貿易局事務官ニ任ゼラル住本鄕區追分一七花月莊電小石川二〇六七

石井省一郎　從六　地方農林技師　宮城縣經濟部水產課長
靜岡縣人明治卅二年十二月一日出生大正十二年水產講習所養殖科卒業岐阜縣水產試驗場勤務爾來宮城島根群馬各縣水產試驗場及商工課水產課各歷勤昭和七年任地方農林技師群馬縣勤務同十三年愛知縣勤務ヲ經テ同十六年七月現職ニ就ク住仙臺市澱橋通五官舍電四一四四

石井　進　正六　獸疫調查所技師兼馬政局技師
東京府人明治卅四年十一月十三日出生昭和三年家督相續同二年東京帝大農學部獸醫科卒業獸疫調查所囑託ヲ經テ同九年任獸疫調查所技師同十六年十一月馬政局技師兼任被命曩ニ同十年佛獨英三ケ國ニ留學被命國際獸醫會議ニ列席翌十一年歸朝ス家庭妻フミ（明卅八、青森縣士族土屋寬長女實踐女學高等女學部卒）長男靖（昭八）二男充（同十一）長女洋子（同五）二女朗子（同六）住世田谷區松原町三ノ八〇五

石井　忠純　從四勳三　東京外國語學校長
秋田縣士族忠良長男明治十九年五月十九日出生大正十年家督相續同四十四年東京帝大文科獨文科卒業爾來萬朝報學藝部記者第四高校東京高校各敎授文部省督學官山形高校長等歷任昭和十一年文部省圖書局長ヲ經同十三年現職ニ就ク曩ニ獨英墺各國ニ留學ス趣味讀書登山家庭妻タカ（明廿七、秋田縣靑木竹治長女）住牛込區矢來町一〇電牛込六六五〇

石井　龍猪　正五勳四　臺灣總督府殖產局長
佐賀縣加藤十四郎四男明治卅年九月出生先代力三郎ノ養子トナリ同四十年家督相續大正十年東京帝大法學部政治科卒業同年高文合格爾來臺灣總督府州理事官同事務官歷任其間高雄州勸業課長臺中州敎育課長臺北州地方課長臺南州警務部長警務局衞生課長臺南州內務部長內務局地方課長兼地理課長海外出張後內務局勤務臺北市尹等歷職昭和十四年臺南州知事同十五年總督府內務局長ヲ經テ同十六年五月現職ニ就ク家庭妻喬子（明卅三、東京府村松一造三女）男民郎（大十五）長女陽子（昭三）二女朗子（同六）二男和郎（同九）三女靖子（同十二）住臺北市文武町二ノ二官舍電二〇四〇

石井　勗（ツトム）　正五勳五　東京帝大書記官　庶務課長
愛知縣椎尾玄順二男明治卅一年二月出生大正十年石井菊次郎ノ養子トナリ昭和六年家督相續大正十一年東京帝大法學部卒業姬路高校敎授東京帝大學生主事敎學局敎學官企畫課長歷任昭和十四年興亞院調查官華北連絡部在勤同十六年九州帝大學生主事學生課長ヲ經テ同十七年四月現職ニ就ク家庭養母ひで（明八）妻皆子（同卅五、先代菊次郎養子愛知縣水野種太郎長女）長男菊郎（大十一）二男榮郎（昭十）住本鄕區本富士町同大學內

石井　時彥　從五勳六　農林技師　毛皮獸養殖所長
神奈川縣士族明治廿九年十二月一日出生大正十一年東京帝大農學部農學科卒業同十五年任陸軍輜重兵少尉昭和三年農林技手同五年兼任畜產試驗場技師ヲ經テ同十二年農林技師ニ任ジ毛皮獸養殖所長ヲ命ゼラル住岩手縣岩手郡瀧澤村毛皮獸養殖所官舍

石井　平雄　從四勳四　判事　京都地方裁判所部長
大阪府白石儀七四男明治卅三年五月出生大正十二年石井家ノ養子トナル同六年東京帝大獨法科卒業同七年司法官試補爾來大阪和歌山高知各地方大阪區同地方大阪控訴院各判事大阪地方裁判所部長歷補大阪控訴院判事ヲ經昭和十五年十二月現職ニ就ク家庭妻斐子（明卅六、大阪府石井鐵太郎女）長女惠美子（大十一）二男次郎（同十四）三男三郎（昭三）四男眞四郎（同六）住京都市中京區丸太町富小路西同所內

石井　政一　正五勳四　神祇院總務局長兼造神宮理事
奈良縣庄太郎長男明治卅一年二月出生大正十一年高文合格翌年東京帝大法科法律科卒業京都府屬拜命爾來地方警視長崎縣大阪府各警察部勤務地方事務官愛知縣勤務內務事務官警保局勤務兼鐵道省事務官岡山縣警察部長內務書記官土木局港灣課長同道路課長大臣官房文書課長歷任昭和十五年四月內務書記官兼造神宮主事兼外務事務官神社局總務課長ヲ經同年十一月現職ニ就ク同九年歐米各國ニ出張ス家庭父庄太郎（明七）母チカ（同十一）妻壽子（同

卅四、京都府谷口甲太郎長女）長男徹（昭五）長女千鶴子（大十五）二女玲子（昭九）三女濟子（同十）住中野區新井町四五六電中野二八〇四

石井　通則　正六　文部書記官　體育局訓練課長
福岡縣椛島駒次ノ二男明治四十年二月出生後佐賀縣石井家ニ入リ家督相續ス昭和四年東京帝大法學部法律學科卒業文部事務官地方事務官長野縣社會敎育課長企畫院事務官同調查官同書記官等歷任同十六年一月現職ニ就ク趣味園藝運動家庭妻幸明（明四五）男忠則（昭六）二男正則（同十三）住牛込區新小川町二ノ一〇江戶川アパート電牛込一八〇一

石井　茂助　從五勳五　東京工大事務官　總務部長兼復興部長　工業調查部長　建築材料研究所事務官
福島縣茂一四男明治卅年十二月廿三日出生福島農業卒業文部省勤務昭和四年現官ニ就ク趣味讀書家庭妻鶴江（明卅三、熊本縣三池長次郎二女福岡高女卒）嗣子正晃（昭七）長女多穗子（大十五）二女千穗子（同十五）住目黑區大岡山三〇電荏原六九六九

石井　康　正五勳四　大使館參事官　タイ國在勤
東京府忠利長男大正九年東京帝大法科獨法科卒業外務省ニ入リ累進亞米利加局第一課長昭和十四年大臣官房會計課長同十五年九月總領事桑港在勤同年十二月情報局情報官兼外務書記官情報局第三部長ヲ經テ同十六年十一月現職ニ就ク曩ニ比律賓群島ニ出張同十五年中華民國ニ出張ス家庭妻幸子（明四二、東京府士族石塚英藏三女双葉高女卒）住澁谷區松濤町二〇電青山二二〇一

石射猪太郎　正四勳二　特命全權大使　ブラジル國駐劄
福島縣文五郎長男明治廿年二月出生同四十五年東亞同文書院商務科卒業滿鐵ニ入リ大正二年高文同四年外交官及領事館試驗ニ各合格大使館三等書記官同二等書記官外務書記官大使館一等書記官總領事歷任其間米國墨國在勤通商局第三課長英國吉林上海各在勤等歷職昭和十一年七月特命全權公使暹羅國駐劄同十二年五月外務省東亞局長同十三年十一月特命全權大使和蘭國駐劄ヲ經テ同十五年九月現職ニ就ク趣味ゴルフ將棋家庭妻モト（明廿五、福島縣松浦勇妹）嗣子周藏（大四、慶大卒）三男虎三郎（同十五）二女禮子（昭三）住在ブラジル國日本大使館內　瀧野川區西ケ原町五六五電駒込七三七（留守宅）

石尾　正文　從四勳五　藥博　東京衞生試驗所技師
東京府士族正亨長男明治卅一年十月出生昭和四年家督相續大正三年東京帝大醫科藥學科卒業衞生試驗所技手ニ任ジ同六年衞生技師ニ進ミ同十二年歐米各國ヲ視察現時東京衞生試驗所勤務タリ家庭妻ツギ（明卅、東京府印牧順作三女）嗣子正道（大七）三男三郎（同十二）住麻布區西町一八電三田五〇〇四

石岡　總郎　從五勳六　專賣局技師　鹿兒島地方專賣局鑑定部長
東京府人大正十一年北海道帝大農學部卒業大藏省ニ入リ專賣局技師郡山地方專賣局鑑定課長坂出東京各地方專賣局鑑定課長ヲ經テ現職ニ就ク住鹿兒島市榮町同局內

石岡　實　正七　興亞院事務官　政務部勤務
東京府人明治四十三年一月六日出生昭和九年高文行政科合格翌年東京帝大法學部法律學科卒業同年警視廳警部補拜命保安部保安課保安係兼興行係勤務同十一年警視廳屬兼同警部次デ同十二年地方事務官ニ任ジ新潟縣庶務課長兼人事課長健康保險課長兼工場課長地方課長同十四年地方警視秋田縣特高課長ヲ經テ同十五年現職ニ就ク住荏原區中延町一〇三三

石垣　純二　從七　厚生技師　人口局勤務
兵庫縣人昭和十二年東京帝大醫學部卒業厚生省ニ入リ現時前記ノ任ニ在リ住杉並區關根町九六關根會館內

石神甲子郎　正六　厚生技師　人口局勤務
靜岡縣人明治卅三年四月一日出生大正十年第一高校同十四年東京帝大農學部農學科第一部各卒業明治神宮造營局技手同外苑管理署技手昭和十年任都市計畫地方委員會技師兼地方技師都市計畫愛知神奈川各地方委員會勤務ヲ經同十三年十二月任厚生技師體力局勤務トナリ後現勤務トナル住神奈川縣逗子町逗子四九二

石川　岩吉　正四勳二功七　東宮傳育官　皇后宮職勤務兼高松宮御用掛
廣島縣士族完治二男明治八年二月出生同卅一年家督相續國學院及和佛法律學校各卒業後國學院大學主事兼講師皇子傅育官宮內事務官高松宮附別當歷任昭和五年高松宮兩殿下ニ隨從歐米各國ヲ歷遊同十一年五月現職ニ就ク趣味讀書家庭妻サワ（明十六、廣島縣士族三田村良夫三女）嗣子照彥（同四〇、明大卒）二男久雄（同四二、東京農大卒）三男誠（大四、慶大經濟

學部卒）女すみ子（同十二）四男勉（同八）【住】赤坂離宮内官舍【電】離宮内私設二七五

石川榮耀　正五勳五　都市計畫東京地方委員會技師
東京府士族錄次郎ノ長男明治廿六年九月七日出生大正七年東京帝大工學部土木工學科卒業内務省ニ入リ現時前記ノ職ニ在リ【家庭】妻清（明卅五、東京府梶原景清長女双葉高女卒）長男允（大三、武藏高校卒）二男中（同十四）長女恭子（昭三）二女倫子（同五）三女圭子（同八）四女玲子（同十）【住】豐島區椎名町一ノ一八八三【電】落合長崎二八五〇

石川實　正七　社會事業主事　群馬縣學務部社會課長
栃木縣人明治卅六年一月四日同縣下都賀郡静和村ニ出生東京帝大文學部社會學科卒業昭和十一年七月任社會事業主事現時群馬縣學務部社會課長タリ【住】前橋市石川町一一【電】三〇九六

石川橘彌（キツヤ）　北海道苫小牧警察署長
岩手縣故市太郎ノ三男明治卅二年十二月十九日同縣和賀郡澤内村ニ出生大正十年北海道巡査拜命昭和二年任同警部補同四年警察講習所卒業同十年同警部ニ任官同十二年警察部特高課檢閲係長同十三年同總務係長ヲ經テ同十五年六月現職ニ就任ス【家庭】妻節子（明卅四、北海道淺見爲三郎二女仙臺高女卒）長男當正（昭五）長女幸子（大十三、苫小牧高女卒）二男純（昭十一）【住】北海道苫小牧町表町一八【電】六

石川興二　從四勳三　經濟博　京都帝大教授　經濟學部勤務
京都府人大正六年京都帝大經濟史科卒業昭和五年學位ヲ受ク曩ニ經濟學部長タリ【住】京都市左京區吉田神樂岡町三【電】上七三七〇

石川定儀　正五勳四　臺灣總督府交通局理事　鐵道部長
秋田縣士族龍助長男明治廿八年三月廿四日出生大正九年北海道帝大農科同十一年東京帝大法科政治科各卒業翌年高文合格臺灣總督府屬同州理事官臺北州七星郡守臺北市助役新竹臺中各州地方課長州事務官新竹州警務部長府事務官警務局理蕃課長州事務官臺北州警務部長兼港務部長昭和十一年府事務官内務局土木課長ヲ經同十五年現職ニ就ク【趣味】大弓乘馬園藝【家庭】妻護子（明卅七、福井縣三村三平長女）女榮子（大十四）【住】臺北市幸町一三五【電】二一三三四

石川準吉　從五勳六　食糧管理局書記官　第二部外地課長
秋田縣爲治ノ五男明治卅一年十一月出生昭和二年東北帝大法科卒業農林省ニ入リ水產局漁政課勤務營林局事務官大阪營林局庶務課長東京營林局庶務部長農林書記官水產局水產課長農林事務官兼同書記官米穀局外地課長等歷任昭和十六年一月現職ニ就ク【趣味】運動【家庭】妻富喜子（明四〇、廣島縣伊藤池藏長女廣島高女卒）嗣子和申（大十四）長女眞智子（昭四）二女訓子（同八）三女宮子（同十一）【住】杉並區永福町三四二【電】松澤三五二九

石川肇吉　正七　企畫院調査官
兵庫縣人明治四十一年三月十四日出生昭和七年東京帝大文科哲學科卒業同十年高文合格翌年内閣調査局屬拜命次デ企畫院屬企畫院事務官内政部勤務同十三年三月地方事務官富山縣勤務埼玉縣地方課長同商工課長奈良縣地方課長兼振興課長ヲ經テ同十六年十月現職ニ就ク【住】荏原區中延三ノ四六三藤平方

石川正一　正七　埼玉縣川口高女校長
埼玉縣人明治廿七年十一月十日出生大正四年同縣師範本科第一部卒業爾來同縣入間郡東鑒高等小學校訓導東雲實業補習訓導同縣師範訓導同教諭兼訓導兼任同校舍監同縣視學同縣屬兼視學免兼官總務部會計課長等歷任昭和十二年四月任地方事務官同十六年四月現職ニ轉ズ【住】川口市青木町同校内

石川晶　從五　農博　東京帝大教授　農學部勤務
愛知縣士族昌平長男明治廿六年六月出生昭和五年家督相續大正六年東京帝大農科水產科卒業同大學講師次デ昭和二年米國ニ留學歸朝後助教授ヲ經テ同十一年現職ニ就ク同五年學位ヲ受ク【趣味】旅行釣魚【家庭】妻益子（明卅五、愛知縣福田卯助妹愛知淑德高女卒）男純昌（昭七）【住】目黑區駒場町七八一【電】澁谷九〇二

石川仁一郎　醫博　東京市技師　大塚病院長
栃木縣喜惣次長男明治廿年二月出生同四十四年熊本醫大卒業後東京帝大醫學部ニテ研究大正五年米國ニ留學ス歸朝後再ビ東京帝大醫學部ニ研究昭和二年東京市技師拜命衞生試驗所ニ勤務同四年現職ニ就ク大正十三年學位ヲ受ク【家庭】妻もと子（明廿三、河村彥藏二女跡見女學卒）長女道子（大十二）二女利子（同十五）三女芳枝（昭四）四女智惠子（同六）五女喜美子（同十二）【住】世田谷區世田谷三ノ三三【電】世田谷四三六一

石川清一　從四勳五　理博　東京文理大助教授
靜岡縣末吉長男明治廿二年一月出生昭和二年家督相續大正三年東京高師卒業臺灣總督府國語學校教授兼同教諭同府編修書記臺灣總督府研究所技手第七高校教授東京高師教授等ヲ經昭和七年現職ニ任ズ同四年歐米各國ニ出張同五年學位ヲ受ク【家庭】妻たま（明廿九、靜岡縣加藤鐵三郎長女）長男浩一（大四）女春子（同九）三女千枝子（昭三）四女逸子（同八）【住】淀橋區西落合一ノ二八〇【電】落合長崎三一六七

石川忠　正六　宮内事務官　主馬寮庶務課長兼自動車課長
宮内省參事官ヲ經テ昭和十六年四月現職ニ就ク【住】中野區江古田町四ノ一四七八【電】中野五一〇八

石川富國郎　從四勳四　判事　福島區裁判所監督判事
宮城縣人明治十六年十月出生同四十五年日本大學法科卒業ス【家庭】妻芳（明廿七）養子信（大十二）【住】福島市御山道下一

石川富夫　從四勳三　醫博　千葉醫大教授
東京府公一長男明治廿二年七月二日千葉市ニ出生大正四年東京帝大醫科卒業後千葉醫大助教授ヲ經テ昭和十年同教授ニ任ズ【家庭】妻淑子（明卅四、京都府田島錦治長女京都府立第一高女卒）女一枝（大十）二女朝（同十一）男龍太（同十三）二男晉次（昭四）【住】千葉市榮町一五【電】一三三一

石川房吉　正五勳五　地方技師　福岡縣經濟部耕地課長
福岡縣人明治廿七年二月十五日出生大正七年東京帝大農科農學科卒業同年靜岡縣技手拜命次デ滋賀縣技師同縣農業技師滋賀鳥取各縣產業技師同十四年任地方農林技師佐賀熊本岐阜各縣農林技師ヲ經テ昭和十六年四月任地方技師現職ニ就任ス【住】福岡市西新町大西八〇一ノ一【電】福岡西一五〇七

石川總雄　從四勳三　理博　東北帝大教授　理學部勤務　理化學研究所研究員
京都府宗三郎二男明治卅二年十二月出生同卅四年家督相續大正三年京都帝大理科純正化學科卒業第五高校教授理化學研究所研究員補同研究員大正十三年現職ニ就ク昭和二年學位ヲ受ク同六年櫻井化學賞ヲ受ク【趣味】文學ノ鑑賞【家庭】妻セツ（明廿七、京都府淺井玄吉長女京都府立第一高女卒）長男明（大七）長女房子（同十一）二女るり子（同十三）二男和雄（昭二）三男敏雄（同四）三女むつ子（同六）【住】仙臺市米袋上丁一〇【電】三九二四

石川政吉　從四勳三　工博　東京帝大教授
栃木縣多助三男明治卅一年七月出生後分家ス大正十一年東京帝大工學部機械科卒業航空研究所囑託同技師昭和六年東京工大教授ヲ經テ同十七年四月現職ニ就ク同三年學位ヲ受ケ三ケ年歐米各國ニ在留ス【趣味】運動【家庭】妻桂（明卅八、栃木縣菅谷幸一郎三女府立第三高女卒）男洋一（昭三）長女恒子（大十三）二女久子（同十四）【住】世田谷區玉川等々力二ノ四二八【電】田園調布三九二五

石川光春　從四勳五　第一高校教授
東京府光時長男明治十七年九月十四日出生同四十三年東京帝大理科植物科卒業同四十四年米國コーネル大學助手拜命更ニ東京帝大大學院ニ學ビ大正六年現職ニ就ク同十五年歐米各國ニ遊學ス【趣味】讀書旅行【家庭】妻よね（明廿九、三重縣下石精一妹同縣立津高女卒）長男哲也（大十）二男鴻兒（同十三）【住】豐島區千早町二ノ二二

石川實　從五勳五　大使館一等書記官兼總領事　滿洲國新京在勤
領事ヲ經テ昭和十五年一月廈門總領事トナリ同十七年三月現職ニ就ク【住】滿洲國新京日本大使館内

石川穎彥　正五勳四　朝鮮光州師範學校長
香川縣人幸治ノ長男明治十九年六月出生同四十三年東京高師英語科卒業宮崎師範佐原中學壹岐中學鹿兒島第二中學宇和島中學京城第一公立中學各校教諭釜山高女金州高等普通慶北高等普通各校長歷任昭和十五年三月現職ニ就ク【趣味】讀書水泳【家庭】妻美津（明廿二、大川熊治二女宮崎高女卒）男宏（同四四、京城法專及滿洲國大同學院各卒）男悠紀男（大四、國學院大學在）男駿（同九）【住】光州府林町同校氣付

石川綾一　正七勳六　内閣印刷局技師　印刷部凹版印刷課長兼酒勾工場印刷課長
【住】王子區稻付西町二ノ一【電】赤羽二九三五

石川錦次　正五　東京府立高校教授
神奈川縣士族洋之助ノ二男明治廿六年一月出生大正六年東京帝大文科獨文科卒業爾來第六第八浦和各高校教授ヲ歷任昭和四年任公立高校教授現ニ府立高校教授タリ同六年獨墺兩國ニ出張ス【趣味】音樂【家庭】妻ゆき（大三）男達（同八）女七子（同七）【住】世田谷區代田二ノ九〇一

石川　和一　正七　商工省物價局物價事務官

神奈川縣人明治四十年十一月廿八日出生昭和五年靜岡高校ヲ經テ同八年京都帝大經濟學部卒業京都商工會議所勤務同十三年商工省ニ入リ商務局勤務ヲ經テ同十四年物價局事務官ニ任ジ現職ニ就ク住豐島區千早町一ノ三五

石倉　俊寛　從四勳三功五　海軍少將　松江市長

島根縣青戸林平ノ三男明治十三年二月出生先代益藏ノ養子トナリ昭和二年家督相續ス明治卅四年和佛法律學校ニ學ビ同年任海軍主計同卅六年海軍主計官練習所卒業爾來累進少將ニ陞ル昭和二年退官同四年松江市長トナル趣味謠曲日蓮研究宗教妻トミ(明十七、島根縣平林壽之助長女)男俊雄(同四一)同妻ミノリ(同四四)男寛治(同四五)男益隆(大三)男龍藏(同五)男保賢(同七)女登喜子(同十)六男秀武(同十二)七男孝昭(同十四)八男宏平(昭二)住松江市雜賀町五〇八電一三八

石黑　武重　從四勳三　農林次官

石川縣直三郎長男明治卅年五月十三日橫須賀市ニ出生大正九年高文行政科合格同十年東京帝大法學部獨法科卒業任農商務屬爾來水產講習所教授兼農商務事務官水產局勤務教務課長兼農林事務官法令審查委員農林事務官蠶絲局勤務生糸檢查所事務官兼農林事務官神戶生糸檢查所庶務部長兼庶務部調查課長農林事務官兼農林大臣秘書官兼農林書記官專任農林書記官蠶絲局蠶絲課長農林事務官兼農林書記官紐育海外生糸市場調查事務所長農林書記官經濟更生部產業組合課長大臣官房文書課長外務書記官兼任農林省經濟更生部長等歷任昭和十四年四月山形縣知事同十五年八月商工省纖維局長同十六年一月貿易局長官同年十月物價局長官ヲ經テ同十七年四月現職ニ就ク家庭妻伊豫(明卅七、秋田縣中田錦吉二女夕陽丘高女卒)男重明(大十三)二男武道(昭二)住世田谷區成城町五七三電砧六七〇

石黑　立　從五勳五　社會教育主事　大阪府學務部社會教育課長

大分縣士族元一郎ノ長男明治廿年二月一日出生同四十二年廣島高師英語部卒業同校助教授兼教諭大阪府立富田林中學校長ヲ經テ昭和十一年三月現職ニ就ク趣味登山スキー謠曲寫眞家庭妻セツ(明卅四、大分縣生野直長女大阪府女子師範卒)長男光生(大十二)長女百合(同十五)二男剛(昭七)住大阪市住吉區阿倍野筋二丁目官舍電戒二三八〇

石黑　義隆　從七　地方事務官　愛知縣經濟部商工課勤務

愛知縣人舊姓大西ト稱ス明治卅二年十二月廿六日出生大正九年普通試驗合格愛知縣學務部學務課勤務同十一年同縣屬拜命知事官房文書係同秘書係勤務昭和五年同縣統計主事補知事官房統計調查課勤務翌年同縣屬總務部人事課知事官房秘書課勤務同十二年兼任警部警察部警務課經濟部商工課警察部保安課勤務ヲ經テ同十五年四月地方事務官ニ任ゼラル住名古屋市昭和區小櫻町五ノ一一

石坂　修一　正五勳五　判事　姬路區裁判所判事兼神戶地方裁判所姬路支部部長

富山縣豐一長男明治廿八年九月出生大正八年東京帝大法學部卒業司法官試補トナリ任判事橫濱地方裁判所判事東京刑事地方裁判所部長東京控訴院判事東京刑事地方裁判所部長判事ヲ經テ昭和十六年七月現職ニ任ズ家庭父豐一(明七)妻春子(明卅五、富山縣二上兵治長女)長男誠一(大十一)二男幸二(同十四)三男昭三(昭三)四男高志(同五)住姬路市岡町同所內

石坂　仲吉　從三勳二　醫博　金澤醫大學長兼教授　結核研究所長

富山縣士族石坂專之介三男同友太郎ノ弟明治十四年八月出生先代キヨノ養子トナリ同十五年家督相續同四十年東京帝大醫科卒業金澤醫專教授ヲ經テ任金澤醫大教授昭和七年學長ニ進ム大正六年學位ヲ受ク曩ニ獨逸ニ留學ス家庭妻蝶(明廿二、山形縣長澤作彌姉)住金澤市殿町六五電八一一九

石坂　善五郎　從五勳六　商工書記官　機械局總務課長

富山縣善次郎五男明治卅七年二月出生昭和四年東京帝大法學部英法科卒業製鐵所書記商工屬特許局事務官商工事務官取引所監督官取引所制度調查會幹事歷任同八年滿洲國ニ入リ實業部事務官駐劄獨國通商代表部事務官同公使館理事官經濟部參事官兼理事官大臣官房文書課長ヲ經テ同十六年十二月現職ニ就ク住澁谷區北谷町四九

石坂　弘　從五　農林書記官　總務局總務課長兼大臣官房考查課勤務

熊本縣士族明治卅五年一月八日出生大正十一年第五高校卒業同十三年高文合格同十四年東京帝大政治學科卒業農林屬拜命爾來大阪營林局事務官農林事務官農務局勤務ヲ經テ滿洲國ニ轉出實業部理事官農務司農政科長產業部理事官農務司長興農部參事官特產局長等歷任昭和十六年五月農林事務官ニ復歸總務局企畫課長同年六月任同書記官同年十二月現職ニ就ク住杉並區西荻窪三ノ一〇二電荻窪三四七五

石坂　義男　正七　職業主事　中津國民職業指導所長

大分縣人明治廿六年二月十三日出生大正七年大分縣巡查拜命累進任警部竹田日田各署長保安課長歷職昭和十二年任地方警視大分縣中津警察署長ヲ經テ同十三年七月現職ニ就ク住中津市三ノ町同所內電七五六

石崎　卯藏　從四勳五　大阪帝大技師兼文部技師　大阪帝大營繕課長

大阪府卯之助長男明治廿六年三月出生大正十四年家督相續同八年東京帝大工科建築科卒業同九年文部技師昭和七年神戶高工教授兼文部技師ヲ經テ同十年現職ニ就ク家庭妻フジ(明廿四、大阪府河內藤太郎三女)長男幸雄(大十五)長女和子(同十)二女歌子(同十二)三女文子(昭五)二男幹夫(同八)四女正子(同十)住大阪府豐能郡中豐島町岡山

石崎　文一　從七勳七　地方事務官　茨城縣經濟部商工課長

茨城縣人明治卅四年一月廿八日出生大正九年西茨城郡書記同十三年任茨城縣屬內務部會計課勤務總務部地方課勤務歷勤昭和十四年七月任地方事務官同縣會計課長地方課長ヲ經テ現職ニ任ズ住水戶市本町五丁目電一七五二

石澤　謹太郎　從六　地方統計主事　秋田縣總務部調查課長

秋田縣士族明治廿一年十二月十八日出生同縣ニ勤務大正十年秋田縣產業主事補同十四年同統計主事補昭和八年同縣屬統計課勤務調查課勤務ヲ經テ同十一年八月現職ニ就ク住秋田市保戶野表鐵砲町五電三二二四

石澤　政男　從四勳三　醫博　九州帝大教授醫學部勤務

栃木縣人勘三郎長男明治廿七年四月出生大正七年九州帝大醫科卒業同大學助手同助教授ヲ經テ同十五年現職ニ就ク昭和二年學位ヲ受ク曩ニ歐米ニ留學ス家庭母ハル(明五)妻アイコ(同廿二、福岡縣深町青五郎長女直方高女卒)長男義之(大十)長女淳(昭三)二男靖之(同五)住福岡市西新町汐入二〇六四電西七四〇六

石澤　守雄　正七　地方事務官　秋田縣學務部教學課長兼總務部人事課長

北海道故初次郎三男明治卅九年十二月廿四日出生昭和三年水戶高校同六年東京帝大法學部獨法科各卒業先是同五年高文行政科合格同八年北海道屬巡查拜命同年警察練習所教習科卒業同十一年任警部同十三年厚生屬勞働局勞政課勤務調停官補歷任同十四年十月任地方事務官秋田縣社會課長學務課長兼社會教育課長ヲ經同十六年二月現職ニ就ク趣味圍碁スキー家庭妻千惠子(大五、岩見澤高女卒)男守文(昭十六)住秋田市龜ノ町虎ノ口新町電三〇九三

石澤　豐　正五勳四　總領事　バタヴィア在勤

奈良縣人明治廿九年七月出生大正十年高文外交科合格同十一年東京帝大法學部政治科卒業任領事官補廣東在勤爾來外交官補外務事務官情報部第二課勤務大使館三等書記官英國在勤同二等書記官外務事務官通商局第一課第三課各勤務總領事カルカッタ同バタヴィア在勤ヲ經テ昭和十二年外務書記官歐亞局第三課長ニ任ジ同十五年十月現職ニ就ク住在バタヴィア日本總領事館內

石澤　吉磨　從四勳三　奈良女高師教授

山形縣士族藤右衞門長男明治八年二月出生同卅五年家督相續同廿九年山形縣師範卒業奈良女高師助教授ヲ經同卅五年同教授ニ任ズ家庭妻ひで(明十二、山形縣玉木秀實長女)養子清雄(同廿八、長女梅夫山形縣市川鴻一弟)女梅(同卅六)養子修一(大二、二女敏子夫)女敏子(同五)住奈良市內侍原町九電一四一三

石田　伊太郎　正四勳二　判事　長野地方裁判所長

福井縣辯七長男明治十五年九月出生大正十年家督相續明治卅六年和佛法律學校卒業同卅八年判事登用試驗合格任判事爾來四日市名古屋高岡各區裁判所判事名古屋地方裁判所部長宮城控訴院部長山形福島各地方裁判所長等歷任昭和十一年九月熊本地方裁判所長ヲ經テ同十五年四月現職ニ就ク趣味謠曲家庭妻ゆる(明廿、福井縣赤尾惣兵衞長女)男一郎(大元)女久子(同四)住長野市花咲町官舍電二二〇一

石田　伊奈二郎　從四勳四　海軍豫備中佐　海務局海務官　神戶海務局船員部長

新潟縣忠作二男明治十七年七月出生同四十五年分家ス同四十三年商船學校航海丸船長トナリ爾來三井物產會社汽船々長ヲ經テ同八年任海軍豫備大尉同十二年遞信局技師兼地方海員審判所審判官ニ轉ジ昭和十六年十二月現職ニ就ク趣味登山釣魚家庭妻タマ(明十六、新潟縣丸山猪五郎二女)長男修(大十五)三女惠子(同十三)住神戶市神戶海務局內

石田　英　從五勳五　遞信局經理部長　遞信局書記官　熊本
東京府勝次郎ノ長男明治卅六年十月出生昭和二年高文合格同三年東京帝大法科法律科卒業關東廳遞信局管理課勤務後長春郵便局長大連無線電信局長大連郵便局長大連貯金管理所長簡易保險局事務官庶務課長歷任昭和十三年遞信局書記官廣島遞信局規畫課長同十四年廣島同局臨時在勤ヲ經同十五年十一月現職ニ就ク家庭長女久子(昭六)二女智子(同八)住熊本市同局內

石田　英一　從五勳五　東京美術學校教授
佐賀縣熊六長男明治九年四月十一日出生同卅三年美校卒業鎚起師トナル母校助教授ヲ經テ大正二年現職ニ就任帝展審查員タリシ事二回曩ニ佛國ニ留學ス家庭妻芳枝(明廿、東京府本田有道姉渡邊裁縫女學卒)長男榮倘(大元、慶大卒)二男倘友(同元、東京美校卒)　三男倘豐(同十一)住世田谷區駒澤新町一ノ六五

石田久太郎　地方事務官　靜岡縣學務部職業課長
新潟縣人明治四十年五月一日出生大正十四年普文合格同縣勤務昭和六年岡山縣職業紹介事務局屬同八年任同縣屬會計課庶務課各勤務同十一年社會局屬庶務課勞務課調整課各勤務同十三年厚生屬職業課勤務同十五年滿洲國へ出張同十六年業務課勤務ヲ經テ同十七年一月任地方事務官現職ニ就ク住靜岡市安東三丁目九號官舍電三九八一

石田馨次郎　從五勳六　企畫院調查官　總裁官房調查課長
大阪府庄七二男明治卅四年七月廿一日出生大正十四年東京帝大土木科卒業米子熊本盛岡各建設事務所勤務建設局勤務ヲ經昭和十七年五月現職就任家庭父庄七(明二)母ヌイ(同七)妻百代(同四一、千葉縣荻生錄造二女東京女子職業家政科卒)長男孝(昭九)長女弘子(同六)住淀橋區下落合二ノ七〇三電落合長崎三六九四

石田　憲次　正五勳四　文博　京都帝大教授　文學部勤務
山口縣人明治廿三年六月出生大正五年東京帝大文科英文科卒業現時前揭教授タリ曩ニ文博ノ學位ヲ受ク家庭妻房子(明卅五)長男泰(大九)長女秀子(同十、京都府立第一高女卒)二女恭子(同十三)三男博(昭十三)住京都市左京區下鴨下川原町四六

石田　省吾　正六　地方技師　熊本縣經濟部耕地課長
島根縣人春椿ノ三男明治卅六年九月四日出生大正十四年松江高校昭和三年京都帝大農學部各卒業同年任地方農林技師青森大分各縣農林技師同十年任地方技師山梨縣耕地課長同十三年五月福島縣耕地課長ヲ經テ同十六年八月現職ニ就ク趣味運動碁釣家庭妻道子(明四四、山口縣山口田穀妹同縣立萩高女卒)長男啓(昭六)長女喬子(同八)住熊本市春日町五反畑九六八電二三二二

石田[illegible]次郎　從五勳六　大藏書記官　監理局監理課長
鳥取縣加藤賢三ノ二男明治卅四年五月出生石田理七郎ノ養子トナル大正十五年東京帝大經濟學部經濟科卒業商工省ニ入リ累進貿易局事務官同書記官大阪貿易事務所長貿易局第二部輸出課長同第六課長同化學農水產課長機械金屬課長等歷任昭和十五年十月商工書記官監理局總務課長同十六年四月同商政課長ヲ經テ同年十二月大藏省ニ事務移管現職ニ就ク趣味カメラ家庭養父理七郎(明十、現戶主)養母スマ(同十七)妻壽子(同四一、滋賀縣岡崎源左衛門二女堀川高女卒)長女能高子(昭八)　二女幸代(同十)三女奈加子(同十一)住本郷區駒込曙町二一ノ八電大塚五三四三

石田千太郎　從四勳三　朝鮮總督府厚生局長
愛知縣人明治廿七年八月出生大正三年遞信官吏練習所卒業通信書記補同六年遞信屬同十年高文合格翌年朝鮮總督府道屬同理事官平安北道地方課長同府林野調查委員會事務官兼同府事務官同府道事務官江原道平安南道各警察部長等歷任昭和八年同府事務官殖產局鑛山課長同十三年八月朝鮮總督府平安南道知事ヲ經テ同十六年十一月現職ニ就ク趣味園藝テニス乘馬家庭妻キテ子(明廿八、熊本縣築地喜作長女奈良女高師卒)　男昭(昭二)女千枝子(大十一)二女千世子(同十四)二男和夫(昭四)三女千賀子(同八)四女千都子(同十四)五女千穗子　(同十五)住京城府光化門通朝鮮總督府內

石田　常英　從四勳四　朝鮮總督府技師兼同府林業試驗場技師　農林局勤務
宮城縣人明治廿三年十月出生大正六年東京帝大農科農林學科卒業爾來山形縣東京府各林業技手山口山梨各縣農林技師朝鮮總督府技師兼同水原高等農林教授歷任昭和七年同府道技師兼慶倘北道山林課長林業試驗場技師兼任同十四年五月現職ニ就ク趣味ゴルフ俳句家庭妻喜代(明卅三、東京府三谷金女三女京華高女卒)長男常彥(大十一)長女尙子(昭四)二男常威(同五)二女靜子(同七)三男常政(同十)住京城府總督府農林局氣付

石田　直雄　正五勳五　縣立青森中學校長
秋田縣伊藤理三郎四男明治廿三年九月出生同四十一年石田マツエノ養子トナリ同四十二年家督相續大正五年廣島高師國漢科卒業石川縣女子師範沖繩縣女子師範同高女愛媛縣松山高女大分縣師範各教諭別府高女校長等歷任地方視學官大分縣勤務昭和九年青森縣教育課長同十三年學務課長ヲ經テ同十五年二月現職ニ就ク家庭妻雪(明廿八、山形縣松井實妹)住青森市橋本町電一七一九

石田　[illegible]　正五勳五　司法書記官　大臣官房會計課長
福岡縣人大正九年東京帝大法科獨法科卒業任判事昭和十一年三月任內閣總理大臣秘書官次デ東京刑事地方裁判所部長東京區兼同刑事地方各判事檢事兼司法事務官ヲ經テ昭和十四年六月現職ニ就ク住小石川區竹早町一〇五電小石川一五〇一

石田文次郎　從四勳三　法博　京都帝大教授　法學部勤務
奈良縣文四郎長男明治廿五年三月出生大正十一年家督相續同六年京都帝大法科獨法科卒業任判事次デ神戶高商教授同十二年歐米各國留學歸朝後東北帝大教授ヲ經テ昭和九年京都帝大教授ニ任ズ同四年三月學位ヲ受ク曩ニ法學部長タリ家庭妻愛(明廿九、京都府大森治郎兵衞二女京都府立第一高女卒)長男直文(昭四)長女文子　(大十)二女雅子(同十五)　三女嘉子(昭二)住京都市左京區北白川追分町七七電上六七五〇

石田松太郎　正七　商工事務官　纖維局勤務
兵庫縣人大正三年一月廿五日出生昭和十二年高文行政科合格翌年東京帝大經濟學部經濟學科卒業同年商工屬拜命次デ臨時物資調整局屬特許局事務官兼臨時物資調整局事務官ヲ經テ同十四年六月商工事務官ニ任ジ總務局勤務同年十月現職ニ就ク住(應召中)

石田　[illegible]　從五　通信技師　大臣官房監察課勤務
福島縣人昭和三年東北帝大工學部電氣工學科卒業遞信省ニ入リ通信技師東京中央電話局國際交換課勤務通信局技師大阪遞信局工務課勤務興亞院技師華北連絡部勤務等ヲ經テ同十五年十月現職ニ就ク住小石川區大塚町五六若溪會館內

石田　吉男　從六　大藏事務官　大臣官房文書課勤務
長野縣人昭和七年東京帝大法學部法律科卒業專賣局勤務大藏事務官爲替局勤務ヲ經テ同十五年十二月現勤務被命住杉並區神明町一一九

石津　信[illegible]　從七勳八　地方事務官　千葉縣總務部會計課長
千葉縣人明治廿六年二月廿日出生大正七年同縣勤務同十五年縣屬ニ任ジ爾來農務課商工水產課官房統計課社寺兵事課地方課企畫課兼臨時軍需課各歷勤昭和十四年兼任警部保安課翌年商工課兼軍需課及經濟保安課各勤務ヲ經テ同十七年一月任地方事務官現職ニ就ク住千葉市千葉縣廳內

石塚　英藏　從二勳一　樞密顧問官
東京府士族先代和三郎ノ長男慶應二年七月出生明治四十四年家督相續同廿三年東京帝大法科卒業法制局參事官兼書記官臺灣總督府參事官關東州民政長官朝鮮總督府工商部長官東拓總裁等ニ歷任貴族院議員ニ勅選セラレ昭和四年臺灣總督ニ親任同六年辭ス現時樞密顧問官タリ家庭妻シノブ(明八、青森縣士族山川德治長女)長男照男(同卅九)同妻英子(同四四、海軍大將竹下勇三女聖心女學院卒)二男勇武(同四一)女和子(大三、自由學園卒)女惠子(同八、同校卒)住牛込區原町二七ノ一電牛込四一

石塚　喜作　正五勳四　判事　四日市區裁判所監督兼安濃津地方四日市支部判事
新潟縣龜三郎三男明治廿四年六月出生大正六年京都帝大法科卒業同九年檢事ニ任ジ名古屋地方奈良地方各裁判所檢事同十二年任判事金澤地方七尾區出町區御嵩區高山區各裁判所判事御嵩區監督判事等歷任昭和十六年十二月現職ニ就ク趣味園藝讀書家庭妻キセ(明廿五、新潟縣井口總太郎長女)男喜嗣(昭二)女喜子(大七、高山高女卒)女喜志子(同十、多治見高女卒)四女彰子(同十三)二男喜英(昭四)住四日市市西町同所內

石塚　揆一　正四勳二　檢事　宮城控訴院檢事長
新潟縣人判事藍澤惟熙長男明治十八年二月廿一日出生先代ミチノ養子トナリ同卅六年家督相續同四十二年東京帝大法科法律科卒業同四十五年任判事浦和地方同區各裁判所判事次デ檢事ニ轉ジ爾來東京區同地方宇都宮區同地方各裁判所檢事東京控訴院檢事下關區山口地方下關支部檢事福岡地方兼同區裁判所檢事名古屋控訴院檢事釧路函館山口廣島各地方裁判所檢事正等歷任東京控訴院檢事ヲ經テ昭和十四

年九月現官ニ任ズ家庭妻廣澄子(明廿四、新潟縣大森佐七郎三女三輪田高女卒)嗣子精一(大三)二女月江(同十三)三女ミドリ(昭五)住仙臺市片平丁大町頭官舎電一六二

石塚萬二郎　正六　地方視學官　熊本縣

鹿兒島縣人明治卅三年十月廿四日出生大正十一年第七高校造士館ヲ經テ昭和二年京都帝大理學部物理科卒業天理中學熊本縣立御船中學同高瀬高女同玉名中學各教諭歷任昭和十四年同縣立菊池高女校長ヲ經テ同十六年九月現職ニ就ク住熊本市大江町三八〇

石塚　秀二　正五勳五　鐵道局參事　東京鐵道局運輸部長

新潟縣人明治卅三年三月十日出生大正十二年高文行政科合格同十三年東京帝大法學部法律學科卒業鐵道省ニ入リ累進昭和二年任鐵道局副參事同七年兼遞信局事務官札幌遞信局名古屋鐵道局同十二年鐵道局參事大阪鐵道局運輸部庶務課長仙臺鐵道局運輸部長各歷職同十三年東京鐵道局總務部勤務同十六年一月任鐵道監察官同十七年三月現職ニ就ク住神奈川縣茅ケ崎町東海岸一ノ一四八三電三〇六

石野　伴　從五勳六　奈良縣女子師範學校長

千葉縣千代松長男明治廿九年三月廿日出生千葉縣師範大デ東京高師文科同校專攻科各卒業爾來山梨香川各縣師範教諭兼附屬小學校主事香川縣農業教授香川師範校長事務取扱香川縣立大川中學同高松高女各校長兵庫縣視學官等歷任後現職ニ就任ス趣味讀書家庭妻ふち(明卅四、日本女子大卒)長男洋(大十五)長女美子(昭二)三女玲子(同六)二男倬(同十)住奈良市法蓮町

石破　二朗　從六　北海道廳部長　拓殖部長

鳥取縣人市造ノ二男明治四十一年七月廿九日出生昭和三年高知高校同七年東京帝大法學部法律科同英法科各卒業ス其間同六年高文行政科合格同七年警視廳屬拜命爾來兼任社會局屬福岡縣屬社會課長地方警視山形縣保安警務各課長警視廳警視本所廐橋警察署長昭和十三年地方事務官宮城縣農務課長同年八月同縣教育課長兼社會教育課長等歷任同十四年一月厚生事務官失業對策部勤務職業局勤務ヲ經同十七年三月現職ニ就ク趣味庭球野球住在南方現地

石橋　卯吉　正七勳六　厚生技師　豫防局

千葉縣人明治卅六年六月十五日出生昭和四年慶應大學醫學部卒業同八年神奈川縣防疫醫警察部衛生課勤務同十二年地方技師同縣勤務ヲ經テ同十三年三月厚生技師ニ任ジ豫防局勤務今日ニ及ブ住船橋市九日市本宿二五九三

石橋　省吾　正四勳三　臺灣總督府法院檢察官　臺南地方法院檢察官長

千葉縣善三郎三男明治廿年二月出生大正四年先代つねノ跡ヲ相續ス明治四十四年東京帝大法科獨法科卒業岡崎松山富山安濃津各區同地方裁判所檢事歷任大正八年臺灣總督府法院檢察官臺中地方法院檢察官長高等法院次席檢察官臺南地方法院檢察官長昭和十年十二月臺中地方法院檢察官長ヲ經テ同十六年四月現職ニ就ク家庭妻たま(明廿、千葉縣尾形廣妹)長男富士男(同四五)二男龍雄(大五)三男勇夫(同九)住臺南市竹園町一丁目電四

石橋　勝一　正七　宇部商業學校長兼教諭

廣島縣人池田浦次郎二男明治卅年十一月十三日出生石橋家ヲ嗣グ大正十年山口高商卒業下關商業教諭ヲ經テ昭和十年現職ニ就ク家庭妻つい子(明卅二、石川縣村中みよ長女)長男浩(大十二)二女靜子(同十)三女光子(同十五)二男璧(昭三)三男進(同七)住宇部市今堀同校内

石橋　德作　正五勳四　貴族院書記官兼文部書記官　貴族院事務局速記課長

福岡縣馬吉二男明治十三年五月三日出生大正十一年分家ス明治四十一年東京帝大法科政治科卒業貴族院囑託拜命大正九年同院守衞長ニ任ジ同年高文合格昭和二年同院書記官兼任昭和十二年六月現職ニ就ク趣味謠曲劍道家庭妻美智子(明廿三、東京府袖野兼太郎三女)長男英明(大八)長女綾子(同四)二男光明(同十二)住芝區高輪臺町二八電高輪六二一

石橋禎次郎　正五勳五　判事　小倉區裁判所兼福岡地方小倉支部部長

福岡縣人次作二男明治廿四年十一月廿日出生大正六年早大英法科卒業任判事長崎福岡久留米大分熊本長崎各地方裁判所判事鹿兒島地方裁判所部長ニ歷任現職ニ就ク家庭妻トク(明卅四、小島直太五女)長男弘毅(大十二)長女恒子(同十)二女慶子(同十三)二男久陽(同十五)住小倉市米町二

石橋　智信　從四勳三　文博　東京帝大教授　文學部勤務

福岡縣人政信ノ二男明治十九年五月出生昭和八年分家ス明治四十二年東京帝大文科哲學科卒業同年渡歐伯林日本史家オスカー、ナッホッド博士助手伯林大學ニ神學科研究ライプチヒ大學文明史研究院東亞部助手同大學神學科

ニ入リ三ケ年半研究大正三年歸朝東京帝大文學部講師同助教授ヲ經テ昭和九年教授ニ任ズ大正十年學位ヲ受ク家庭妻とし(明廿八、愛知縣井本利三郎五女)男直(大五)二男裕(同十)三男說(同十二)四男晃(昭九)住杉並區神明町九二電荻窪四四八八

石橋　豐滿　從五勳六　高知縣書記官　警察部長兼任海軍司政官

福岡縣人兵次郎ノ二男明治卅一年二月十日出生同縣石橋周次郎ノ養子トナリ家督相續ス大正十五年高文ニ合格昭和三年九州帝大法文學部卒業爾來大分縣屬次デ同縣警部地方事務官同縣社會課長地方警視愛媛縣警務保安各課長德島縣地方課長兼人事課長兼知事官房主事埼玉縣學務課長兼社會課長地方課長兼人事課長兼知事官房主事警視廳警視保安部保安課長等歷任同十五年四月現職ニ就ク同十七年五月兼任海軍司政官家庭妻花子(明卅五、養父周次郎長女直方高女卒)長男美彥(大十三)二男辰彥(昭三)住高知市永國寺町官舍電四三一

石橋　雅義　正五勳四　理博　京都帝大教授　理學部勤務

千葉縣人定次郎長男明治廿九年十二月出生大正十年京都帝大理科化學科卒業同校理學部講師同十三年同助教授昭和十一年同教授ニ進ム昭和五年學位ヲ受ク同五年歐米各國ニ在留ス趣味美術音樂武道家庭父定治郎(明四)母くに(同八)妻琴子(同卅六、兵庫縣石橋五郎長女)男義弘(大十四)二男道弘(昭四)三男基弘(同八)住京都市左京區下鴨膳部町八六

石橋　松藏　正四勳三　醫博　千葉醫大教授

千葉縣人明治十六年五月出生同四十三年九州帝大醫學部卒業現時千葉醫大教授ニシテ病理學界ノ一權威タリ家庭妻ヒデ(明廿一、千葉縣石橋玄伯長女縣立千葉高女卒)養子豐彥(同卅九、東京府岸上鎌吉三男千葉醫大卒)女澄江(同四四、養子豐彥妻)住千葉市長洲町一ノ一一七電一〇一七

石橋眞之介　從六　關東局事務官　關東州廳經濟部長

島根縣吉三郎ノ長男明治卅二年六月出生松江農林東京高等蠶絲各校ヲ經テ昭和二年京都帝大經濟學部選科卒業同四年高文行政科合格京都府警部補次デ關東局警部補關東廳翻譯生兼警部同十年任關東局事務官關東州廳警察部保安課長兼衞生課長歷任同十四年長官々房秘書課長兼文書課長ヲ經テ同十五年七月現職ニ就ク住大連市臺山屯三六七電四―二一一

石畑　眞一　從四勳四　神奈川縣師範學校長

廣島縣人明治十七年一月十五日出生同四十二年東京高師卒業香川沖繩各師範太田中福井池田各師範教諭四條畷中學校長大正十四年大阪府池田師範學校長ヲ經テ昭和十四年八月現職ニ就ク家庭妻シナ(明卅、廣島高女卒)長男太郎(大十一)二女シズエ(同八、大手前高女卒)二男次郎(同十四)三男三郎(昭三)四男眞四郎(同六)五男五郎(同十四)住鎌倉市西御門八九電一五一二

石原　供三　正五勳四　林博　北海道廳技師　拓殖部造林課長

島根縣人權輔ノ三男明治廿年二月十一日出生第一高校ヲ經テ大正五年東京帝大農科林學科卒業北海道廳技手拜命同八年技師ニ任ジ林業試驗場勤務昭和七年同場長ヲ經テ同十三年現職ニ就ク趣味謠曲俳句讀書家庭妻レン(明廿四、新潟女子師範卒)長男璋一(大四、明大卒)二男敎文(同十二)三男均(同十三)四男滋(同十五)五男武(昭二)六男修(同四)住札幌市南四條西十八丁目電三〇九二

石原　亨一　正五勳五　京都府書記官　經濟部長

岡山縣康二ノ長男明治卅三年八月出生大正十二年高文合格同十三年東京帝大法科政治科卒業任北海道廳屬爾來同廳警視地方警視長野縣勤務地方事務官大阪府福岡縣各勤務警視廳事務官大分縣書記官經濟部長等歷任昭和十一年群馬縣書記官警察部長同十四年四月熊本縣書記官警察部長同十五年四月香川縣書記官總務部長ヲ經テ同十六年十一月現職ニ就ク趣味俳句家庭父康二(明十三)母浩子(同十六、岡山縣石原晴藏長女)妻ハツ(同四〇、大阪府井原外助長女)長女博子(昭二)二女紀子(同三)三女節子(同七)住京都市左京區下鴨半木町官舍電上六五六〇

石原　惣六　從五　行啓記念北海道廳立圖書館長

大分縣大藏ノ三男明治廿八年八月十五日出生後石原太市ノ養子トナル大正十一年廣島高師教育科卒業大阪市御津小學校訓導同十二年福島縣實業教員養成所同十四年熊本縣第二師範各教諭昭和三年北海道旭川師範附屬小學校主事同七年廳立旭川高女教頭同十二年廳立池田高女校長等歷任同十五年廳立苫小牧高等女學校長ヲ經テ同十七年一月現職ニ任ズ趣味讀書運動音樂謠曲家庭妻節子(明卅二、大分縣養父太市長女東京和洋女子專門卒)長男眞一(大十

一、北大醫學專門部在）長女キミ子（同十、旭川市立高女卒）二男敏（同十三、十勝農業在）三男雅彥（昭元、苫小牧中學在）四男誠（同四）【住】札幌市行啓記念北海道廳立圖書館內

石原　武夫　正六　物價局事務官　物價局第一部日用品課長　石川縣人明治四十二年一月廿日出生昭和六年高文行政科合格翌年東京帝大法學部獨法科卒業保險事務官特許局事務官歷任同十二年商工事務官兼貿易局事務官鑛山局兼大臣官房文書課勤務ヲ經テ同十六年十二月現職ニ就ク【住】小石川區駕籠町五六【電】大塚二四九七

石原　武二　從五　北海道廳經濟部長　岡山縣廉二ノ二男明治卅六年四月一日同縣吉備郡福谷村ニ出生大正十四年高文行政科合格翌年東京帝大法學部政治學科卒業爾來靜岡縣屬內務屬北海道廳警視地方警視神奈川縣勤務地方事務官埼玉新潟各縣勤務社會局事務官保險部勤務保險院事務官總務局勤務等歷任昭和十三年七月保險院書記官社會保險局國民健康保險課長同十五年六月同國民保險課長ヲ經テ同年十一月現職ニ就ク【趣味】テニス俳句【家庭】妻三起子（明四二、岐阜縣井上孝哉三女東京府立第三高女卒）長男健太郎（昭十二）長女保子（同六）二女月子（同九）三女華子（同十五）【住】札幌市北二條西七丁目官舍【電】一一八七

石原　富松　正四勳二　工博　盛岡高等工業學校長　宮城縣人米澤長吉ノ二男明治廿二年七月出生同四十二年石原家ノ養子トナル大正四年東北帝大理科化學科卒業同大學理科助教授兼工業專門部教授同大學教授歷任昭和十四年五月現職ニ任ズ曩ニ大正十三年英佛獨ニ留學同年學位ヲ受ク【家庭】妻しけ（明廿四、養父山三郎長女）【住】盛岡市仁王第一地割字本町二一九田中館茂八方【電】一五三七

石原　實次郎　正四勳三　理博　東北帝大教授　理學部勤務　金屬材料研究所員　岡山縣銀次郎三男明治廿二年一月三日出生大正二年東京帝大理科化學科卒業任東北帝大助教授同九年學位ヲ受ケ同十二年教授ニ進ム同十三年英佛獨ニ留學ス【家庭】妻トヨ（明卅五、熊本縣宗像十郎三女）男襄（昭九）女淳子（大五）二女擧子（昭三）【住】仙臺市米ケ袋中ノ坂通七【電】四一八二

石原　虎好　從五勳六　興亞院書記官　華中連絡部在勤　長野縣岩井熊藏七男明治卅四年十二月一日出生大正十三年明大法學部卒業警視廳ニ入リ警務部規畫課教養係主任爾來保安部保安課興行係長龜戶西神田本鄕各警察署長刑事部搜查第二課長警務部警衞課長歷任昭和十三年地方事務官神奈川縣地方課長兼事變課長人事課長兵庫縣地方課長ヲ經テ同十六年一月現職ニ就ク【家庭】妻靜子（明四四、東京市石原良秀長女大妻高女卒）【住】上海市北四川路一九一號興亞院華中連絡部內

石原　房雄　從五　醫博　東京市技師　衞生試驗所長　岡山縣靜義二男明治十七年三月出生同四十三年東京帝大醫科ヲ卒業後大正九年海外留學歸朝後同大學助教授ニ任ジ昭和八年任東京市技師現職ニ就ク【趣味】旅行南畫【家庭】妻雪江（明卅七、新潟縣吉田氏長女日本女子大學卒）嗣子義博（大二）二男義人（同九）【住】中野區上高田一ノ四七【電】中野七四八一

石引　一郎　正六　東京市立深川工業學校長　大正八年東京高工電機科卒業昭和十年府立電氣工業學校教頭ヲ經テ同十三年現職ニ就ク【住】世田谷區玉川等々力町三ノ八一三

石淵　壽　從七　地方事務官　香川縣經濟部農政課長　熊本縣文喜ノ長男明治卅八年三月五日出生昭和二年三重高等農林學校卒業宮城縣技手農林屬經濟更生部勤務農林主事大分縣產業組合課勤務ヲ經テ同十五年任地方事務官現職ニ就キ產業組合監查官ニ補ス【家庭】妻文子（明四二、熊本縣山口俊太郎長女同縣立熊本第一高女卒）【住】高松市九番丁【電】三二九二

石丸　敬次　從五勳六　文部書記官　普通學務局中等教育課長　福岡縣龍三ノ三男明治卅九年十月卅日同縣築上郡合河村ニ出生大正十四年日本大學法文學部政治學科卒業高文行政科合格長崎縣視學兼同縣屬社會課長昭和七年地方事務官沖繩縣社寺兵事課長兼社會課長兼商工水產課長農林課長庶務課長長野縣農商課長都市計畫地方委員會事務官兼地方事務官大阪府地方課長專任地方事務官議事課長文部事務官等歷任昭和十五年五月文部書記官普通學務局庶務課長ヲ經テ同年十月現職ニ就ク【家庭】妻英子（明四十、長崎縣森谷赤太郎二女長崎縣立高女卒）長男泰（昭四）【住】世田谷區經堂町三〇一【電】世田谷四六三七

石丸　三郎　正五勳四　理博　名古屋帝大教授　理工學部勤務　福岡縣淸藏四男明治廿八年十一月出生昭和二年分家ス大正七年東京高工卒業東北帝大助手拜命同十二年東北帝大理學部化學科卒業濱松高工講師同校教授ニ任ジ昭和二年歐米各國ニ留學歸朝後同六年東北帝大助教授金屬材料研究所員ヲ經テ同十五年三月現職ニ就ク同十年學位ヲ受ク【家庭】妻タキヨ（明卅六、福岡縣西田幸太郎長女門司高女卒）男秀幸（昭二）二男成幸（同十一）【住】名古屋市名古屋帝大工學部內

石丸　士郎　正五勳五　金澤醫大教授兼金澤醫大臨時附屬醫學專門部教授　石川縣藤田左士郎二男明治廿八年三月廿六日出生石丸龜次郎ノ養子トナル大正六年金澤醫專卒業耳鼻科解剖學各教室ニ研究昭和三年現職ニ就ク大正十四年歐米ニ留學ス【趣味】文學【家庭】妻米子（明卅二、養父龜次郎長女金澤一高女卒）【住】金澤市彥三七番丁四六【電】一九六

石村　光三　從六　企畫院調查官　熊本縣人明治卅九年十二月四日出生大正十五年第五高校ヲ經昭和三年高文合格同五年東京帝大法學部英法科卒業社會局保險部勤務神奈川縣屬社會課長地方事務官岡山縣社會課長等歷任同十三年保險院事務官兼厚生事務官社會保險局大臣官房文書課各勤務ヲ經テ同十六年十二月現職ニ就ク【趣味】散步讀書【家庭】妻薰（大三）長女貴美子（昭十二）二女智子（同十四）【住】大森區北千束六八一

石村　幸四郎　從五　工業試驗所技師　東京工業試驗所勤務　青森縣人明治卅三年四月一日出生大正十二年第二高校ヲ經テ同十五年東京帝大理學部化學科卒業商工省工業試驗所囑託拜命昭和五年工業試驗所技師ニ任ジ東京工業試驗所勤務今日ニ至ル【住】杉並區和泉町九〇

石本　征[illegible]　職業主事　高知國民職業指導所長　高知縣士族明治廿八年九月廿五日出生夙ニ縣立第四中學ニ學ビ大正七年高知市ニ入リ累進昭和八年任高知市主事同市職業紹介所長拜命同十三年現職ニ任ズ【住】高知市井口町一四一

石渡　[illegible]　從四勳三　判事　名古屋控訴院部長　千葉縣市太郎ノ三男明治十一年七月出生同卅八年東京帝大法科法律科卒業同四十一年任判事爾來長崎藤原各區長崎宮崎甲府各地方新發田村上相川龍ケ崎太田各區水戶地方橫手區兼秋田地方橫手支部々長岡崎區兼名古屋地方岡崎支部判事小濱區裁判所判事兼福井地方裁判所小濱支部判事等ヲ經テ昭和十六年九月現職ニ就任ス【家庭】妻チヨ（明廿一、栃木縣鶴見守義長女）長男健一（同四二、京大經濟學部卒）女眞千子（大二、名古屋高女卒）女三千子（同五、岡崎高女卒）女八十子（同十、小濱高女卒）【住】名古屋市東區主稅町同院內

石渡　直吉　從七勳七　地方統計主事　埼玉縣總務部統計課長　埼玉縣人故寬次郎二男明治廿五年一月五日出生大正六年同縣巡查拜命爾來累進昭和四年任警部特高課同六年縣屬官房祕書係同十年知事官房兼人事課及警務課農務課各歷勤翌年統計課長同十五年縣統計主事補統計課勤務ヲ經テ同十六年七月任地方統計主事現職ニ就ク【趣味】乘馬劍道【家庭】妻佐登美（明廿七、埼玉縣石渡幸一長女秩父實科高女卒）長男喜一（同四五）【住】浦和市高砂町縣公舍【電】一二三三

磯　永吉　正四勳三　農博　臺北帝大教授　理農學部勤務兼臺灣總督府農業試驗所附屬農場長兼臺灣總督府農業試驗所技師　廣島縣士族其三郎二男明治十九年十一月出生同四十四年東北帝大農科農學科卒業大學副手臺灣總督府農事試驗場技師同府技師中央研究所技師臺北帝大助教授等歷任昭和三年學位ヲ受ク等デ農學賞富民賞大日本農會紅白綬有功賞ヲ受ク現時前記ノ職ニ在リ曩ニ歐米支那及南洋ニ出張ス【家庭】妻たつ（明十八、北海道仁平信一母）長女愛子（大四）二女百合子（同八）【住】臺北市昭和町四六二【電】五八六七

磯　津禰　正六　軍事保護院事務官　傷痍軍人福岡職業補導所長　福岡縣人明治卅四年十二月七日出生昭和二年東京帝大文學部社會學科卒業同三年福岡縣社會事業主事補翌年社會事業主事福岡縣社會課長ヲ經テ同十七年四月現職ニ就ク【住】小倉市大字三萩野同所官舍

磯　悌三郎　從四勳三　檢事　長野地方裁判所檢事正　福岡縣人純夫三男明治十六年二月出生同四十四年東京帝大英法科卒業司法官試補拜命任檢事鹿兒島地方神戶小倉各區裁判所檢事德島岐阜各地方裁判所檢事正等ヲ經テ昭和十五年四月現職ニ就ク【家庭】妻敏子（明廿二、岡山縣太田朝司二女）長男好達（大五）長女圭子（大三）二男好邦（大十三）二女昭子（昭三）【住】長野市花咲町【電】二一〇二

磯崎　廣行　正六　朝鮮總督府事務官　厚生局社會課長

神奈川縣人昭和五年東京帝大法學部政治學科卒業高文合格朝鮮總督府ニ入リ同府事務官警務局勤務同十四年同府道事務官咸鏡南道警察部長ヲ經テ同十六年現職ニ就ク住京城府光化門通朝鮮總督府内

磯田 謙雄 從四勳五 臺灣總督府技師 内務局土木課勤務

石川縣人大正七年東京帝大工科土木科卒業臺灣總督府技師昭和十四年興亞院技師厦門連絡部在勤ヲ經テ同十七年四月現職ニ就ク住臺北市文武町臺灣總督府内務局内

磯田 四郎 正五勳六 神戸市立第三神港商業學校長

群馬縣磯田彌四郎ノ長男明治十八年二月出生大正二年京都帝大經濟學部ヲ卒業ス趣味俳句謠曲家庭妻貞子（明廿六、京都府北村浩壽二女）男進（大四、東京帝大法律科卒）男力（同七）三男修（昭二）二女昭子（同四）住神戸市須磨區東須磨北町三ノ一五電須磨二二二三

磯長 昌利 從七 特許局事務官 審査第一部勤務

鹿兒島縣人舊姓佐瀨ト稱ス明治四十四年一月十一日出生昭和十年高文行政科合格翌年東京帝大法學部卒業昭和鑛業會社ニ勤務同十五年一月商工事務官ニ任ジ機械局勤務同年十月現職ニ就ク住芝區三田小山町六電三田五六八

磯野 清 正五勳五 茨城縣師範學校長

福岡縣人佐七二男明治廿二年三月十七日出生大正五年廣島高師國漢科同九年廣島文理大德育科各卒業鹿兒島縣視學同縣立鹿兒島中學校長同縣視學官同縣女師同縣立第二高女香川縣女師同縣立坂出高女各校長奈良縣師範學校長歷勤昭和十七年三月現職ニ就任ス家庭妻好江（明廿四、田中數平長女東京女高師卒）長男輝雄（大九、鹿兒島高商在）二男新（同十一、第一高校在）三男秀夫（同十四）住水戸市舊城址同校内電四三七

磯野 直孝 從五 興亞院書記官 經濟部第三課長

東京府人明治卅九年三月出生昭和四年東京帝大法科英法科卒業遞信省ニ入リ累進遞信書記官兼外務書記官電務局勤務上海駐在日本大使館附同十四年八月遞信書記官管理局保健課長ヲ經テ同十六年一月現職ニ就ク家庭母コノ（明十八）妻篤子（大二）男直秀（昭十一）女孝子（同十三）住本鄉區駒込曙町一一電大塚二一一二

磯野 正俊 從五 税關書記官 横濱税關監視部長兼税關長官房主事

昭和十五年八月專賣局參事收納部企畫課長同十六年四月經理部會計課長ヲ經テ同十七年一月現職ニ就ク住中野區鷺ノ宮一ノ四三〇電荻窪五三四六

磯野 勇三 正六 總領事 蘭貢在勤

東京府人昭和三年東京帝大法學部政治學科卒業大使館三等書記官兼領事ヲ經テ同十六年二月現職ニ就ク住在蘭貢日本總領事館内

磯谿 [illegible] 正五勳六 保險院書記官 社會保險局庶務課長

愛知縣人醇ノ長男明治卅四年七月廿一日名古屋市ニ出生大正十三年高文行政科合格同十四年東京帝大法學部獨法科卒業内務屬爾來地方警視島根縣勤務地方事務官山梨滋賀各縣勤務長崎縣商工課長行政裁判所評定官等歷任同十二年七月大分縣書記官學務部長ヲ經テ同十四年七月現職ニ就ク家庭妻國子（明卅九）長男晶（昭六）長女陽子（同四）二男克（同十三）住澁谷區千駄ケ谷五ノ八七一電四谷五五三三

磯村 英一 東京市牛込區長

東京府人東京市ニ奉職監査局區政課主事文書課長紀元二千六百年紀念事業部總務課長昭和十四年豐島區長港灣局庶務課長ヲ經テ同十六年九月現職ニ就ク住目黑區宮崎町一五二九電荏原四八六九

磯谷 道一 從五勳六 内務技師兼興亞院技師 國土局計畫課勤務

熊本縣士族明治卅六年三月廿八日出生大正十二年第五高校理科同十五年東京帝大工學部土木科各卒業同年内務技手拜命大臣官房都市計畫課勤務昭和四年都市計畫地方委員會技師都市計畫東京地方委員會勤務翌年兼任内務技師大臣官房都市計畫課勤務ヲ經同八年專任内務技師後現職ニ就ク住杉並區高圓寺六ノ七三三

磯部 靖 正六 司法書記官 刑事局第四課長

東京府人明治四十年四月廿八日出生昭和二年第一高校卒業同四年高文合格同五年東京帝大法學部法律科卒業翌年任判事東京地方水戸地方各裁判所歷補昭和十四年任司法事務官刑事局勤務ヲ經テ同十六年現職ニ就ク住世田谷區代田町二ノ九二六

板垣 四郎 從四勳三 農博 東京帝大教授 農學部勤務

山形縣與四郎ノ三男明治十九年八月廿一日出生大正三年東京帝大農科獸醫科卒業同大學助手同十一年同助教授ニ任ジ昭和十一年十二月同教授ニ進ム趣味釣魚家庭男博（大十五）長女淑子（大十三）住世田谷區太子堂町三四二電世田谷二五〇八

板垣 政參 從三勳二 醫博 九州帝大教授 醫學部勤務

岩手縣士族政德三男明治十五年十一月出生同四十一年分家ス同四十年京都帝大醫科卒業同四十一年福岡醫大助手同四十三年同大學助教授ニ任ジ大正三年歐洲各國ニ留學同七年九州帝大教授就任同九年學位ヲ受ケ昭和六年歐米及アフリカヘ出張ス家庭妻ますゑ（明廿三、京都府大槻俊治二女京都府立第二高女卒）男博（大八）住福岡市平尾八九六電西二九八三

板倉 寬 從五勳六 鐵道技師兼鐵道教習所教官 新潟鐵道局長野工場長兼新潟鐵道教習所長野技工養成所長

靜岡縣人大正十三年東京帝大電氣科卒業大宮工場變電所主任兼第六技術掛主任新潟鐵道局工作部機械課長ヲ經昭和十五年九月現職ニ就ク住長野市南千歲町官舍電三一〇四

板倉 四郎 正七勳六 地方事務官 千葉縣學務部職業課長

千葉縣人明治廿五年十一月廿四日出生同縣屬同縣夷隅市原匝瑳各郡書記大正十五年任同縣屬内務部地方課同會計課勤務總務部庶務課勤務同會計課長經濟部水產課長歷任昭和十三年十月地方事務官ニ任ジ現時前記ノ職ニ在リ住千葉市長洲町二ノ五一官舍電一四六四

板倉 聰一 正六勳六 道路主事 東京府知事官房秘書課長兼文書課長

長野縣人明治廿年十一月一日出生同四十二年長野縣屬官房文書係大正四年同秘書係兼務同十年學務課及兼任書部歷職同十三年兵庫縣ニ轉ジ秘書係兼特高課勤務同十五年東京府屬秘書係兼土木課勤務ヲ經テ昭和四年任道路主事同府勤務現時前掲ノ職ニアリ住芝區芝公園一八ノ七官舍電芝二四六二

板橋 三郎 正五勳六 鐵道技師 建設局停車場課長

北海道人大正十二年東京帝大土木科卒業任技師仙臺鐵道局工務課改良掛長工務局計畫課勤務東京鐵道局工務部保線課長鐵道監察官大臣官房考査室勤務ヲ經昭和十七年三月現職ニ就ク住中野區文園町九電中野六七七一

到津 保夫 從五 男爵 官幣大社阿蘇神社宮司

男爵阿蘇惟紀ノ弟明治四十一年七月出生先代公煕ノ養子トナリ昭和十一年家督相續襲爵ス別格官幣社菊池神社主典ヲ經テ同年阿蘇神社宮司被仰付家庭養母貞子（明十二、子爵九鬼隆治姉京都府立第三高女卒）妻友子（同四三、養父公照二女四日市高女卒）長女由子（昭十）住熊本縣阿蘇郡宮地町

一本 喬雄 正七 地方事務官 三重縣警察部健康保險課長

山梨縣折三郎ノ長男明治卅五年一月八日出生大正十一年普通試驗合格爾來同縣北巨摩郡書記山梨縣屬昭和十年山梨縣同十三年石川縣各健康保險課長歷任同年任地方事務官大阪府泉尾健康保險出張所長ヲ經テ同十六年二月現職ニ就ク家庭妻貞子（明四十、東京府間宮鐵五郎二女新潟縣立高田高女卒）長男秀夫（昭五）長女正子（同六）二女弘子（同九）三女俊子（同十）四女久子（同十二）二男貞夫（同十六）住津市古河六三二電一四三三

一木 朗太郎 從四勳四 檢事 横濱地方裁判所檢事正

男爵喜德郎ノ長男明治廿七年二月靜岡縣ニ出生大正七年東京帝大法科獨法科卒業東京控訴院檢事東京刑事地方裁判所檢事兼東京區裁判所檢事東京區裁判所檢事專任東京刑事地方裁判所檢事等歷任昭和十六年東京控訴院檢事ヲ經現職ニ就ク家庭長男允（昭四）長女友子（同六）住横濱市中區老松町二一電長者町一三〇

一戸 隆次郎 從四勳三 第三高校教授

岩手縣人金六ノ二男明治十一年六月出生大正八年家督相續明治四十年京都帝大理工科文理學科卒業同四十五年現校教授ニ任ズ家庭妻信（明廿四、岩手縣太田孝太郎妹）男亮一（大六）女國（同一二）二男亮二（同十）二女民（同十四）住京都市左京區吉田中大路町一四

一原 進帶 遞信大臣秘書官

德島縣人明治四十一年六月廿七日出生昭和八年早大專門部政經科卒業國民新聞社改造社都新聞社等ニ歷勤昭和十六年十月現官ニ就ク住淀橋區下落合四ノ二〇八〇電大塚八〇〇五

一番ケ瀨 佳雄 正五勳四 臺灣總督府臺南州知事

佐賀縣健太郎男明治廿八年六月六日出生大正九年東京帝大法學部英法科卒業農商務屬國勢院農商務各事務官鑛山監督局書記官地方事務官大阪府工務課長拓務書記官拓務局第三課長同兼外務書記官管理局地方課長殖產局農務課長昭和十四年八月新竹州知事ヲ經テ同十五年五月現職ニ就ク趣味野球乘馬南畫家庭妻チセ子（明卅五、長崎縣草苅又次郎二女長崎高女

卒)男佳正(大十三)女康子(昭元)二男一亘(同九)住臺南市竹園町一丁目官舍電八九五八

一柳　晶俊　從五　熊本縣立商業學校長
愛知縣金治郎ノ長男明治廿年六月七日出生大正二年京都帝大文科卒業同四年三重縣立第二中學教諭同八年京都帝大法科英法科卒業爾來日本郵船社員松山高商教授ヲ經テ歐米各國出張歸朝後同校教授岡山縣笠岡新潟縣新潟各商業學校長歷職昭和十六年七月現職ニ就ク趣味讀書登山家庭妻志壽榮(明卌八、愛媛縣西村竹五郎長女善通寺高女卒)長男俊夫(大十三)三女信子(昭五)二男吉彥(同十)住熊本市同校內

市岡　謙郎　正六　陸軍司政官
岐阜縣人故鐵四郎四男明治廿六年九月十八日同縣惠那郡苗木村出生大正十二年北海道帝大農學部林學實科卒業昭和三年愛知縣屬拜命同四年高文行政科合格同年任同縣農林主事同十年再任同縣屬同十三年任地方事務官爾來會計課長秘書課長兼知事官房主事物價調整官商工第二課長兼秘書課長庶務課長兼稅務課長等歷任同十七年三月任栃木縣書記官同月現官ニ就ク趣味庭球弓家庭妻久子(明卌六、愛知縣高川虎三郎二女同縣立第一高女卒)長女薰子(昭八)住在南方現地

市川　孝一　正七勳六　海軍司政官
山梨縣初五郎三男明治廿七年六月十一日出生昭和三年警視廳警部拜命警務課勤務同十一年任警視爾來六本木駒込各署長同十四年四月澁谷署長同十六年一月麴町署長ヲ經テ同十七年六月現職ニ就ク家庭妻敏子(明卌四、東京府安田末吉長女)住在南方現地

市川　厚一　正四勳三　獸醫博　北海道帝大教授兼帶廣高等獸醫學校教授
茨城縣俊五郎ノ長男明治廿一年四月出生大正二年東北帝大農科畜産科卒業癌ノ研究ヲ積ネ同八年學位ヲ受ク同九年北海道帝大助教授ニ任ジ同十一年佛獨兩國ニ留學昭和三年英國同九年滿洲國ニ出張ス現時同大學農學部勤務タリ家庭妻朝子(明廿七、茨城縣鈴木幸一郎長女)長男龍興(大八)長女篤子(同六)二男篤信(同九)三男健寬(同十一)二女世音子(同十五)住札幌市北六條西十一丁目

市川　光信　三重縣警察部保安課長
三重縣人故熊造ノ三男明治卌四年十二月十三日同縣鈴鹿郡野登村ニ出生大正十二年三重縣巡查拜命昭和十二年同警部ニ任ジ同十六年六月現職ニ就ク家庭妻きみ子(明卌八、三重縣故櫻井三藏長女)長女ふみ子(昭六)住津市榎之下縣警住宅電一八四

市川　要四郎　正四勳三　會計檢查院第四部長
佐賀縣本章四男明治十三年七月出生大正四年分家ス明治四十二年東京帝大法科政治科卒業大正元年高文合格會計檢查院書記副檢查官兼衆議院書記官任檢查官第三部第一課長第二部第三第四各課長第一部第四課長ヲ經テ同十六年十月現職ニ就ク趣味文學家庭妻つた(明廿四、佐賀縣坂井克巳妹佐賀高女卒)長男忠男(大二)二男義雄(同四)三男秀夫(同六)女しづ(同十)住澁谷區青葉町二〇電青山五〇八

市河　三喜　正四勳二　文博　帝國學士院會員　東京帝大教授　文學部勤務　附屬圖書館長
東京府三樂四男同三緣ノ兄明治十九年二月出生大正五年分家ス同四十二年東京帝大文科言語學科卒業大正元年英米各國ニ留學同五年歸朝東京帝大助教授同九年教授ニ進ミ昭和六年歐米各國ニ出張同十五年附屬圖書館長ニ補セラル大正十二年學位ヲ受ク本邦英文學界ノ第一人者殊ニ言語學ニ於テハ最高權威タリ尚多年亘リ昆蟲ノ蒐集並ニ研究ヲナス趣味動物採集家庭妻晴子(明廿九、穗積重遠妹御茶水高女卒)男三榮(大六)女三枝子(同十一)住牛込區北山伏町二五電牛込一七〇〇

市河　彥太郎　正五勳四　特命全權公使　イラン國駐劄
靜岡縣人大正九年東京帝大法學部政治科卒業外務省ニ入リ累進文化事業部第三課長同第二課長ヲ經テ昭和十五年十二月現職ニ就ク住淀橋區諏訪町一〇二(留守宅)電牛込五一五〇

市來　吉至　從五勳六　臺灣總督府交通局參事　鐵道部庶務課長兼交通局總務課長
鹿兒島縣人大正十四年法學部政治學科卒業臺灣總督府事務官總督官房外事課勤務次デ同府交通局參事鐵道部經理課長兼庶務課長ヲ經テ昭和十四年現職ニ就ク住臺北市幸町一三五

市瀨　元吉　正五勳五　工博　工業試驗所技師　大阪工業試驗所第五部長
兵庫縣恭次郎長男明治卌一年一月七日出生大正十年東北帝大工科工藝化學科卒業同年大阪工業試驗所技手拜命同十三年技師ニ任ジ昭和十三年第五部長ニ就任兼ニ同七年學位ヲ受ク趣味旅行登山家庭母むつ(明十)妻敏(同卌九、押本重平二女京都府立第一高女卒)長女恭子

(昭七)住西宮市北昭和町五九

市田　健造　島根縣警察部健康保險課長
北海道彌三郎長男明治卅六年四月十五日出生大正十五年北海道自治講習所卒業昭和二年札幌健康保險署勤務同四年任北海道屬健康保險課勤務同十四年旭川健保出張所長ヲ經テ同十六年七月現職ニ就ク趣味碁寫眞テニス讀書家庭妻委佐子(明卌五、札幌北星高女卒)長女弘子(昭十五)住松江市外中原町一〇七電一一八八

市田　友治　正七　興亞院事務官　華北連絡部在勤
滋賀縣士族明治四十四年五月十八日出生昭和十年高文行政科合格同十二年東京帝大法學部佛法科卒業同年農林屬拜命農林局勤務翌年營林局事務官東京營林局勤務同年應召出征同十四年八月解除後農林事務官ニ任ジ經濟更生部勤務同十六年一月食品局勤務ヲ經テ同年七月現官ニ轉ズ住北京市華北連絡部內

市橋　晴次　從七　地方統計主事　新潟縣總務部統計課長
新潟縣人明治卌二年三月十七日出生大正八年縣立佐渡中學卒業同十三年內閣統計職員養成所修業農林省ニ勤務昭和二年同省統計官補同八年農林屬兼農林省統計官補大臣官房統計課勤務ヲ經テ同十三年十二月任地方統計主事宮城縣統計課長ヲ經テ同十六年現職ニ任ズ家庭妻シヅ住新潟市關屋電三〇二一

市原　豐太　正五勳六　第一高校教授
東京府卯之助長男明治卌五年六月廿二日出生大正十五年東京帝大佛文科卒業浦和高校教授ヲ經テ昭和十六年四月現職ニ就ク家庭妻高根(明卌九、東京府岡田哲藏三女御茶水高女卒)長男新(昭七)長女友子(同八)住本鄉區駒込西片町一〇にノ四〇

市原　分　正五勳五　檢事　大審院檢事
東京刑事地方裁判所檢事保護觀察所輔導官兼司法保護委員事務局保護官東京保護觀察所長昭和十六年一月東京控訴院檢事ヲ經テ同年十二月現職ニ就ク住目黑區高木町一五〇七電荏原四六九二

市村　定　正五勳四　京城高工教授
茨城縣平造五男明治廿年六月出生同四十三年東北帝大工科土木工學科卒業北海道廳土木技手朝鮮總督府技手ヲ經テ現職ニ就ク昭和六年獨英米各國ニ留學ス家庭妻孝(明廿七、茨城縣小松鶴吉長女)長女清子(大六)、二女節子(同十)四女正子(昭三)住京城府岡崎町四五

市村　清次郎　從五　靜岡縣立掛川中學校長
山形縣重太郎二男明治廿七年十二月九日山形市ニ出生大正九年東京高師同十一年同校專攻科各卒業東京府立第七中靜岡師範各教諭掛川清水各高女校長歷職現職ニ就ク趣味旅行家庭妻エイ(明卌五、山形縣石川悅之助三女山形高女卒)長女麗子(大十二)二女恒子(同十四)三女紀子(昭四)四女邦子(同七)五女雅子(同九)六女純子(同十一)住靜岡縣掛川町同校內

市村　秀志　從五勳五　朝鮮總督府視學官　學務局勤務
長野縣人大正二年廣島高師化學科卒業羅南中學校長朝鮮總督府大邱師範學校長ヲ經テ現職ニ就ク住京城府光化門通朝鮮總督府學務局內

出　隆　正五勳四　文博　東京帝大教授　文學部勤務
岡山縣士族渡部明ノ惟二男明治廿六年三月出同卌七年出生道直ノ養子トナル大正六年東京帝大文科哲學科卒業更ニ同大學院ニ學ビ同大學副手青山學院日本大學東洋大學各教授東京女子大教授東京帝大助教授歷任昭和十年現職ニ就ク同十二年學位ヲ受ク趣味將棋家庭妻幸子(明卌一、士族三浦道之姉津山高女卒)男哲史(大九)女まり子(同十一)五女みち子(同十四)三男英利(同十五)六女のり子(昭三)七女かず子(同六)住小石川區小日向臺町二ノ一五電大塚六〇七六

出石　於兎彥　正四勳四　名古屋市厚生局長
岡山縣士族猷彥三男明治廿五年八月出生大正六年東京帝大法科法律科卒業警視廳警視山口栃木神奈川各縣理事官地方事務官茨城宮城埼玉岐阜各縣書記官警察講習所教授兼內務事務官福島長野各縣總務部長歷任後退官現職ニ就ク曩ニ滿洲及關東州ニ出張ス家庭妻テイ(明卌二、新潟縣川上佐太郎長女長岡高女卒)男純彥(大十)二男豐彥(同十三)長女矩子(昭二)住名古屋市昭和區洲雲町三ノ三四電瑞穗一六〇

出島　一宏　從四勳五　鐵道技師　熊本工事事務所長
石川縣嘉十郎長男明治廿六年十一月廿六日出生大正八年東京帝大土木工學科卒業長岡岡山各建設事務所鐵道省建設局勤務米子岡山各建設事務所長昭和十四年八月岡山工事事務所長ヲ經テ後現職ニ就ク曩ニ歐米ヲ視察ス趣味將棋家庭母いよ(明三)妻和子(同卌四、石川縣塚本吉松長女金澤第一高女卒)長女宣子(大十四)二女佳子(昭三)住熊本市大江九品寺官舍

出田 正義 從五勳五 農林技師 蠶絲局勤務
長崎縣人明治廿五年四月八日出生大正三年京都高等蠶業學校本科卒業農商務技手生絲檢查所技手兼農商務技手農林技手歷任昭和四年農林技師ニ任ジ蠶絲局勤務今日ニ及ブ住横濱市鶴見區東寺尾町二〇八八

出村要三郎 正五勳五 茶業試驗場技師
茨城縣人舊姓鶴見ト稱ス明治廿八年四月三日出生大正七年盛岡高等農林學校卒業同九年茶業試驗場技手拜命同十二年同技師ニ任ジ今日ニ及ブ住靜岡縣榛原郡金谷町茶業試驗場官舍

泉 岩太 從六 林業試驗場技師
香川縣五吉ノ二男明治廿九年三月廿三日出生私立東京農大分析化學部修了後東京帝大農科ニ研究林業試驗場助手農商務省海外實業練習生トシテ北米合衆國ニ派遣ミシガン州立大學林學科及ウイスコンシン洲立大學ニ於テ林學森林利用專攻大正十一年歸朝後農林省林業試驗所囑託昭和十年技師ニ任ズ家庭妻芳江(明卅五、香川縣人倉宇平太六女香川縣立白山高女卒)長男敏明(大十二)二男修二(昭三)長女和子(同七)、住目黒區下目黒四ノ八四一

泉 守紀 正五勳五 北海道廳部長 警察部長
山梨縣人文作ノ三男明治卅一年二月二日同縣東八代郡南八代村ニ出生大正十二年東京帝大法科政治科卒業高文合格任青森縣屬爾來同縣警部地方警視大阪府難波福島各警察署長群馬縣警察部勤務北海道廳警視警察部勤務奈良栃木埼玉各縣書記官警察部長等歷任昭和十二年七月岡山縣書記官警察部長同十四年四月宮城縣書記官經濟部長ヲ經テ同十六年一月現職ニ就ク趣味盆栽家庭妻貞子(明卅八)住札幌市北三條西四丁目官舍電八七

泉 伸助 從四勳三 醫博 金澤醫大教授
茨城縣柳之助長男明治廿一年四月出生大正三年東京帝大醫科卒業同大學副手次デ東北帝大醫學部專門部教授同大學講師教授ヲ經テ大正十三年現職ニ任ズ曩ニ同大學附屬醫院長タリ同十一年歐米各國ニ留學ス同十三年學位ヲ受ク家庭父柳之助(現戸主)妻とみ(明廿八、千葉縣吉岡七郎兵衛妹)男彪之助(昭五)女多喜(大七)女絹子(同十)女敬子(昭七)女祥子(同十)住金澤市下本多町六番丁一八電三一六三

泉 亘 從五勳六 地方農林技師 青森縣農事試驗場長
青森縣正登ノ三男明治廿二年九月十日出生大正二年農事試驗場技手拜命產業技師地方農林技師歷職昭和十一年八月現職ニ就ク趣味謡曲養鷄資勳家庭妻禎(明廿九)長男將(大九)長女米子(同十三)二男二郎(昭六)住青森縣南津輕郡中郷村官舍電黒石五六

泉田 一 正七 社會教育主事 愛媛縣學務部社會教育課長
愛媛縣人半三郎ノ長男明治卅二年九月二日出生大正八年愛媛師範卒業昭和六年高文行政科同七年同司法科各合格其間小學校訓導縣立松山高女教諭歷職昭和七年愛媛縣視學兼同縣屬拜命同十年同縣社會事業主事ヲ經チ同十二年十二月現職ニ就任ズ家庭妻松子(縣立伊豫實業卒)男一郎、女翠、男一洋、男一洲、男一俠

住松山市御寶町一四〇電一一五四

和泉 茂秋 正七 商工事務官 化學局勤務
香川縣人明治四十二年十一月廿二日出生昭和十二年東京商科大學卒業先是同十一年高文行政科合格同十二年商工屬拜命次デ貿易局屬同十三年任商工事務官工務局勤務同十四年六月化學局勤務トナル住目黒區綠ケ丘三〇一一

和泉 豊治 正七 地方事務官 宮城縣總務部庶務課長兼税務課長
山梨縣人故榮三郎ノ長男明治卅二年一月十七日同縣刈田郡白石町ニ出生同縣刈田郡書記次デ宮城縣屬拜命總務部庶務課ニ勤務昭和十二年地方事務官ニ任ジ同縣會計課長兼統計課長ヲ經テ同十四年現職ニ就ク趣味讀書園藝家庭妻妙子(明卅四、宮城縣後藤幸作長女)長男清一(大七、東北興業會社員)長女百合子(同十三、宮城縣女子專門在)住仙臺市外記丁一八官舍電一三九〇

糸井 謹治 正六勳六 地方事務官 東京府學務部職業課長
京都府人勘助二男明治廿八年一月廿八日出生大正六年農業大學農藝化學科卒業同九年協調會ニ入リ同年任中央職業紹介事務局屬同事務官ニ任ジ昭和四年名古屋地方職業紹介事務局長次デ東京地方職業紹介事務局長ヲ歷任後地方事務官東京府職業課長同十三年職業之事東京職業紹介所長東京國民職業指導所長ヲ經テ同十七年二月現職ニ再任ス曩ニ同十年滿洲國及朝鮮ニ出張ス家庭妻幸子(明卅三、北海道金澤三四郎長女頌榮高女卒)住品川區北品川六ノ三七四電大崎五一一五

糸永 積 正六 機械技術員養成所技師 愛知機械技術員養成所長
大分縣人明治廿四年十一月廿日出生大正四年東京高工機械科卒業同十四年鹿兒島縣立志布志中學教諭昭和七年公立中學教諭同十三年東京府電機工業學校教諭ヲ經テ同十六年五月現職ニ就ク住名古屋市西區平手町一ノ七六電西五一一〇

糸雅 俊三 從四勳四 商工技師 機械局中央度量衡檢定所大阪支所長
埼玉縣人保太郎ノ二男明治十八年五月出生昭和二年家督相續大正二年東京帝大理科物理學科卒業同七年栃木縣立宇都宮中學教諭拜命同十年農商務技師次デ同十四年商工技師工務局中央度量衡檢定所福岡支所長ヲ經テ昭和十年七月現職ニ就ク家庭妻ひで(明廿一、埼玉縣奥貫喜市四女)女先枝(大四)女成枝(同六)女幸枝(同九)女しげる(同十二)女和枝(昭六)住大阪府豐能郡豐中島村曾根三七電豐中三六〇〇

稻生 有年 正五勳六 厚生技師 職業局勤務
廣島縣人明治卅年十一月出生大正七年東京高工機械科卒業現時前記ノ職ニ在リ家庭妻萩枝(明四十)住品川區大井出石町五〇一五電大森二四八八

稻內 清二 從四勳四 市川市長
京都府人官治郎ノ三男明治廿五年八月出生大正三年盛岡高等農林學校同九年京都帝大法科獨法科各卒業同十一年高文ニ合格和歌山縣伊都郡長地方事務官同縣東牟婁支廳長熊本香川廣島各縣勤務昭和十一年宮崎縣書記官學務部長同十三年秋田縣書記官學務部長歷任同十五年四月退官同年六月現職ニ任ズ趣味旅行家庭妻まさえ(明卅三、京都府中島うた孫京都高女卒)長女弘子(大十三)二女文子(昭十)住市川市菅野

稻垣 三郎 從三勳一功二 陸軍中將 閑院宮別當
島根縣了齋長男明治三年五月出生同卅年家督相續同廿五年任騎兵少尉大正八年陸軍中將ニ陞ル其間騎兵第一聯隊長英國大使館附武官騎兵第一旅團長國際聯盟帝國陸軍代表等歷補大正十二年豫備役被仰付昭和三年閑院宮御用掛拜命次デ現職ニ任ズ家庭妻テウ(明十一、東京府藤森吉兵衛養子)男武雄(同廿七)同妻數子(同卅七、東京府長澤光男姉)女德子(同四三、双葉高女卒)女道子(大七、同校卒)四女四郎(同十一)住澁谷區榮通二ノ四電澁谷八四四八

稻川 晃 從五勳五 專賣局技師 廣島地方專賣局鑑定部長
東京府盛久長男明治廿七年八月出生大正十一年東京帝大法科政治科卒業大藏省ニ入リ累進專賣局技師大阪仙臺熊本岡山各地方專賣局鑑定課長ヲ經テ現職ニ就ク趣味運動家庭妻初枝(明卅七、北海道池田松吉長女札幌高女卒)長男博(昭五)長女和子(同三)住廣島市皆實町廣島地方專賣局內

稻木 進 正七 地方事務官 徳島縣總務部庶務課長
福井縣人榮ノ長男明治四十三年三月廿七日出生昭和五年第四高校卒業同八年京都帝大法學部卒業同十年高文行政科試驗ニ合格其間同八年福井縣屬地方課經濟更生課勤務同十二年同縣農林主事經濟更生課勤務同十四年二月地方事務官ニ任ジ商工水產課勤務同十五年經濟部統制課長歷任同十六年九月徳島縣振興課長ヲ經テ同年現職ニ就ク趣味スポーツ園藝家庭妻とよ子(大二、福井縣間崎松長女福井高女卒)二男健(昭十三)住徳島市北山路町字北山路七電四七九八

稻田 馨 正五勳五 判事 長崎控訴院部長
茨城縣人大正十年東京帝大獨法科卒業東京控訴院判事東京刑事地方裁判所部長東京控訴院判事ヲ經テ現職ニ就ク住長崎市同控訴院内

稻田喜代治 臺灣總督府事務官 法務局民刑課長
奈良縣人明治卅四年六月廿一日出生大正十四年明大法科法律學科卒業翌年高文司法科合格昭和二年司法官試補大阪地方裁判所勤務翌年任檢事高松地方裁判所檢事局勤務ヲ經テ同十三年臺灣總督府法院檢察官ニ任ジ臺南地方法院勤務[illegible]府事務官法務局刑事課長ヲ經テ同十六年五月現職ニ就ク住臺北市文武町總督府内

稻田 靜作 從七 內閣總理大臣秘書官
福島縣人昭和十二年東京帝大法學部政治學科卒業大藏省海外駐在財務書記大藏事務官理財局勤務兼任外務事務官ヲ經テ同十六年十月現職ニ就ク住麴町區永田町二ノ一官舍

稻田 周一 正五勳四 內閣書記官兼法制局參事官 內閣官房總務課長
新潟縣法學博士周之助長男明治卅五年二月廿六日出生大正十三年高文合格同十四年東京帝大法科獨法科卒業任佐賀縣屬爾來地方事務官群馬縣社會課長拓務事務官大臣官房文書課

勤務內閣書記官總務課勤務官房會計課長等ヲ經テ昭和十二年十一月總務課長ニ任ズ曩ニ賞勳局書記官兼任家庭母キク(明十、東京府小山勝與二女)妻千鶴(同四十、岐阜縣拓植咲五郎二女實踐女學專門部卒)男浩一(昭六)長女みどり(同三)三男義也(同十)住麴町區永田町二ノ一官舍電銀座一九四〇

稻田　進　正四勳二　醫博　岡山醫大敎授

愛知縣見龍ノ四男龍吉及三之助ノ弟明治十八年二月出生大正十一年分家明治四十三年京都帝大福岡醫大卒業同校內科及醫化學敎室ニ勤務北里傳染病硏究所講師慶應醫大助敎授日本赤城十字社山口支部病院長朝鮮總督府醫官京醫專敎授ニ歷任大正十三年海外ニ留學ス趣味盆栽ハイキング家庭妻スミ(明廿五、醫博大西克知長女福岡縣立高女卒)男進五(大五)三男正美(同九)四男潔(同十一)五男實(同十三)六男豐(同十五)七男七郎(昭五)住岡山市三番町二七電五九一〇

稻田　成一　職業主事　東京中央國民指導所勤務

熊本縣人明治卅四年十二月廿八日出生大正十三年早大專門部政治科卒業東京市事務員同市書記新宿小石川各勞働紹介所所長歷職昭和十三年任職業主事芝浦勞働職業紹介所長トナリ後現職ニ就ク住杉並區荻窪二ノ二四六

稻田　清助　從五　文部書記官　普通學務局師範敎育課長

東京府周之助ノ二男明治卅七年十一月十八日出生昭和四年東京帝大法學部佛法科卒業爾來栃木縣屬內務屬衞生局勤務地方事務官鳥取縣農務課長千葉縣學務課長文部事務官大臣官房會計課勤務同十二年七月文部書記官宗敎局宗務課長ヲ經テ同十五年十月現職ニ就任ス趣味スキー家庭妻和子(明四四、富山縣牛塚虎太郎長女御茶水高女卒)住四谷區南伊賀町五電四谷五六一三

稻田　隆　從四勳三　工博　九州帝大敎授　工學部勤務

長崎縣士族山脇高成ノ二男明治廿五年十月出生同四十年稻田英次郎ノ養子トナル大正九年九州帝大工學部土木工學科卒業鐵道技手次デ九州帝大助敎授ニ任ジ歐米ニ留學歸朝後敎授ニ進ム昭和二年學位ヲ受ク家庭妻ハマ(明廿七)長男淳(大十一)長女トシ(同六)二女瑤子(同十五)二男覺(昭四)住福岡市鳥飼町三ノ一八六

稻田　基隆　正七　地方事務官　京都府學務部職業課長

大阪府人明治廿九年五月五日出生大正九年慶大文科豫科ヲ修了職業紹介事務局屬拜命大阪地方職業紹介事務局勤務昭和十一年京都府屬職業課勤務同十二年社會事業主事勤務同上同十四年同府職業課長トナリ同十七年三月地方事務官ニ任ズ住京都市中京區西ノ京大炊御門町官舍電西陣三五一一

稻田　穰　從五勳六　臺灣總督府州事務官　臺北州總務部長

茨城縣人明治卅五年十月出生大正十五年東京帝大法學部英法科卒業臺灣總督府交通局參事兼遞信書記官遞信部監理課長ヲ經テ昭和十六年十一月任同府州事務官現職ニ就ク家庭妻福子(明四二)住臺北市樺山町

稻田　龍吉　正三勳二　醫博　宮內省御用掛　東京帝大　九州帝大各名譽敎授　內閣恩給局顧問醫　帝國學士院會員

愛知縣見龍ノ二男同三之助及進ノ兄明治七年三月出生大正十一年分家明治卅三年東京帝大醫科醫學科卒業後文部省留學生被命渡獨內科學ヲ研究同卅六年京都帝大福岡醫大助敎授歸朝後同敎授大正七年東京帝大敎授ニ歷任現時宮內省御用掛ニシテ前揭諸職ヲ兼ヌ曩ニ明治四十五年學位ヲ受ケ昭和三年帝國學士院會員ニ推サル住神田區駿河臺二ノ九九電神田三五〇〇

稻塚　隈東　正四勳三　檢事　福島地方裁判所檢事正

宮城縣人毛利庄兵衞三男明治十六年五月出生同四十四年稻塚義徹ノ養子トナル同四十二年東京帝大法科獨法科卒業任檢事爾來金澤高山石卷登米青森盛岡福島仙臺弘前各裁判所檢事青森弘前松本長野各支部檢事小倉福岡支部檢事釧路佐賀各地方裁判所檢事正等歷任現職ニ就ク家庭妻コウ(明廿、養父義徹長女)住福島市眞世町一三電二二三五

稻葉　源藏　從六勳六　地方事務官　愛知縣學務部社寺課長

愛知縣人明治廿六年二月九日出生大正四年同縣巡查拜命爾來累進同十五年任警部横須賀津島瀨戶各警察署長昭和七年刑事課長及高等課長各歷職同九年任地方警視門前熱田新榮各署長ヲ經テ同十五年九月任地方事務官現職ニ就ク(昭和十七年五月十三日依願免本官)

稻葉權兵衞　正五勳六　鐵道技師　東京第一工事事務所計畫課長

福岡縣人大正十三年東京帝大工學部土木工學科卒業鐵道省ニ入リ官房研究所ニ勤務昭和十四年現職ニ就ク住澁谷區千駄谷五ノ九六七官舍電四谷七〇六〇

稻葉　讓齋　正五勳五　鐵道技師　建設局計畫課長

茨城縣人彥六ノ男明治卅二年八月出生大正十二年東京帝大土木科卒業鐵道省ニ入リ鐵道省建設局計畫課鐵道調查部勤務大臣官房幹線調查科勤務昭和十六年十月盛岡工事事務所長ヲ經テ同十七年一月現職ニ就ク家庭妻かつろ(明卅七)住麴町區丸ノ內鐵道省內

稻釜　繁　正七　大藏事務官　理財局勤務

福岡縣人大正四年一月廿六日出生昭和九年福岡高校卒業同十一年高文合格翌年東京帝大法學部政治科卒業稅務監督局屬兼大藏屬拜命昭和十四年任大藏事務官爲替局勤務同十五年興亞院調查官華中連絡部在勤兼大藏事務官ヲ經テ同十六年十二月現職ニ就ク住麴町區霞ケ關大藏省理財局外事課內

稻見　愼一　正五勳五　商工技師兼農林技師　化學局合成課長

栃木縣人紀一郎長男明治廿九年十二月十一日出生大正十年東京帝大工科應用化學科卒業農商務技手拜命同十四年同技師昭和二年商工技師工務局瓦斯事業監督同十二年燃料局技師兼商工技師兼農林技師同十三年商工技師兼農林技師工務局兼統制局勤務ヲ經テ同十四年現職ニ就ク曩ニ同六年歐米各國ニ出張ス趣味釣魚寫眞ゴルフ住中野區住吉町一〇電中野七八六八

稻本　昇　香川縣警察部經濟保安課長

香川縣人明治卅八年六月六日出生昭和二年香川縣巡查拜命累進同九年警部補同十三年任警部同十六年現職ニ就ク住高松市古馬場町三五

稻森　誠次　勳八　靜岡市長

靜岡縣馬場佐吾右衞門二男明治十五年五月十日出生稻森定吉ノ養子トナル同四十年料理業ヲ始ム曩ニ靜岡縣參事會員靜岡市會議員靜岡自動車社長巴商會靜岡トヨダ各會社取締歷職昭和十三年現職ニ就ク趣味政治家庭妻とく(明廿七、東京府松本辰藏三女日本女子商業卒)嗣子定男(大七)養子利三郎(靜岡縣齋藤勘助弟)長女ゆき子(明四一、養子利三郎妻靜岡高女卒)同長男大二(昭七)同長女滿壽枝(同九)同二男文治(同十一)住靜岡市兩替町三ノ二四電四二二三

稻森　實　正五勳四　貿易局部長　第三部長

三重縣增次郎長男明治卅二年九月出生大正十二年東京帝大法科卒業同大學院ニ學ビ高文合格專賣局書記同局副參事高崎水戶宇都宮各專賣局勤務司稅官兩國橋稅務署長歷任昭和八年大藏事務官外國爲替管理部勤務同十一年大藏書記官中華民國駐在同十三年五月爲替局輸出課長次デ同輸出第一課長同十六年六月專賣局參事長官官房總務課長同年十一月大藏書記官ヲ經同十七年四月現職ニ就ク家庭妻勇子(明卅九、東京府平井政邁三女東京女高師附屬高女卒)長女貞子(昭四)住豐島區雜司ケ谷一ノ一二電牛込五五四八

犬飼　吉備雄　從四勳四　臺灣總督府法院判官　臺中地方法院長

岡山縣嚴磨長男明治廿五年八月七日出生大正六年京都帝大法學部英法科卒業京都地方裁判所ニ勤務爾來德島京都舞鶴各裁判所判事臺灣總督府臺北同地方臺中高雄各地方法院判官高等法院判官同覆審部々長等歷任昭和十五年三月現職ニ就ク趣味旅行野球家庭妻やす子(明廿一)住臺中市利國町五ノ七官舍電五一二一

犬飼　健之助　地方事務官　熊本縣警察部健康保險課長

愛知縣重太郎長男明治卅二年九月十日出生名古屋私立育英學校中學科卒業大正十三年愛知縣更生主事補同十五年同縣屬衞生課勤務健康保險署書記昭和四年同縣屬健康保險課勤務同十年豐橋健康保險出張所勤務同十三年同所長翌年警視廳新宿健康保險出張所長同十五年石川縣健康保險課長等歷任昭和十六年十一月任地方事務官現職ニ就ク趣味讀書旅行家庭妻こと(明四二、愛知縣後藤久吉三女名古屋私立櫻花高女卒)長男英吉(昭五)長女淑子(同七)二男照夫(同十)二女倶子(同十四)住熊本市神水町一三一

犬飼　哲夫　從四勳三　農博　北海道帝大敎授　農學部兼理學部勤務

長野縣武司二男明治卅年十月出生昭和七年家督相續前名哲男ヲ改ム大正十一年北海道帝大農學部卒業同大助手同助敎授ヲ經昭和五年任敎授曩ニ再度歐米各國ニ出張ス趣味登山野球家庭母ひで(明八、長野縣武居奨佐雄二女)妻道子(同卅四、同縣河野常吉二女札幌高女卒)二女孝子(昭五)三女眞子(同七)四女智子(同十一)住札幌市北五條西十五丁目電五八八九

犬塚　搏三　從四勳三　第四高校敎授

長崎縣士族明治廿年四月出生同卅八年犬塚幾太郎ノ養子トナリ家督相續同四十五年東京帝

大法科獨法科卒業大正三年陸軍通譯拜命同十年第四高校教授ニ任ズ昭和九年文部省在外研究員被命獨逸ニ留學ス家庭妻タカ（明廿二、養父幾太郎長女長崎縣立平戸高女卒）養子泰三（大二、金澤醫大卒）住金澤市柿木畠三八

犬丸　巖　從四勳三　判事　大審院判事
舊岡山藩士石雄二男東京府士族鐵太郎ノ弟明治十六年十月出生大正三年分家明治四十二年東京帝大法科卒業司法官試補拜命任判事爾來松山東京前橋名古屋各地方裁判所判事名古屋地方裁判所部長東京控訴院判事等ニ歷補昭和三年長崎控訴院部長ヲ經テ現職ニ就ク趣味圍碁繪畫家庭妻三美（明廿六、岡山縣金谷一二妹岡山就實高女卒）嗣子直（大十二）住杉並區東田町一ノ四五電荻窪四五〇三

犬丸　秀雄　從五　文部事務官　專門學務局科學課勤務
東京府士族明治卅七年一月廿一日出生昭和三年東京帝大法學部卒業同大學院ニ研究同九年第四高校教授ニ任ジ同十五年六月現職ニ就ク住大森區久ケ原町一二一〇

犬丸　實　從六　官內書記官　大臣官房庶務課長
東京府人昭和五年東京帝大法學部英法科卒業帝室林野局ニ入リ累進監理部土地課長昭和十四年五月同會計課長ヲ經テ同十六年現職ニ就ク住品川區五反田五ノ六〇電大崎四〇六〇

戌亥　忠一　正四勳三　檢事　札幌控訴院檢事長
奈良縣千代造長男明治十四年一月出生同卅二年先代タマノ後ヲ承ケ家督相續同四十年京都帝大法科卒業同四十二年任判事大津地方同區神戸地方大阪地方同區彥根區各裁判所判事大正七年檢事ニ轉ジ大阪地方同區各裁判所檢事大阪控訴院檢事同地方裁判所檢事和歌山安濃津神戸京都各地方裁判所檢事正ヲ經テ昭和十六年八月現職ニ就ク曩ニ大正十五年歐米各國ニ出張ス趣味俳句遠足家庭妻セイ（明十七、奈良縣野坂善一郎三女）住札幌市南二條西十四丁目官舍電二二九〇

乾　伊太郎　正五勳五　石川縣書記官　學務部長
大阪府人明治卅年五月廿二日出生大正十年高文合格同十一年東京帝大法學部卒業爾來秋田縣屬兼警部地方警視秋田縣保安課長同警務課長地方事務官山梨縣農商課長社寺兵事課長北海道廳事務官長官々房文書課長兼統計課長土地整理課長工場課長兼建築監督官群馬縣社會課長教育課長地方課長兼更生課長岐阜縣學務課長兼社會課長地方課長兼統計課長等歷任昭和十二年七月香川縣學務部長同十四年一月佐賀縣學務部長ヲ經テ同十七年一月現職ニ轉ズ住金澤市下本多町六番丁三〇官舍電一一九

乾　武　正五勳五　鹿兒島縣書記官　經濟部長
香川縣士族富太郎ノ長男明治廿八年八月四日出生大正十二年京都帝大經濟學部卒業高文ニ合格爾來關東廳屬同警視同事務官次デ地方警視栃木茨城各縣勤務地方事務官茨城福島各縣勤務等歷任昭和十一年四月奈良縣書記官經濟部長ヲ經テ同十四年四月現職ニ就ク趣味讀書謠曲將棋ハイキング家庭妻しづ（明卅七、香川縣藤山榮太郎長女）長男輝夫（昭三、縣立第一中在）長女芳子（大十五、縣立第二高女在）住鹿兒島市上荒田町二〇七〇官舍電一七三一

乾　光秀　高知縣警察部刑事課長
高知縣人丑太郎長男明治卅二年十一月十四日出生大正十三年高知縣巡查拜命昭和十二年同縣警部任官爾來宿毛佐川各警察署長ヲ經テ同十六年一月現職ニ就ク家庭妻好美（明卅五）男愛喜（大十四）男康夫（昭五）長秀夫（同十）男健二（同十六）住高知市大膳樣町八四縣公舍

茨木清次郎　正三勳二　竹田宮別當
石川縣士族操二男明治九年八月出生同四十年家督相續同卅二年東京帝大文科英文學科卒業爾來第四高校教授文部省視學官兼圖書審查官同省督學官東京音樂東京外語松本高校東京女高師各校長等歷任昭和二年任浦和高校々長同十年退任同校名譽教授ニ推サレ同十二年現官ニ任ズ趣味讀書家庭妻良（明廿、男爵本多政樹妹）男順一（同卅九）男敬四郎（同七）女美和（同十）女延（昭二）住中野區新井町六六二電中野四三二六

今井　至　正五勳六　東京外國語學校教授
東京府又男長男明治廿六年八月廿五日出生東京帝大法學部及經濟學部各卒業大正十五年現職ニ就ク曩ニ歐米ニ留學ス趣味園藝家庭妻利子（明卅七、重戸常之助長女）長男康文（昭六）長女希子（大十三）二女享子（同十五）三女宏子（昭四）住王子區十條中原町四ノ二

今井　嘉一　從四勳四　平壤第二中學校長兼教諭
熊本縣古庄常一ノ二男明治十三年九月出生從宗平ノ養子トナル同廿九年東京帝大文科文學科卒業長崎縣立壹岐諫早及羅南各中學校長歷職昭和四年新義州高等普通學校長ヲ經テ現職ニ就任ス家庭妻タマ（明十四、養父宗平長女）長男清澄（大四）二男正德（同八）三男隆義（同十）住平壤府南山町三八電二七三六

今井　嘉樹　從五勳六　新潟縣新潟師範校長
埼玉縣惟恭長男明治十六年二月十九日川越市ニ出生同卅九年東京高師大正九年同校專攻科各卒業福井師範茨城女子師範各教諭同土浦高女校長神戸市視學同市立教員養成所長大鐵教習所長香川縣視學官學務課長島根石川各縣師範學校長等歷任昭和十七年現職ニ就任趣味謠曲乘馬家庭妻ほの（明十八、埼玉縣柳川文作長女埼玉女師範卒）嗣子恭（同四一、阪大造船科卒）四女興江（大七、松江高女卒）住新潟市旭町二番町同校內

今井　一男　從五勳六　國民貯蓄獎勵局書記官　總務課長
廣島縣人明治卅六年出生昭和二年東京帝大法科英法科卒業大藏省ニ入リ銀行檢查官預金部資金局書記官運用部運用課長外務事務官兼任同十四年大使館二等書記官ソヴィエト聯邦在勤同十五年六月同一等書記官ヲ經テ同十六年十二月現職ニ就ク趣味野球家庭妻文子（明四四）男成男（昭九）住（留守宅）世田谷區成城町八六四

今井　濟武　正六　企畫院調查官兼同書記官　第二部第二課長
三重縣濟彥四男明治卅七年九月廿五日同縣一志郡天野村ニ出生昭和三年高文行政科合格同四年東京帝大法學部政治學科卒業岩手縣屬兼警部同縣社會課長同七年任地方事務官爾來福島縣社寺兵事課長社會課長兼會計課長經濟更生課長農務課長和歌山縣農務課長商工水產課長商工課長長野縣規畫課長總務課長等歷任昭和十六年九月現職ニ就ク趣味テニス油繪住小石川區久堅町七四電小石川三〇三六

今井　修二　從五勳六　朝鮮總督府鐵道局技師　京城地方鐵道局工作部長
山口縣人大正九年九州帝大工科機械科卒業累進昭和十六年一月現職ニ就ク住京城府漢江通京城地方鐵道局內

今井　精一　正五勳五　埼玉縣立浦和中學校長兼教諭
舊平戸藩士尙人ノ長男明治十三年六月出生同四十四年家督相續同卅六年東京帝大文科史學科卒業東京神奈川熊本長崎香川各縣中等學校ニ歷任シ昭和二年以來現校長タリ趣味武道讀書漁獵家庭妻延子（明廿、熊本縣士族田口廣志姪日本女大附屬高女卒）男正人（同卅六、東亞同文書院卒）同妻靜枝（同四五、東京市横山功喜妹府立第六高女卒）男守之（同四四）同妻壽重子（大六、府立第六高女卒）男良夫（大四）男武成（同七）住浦和市仲町四ノ一一五電二八六二

今井　善衞（ゼンエイ）　正七　貿易局事務官兼商工事務官企畫院事務官　貿易局第二部纖維雜貨課兼纖維局勤務
新潟縣人大正二年十月五日出生昭和十一年高文行政科合格翌年東京帝大法學部政治學科卒業同年商工屬拜命次デ貿易局屬同事務官ニ任ジ第二部輸入課同十三年兼任臨時物資調整局事務官同年第二部第六課勤務ヲ經同十四年六月現職ニ就ク住品川區大井坂下町二七二一

今井　晉　從五勳六　東京市水道局長
兵庫縣人明治四十四年東京帝大工學部卒業ス曩ニ土木局道路建設課長同局技術長土木局長等歷任ス住本鄉區駒込西片町一〇ホノ一〇電小石川四八〇五

今井登志喜　正四勳三　東京帝大教授　文學部長
長野縣水穗長男明治十九年六月出生大正十五年家督相續同四十四年東京帝大文科史學科卒業大學院ニ學ビ東京外語一高各講師一高教授東京帝大助教授ヲ經テ昭和五年同教授ニ任ジ同十四年文學部長ニ補セラル曩ニ英獨佛米各國ニ留學ス家庭男秀喜（大三）女美智代（同六）女彌生子（同九）女眞弓（同十一）住澁谷區千駄ケ谷三ノ五四〇電青山五五七〇

今井　時郎　從四勳五　東京市教育局長
宮城縣彥三郎長男明治廿二年二月出生大正二年東京帝大文科社會學科卒業同六年歐米各國ニ留學同九年歸朝同年東京帝大助教授ニ任ジ昭和十六年九月同教授ニ進ミ退官現職ニ就ク曩ニ昭和十年滿洲國ニ出張ス家庭妻里（明廿八、福井縣內田重遠三女）男宗丸（大十一）女幸子（同十二）二男乙人（同十四）二女二葉（昭二）三男計三（同四）四男悌四郎（同十）五男英五（同十二）住板橋區中新井町四ノ一二五四電練馬四七三

今井　久　從五勳五　內務事務官　警保局保安課長兼外事課長
東京府人明治卅五年七月廿四日出生大正十四年東京帝大法學部英法科卒業地方警視石川大阪各府縣警務課長佐賀縣書記官警察部長內務事務官警保局保安課勤務軍事保護院事務官總務課勤務昭和十五年一月三重縣書記官警察部長同年七月內務書記官兼警察講習所教授警保

局審務課長ヲ經テ同十七年六月現職ニ就ク住麹町區隼町一三ノ一官舍電九段四〇一五

今井　久男　從六　内閣印刷局技師　酒匂工場勤務

東京府人昭和五年東京帝大農學部農藝化學科卒内閣印刷局ニ入ル嚢ニ抄紙部紙料課長タリ住瀧野川區瀧野川町九七官舍電王子四三〇九

今井　秀一　正五勳五　新潟縣長岡女子師範學校長

富山縣淨觀長男明治廿二年八月廿二日出生同四十五年廣島高師本科大正十一年同專攻科各卒業新潟呉高岡各中學宮崎師範各教諭宮崎高女校長歷任昭和六年富山縣女子師範學校長兼縣立富山高女校長ヲ經テ同十六年四月現職ニ就ク趣味旅行宗教妻みさを（明廿九、富山縣吉野久太郎長女富山縣立高女卒）長男淨秀（大六）二男尙秀（同七）三男完秀（同十）四男秀茂（同十二）五男美壽（同十五）長女壽子（昭三）二女修子（同六）六男敬義（同八）七男輝（同十二）住長岡市同校内

今井　弘　從四勳四　工博　九州帝大教授工學部勤務

新潟縣退藏四男明治廿七年十二月出生昭和六年分家ス大正八年東京帝大工學部採鑛冶金科卒業三菱工業研究所技師東北帝大助教授兼金屬材料研究所員旅順工大豫科教授兼東北帝大助教授旅順工大教授歷任昭和八年九州帝大教授ニ任ズ大正十五年歐米各國ニ留學同十四年學位ヲ受ク宗教妻すき（明廿八、東京府關口榮次郎養子）男純一（大十四）住福岡市地行東町三番丁

今井　鎭次郎　從七　市立小樽圖書館長

新潟縣故勝三郎ノ二男明治十六年六月十日同縣南蒲原郡長堀村ニ出生同卅六年札幌師範卒業後帶廣小學校訓導本別音更池田各小學校長歷任昭和二年市立小樽圖書館司書トナリ同七年現職ニ就任ス趣味運動家庭妻ケイ（明卅四、北海道渡邊勝ノ三女）長男精男（同四一、東京高師卒岐阜縣女師教諭）同妻喜代（同四三、東京女高師卒）同長女玲子（昭十五）二女富實（大五、東京女高師卒山形縣立第一高女教諭）四女勝子（同十三、小樽高女補習科在）住小樽市綠町二ノ二一電三一二六

今井　政次　從七　樺太廳大泊林務署長

群馬縣今井作太郎ノ六男明治卅八年五月四日同縣勢多郡北橘村ニ出生大正十五年宇都宮高等農林卒業昭和十四年敷香林務署野頃出張所長ヲ經同十五年八月現職ニ就ク趣味寫眞家庭妻富久子（大元、群馬縣狩野石一郎四女群馬縣澁川高女卒）住樺太大泊楠溪町官舍電八九一

今井田　研二郎　從六　海務院書記官　海務院運航部第一輸送課長

岡山縣國豐達太ノ二男明治四十年出生同縣士族今井田淸德ノ養子トナル昭和九年東京帝大法學部法律科卒業遞信省事務官管船局勤務同十六年一月任遞信書記官同年五月企畫院書記官兼任同年十二月現職ニ就ク家庭養母爲（同廿二、岡山縣大山直太郎二女）妻和子（大六、同縣大村八太郎二女府立第三高女卒）住品川區上大崎四ノ二三〇電大崎一四五〇

今泉　佳三郎　正六　地方技師　高知縣經濟部土木課長

群馬縣人和助ノ男明治卅五年一月一日桐生市ニ出生大正十四年東京帝大工學部土木學科卒業爾來東京市技手牛込出張所長東京市技師道路技師兼土木技師千葉縣勤務昭和十二年七月愛知縣道路技師兼土木技師同縣道路課長ヲ經テ同十六年一月現職ニ就任ス住高知市丸ノ内縣公舍電一〇三九

今泉　門助　從五勳六　商工技師　機械局中央度量衡檢定所勤務

新潟縣人明治卅二年三月七日出生大正十三年東京帝大理學部物理學科卒業昭和二年商工技手拜命同三年同技師ニ任ジ工務局勤務同十四年六月機械局勤務現時前記ノ任ニアリ住川崎市池田町一三一

今枝　常男　從五　法制局參事官兼同書記官

愛知縣人昭和五年東京帝大法學部法律科卒業判事ニ任ジ東京民事地方裁判所判事次デ企畫院調査官ニ轉ジ現時法制局參事官タリ住世田谷區松原町四ノ三八八電松澤二二〇七

今尾　由太　正六　地方事務官　京都府警察部健康保險課長

山口縣人舊姓白井ト稱ス明治卅七年十二月一日出生大正九年明治大學政經科卒業廣島市書記同主事社會課長同十五年社會局健康保險署書記昭和四年兼任社會局屬同年警視廳屬兼社會局屬次デ同七年地方事務官ニ任ジ愛媛縣勤務同十年警察部健康保險課長ヲ經テ同十三年六月現職ニ就ク住京都市上京區室町中立賣上ル官舍電西陣一〇〇一

今關　傳　從六　地方統計主事　千葉縣總務部統計課長

千葉縣人忠三郎長男明治卅年十月廿六日出生明治學院卒業大正十二年千葉縣統計課奉職昭和九年任地方統計主事同十年現職ニ就ク家庭妻さよ子（明卅一、千葉縣佐藤與惣次長女佐倉精華高女卒）長男昌（大二、千葉中卒）住千葉市長洲町二二ノ五一官舍電九六六六

今田　好太　正五勳六　德島縣立光慶圖書館長

德島縣人明治四十一年廣島高師英語科卒業德島縣立撫養中學校長ヲ經テ昭和十三年九月現職ニ就ク住德島市富田中屋敷町

今竹　義一　地方事務官　長野縣學務部拓務課長

香川縣人大正七年七月卅一日出生昭和十三年第三高校ヲ經テ同十五年高文行政科合格同十六年東京帝大法學部政治學科卒業同年四月内務省警保局勤務ヲ經テ同十七年一月任地方事務官現職ニ就ク住長野市長野縣廳内

今治　一雄　從五勳六　鐵道局技師兼鐵道教習所教官　東京鐵道局大宮工場長兼東京鐵道教習所大宮技工養成所長

兵庫縣熊吉長男明治卅五年一月三日出生大正十四年東北帝大卒業鐵道省ニ入リ鷹取工場勤務大宮工場第一技術係主任釧路工場長廣島鐵道局工作部車輛課長ヲ經テ昭和十四年四月鐵道局技師大阪鐵道局工作部車輛課長トナリ後現職ニ就ク趣味ラグビー旅行家庭妻チエ子（明卅九）嗣子武雄（昭六）二女町子（同四）住大宮市鐵道官舍電二六五

今西　清治　從七　商工事務官　纖維局人造纖維課勤務

奈良縣人大正五年九月十八日出生昭和十一年第八高校ヲ經テ同十四年高文行政科合格翌年東京帝大經濟學科卒業燃料局統計官補兼燃料局屬ヲ經テ同十六年三月任商工事務官現職ニ就ク住澁谷區鶯谷町二六前田方

今福　公一　地方事務官　神奈川縣總務部地方課長

神奈川縣人元吉長男明治卅五年六月十三日出生昭和三年神奈川縣ニ奉職同九年同縣屬拜命官房文書課勤務同十年秘書課同十三年同縣警部兼任警務課勤務土木部經理課勤務同十四年人事課兼秘書課勤務ヲ經テ同十七年一月任地方事務官現職ニ就ク趣味短歌家庭妻薰（明卅九、東京府若林政太郎長女）長男健司（昭九）長女幸子（同十）二男淸司（同十四）二女美津子（同十六）住横濱市中區伊勢町縣廳官舍十一電長者町一四二二

今松　治郎　正五勳四　内務省警保局長　警察講習所長（昭十七・六退官）

愛媛縣佐一郎二男明治卅一年七月出生大正十一年東京帝大法科卒業同年高文合格同十二年北海道廳警視爾來地方警視和歌山縣勤務地方事務官宮崎縣勤務地方警視埼玉愛知各縣勤務地方事務官愛知京都各府縣勤務宮城縣書記官學務部長群馬縣書記官警察部長警視廳官房主事茨城縣總務部長内務事務官兼内務書記官等歷任昭和十四年内務書記官地方局振興課長同十五年北海道廳部長土木部長同年十月和歌山縣知事ヲ經テ同十六年十月現職ニ就ク家庭母ヌイ（明五）妻和子（同四一、東京府安田榮三郎長女）男光一郎（昭八）長女圀子（同十三）住麴町區隼町一三官舍電二三〇四・三五九一

今宮　千勝　正六勳六　地方視學官　茨城縣學務部勤務

茨城縣人明治廿七年十一月三日出生大正三年同縣師範卒業同八年同師範訓導兼教諭昭和五年同校教諭歷職同十一年同附屬小學校主事ヲ經テ同十五年八月任地方視學官現職ニ就ク住水戸市梅香電一四九三

今村　荒男　從四勳三　醫博　大阪帝大教授醫學部勤務　微生物研究所長

奈良縣人幸男同奇男ノ弟明治廿年十月出生大正元年東京帝大醫科卒業現時大阪帝大教授タリ同十一年學位ヲ受ク家庭妻ハル（明卅、京都府石田英一郎姉）男勁（昭二）女文子（大五）女澄子（同八）女和子（同十）女玲子（同十三）住西宮市南鄉町五七電二一〇八

今村　完道　正四勳三　臺北帝大教授　文政學部勤務

愛媛縣祐次四男明治十七年十一月出生同四十五年東京帝大文科支那哲學科卒業後大學院ニ入リ爾來日本大學豐山大學東京農大國學院大學豫科各講師松山高校教授廣島高師講師臺灣總督府臺北高校教授ヲ經テ昭和四年現職ニ任ズ嚢ニ文政學部長タリ家庭妻チエ（明卅、長崎縣柴原光彩女）長男達夫（大十）三男三郎（同十三）二女マチ子（同十五）三女英子（昭四）住臺北市昭和町大學官舍電四一八五

今村　純一　正六　大分縣立大分工業學校長

岐阜縣人松永傳之助三男明治廿五年四月廿六日出生今村太一郎ノ養子トナル大正七年京都帝大電氣工學科卒業中部電力新潟電燈各技師歷勤岐阜縣第一工業教諭ヲ經テ昭和十年七月現職ニ就ク趣味弓道家庭妻定子（明四一）嗣子純夫（大八、大分中卒）住大分市中島五條通

今村　捷二　從六　大阪市立中學校長

茨城縣人明治廿八年出生昭和十二年福島商業教諭次デ若松商業學校長大阪市立扇町商業同扇町第二商業學校長ヲ經テ現職ニ就ク住吹田市寄町二八三〇

今村信次郎　從三勳一功五　海軍中將　秩父宮別當

舊米澤藩士瀧次郎二男明治十三年五月出生大正二年分家明治卅五年海軍兵學校ヲ卒業翌年任海軍少尉昭和五年同中將ニ累進ス其間海軍大學卒業日向艦長東宮武官侍從武官練習艦隊司令官舞鶴要港部司令官第三艦隊司令官佐世保鎭守府司令長官軍令部出仕等歷補昭和十一年三月豫備役被仰付同年十一月現職ニ任ズ趣味乘馬家庭妻時（明廿四、宮島信吉三女東京女高師附高女卒）長男一郎（同四五）三男信敏（大九）四男重信（同十一）五男五郎（同十三）住大森區新井宿四ノ一〇〇六電大森五五〇二

今村龍雄　從六　地方農林技師　岩手縣經濟部水產課長

三重縣人明治卅五年一月廿四日出生大正六年水產講習所漁撈科卒業東京市明治漁業株式會社ニ入社同十年靜岡縣水產試驗場同十二年東京府產業部昭和五年高知縣水產試驗場各歷勤同十年地方農林技師ニ任ジ高知縣勤務ヲ經テ同十六年十二月現職ニ就ク住盛岡市加賀野久保田一五田高和二郎方

今村直人　正五勳六　東京府立第三商業學校長

福岡縣專太郎ノ長男明治廿四年十二月十二日出生大正五年東京高商卒業濱松市立大阪市立市岡各商業學校敎諭靜岡縣立沼津熊本縣立愛知縣立京都市立第二商業各校長ヲ經テ現職ニ就ク家庭妻瑞枝（明廿五、大石英吉二女福岡女師範卒）嗣子節之輔（大十）二女遠子（同八）三女直子（同十四）男讓郎（昭五）男洋太郎（同八）住杉並區天沼三ノ六二一

今村方策　正六勳五　陸軍少佐　馬政局事務官　總務部移植課長

宮崎縣人明治卅三年一月四日出生大正十年任砲兵少尉昭和十二年少佐ニ陞ル其間陸軍野砲兵學校敎官山砲兵廿五聯隊中隊長同研究部主事兼敎官歷任昭和十二年任馬政局事務官同十五年競馬監督官同十六年七月現職ニ就ク住中野區櫻山町一四

今村了之介　正六勳四　海軍中佐　海務院海務官　總務部海務課長

大分縣人明治卅四年三月廿七日出生大正十年海軍兵學校卒業任海軍少尉昭和十三年中佐ニ累進翌年艦隊參謀ヲ經テ同十六年十二月現職ニ就ク住世田谷區下馬二ノ二七電世田谷二一〇九

今吉敏雄　從四勳三　拓務省拓北局長

大分縣孫市長男明治卅一年六月出生大正八年東京帝大法科卒業同七年高文合格內務省ニ入リ累進和歌山縣書記官學務部長岩手縣書記官警察部長拓務書記官朝鮮部第一課長監理局企畫課長同管理課長拓務大臣秘書官兼任官房秘書課長兼管理課長大臣官房秘書課長拓務書記官兼朝鮮總督府事務官大臣官房調査課長歷任昭和十三年三月關東局司政部長ヲ經テ同十五年十一月現職ニ就ク家庭妻義子（明卅七、大分縣牧彥七長女）長男恒雄（昭四）長女弘子（同五）二女和子（同七）住世田谷區松原町二ノ七六二電松澤三八四八

今吉與一　從七勳七　警視廳警視　吾嬬警察署長

鹿兒島縣人明治卅一年七月廿日出生大正七年警視廳巡查拜命爾來累進昭和三年任同廳技手兼警部保安課及厩橋世田谷麴町各警察署歷勤同十四年五日市署長同十六年警務課主計係長ヲ經テ同年十月任警視現職ニ就ク住向島區吾嬬東町三ノ三四電墨田三〇四

入江相政　正六　侍從兼宮內事務官兼皇后宮事務官　侍從職內廷課長兼皇后宮職內廷課長

東京府士族明治卅八年六月廿九日出生昭和四年東京帝大文學部國史學科卒業學習院講師拜命同七年侍從ニ任ジ同十三年前記ノ職ニ就ク家庭妻君子（大元、山崎豐彌長女家政學院卒）長男爲年（昭八）長女令子（同七）住牛込區市ヶ谷砂土原町二ノ一電牛込二七二六

入江[illegible]　正六　氣象臺書記官兼文部書記官　專門學務局學藝課勤務

香川縣人保太郎長男明治卅五年二月四日出生大正十五年京都帝大法學部卒業高文行政科合格爾來神奈川縣警部補同縣屬同土木主事地方事務官同縣土木部經理課長學務部社寺兵事課長社會課長京都帝大事務官會計課長兼庶務課長文部事務官敎育調查部審議課長歷任昭和十五年四月在滿敎務部敎務課長ヲ經テ同十七年四月現官ニ就ク家庭妻武子（明四十、廣島縣荒川五郎二女廣島縣立高女卒）長男泰（昭八）長女道子（同十）住麴町區大手町氣象臺內

入江誠一郎　從五勳六　內務書記官兼外務書記官　內務大臣秘書官　大臣官房文書課長　同人事課長兼警保局外事課長

香川縣勝太郎長男明治卅四年五月九日出生大正十五年東京帝大法學部政治科卒業同年內務屬拜命次デ地方警視福井縣保安課長福岡縣警

務課長警務講習所敎授內務事務官大臣官房會計課勤務昭和十三年一月厚生事務官兼厚生書記官兼厚生大臣秘書官大臣官房秘書課長同十五年十月內務書記官警保局外事課長ヲ經テ同十七年六月現職ニ就ク家庭妻睦子（明四三）長男毅（昭五）二男博（同七）三男敏行（同十一）住麴町區隼町一三官舍電九段一〇三五

入江隆禪　從五勳六　香川縣立大川中學校長兼敎諭

香川縣人細川伊右衞門三男明治廿年九月出生入江萬三ノ養子トナル同四十四年東京高師卒業山口香川各師範敎諭歷職昭和八年香川縣立小豆島高女校長ヲ經同十五年二月現職ニ就ク家庭妻るい（明卅、森彥三郎妹三豐高女卒）長男文則（大八、高松中卒）長女すみゑ（同十）二男一久（昭六）住香川縣大川郡三本松町電四七

入江俊郎　從四勳三　法制局參事官　法制局第三部長

東京府士族正幾二男同克巳ノ弟明治卅四年一月出生大正十二年高文合格同十三年東京帝大法科獨法科卒業內務屬地方事務官埼玉縣勤務ヲ經テ昭和二年法制局參事官ニ任ジ法制局書記官行政裁判所評定官ヲ兼任同十四年免兼官第三部長トナル家庭妻靜（明四十、東京府堀江潤一叔母東京女子大卒）長女絢子（昭三）二女香代子（同十一）住荏原區平塚七ノ一〇七五電荏原六七五二

入江弘　正六　燃料局書記官　石炭部炭政課長

東京府人貫一長男明治卅九年七月廿四日出生昭和四年高文行政科合格同五年東京帝大法學部法律科卒業同六年商工屬拜命同八年特許局事務官兼商工事務官同十二年企畫廳副調查官臨時物資調整局事務官兼商工事務官同十四年十月商工事務官兼商工書記官纖維局人造纖維課長同年十一月燃料局事務官石炭部調整課長ヲ經テ同十五年九月現職ニ就ク同十六年十月滿洲國及關東州ヘ出張被命趣味旅行家庭妻君江（明四四、野田貞二女東京府立第二高女卒）長男紀（昭七）住中野區文園町四〇電中野六九七七

入鹿山勝郎　正七　醫博　厚生技師　衞生局勤務

鹿兒島縣人昭和七年京都帝大醫學部卒業ス住世田谷區北澤町五ノ六四二

入澤宗壽　正四勳三　文博　東京帝大敎授　文學部勤務

鳥取縣元三郎二男明治十八年十二月廿三日出生同四十四年東京帝大文科大學哲學科卒業神宮皇學館敎授東京帝大助敎授ヲ經テ昭和七年現職ニ就ク同四年獨伊各國ニ出張同年學位ヲ受ク趣味園藝家庭妻千草（明廿六、岡山縣宮原亮太郎六女津山高女卒）男壽夫（大元、東大文學部卒）女千賀子（同六）住瀧野川區田端六三〇電駒込七一一五

入船直三郎　正五勳三　海軍少將　海軍砲術學校長

香川縣次平ノ長男明治廿四年二月出生同四十四年海軍兵學校卒業任海軍少尉後同少將ニ累進其間歐洲大戰ニ參加海軍砲術學校敎官三隈艦長海軍艦政本部第二課長等ヲ經テ昭和十五年十一月現職ニ就ク曩ニ獨伊兩國ニ出張ス趣味謠曲旅行登山園藝散步家庭妻朋子（明卅、山口縣木坂正忠長女柳井高女卒）男濟（大十）女淑子（同十四）住鎌倉市大町名越二三五三電七八七

岩井亥太郎　勳八　警視廳事務官　總監官房會計課長

東京府人明治卅二年二月廿七日出生大正十一年警視廳技手兼屬拜命會計課勤務同十三年同屬兼警部昭和四年會計課用度係長同九年出納係長歷任同十三年會計課長同十七年二月現官ニ任ズ住赤坂區溜池町二電赤坂三〇八六

岩井久[illegible]　正五勳六　札幌鐵道局技師　鐵道局工作部長

京都府人京都帝大機械科卒業鐵道省ニ入リ累進鐵道局技師大阪鐵道局吹田工場長ヲ經テ昭和十六年三月現職ニ就ク住札幌市北一條西十二丁目官舍電七七

岩井禎四郎　正四勳二　醫博　京城帝大敎授　醫學部勤務

千葉縣人木內貞順四男明治十九年十一月出生先代禎三ノ養子トナリ大正四年家督相續同元年九州帝大醫科醫學部卒業同大學助手山口縣立病院內科部長代理慶大醫學部助敎授朝鮮總督府醫院醫官兼京城醫學專門學校敎授歷任昭和二年現職ニ就ク曩ニ府醫院醫官ヲ兼任又同醫學部附屬病院長タリ大正十二年內科學研究ノ爲歐米ニ出張ス趣味ゴルフ家庭妻八十子（明卅、養父禎三六女三輪田高女卒）長男一成（大五）二男健二（同七）長女京子（同十）三男誠三（同十四）住京城府吉野町二ノ一〇五電本局七九三

岩井孝[illegible]　正五勳四　醫博　結核研究所員　京都帝大敎授　醫學部勤務

滋賀縣乙吉四男明治廿七年五月出生昭和七年

分家ス大正十年京都帝大醫學部卒業同大學副手拜命同十二年同助教授ヲ經テ昭和十六年三月同教授ニ任ジ前掲所員ニ補セラル曩ニ同三年歐米各國ニ留學同年醫博ノ學位ヲ受ク趣味讀書家族妻つな（明卅一、福井縣中島廷吉養女）長男一義（大十三）二男信之（同十五）三男正意（昭六）住京都市左京區吉田中阿達町四〇電上七二九〇

岩男　省三　正五勳五　札幌遞信局長
熊本縣士族三郎ノ四男明治卅三年九月廿二日出生大正十四年東京帝大法科政治科卒業遞信省ニ入リ任遞信事務官小倉郵便局長簡易保險局事務官第五原簿第四支拂第一貸付各課長遞信局書記官大阪遞信局經理購買各課長名古屋遞信局規畫課長朝鮮總督府遞信事務官兼高等海員審判所審判官遞信局監理課長等歷任昭和十四年八月航空局書記官兼朝鮮總督府遞信事務官航空局監理部企畫課長同十六年一月大臣官房企畫課長同年十月兼任遞信監察官ヲ經テ同年十二月現職ニ就ク趣味園碁謠曲スポーツ家族妻梓江（明卅六、小野島貫道長女山口縣立柳井高女卒）男健郎（昭四）長女久仁子（大十五）住札幌市北一條西六丁目官舍電六〇〇

岩岡　武博　從五　東京府土木技師兼道路技師　中川改修事務所長
長野縣人明治廿四年出生大正七年東京帝大工科卒業同八年東洋拓殖會社技手同十年技師ニ任ジ北海道廳技師土木部帶廣治水事務所長ヲ經テ現職ニ就ク住杉並區松ノ木町一二一七電中野七八七〇

岩上　夫美雄　從四勳三　秋田縣知事
東京府人照雄ノ長男明治卅一年四月出生昭和九年家督相續ス大正十年高文ニ合格翌十一年東京帝大法學部英法科卒業任內務屬爾來山梨縣理事官地方事務官地方警視警視廳警視內務事務官地方事務官大阪府工場監督官奈良岡山愛知各縣書記官警察部長埼玉縣書記官總務部長等ニ歷任昭和十三年警視廳部長警務部長兼警察練習所長同年十二月北海道廳部長總務部長ヲ經テ同十五年七月現職ニ就ク家族妻圖和（明四一、千葉縣久保田專藏三女）男嘉夫（昭五）女和代（同七）住秋田市東根小屋町官舍電二〇三一

岩城　準太郎　從四勳三　奈良女高師教授
富山縣平二長男明治十一年三月出生大正九年家督相續明治卅五年東京帝大文科卒業三重縣立第一中學校教諭第四高校教授等ニ歷任ス家族妻八重（明十九、東京府寺內章明三女）男陸利（同四三）女佐保子（大八）女南都子（同十）住奈良市法蓮町

岩城　悌（ヤスシ）　從五勳六　栃木縣書記官　學務部長
三重縣人上村忠平二男明治廿八年十一月十七日出生後同縣勘藏ノ養子トナリ昭和十年家督相續ス大正八年第一高校同十一年東京帝大法學部政治科卒業高文行政科合格同十五年警視廳警部補同警部昭和三年任警視廳警視太平駒込四谷本富士兩國各署長監察官等歷任昭和十一年地方事務官京都府地方課長同十四年岩手縣經濟部長同十六年一月栃木縣學務部長ヲ經テ同十七年現職ニ就ク趣味柔道乘馬園碁家族妻今惠（明卅三、三重縣糸川周藏二女四日市高女卒）長男肇（昭元）長女準子（大十、双葉高女卒）二女東子（同十三、女子經濟專門卒）三女太惠子（昭三）四女勝子（同五）住在南方現地

岩城　彌太郎　從五勳五　朝鮮總督府專賣局事務官　專賣局鹽蔘課長
新潟縣彌市郎長男明治廿八年二月廿七日出生大正六年遞信官吏練習所卒業同十二年高文合格警視廳警視神田西神田四谷各署長消防司令消防課長朝鮮忠淸南道警察部長同總督府事務官警察官講習所敎官同府專賣局事務官大邱地方專賣局長等歷職昭和十六年七月現職ニ就ク家族妻キミ（明卅一、新潟縣丸山國太郎長女）長女和子（昭三）二女雅子（同十一）住京城府光化門通朝鮮總督府專賣局內

岩城　義三郎　正五勳四　朝鮮總督府檢事　咸興地方法院檢事正
岡山縣人明治四十三年中央大學法科卒業朝鮮總督府檢事平壤覆審法院檢事海州地方法院檢事正昭和十四年淸津地方法院檢事正ヲ經テ同十六年一月現職ニ就ク住朝鮮咸興府住吉町同檢事局內

岩倉　規夫　正七　內閣書記官　內閣官房會計課兼總務課勤務
石川縣人大正二年一月十五日出生昭和八年富山高校同十二年東京帝大法學部獨法科卒業先是同十一年高文司法科行政科各合格同十二年三重縣屬兼警部同十三年地方警視同縣警務課長ヲ經テ同十四年五月現職ニ就任ス趣味讀書運動俳句住淀橋區西大久保三ノ一五七電四谷二三一一

岩畔　鐸一　正七　厚生省勞務官　大阪勞務官事務所勤務
廣島縣人明治廿六年十月十一日出生大正九年高文豫備試驗合格廣島縣ニ勤務同十五年同縣

屬調停官補兼工場監督官補昭和二年社會局屬福利課勤務同十四年傷兵保護院屬業務局勤務同十五年軍事保護院理事官業務局醫療課勤務ヲ經テ同十七年現官ニ就ク住大阪市東成區勝山通八ノ四〇大阪勞務官事務所內

岩佐　弘　勳八　警視廳警視　瀧野川警察署長
千葉縣人明治卅一年十一月廿三日出生大正十年警視廳巡查拜命同十五年中央大學專門部法律科卒業昭和九年同廳技手兼警部爾來六本木署勤務特別警備隊警衛課各勤務町田日暮里各署長歷補同十七年二月任警視現職ニ就ク住瀧野川區西ケ原町一〇八五電駒込四四二

岩佐　武長衞　從四勳四　判事　豐橋區裁判所監督判事
滋賀縣武平ノ長男明治十四年一月出生大正十二年家督相續明治四十年日本大學卒業判檢事試驗ニ合格任判事小倉區名古屋地方敎賀區各裁判所判事岐阜區裁判所監督判事同地方裁判所部長ヲ經テ昭和十一年五月前記ノ職ニ就ク家族妻ゆき（明廿四、滋賀縣人中川兵六三女）男武衞（大八）女みち子（同九）女のり子（同十一）二男武文（昭三）住豐橋市旭町三四八

岩崎　兼志　正七　地方事務官　元鹿兒島縣學務部社寺兵事課長
鹿兒島縣士族故關淸七郎二男明治廿八年六月一日出生昭和八年故岩崎彥二ノ養子トル大正九年鹿兒島縣屬內務部會計課勤務昭和十一年總務部會計課長事務取扱同十二年同課長ヲ經テ同十三年現職ニ就ク趣味魚釣家族妻マスノ（明卅三、鹿兒島縣池端源藏養女）長男淸昭（昭六）長女惠美（大十一、縣立第一高女卒）二女美喜（同十三、同校專攻科在）二男三郎（昭八）三男睦朗（同十）四男準夫（同十四）三女登茂子（同十六）（昭一七、五依願免本官）

岩崎　潔　正五勳五　商工技師兼鑛山監督局技師　鑛產局勤務　東京鑛山監督局監理部長
長崎縣人大正九年東京帝大工科採鑛冶金科卒業商工省ニ入リ累進鑛山監督局技師東京鑛山監督局勤務札幌鑛山監督局鑛業課長昭和十四年福岡鑛山監督局監理部長ヲ經テ同十五年八月東京鑛山監督局監理部長トナリ同十七年五月現職ニ就ク家族妻美保（明卅六、東京高女卒）長男不二雄（昭二）長女喜美（大十二、女子經濟專門卒）二女富美（昭四）住目黑區宮前町一六八〇電荏原七四九二

岩崎　金作　從七　警視廳警視　萬世橋警察署長
岐阜縣人明治廿六年五月八日出生大正七年同縣巡查拜命同十二年警視廳ニ轉ジ累進昭和八年任警部爾來平野新場橋巢鴨各警察署及特別警備隊各勤務交通課運轉係長警防課防空係長及經濟保安課第二係長經濟第二課纖維係長等ヲ經テ同十六年十月任警視廳警視現職ニ就ク住本鄉區湯島天神町六〇電下谷二一八八

岩崎　茂　職業主事　下谷國民職業指導所長
東京府人明治卅二年十一月十八日出生大正十一年日大專門部法科卒業南千住役場書記庶務社會各課長ヲ經テ東京市事務員同市書記江東橋勞働紹介所長トナリ昭和十三年職事主事ニ任ジ東京勞働國民職業指導所江東橋出張所長ヲ經テ同十七年三月現職ニ就ク住荒川區南千住町五ノ一三七

岩崎　準次郎　從四勳四　營林局技師　秋田營林局長
岩手縣賢次郎長男明治十六年十一月出生同廿七年家督相續同四十五年東京帝大農科林學科卒業爾來林務技手山林技手農商務技師歷任大正十三年營林局技師ニ任ジ秋田營林局計畫部長ヲ經テ同十六年一月現職ニ就ク家族妻トメ（明卅二、岩手縣久慈政馬三女）長男正明（昭三）長女アイ（大七、秋田高女仙臺女子專門各卒）住秋田市楢山上本町一七電一〇八九

岩崎　民男　正五勳三　陸軍少將　興亞院蒙疆連絡部長官
昭和十六年十一月現職ニ就ク住張家口市興隆街二號

岩崎　直人　從六勳六　林博　營林局技師　青森營林局計畫部　施業計畫課長
福島縣人明治十九年十二月廿一日出生同四十二年東北帝大農科林學實科卒業同大學助手北海道帝大助手山林技手兼任農林技手ヲ經テ昭和十三年營林局技師兼農林技師東京營林局兼山林局勤務同十五年五月免兼官前記ノ職ニ就ク曩ニ同十三年學位ヲ受ク住青森市浦町野脇

岩崎　秀之　從六　醫博　傷痍軍人愛知療養所長　軍事保護院醫官
群馬縣人明治卅五年十一月廿八日出生大正十五年東京帝大醫學部醫學科卒業同大學副手次デ同助手同副手名古屋帝大講師歷職昭和十三年十二月傷兵保護醫同十四年四月傷兵保護院醫官傷痍軍人愛知療養所長ニ任ジ同年七月官制改正軍事保護院醫官トナル住愛知縣知多郡大府町同療養所官舍

岩崎　孫八　從五勳四　陸軍中佐　石巻市長
宮城縣士族岩崎亭平ノ四男明治卅年十月出生同四十年陸軍步兵少尉任官昭和五年同中佐ニ累進豫備役トナル曩ニ宮城縣方面委員石巻市協和會長及帝國在鄉軍人會石巻聯合分會長タリ 趣味 野球劍道謠曲 家庭 長男正孝（大十一、石巻商業卒）二男悟（大十四）三男英紹（昭二）四男守男（昭八）長女和子（大九、石巻高女卒）二女順子（大十、同高女卒）三女允子（昭四）住石巻市和東山二九 電 九三

岩崎　松蔭　正六　商工事務官　機械局勤務
神奈川縣人明治卅九年九月五日出生昭和四年高文行政科合格同五年東京帝大法學部法律科卒業商工省ニ入リ同七年商工屬拜命同八年商工事務官商務局勤務同十年地方事務官東京府勤務同十二年商工事務官商務局勤務同十四年六月物價局事務官第一部企畫課長同十五年一月商工事務官機械局輸送機械課長同十六年四月同局動力機械課長等歷任ス 家庭 妻壽々子（明四五、福岡縣森田一郎長女神戸第二高女卒）長男義弘（昭十六）住世田谷區北澤四ノ五〇九 電 松澤三九五六

岩崎　康男　從五勳五　農林技師　農政局農村工業指導所勤務
新潟縣人大正十二年東京帝大農學部農藝化學科卒業農林省ニ入リ農林技師兼產業組合事務官經濟更生部產業組合課勤務同部農村工業指導所勤務ヲ經テ昭和十六年一月現職ニ就ク住杉並區大宮前二ノ六一二

岩崎　雄治　正五勳五　地方技師　兵庫縣土木部長
熊本縣人古閑俊太ノ四男明治廿二年十一月出生大正五年岩崎欽二郎ノ養子トナル同年九州帝大工科土木科卒業熊本縣技手同縣建築技手土木技手土木工手道路技師兼土木技師地方技師高知茨城岐阜長野各縣勤務等歷任昭和十年京都府土木部長ヲ經テ同十五年八月現職ニ就ク 家庭 妻チヨ（明廿八、養父欽二郎長女）長女文（大八）二女皆子（同十三）三女みよ子（昭三）住神戸市神戸區中山手通四丁目三號官舍 電 葺合一五九〇

岩瀬　忠恭　從四勳五　內務技師　國土局道路課長
廣島縣熊助ノ男明治廿五年六月出生大正七年京都帝大工科土木科卒業內務技手拜命大臣官房都市計畫課勤務大分縣勤務同縣土木技師同縣技師等歷任同十年任內務技師土木局第一技術課勤務東京兼橫濱各土木出張所勤務ヲ經テ昭和十七年三月現職ニ就ク昭和四年歐米出張ス 趣味 運動 家庭 妻ミツ（明廿九、廣島縣東祿樋長女廣島高女卒東京府立第二高女卒）長女仁子（大七）二女聰子（同八、東洋高女卒）住小石川區原町一一三 電 大塚四〇四八

岩澤　博　從五　鳥取縣書記官　警察部長
廣島縣熊助ノ四男明治卅七年一月廿七日出生大正十三年第五高校昭和二年東京帝大法學部政治學科卒業高文合格神奈川縣屬拜命同七年地方警視高知縣警務課長岐阜縣特高課長長崎縣特高外事課長歷任同十一年內務事務官警保局勤務後滿洲國ニ轉ジ民政部理事官經理科長內務局參事官企畫課長總務廳參事官治安部理事官警務科長民生部勞務司長歷任昭和十六年二月岐阜縣書記官經濟部長ヲ經テ同十七年一月現職ニ就ク 家庭 妻濟子（明四三、香蘭女學卒）長男淳（昭九）長女直子（同六）二女士紀子（同八）三女由美子（同十三）二男伸（同十六）住鳥取市東町官舍 電 一三四

岩重　隆治　正五勳五　三重縣書記官　總務部長兼經濟部長
山口縣人彌七ノ長男明治廿八年六月廿一日出生大正八年第三高校卒業同十年高文ニ合格同十一年東京帝大法學部獨法科卒業長野縣屬同警部巡查教習所長地方警視鹿兒島縣保安課長福岡縣保安警務各課長岡山愛知各縣特高課長任地方事務官岡山縣學務課長兼社寺兵事課長商工水產課長兵庫縣地方課長兼知事官房主事千葉京都各府縣書記官學務部長等歷任昭和十四年四月青森縣書記官總務部長ヲ經同十六年一月現職ニ就任ス 趣味 庭球乘馬登山 家庭 妻月子（明卅六、大分縣宮永熊吉長女中津高女卒）長男忠博（昭二）長女リツ子（同四）二女美威子（同五）三女臨子（同八）住津市下部田 電 一五

岩下　富藏　從六　地方視學官　神奈川縣學務部學務課長
栃木縣人明治卅七年二月廿一日出生大正十二年山形高校同十五年東京帝大文學部教育學科各卒業更ニ昭和八年同大學院ニ學ブ先是大正十五年青森縣師範教授囑託爾來同教諭栃木縣大谷南農業補習教諭山形縣女子師範教諭同縣立寒河中學校長等歷任昭和十三年九月地方視學官群馬縣學務課長ヲ經テ現職ニ就ク住大森區田園調布三ノ三

岩下　雄三　正五勳五　朝鮮總督府京城師範學校長
山梨縣人順次郎三男明治十九年十一月出生大正二年東京高師本科數物化學部卒業秋田廣島各縣師範教諭新潟縣村上中學教諭同校長朝鮮

總督府道視學官同府視學官ヲ歷任昭和十年府編修官兼視學官學務局編修課長ヲ經テ同十五年三月現職ニ就ク 家庭 妻しづを（明廿六、山梨縣戸澤道之長女）長男亮（大六）長女敏子（同十一）住京城府大和町三官舍二三 電 一九七一

岩瀬　喜作　從四勳四　北海道帝大豫科教授
千葉縣佐藤半次四男明治廿年四月出生大正四年先代左和ノ入夫トナリ家督相續明治四十四年東京高師數學專修科卒業千葉縣立大多喜中學教諭拜命後東北帝大理科數學科ニ入リ大正五年卒業福岡縣立修猷館中學教諭ヲ經テ現教授ニ任ズ曩ニ學生主事タリ 家庭 妻左和（明廿八、先々代小平長女）長男彝彥（大七）長女美代（同九）二男和夫（同十三）二女房（昭二）住札幌市北大通東七ノ一二 電 七一四

岩瀬　慶三　從四勳三　理博　東北帝大教授　理學部勤務　金屬材料研究所員
長崎縣延次郎三男明治廿七年十一月十四日出生大正七年京都帝大理學部純正化學科卒業同大學東北帝大各講師東北帝大助教授歷任昭和三年同教授ニ進ム 趣味 スポーツ 家庭 妻福子（明卅八、京都府北川與惣兵衞妹京都第一高女卒）長男慶昭（昭二）二男慶和（同四）三男慶孝（同九）住仙臺市北六番丁二一二五

岩瀬　繁一　正七　內務事務官　大臣官房勤務
愛知縣人七六ノ三男明治四十一年三月卅日豐橋市ニ出生昭和五年山形高校卒業同七年高文行政科同司法科各合格同八年東京帝大法學部法律學科卒業東京府ニ勤務同十二年任地方事務官福岡縣總務部監査課長同十三年地方警視鹿兒島縣特高課長同十五年宮城縣特高課長同十六年一月地方事務官廣島縣庶務課長兼稅務課長ヲ經テ同十七年一月現職ニ任ズ 家庭 妻しげ子（明四五、千葉縣白井正之介二女三輪田女學卒）長女節子（昭十二）二女隆子（同十三）住麴町區霞ケ關內務省氣付

岩瀬　森次　從六　地方事務官　廣島縣經濟部規整課長
愛知縣人明治卅七年四月十九日出生大正十三年普文合格愛知縣屬拜命同十四年同縣統計主事補同翌年縣稅調查員昭和二年縣參事會書記同三年任內務屬地方局勤務同十一年十一月地方事務官ニ任ジ爾來福島縣社會課長水產課長地方課長兼總動員課長農務課長等歷任同十六年一月廣島縣ニ轉ジ總務部稅務課長ヲ經テ現職ニ就任ス住廣島市南觀音町公舍 電 二一四三

岩田　久吉　從四勳四　廣島高師教授
島根縣久助三男明治廿二年七月出生大正二年廣島高師卒業神戸大垣中學教諭同八年任熊本高工教授昭和八年三月現職ニ就ク曩ニ大正十五年獨米兩國ニ留學ス 家庭 妻修子（明卅一、島根縣莇田玄四郎長女）長男哲夫（大八）二男直人（同十）住廣島市南千田町一〇三九ノ四

岩田　常雄　正七　警視廳警視　刑事部搜查第二課長
鹿兒島縣人明治卅五年九月五日出生昭和四年高文行政科合格同年警視廳巡查拜命同六年警部補同八年技手兼警部工場監督官補保安部工場課勤務同交通課勤務翌年專任警部警務部警衞課兼保安部交通課勤務同年依願免本官同十五年地方事務官宮城縣會計課長兼人事課長同年九月地方警視同十六年現職ニ任ズ 家庭 妻圭子 住麴町區隼町十三官舍 電 九段三七六

岩田　鐵男　從六　通信技師　仙臺遞信局工務部線路課長
北海道人昭和十一年北海道帝大工學部電氣工學科卒業遞信省ニ入リ工務局勤務次デ名古屋遞信局勤務通信技師兼遞信局技師東京中央電話局國際交換課長ヲ經テ現職ニ就ク住仙臺市多門通同局內

岩田　豐　從五勳六　地方農林技師　青森縣農產物檢查所長
東京府佐八郎ノ三男明治廿三年三月十七日出生大正五年東北帝大農學部卒業同大學助手青森縣農事試驗場同農務課勤務昭和七年現職ニ就ク 家庭 妻擧（明卅、山形縣士族平山保太郎長女日本女大附屬高女卒）嗣子正（大十）二女悠紀子（昭三）三女睦子（同六）四女禎子（同九）住青森市浪打三九同所內 電 三三九八

岩田　穰　從六　醫博　神戸市部長　厚生部保健課長事務取扱
愛知縣岐ノ男明治廿年九月四日出生同四十四年愛知醫專卒業警視廳ニ奉職後關東廳滿鐵本社各勤務社會局技師等ヲ經神戸市ニ入ル昭和三年醫博ノ學位ヲ受ク 家庭 妻たき（明廿一）住神戸市須磨區離宮西町一ノ一八 電 一三二八

岩田　涉　正五勳五　大阪控訴院判事
香川縣西岡伊三郎男明治廿八年二月出生福岡縣岩田源治ノ養子トナル大正九年東京帝大政治科同十年法科各卒業同年司法官試補拜命同十二年任判事東京京都各地方同區高知地方堺區大阪區同地方各裁判所判事歷補昭和十三年十二月現職ニ就ク 趣味 文學音樂美術 家庭 繼母

タカ(明八、福岡縣原仁吉長女)妻かをる(同卅六、高知縣中島誠一長女東京女高師附屬高女卒)長女都(大十三、阿部野高女卒)二女鞆子(同十四)三女知子(昭二)住大阪市住吉區帝塚山西二ノ一九

岩津 俊衞　正五勳四　醫博　千葉醫大教授
岡山縣谷野灑治四男明治廿六年一月出生岩津房次郎ノ養子トナル大正七年東京帝大醫學部卒業同十五年千葉醫大助教授拜命昭和十三年十月任同教授補附屬醫院長同十五年四月辭ス曩ニ同三年渡歐同五年學位ヲ受ク趣味音樂野球家庭妻泰子(明卅三、養父房次郎長女京都府立第二高女卒)長男英雄(大十五)長女章子(同十)住千葉市富士見町一七一電一三一四

岩付 實之助　從四勳三　理博　廣島文理大教授
新潟縣士族持照ノ二男明治廿七年一月出生大正七年東北帝大理科數學科卒業山口高校教授ニ任ジ同十五年英國ニ留學ス昭和四年學位ヲ受ケ同年現職ニ轉ズ家庭妻フミ(明卅二、新潟縣解良利貞六女)男昱夫(昭三)女壽美子(大十)二女英子(同十四)住廣島市平野町

岩鶴 龍三　正六　醫博　軍事保護院醫官　傷痍軍人大阪療養所長
和歌山縣光之助三男明治廿七年十月廿九日同縣那智郡田中村ニ出生大正十年大阪醫大卒業曩ニ歐米ニ留學大阪醫大醫學部小澤內科ニ勤務昭和二年學位ヲ受ク小澤內科退職後現職ニ就ク趣味散步家庭妻信(明卅六、山野宮樟二女和歌山縣立一高女卒)長女昭代(昭二)二女政子(同三)三女泰子(同六)住大阪市南區久左衞門町三二電南三一一五六

岩島 肇　從五勳六　朝鮮總督府事務官　法務局民事課長　高等法院檢事
廣島縣人明治卅三年九月一日出生夙ニ朝鮮總督府ニ入リ昭和十二年十二月同府事務官ニ任ジ現職ニ就ク同十五年六月兼任檢事トナル住京城府光化門通朝鮮總督府法務局內

岩永 賢一　從六　內務事務官　大臣官房勤務
鹿兒島縣人三省ノ長男明治四十年五月二日同縣肝屬郡內之浦町ニ出生昭和四年第一高校卒業同六年高文行政科及司法科合格同七年東京帝大法學部法律學科卒業內務屬拜命爾來地方局土木局大臣官房文書課各勤務地方事務官山口縣農務課長等歷任同十三年傷兵保護院事務官業務局勤務ヲ經同十四年六月現職ニ就ク陸軍砲兵少尉タリ趣味庭球乘馬家庭子妻孝(大三、高知縣齋藤孝二郎長女大阪府立茨木女學卒)長女冴子(昭十二)住麴町區霞ケ關內務省氣付(在海外)

岩永 仁雄　正五勳三　醫博　大阪帝大教授　醫學部勤務
長崎縣士族林作ノ長男明治廿三年二月出生大正五年九州帝大醫科卒業同大學助手助教授大阪醫大教授ヲ經テ昭和六年現職ニ就ク大正十四年歐米各國ニ留學同十二年學位ヲ受ク家庭妻澤江(明卅三、長崎縣本川仙舟孫)嗣子剛(昭六)長女その(大九)二女慶子(同十二)三女紀代子(昭三)四女俊子(同十)住西宮市安井町一九電一七九九

岩波 喜代登　正五勳五　靜岡縣靜岡師範學校長
長野縣人横山喜代三郎三男明治廿五年八月十六日出生岩波定治ノ養子トナル大正五年東京高師數物化學科卒業熊本縣第二師範松本中學京都公立高女各教諭京都師範主事同府視學官栃木縣宇都宮第二高女同縣女子師範各校長歷職昭和十年和歌山縣師範校長ヲ經テ同十六年六月現職ニ就ク家庭妻ゆり子(明廿七、長野縣本川寅次郎長女、松本高女卒)二女ノリ子(大九、和歌山高女專攻科卒)二男春喜(昭七)住靜岡市靜岡師範學校內

岩波 武信　從四勳三　內藏頭兼宮內省參事官
長野縣武左衞門二男明治十五年六月出生大正十二年分家明治四十二年東京帝大法科獨法科卒業宮內省ニ入リ帝室林野管理局事務官帝室會計檢查官宮內事務官後宮內書記官式部官兼任宗秩寮庶務課長兼宗親課長大臣官房總務課長等歷任昭和十一年內匠頭ヲ經テ同十五年十二月現職ニ就ク家庭妻京(明廿三、山口縣士族櫟木幹雄妹)男輝俊(大十一)女靜子(同九)住四谷區本村町三三電四谷八七〇

岩野 稔　正五勳四　判事　金澤地方裁判所部長
長野縣人明治廿五年四月出生大正十五年家督相續同五年京都帝大法科法律學科卒業後辯護士トナリ米國コロンビア大學ニ學ビ同九年歸朝同十年任判事爾來熊本橫濱札幌釧路各地方裁判所判事同部長名古屋區兼同地方裁判所判事同部長名古屋控訴院判事等歷任昭和十七年五月現職ニ補ス家庭妻ツル(明廿七)男正大十二)二男直(同十三)三男尙(昭二)住金澤市同所內

岩橋 小彌太　正五勳五　史料編纂官　東京帝大史料編纂所勤務
京都府士族破鬼多長男明治十八年十月出生同廿六年家督相續同四十年國學院大學卒業京都帝大文科助手史料編纂官國學院明治各大學教授東京文理大講師兼任等ヲ經テ現職ニ就ク家庭妻ゆき(明十九、東京府岩崎きち妹)男宜一(同四二)女佐榮(大七)女裕(同十)四男正治(同十五)住杉並區天沼町三ノ八二三

岩橋 繁雄　正五勳五　大阪府立今宮中學校長兼教諭
和歌山縣常之丞ノ長男明治十八年一月五日出生同四十年廣島高師卒業新潟縣高田長野縣各師範教諭釜山海草高津各中學教諭大阪府立鳳中學同天王寺中學各校長等歷職後現職ニ就ク曩ニ歐米滿支ヲ視察ス趣味旅行スポーツ家庭妻季子(明廿五、和歌山縣山東重成三女縣立高女卒)嗣子剛(大十四)二女華子(昭四)住大阪市住吉區西長居町二一七電住吉二〇九五

岩淵 彰郎　從四勳三　檢事　福岡地方裁判所檢事正
栃木縣太郎平ノ三男明治十八年二月出生同四十四年東京帝大法科卒業大正二年任檢事爾來名古屋地方同區金澤區同地方東京區同地方新潟區同地方各裁判所檢事東京控訴院檢事姬路區裁判所檢事兼神戶地方姬路支部檢事等歷補昭和十一年宮崎地方裁判所檢事正同十二年六月高知地方裁判所檢事正同十四年長崎地方裁判所檢事正ヲ經テ同十六年五月現職ニ任ズ家庭妻キミ(明廿九、栃木縣鈴木長壽妹)長男康郎(大十五)女靜子(同七)女澄子(同十二)二男芳夫(昭四)住福岡市土手町官舍電西三〇三

岩部 成城　東京市養育院理事
香川縣龜士ノ男明治廿二年十月廿八日出生同四十一年高松商業卒業滿鐵撫順炭礦ニ入リ庶務主任機械課事務主任本社商工課庶務主任ニ歷勤昭和四年東京市主事ニ轉ジ電氣研究所第三課長社會局福利課長市民局庶務課長ヲ經テ現職ニ就ク趣味弓術家庭妻ヨシヱ(明卅九、香川縣三木右門三女高松高女卒)長男成仁(大十一)長女美彌子(同十四)二女富士子(昭二)二男一成(同四)住世田谷區經堂町一五五電世田谷四三三三

岩松 玄十　正四勳二　檢事　大阪控訴院檢事長
佐賀縣業義ノ六男明治十四年二月出生同四十四年分家同四十一年東京帝大法科英法科卒業司法官試補同四十三年任判事後檢事ニ轉ジ爾來奈良東京長野千葉各區同地方裁判所檢事千葉地方裁判所檢事正臺灣總督府法院檢察官橫濱地方裁判所檢事正東京控訴院檢事司法省行刑局長等歷補宮城長崎各控訴院檢事長ヲ經テ昭和十六年八月現職ニ補サル曩ニ大正十五年歐米各國ニ出張ス趣味圍碁撞球家庭妻ツナ(明廿二、佐賀縣伊丹誠一三女佐賀高女卒)長男愼太郎(大二)二男悌二郎(同五)住大阪市東區仁右衞門町官舍電東三九

岩松 五良　正五勳四　長崎高等商業學校長
東京府兼經ノ四男明治卅一年一月廿日出生大正十三年東京帝大法學部卒業爾來東京帝大講師海軍兵學校教官文部省社會教育官文部事務官同書記官實業學務局農業教育課長等歷任昭和十二年十一月普通學務局學務課長同十四年一月兼任大臣官房秘書課長同年九月文部省實業學務局長航海練習所長同十五年四月關東局在滿教務部長ヲ經テ同十七年一月現職ニ就ク趣味旅行水泳乘馬家庭妻フミ子(明卅六鈴木濟美三女府立第一高女卒)嗣子良(大十二)二男秀(同十五)住長崎市中川町官舍電一〇七八

岩松 三郎　從四勳四　判事　廣島地方裁判所長
東京府兼經二男明治廿六年十二月出生大正八年分家同六年東京帝大法科卒業司法官試補拜命任判事東京橫濱各地方裁判所判事東京控訴院部長大審院判事司法研究所指導官等ニ歷補昭和十七年一月現官ニ補セラル家庭妻ゆうこ(明卅六、愛知縣稻葉林之助養子)長男貞夫(大十三)二男益二(昭二)住廣島市幟町官舍電中三八一

岩松 觀義　正七勳七　地方警視　鹿兒島縣鹿兒島警察署長
鹿兒島縣士族明治廿六年六月廿六日出生同四十五年縣立第二鹿兒島中學卒業大正四年同縣巡查拜命同八年警部補同十三年任警部警察部警務課勤務大口伊集院各警察署長警察部特高課勤務昭和五年兼任同縣屬同十年川內警察署長翌年警察部保安課長歷任同十一年六月地方警視ニ任ジ川內警察署長同十四年六月警察部警務課長ヲ經テ現職ニ就ク住鹿兒島市鹿兒島警察署內

岩村 新　從五　理博　臺灣總督府工業研究所技師
兵庫縣正ノ長男明治廿年六月十一日出生大正二年東京帝大理學部化學科卒業金屬鑛業研究

所技師滿鐵中央試驗所職員東京帝大理學部囑託等歷勤地方商工技師愛知縣工業試驗場長等ヲ經テ昭和十六年十二月現職ニ就ク家庭妻可惠子（明廿八、岡山縣久山毅範長女清水谷高女卒）長男仁（大十二）長女榮子（同八、金城高女卒）二女百重（同十）三女明子（同十四）住臺北市幸町同研究所內

岩村清一 從四勳二 海軍中將 海軍艦政本部長
佐賀縣人故貴族院議員錦鷄間祗候定高ノ五男明治廿二年九月出生後分家ス同四十二年海軍兵學校卒業同四十三年任海軍少尉昭和十四年同中將ニ累進ス其間海軍大學卒業爾來檢艦長海軍省副官兼大臣秘書官英國大使館附武官軍令部參謀第一遣外艦隊司令部附同參謀軍令部出仕兼海軍省出仕矢矧阿武隈各艦長海軍省副官第三艦隊參謀長橫須賀鎭守府參謀長艦政本部總務部長軍令部出仕中華民國駐在武官海上某要職ヲ經テ昭和十六年十月現官ニ任ゼラル家庭妻美須代（明卅一、佐賀縣高木八尺養妹）長男一（大九）二女八重子（同十二）三男江三（昭四）住世田谷區北澤町二ノ六七

岩村俊雄 正五勳四 京城京畿中學校長
高知縣春次ノ長男明治十八年二月出生同四十三年東京高師本科博物科卒業鹿兒島縣立二中同師範京城釜山各中學京城第二高普各教諭朝鮮總督府編修官朝鮮公立師範學校長同府道視學官忠清南道內務部學務課長等經テ昭和十三年十月現職ニ就ク趣味運動水泳家庭妻熊枝（明廿八、高知縣有光庄八長女同縣立高女卒）嗣子正俊（大七）二女佳子（同十三）三女尙子（同十五）四女伸子（昭五）住京城府同校內

岩村成允 正五勳四 式部職御用掛
東京府成績長男明治九年六月出生同卅年外務省ニ入リ支那各地ニ歷勤爾來副領事奉天鄭家屯南京鐵嶺駐在領事支那公使館勤務公使館二等書記官外務省文化事業部勤務公使館一等書記官等ヲ經昭和八年退京同十一年五月現職ニ就ク趣味美術書道家庭妻浦子（明十二、何英吉姉）長男成正（大八、東京文化學院高等科卒）二男成典（同四）長女やす子（同八）住麻布區笄町一七六電赤坂五一〇七

岩村勝 從五勳六 鐵道調查部書記官 第四課長
兵庫縣正ノ四男同新ノ弟明治卅四年九月出生大正十四年東京帝大政治科卒業先是高文合格大鐵經理課出納科長名鐵主計掛長新潟鐵道局經理部長等ヲ經テ昭和十七年一月現職ニ就ク曩ニ在外研究員トシテ歐洲ニ出張被命獨國ニ在留ス趣味將棋スキー家庭妻百合枝（大九、双葉高女卒）住麹町區丸ノ內鐵道省內

岩村通世 從三勳二 檢事 司法大臣
故男爵岩村通俊五男岩村俊武ノ弟男爵岩村一木ノ兄明治十六年八月出生大正二年分家明治四十三年東京帝大法科法律科卒業任檢事司法省參事官兼秘書官檢事兼司法書記官歷任其間東京區兼同地方各裁判所檢事兼大臣官房秘書課長東京地方裁判所東京控訴院各檢事名古屋東京各地方裁判所檢事正歷職昭和十年司法省行刑局長同十二年大審院檢事次デ司法次官同十五年一月檢事總長ヲ經テ同十六年七月司法大臣ニ親任ス趣味書畫漢詩俳句家庭妻八重（明廿六、三宅猶之丞長女學習院女學部卒）長男通正（大二、京都帝大卒）二男竹俊（同十）三男敏通（同十二）四男保通（昭二）住杉並區荻窪二ノ一〇三電荻窪四一七八

岩元勝 正七 遞信局技師 仙臺遞信局工務部機械課長
鹿兒島縣人昭和十二年京都帝大工學部電氣工學科卒業遞信省ニ入リ工務局勤務名古屋遞信局豐橋工務出張所長ヲ經テ同十五年十一月現職ニ就ク住仙臺市多門通同局內

岩本薰 正六 地方事務官 大分縣學務部社會教育課長 青年教育官
山口縣人明治卅年一月六日出生大正七年山口縣師範學校本科同十三年東京帝大農學部農業教員養成所各卒業鳥取縣立日野農林學校教諭兼岩見實業學校長愛媛縣立宇和農業學校教諭兼舍監昭和九年大分縣實業補習學校教員養成所教官同十三年同縣立青年學校教員養成所長翌十四年同縣立大野拓殖農林學校長大野中學校長事務取扱ヲ經テ同十五年九月任地方事務官同十六年四月現職ニ就ク住大分市上野字律院四三八

岩本實 正七 北海道廳立室蘭商業學校長
千葉縣岩本尹次ノ長男明治卅二年二月七日同縣東葛飾郡木間ケ瀨ニ出生同四十五年家督相續ス大正十二年東京商大商業教員養成所卒業後靜岡縣清水商業及福島縣立福島商業各教諭ヲ歷任昭和十五年五月現職ニ就任ス趣味讀書旅行家庭妻ひき（明四十、靜岡縣村上喜平長女靜岡市不二高女卒）長男敬一（昭六）長女康子（同九）二女政子（同十）二男英二（同十三）三

男隆三（同十六）住室蘭市中島町二三〇電五一〇一

岩本啓治 從四勳四 橫濱高商敎授
愛知縣士族下方員蕭孫明治十九年八月出生同廿六年先代彌十郎ノ養子トナリ昭和六年家督相續明治四十四年東京高商專攻部保險科卒業三重縣立四日市商業教諭山口神戶各高商教授歷任大正十二年歐米ニ留學現時前記職ニ在リ趣味散步讀書家庭妻しな（明廿七、三重縣士族岩脇林之丞二女四日市高女卒）男治郎（大七）女英（同十一）三男龍平（同八）四女芳（同十五）住橫濱市中區南太田町二ノ一一九一

岩本茂一 正五勳五 福島縣師範學校長
山口縣竹之進長男明治十七年出生同四十三年東京高師卒業札幌一中和歌山師範各教諭和歌山縣立新宮同伊都各中學校長昭和十年熊本縣女子師範學校長ヲ經テ同十五年五月現職ニ就ク趣味柔道家庭妻ヨシ子（明廿八、山口縣岡半七郎二女厚狹高女卒）長男義一（大六、慶大卒）二男徹（大九、明治學院在）住福島市同校內

岩本晉一郎 從六 都市計畫地方委員會事務官兼地方事務官 福岡縣學務部學務課長
岐阜縣人明治卅六年十一月二日出生昭和五年中央大學卒業同八年高文合格同五年商工省同九年山梨縣商工課同十二年山形縣商工課各勤務歷任同十三年任地方事務官岩手縣社會課長商工課長經濟統制課長ヲ經テ同十七年一月現職ニ就ク趣味登山野球家庭妻智子（明四二、岐阜縣高山高女卒）住福岡市西新町百道縣官舍電西四九六七

岩本忠 從四勳四 樺太廳中央試驗所技師 宇遠泊支所長
東京府士族正一郎二男明治廿二年八月出生兄熊雄ノ養子トナル大正四年東北帝大農科農學科卒業樺太廳技手同農事試驗場技手同技師ヲ經テ昭和四年中央試驗所技師ニ任ジ現時宇遠泊支所長タリ家庭養父熊雄（明四）養母すゞ（同十三）妻英（同卅四、北海道東海林長治孫）長男達雄（大十二）女啓子（同十一）二女正子（同十四）二男忠雄（同十五）三男剛雄（昭三）住樺太豐原郡豐北村中央試驗所內

岩淵（イハブチ）**顯也** 正七 地方事務官 廣島縣學務部職業課長
大阪府人明治卅三年十一月八日東京市ニ出生昭和三年關西大學專門部法科卒業同八年高文合格ス先是同三年社會局屬拜命同十三年一月厚生屬同年六月任地方事務官靜岡縣職業課長ヲ經テ同十六年十二月現職ニ就任ス趣味園碁家庭妻くに、長男允嗣（昭九）二男尹嗣（同十一）長女文子（同八）住廣島市舟入川口町九一五ノ一電西三五九五

院能亮一 從七 地方事務官 大阪府西淀川健康保險出張所長
廣島縣人明治卅四年四月十日出生大正十年第一高校ニ學ビ更ニ同十三年明大法科專門部ニ學ビ復興局土木部事業手拜命昭和三年社會局健康保險署書記補同四年同上書記後廣島縣屬健康保險課勤務同十二年內務屬醫務課勤務ヲ經テ同十六年九月任地方事務官現職ニ就ク住大阪市西淀川區同所內

井上誠一 正五勳六 鐵道監察官 大臣官房考查室附
愛媛縣人明治卅年六月二日出生大正十三年京都帝大工學部土木工學科卒業鐵道省ニ入リ昭和二年任鐵道局技師兼鐵道技師東京鐵道局勤務同十年鐵道技師工務局勤務同十二年門司鐵道局工務部改良課長同十四年熊本工事事務所計畫課長翌年兼同工事課長等歷任同十七年四月現職ニ就ク住麹町區丸ノ內鐵道省內

伊藤泰司 正六 地方視學官 佐賀縣學務部學務課長
東京府人明治卅八年三月十四日出生大正十三年弘前高校昭和二年東京帝大文學部社會學科各卒業佐賀師範翌年同女子師範各教諭同十五年同附屬小學校主事同年七月同縣本庄小學校長等經テ同十七年四月任地方視學官現職ニ就ク住佐賀市佐賀縣廳學務部內

伊吹山太郎 從七 厚生技師 職業局勤務
東京府人明治廿七年十月廿三日出生大正十四年弘前高校昭和四年京都帝大文學部哲學科各卒[illegible]同大學院ニ學ビ同七年同大學文學部副手[illegible]九年東京市淺草女子商業教諭同十三[illegible]軍人職業指導所勤務同十五年任[illegible]東京府職業課勤務ヲ經テ同十七年三月現職ニ就ク住小石川區白山御殿町一二七

石戶谷千城 從七勳八 青森縣知事官房文書課長兼秘書係
青森縣人明治廿九年十二月一日出生大正八年同縣屬拜命翌年東津輕郡書記同十五年縣屬昭和四年兼任警部同十六年現職ニ就ク家庭妻キタ（明卅七）長男竹城（昭九）長女せつ（大十四）二女みつ（昭二）三女弘子（同十四）住青森市大野北金澤一六八

ウの部

宇井伯壽　從四勳三　文博　東京帝大教授　文學部勤務
愛知縣人明治四十二年東京帝大文科印度哲學科卒業曹洞宗大學慶應大學各講師ヲ經テ現職ニ就ク住淀橋區諏訪町二三二電牛込一二二六

宇井義夫　正五勳五　稅務監督局書記官　熊本稅務監督局總務部長
東京府人明治廿六年出生高文合格千葉稅務署長熊本稅務監督局經理部長稅務監督局書記官同稅務監督局直稅部長ヲ經テ昭和十四年四月現職ニ就ク住熊本市京町本町官舍電一二一九

宇賀神誠　正八勳八　地方警視　栃木縣警察部經濟保安課長
栃木縣人善次ノ二男明治卅年七月十日出生大正九年同縣巡查拜命爾來累遷昭和十年任警部川西大田鹿沼各警察署長歷職同十四年刑事課長ヲ經テ同十六年三月任地方警視現職ニ就ク趣味乘馬碁家庭妻はな（明四一、栃木縣大木一郎二女栃木高女卒）住宇都宮市塙田町縣廳公舍電四三四七

宇賀田順三　正五勳四　九州帝大教授　法文學部勤務
茨城縣新次郎三男明治卅一年八月出生大正十二年東京帝大法學部政治科卒業先是高文ニ合格文部省在外研究員被命渡獨留學ス現時九州帝大教授タリ住福岡市草ケ江本町二ノ一五六電西一七二八

宇川濟　從三勳二功五　海軍中將　久邇宮別當
長野縣士族榮次郎二男明治十二年十二月出生昭和七年分家明治卅三年海軍兵學校卒業任海軍少尉昭和三年海軍中將ニ累進其間八雲榛名各艦長吳海軍鎭守府人事部長橫須賀鎭守府參謀長第一遣外艦隊司令官第五戰隊司令官海軍々令部出仕等歷補同五年豫備役被仰付同十年別當ニ任ズ趣味運動家庭妻ろく（明十九）嗣子毅（同四二）女和子（同四四）住神奈川縣大船町字山之內一四一五電鎌倉一六八八

宇川春景　從五勳六　大藏書記官　會社部總務課長
福島縣久衞ノ男明治卅四年九月十八日出生大正十四年東京帝大法學部英法科卒業大藏省ニ入リ累進大藏書記官中華民國米國各駐在昭和十四年大藏書記官大臣官房財政經濟調查課長同十五年理財局監查課長ヲ經テ同十六年七月現職ニ就ク家庭妻美代子（明卅八、前福岡市長久喜庸夫長女京都府立第一高女卒）長男秀幸（昭六）二男弘毅（同十一）住麴町區九段四ノ八ノ五電九段三三一八

宇喜多景家　正七　地方事務官　兵庫縣知事官房文書課長
兵庫縣木下典家ノ二男明治廿七年十一月廿五日出生二歲ニシテ承祖相續シ大政官裁令ニ基キ許可ヲ得中祖ノ氏宇喜多ニ復姓ス元鄕士家筋由緖アリトシ昭和八年士族ニ編入セラル大正八年關西大學專門部法律學科卒業同年大阪府屬拜命內務部會計課勤務同十年兵庫縣屬產業部農務課內務部農務課同社會課學務部社會課土木部河港課同庶務課經濟部農政課歷勤昭和十四年一月任地方事務官同縣地方課長ヲ經テ現職ニ任ズ住明石市大藏谷淸水電明石五一九（呼出）

宇佐川秀　從六　陸軍司政官
東京府濟ノ二男明治卅七年五月廿四日出生大正十四年第一高校ヲ經テ昭和四年東京帝大農學部經濟科卒業神奈川縣立農林教諭拜命同八年高文行政科合格同九年任農林屬同十年任地方農林主事神奈川縣勤務同十四年任地方事務官三重縣農務課勤務同十六年二月同縣水產課長兼農務課長同十七年三月三重縣書記官經濟部長トナリ次デ現官ニ任ズ趣味園碁將棋家庭妻千枝子（明四四、東京府末常共介二女聖心女子學院卒）女美紀子（昭十）男進（同十一）男幸治（同十六）住在南方現地

宇佐美珍彥　從四勳三　興亞院部長　經濟部長
長野縣和太郎二男明治廿六年十一月廿七日出生大正七年東京帝大法科政治科卒業農商務省商工局ニ奉職次デ外務省ニ轉ジ爾來累進外務事務官條約局第一課勤務亞細亞局第一課勤務領事安東在勤外務書記官通商局第二課長總領事兼臺灣總督府事務官總領事奉天在勤等歷任昭和十二年四月大使館參事官兼務府總領事國際聯盟帝國事務局次長同十三年九月大使館參事官獨國在勤同十五年一月特命全權公使エジプト國駐劄ヲ經テ同年十二月現職ニ任ズ家庭妻虎惠（明卅、長野縣宮下一雄三女同縣立飯田高女卒）嗣子和彥（大九）二男嘉彥（昭二）三男高彥（同四）住世田谷區松原町四ノ二三九電松澤三八四七

宇佐美鑛一　正五勳四　醫博　名古屋帝大教授　醫學部勤務
愛知縣小八郎三男明治廿三年十一月出生同四

十二年鶴三郎ノ養子トナル愛知醫專卒業名古屋帝大助教授ヲ經テ昭和十五年三月教授ニ任ズ大正十年學位ヲ受ケ嚢ニ獨墺ニ留學昭和十六年八月滿洲國及中華民國ヘ出張ス家庭妻はな(明廿九)女都子(大六)女靖子(同七)女勢矣(同九)女嘉那(同十三)任名古屋市東區葵町三四電東一四五八

宇佐美 毅 正六 內務書記官兼鐵道書記官 國土局總務課長兼河川課長

山形縣勝夫三男明治卅六年十二月九日東京市ニ出生昭和三年東京帝大法學部政治學科卒業高文合格千葉縣屬爾來同縣社會課長地方事務官栃木縣商工課長兼地方課長庶務課長愛知縣社會課長兼地方課長內務事務官神社局總務課長代理等歷任昭和十五年一月內務大臣秘書官兼內務事務官大臣官房勤務內務事務官專任ヲ經テ同十六年一月鳥取縣書記官警察部長トナリ同十七年一月現職ニ就ク趣味玉突將棋家庭妻美智子(大二、香川縣久保隆三二女女子學習院卒)任世田谷區世田谷二ノ一九八六

宇佐美定治 職業主事 舞鶴國民職業指導所長

東京府士族明治卅三年一月一日出生大正十五年早大商學部卒業日清汽船株式會社ニ入社支那漢口支店勤務退社後任京都市書記伏見七條各職業紹介所勤務昭和十三年現職ニ就ク任京都府加佐郡舞鶴町同所內電二

宇田 儉平 正七 地方事務官 熊本縣學務部學務課長

高知縣人彌壽滿ノ二男大正元年十一月十四日出生昭和七年高知高校同十年東京帝大法學部政治學科各卒業同十二年高文合格同十三年福岡縣屬拜命總務部地方課勤務同十四年五月任地方事務官奈良縣地方課長同十五年衆議院書記官同院事務局會計課長ヲ經同十六年五月現職ニ就ク任熊本市南千反畑町公舍電一三六五

宇田新太郎 正五勳四 工博 東北帝大教授 工學部勤務

富山縣人榮松長男明治廿九年六月出生大正十三年東北帝大工科電氣科卒業同大學ニ奉職嚢ニ歐米ニ留學昭和六年學位ヲ受ク家庭妻祐子(明卅八)任仙臺市米ケ袋廣丁二八

宇田 道隆 從五勳六 理博 水產試驗場技師

高知縣人明治卅八年一月十三日出生昭和二年東京帝大理學部卒業同年水產講習所技手拜命同三年入營同四年任陸軍砲兵少尉同年二月水產講習所技師ニ任ジ現在ニ及ブ趣味讀書家庭妻計子(明四三、高知縣人市原氏長女日本女大卒)長男朋之(昭七)二男東平(同八)任世田谷區玉川奧澤町三ノ一〇三〇

宇田川興三郎 從六 醫博 厚生技師 人口局勤務

東京府人小三郎二男明治廿六年七月出生大正十五年家督相續同十三年東京帝大醫學部小兒學科卒業同仁會青島醫院小兒科勤務ヲ經テ現時前掲勤務タリ嚢ニ醫博ノ學位ヲ受ク家庭妻シズ(明卅一、東京府神田傳右衛門四女)長男兼義(大八)任中野區天神町二〇

宇都宮孝平 正五勳四 內閣東北局長

愛媛縣人直七ノ三男明治卅年五月出生大正十三年家督相續同十一年高文行政科合格同十二年東京帝大法科政治科卒業任東京府屬爾來地方警視兵庫縣勤務社會局事務官調停官內務事務官警保局勤務地方事務官兵庫縣勤務青森縣書記官學務部長等歷任昭和十年賞勳局書記官審查課長ヲ經テ同十四年現職ニ就任ス同十一年歐米各國ニ出張セリ家庭母シツヤ(明四、愛媛縣士族高橋元眞長女)妻アヤ子(同卅六、同縣鷲野紹三郎孫濟美高女卒)長男弘之(昭五)長女湿子(大十五)二女貞子(昭三)二男良治(同九)任豐島區高田本町一ノ三四四電牛込四七五七

宇都宮信綱 從七 地方警視 埼玉縣警察部警務課長

東京府人大正四年七月廿四日出生昭和十一年第一高校ヲ經テ專修大學及東京帝大法學部ニ學ビ同十四年高文行政科合格翌十五年任厚生屬體力局勤務ヲ經テ同十六年四月任地方警視現職ニ就ク任浦和市仲町縣公舍電區內一一二

宇野 圓空 正五勳六 文博 東京帝大文學部助教授 東洋文化研究所員

東京府淸空男明治十八年十一月出生同四十三年東京帝大文科哲學科卒業更ニ京都帝大ニ研究東京帝大講師ヲ經テ昭和四年現職ニ就ク家庭妻さい(明十八、海野敏行女渡邊裁縫女學校卒)長男圓次(同四四)二男文夫(大四)三男香取(同七)任本鄕區駒込神明町三四一

宇野 勝房 正七 地方事務官 山梨縣學務部社會教育課長

長野縣人明治卅九年十月十日出生昭和六年東京高師體育科卒業靜岡師範教諭縣立青年學校教員養成所教授囑託歷補同十三年任體育運動主事山梨縣學務課兼社會課兼秘書課同十五年兼社會教育課勤務ヲ經テ同十六年五月任地方事務官現職ニ就ク任甲府市疊町一七

宇野喜代之介 正五勳五 東京府立高等學校長

茨城縣人大正七年東京帝大文科獨文學科卒業山形高校教授ヲ經テ昭和十一年任文部省督學官同十六年九月現職ニ就ク任世田谷區烏山町六四五

宇野 三郎 正五勳五 東京府立化學高等工業學校長兼東京府立化學工業學校長

福岡縣村山喜三次ノ三男明治十三年二月十五日出生同縣士族宇野作茂ノ養子トナル同四十年東京高工應用化學科卒業文部省實業學務局ニ勤務大正二年朝鮮總督府技師ニ任ジ工業及工業教育調查視察ノタメ歐米ニ出張翌年歸朝朝鮮總督府高等工業學校創立ニ參畫シ同九年東京府立化學工業校長トナリ同十七年二月現職ニ任ジ勅任官ヲ以テ待遇セラル趣味圖書釣魚家庭妻イネ(明十五、福岡女子師範卒)長男道夫(同四十)同妻靜子(大六、沼津高女卒)二男健一(同四一)同妻淺子(大四、福岡高女卒)三男茂人(大四)三女爲子(同九)任本鄕區上富士前町五電大塚五二三九

宇野宋次郎 從五 拓務書記官 拓北局滿洲國出張職員

佐賀縣人大正十五年東京帝大法學部英法科卒業高文合格臺灣總督府地方警視臺北州警察部警務課長同地方理事官臺北州內務部地方課長拓務事務官大臣官房調查課勤務ヲ經テ昭和十四年現職ニ就ク任新京特別市大同大街康德會館滿洲拓殖委員會事務局氣付

宇野 友八 從五勳六 朝鮮總督府道事務官 平安北道內務部長

福井縣茂右衛門長男明治卅年十一年三日出生大正十四年高文行政科合格朝鮮總督府ニ入リ黃海道學務課長黃海道慶尙北道各地方課長馬山府尹大邱地方專賣局長專賣局鹽蔘課長等歷職昭和十三年七月專賣局事業課長道事務官慶尙南道內務部長ヲ經テ同十五年四月現職ニ就ク家庭妻萬壽子(明廿九、京都府山田松二郎二女同志社高女卒)長男一己(昭四)長女るり(同二)二男陽(同六)三男耕兒(同十)四男徹(同十二)二女玲(同十二)任新義州府櫻町官舍

宇留島喜六 正五勳四 朝鮮公立光州東中學校長

大分縣卯市ノ長男明治十六年二月出生同四十一年廣島高師物理化學科卒業水原高農教授京城第一高普教諭釜山高女羅南新義州各中學各校長歷職昭和十一年現職ニ就ク趣味謠曲家庭妻タツ(明廿八、大分縣竹越龜太郎二女大分女師卒)嗣子喜英(大十)任光州府昭和町同校長官舍電二六二

鵜飼 喜平 從五勳五 滋賀縣立神崎商業學校長

岐阜縣人加藤要治三男明治十七年三月十四日出生鵜飼郁郎ノ養子トナル同四十二年東京高商敎員養成所卒業長岡沼津大津各商業教諭長濱商業校長ヲ經昭和八年現職ニ就任ス家庭妻志津(明廿三、養父郁郎長女岐阜高女卒)長男卓郎(大三、東北帝大化學科卒)二男義郎(大七名古屋高商卒)任滋賀縣神崎郡北五箇莊村

鵜飼 貞二 正五勳五 藥博 金澤醫大附屬藥學專門部教授 同主事

東京府人大正十年東京帝大藥學科卒業熊本藥專生徒主事兼教授ヲ經テ昭和十四年四月現職ニ就ク嚢ニ歐米ニ留學同六年學位ヲ受ク任金澤市上鶴間町電四一六九

鵜川 益男 從六 食糧管理局事務官

大阪府人明治四十四年九月廿五日出生昭和九年高文行政科同司法科合格翌年東京帝大法學部法律學科卒業同十一年農林屬兼馬政局屬翌年任農林事務官兼馬政局事務官經濟更生部勤務同年專任馬政局事務官同十四年五月農林事務官兼商工事務官農務局勤務ヲ經テ同十六年一月現職ニ就ク任四谷區南伊賀町三

鵜崎 多一 從五 農林技師 農政局勤務

兵庫縣士族明治卅八年三月四日出生大正十四年第二高校ヲ經テ昭和三年東京帝大農學部農業經濟學科卒業農林省ニ入リ同八年農林技師ニ任ジ農務局勤務同十二年企畫院調查官同十四年農林技師同十五年興亞院調查官經濟部第一課兼文化第一課勤務ヲ經テ同十六年十二月再ビ現職ニ就ク任東京府北多摩郡武藏野町吉祥寺二二一四

薗田 茂丸 從四勳三 官幣大社橿原神宮々司

福岡縣々社高倉神社々家薗田千秋二男明治五年一月出生同卅三年國學院大學卒業氷川神社禰宜國幣中社寒川神社國幣小社沼名前神社官幣大社橿原神宮各宮司神宮少宮司等歷任昭和十二年再ビ橿原神宮々司被仰付趣味讀書篆刻家庭妻マサ(明十六、福岡縣士族佐々川甫二女)嗣子俊彥(明四四、國學院大學卒)二男彌彥(大八、同大卒)五女久子(大十五)任奈良縣高市郡畝傍町電一一

上井 榮吉 正五勳五 地方技師 京都府土木部長

鹿兒島縣士族助熊ノ長男明治廿八年四月十五

日田生大正九年東京帝大工學部土木工學科卒業内務技師復興局技師地方技師兵庫縣土木技師兼道路技師土木部河港課長ヲ經昭和八年三重縣土木課長ニ任ジ同十四年土木部ニ昇格同部長トナリ同十七年二月現職ニ就ク趣味スポーツ家庭妻倘子（明卅五、埼玉縣寺崎定吉長女熊谷實科女學卒）長男兼倘（大十三）二男兼久（同十五）長女俊子（昭三）三男兼昭（同五）住京都市左京區吉田近衞町官舍電上三二二〇

上本　隆基　従四勳六醫博　大阪鐵道病院副院長兼外科醫長

福井縣人粲順ノ二男明治十九年五月出生同卅九年家督相續同四十一年金澤醫專卒業東京鐵道病院外科醫員拜命神戸鐵道病院外科醫長同副院長外科醫長ヲ經テ大正十一年歐洲各國ニ留學歸朝後神戸鐵道病院勤務昭和九年十二月現職ニ就ク大正十五年學位ヲ受ク家庭妻しげ（明十八、福井縣小玉彌助四女）男隆一（同四三）三男隆夫（大九）住大阪府中河内郡龍華町安中四二四ノ一電八尾四七一

上島　定雄　従五勳六　電氣廳技師　第二部勤務

三重縣駒之助ノ男明治卅七年十月十八日出生昭和二年東京帝大工學部電氣工學科卒業遞信省ニ入リ遞信技師兼遞信局技師電氣局兼東京地方遞信局勤務ヲ經テ同十四年現職ニ就ク趣味讀書家庭父駒之助（明十）母とゑ（同十三）妻道代（同四二、京都府遠藤外三郎女同志社高女卒）嗣子正義（昭十三）長女和子（同八）住淀橋區西大久保四ノ一七〇電四谷六六〇九

上島　清二　正五勳四　財務局事務官　仙臺財務局業務部長

島根縣喜一郎二男明治十六年八月出生同四十三年先代美子ノ入夫トナリ家督相續同卅八年裁判所書記試驗合格税務署屬大藏屬大正十二年任司税官沼津伊丹前橋品川京橋各税務署長ヲ經テ昭和十七年二月現職ニ就ク家庭養母トメ（明八、島根縣渡部半兵衞四女）妻美子（明廿四、松江高女卒）男隆（大十）女靜枝（同二、沼津高女卒）五女富枝（同十三）二男誠（昭二）住仙臺市仙臺財務局内

上田　明　従七　地方警視　宮城縣警察部警務課長

福井縣三平ノ二男大正四年十一月三日出生昭和十二年靜岡高校卒業同十四年高文合格翌年東京帝大法學部政治科卒業山口縣屬拜命同十六年任地方警視現職ニ就ク家庭妻和子（大十一、篠田重道長女三輪田高女卒）住宮崎市花殿町三ノ二電五二七

上田　兼二郎　従四勳四　大阪高校教授

京都府多三良ノ長男明治十七年五月廿九日出生第三中學校教諭大阪アルカリ研究所長ヲ經テ大正十一年現職ニ就ク趣味スポーツ謠曲家庭妻タツノ（明廿五、京都府田中莊吉郎長女京都女子師範卒）住大阪市住吉區山阪町四ノ六〇電天王寺一六二四

上田　幸治　正五勳五　臺灣總督府法院判官　新竹地方法院長

山口縣人大正六年明大法科卒業臺灣總督府ニ入リ臺北地方法院會議部長兼單獨部判官昭和十五年三月高等法院覆審部長等歷任同十七年三月現職ニ就ク住新竹市表町同法院官舍

上田　晴南　正五勳四　大阪外國語學校教授

島根縣辰次郎長男明治十九年十二月出生廣島高師卒業同教諭鹿兒島加治木市岡各中學教諭大阪高商教授歷職大正十三年現職ニ就ク曩ニ英米獨ニ留學ス趣味音樂家庭妻米子（明廿一）嗣子辰夫（大五）二女茂枝（同三）住豐中市東豐中町三四電三四四七

上田　剛　従四勳五　福岡師範學校長

大分縣實三郎四男明治十九年七月出生同四十四年先代挺策ノ養子トナリ家督相續同四十一年東京高師國語漢文科卒業爾來鹿兒島縣立加治木中學廣島縣立廣島高女熊本縣女子師範愛知縣立第一高女各教諭名古屋市視學鹿兒島縣女子師範校長同縣立第二高女校長京都府女子師範校長兼同府立桃山高女校長等歷任昭和十四年長崎縣師範學校長ヲ經同十七年現職ニ就ク家庭妻武子（明廿五、大分縣陸軍歩兵大佐上田孝臣長女土佐高女卒）男出（大元）住福岡市荒戸町同校内

上田　俊次　正六勳四　海軍機關中佐　情報局情報官　第五部第三課長

住目黑區碑文谷二ノ一〇四五電荏原六六六四

上田　誠一　正五勳四　内務省防空局長

石川縣士族誠文ノ長男明治卅一年十一月十日出生大正二年家督相續同十年高文合格翌十一年東京帝大法學部獨法科卒業宮城縣屬同警視地方警視宮城兵庫京都各府縣勤務警視廳警視特別高等課長同廳部長衞生部長等歷任領事兼内務書記官上海在勤次デ昭和十一年四月警視廳部長特別高等警察部長同十二年七月千葉縣書記官總務部長同十四年四月大阪府書記官經濟部長同十五年青森縣知事ヲ經テ同十七年一月現職ニ就ク趣味乘馬繪畫家庭妻初生（明卅

石川縣神野和三郎長女奈良女高師卒）長男誠吉（大十五）長女澄子（同十四）二男誠也（昭四）二女晴子（同十一）住東京府北多摩郡武藏野町吉祥寺七八ノ六電吉祥寺一四五八

上田　忠雄　従六　地方視學官　埼玉縣學務部勤務

石川縣士族明治卅六年十月廿九日金澤市ニ出生昭和五年家督相續成蹊實業專門學校次デ昭和四年京都帝大文學部哲學科卒業茨城縣師範大阪府天王寺師範各教諭長野縣師範附屬小學校主事等ヲ經テ地方視學官ニ任ジ滋賀縣學務部勤務昭和十六年四月現職ニ及ブ住浦和市常盤町六ノ二三

上田辰之助　従四勳三　經濟學博　東京商大教授兼同附屬商學專門部教授

東京府人芳藏ノ二男明治廿五年二月出生昭和五年家督相續大正三年東京高商本科同五年同校專攻部貿易科各卒業同六年任同校教授米英佛各國ニ留學昭和七年加奈陀及北米ニ出張同十年學位ヲ受ク趣味讀書旅行家庭妻アヤ（明卅七、東京府加藤幹實三女）住東京府北多摩郡武藏野町吉祥寺五六九電吉祥寺四三一

上田　感邁　従七　水產講習所教授

福岡縣人明治卅三年三月十三日出生昭和五年中央大學專門部法律科卒業同六年高文行政科合格從是先大正十四年農林省ニ入リ昭和八年農林屬大臣官房會計課勤務同十二年農務局兼會計課勤務同十五年八月任農林理事官水產局勤務同十七年四月現官ニ就キ同年五月農林理事官ヲ兼任ス住板橋區練馬南町一ノ三四二五

上田　常吉　従四勳三　京城帝大教授　醫學部勤務

大阪府人丑之助ノ三男明治卅年七月出生大正三年分家ス同五年東京帝大醫科解剖學科卒業同六年同大學醫學部助手ヲ經テ京城帝大教授ニ任ジ昭和十年醫學部長ニ補サル大正十二年解剖組織研究ノ爲英米獨各國ニ留學ス趣味園藝家庭妻てる（明卅一、京都府高見岩藏長女大阪府立夕陽丘高女卒）長男晶（昭十）長女則子（同二）二女康子（同五）三女朝子（同七）住京城府惠化町二二ノ一六電光化門二七九五

上田篤次郎　従四勳四　東京高等商船學校教授兼地方海員審判所審判官兼海務局技師　橫濱海務局在勤

和歌山縣人又次郎ノ二男明治廿年六月出生大正六年分家ス明治四十五年商船學校機關科卒業現時前記ノ任ニアリ曩ニ大正十五年英獨ニ留學海軍豫備大尉タリ趣味旅行寫眞家庭妻文子（明卅三、岡山縣江見馬太郎二女神戸女學院大學部卒）長男克也（大八）二男亮爾（同十二）三男倘明（昭七）長女千枝子（同十一）住板橋區中新井町一ノ五九二電練馬六四七

上田　彦三　勳八　北海道廳技手　檜山營林區署長

北海道上田豐治郎ノ三男明治卅一年八月四日札幌市ニ出生大正十年北海道帝大林學部實科卒業同年任北海道廳技手札幌營林區署勤務昭和七年室蘭營林區署次席ヲ經テ同十二年七月現職ニ就任ス趣味魚釣園藝家庭妻みや（明卅八、區立小樽高女卒）長男健治（昭六）二男敏秋（同七）二女歌子（同九）住北海道江差町官舍電一〇一

上田　秀晴　正六　青森縣書記官　警察部長

宮城縣人明治卅三年八月卅一日出生大正十五年早大英法科卒業高文合格同年社會局ニ入リ昭和四年兵庫縣屬拜命同八年任地方警視高知縣警察部勤務同九年退官滿洲國警務廳警務科長同十一年之ヲ辭シ任地方事務官宮崎縣農務地方規畫各課長同十三年八月任地方警視長崎縣特高課長兼外事課長神奈川縣外事課長歷任同十六年一月内務事務官兼外務事務官警保局外事課勤務ヲ經テ同十七年一月現職ニ就任ス住青森市大野長島電二一〇三

上田昌之助　正五勳五　拓務書記官　大臣官房秘書課勤務

福井縣人明治十三年一月八日福井市ニ出生通信書記遞信屬航路標識管理所看手同書記拓務屬歷任昭和十年拓務理事官大臣官房秘書課勤務ヲ經テ同十六年十二月現職ニ就ク家庭妻壽（明十五）嗣子威夫（明廿九、東京高商卒）女昌子（大九）住瀧野川區瀧野川町五〇二電王子四四一一

上田　操　従四勳四　判事　大審院判事

東京府人大正五年京都帝大獨法科卒業神戸地方裁判所判事東京控訴院判事東京區裁判所監督判事青森地方裁判所長ヲ經テ昭和十六年十月現職ニ就ク住麴町區霞ケ關同所内

上田　光曙　従四勳四　樺太廳師範學校長兼教諭

大分縣乙市ノ二男明治十九年十二月廿一日出生同四十三年東京高師本科博物科卒業爾來鹿兒島縣立第二高女兼同縣師範各教諭大分縣師範教諭附屬小學校主事愛媛縣視學宇和島高女大洲中學各校長兼教諭樺太廳眞岡兼豐原各中學校長兼教諭ニ歷任昭和十四年四月現職ニ就ク趣味俳句家庭妻榮枝（明廿六、大分縣濟口書

十郎二女ランバス女學院卒)二男光隆(大七、東京帝大農學部卒農林省勤務) 住樺太豐原市東八條南八丁目官舍 電二七八七

上田 基之資 從七 地方事務官 高知縣總務部庶務課長
東京府人德藏ノ三男明治四十三年三月廿五日出生昭和十年中央大學法學部卒業同十三年高文合格神奈川縣屬拜命同十五年二月任地方事務官高知縣物資調整課長ヲ經同十六年三月現職ニ就ク 家庭 妻道子(大八、加藤守道長女東京高女卒) 住高知市丸ノ內縣公舍 電八八九

上田 穰（ユタカ） 正四勳三 理博 京都帝大教授 理學部勤務
德島縣人慶藏長男明治廿五年二月出生大正五年東京帝大理科星學科卒業臨時緯度觀測所技師京都帝大助教授ヲ經テ現時教授タリ昭和四年學位ヲ受ケ次デ獨英米各國ニ留學同九年南洋同十六年中華民國ニ各出張ス 趣味 弓道 家庭 妻テルヱ(明卅三、德島縣近藤藤三郎五女) 男正康(大八) 住京都市左京區吉田本町一二 電上六一八七

上田 [illegible] 正七 社會事業主事 熊本縣學務部社會課長
熊本縣人政次ノ二男明治廿八年九月七日同縣玉名郡南關町ニ出生昭和五年家督ヲ相續ス同二年日本大學ヲ卒業同三年熊本縣立商業學校教諭兼舍監ニ任ジ同九年熊本縣社會事業主事補ヲ經テ同十二年十月任社會事業主事同十三年七月現職ニ就ク 趣味 テニス 家庭 妻モル(明卅一、上林高女卒)長男裕(大十三、縣立農業學校卒)二男亨(昭三) 三男諒(同五)四男光(同八) 住熊本市出水町國府一七七三 電八七五

上田 [illegible]一 正五勳五 地方技師 富山縣土木部長
愛知縣人明治廿四年十一月十四日出生大正六年京都帝大工科土木科卒業名古屋市技手同技師都市計畫地方委員會技師長崎縣勤務道路技師兼土木技師廣島兵庫各縣土木部道路課長兼軌道課長奈良和歌山各縣土木課長等歷任昭和十年地方技師千葉縣土木課長ヲ經テ同十五年現職ニ就ク 住富山市舟橋南町官舍 電三〇三六

上地 [illegible]義 從五勳五 宮崎縣女子師範學校長
高知縣人治三郎二男明治廿二年十二月廿二日出生大正三年東京高師卒業和歌山師範長崎京都各師範教諭秋田女師範校長ヲ經テ昭和十二年現職ニ就ク 趣味 謠曲 家庭 妻シヅ子(高知縣古立氏女)嗣子義郎(大十三)長女聰子(同五、秋田高女專科卒)二女明子(同八)三女敏子(同九) 住宮崎市船塚町

上塚 弘 從五勳六 熊本縣書記官 經濟部長
熊本縣人秀勝ノ長男明治卅七年二月廿八日出生大正十二年第五高校卒業同十三年高文合格同十五年東京帝大法學部政治學科卒業北海道廳ニ奉職爾來地方警視千葉茨城各縣保安課長警視廳警視交通課長地方事務官廣島縣社會課長工場課長兼任地方課長庶務課長兼知事官房主事神奈川縣庶務課長兼秘書課長等ニ歷任昭和十三年宮崎縣書記官學務部長同十五年四月福島縣書記官學務部長ヲ經テ同十六年五月現職ニ就ク 趣味 讀書ゴルフ 家庭 妻庇佐子(明四二、福岡縣藤井誠造長女東京府立第三高女高等科卒)長男滿(昭七)長女由李子(同九) 住熊本市南千反畑町公舍 電二三二五

上床 國夫 正五勳三 理博 東京帝大教授 第一工學部勤務
鹿兒島縣士族國彥ノ長男明治廿七年十二月出生同卅七年家督相續大正十一年東京帝大理學部地質學科卒業大學院ニ入リ同大學講師北海道帝大助教授同教授歷任曩ニ歐米各國留學昭和六年理博トナル 家庭 妻サヱ(明卅六、鹿兒島縣折田一郎四女跡見女學卒) 男珍彥(大十五)二女道子(昭四)三女美惠子(同十四) 住牛込區南榎町五 電牛込六八四〇

上濱 朗 正五勳五 中央航空研究所技師 建設部營繕課長
奈良縣浩ノ弟明治卅年六月九日出生大正十一年東京帝大工學部建築學科卒業遞信技手拜命同十二年任遞信技師經理局勤務同十五年十月兼任航空局技師ヲ經テ同十六年七月現職ニ任ズ 住澁谷區原宿二ノ二〇九 電青山五一六〇

上野 一晴 從四勳三 醫博 金澤醫大教授
熊本縣人一馬ノ六男明治廿六年三月出生大正十四年分家ス同七年東京帝大醫科卒業同大學助手ヲ經テ現職ニ就ク曩ニ同九年昭和七年歐米ニ出張大正十四年學位ヲ受ク 趣味 スポーツ 家庭 妻順(明卅八、岡山縣守屋信姉岡山高女卒)男賢一(昭二) 住金澤市山崎町五ノ一〇 電四六三〇

上野 幸七 從六 商工書記官 總務局總務課長兼調查課長
島根縣人明治卅九年十二月十五日出生昭和六年高文行政科合格翌年東京帝大法學部法律科卒業同八年商工屬兼保險事務官同十年商工事務官貿易局勤務同十二年貿易局事務官第一部

勤務翌年臨時物資調整局事務官兼商工事務官同年商工事務官兼臨時物資調整局事務官歷任貿易局事務官總務課兼第一部市場第一課勤務同十六年三月第一部歐米課長ヲ經テ同年十月現職ニ就ク同年十一月情報局情報官被仰付 住世田谷區代田一ノ四一九 電世田谷四九三二

上野 [illegible]三 從五勳六 東京工業試驗所技師
新潟縣石黑寅次ノ三男明治廿九年一月十三日出生東京府士族藥學博士上野金太郎ノ養子トナル大正十年東京帝大理學部化學科卒業東京工業試驗所ニ入リ技手ヲ經テ現職ニ就ク 家庭 妻博子(明四十、養父金太郎四女山脇高女卒) 嗣子昭一(昭四)長女澄子(同二) 住麻布區宮村町四二 電赤坂一九九三

上野 [illegible] 正五勳四 理博 東京工大教授
三重縣人楠之助長男明治廿二年五月出生昭和三年家督相續明治四十年三重縣立工業卒業同四十五年任海軍技手爾來日本染料製造會社技手同技師理化學研究所囑託東北大理學部囑託東京工大助教授兼附屬工學專門部教授ヲ經テ昭和六年現職ニ任ズ昭和三年學位ヲ受ケ同四年歐米各國ニ留學ス 趣味 園藝 家庭 妻文(明四十、靜岡縣三好寬美長女) 女壽美子(大九、東京府立第三高女卒) 住目黑區綠ケ丘二三七三 電荏原五三〇三

上野 誠一 從四勳三 工博 大阪帝大教授 產業科學研究所員 工學部勤務
三重縣左馬吉長男明治廿一年二月出生大正三年家督相續ス明治四十二年大阪高工應用化學科卒業農商務省ニ入リ工業試驗所技手大正五年橫濱魚油會社技師長兼工務部長及大阪酸水素會社顧問等各歷任昭和四年大阪工大教授ヲ經テ同八年現職ニ就任ス曩ニ工博ノ學位ヲ受ケ大正六年及昭和六年歐米各國ニ出張ス 趣味 俳句漢詩文章 家庭 妻悅(明廿三、東京府中村和三郎二女)長男豐一(大七)二女麗(同上) 二男就久(同八)三女薰(同十五) 住京都市伏見區革屋町七七一 電伏見一七二五

上野 武雄 正六 朝鮮總督府道事務官 慶尙南道警察部長
福岡縣人昭和三年九州帝大法文學部英法科卒業朝鮮總督府ニ入リ累進同府道理事官咸鏡北道地方課長府稅務監督局事務官光州稅務監督局稅務部長等歷任同十五年二月府道事務官忠淸北道警察部長ヲ經テ同十六年一月現職ニ就ク 住釜山府富民町慶尙南道警察部內

上野 忠貞 從四勳四 臺灣總督府技師 營林所造林課長
山形縣士族運次郎ノ二男明治廿三年四月出生大正五年東京帝大農科林學科卒業臺灣總督府ニ入リ殖產局山林課勤務ヲ經テ昭和十四年現職ニ就ク 趣味 テニス登山旅行 家庭 妻まつ(明卅三、山形縣士族上村伊久馬三女米澤高女卒) 長男朗(大九)二男恒雄(同十一) 長女恭子(同十四)二女照子(昭二)三女美惠子(同七) 住臺北市千歲町二ノ一七 電二一四四

上野 長治 從六 厚生技師 勞働局勤務 勞務監督官
千葉縣人明治卅二年二月十四日出生大正十二年早稻田大學理工學部機械科卒業新潟縣技手社會局技手昭和十年任社會局技師勞働部勤務工場監督官ヲ經テ同十三年厚生技師トナル 住目黑區中根町一七七九 電荏原五九六九

上野 友則 從五勳六 專賣局參事 熊本地方專賣局長
鹿兒島地方專賣局事業課長昭和十四年五月金澤地方專賣局長ヲ經同十七年三月現職ニ就ク 住熊本市同局內

上野 正秀 正五勳五 判事 東京民事地方裁判所判事
岡山縣幸十郎長男明治廿三年四月十二日出生大正九年東京帝大法學部卒業司法官試補拜命同十一年現職ニ就ク 趣味 撞球 家庭 長女葉子(昭三) 住本鄉區駒込動坂町三二七

上野 又男 正七 職業主事 一宮國民職業指導所長
三重縣人明治卅一年三月十四日出生三重縣屬トナリ內務部農務課警察部健康保險課勤務同縣警部ヲ兼任ス同十一年大阪府屬泉尾健康保險出張所徵收係長天滿同所給付係長警察部健康保險課監查係長等歷任昭和十三年現職ニ就ク 住一宮市向山町二ノ五 電一〇四八

上野 [illegible] 正四勳二 法博 東京帝大教授 經濟學部勤務
東京府繁ノ弟明治廿一年十一月出生同四十五年東京帝大法科經濟學科卒業大正二年英獨米各國留學歸朝後同大學助教授同八年任教授同年學位ヲ受ク 家庭 妻和(明卅一、東京府士族宮本仲二女)長女康子(大十四) 住中野區氷川町二一 電中野五二二一四

上野 芳男 從四勳五 東京高校教授兼教諭
岩手縣惣太郎長男明治廿一年一月三日出生同四十四年東京高師本科英語部大正三年同校專攻科英語部各卒業靜岡縣女子師範千葉縣立成東中學神奈川縣立第一橫濱中學愛知縣立第一中學各教諭ヲ經テ同十一年任東京高校教授昭和二年英米獨各國ニ留學同四年歸朝ス 趣味 讀

春家庭妻のぶ(明廿七、靜岡縣秋山善平四女東京女高師卒) 長男芳太郎(大二) 長女チヨ(明四三)二女タヘ(大六)二男陸二(同八) 三男修三(同十二)四男四郎(昭五)住世田谷區代田町一ノ六五二電松澤三二三〇

上野山重太郎 正六 鐵道局技師 東京鐵道局工作部機械課長 東京府重太夫長男明治卅六年出生昭和三年京都帝大機械科卒業鐵道省ニ入リ東京鐵道局新橋電力事務所同川崎發電所ニ歷勤門司鐵道局小倉工場技師廣島鐵道局工作部機械課長ヲ經テ昭和十六年五月現職ニ就ク家庭妻敬子(明四一、陸軍中將山內靜夫二女)長女明子(大十三)二女芳子(昭五)住澁谷區八幡通一ノ三四電青山一八九七

上羽 長衛 正七 岩手縣立盛岡高女校長兼教諭 京都府人明治卅五年九月四日出生大正十三年大阪府池田師範本科昭和二年關西大學專門部文學科同五年日本大學法文學部國文學專攻科同十一年東京文理大文學部國史學科各卒業同年岩手縣女子師範教諭同十三年十二月社會教育主事岩手縣勤務同十四年十二月地方事務官ニ任ジ同縣社會教育課長青年教育官トナリ同十六年四月現職ニ就ク住盛岡市同校內

上原 秋三 正五勳四 中央航空研究所書記官兼航空局書記官 中央航空研究所總務課長 鹿兒島縣士族稻彥長男明治卅一年十月六日出生昭和十年家督相續大正十二年東京帝大法學部獨法科卒業高文行政科合格同年內閣恩給局拜命次デ內閣恩給局書記官庶務課長兼審査課長大藏事務官貯金局書記官等歷任昭和十三年六月遞信局書記官兼保險院事務官東京地方遞信局保險課長同十五年十一月同經理部長ヲ經テ同十六年一月現職ニ轉ズ曩ニ支那及滿洲國ヘ出張三回ニ及ブ趣味音樂園藝柔道家庭母アイ(明五)妻衣子(同卅三、山梨縣青木幸作二女) 嗣子宏一郎(昭三)住大森區南千東町一七〇電荏原六九〇三

上原 清夫 從五勳六 地方農林技師 德島縣經濟部蠶絲課長兼蠶業取締所長 長野縣吉之丞ノ長男明治廿四年二月廿六日出生大正三年上田蠶絲專門學校養蠶科卒業爾來長野縣蠶業取締吏員奈良縣宇陀蠶業學校教諭群馬千葉各縣技手歷職大正十二年一月千葉縣產業技師昭和三年岐阜縣農林技師ヲ經テ同十二年十月現職ニ就ク趣味圍碁玉突家庭妻三重子(明卅、長野縣橫澤長五郎三女三重縣桑名高女卒)男達郎(大四、京都帝大卒高文合格)女總子(同十、岐阜高女卒)男健次(同十三) 女千惠子(同十五)住德島市前川町宇前川九五電二六九〇

上原 種美 從三勳二 東京農業教育專門學校長 山梨縣種因ノ二男明治十八年一月一日出生大正八年分家ス明治四十二年東京帝大農科卒業爾來農商務省囑託文部屬文部省督學官同圖書官文部事務官實業學務局農業教育課長等歷任其間東京高師教授ヲ兼ネ大正十年三重高等農林學校長ヲ經テ現職ニ就ク曩ニ歐米各國ヲ視察ス趣味乘馬大弓家庭妻かゑ(明卅一、愛知縣澤田富次郎三女)長女美和子(大十三) 二女茂子(昭六)男美彥(同十一)住澁谷區代々木富ケ谷町一三九六電澁谷二二三五

上原轍三郎 正四勳三 北海道帝大教授 農學部勤務 附屬圖書館長 廣島縣人來助ノ三男明治十六年八月出生同四十五年東北帝大農科卒業大正三年同大學助教授ヲ經テ昭和六年現職ニ任ジ同九年同大學附屬圖書館長ヲ兼任曩ニ大正十三年英伊獨米各國ニ留學セリ趣味讀書謠曲家庭妻璇(明廿八、北海道長歷平太郎長女三輪田高女卒)住札幌市南十八條西八丁目五九九電四七二〇

上原 英美 從七 地方事務官 大分縣學務部學務課長 山梨縣人大正二年三月廿五日出生昭和九年高知高校ヲ經テ同十三年東京帝大法學部政治學科卒業同十四年高文行政科合格任岡山縣屬地方課勤務ヲ經テ同十五年十二月任地方事務官現職ニ就ク住大分市春日町電一一〇九

上原 義雄 從五勳三 海軍大佐 企畫院調査官 總裁官房總務室第三課長 住牛込區市谷河田町一一電牛込一三一七

上原 六郎 從六勳六 東京市總務局長 東京府喜六ノ長男明治廿七年十一月卅日札幌市ニ生ル大正九年日大法科ヲ卒業內務屬帝都復興院事務官復興局事務官次デ東京市ニ轉ジ財務局監査課長同主計課長ヲ歷任後市理事東京市養育院長收入役市民局長ヲ經テ現職ニ就ク趣味讀書旅行家庭妻壽子(明卅三、福島縣士族角秀壽三女府立第二高女卒)長男信一郎(大十一)二男雄二(同十四) 長女光子(昭二)二女由紀子(同三)三男賢三(同六)三女榮子(同九)住淀橋區下落合一ノ四七六ノ一電落合長崎二六五五

上平 正治 東京市理事 總務局人事部長 奈良縣豐吉ノ四男明治卅五年一月卅一日同縣吉野郡ニ出生大正十五年東京帝大法學部卒業東京市ニ入リ土木局文書係長社會局庶務係長保險局庶務課長監査局監察課長東京市民動員部軍事援護課長總務局企畫課長ヲ經テ昭和十七年五月現職ニ就ク家庭妻都子(明四一、兵庫縣長澤實二郎二女山脇高女卒) 長女夏子(昭六)住杉並區天沼二ノ三六四電荻窪四四五二

上松 寬一 從五勳六 農林省小作官 農政局勤務 滋賀縣人明治卅二年五月廿二日出生大正十三年東京帝大農學部農學科卒業農林技手農林省小作官補地方小作官兵庫山梨各縣勤務ヲ經テ昭和九年任現職住大森區田園調布二ノ八二八

上山 顯 從五勳六 企畫院書記官 企畫院第三部第二課長 兵庫縣人明治卅七年八月十九日出生大正十五年高文行政科合格昭和二年東京帝大法學部政治科卒業任內務屬昭和三年任地方事務官靜岡縣工場課長都市計畫課長商工課長兼水產課長石川縣地方課長福岡縣商工課長京都府建築工場課長等歷任昭和十三年警視廳事務官保安部工場課長同十四年九月和歌山縣書記官學務部長同十五年十一月企畫院書記官第三部勤務ヲ經テ同十六年五月現職ニ就ク趣味スキー乘馬家庭妻飯子(大三、鹿兒島縣大島直治長女)住澁谷區代々木大山町一〇六電四谷四五三〇

殖田 三郎 從五 水產講習所教授 東京府人明治卅一年五月六日東京市麻布區ニ出生大正十四年東京帝大農學部卒業後水產講習所ニ入リ現ニ水產講習所教授タリ家庭妻梅外ニ二男一女アリ住麴町區永田町二ノ二七

植木庚子郎 從五勳六 大藏書記官兼營繕管財局理事 主計局豫算課長 福井縣清水伊右衞門六男明治卅三年出生後新潟縣植木信一ノ養子トナル大正十四年東京帝大法科佛法科卒業大藏省ニ入リ累進大藏事務官主計局勤務次デ昭和十二年五月大藏書記官主計局調査課長同十四年五月同豫算課長トナリ同十六年十二月兼任營繕管財局理事現職ニ就ク趣味圍碁家庭妻葉子(大二、新潟縣植木信鄕長女)長男健雄(昭八)二男大弼(同十六)住小石川區丸山町五電大塚一〇一五

植木孝之助 從五勳六 兵庫縣立柏原中學校長 兵庫縣人芳造長男明治十八年十二月八日氷上郡新井村ニ出生同四十三年東京高師英語科卒業奈良師範柏原伊都各中學教諭歷職昭和四年現職ニ就ク家庭妻竹野(明卅一、兵庫縣植木泰治二女柏原高女卒) 嗣子俊彥(大六)二男芳郎(同八)二女美知子(同十二) 三女千代子(同十四)三男弘(昭元)住兵庫縣氷上郡柏原町

植木 壽雄 從四勳三 東京市電氣局長 鳥取縣人藤一郎ノ長男明治廿二年九月出生同四十五年中央大學法科卒業內閣法制局參事官復興局橫濱出張所長北海道廳土木部長等歷任次デ關東軍法制顧問同最高顧問昭和十二年四月之辭同十四年六月現職ニ就ク趣味長唄文藝家庭妻澤子(明廿六)住品川區五反田六ノ一九電大崎一六六六

植木 秀幹 正四勳三 農博 水原高等農林學校教授 朝鮮總督府技師兼同府林業試驗場技師 愛媛縣士族秀村ノ二男明治十五年七月出生同十六年家督相續同卅七年東京帝大農科林學實科卒業米國ハーバート大學ニ學ビ昭和三年學位ヲ受ク明治卅七年宮城縣立農學校教諭拜命後韓國政府ニ聘セラレ林業技師農林學校教授兼林業技師ヲ經テ現職ニ就ク家庭妻ユキエ(明廿一、愛媛縣加藤良三二女) 男秀樹(同四三) 男正秀(大二) 三男行秀(同四)男芳秀(同七)長女千枝子(同十四) 五男博秀(昭四)住朝鮮水原高等農林學校官舍電三四

植田菊之助 從六勳六 地方商工主事 茨城縣東京出張所長 茨城縣瀨地昇吉二男明治十八年九月廿六日同縣那珂郡神崎村ニ出生植田敏行ノ養子トナリ大正元年家督相續明治四十年東京青山學院卒業岐阜縣加茂郡書記拜命爾來茨城農會書記同縣產業課屬同社會課商工水產課各首席屬同縣物產紹介所長等ヲ經テ現職ニ就ク趣味文藝野球家庭妻惠津(明廿、伊代之助長女水戶高女卒)長男政一(大三、水戶農學校卒)三女みどり(大七、世田谷高女卒)二男仁(同九)養子鎌(同十)四男孝(同十二)五男英(昭二)住世田谷區羽根木町一七九三

植田 源 正七勳七 地方事務官 京都府學務部厚生課長兼住宅課長 京都府人大正五年京都高等蠶業學校卒業同府ニ勤務何鹿郡書記同府屬內務部地方課勤務同庶務課兼務ヲ經テ昭和十三年八月地方事務官ニ任ズ曩ニ社會課長タリ住京都市左京區吉田

近衛町官舍電上七九〇一

植田　俊雄　從六　内務事務官　防空局勤務
大阪府人明治四十二年四月十一日出生昭和五年大阪高校同八年東京帝大法學部法律學科各卒業内務屬拜命警保局勤務兵庫縣屬知事官房文書課長地方警視秋田縣保安課長兼工場課長警務課長地方事務官山口縣農務地方各課長等歷任同十四年五月厚生事務官社會局勤務ヲ經テ同十六年十月現職ニ就ク住澁谷區代々木大山町一〇七一

植田　壽藏　從四勳三　文博　京都帝大教授　文學部勤務
京都府人明治十九年出生京都帝大哲學科卒業現時同大學文學部教授タリ曩ニ文博ノ學位ヲ受ク住京都市上京區小松原北町七

植月　愛明　正四勳三　判事　大審院判事
奈良縣三折ノ二男明治十三年三月出生同卅八年京都帝大法科獨法科卒業司法官試補拜命同四十年任判事爾來横濱東京名古屋大阪各裁判所判事大阪控訴院判事神戸地方裁判所部長大阪控訴院部長等ニ歷補昭和七年現職ニ就ク趣味圍碁家庭妻秀（明卅、大阪府井上清介長女）女花子（同四三、市立大阪高女卒）住世田谷區太子堂一〇八電世田谷四五九五

植場　鐵三　正四勳三　拓務次官
大阪府郡正光ノ男明治廿七年一月廿二日出生植場平ノ養子トナル大正十年京都帝大經濟學部卒業翌十一年高文合格秋田縣平鹿郡長同縣農林課長同庶務課長同知事官房主事長崎兵庫各縣事務官社會課長兼官房主事樺太廳農林部長等歷任昭和八年拓務書記官殖產局農林課長同十一年兼任拓務大臣秘書官官房秘書課長兼殖產局農林課長拓務省管理局長同殖產局長歷任昭和十六年八月退官三興株式會社專務取締役ヲ經テ同年十二月現職ニ就ク趣味庭球ゴルフ家庭妻みつ子（山本龜吉長女大阪府立梅田高女卒）長女昭子（昭三）外二女アリ住豐島區要町二ノ一一電大塚一四九〇

植松　正孝　正六勳四　海軍機關中佐　商工省物資調整官　總務局勤務　審議室附
佐賀縣人明治卅五年七月廿一日出生大正十二年海軍機關少尉ニ任ジ累進昭和十四年同中佐其間同十二年企畫院調査官同十四年興亞院調査官華中連絡部勤務ヲ經テ同十五年十一月任商工省物資調整官現職ニ就ク住世田谷區野澤町一ノ一〇〇電世田谷四六四〇

植松　安　從三勳三　臺北帝大教授　文政學部勤務
愛知縣人右經ノ五男明治十八年八月出生同四十一年東京帝大文科國文科卒業明倫中學校教諭大正三年東京帝大助教授兼附屬圖書館司書ヲ經テ臺北帝大講師ニ轉ジ昭和五年同大學教授ニ任ズ大正十年英佛獨米各國ニ留學ス趣味謠曲家庭妻淑子（明廿四、埼玉縣士族志方鍛二女）長男一郎（同四四）二男茂（大三）三男經彥（同七）住臺北市錦町一二六電四〇三〇

植村　琢　正五勳四　理博　東京工業大學教授　附屬圖書館長
大阪府士族俊平ノ長男明治廿六年七月廿六日出生大正十年東京帝大理學部卒業大學院ニ學ビ同十三年東京高工教授拜命昭和五年東京工大助教授ニ任ジ同十四年五月教授トナル同六年學位ヲ受ケ曩ニ佛米各國ニ留學ス趣味讀書弓道家庭妻加壽子（明卅六、熊本縣士族赤星臨治長女九段精華高女卒）嗣子攻（昭三）長女照子（大十五）二女マリ子（昭六）住麴町區一番町二〇ノ一一電九段二四六七

魚崎　利三郎　從七勳七　電氣試驗所事務官　庶務課長
大阪府粂太郎三男明治卅六年四月廿日出生大正十二年遞信官吏練習所卒業昭和四年遞信屬拜命同九年遞信局書記同十年電氣試驗所書記庶務課計理係長ヲ經同十五年十一月現職ニ就ク住杉並區高圓寺三ノ二二三電中野五五二六

魚住　朝治　從四勳四　鐵道省電氣局長
兵庫縣幸次郎長男明治廿四年八月十六日出生大正七年京都帝大工科電氣工學科卒業鐵道院ニ入リ神戸東京各鐵道局勤務昭和二年在外研究員被命歐米出張同四年歸朝上野電力事務所長仙臺鐵道局電氣課長心得同課通信掛長兼務門司鐵道局勤務新橋東京各電力事務所長電氣局通信課長歷職同十三年電氣局電化課長ヲ經テ同十五年八月現職ニ就任ス趣味圍碁將棋家庭妻くにゑ（明卅一、兵庫縣在田葉松長女縣立高女卒）住淀橋區淀橋七二二電淀橋三五五五

魚住　衞　從四勳五　熊本醫大學生主事　學生課長
熊本縣士族賀衞長男明治十九年七月出生大正六年家督相續明治四十四年東京帝大文科獨逸文學科卒業大正三年私立熊本醫專講師同教授熊本醫專教授ヲ歷任昭和四年現職ニ任ズ趣味銃獵園藝寫眞家庭妻ヨシエ（明廿七、熊本縣大麻幸三郎二女同縣立第一高女卒）長女斐（大六）二女禎（同十）三女民（同十三）四女迪（昭六）住熊本縣飽託郡清水村津浦電二八三一

浮田　秀彥　從四勳二功五　海軍中將　旅順警備府長官
熊本縣士族辰鄉ノ四男明治廿二年七月出生同四十二年海軍兵學校卒業任少尉昭和十一年十二月少將ニ同十六年中將ニ累進其間妙高艦長海軍潜水學校長艦政本部第七部長等歷補ス趣味園藝登山家庭妻敏子（明卅二）長男基信（大六）女和子（同九）女眞素子（同十三）二男達啓（昭二）住旅順警備府官舍電二九四

牛島　譓　從四勳四　典獄　長崎刑務所長
富山縣記林二男明治十七年一月出生同卅九年明大卒業判檢事登用辯護士各試驗合格任司法官試補任檢事金澤地方裁判所檢事秋田刑務所長宇都宮刑務所長ヲ經テ昭和十三年九月現職ニ就ク家庭妻ちず（明廿五、石川縣野村英政五女）養子百合子（同四一、富山縣牛島俊作妹）住諫早市原口名官舍電二一二

牛原　虎生　正五勳五　縣立廣島第一中學校長兼教諭
熊本縣人滿太郎長男明治十八年十二月廿二日出生同四十五年東京帝大英文科卒業福山武生德島各中學教頭富岡魚津唐津各中學校長歷職昭和八年現職ニ就ク趣味謠曲菊栽培家庭妻ノブ子（明十八、東京府西村一正長女東京高女卒）住廣島市翠町一五六六電八三三

氏家　武　正五勳五　國民貯蓄獎勵局次長
宮城縣人大正十三年東京帝大法學部獨法科卒業大藏省ニ奉職司稅官神田橋稅務署長稅務監督局事務官東京稅務監督局經理課長大藏事務官兼同書記官主計局調査課長大藏書記官主計局豫算課長大臣官房文書課長兼任營繕管財局理事歷任昭和十六年九月預金部理事總務部長ヲ經テ同年十二月現職ニ就任ス住小石川區林町五七電大塚四四六〇

潮　惠之輔　正三勳一　樞密顧問官
島根縣房太郎ノ二男明治十四年八月出生同四十年東京帝大法科卒業高文合格長野縣事務官内務事務官内務書記官内務省參事官地方局事務官内務省衞生地方各局長内務次官等歷任昭和六年退官貴族院議員ニ勅選セラレ翌年再任内務次官同九年退官同十一年廣田内閣ニ内務大臣ニ親任文部大臣ヲ兼任同十二年二月拜辭ス同十三年十二月樞密顧問官ニ任ズ趣味讀書散步家庭妻實根（明廿五、男爵益田兼施姉山口高女卒）長女瑤子（大三、青山女學院卒）二女照子（同九、府立第六高女卒）三女光子（同十三）四女愼子（昭三）住荏原區平塚七ノ一〇七〇電荏原四一〇〇

潮海　辰亥　從六勳六　關東局事務官　司政部行政課長
兵庫縣人昭和五年京都帝大法學部法律科卒業關東局ニ入リ警務部警務課勤務關東局事務官關東州廳警察部高等警察課長警察練習所兼務ヲ經テ同十年現職ニ就ク住新京市新發潮同三〇二ノ六〇號官舍電二一五七八四一

臼井　健三　正五勳五　關東局技師　司政部營繕課長
神奈川縣飯塚角藏ノ三男明治廿七年二月出生岐阜縣士族臼井榮ノ養子トナル大正五年東京高工建築科ヲ卒業後關東廳技師内務局土木課警務局保安課旅順民政署關東廳新京出張所等歷任昭和九年任關東局技師同十五年五月現職ニ就ク趣味建築ゴルフ家庭妻ハナ（明卅二、養父榮長女大垣高女卒）男順一（大七）女洋子（同十）二男修（同十三）四男健四郎（昭二）五男正（同五）六男六郎（同八）二女千津子（同十一）住新京特別市興安大路一〇〇六電二一四六六五

臼井　俊郎　正七　法制局參事官
岐阜縣人昭和十一年京都帝大農學部卒業ス住本鄉區向ヶ岡彌生町三電小石川三〇八八

臼井　長兵衞　從七勳八　地方事務官　愛知縣總務部振興課勤務
愛知縣人明治卅三年二月廿八日出生大正十五年同縣屬拜命社寺兵事課官房秘書課人事課警務課商工第二課歷勤其間警部兼任縣商工主事補等歷任昭和十七年二月地方事務官ニ任ズ住名古屋市愛知縣廳內

碓井　秋雄　正六　地方技師　宮崎縣經濟部水產課長
宮崎縣英胤長男明治卅年九月八日出生大正九年水產講習所卒業高知縣技手拜命同十二年富山縣技手同十四年靜岡縣技手歷任昭和四年任地方農林技師靜岡縣水產課勤務同十三年石川縣水產課勤務ヲ經テ同十五年八月現職ニ就ク家庭妻知惠子（明卅五、靜岡縣望月源藏二女靜岡高女卒）長男一朗（昭元、宮崎中在）長女明子（大十二、金澤高女卒）二女妙子（昭八）三女百子（同十二）住宮崎市花殿町三一縣營住宅電一〇一六

碓井　貞雄　從七　地方事務官　宮崎縣經濟部農政課長
靜岡縣人貞旭ノ長男明治四十一年五月廿日出生靜岡高校卒業昭和六年東京帝大法學部獨法科卒業同九年高文行政科合格翌年千葉縣屬拜命同十三年厚生屬ヲ經テ同十四年六月任社會

事業主事島根縣社會課長ヲ經同十六年十月任地方事務官現職ニ就ク【家庭】妻誼子（大元、大分縣野々村戒三二女）長女厚子（昭十三）二女澄子（同十六）【住】宮崎市花殿町縣營住宅【電】一四二二

碓井 忠平 正五勳四 朝鮮總督府事務官 總督官房審議室主任
山口縣士族忠治ノ長男明治卅二年九月出生大正十一年高文合格同十二年東京帝大法學部法律科卒業朝鮮總督府屬拜命同府警察講習所教授同府道理事官同事務官同府專賣局事務官同臺蔘課長同府事務官農林局土地改正課長殖產局商工課長總督官房人事課長等歷任昭和十五年十月現職ニ就ク【家庭】妻かつ子（明卅七、宮城縣伊藤正義妹）長男忠典（昭三）長女紀子（大十五）二女菊子（昭五）二男嶺雄（同七）三男清（同十）四男陽治（同十二）【住】京城府光化門通官舍【電】光化門二二九二

碓氷 厚次 從四勳五 大分高商教授
長野縣人甚作長男明治廿一年九月出生同四十三年東京高商本科大正三年同專攻部計理科各卒業京都市立第一商業教授拜命同九年英米佛ニ留學同十一年現職ニ就ク【家庭】妻ノブ（明廿六、長野縣久保田善之助二女）嗣子壽夫（大十二）長女房子（同八）二男幸夫（同十五）二女フユ（昭四）【住】大分市長濱町女師東門西角

薄井 周介 正四勳三 東京高等商船學校長
長野縣人退七五男明治十五年九月出生大正四年分家明治四十年商船學校航海科卒業日本郵船入社大正元年商船學校教諭同四年東京高等商船學校教授同五年甲種船長ニ任ジ昭和十二年九月現職ニ就任曩ニ同三年歐米各國ニ出張ス海軍豫備大尉タリ【家庭】妻喜代（明卅七、長野縣丸山秀枝二女松本高女卒）長男歡介（大二）長女久子（同十）【住】小石川區小日向臺町三ノ一〇【電】牛込三三六〇

薄井 大介 從四勳四 判事 奈良地方裁判所長
長野縣人明治卅七年出生大正五年東京帝大法科英法科卒業判事ニ任ジ累進名古屋地方裁判所部長名古屋控訴院判事東京名古屋各控訴院部長歷任昭和十六年七月現職ニ就任ス【住】奈良市登大路町三五【電】二〇一一

薄井傳太郎 正五勳五 營林局技師 大阪營林局計畫部長
福島縣人大正八年東京帝大農學部林學科卒業農林省ニ入リ累進營林局技師大阪營林局勤務同局作業課長ヲ經テ昭和十五年現職ニ就ク【住】大阪市旭區新森小路中一丁目一四六

薄木虎二郎 從五勳五 樺太廳警察部長
山形縣人明治廿三年三月廿四日出生大正十五年高文合格昭和十四年任樺太廳事務官內務部學務課長同地方課長ヲ經テ同十六年八月現職ニ就ク【住】樺太豐原市官舍【電】二二四五

太秦 康光 從四 男爵 理博 北海道帝大教授 理學部勤務
先代供康二男明治廿二年三月出生後家督相續襲爵ス大正十一年東京帝大理學部化學科卒業同大學助手北海道帝大助教授ヲ經テ現職ニ就ク曩ニ英米ニ留學ス【家庭】妻智子（明卅九、子爵京極高光姉）長女寬子（昭五）長男康紀（同十二）二女純子（同十三）【住】札幌市外圓山南大通二ノ四六【電】五七二九

歌田 千勝 從四勳三 保險院總務局長兼內閣紀元二千六百年祝典事務局長
山梨縣千代太郎長男明治廿七年一月十四日出生同卅七年家督相續大正八年高文合格同九年東京帝大法科獨法科卒業爾來群馬縣屬三重縣警視廣島縣理事官地方事務官愛知縣勤務山形縣書記官學務部長山形石川靜岡廣島各縣書記官警察部長內閣總理大臣秘書官兼內務書記官大阪府書記官總務部長等歷任後內閣紀元二千六百年祝典事務局長トナリ昭和十六年四月現職ニ任ズ同三年歐米各國ニ出張ス【家庭】妻英（明卅五、廣島縣式村茂四女）長男勝弘（大十四）長女洋子（昭大）二男勝彥（同十三）男勝彌（同十三）【住】目黑區平町六四【電】荏原六七七六

內田 寬一 從四勳四 東京文理大助教授
佐賀縣士族金雄ノ四男明治卅一年三月出生大正九年分家ス明治四十三年東京高師本科地歷部大正二年京都帝大文科史學科各卒業文部省圖書鑑修官同十三年東京高師教授兼浦和高校教授ヲ經テ現職ニ就ク曩ニ昭和三年英佛ニ留學ス【趣味】研究【家庭】妻テイ（明卅一）【住】四谷區仲町二ノ二【電】四谷七〇一七

內田 五郎 從五勳四 總領事 厦門在勤
山形縣維孝五男明治廿一年八月十四日同縣鶴岡市ニ出生大正四年分家同年外務省書記試驗同九年外交官試驗各合格白耳義アントワープ領事館トルコ大使館等勤務同十三年領事スワトウ奉天チーフーチ、ハルニ歷任昭和十一年總領事福州在勤ヲ經テ同十三年現職ニ任ズ【趣味】スポーツ狩獵乘馬【家庭】妻芳江（明廿九、山梨縣岡部與平姉甲府高女卒）長男宏（大七）長女）陽子（昭五）【住】中華民國福建省思明縣鼓浪嶼共同租界日本總領事館內

內田 泰郎 從四勳四 工博 仙臺高工教授
茨城縣七太郎長男明治廿年一月三日出生大正九年東北帝大理學部卒業同學部講師同助教授仙臺高工教授復興局囑託母校工學部講師等ヲ經テ昭和七年現職ニ就ク同年獨米ニ留學同六年學位ヲ受ク【趣味】旅行登山柔道三段【家庭】妻ふさ（明廿七、長野縣松井鄕藏長女松本高女卒）長男志智朗（大二）長女まつ子（同八）二女薰子（同十四）三女諒子（昭四）二男歸二郎（同九）三男朝三郎（同九）【住】仙臺市荒町五七

內田 俊一 正五勳三 工博 東京工大教授兼東京工業試驗所技師
岡山縣恒太郎長男明治廿八年十二月出生昭和十一年家督相續大正九年東京帝大工學部應用化學科卒業臨時窒素研究所技師東京工業試驗所技師東京工大附屬工業專門部教授同大學助教授ヲ經テ昭和七年任教授兼任工業試驗所技師昭和四年歐米各國ニ留學同六年學位ヲ受ク【家庭】妻常（明卅六、東京府有松英義二女）長男久雄（大十五）二男武雄（昭三）三男光雄（同四）四男安雄（同九）五男伸雄（同十三）【住】目黑區下目黑二ノ四〇九【電】大崎二〇〇五

內田 祥三 從三勳二 工博 東京帝大教授第一工學部長同附屬綜合試驗所長 地震研究所員
東京府安兵衞長男明治十八年二月出生同廿二年家督相續同四十年東京帝大工科建築科卒業三菱合資本社技手東京帝大助教授ヲ經テ大正十年任同教授昭和八年學位ヲ受ク【家庭】妻みね（明廿六、東京府士族橋本武長女）男祥文（大二）女美柯（同七）二男祥哉（同十四）【住】麻布區笄町一四二二【電】赤坂四四二三

內田 澄壽 從六勳六 地方事務官 埼玉縣經濟部配給課長
埼玉縣節之助ノ二男明治廿五年十月十四日出生同四十五年同縣立熊谷中學校卒業同縣兒玉郡書記大正十五年任埼玉縣屬農務蠶絲農務各課勤務昭和七年同縣農林主事農務課勤務歷任同十四年四月地方事務官ニ任ジ社寺兵事課長社會課長ヲ經テ同十五年八月現職ニ就ク【家庭】妻夏子（明卅一）長男駿一（大七、橫濱商專卒）長女登志枝（同十二、浦和第二高女卒）二女喜和子（昭三）三女知惠子（同六）二男謙二（同八）四女美沙子（同十二）【住】浦和市高砂町三ノ三七【電】廳內一一四六

內田清之助 從四勳四 農博 農林技師 山林局勤務
東京府安兵衞長男明治十七年十二月出生同四十四年家督相續先是同四十一年東京帝大農科獸醫科卒業警察講習所講師農商務省囑託東京帝大理科副手同農科講師農商務省技師農林技師等歷任現時山林局勤務タリ鳥獸調査事務擔當動物學鳥類ノ研究家トシテ知ラル曩ニ大正十四年學位ヲ受ケ昭和二年歐米ニ出張ス【家庭】妻靜枝（明廿七、東京府中川濤妹東京女學館卒）長男清一郎（大五、東京帝大卒）二女町子（同九、府立第三高女卒）二男清二郎（同十二）三女照子（同十五）【住】澁谷區青葉町八【電】青山五三四

內田 壯 正四勳三 工博 東京工大教授 建築材料研究所員
舊幕臣從四位勳三等萬次郎ノ長男明治廿一年五月廿日出生大正十四年家督相續明治四十五年東京帝大工科應用化學科卒業農商務省林業試驗場東京帝大講師東京高工教授東京商大講師等ヲ經テ現職ニ就ク昭和二年學位ヲ受ケ同年獨米瑞西ニ留學ス【趣味】園藝【家庭】妻サイ（明卅、岩手縣士族狐崎富教二女東京女學館卒）男星美（大十五）長女留里子（同九）二女滿里子（同十二）【住】淀橋區百人町三ノ三四五【電】四谷一四一五

內田 泰二 正六 地方農林技師 和歌山縣經濟部水產課長
福井縣人明治廿五年二月廿八日出生大正四年水產講習所養殖科卒業同六年山口縣商工課勤務同十年同縣水產試驗場勤務同十一年同瀨戶內海分場勤務ヲ經テ昭和三年任地方農林技師愛知縣勤務同十二年宮城縣勤務ヲ經テ同十六年五月現職ニ就ク【住】和歌山市南田邊町一五

內田 亨 從五 理博 北海道帝大教授 理學部勤務兼附屬臨海實驗所長
靜岡縣周平ノ二男明治卅年八月出生大正十二年東京帝大理科動物學科卒業昭和三年學位ヲ受ク【家庭】妻四十枝（明四十）【住】札幌市外北一條圓山一二【電】三六九六

內田 英雄 醫博 東京市技師 大久保病院長
大分縣人野中小九郎ノ四男明治廿一年三月出生大正二年先代田鶴子ノ入夫トナリ家督相續同四年東京帝大醫科卒業東京市技師ニ任ジ廣尾病院副院長ヲ經テ現職ニ就ク【家庭】妻田鶴子（明廿二、愛知縣士族竹內森之助長女）【住】足立區千住町二ノ四〇【電】足立二〇一三

內田三千太郎 醫博 東京市技師 豐島病院長
東京府人誠太郎ノ長男明治廿四年十月五日出生大正十四年現職ニ就任ス【趣味】庭球【家庭】妻キ

ク(明卄六、須藤市左衞門長女) 嗣子駿一(大七)長女英子(同九、浦和高女卒)二男驥(同十、浦和中學卒)三男鐵郎(同十三)三女廸子(同十五)【住】浦和市仲町四ノ一三〇【電】浦和二六八〇

内田　護文　從五勳六　判事　東京民事地方裁判所部長
山口縣士族重成長男明治卅四年三月八日出生大正十四年東京帝大獨法科卒業司法官試補拜命昭和二年任判事東京地方東京民事地方東京控訴院歷勤昭和十二年東京區兼東京民事地方裁判所部長同十六年一月東京民事地方同刑事地方各裁判所判事ヲ經テ同年十二月現職ニ就ク【趣味】ゴルフ盆栽【家庭】妻幾久子(明卅五、平田恒太郎長女神奈川高女卒)長男博就(大四)二男昭就(昭二)長女淑子(同六)【住】牛込區北山伏町三七【電】牛込七〇五〇

内舘　泰三　從六勳六　地方統計主事　北海道廳總務部統計課長
岩手縣人萬之助長男明治卅一年十月十二日出生同四十年同縣立遠野中學卒業同四十三年北海道廳屬拜命大正十年同廳產業主事補昭和五年任地方統計主事補北海道廳統計主事同十二年現職ニ就ク【家庭】妻ノブ(明卅、岩手縣立花文太郎長女盛岡高女卒) 長男信一(大十四)二男昭二(昭二)長女典子(同三)二女春子(同十一)【住】札幌市南二條西九丁目【電】五九五六

内野　總一　正五勳五　地方技師　福岡縣警察部衞生課長
長崎縣士族明治卅五年一月十日出生大正三年長崎醫專卒業九州炭礦汽船入社崎戸礦業所病院勤務ヲ經テ長崎縣檢疫委員佐賀縣工場監督官補同縣警察同工場監督官補同縣技手同縣衞生技師長崎縣衞生技師高知縣衞生技師警察部衞生課長等歷任昭和十三年三月地方技師ニ任ジ高知縣勤務ヲ經テ同年六月現職ニ就ク【住】福岡市西新町大西八〇一【電】福岡西二七三一

内野　台嶺　從四勳三　東京文理大教授兼東京高師教授
神奈川縣人城田茂吉四男明治十七年四月出生同卅一年内野珉嶺ノ養子トナリ昭和五年家督相續明治四十二年東京高師本科國語漢文科大正二年同校專攻科各卒業同校講師同九年東京高師教授昭和七年東京文理大助教授ヲ經テ同十一年八月同教授ニ任ジ東京高師教授ヲ兼ヌ曩ニ支那ニ留學ス【趣味】芝居相撲スポーツ【家庭】妻フジ(明卄四、大分縣恒藤祐三郎長女) 女道子(明四四)女敎子(大八)【住】豐島區西巢鴨二ノ二二一一【電】大塚三〇七

内野　正　正六　中央航空研究所技師　建設部電力課長
茨城縣文三郎ノ孫明治卄九年九月出生大正七年東京工科大學卒業遞信省ニ奉職名古屋熊本各遞信局技師ニ歷任昭和九年青森縣電氣局技師長工務課長ヲ經テ同十六年六月現職ニ就ク【家庭】妻萬壽枝(明卅五、廣島縣笠本天道妹廣島高女卒)長男正近(大十) 長女元子(同十二)二女貞枝(同十四)二男正信(昭五)【住】品川區上大崎五ノ六三九

内林　達一　正五勳六　土木技師　東京府京濱運河建設事務所長
大分縣人高屋柴吉ノ二男明治卄八年十二月六日出生内林嘉四郎ノ養子トナル大正十年九州帝大工科土木科卒業内務省ニ奉職下關土木出張所長同漁港修築事務所長ヲ經テ現職ニ就ク曩ニ歐米各國ヲ視察セリ【趣味】讀書寫眞水泳【家庭】妻フミ(明卅五、養父嘉四郎長女) 嗣子暢夫(大九、長府中學卒)長女喜美子(昭六)【住】目黑區富士見臺一五四五【電】荏原七四〇八

内堀　千秋　從五勳五　地方技師兼地方農林技師　栃木縣農業取締所長
長野縣人運太郎長男明治卄年五月三日出生同四十三年東京高等蠶絲卒業福井山梨大分各縣ニ歷勤昭和二年現職ニ就ク【家庭】妻貞子(明卄一、東京府小野寺源太郎二女) 長男可通彥(大元、東京高等蠶絲卒)二男美通彥(同三)長女田鶴子(同七、宇都宮第一高女卒)三男安通彥(同十一)【住】宇都宮市西塙田町四一二【電】三〇四八

内丸　廉　從四勳四　矯正院教官　浪速少年院長
鹿兒島縣士族休一郎ノ長男明治卄二年四月出生大正五年東京帝大法科英法科卒業同七年任判事爾來長崎地方兼同區熊本地方兼同區長崎地方兼同區東京區兼同地方各裁判所判事東京少年審判所審判官等歷補同十三年檢事ニ轉ジ東京區裁判所檢事兼東京少年審判所審判官ヲ經テ昭和十五年三月現職ニ就ク【家庭】妻キヌ(明卄八、鹿兒島縣谷山初七郎二女)男忠彥(大六)三男邦彥(同九) 長女壽美代(同十四)五男文彥(昭三)【住】大阪府三島郡春日村同院内

内海　清　從六　關東局事務官　關東州廳警察部長
兵庫縣人明治卅七年三月九日出生大正十四年大阪高校文科昭和五年東京帝大經濟學部各卒業其間同四年高等試驗行政科合格同五年山口縣屬拜命同七年同縣警部兼同屬同八年專任同縣屬同九年任地方警視熊本縣警務課長同十一年新潟縣警務課長同十三年地方事務官大阪府土木部總務課長警察部工場課長兼勞務課長ヲ經テ同十六年六月現職ニ就任ス【住】大連市長者町關東洲廳内

内村　三郎　正五勳六　内務技師　國土局河川課勤務
福島縣兵藏ノ養子明治卄八年八月十日出生大正九年九州帝大工科土木科卒業米國ニ留學歸朝後内務省ニ奉職内務技師ニ任ジ現時前記ノ任タリ【趣味】スポーツ【家庭】妻フサ(明卅四、鹿兒島縣村田豐作二女鹿兒島高女卒)【住】世田谷區野澤一ノ三七【電】世田谷三一五〇

内村　祐之　正五勳四　醫博　東京帝大醫學部教授兼東京府立松澤病院長
東京府人明治卅年十一月十二日出生大正十二年東京帝大醫學部卒業同大學副手囑託爾來東京府立松澤病院醫員北海道帝大助手歷職後精神病學研究ノ爲獨瑞米各國へ在留被命歸朝後北海道帝大助教授同教授東京帝大教授等歷任昭和十年八月現職ニ就任ス【住】淀橋區下落合一ノ四五六【電】大塚七二四〇

内山　岩太郎　正四勳三　特命全權公使　佛領印度支那出張
群馬縣岩吉三男春吉弟明治廿三年二月出生同四十二年外務省留學生試驗大正六年外交官及領事官試驗各合格外務事務官伯剌西爾大使館二等書記官西班牙公使館二等書記官土耳古國佛國各大使館二等書記官昭和四年公使館一等書記官アルゼンティン國兼パラグアイ國ウルグアイ國在勤兼領事ブエノスアイレス兼モンテヴィデオ在勤總領事サンパウロ在勤等歷任同九年大使館一等書記官同十年大使館參事官ブラジル國在勤同十二年佛國在勤同年十月特命全權公使アルゼンチン國兼パラグアイ國及ウルグアイ國駐劄ヲ經テ同十六年二月退官同年九月現職ニ任ズ【家庭】妻登志子(明卅六、宮城縣十文字信雄姉)長男小太郎(昭三) 長女喜子(大十四)二男吉春(昭四)三男勇(同六)【住】本鄉區駒込上富士前町八〇【電】大塚五五〇七

内山　清　正五勳三　大使館一等書記官兼總領事　盤谷在勤
長野縣人大正十二年早稻田大學英法科卒業外務省ニ入リ總領事倫敦在勤大使館一等書記官兼總領事公使館一等書記官兼公使館商務書記官昭和十六年八月大使館一等書記官タイ國在勤同年十月兼任總領事盤谷在勤被命【住】在盤谷日本總領館内

内山　賢次　正七　職業主事　鳥取國民職業指導所長
靜岡縣人明治廿九年十二月五日出生大正四年縣立農學校卒業同十三年社會教育研究所卒業社會事業主事拜命鳥取縣學務部社會課勤務昭和十三年現職ニ就ク曩ニ紅葉山皇后宮職養蠶所助手囑託タリ【住】鳥取市江崎町六一

内山　孝一　從五　醫博　文部大臣秘書官
東京府人明治卅一年六月十五日出生大正十二年東京慈惠會醫專卒業同醫大助手同講師昭和三年同助教授歷職日大醫科昭和醫專各講師日大醫科教授ヲ經テ同十五年七月現官ニ就ク【住】目黑區鷹番町九二【電】荏原七七〇四

内山　新之助　從五　大阪市理事　水道部長
愛知縣櫻井新三郎ノ男明治十七年九月廿七日出生京都府士族内山宗愼ノ養子トナル同四十五年京都帝大工科土木科卒業和歌山水力電氣會社勤務後大阪市技師土木課勤務都市計畫地方委員會技師兼大阪府技師内務技師等歷職昭和三年再任大阪市技師土木部計畫工務各課長大阪市理事港灣部長ヲ經テ現職ニ就ク【趣味】旅行【家庭】妻貞(明卄二、船井長四郎三女兵庫縣立高女卒)長男敬義(大六) 二女みや子(同十二)【住】大阪府三島郡高槻町常盤【電】高槻二五九

内山　九万　正五勳五　鐵道技師　工作局工場課長
群馬縣恒十郎五男明治卅一年八月三日出生大正十一年東京帝大工學部冶金學科卒業鐵道局技手東京鐵道局大宮工場鑄物職場主任鐵道局技師同上勤務門司鐵道局小倉工場第四第一各技術掛主任仙臺鐵道局郡山工場長等歷任鐵道技師工作局勤務鐵道調查部技師鐵道局技師東京鐵道局大宮工場長門司鐵道局工作部長ヲ經テ昭和十七年二月現職ニ任ズ【家庭】妻スエノ(明卄八、大阪府故上田治兵衞四女)【住】目黑區平町一五二

内山　貞三郎　從四勳五　第三高校教授
新潟縣眞吉ノ三男明治廿九年三月出生大正九年東京帝大文學部獨文科卒業山口高商姬路高校各教授ヲ歷任後昭和八年三月現職ニ就ク大正十四年獨英米ニ留學ス【家庭】妻サチ(明卄九、新潟縣新保寅次長女)嗣子逸郎(昭四) 【住】京都市左京區下鴨蓼倉町七三

内山　濱喜地　從六勳五　通信事務官　神戸中央電信局長
東京府士族親重長男明治廿五年七月十五日出生同四十三年遞信官吏練習所電信科卒業昭和十年任通信事務官東京中央電信局第二内信課長同十二年富山郵便局長同十三年東京中央電

信局監査課長ヲ經テ同十六年十二月現職ニ就任ス住神戸市神戸區前町同局内

内山　秀吉　正五勳五　判事　浦和區裁判所監督判事兼同地方裁判所判事

東京府人明治四十三年早大專門部法科卒業任判事千葉區裁判所監督判事ヲ經テ昭和十六年現職ニ就ク住浦和市浦和區裁判所内

内山三國治　正六　鐵道局陸運監督官兼鐵道調査部書記官　札幌鐵道局監督部長

東京府三次郎ノ男明治卅四年六月廿七日出生大正十一年第四高校同十四年東京帝大法學部政治科各卒業高文合格名古屋鐵道局經理部審査課長總務部保健課長札幌鐵道局函館札幌各運輸事務所長歷任昭和十五年九月現職ニ就ク趣味碁釣家庭妻敏子(明卅九、栃木縣川島龜之助二女東京精華高女卒)長男太郎(昭八)長女美智子(同一二)二男明(同十一)住札幌市北九條東四丁目官舍電五九五七

内山　實　從五勳六　鐵道技術研究所技師兼鐵道技師研究室兼建設局線路課第二部勤務

福井縣人七三郎ノ二男明治卅八年一月十五日出生昭和二年東京帝大工學部土木科卒業任鐵道技手工務局改良課大阪改良事務所大阪驛改良工事係歷勤同七年鐵道局技師ニ任ジ大阪鐵道局改良課工事掛同課龜ノ瀨工事係大阪鐵道局改良工事掛各勤務鐵道技師建設局大臣官房研究所各勤務ヲ經テ昭和十七年三月現職ニ任ゼラル家庭父七三郎(明十一)母まつ(同十一)妻錦子(同四二、福井縣江波與三郎三女)長男充(昭五)住杉並區荻窪二ノ五一

内山　辰男　正六　文部書記官　教育調査部審議課長

山口縣人直三ノ長男明治卅四年七月四日出生大正十三年高文行政科合格同十四年京都帝大法學部政治學科卒業專門學務局勤務昭和五年文部屬拜命學生部勤務思想局勤務同十一年靜岡高校教授同十五年二月任文部事務官專門學務局科學課勤務同年六月現職ニ就キ同十七年三月文部書記官ニ任ズ住深川區清澄町二ノ二電本所六九九一

打越顯太郎　正六　農林省產業組合事務官　總務局勤務

兵庫縣人明治卅一年五月廿六日出生大正十一年第八高校ヲ經テ同十四年東京帝大農學部農學科卒業昭和二年農林屬農務局產業組合課同三年地方農林主事千葉縣農政課各歷勤同七年福岡縣產業組合課長ヲ經テ同十二年任產業組合事務官同十六年一月現職ニ就ク同十五年中華民國同十六年滿洲國ヘ各出張ス住淀橋區西大久保三ノ六七

籾　勉　從五　遞信書記官　電務局規査課長

東京府杉山直吉ノ二男明治卅七年九月出生昭和八年籾仲次郎ノ養子トナリ同十一年分家ス同四年東京帝大法學部英法科卒業久留米郵便局長大阪遞信局監督課無線係長關東遞信局監督課長遞信書記官電務局調査課長ヲ經昭和十四年現職ニ就ク趣味音樂讀書家庭妻貞子(明四五、大阪府籾仲次郎二女)長女眞佐子(昭十一)住澁谷區青葉町六電青山二〇三〇

移川子之藏　從四勳三　臺北帝大教授　文政學部勤務

福島縣嘉藏ノ四男明治十七年十一月出生昭和八年分家ス夙ニ北米シカゴ大學卒業後ハーバード大學大學院ニ學ビ同大學海外研究員トシテ東印度方面ニ派遣歸朝後慶應義塾大學文學部東京高商各講師東京商大附屬商學專門部教授兼同大學豫科教授歷任昭和三年任現教授同十五年文政學部長ニ補セラル家庭妻隆子長男丈兒(大十一)長女甲子(同十三)二女敎子(同十五)二男次彥(昭四)三女嘉子(同十一)住臺北市昭和町大學住宅電六一八二

濤塩　義男　從五勳六　畜產試驗場技師

廣島縣士族明治卅年九月廿六日出生大正十一年東京帝大農學部農藝化學科卒業同十四年畜產試驗場技手拜命次デ兼任農林技手昭和三年免兼官兼任種鷄場技手同五年免兼官兼任農林技師歷任同八年畜產試驗場技師ニ任ジ今日ニ及ブ住千葉市千葉寺町三二電千葉一一三一

梅北　末初　正五勳四　營繕管財局理事　總務部長

東京府士族伊八郎長男明治卅一年八月出生同卅六年家督相續大正十一年東京商大卒業高文行政科合格司稅官山口稅務署長熊本稅務監督局經理部長銀行檢查官大藏事務官兼同書記官大臣官房財政經濟調查課長大藏書記官理財局國庫課長大臣官房會計課長預金部預金局監理部長預金部理事預金部總務部長ヲ經テ昭和十六年九月現職ニ就ク趣味庭球撞球旅行家庭妻富美(明四三、栃木縣幸島喜太郎二女)住牛込區南山伏町一一電牛込一三七〇

梅崎　英雄　正六　社會事業主事　神奈川縣學務部社會課長

佐賀縣人明治卅七年二月一日出生大正十五年

東京市ニ奉職社會局ニ勤務昭和二年岡山縣社會事業主事拜命同十年神奈川縣社會事業主事ニ轉ジ同十六年現職ニ就ク家庭妻ハツ(明四四、佐賀高女卒)長男英一(昭六)住橫濱市神奈川區篠原町一八三〇

梅澤　純一　從四勳五　醫博　鐵道技師　大臣官房保健課勤務

埼玉縣良三長男明治十八年一月出生昭和五年家督相續明治四十三年東京帝大醫科卒業同大學ニ細菌學ヲ研究同大學副手福井縣小濱病院長鐵道技師札幌鐵道病院長兼内科醫長ヲ經テ現職ニ就ク曩ニ大正十三年學位ヲ受ク家庭妻たか(明廿三、山梨縣佐藤豫候長女)男純夫(同四二)男濱夫(大三)男邦臣(同五)男勉(同七)五男實(同十一)六男博臣(大十三)住板橋區中新井町三ノ二〇〇九電練馬六四〇

梅澤　昌晴　八王子市收入役

神奈川縣義昌ノ長男明治廿六年六月十三日同縣津久井郡串川村ニ出生同四十三年同縣立厚木中學校卒業大正十五年現職ニ就ク趣味讀書旅行謠曲大弓家庭妻セイ子(明廿八、東京府井草甫三郎長女精華高女和洋高女各修)嗣子義郎(大八)二男俊郎(同十)長女道子(同十二)三男秀郎(同十四)二女和子(昭三)住八王子市南町三三電八王子四五三

梅田　郭睿　正七　地方事務官　神奈川縣總務部庶務課勤務

廣島縣人明治四十三年四月十日出生昭和九年東京帝大法學部卒業高文合格三重縣屬同縣警部ヲ經テ同十二年任都市計畫地方委員會事務官兼北海道廳事務官建築工場課長兼時局課長同十三年地方事務官靜岡縣地方課長兼時局課長同十六年二月神奈川縣警察部勞政課長ヲ經テ同十七年二月現職ニ就ク住橫濱市紅葉丘官舍一三番電長者町二一三〇

梅田　義彥　從七　神祇院調査官　敎務局勤務

大阪府人明治卅九年十月廿九日出生大正十四年同市都島工業本科機械科昭和四年神宮皇學館本科各卒業神社局ニ奉職爾來考證課兼總務課同十三年物品取扱主任同十五年神祇院考證官補等各歷職同十六年一月任神祇院調査官現職ニ就ク住麴町區霞ケ關内務省內

梅谷　修三　從五　臺灣總督府事務官　文敎局學務課長

香川縣人大正十三年東京帝大法學部獨法科卒業臺灣總督府ニ入リ累進地方理事官新竹州地方課長府事務官殖產局鑛務課長ヲ經テ昭和十六年九月現職ニ就ク住臺北市千歳町二ノ三八電三一〇六

梅谷　村吉　從五勳六　福井縣今立農學校長

福井縣長谷部甚右衞門ノ三男明治廿三年八月二日出生梅谷善太郎ノ養子トナル同四十五年鹿兒島高等農林學校農學科卒業大正四年福岡縣農事試驗場技師拜命同七年福井縣立福井農林學校敎諭ヲ經テ昭和八年現職ニ就ク曩ニ陸軍步兵少尉ニ任ズ趣味盆栽家庭妻ツヨ(養父善太郎長女三國高女卒)長男尙男(昭十)二女美枝子(大十一)三女レイ子(昭三)住福井縣今立郡舟津村電鯖江一〇三

梅津喜代治　正六　中央航空研究所研究官　研究部第三課長

兵庫縣人大正十四年東京帝大工學部航空學科卒業ス住杉並區和泉町九一四電松澤三九三六

梅津　龍夫　正七　地方事務官　石川縣經濟部商工課長兼總務部人事課長知事官房主事

山形縣喜一長男明治四十一年七月廿一日出生昭和四年武藏高校同七年東京帝大法學部法律學科各卒業同十年高文行政科合格同十二年東京府屬拜命總務部庶務課地方課勤務同十三年任地方事務官沖繩縣農務課長兼經濟更生課長翌年農務課長兼商工課長同十五年四月同縣知事官房主事兼人事課長兼農務課長商工課長ヲ經テ同十六年二月現職ニ就ク趣味登山スキー家庭妻正子(大二、米澤高女卒)男晉(昭十三)女啓子(同十一)住金澤市下本多町一番丁三官舍電三〇五一

梅津美治郎　正四勳一功五　陸軍大將　關東軍司令官兼特命全權大使　滿洲國駐劄

大分縣芳米二男明治十五年一月四日出生同四十二年分家同卅七年任陸軍步兵少尉昭和九年同中將次デ大將ニ累進其間陸軍省兵器局兼軍務局課員步兵第三聯隊長參謀本部課長兼陸軍大學教官軍務局軍事課長第一旅團長參謀本部總務部長支那駐屯軍司令官等歷補同十年第二師團長同十二年四月陸軍次官同十三年五月北支戰線指揮官ヲ經同十四年九月現職ニ就ク家庭嗣子美一(大十二)長女美代子(同八)住新京市康平街關東軍司令官々邸電本局一〇五一

梅原　達也　從五　道路技師兼土木技師　福井縣經濟部土木課長

靜岡縣人明治卅二年九月廿四日出生大正十三年東京帝大工學部卒業復興局技手福岡縣土木技師兼道路技師昭和十年九月兵庫縣土木部道

路課長ヲ經テ現職ニ就任ス住福井市寶永中町三三電九五一

梅原　信正　從四勳三　醫博　京都府立醫大教授
兵庫縣岸本莊三郎長男明治十三年三月出生同廿年梅原和助ノ養子トナリ同廿七年家督相續同卅六年京都府立醫專卒業同校助手同講師同助教授ヲ經テ大正十年歐米各國ニ留學歸朝後京都府立醫科大學教授兼同醫學專門學校教授ニ任ジ現時前記ノ任ニ在リ曩ニ同九年醫博ノ學位ヲ受ク歐米各國ニ出張ス趣味文學園藝家庭妻イト（明廿一、京都府倉田敬之助母京都府立第一高女卒）長男信美（同四一）二男信愛（大二）長女鈴子（同三）三男信孝（同六）住京都市左京區北白川平井町九〇電上六五〇六

梅原　則三　從五勳五　地方農林技師　宮城縣農產物檢查所長
京都府俊治長男明治十四年十月三日出生同府立農學校卒業後同府農林技師ニ任ジ昭和四年現職ニ就ク家庭妻良子（上田高女卒）嗣子馨（大二）長女實枝子（同十一）二女多枝子（同十五）三女彌枝子（昭四）住仙臺市中島七七電一八五〇

梅村　馨　正五勳五　檢事　秋田地方兼同區裁判所檢事
山形縣士族氏家親治ノ弟明治廿七年五月出生後梅村家ノ養子トナル大正九年京都帝大法學部獨法科卒業檢事ニ任ジ爾來東京地方平區福知山區大阪區德島區青森區那覇地方兼同區横手區八代區兼同支部仙臺地方兼同支部各裁判所檢事歷補昭和十三年現職ニ就ク趣味旅行讀書家庭妻俊子（同卅一、千葉縣遠山憲義妹日本橋高女卒）男源二郎（大十二）二男照（昭五）長女和子（同六）二女博子（同八）三男進（同十一）四男榮（同十四）住秋田市上通町五電九五五

梅本　好治　從七　地方事務官　埼玉縣警察部健康保險課長
長崎縣人明治卅五年十一月十二日出生大正十年縣立佐世保中學卒業同十五年社會局屬拜命保險部勤務爾來警視廳屬兼社會局屬兼任保險院屬社會保險局長書記等歷任昭和十五年任保險院理事官監理課勤務ヲ經テ同十六年九月任地方事務官現職ニ就ク住王子區稻付町西六ノ二四電赤羽三三一三

梅森　浩　從五勳六　宮城縣涌谷高等女學校長
宮城縣人大正七年廣島高師物理化學科卒業仙臺第二中學福島縣安達中學仙臺第二高女各教諭宮城縣若柳高女校長ヲ經テ昭和十七年四月現職ニ就ク住宮城縣涌谷町

梅山　實明　從四勳三　判事　岐阜地方裁判所長
奈良縣義弘ノ二男明治十六年四月出生大正十年分家明治四十一年明治大學卒業判檢事登用試驗合格同四十四年任判事爾來京都地方富山地方名古屋地方同區豐橋區上野區岐阜地方各裁判所判事名古屋控訴院判事岐阜名古屋各地方裁判所部長等ニ歷補昭和十一年七月名古屋控訴院部長ヲ經テ同十五年現職ニ補セラル趣味園碁釣魚家庭妻よう（明廿八、愛知縣小出敬三二女）住岐阜市北八ッ寺町電三五六

卜部　岩太郎　正四勳三　小樽高商教授兼生徒主事
廣島縣傳八長男明治九年九月十七日出生同四十三年家督相續同卅七年東京高師專攻部卒業岡山高知三重愛媛各縣師範教諭歷任大正八年現職ニ任ズ家庭妻濤子（明廿五、岡山縣原案太郎三女）男奎一（同四三）同妻正子（大三）二男昭典（同四）四男尙史（同十一）六男睦夫（同十五）二女采子（昭五）三女和子（同六）七男守彥（同九）住小樽市綠町四ノ一一官舍電四一七九

浦　長[illegible]（ミツ）　從五勳六　關東州廳內務部長　關東局事務官
山口縣士族勝善ノ三男明治卅一年六月十一日出生大正十三年京都帝大法學部政治科卒業高文合格岡山縣警部地方警視德島縣保安課長地方事務官大分縣社會農務學務各課長愛媛縣工場社會庶務各課長知事官房主事新潟縣商工水產課長知事官房主事庶務兼人事各課長昭和十二年山梨縣書記官學務部長同十四年一月關東州廳內務部長兼財務部長同十五年四月經濟部長ヲ經同年七月現職ニ就ク趣味登山散步演劇家庭妻ミサヲ（明卅七、神戶松蔭高女卒）長男照夫（昭三）三男晴夫（同七）四男正夫（同十三）住大連市臺山屯四四六官舍電四一九八二〇

浦豐　國雄　從五勳六　地方農林技師　宮城縣農事試驗場古川分場長
山形縣士族義正三男明治廿五年九月四日山形市出生大正三年盛岡高等農林卒業山形宮城各縣農事試驗場技師歷任同十四年現職ニ就ク家庭妻直子（明卅一、山形縣士族色部憲二女山形縣女師卒）嗣子宏平（昭二）長女江津子（大十一）二女博子（昭十）住宮城縣古川町荒川一

浦上　時次郎　正五勳五　岡山工藝學校長
岡山縣滿藤平太郎ノ二男明治十六年二月出生浦上恒七郎ノ養子トナル同卅八年岡山師範卒業同四十三年文檢合格同校教諭ヲ經テ大正八年現職ニ就ク趣味教育宗教學家庭妻貞子（岡山縣龜山直三郎妹山陽高女卒）嗣子恒右衞門（大元）二男勝彥（同六）住岡山市上西川町七一電岡山二六〇四

浦川　親正　正五勳四　遞信局技師　東京都市遞信局芝工務出張所長
東京府篤ノ二男明治十七年十月廿二日出生同卅八年郵便電信學校卒業遞信省ニ入リ大正十二年遞信局技師ニ任ジ東京地方遞信局勤務小石川工務出張所長ヲ經テ昭和十五年九月現職ニ就ク曩ニ復興局技師土木部市外電話掛長ヲ兼ヌ趣味釣魚旅行家庭妻トヨ（明廿四、群馬縣高草三四郎二女）長男親敬（大四）二男親久（同五）三男親直（同七）四男親誠（同九）長女淑子（同十二）五男親和（昭二）住目黑區中目黑四ノ一四一五電大崎五四四

浦川　徹介　正四勳四　新居濱高等工業學校長
鳥取縣士族敏直ノ長男明治廿年十二月出生同四十五年京都帝大理工科採鑛冶金科卒業古河合名足尾銅山勤務ヲ經大正七年秋田鑛山專門學校教授ニ任ジ昭和十四年現校長ニ就ク大正十年歐米各國ニ留學ス趣味旅行讀書家庭妻いちゑ（明廿五、兵庫縣吉田德雄長女）長男直樹（大二）長女初惠（同三）二男康男（同五）二女陸子（同十一）住新居濱市庄内一二三五電五一九

浦島　喜久衞　正六　遞信書記官　管理局現業調查課長
熊本縣人明治卅七年七月卅一日出生昭和二年高文行政科合格翌年東京帝大法學部政治學科卒業遞信局書記同七年通信事務官敦賀郵便局長同九年簡易保險局書記官同年免官滿洲國交通部事務官同理事官交通部總務司人事科長同十二年任遞信局書記官廣島大阪各遞信局規畫課長歷任同十四年十一月遞信書記官管理局規畫課長ヲ經テ同十六年六月現職ニ任ゼラル住杉並區松ノ木町一二二〇電中野七六四〇

浦田　鶴雄　從五勳五　朝鮮總督府鐵道局參事　京城地方鐵道局經理部長
熊本縣人明治廿二年出生山口高商卒業朝鮮總督府鐵道局ニ入リ累進副參事昭和十四年參事ニ任ジ元山鐵道事務所長同十五年京城鐵道局經理部長ヲ經テ同十六年一月現職ニ就ク住京城府同鐵道局經理部內

裏川　實藏　從四勳四　岡山縣第一岡山中學校長兼教諭
和歌山縣人岡本市右衞門三男明治十一年二月十一日出生裏川里平ノ養子トナル明治卅八年東京高師卒業愛知縣津島中學廣島福岡各師範教諭大分宮崎各縣立中學校長ヲ經テ昭和四年現職ニ就ク家庭妻杉野（明十五）長男吉太郎（明卅二）同妻久枝（同四五）住岡山市門田本町六四〇

瓜生　和夫　從六勳七　地方技師　京都府經濟部耕地課長
福岡縣人明治卅五年八月六日出生昭和三年九州帝大農學部農學科卒業同年東京帝大農學部農業工學授業補助囑託同五年三重縣農林技手同六年同技師翌年佐賀縣農林技師歷任同十一年任地方技師爾來鹿兒島鳥取各縣耕地課長ヲ經テ同十六年現職ニ就ク住京都市上京區中立賣室町東官舍電西陣六六三三

瓜生　順良　正六　情報官　情報局情報官兼內務事務官情報局第四部第一課兼警保局檢閱課勤務
石川縣人余所吉ノ四男明治卅八年一月卅日出生昭和三年高文合格同四年東京帝大法學部卒業佐賀縣保安課長兼工場課長警務特高各課長歷任同十二年七月北海道廳警視特高課長同十四年五月內務事務官警保局圖書課勤務同檢閱課勤務情報局情報官兼任ヲ經同十六年五月現職ニ就ク住牛込區二十騎町一八電牛込五五二二一

瓜生　了觀　從五勳六　石川縣立盲學校長
富山縣智了ノ四男明治十九年三月三日出生同四十一年早大卒業富山商業長野高女長野中學石川中學各教諭津幡高女校長等歷職昭和十一年三月現職ニ就ク趣味書畫家庭妻かね（明廿一）長男文雄（大元、九州帝大卒）二男鐵郎（同三、福井高工卒）住金澤市上本多町一番丁四ノ六

瓜田　友衞　正五勳五　樺太廳立豐原中學校長
青森縣瓜田寅五郎ノ二女明治十九年四月十五日弘前市ニ出生同四十一年廣島高師卒業後第二鹿兒島中學教諭支那青島日本高女教諭同校長樺太大泊高女教諭兼大泊各中學校長歷任後現職ニ就任ス家庭妻みさほ（明廿三、青森縣小島晉之進長女女子美術卒）長男隆治（大二、慶大卒、大倉商事勤務）二女たか子（同十二、山脇高女卒）住豐原市東七條南八丁目電二七六七

エの部

江上　英三　正五勳六地方農林技師　埼玉縣農事試驗場長
富山縣人明治廿二年出生大正五年東京帝大農科農藝化學科卒業任地方農林技師富山縣立農事試驗場長ヲ經テ昭和十三年現職ニ轉ズ【住】埼玉縣北足立郡上尾町同試驗場公舍

江上　秀雄　正五勳五　名古屋高商生徒主事兼教授
三重縣人德雄ノ二男明治廿九年七月出生大正十年東京帝大文學部教育學科卒業文部屬拜命同十三年任第四高校教授傍ラ金澤醫大附屬藥專講師第十臨時教員養成所講師兼任昭和九年關東廳視學官ヲ經テ同十一年現職ニ就ク曩ニ布哇及米國ニ出張又獨英佛各國ニ留學ス【趣味】讀書講演【家庭】妻文子（明卅五、三重縣杉谷泰山二女宮城縣立第一高女卒）男信雄（大十四）長女千代子（昭二）二女壽賀子（同五）三女順子（同九）【住】名古屋市昭和區下構町一ノ一二

江川　英文　正五勳四　東京帝大教授　法學部勤務
靜岡縣先代英武ノ長男明治卅一年七月出生昭和九年家督相續大正十四年東京帝大法學部佛法科卒業同大學助手同助教授ヲ經テ昭和十一年現職ニ就ク曩ニ歐米ニ留學ス【趣味】音樂文學運動【家庭】妻美（明四二、男爵佐藤達次郎三女女子學習院卒）男英晴（昭六）長女幸子（同八）二男洸二（同十二）【住】牛込區辨天町一四〇【電】牛込一五九二

江口　長次　正七　關東局理事官　關東州廳經濟部貿易爲替課長
福岡縣人昭和二年京都帝大法學部法律科卒業關東州大連民政署財務課勤務次デ關東州廳金州民政署長關東局理事官官房勤務同十五年五月關東州廳經濟部理財課長ヲ經テ同十六年七月現職ニ就ク【住】大連市長者町關東州廳經濟部

江口　[illegible]　正五勳四　福島高等商業學校長
佐賀縣人海軍中將麟六ノ長男明治廿六年三月廿七日出生大正七年東京帝大法科法律科卒業長崎高商教授北海道帝大豫科教授同大學事務官同書記官同學生監歷任昭和三年東京帝大書記官庶務課長ヲ經テ同十五年一月現職ニ就ク曩ニ中華民國ニ出張ス【趣味】文學柔道【家庭】妻英子（明廿七、埼玉縣梅澤徹郎妹双葉高女卒）男重和（昭元）長女千里（大十四）【住】福島縣信夫郡清水村西養山三四【電】四七六

江口　胤顯　正四勳四　名古屋市電氣局長
佐賀縣胤俊ノ長男明治廿八年一月卅一日出生大正十年東京帝大法學部法律學科卒業高文行政科合格鐵道屬次デ鐵道局副參事札幌鐵道局旭川運輸事務所庶務掛主任同局運輸課貨物掛長同庶務掛長兼旅客掛長大正十四年遞信局事務官兼任昭和二年在外研究員被命同四年歸朝仙臺鐵道局運輸課旅客掛長鐵道事務官官房文書課勤務國際觀光局書記官事業課長鐵道局參事門司鐵道局庶務課長廣島鐵道局運輸課長鐵道書記官大臣官房現業調查課長等歷任昭和十三年門司鐵道局長ニ任ジ同十六年四月依願免本官現職ニ就任ス【趣味】庭球ゴルフスキー【家庭】妻すま子（明卅三、佐賀縣成松胤隆長女浦和高女卒）男宏（同十三）長女潔子（大九）男滿（昭六）二女洋（同八）【住】名古屋市役所內

江口　親憲　正五　樺太廳內務部長
山形縣人親明ノ長男明治廿二年二月十一日出生大正十二年東京帝大法學部獨法科卒業高文合格任關東廳事務官普蘭店民政署長內務局商工課長拓務事務官會計課勤務同書記官殖產局商工課長兼任調查局調查官企畫院書記官昭和十三年拓務書記官大臣官房調查課長拓殖調查部第一課長大臣官房文書課長ヲ經テ同十六年六月現職ニ就ク曩ニ歐米各國ニ留學ス【住】樺太豐原市官舍【電】二〇〇六

江口　俊男　正七　內務事務官　地方局行政課勤務
佐賀縣人明治四十五年六月廿三日出生昭和七年佐賀高校文科同十年東京帝大法學部政治學科各卒業其間同九年高文行政科合格翌年任內務屬土木局兼地方局勤務同十二年地方事務官ニ任ジ廣島縣社會課長同十四年同縣警防課長兼商工課長ヲ經テ同十六年一月現職ニ就ク【住】芝區車町四五【電】高輪三〇三七

江口虎三郎　正五勳五　長崎醫大附屬藥學專門部教授
佐賀縣士族儀八長男明治廿九年四月十三日出生大正十二年東京帝大藥學科卒業現職ニ就ク曩ニ同大學々生主事ヲ兼ヌ【趣味】庭球登山【家庭】妻トモヱ（明卅六、福岡縣佐藤彌六）三女久留米高女卒）長男宏（同十三）二男皞（昭七）【住】長崎市城山町北一條ノ一【電】二二八七

江口　操　正六　臺灣總督府專賣局參事兼臺灣總督府事務官專賣局兼殖產局勤務
佐賀縣人大正十五年京都帝大法學部法律學科卒業臺灣總督府專賣局副參事專賣局嘉義支局

長同參事專賣局勤務酒課長兼煙草課長歷任現時前記ノ職ニ在リ住臺北市兒玉町一ノ八電二八九四

江口見登留　正六　內務事務官　大臣官房會計課勤務　兼任海軍司政官
大分縣菅太郎ノ男明治卅八年十一月廿日出生昭和五年京都帝大法學部卒業內務省ニ入リ兵庫縣勤務內務省土木局道路課勤務地方事務官島根縣勤務三重縣敎育課長都市計畫地方委員會事務官兼內務事務官等ヲ經テ同十二年十月內務事務官計畫局都市計畫課勤務次デ現職ニ就ク家庭妻昭乃(明四三、京都府今木淸一郎女同府立第一高女卒)長女美子(昭八)住杉並區馬橋三ノ三六七電中野七一六六

江熊　哲翁　正六勳六　地方農林技師　山口縣經濟部水產課長
大分縣源十郎ノ長男明治廿六年四月廿五日出生大正五年水產講習所ヲ卒業爾來大分縣技手臺灣總督府技手歷任後地方農林技師ニ任ジ滋賀縣勤務佐賀愛媛各縣水產課長ヲ經昭和十六年九月現職ニ就ク趣味寫眞讀書家庭妻ミエ子(明卅一、熊本高女卒)住山口市野田電五三八

江坂　廣雄　正五勳五　福井縣立福井高等女學校長
福井縣三馬長男明治十四年四月十七日同縣今立郡鯖江町ニ出生同卅九年東京高師卒業福井中學敎諭三國武生各中學校長ヲ經テ昭和十三年現職ニ就ク家庭妻ゆう(明卅四)長男廣文(大元、金澤醫大卒)二男貞廣(同六、三國中卒)六女昭子(昭四)住福井市行幸下町同校內

江崎　歡藏　從四勳五　東京高等工藝學校敎授
熊本縣士族伊門ノ四男明治十九年二月出生大正十二年分家同五年京都帝大理科數學科選科卒業山梨縣立都留中學校敎諭ヲ經テ同十一年東京高等工藝敎授ニ任ジ現時前記ノ職ニ在リ趣味園藝家庭妻和登(明廿七、熊本縣本村喜太郎妹熊本尙絅高女卒)男健一郎(大十)二女昭子(昭二)三女和子(同八)三男敏之(同十一)住淀橋區西大久保三ノ一〇五

江崎　千準　從六　興亞院調査官　華北連絡部在勤
愛知縣人明治四十二年八月十七日出生昭和七年高文司法科合格同八年東北帝大法文學部法科卒業同年商工省統計官補次デ商工局拜命同年高文行政科合格同十年特許局事務官同十二年兼任外務事務官同年貿易局事務官同翌年商工事務官兼臨時物資調整局事務官商務局勤務鐵鋼局勤務等歷職同十四年鑛山監督局書記官東京鑛山監督局總務部長總務課長出願課長事務取扱ヲ經同十六年四月現職ニ就ク住(留守宅)杉並區高圓寺六ノ七二七電中野二四七三

江崎　悌三　正五勳三　理博　九州帝大敎授　農學部勤務
長野縣政忠三男明治卅三年十一月出生大正十二年東京帝大動物科卒業ス家庭妻シャル(明卅六、獨逸人ヴィッテ、フリードリッヒ長女)長女はる(昭四)二女るり(同七)三女えり(同九)住福岡市舞鶴市營住宅第三號

江崎　善愛（ヨシエ）　從五勳六　內務技師　下關土木出張所勤務
福岡縣人喜次郎二男明治卅二年六月廿日出生大正十三年九州帝大工學部土木科卒業內務省下關土木出張所ニ入リ門司港修築關門海峽改良各工事勤務昭和七年現職ニ就ク趣味謠曲撞球ゴルフ音樂家庭妻タマヨ(明卅六、福岡縣山崎喜三次長女福岡高女卒)長女妙子(大十三)二女惠美子(昭四)三女太華子(同九)住大分市春町七〇七ノ二電六

江崎　義人　正五勳四　朝鮮總督府鐵道局技師　鐵道局建設課長
福岡縣人大正七年東京帝大工科土木工學科卒業朝鮮總督府ニ入リ累進現時前記ノ任ニ在リ住京城府龍山鐵道官舍一一七號

江下　孝　從六　厚生事務官　衞生局勤務
福岡縣人明治四十二年十一月十五日福岡縣三井郡ニ出生昭和九年東京帝大法學部法律學科卒業同十年任東京府屬商工課勤務同十二年七月任地方事務官秋田縣商工水產課長同十四年五月佐賀縣庶務課長兼人事課長ヲ經テ同十五年九月現職ニ就ク住四谷區簞笥町七八井上方

江下　忠　正七　物價局事務官
福岡縣人明治四十三年十一月十五日出生昭和八年高文行政科合格翌年東京帝大法學部法律學科卒業同十三年貿易局屬拜命翌年一月任商工事務官商務局勤務同年六月現職ニ就ク住四谷區簞笥町七八

江島　五郎　地方統計主事　高知縣總務部統計課長
佐賀縣人明治四十年四月廿日出生昭和六年東京高等工藝本科圖案科卒業商工省ニ入リ同十三年商工技手官房統計課翌年調査課兼報道課各勤務ヲ經テ同十六年七月任地方統計主事現職ニ就ク住高知市小津町縣公舍

江副　孝夫　正五勳四　遞信技師兼農林技師　工務局勤務
佐賀縣士族榮ノ弟明治廿年七月廿五日出生同四十一年佐賀縣立商船工業學校航海科卒業遞信技手拜命爾來遞信技師兼臨時電信電話建設局技師農商務技師汽船小笠原丸船長兼農林技師汽船沖繩丸船長昭和四年任海軍豫備中尉同六年南洋丸船長トナル住麴町區大手町二丁目遞信省工務局內

江頭　六郎　正五勳四　京城中學校長
福岡縣重吉ノ二男明治廿年六月出生同四十年東京高師卒業廣島一中若松高女同中學及福井師範各敎諭朝鮮總督府編輯官淸州及第二各高等普通學校長京畿道視學官等歷任昭和九年現職ニ就ク趣味書道家庭妻島子(明卅四、福岡縣高橋正義二女奈良女高師卒)長男精一(大八)長女肅子(同十一、京城第一高女卒)二男公平(同十四)三男昌平(昭三)住京城府西大門町官舍電光化門八七四

江藤　逸夫　正五勳五　朝鮮總督府判事　咸興地方法院長
朝鮮大邱地方法院部長ヲ經テ大邱覆審法院部長昭和十五年平壤覆審法院部長ヲ經テ同十六年三月現職ニ就ク住朝鮮咸興府住吉町同地方法院內

江藤　吉之丞　從五勳六　地方技師　秋田縣警察部衞生課長
宮崎縣故宇吉長男明治廿七年二月十五日出生大正五年長崎醫專醫學科卒業同校助手拜命翌六年長崎縣防疫員同縣警察醫等經テ同十一年任衞生技師佐賀縣勤務同十六年一月任地方技師現職ニ就ク趣味運動競技家庭妻シケ(明卅五)長男哲(昭七)長女澤子(同三)二男和(同十五)二女フミノ(同十七)住秋田市保戸野愛宕町二電二八四七

江藤　彥武　從六　北海道廳事務官　學務部學務課長
東京府人故彥馬ノ長男明治四十二年七月廿九日出生昭和六年高文合格同七年中央大學法學部英法科修業神奈川縣屬同警部拜命同十一年七月任地方事務官大分縣社寺兵事課長農務課長福島縣農務課長蠶絲課長工場課長等歷任同十四年六月任地方警視栃木縣特高課長ヲ經テ同十六年一月現官ニ就ク趣味水泳家庭妻美代子(大六、福島縣兩角幸助長女福島縣立女學卒)住札幌市北二條西十ノ一官舍電一八一〇

江藤　昌之　從五勳五　興亞院書記官兼臺灣總督府事務官　廈門連絡部勤務
福岡縣人大正八年廣島高師敎育科同十四年京都帝大英法科各卒業臺灣總督府ニ入リ同府事務官文敎局學務課長同社會課長財務局稅務課長歷任昭和十三年十月同府州事務官高雄州內務部長同十五年十一月府事務官米穀局總務課長ヲ經テ同十六年六月現職ニ就ク趣味讀書映畫家庭妻靜子(明卅八、岡山就實高女卒)長女奎子(大十五)二女明子(昭五)三女瑛子(同十)住廈門市深田路門牌第四二號同連絡部內

江野本甚四郎　從七　地方事務官　宮崎縣總務部庶務課長兼稅務課長
富山縣人明治卅三年十一月十五日出生大正十一年長野縣普通試驗合格爾來富山縣財務書記同縣屬靜岡縣濱名郡書記同縣屬歷任昭和八年任內務屬土木局兼地方局勤務地方局事務歷任同十三年十一月地方事務官ニ任ジ長野縣地方課勤務同十五年十月同縣會計課長ヲ經テ同十六年九月現職ニ就ク家庭妻ハルヱ(明四一)男和夫(昭二)女フジ子(同五)女信子(同七)男賢治(同十二)女光子(同十四)住宮崎市花殿町電一八一

江橋　修　從四勳四　檢事　山口地方裁判所檢事正
茨城縣士族卓雄三男明治廿三年八月出生同卅三年家督相續大正四年高文合格同五年東京帝大法科英法科卒業同七年任檢事爾來高松大阪熊本小倉福岡久留米福岡各裁判所檢事福岡地方久留米支部檢事長崎控訴院檢事長崎地方兼同區小倉區各裁判所檢事等歷補昭和十四年前記ノ職ニ就ク家庭妻朝子(明卅一、茨城縣生駒直長女)男英一(大十一)住山口市大附官舍電五七

江花　靜　從六　地方事務官　栃木縣總務部庶務課長
福島縣人明治卅五年十二月二日出生大正十一年高等學校高等科入學者資格試驗檢定合格第一早稻田高等學院ニ學ビ昭和三年高文豫備試驗及同五年高文行政科ニ合格同年臺灣總督府屬拜命同十年同府地方警視臺南州高等警察課長同十一年臺北州高等警察課長同十四年外事課長兼務同十五年一月任地方事務官大分縣商工課長同十六年六月栃木縣勤務被命現時前記ノ任タリ住宇都宮市塙田町縣公舍電二二八九

江原　幹三　從五勳六　海軍豫備大尉　興亞院調査官　華中連絡部在勤
佐賀縣人宏雄三男明治十八年三月出生大正元年東京高等商船學校卒業日淸汽船會社入社任海軍豫備少尉候補生神戸互光商會川崎造船所

船舶部歷勤各船長ヲ經テ新造船艤裝監督ニ從事昭和三年任海軍豫備大尉關東廳海務局技師同港務課長海軍技師等歷任同十四年五月任興亞院技師華中連絡部在勤ヲ經テ同十六年十一月同調査官トナル趣味散歩佛教研究家庭妻セイ（明卅一、佐賀縣莊島熊六二女佐賀高女卒）長女睦子（昭四）二女榛子（同四）住上海市興亞院華中連絡部內

江原桂三郎　前橋市長

群馬縣先代桂三郎ノ二男明治廿七年五月九日出生後家督相續襲名ス大正八年東京帝大法學部政治科卒三菱銀行東電會社ヲ經テ群馬農工同中央各銀行取締役上毛倉庫會社監査役トナリ前橋市農會副會長群馬縣農會議員前橋商工會議所議員等ニ選バレ昭和八年前記ノ職ニツク商工會議所顧問タリ家庭妻ツヤ（明卅六、埼玉縣齋藤英作二女）嗣子桂介（大十五）住前橋市新町八二電前橋五六三

江原玄治郎　正五勲五　北海道廳立札幌高等女學校長

群馬縣吉平六男明治十四年六月出生同四十年東京高師卒業札幌一中同二中各教諭岩見澤小樽各中學校長ヲ經テ昭和七年現職ニ就ク趣味謠曲讀詩家庭妻より子（明廿四、神奈川縣前田幸一妹三重縣立高女卒）二男敬二（大四）三男昭三（昭三）住札幌市北二條西十二丁目公舍電二六二八

江原眞伍　從四勲五　理博　第三高校教授　兼大阪高校教授

茨城縣信雄ノ二男明治廿二年六月出生同四十四年東京帝大地質學科卒業第三高校及大阪高校ニ勤務昭和四年學位ヲ受ク家庭妻光子（明廿八）住京都市上京區寺町高德寺東入三五四

江邊清夫　正五勲四　福島縣知事

山形縣士族信次ノ長男明治廿八年十一月出生昭和二年家督相續大正九年東京帝大法科法律科卒業高文合格山梨縣警視地方警視地方事務官山口縣勤務都市計畫地方委員會事務官富山縣書記官學務部長山形三重熊本各縣書記官警察部長等歷任昭和十一年神奈川縣書記官經濟部長同十四年兵庫縣書記官總務部長ヲ經テ同十五年四月島根縣知事ニ任ジ同年十二月現職ニ就ク趣味テニス家庭妻しづ（明卅六、新潟縣八木朋直孫新潟高女卒）男俊一（大十二）長女正子（同十四）二女美和子（昭三）三女妙子（同五）四女泰子（同六）二男正敏（同八）五女信子（同十）住福島市舟場町一一官舍電一五三

江見清一　從五勲六　工業試驗所技師　大阪工業試驗所勤務

岡山縣士族明治廿八年十二月十八日出生大正十三年京都帝大理學部卒業同年工業試驗所技手昭和三年同技師ニ任ジ大阪工業試驗所在勤今日ニ及ブ住大阪府豐能郡中豐島町岡山

江見節男　從四勲四　浦和高校教授

岡山縣人多賀實右衞門二男明治廿三年一月出生同廿八年江見馬太郎ノ養子トナル同四十五年東京帝大理科純正化學科卒業第八高校浦賀高校各教授歷任昭和三年獨英米各國ニ留學ス趣味庭球卓球家庭妻秀子（明廿二、東京府士族山田銈太郎三女三輪田高女卒）女元子（大八）女明子（同十）住中野區桃園町三六電中野六六一〇

江本修　從四勲三　農博　東京帝大教授　農學部勤務

德島縣孝平ノ四男明治十九年五月出生大正十四年分家ス明治四十四年東京帝大農科獸醫科卒業同大學助手助教授歷任昭和九年任教授大正十三年學位ヲ受ケ翌年歐米各國ニ留學ス趣味讀書家庭妻喜美（明廿三、熊本縣池邊輾人叔母熊本第一高女卒）男傳（大五）男榮（同六）四男明（同十一）長女邦子（昭四）五男泰（同六）住品川區上大崎中丸四四四電大崎四四三一

江森武雄　從六　對滿事務局事務官　庶務課勤務

長野縣人網雄ノ長男明治廿六年四月十七日同縣ニ出生昭和四年京都帝大法學部獨法科卒業高文行政科司法科各合格愛知縣道路書記兼土木書記等デ愛知縣屬拜命同十二年一月任地方事務官滋賀縣社寺兵事課長地方課長兼人事課長兼知事官房主事同十四年五月栃木縣庶務課長兼人事課長兼知事官房主事ヲ經テ同十六年六月現職ニ就ク趣味讀書野球庭球劍道家庭妻壽美子（明四四、愛知縣久米邦滿二女同縣立第一高女卒）長男睦雄（昭六）長女祐子（同八）二女和子（同十）三女滋子（同十三）二男秀雄（同十六）住麴町區大手町對滿事務局內

江利川晉次郎　從五勲六　山梨縣立農林學校長兼教諭

埼玉縣第之助三男明治三年九月廿三日同縣大里郡秦村出生大正七年東京帝大農學部卒業大分縣立農學校現校各教諭山梨縣立蠶業同峽北農學各校長歷任同十三年現職ニ就ク趣味詩釣家庭妻文子（明廿二、士族大河平親貞二女宮崎縣立高女卒）長男彌文（大十四）長女芳子（同十二）二男俊德（昭二）住甲府市伊勢町二五二四

江里口正行　正七　地方事務官　大阪府經濟部商工第二課勤務

福岡縣人明治卅六年九月廿一日出生昭和二年關西大學法文學部法律學科卒業大阪府商工主事補拜命同九年同府屬工務課同十二年地方商工主事同課各勤務ヲ經テ同十三年商工第二課勤務トナリ同十七年一月地方事務官ニ任ズ住大阪市住吉區阿倍野筋二ノ三

永木（エイキ）千代治　從七　地方警視　新潟縣長岡警察署長

新潟縣人明治卅三年一月八日出生大正九年縣巡査拜命同十年巡査教習科程卒業同十三年巡査部長同十五年警部補昭和四年任警部小千谷卷三條各警察署長警察部保安課長歷任同十三年七月任地方警視高田警察署長警察部刑事課長ヲ經テ現職ニ就ク住長岡市同署內

衞藤顯　從四勲四　判事　旭川地方裁判所長

大分縣忠藏ノ長男明治廿二年十二月出生大正四年東京帝大法科獨法科卒業辯護士ヲ開業同八年判事ニ任ジ福岡地方裁判所兼同區裁判所判事長崎控訴院判事佐賀福岡各地方裁判所部長等歷補昭和十五年四月小倉區裁判所監督兼福岡地方小倉支部々長ヲ經テ同十六年五月現職ニ就ク家庭妻久（明廿八、大分縣三浦數平長女大分高女卒）男謙一（大六）女文子（同十二）二男晉（同九）三男達夫（同十四）二女澄子（昭三）四男榮八（同五）住旭川市七條通十七丁目官舍電三〇五六

衞藤益（ソウ）三郎　從五　鐵道醫　東京鐵道病院耳鼻咽喉科醫長

大分縣國男三男明治廿五年一月十七日出生大正七年九州帝大醫科耳鼻咽喉科卒業同大學助手拜命後久留米市立病院耳鼻咽喉科勤務ヲ經テ同十二年鐵道醫ニ任ジ東京鐵道病院ニ勤務現ニ耳鼻咽喉科醫長タリ趣味讀書旅行家庭妻常子（明卅三、渡邊孝妹四日市高女卒）嗣子昭（昭三）長女敏子（大十四）二男駿（昭六）住淀橋區十二社三〇〇電淀橋六七二

枝松寬次　正六勲五　鐵道局技師　東京鐵道局宇都宮保線事務所長

岡山縣磯吉二男明治廿三年二月十五日出生同卅九年同縣立工業學校土木科卒業鐵道廳雇拜命同四十五年任鐵道技手監理部技術課東管局技術課工務課保線掛各勤務昭和七年任同技師東京鐵道局保線技術掛勤務大阪鐵道局福知山保線事務所長ヲ經テ現職ニ就任ス家庭妻照野（明廿八、岡山縣井上一三長女）長男敏邦（大二）長女公惠（同八）住宇都宮市川向官舍電二四八八

枝本男雄　正五勲五　東北帝大助教授　理學部勤務

岡山縣人秀吉長男明治廿九年四月出生昭和七年家督相續大正十年東北帝大理學部卒業陸軍士官學校教授陸軍教授東北帝大副手同大學助手同講師仙臺高工講師ヲ經テ現職ニ就ク家庭母龜（明九）妻千代野（同卅七、岡山縣森末愛三郎二女）長男章雄（昭三）二女紀代子（同七）二男康男（同十）住仙臺市大崎町三一

榎田武男　從六　地方事務官　奈良縣總務部庶務課長

熊本縣人明治卅七年十一月十一日出生昭和四年高文行政科同司法科各合格同年東京帝大法學部卒業大分縣屬兼警部拜命同十一年地方事務官佐賀縣學務課長同十二年地方警視鳥取縣特高課長同十四年北海道廳警視外事課長ヲ經テ同十六年一月任地方事務官奈良縣振興課長兼稅務課長次デ現職ニ就ク住奈良市高畑町電三九二六

榎谷孝典　正五勲四　仙臺財務局長

靜岡縣壽太郎長男明治廿九年七月出生昭和七年家督相續大正十一年東京帝大法科獨法科卒業任大藏屬爾來司稅官新潟藤枝幸橋各稅務署長稅務監督局書記官名古屋大阪各稅務監督局間稅部長等歷任昭和十一年名古屋稅務監督局總務部長同十四年函館稅關長同十六年仙臺稅務監督局長ヲ經同年七月現職ニ就ク趣味讀書旅行家庭父壽太郎（明三）母タネ（同八、靜岡縣中山均姉）妻佐嘉惠（同卅七、同縣熊平春司長女）嗣子哲男（昭二）長女嘉子（大十四）二女榮代子（昭十）住仙臺市北二番丁電一五四

榎本豐吾　正六　商工書記官　振興部勤務

新潟縣嘉次郎四男明治卅七年八月四日出生昭和三年高文合格同四年東京帝大法學部卒業同五年商工省ニ入リ特許局仙臺鑛山監督局鑛山局歷勤燃料局事務官資源課勤務鑛山監督局書記官福岡鑛山監督局鑛政課長同年八月同局總務部長等歷任昭和十六年二月貿易局書記官第二部化學水產課長同年四月商工書記官監理部總務課長次デ振興部總務課長ヲ經同十七年三月現職ニ就ク趣味野球旅行家庭妻邦子（明四四、東京府石井省二姉普連土高女卒）嗣子圭介（昭二）長女洋子（同八）二女紀子（同十三）住豐島區千早町二ノ二九電落合長崎三一五九

榎本　正七　正五勳五　朝鮮光州西中學校長

千葉縣安五郎三男明治廿三年一月出生大正五年廣島高師數物化學科卒業千葉關谷各中學教諭海州高普光州西及春川各中學各校長ヲ經テ現時前掲ノ職ニ在リ【家庭】妻ヌイ（明廿二、新潟縣阿部喜一郎二女）長男廣（大三、武藏野音樂學校卒）二男壽（同七、京都帝大在）長女けをみ（同十、廣島女專卒）二女まち子（同十三）三女由紀子（同十五）四女悅子（昭二）【住】朝鮮全羅南道光山郡同校內

榎本　中衞　從四勳三　京都帝大教授　農學部勤務

和歌山縣多米藏長男明治廿五年十月出生昭和九年家督相續大正五年東京帝大農科卒業新潟縣立農事試驗場技師同場長及農事試驗場技師京都帝大助教授ヲ經テ同教授ニ任ズ曩ニ九州帝大教授ヲ兼歐米各國及滿洲中華民國ニ出張ス【家庭】母百合（明元）妻秀（同廿一、高知縣山本忠秀二女）女伶子（大九）、女由紀子（同十一）【住】京都市上京區小山下總町一八【電】西陣七六六〇

榎本　米一　從七勳七　地方事務官　佐賀縣總務部地方課長

廣島縣佐伯早吉ノ二男明治卅一年一月廿日出生後同縣榎本亥太郎ノ養子トナリ大正九年家督相續ス同八年同縣佐伯郡書記拜命同十五年任同縣屬兼任同縣警部昭和十一年七月任內閣屬內閣紀元二千六百年祝典事務局勤務ヲ經テ同十六年一月任地方事務官現職ニ就ク【家庭】妻市子（明卅二、廣島縣寺尾政吉長女）長女淸子（大十四、縣立佐賀高女卒）二女祐子（昭七）【住】佐賀市與賀町妙安寺小路一四三【電】一四五九

榎本隆一郎　從五勳三　海軍機關大佐　燃料局書記官　第一部人造石油課長

和歌山縣人大正四年海軍機關學校卒業昭和十一年十二月大佐ニ累進シ軍令部出仕兼本省出仕燃料廠研究部員吳鎭守府付同十三年燃料局事務官第一部人造石油課長ヲ經同十七年四月現官ニ任ズ【家庭】妻敏【住】大森區田園調布二ノ九七六【電】田園調布二五一八

海老塚健一　從六　地方技師　鹿兒島縣經濟部水產課長

神奈川縣人庄五郎ノ長男明治廿八年六月廿二日出生大正七年農商務省水產講習所本科漁撈科卒業同八年同所助手拜命次デ神奈川縣水產試驗場技手同縣產業技手愛媛長崎各縣產業技手長崎縣農林技手北海道廳技手秋田三重各縣農林技師歷任昭和十一年五月任地方技師島根縣水產課長ヲ經テ同十六年一月現職ニ就ク【趣味】スポーツ【家庭】妻千代（明廿六、神奈川縣青木兼吉長女）長男正樹（大十四）長女一枝（同十五）【住】鹿兒島市上龍尾町一一一

海老塚政治　正七　厚生事務官　職業局勤務

神奈川縣人大正三年二月三日出生昭和八年水戶高校文科同十一年東京帝大法學部英法科各卒業其間同十年高文行政科合格同十一年大阪府屬拜命學務部學務課勤務同十二年任內務屬警保局勤務同十三年二月任地方事務官島根縣會計商工社會各課長ヲ經テ同十七年一月現職ニ就ク【住】麴町區大手町厚生省職業局內

海老原轍吉　正五　工博　東京工大教授　精密機械及理化學各研究所員　陸軍航空技術學校囑託

栃木縣齊藤淺七七男明治卅一年一月出生後海老原一ノ養子トナル大正十二年東北帝大理學部卒業東京工大助教授ニ任ジ昭和十四年五月同教授ニ進ミ現時前掲ノ職ニ在リ其間文部省在外研究員トシテ歐米ニ在留工博ノ學位ヲ受ク【趣味】ゴルフ尺八【家庭】養父一（明十四）妻ウメ（同卅六、養父一長女）養女ミエ（大十三、同三女）【住】大森區南千東町一一六【電】荏原五一三一

蛯子　哲二　從七　地方事務官　沖繩縣經濟部農政課長

北海道人明治四十四年五月廿二日出生昭和九年日大專門部法律科卒業同十三年北海道廳屬林產課勤務同十四年高文行政科翌十五年同司法科各合格其間香川縣屬庶務課勤務同十六年二月任地方事務官沖繩縣農務課長兼經濟更生課長ヲ經テ同年九月現職ニ就ク【住】那覇市美榮橋町官舍【電】五二四

遠藤英之助　從五勳六　農林技師　山林局勤務

福島縣人明治卅年三月一日出生大正十年北海道帝大農學部林學科卒業山林技師秋田大林區署酒田小林區署長營林署技手酒田荷上場各營林署長營林署技師原町營林署長營林局技師熊本秋田各營林局勤務歷任昭和十四年六月任地方技師長野縣林務課長ヲ經テ同十六年七月現職ニ就ク【住】芝區白金三光町三三二

遠藤　喜一　從四勳三　海軍中將　總力戰研究所長

東京府人明治四十四年海軍兵學校卒業任海軍少尉後同中將ニ累進其間軍令部出仕侍從武官兼軍事參議院幹事等歷補昭和十六年十一月現職ニ就ク【家庭】妻育子（明卅六、男爵內山小二郎長女學習院卒）【住】目黑區駒場町八六一【電】澁谷五五五八

遠藤　邦夫　從五勳六　遞信局技師　札幌遞信局工務部長

東京府人昭和二年東京帝大工學部電氣工學科卒業遞信省ニ入リ累進遞信技師電務局勤務遞信局技師東京都市遞信局橫濱工務出張所長廣島大阪各遞信局勤務歷任同十五年十一月大阪遞信局工務部無線課長ヲ經同十七年三月現職ニ就ク【住】札幌市札幌遞信局內

遠藤　謙六　正三勳一　法博　行政裁判所評定官　部長

宮城縣人遠藤佐源治三男明治五年八月出生同四十二年分家ス同卅三年東京帝大法科佛法科卒業任海軍省參事官同四十一年學位ヲ受ク現時行政裁判所評定官同部長ニシテ傍ラ明治大學教授同附屬圖書館長タリ【趣味】圍碁讀書【家庭】妻ツル（明十四、東京府恒川太助長女）長男源太郎（同卅六）二男乾二（同卅八）【住】澁谷區幡ケ谷原町八八〇【電】四谷三二三三

遠藤　俊一　從四勳四　遞信省郵務局長

岩手縣遠藤精四男明治廿六年十二月廿日出生大正十年東京帝大法科獨法科卒業遞信省ニ入リ山口岡山各郵便局長遞信局事務官貯金局事務官同書記官庶務經理各課長遞信書記官兼朝鮮總督府遞信事務官經理局監査課長電務局業務課長等歷任從遞官昭和十四年四月札幌遞信局長同十五年八月大阪遞信局長兼大阪地方海員審判所長ヲ經テ同十六年十月現職ニ任ズ曩ニ同五年歐米出張ス【趣味】庭球文學讀書【家庭】妻文子（明卅四、岩手縣山中竹樹二女）嗣子滋（大十三）長女嘉代子（昭三）【住】世田谷區成城町五一【電】砧七〇七

遠藤稻三郎　從五勳六　地方商工技師　新潟縣染織試驗場長

明治卅八年東京高工染色科卒業ス【住】新潟縣南蒲原郡見附町同場內

遠藤佐市郎　正五勳五　浦和高校教授

東京府人儀一郎二男明治廿四年六月廿五日出生大正十一年東京帝大文學部卒業東京府立第七中學校教諭ニ任ジ爾來教育界ニ在リ同十三年現職ニ就ク【住】世田谷區代田町二ノ七一八【電】松澤三九八八

遠藤　三郎　從五勳六　鐵道局技師　大阪鐵道局工作部機械課長

新潟縣藤吉三男明治卅四年十月四日出生大正十五年東京帝大工學部機械工學科卒業淺野セメント入社昭和二年退職同年任鐵道局技手東京仙臺各鐵道局勤務同五年任鐵道局技師門司鐵道局小倉工場第三技術掛同場電氣職場兼小倉變電所各主任小倉工場勤務廣島鐵道局幡生工場長ニ歷任昭和十二年鐵道調查部技師鐵道調查部勤務トナリ後現職ニ任ズ【家庭】父藤吉（明元）母マセ（同九、新潟縣丸山政喜長女）妻富美子（同四一）長女美子（昭五）尙二男一女アリ【住】大阪市北區大深町同局內

遠藤　三郎　從五　食糧管理局書記官　第一部企畫課長

靜岡縣人儀一郎ノ五男明治卅七年四月出生昭和五年東京帝大法學部獨法科卒業農林省ニ入リ累進農林事務官經濟更生部勤務大臣官房調查課勤務同十四年水產局水產課長同十五年十月同監督課長同十六年一月食品局特殊食品課長ヲ經テ同十六年六月現職ニ就ク【家庭】妻衣江（明四二）長男統（昭七）二男節（同九）長女昭（同十二）【住】板橋區練馬南町三ノ六〇三二【電】練馬七一二

遠藤　壽三　從四勳三　臺北高等商業學校長

鳥取縣人三郎長男明治十四年八月出生大正十五年家督相續明治卅九年東京高商卒業島根縣立商業學校教諭久留米廣島各商業教諭大正六年臺灣總督府高等商業教授同十一年英獨ニ留學昭和五年支那香港比律賓海峽植民地蘭領印度諸島英領印度及シヤムへ出張同十二年現職ニ就ク【家庭】妻まさよ（明廿三、鳥取縣野坂龜次郎二女）長男壽一（大六）長女淑子（明四五）二女すゑ子（大三）三女ミドリ（同八）二男英二（同十）【住】臺北市千歲町二丁目官舍【電】二八五七

遠藤　周藏　從四勳四　判事　仙臺地方裁判所部長

宮城縣周治ノ三男明治十八年五月出生同卅二年家督相續大正三年日本大學法科卒業同年辯護士試驗及判檢事登用試驗合格司法官試補同五年判事ニ任ジ旭川地方兼同區郡山區若松區兼福島地方若松支部平區兼福島地方平支部福島地方各裁判所判事昭和五年靑森地方裁判所部長等ニ歷補同十二年現職ニ任ズ【家庭】妻藤枝（明廿二、福島縣士族吉田篤淳二女）【住】仙臺市同心町通二五【電】二七三一

遠藤　精一　從四勳四　遞信局書記官　廣島遞信局總務部長

岩手縣浦治長男明治廿年一月十五日出生遠藤精ノ養子トナリ昭和二年分家ス一關中學卒業大正元年高文合格爾來遞信事務官貯金局事

務官遞信局事務官仙臺遞信局經理課長簡易保險局事務官第四原簿司計各課長燈臺局書記官兼遞信局書記官兼臺灣總督府交通局參事燈臺局監理課長兼燈臺官吏養成所長等歷任昭和十四年八月貯金局書記官大阪貯金支局長ヲ經テ同十五年十一月現職ニ任ズ趣味俳句家庭男幸男(大九)住廣島市幟町一二九電中二二〇〇

遠藤武夫 正八 地方警視 埼玉縣警察部警防課長

山形縣人故長之助二男明治卅四年七月十五日出生大正十一年警視廳巡査拜命爾來累進昭和十一年任警部特別警備隊勤務後內務屬ニ轉ジ警保局兼大臣官房文書課勤務ヲ經テ同十六年十一月任地方警視現職ニ就ク家庭妻チヨ(明四一)二男茂夫(昭四)二女登志子(同九)三女昌子(同十三)住浦和市高砂町縣公舍電廳內一五一

遠藤毅 正五勳四 航空局第一部長

東京府士族達ノ長男明治卅三年四月十二日出生大正十年五高ヲ經テ同十三年東京帝大法學部獨法科卒業任遞信局書記兼遞信屬爾來貯金局事務官金澤貯金支局長貯金局貯金整理課長同振替貯金課長同庶務課長遞信書記官遞信局事務官名古屋大阪各遞信局經理課長ニ歷任昭和九年瑞西國ニ留學佛國ニ出張同十年遞信局書記官東京遞信局經理課長簡易保險局書記官經理課長遞信書記官郵務局規畫課長同十三年同業務課長兼遞信博物館長同十五年八月札幌遞信局長ヲ經テ同十六年十二月現職ニ就ク趣味圍碁家庭妻タカ子(明四三、貴族院議員川村竹治三女府立第三高女卒)倘一男一女アリ住目黑區上目黑一ノ一一電澁谷三八〇

遠藤治一郎 從五勳五 農林理事官 山林局

島根縣人明治十九年五月三日出生同卅八年長野縣木曾山林學校卒業滋賀鳥取新潟各縣林業技手農商務技手山林屬兼農商務屬山林屬農商務屬農林屬歷任昭和五年營林局山林事務官兼農林屬東京營林局勤務ヲ經テ同十二年八月現職ニ就ク住板橋區練馬仲町三ノ四四一七

遠藤中節 從四勳三 醫博 岡山醫大教授

京都府大太郎長男明治廿二年九月出生大正十一年家督相續同四年京都帝大醫科卒業同大學助手同助教授ヲ經テ同十四年岡山醫大教授ニ任ズ曩ニ歐米各國ニ出張又同大學附屬圖書館長タリ趣味庭球野球家庭妻ふみ(明卅五、三重縣十森磐郎長女三重縣立津高女卒)男和道(大十五)女肅子(同十一)二女和子(昭三)住岡山市四番町三六電五一〇四

遠藤常壽 從四勳三 檢事 東京控訴院檢事

滋賀縣壽太郎ノ長男明治十九年四月出生大正十一年家督相續明治四十四年東京帝大法科獨法科卒業大正二年任檢事爾來福井區同地方名古屋區同地方岐阜區同地方大阪區同地方神戶地方各裁判所檢事甲府地方裁判所檢事正大阪控訴院檢事神戶大阪各地方裁判所檢事正等歷任昭和十五年四月大審院檢事ヲ經同十六年八月現職ニ就ク趣味圍碁家庭妻きさ(明廿六、滋賀縣士族小泉利三郎長女縣立大津高女卒)男壽夫(大三、東京帝大法科卒)男常雄(同五)女壽美(同七、大阪府立淸水谷高女卒)女きみ(同十一、縣立第二神戶高女卒)女さち(同十二)五女スヱ(同十三)六女ふき子(同十四)住大森區山王一ノ二六六二電大森七二二八

遠藤直人 正五勳五 岡山縣書記官 總務部長

福島縣人直美ノ長男明治卅一年二月三日出生大正九年第二高校卒業同十一年高文合格翌年東京帝大法科獨法科卒業任地方警視山梨大阪各府縣勤務地方事務官長崎縣學務課長庶務課長兼知事官房主事福岡縣社會教育課長商工課長兼水產課長同知事官房主事富山長崎各縣書記官學務部長等歷任昭和十三年十月厚生書記官失業對策部總務課長兼職業部總務課長ヲ經テ同十五年十二月現職ニ就ク趣味スポーツ家庭妻ちよ(明卅四、福島縣長谷沼久次長女會津高女卒)長女成子(大十五)住岡山市南方三七〇官舍電三二三四

遠藤彥造 正五勳四 理博 東北帝大金屬材料研究所員

東京府人大正十年東京帝大理學部化學科卒業東北帝大ニ奉職同助教授ヲ經テ昭和十四年教授ニ任ズ大正十五年學位ヲ受ク曩ニ歐米ニ留學ス住仙臺市北五番丁一七一

遠藤守一 正五勳五 內務技師 國土局河川課勤務

埼玉縣人明治廿一年十月廿五日出生大正六年東京帝大農科林學科卒業內務省ニ入リ同十年任內務技師東京土木出張所兼橫濱土木出張所勤務東京土木出張所勤務土木局勤務ヲ經テ現時前記ノ職ニ在リ住浦和市岸町七ノ四七電浦和三〇二九

オ(ヲ)の部

小笠公韶 正六 貿易局書記官 第一部東亞課長

德島縣人明治卅七年十二月十六日出生昭和四年東京帝大經濟學部商業科卒業任商工屬大臣官房統計課勤務高文行政科合格翌年休職同六年復職翌年任地方事務官東京府商工課勤務同府商業組合監督官同十年商工事務官貿易局統制課兼貿易課勤務同十二年貿易局事務官第一部企畫課兼第二部輸入課庶務課勤務同年兼任大藏事務官同十三年兼任臨時物資調整局事務官同十四年一月兼任企畫院書記官同年九月免兼官貿易局第二部化學農水產課長トナリ昭和十五年一月貿易局書記官ニ任ジ同十六年二月第一部市場第一課長ヲ經テ同年三月現職ニ就ク住淀橋區下落合一ノ五四七電落合長崎三五二六

小笠原長生 從二勳一功四 子爵 海軍中將 宮中顧問官

先代長國世子長行ノ長男慶應三年十一月出生明治六年家督相續ス同十七年子爵ヲ授ケラル海軍兵學校卒業同廿年任海軍少尉候補生大正七年海軍中將ニ累進其間海軍大學卒業海軍々令部出仕兼海軍大學敎官學習院御用掛東宮御學問所幹事等ニ歷任現時宮中顧問官タリ趣味讀書刀劍佛像家庭妻秀子(明十二、伯爵松平直之姪華族女學校卒)男長孝(大三)四男善(同八)住世田谷區代田二ノ六七六電松澤二〇三七

小笠原道生 正五勳五 醫博 文部省體育局長 體育研究所長事務取扱 大臣官房體育課長

和歌山縣譽至夫ノ長男明治卅二年九月出生大正十四年東京帝大醫學部卒業文部省體育官兼體育研究所技師大臣官房體育課長ヲ經テ昭和十六年一月現職ニ就ク同十一年學位ヲ受ク家庭妻壽(明卅六、和歌山縣貴志貞善長女和歌山高女卒)男道夫(大十五)二男泰夫(昭二)三男建夫(同五)住大森區新井宿四ノ一一四二電大森七九四〇

小笠原光壽 從五勳六 遞信書記官 郵務局外國郵便課長

東京府人鎌次郎ノ二男明治卅五年十二月出生大正十四年東京帝大法學部英法科卒業遞信省ニ入リ通信事務官拜命爾來貯金局事務官貯金局仙臺支局長同局爲替課長貯金局書記官兼遞信省事務官貯金局國際業務課長遞信局書記官東京都市遞信局規畫課長等歷任昭和十三年遞信書記官郵務局規畫課長ヲ經テ同十五年九月現職ニ就ク趣味乘馬圍碁家庭妻弘子(明四三、靜岡縣鈴木庫太郎三女神戶第一高女卒)長男光(昭九)住赤坂區青山北町四ノ一〇六電青山一五一〇

小川猪作 正七 造神宮使廳技師兼神祇院技師 總務局勤務

靜岡縣人明治十九年十二月十二日出生同四十三年工手學校建築科卒業後明治專門學校建築科ニ學ビ爾來韓國銀行東照宮日光寺社二荒山神社明治神宮東京府平和博事務局三島神社營繕事務所等ノ建築設計ニ携リ後造神宮神社局及本廳ニ勤務昭和十二年任內務技師同十四年任造神宮技師兼內務技師各神社局勤務ヲ經テ同十五年十一月現職ニ就任ス住世田谷區世田谷町四ノ六四八電世田谷三四七一

小川景重 正五勳五 秋田縣立橫手中學校長

山梨縣敬英二男明治十六年九月十二日同縣東山梨郡春日居村ニ出生同四十年廣島高師卒業香川師範鹿兒島川內新潟三條各中學教諭新發田長岡各高女新潟商業新發田高田秋田縣大館各中學校長歷職昭和十三年七月現職ニ就ク趣味圍碁家庭妻ミチ(明卅一、新潟縣吉弘由太郎二女奈良女高師卒)長男道夫(大四)二男晶(昭八)長女澪子(同十)住秋田縣平鹿郡橫手町裏町電二六九

小川喜一 從五勳六 福井縣書記官 警察部長

德島縣人甚五郎三男明治卅七年四月五日出生昭和二年高文合格同年京都帝大農學部農業經濟學科卒業同大學助手茨城縣屬地方警視島根縣勤務警察講習所教授地方警視大阪府勤務等歷任昭和十一年五月警視廳警視外事課長同十四年五月外務事務官兼領事兼內務事務官東亞局第三課兼上海在勤ヲ經テ同十五年十二月現職ニ就任ス趣味劍道棒術圍碁家庭妻フジノ(明四十、德島縣立撫養高女卒)長男滿(昭二)長女秀子(同九)住福井市寶永下町二官舍電六

小川徹 從六 地方警視 長崎縣警察部警務課長

新潟縣故十士太ノ三男明治四十一年一月十六日出生昭和三年新潟高校同六年東京帝大法學部獨法科各卒業高文合格社會事業主事補拜命東京府社會課勤務社會事業主事大分縣社會課勤務歷任同十三年任地方警視鳥取縣警務課長

同十四年群馬縣警務課長兼警防課長ヲ經テ同十六年現職ニ就ク趣味讀書スポーツ家庭妻綾子(明四五、上野清彌長女大阪府立阿倍野高女卒)長男鋼太郎(昭十)二男鍊(同十二)長女鎂子(同十四)三男鑑太郎(同十七)住長崎市櫻馬場町四三電一〇三

小川近五郎　從七　內務理事官　警保局檢閱課勤務　情報局情報官
大分縣人明治廿九年七月三日出生大正六年東京專修大學ニ學ビ同八年森村商事會社同十年臺灣電力會社ニ各歷勤昭和三年復興局屬後內務屬拜命警保局勤務同十六年一月情報局屬第四部第一課各勤務ヲ經テ同年九月任內務理事官現職ニ就ク住浦和市岸町二ノ一六八

小川壽吉　從七　都市計畫地方委員會事務官兼地方事務官　愛知縣總務部都市計畫課
愛知縣人明治廿三年二月廿二日出生大正九年普文合格同十三年中央大學專門部經濟科卒業都市計畫事務取扱囑託愛知縣勤務昭和二年同縣屬兼任都市計畫課勤務同十三年同課長代理ヲ經テ同十六年八月現職ニ就任ス住名古屋市千種區田代町東五

小川潤次郎　從四勳五　特許局技師　特許局長官々房指導課長
和歌山縣士族熊守ノ二男明治廿二年七月出生大正七年九州帝大工科機械工學科卒業同年製鐵所技手拜命同十一年特許局技師ニ任ジ審查官審判官機械部第三課第一課長同十六年四月審查第二部機械第一課長ヲ經テ同十七年五月現職ニ就ク家庭妻富士(明廿九、京都府丹羽清次郎二女京都第一高女及神戶女學院各卒)長男徹(大九、靜岡高校卒)長女澄子(同十二惠泉女學園卒)二男裕(同十四)三男潔(昭三)四男治(同七)住杉並區高圓寺一ノ四〇

小川清一　從五勳六　鐵道局技師　門司鐵道局運轉部長
滋賀縣人仲次郎ノ六男明治卅二年五月一日出生大正十三年九州帝大工學部一般機械工學科卒業翌年鐵道局技手拜命門司鐵道局勤務昭和二年任鐵道局技師同三年兼任鐵道技師門司鐵道局及熊本建設事務所勤務門司運輸事務所運轉主任門司鐵道局運轉部列車課長歷勤後在外研究員被命歸朝後鐵道調查部技師昭和十三年八月鐵道局技師東京鐵道局上野運輸事務所長ヲ經テ同十五年十月現職ニ就ク家庭妻文世(明卅八、大分縣首藤寶吉二女)長女和子(昭二)住門司市花山官舍電一二四四

小川節郎　從六　茨城縣書記官　學務部長
佐賀縣人明治四十年三月廿九日出生昭和三年高文合格同五年東京帝大法學部卒業翌年岐阜縣屬拜命同七年任警部翌年同縣警察練習所長次デ地方警視奈良縣保安課長同十二年地方事務官富山縣地方課長兼知事官房主事同十四年宮城縣地方課長同十五年新潟縣振興課長兼人事課長ヲ經テ同十七年六月現職ニ任ズ家庭妻悌子住水戶市茨城縣廳內

小川太一郎　正五勳五　航空研究所員兼東京帝大助教授
京都府米次郎長男明治卅二年出生大正十一年東京帝大工學部機械科卒業現時前記ノ任タリ趣味研究家庭妻文子(明卅五、京都府中山再次郎四女同志社高女卒)長男再治(大十五)長女陽子(昭四)住世田谷區北澤町五ノ六一五電松澤三四五二

小川亨　正五勳四　理博　臺灣總督府天然瓦斯研究所技師　同所長
山口縣士族清次ノ長男明治廿六年六月出生大正五年京都帝大理科卒業後海軍技師ニ任ジ海軍燃料廠研究部員兼煉炭部員昭和十年臺灣總督府技師ニ轉ジ殖產局鑛務課勤務ヲ經テ同十五年十二月現職ニ就任曩ニ理博ノ學位ヲ受ケ同十五年朝日文化賞ヲ贈ラル家庭妻潤子及四男二女アリ住新竹州赤土崎市營住宅特一號

小川延賢　從五勳六　新潟縣立長岡商業學校長
石川縣士族友賢長男明治廿六年五月十九日出生大正八年東京帝大經濟學部卒業村井銀行ニ入リ轉ジテ金澤七尾各商業高田商工各教諭新井農商高田商工各學校長歷勤昭和十六年七月現職ニ就ク趣味繪畫スポーツ家庭母美遊喜(明元)妻美智枝(同卅三、長野小三郎長女金澤金城高女卒)嗣子秀雄(大七)住長岡市同校內

小川昇　正五勳三　總領事　海口在勤
東京府義春長男明治卅四年十月出生昭和八年家督相續大正七年東京帝大法科政治科卒業翌八年高文外交科合格任領事官補兼外交官補白耳義國在勤公使館三等書記官領事里昂在勤大使館二等書記官伊國在勤公使館二等書記官チエツコスロヴアキア國在勤同一等書記官同國在勤昭和十四年五月大使館一等書記官獨國在勤ヲ經テ同十六年一月現職ニ就ク家庭母志賀(明三、群馬縣江原茂四郎長女)妻はす江(同卅八、東京府大浪照界長女)長女清子(昭三)二女明子(同八)住中華民國海南島海口總領事館內(留守宅)大森區馬込町東一ノ一一四三三

小川登　從五勳六　廣島縣立尾道高等女學校長兼教諭
山梨縣人明治十九年六月十九日出生東京高師卒業長岡女師高知縣立一中廣島高女吳高女各教諭歷職昭和十二年府中高女校長兼教諭ヲ經テ同十五年四月現職ニ就ク家庭妻てるよ(明廿七、山梨縣丸山與作四女同縣立高女卒)長男進午(大七)二男眞澄(同九)三男清司(同十)長女正子(同十二)住尾道市久保町電三二〇

小川秀雄　從七　地方事務官　山形縣總務部庶務課長兼稅務課長
山形縣人明治卅四年十二月廿二日出生大正九年縣立山形中學卒業同十一年東置賜郡書記同十四年山形縣屬學務部教務課同學務課勤務內務部地方課勤務總務部地方課同庶務課勤務歷職昭和十四年二月地方事務官ニ任ジ學務部社寺兵事課長ヲ經テ同十五年四月現職ニ就ク住山形市五日町電九九四

小川睦之輔　從三勳二　醫博　京都帝大教授醫學部長　同大學臨時附屬醫學專門部主事
大阪府爲次郎長男明治十八年十一月出生大正十五年家督相續明治四十二年京都帝大醫科卒業大正二年同大學助教授拜命同八年學位ヲ受ケ米英瑞西各國ニ在留同十年歸朝任教授昭和七年歐米各國ニ出張同十五年十二月醫學部長ニ擧ゲラル家庭妻加壽(明廿四、京都府近藤吉左衞門妹)長男廣巳(大二、京都帝大經濟學部卒)女泰子(同七、京都府立第一高女卒)住京都市左京區鹿ケ谷宮ノ前町八八電上五五九

小川要次　從五勳六　朝鮮總督府遞信事務官　遞信局保險監理課長
大正十二年遞信官吏練習所行政科卒業大邱郵便局長昭和十一年釜山郵便局長兼釜山遞信分掌局長各事務取扱ヲ經テ現職ニ就ク住京城府朝鮮總督府遞信局內

小川芳樹　正五勳四　工博　東京帝大教授
京都府琢治ノ長男明治卅五年三月出生大正十四年東京帝大工科冶金科卒業東北帝大助教授九州帝大助教授同教授ヲ經テ昭和十七年五月現職ニ就ク同九年學位ヲ受ク家庭父琢治(明三)妻秀(同卅九、東京府小川梅三郎四女)長女周子(昭三)二女多賀子(同七)住本鄉區本富士町同大學內

小川義章　從四勳五　教學局教學官兼國民精神文化研究所員兼文部省督學官
岡山縣人常太郎四男明治廿四年四月出生前名澤三郎ヲ改ム大正八年東京帝大文科哲學科卒業第五高校教授昭和四年東京帝大學生主事同七年文部省督學官兼國民精神文化研究所員同十年任文部事務官兼同省督學官思想局調查課長ヲ經テ同十二年七月現職ニ就任ス家庭妻良(明卅三、京都府山本乙律養子)長女千惠子(昭四)住本鄉區春木町三ノ三九電小石川一〇〇三

小河正儀　從四勳三　樺太廳長官
大分縣士族合屋家次ノ三男明治廿七年十二月出生後山口縣先代源一ノ養子トナリ大正五年家督相續ス同七年東京帝大法科英法科卒業高文合格爾來內務屬靜岡縣警視關東廳事務官兼同參事官關東廳警視朝鮮總督府秘書官兼參事官拓務事務官管理局第一課長兼朝鮮部第一課長同書記官管理局第一課長朝鮮部兼務管理局兼殖產局勤務大臣官房會計課長督繕管財局事務官同兼臺灣總督府事務官等歷任昭和十一年青森縣知事同十四年三重縣知事ヲ經テ同十五年四月現官ニ任ズ曩ニ滿洲朝鮮及歐米各國ニ出張ス家庭妻末子(明卅三、山口縣士族小田光伴妹)長男英一(大九)長女滿洲榮(同十二東京府立第三高女卒)二女喜美子(同十四)住豐原市官舍電二〇〇三

小畠審治　從四勳三　北海道帝大教授　工學部勤務
大分縣俊正三男明治廿九年七月出生大正十五年分家同九年九州帝大工科電氣科卒業同大學講師助教授ヲ經テ大正十四年北海道帝大教授ニ任ズ同十二年歐米各國ニ在留ス家庭妻敏(明四四、北海道沼崎金平四女青山女學院卒)長男俊夫(昭十四)長女泱子(同十)二女澄子(同十二)住札幌市北一條西十三丁目電四六一八

小口壽三郎　正六　地方小作官　茨城縣
長野縣人明治卅三年三月九日出生昭和二年東京帝大農學部農業經濟科卒業岐阜縣小作官補產業課農務課各勤務同七年任地方農林主事同縣農務課勤務ヲ經テ同年十二月任地方小作官奈良縣勤務同十年茨城縣勤務トナル住水戶市上金町電一二四六

小園秀雄　從五勳五　獸疫調查所技師　獸疫調查所九州支所長
石川縣士族明治廿四年四月廿五日出生大正三年東京帝大醫科獸醫學科卒業同大學助手農商務技手獸疫調查所技手ヲ經テ昭和三年同技師ニ任ジ獸疫調查所七戶支所在勤ヲ經テ同十三年二月現職ニ就ク住鹿兒島縣鹿兒島郡谷山町和田同支所官舍

小熊 捍（マモル） 正四勳二 農博 北海道帝大教授理學部長 低温科學研究所長
東京府滿三長男明治十八年八月廿四日東京市ニ出生大正十五年家督相續明治四十四年東北帝大農科農學科卒業大正二年北海道帝大農科助教授拜命同八年學位ヲ受ク同十一年獨米白各國ニ留學同十四年歸朝昭和四年現職ニ就ク同九年滿洲國ニ出張ス趣味藝術一般園藝家庭妻三千子（明廿八、東京府佐藤信甸長女府立第一高女卒）任札幌市南一條西二十丁目四六電五三三二

小倉 邦夫 従五勳五 熊本縣師範學校長
廣島縣岡本圭吉ノ三男明治廿四年九月五日出生大正三年廣島高師卒業同年徳島縣立撫養中學教諭拜命爾來兵庫縣龍野中學山口縣周陽中學各教諭山口縣視學等歷任後地方視學官奈良縣學務課長教育課長島根縣師範校長ヲ經昭和十七年現職ニ轉ズ趣味圍碁運動家庭妻ヒデ（明廿六）任熊本市京町本町同校内電三〇六八

小倉 庫次 正六 侍従兼皇后宮事務官兼宮内事務官 宮内書記官 侍従職庶務課長 皇后宮職庶務課長
千葉縣人大正十二年東京帝大英法科卒業宮内事務官主馬寮庶務課長兼自動車課長皇后宮職事務官宮内書記官等歷任現時前記ノ職ニ在リ任麴町區紀尾井町三官舎電九段一一一〇

小倉 謙 正五 理博 東京帝大教授 理學部勤務
宮城縣人大正八年東京帝大理科植物學科卒業同大學理學部助教授ヲ經テ昭和十三年同教授ニ進ム曩ニ歐米ニ留學同二年學位ヲ受ク任豐島區池袋三ノ一五四二

小倉 謙 正七 内務事務官兼鐵道省事務官 警保局警務課勤務
愛知縣士族明治四十四年四月廿一日出生昭和六年第一高校文科同十年東京帝大法學部政治科各卒業其間同九年高文行政科合格同十年内務屬拜命警保局勤務同十二年七月任地方事務官大分縣地方課勤務同十三年同縣學務部學務課長總務部地方課長同十四年地方警視鳥取縣特高課長ヲ經テ同十五年四月現職ニ就ク任豐島區長崎東町一ノ九八五電落合長崎三七六六

小倉 三郎 従四勳五 農博 東京高等蠶絲學校教授
東京府穀豐三男明治廿六年十二月出生大正十年分家同七年東京帝大農科農學科卒業同九年現職ニ就ク曩ニ昭和三年獨米伊各國ニ留學同五年歸朝ス同十年學位ヲ受ク趣味寫眞スポーツ家庭妻つや子（明卅一、石川縣山下脇人長女京華高女卒）男康郎（大十）長女米子（同十二）二女洋子（昭二）三女敏子（同六）二男宏之（同八）三男良之（同十一）任品川區大井坂下町二七二二電大森四二二三

小倉 進平 正四勳二 文博 東京帝大文學部教授兼京城帝大法文學部教授
宮城縣長太郎四男明治十五年六月出生同四十二年分家ス同卅九年東京帝大文科文學科卒業同大學助手明大講師爾來朝鮮總督府屬兼編修書記京城高等普通學校教諭京城醫專教授兼任同府編修官大正十三年歐米ニ留學歸朝後京城帝大教授同大學附屬圖書館長ヲ經テ昭和八年現職ニ就ク曩ニ同二年學位ヲ受ク家庭妻つね（明廿五、宮城縣鹽釜伊兵衞妹宮城第一高女卒）男芳彦（昭二）三女敦子（大十二、府立第一高女卒）任本郷區駒込西片町一〇ほノ三電小石川九〇四

小倉 末 従四勳四 東京音樂學校教授
舊大垣藩士周一三女明治廿四年二月出生同四十三年神戸女學院卒業後東京音樂學校ニ入ル同四十五年渡歐伯林王立高等音樂學校ニ入學ハインリッヒバルト博士ニ師事次デ米國ニ渡リ大正四年俄古メトロポリタン音樂學校ニ聘セラル大正五年歸朝同六年東京音樂學校教授ニ任ジ今日ニ至ル洋琴ノ大家タリ趣味讀書任赤坂區氷川町五電赤坂三五五九

小倉 清次 正五勳五 判事 大阪控訴院判事
鳥取縣人明治廿六年四月出生大正七年明大法科卒業三菱鑛業會社勤務後任判事大阪控訴院判事同地方裁判所部長ヲ經テ現職ニ就ク家庭妻タツヱ（明廿九）任吹田市櫛原町三二四〇

小倉 武一 従六 領事 ハノイ在勤
福井縣士族舊姓大井ト稱ス明治四十三年十月二日出生昭和八年高文行政科合格翌年東京帝大法學部法律學科卒業同十年營林局事務官青森營林局勤務翌年馬政局事務官同十二年任農林事務官經濟更生部兼大臣官房調整課勤務總務局勤務同十六年八月大臣官房文書課勤務ヲ經同年十月現職ニ任ズ任在河内日本領事館内

小倉 強 従四勳五 仙臺高工教授
宮城縣長太郎八男同進平同勉ノ弟明治廿六年三月出生大正六年分家ス同五年東京帝大工科建築科卒業東京府建築技師東北帝大技師兼文部技師歷任昭和四年獨伊米留學翌年歸朝後現職ニ任ズ趣味繪畫家庭妻みどり（明廿八、宮城縣藤島吉郎衞門長女同縣第一高女卒）長男正男（大七）二男英男（同九）長女レイ（同十一）二女せつ子（同十五）任仙臺市北一番丁一〇六

小倉 勉 従四勳三 理博 旅順工大教授
宮城縣人長太郎ノ七男明治廿一年十二月出生大正八年分家ス同二年東京帝大理科地質學科卒業同年同大學助手農商務技師兼復興局技師ヲ經テ同十四年關東廳在外研究員被命英獨ニ留學同十五年旅順工大教授ニ任ズ昭和七年學位ヲ受ク家庭妻トク（明卅三、廣島縣西上鶴吉三女）男信雄（昭七）長女多喜子（昭四）任旅順市明治町一五官舎電二九九

小倉 政博 正七 地方警視 兵庫縣警察部警務課長
大阪府士族政次郎長男明治四十一年四月廿九日出生松山高校昭和六年東京帝大法學部政治科各卒業高文行政科合格任熊本縣屬内務部庶務課勤務同縣警部兼任學務部社會課長等歷職同十二年地方事務官和歌山縣社會課長同十三年任地方警視香川縣警察部特高課長ヲ經テ同十四年現職ニ就ク趣味劍道釣家庭妻康世（大八、靜岡縣立高女卒）長女紀子（昭十五）任神戸市神戸區中山手通縣公舎六電葺合三〇一六

小栗 鐵三 従五 國民貯蓄獎勵局書記官 組合課長
愛知縣小七長男明治廿九年三月十五日出生昭和四年東京帝大法科獨法科卒業大藏省ニ入リ銀行局主税局勤務山口熊本幸橋各税務署長等歷任銀行檢査官兼大藏事務官銀行局兼大臣官房財政經濟調査課勤務昭和十五年五月國民貯蓄獎勵局事務官第三課長兼第二課長ヲ經テ同十六年十二月現職ニ就ク趣味旅行家庭妻艷子（大三、跡見女學府立第三高女同高等科各卒）任淀橋區東大久保町二ノ一八五電四谷四五四〇

小此木 篤二 従四勳五 東京商大附屬商學專門部教授
東京府士族辰太郎二男明治十六年二月出生同廿九年家督相續同卅八年東京高商卒業臺灣拓殖常務取締役ヲ經大正十一年臺北高商教授拜命同十三年現校教授ニ任ズ曩ニ同大學學生主事タリ又米國ニ遊學後南洋各地ニ渡航ス家庭妻ふみ（明廿一、神奈川縣士族横山信毅長女）男洋一（同四四）女高子（大十）五女阿佐子（同十四）任杉並區阿佐ケ谷五ノ八三

小佐田 忠男 従七 商工事務官 總務局勤務
和歌山縣人大正二年二月廿日出生昭和十三年高文行政科合格翌年東京帝大經濟學部經濟學科卒業同年臨時物資調整局屬拜命同年商工屬ヲ經テ同十五年一月現職ニ就ク任本郷區臺町五三榮樂館電小石川五〇七四

小山内 淳進 正五勳五 營林局技師 青森營林局事業部長
青森縣人大正七年東京帝大農學部林學科卒業農林省ニ奉職營林署技師高崎營林署長昭和十二年八月營林署技師東京營林局事業部作業課長ヲ經テ同十五年四月現職ニ就ク任青森市沖館町小濱官舎電三四七九

小山内 昌一 正五勳五 特許局技師 抗告審判官 審判部勤務
青森縣士族九二太郎ノ長男明治卅年十月出生大正十年東京帝大工學部機械科卒業任特許局技手同十二年特許局技師ニ進ミ特許局審査官昭和七年機械部第二課長ヲ經テ現時審判部勤務タリ傍ラ帝國發明協會調査委員ヲ兼ヌ趣味圍碁家庭父九二太郎（明五）妻シュン（同卅六、青森縣千田徹妹弘前高女卒）長女光子（大十五）二女良子（昭十一）任世田谷區世田谷一ノ三八六

小澤 久太郎 従五 興亞院技師 技術部勤務
千葉縣人昭和二年東京帝大工學部土木科卒業滿洲國建設總署公路局工務課長ヲ經テ現職ニ就ク任麴町區隼町興亞院内

小澤 潔 従六 土木技師兼道路技師 神奈川縣土木部砂防課長
新潟縣人明治卅四年六月廿日出生大正十一年北海道帝大附屬土木專門部卒業爾來新潟縣技手同縣道路技手兼土木技手長野縣技手同縣道路技手兼土木技手同十三年退官昭和八年任道路技師長野縣道路技師同十四年土木技師兼道路技師ニ任ジ同縣土木技師兼道路技師ヲ經テ同十五年六月現職ニ就ク任横濱市中區伊勢町官舎一四番電長者四一一五〇

小澤 鐸 従五勳六 鐵道書記官 運輸局配車課長
神奈川縣先代輝ノ長男明治卅五年六月十日出生後家督ヲ相續襲名ス大正十五年高文行政科合格昭和二年東京帝大法學部政治學科卒業鐵道屬爾來鐵道局書記東京鐵道局勤務同五年任鐵道局副參事同六年鐵道省事務官電氣局電化課勤務副參事仙臺鐵道局庶務課保健掛長鐵道事務官電氣局勤務監督局勤務同十三年十月鐵道省陸運監理官監督局勤務同十五年十月鐵道局參事東京鐵道局新橋運輸事務所長ヲ經テ同十六年五月現職ニ就ク家庭妻トシ（明四一、北海道辻村高藏二女）長男耕一（昭三）長女準子